秋田県文化財調査報告書第198集

西山地区農免農道整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅵ

—— 高屋館跡 ——

秋田県埋蔵文化財センター

1990・3

秋田県教育委員会

西山地区農免農道整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅵ

―― 高屋館跡（たかやたてあと） ――

1990・3

秋田県教育委員会

序

秋田県には、先人の残した多くの文化財が残されています。この貴重な文化財を保護し継承していくことは、私たちの現在と未来にとって必要欠くべからざることであります。

このたび農業用基幹道路として、西山地区農免農道整備事業が計画され、路線の一部が高屋館跡を通過することになり、工事に先立って発掘調査を実施いたしました。

その結果、縄文時代の配石遺構や土坑、環状に配された掘立柱建物跡などが発見されました。

本書は、この調査成果をまとめたものでありますが、埋蔵文化財保護への御理解と郷土の歴史解明に御活用いただければ幸いです。

最後に、この調査に御協力いただきました秋田県農政部鹿角農林事務所、鹿角市教育委員会並びに関係各位に心から感謝の意を表します。

平成２年３月15日

秋田県教育委員会

教育長　橋本　顕信

例　言

1．本書は、西山地区農免農道整備事業に係る高屋館跡の発掘調査報告書である。

2．本書の執筆分担は、第４章　第１節検出遺構と遺物　１．縄文時代のうち(８)フラスコ状土坑･袋状土坑　(10)Ｔピットを柴田陽一郎が、その他を小畑 巌が行なった。

3．本書に用いた遺物の写真の撮影･整理、遺物実測図の作成、遺構図面の整理には、船木義勝、高橋忠彦、小畑 巌、小山内 透、三浦光男があたった。

4．第５章自然科学的分析「高屋館跡出土火山灰の蛍光Ｘ線分析」は、奈良教育大学教授 三辻利一氏によるものである。

5．本書に掲載した地形図は、国土地理院発行５万分の１「花輪」図幅、鹿角市教育委員会から提供された千分の１「高屋館現況図(２)」を複写したものである。

遺跡付近の航空写真は、鹿角市教育委員会から提供された写真を複写したものである。

6．土色表記法は、農林省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖』に拠った。

7．石質の鑑定は、秋田県立博物館 佐々木厚学芸主事にお願いした。

8．本遺跡の発掘調査、本書の作成にあたり下記の方々から助言をいただいた。記して謝意を表する。

秋元信夫、阿部明彦、板橋範芳、三ヶ田俊明、安村二郎(敬称略)

凡　例

1．各遺構に付している略記号は下記の通りである。

ＳＱ……配石遺構　　ＳＢ……(掘立柱)建物跡　　ＳＩ……竪穴住居跡

ＳＲ……土器埋設遺構　　ＳＫ……土坑　　ＳＫＦ……フラスコ状･袋状土坑

ＳＫＩ……竪穴遺構　　ＳＺ……石囲炉　　ＳＮ……焼土遺構

ＳＫＰ……柱穴様ピット･立石　ＳＫＴ……陥し穴

2．挿図中の遺物の略記号は下記の通りである。

ＲＰ……土器･土製品　　ＲＱ……石器･石製品　　Ｓ……自然石

3．挿図に使用したスクリーントーンおよびシンボルマークは下記の通りである。

焼土

粘土

攪乱

柱穴様ピット柱痕

● RP（土器）

4．報告時に遺構略号あるいは番号を変えたものについては下記の一覧表にまとめた。

報告時	調査時	報告時	調査時	報告時	調査時
〔建物跡〕		SB16 SKP376C	SK25	SK247	SK134B
SB27	SI04	SB17 SKP378	SK30	SK248	SK143B
〔竪穴遺構〕		SB17 SKP412	SK34	SK249	SK144B
SKI01	SI01	SB17 SKP381	SK44	SK250	SK35
SKI02	SI02	SB17 SKP377	SK26	SK251	SN43
SKI03	SI04	SB18 SKP379	SK31	SK252	SN03
〔立石〕		SB20 SKP395C	SK137	SK253	SQ04
SKP328	SKP328B	SB20 SKP393C	SK124	SK254	SQ03下
〔掘立柱建物跡〕		SB20 SKP396C	SK168	SK255	SQ03下
SB01 SKP392A	SK121	SB20 SKP397A	SK175	SK256	SKP208
SB06 SKP407B	SKP150B	SB21 SKP395C	SK137	SK257	SK195横
SB08 SKP380	SK42	SB21 SKP393C	SK124	SK258	SKP228
SB08 SKP384	SK51	SB21 SKP396C	SK168	SK260	'88年SK02
SB08 SKP385	SK52	SB22 SKP395B	SK137	〔柱穴様ピット〕	
SB08 SKP388	SK75	SB22 SKP393A	SK124	SKP368	SK07
SB09 SKP386	SK57	SB22 SKP396B	SK168	SKP375	SK23
SB09 SKP399C	SK50	SB25 SKP400	SN38	SKP387	SK60
SB11 SKP373	SK15	SB26 SKP394	SK125	SKP391	SK108
SB11 SKP374	SK20	〔土坑〕		SKP398	SK188
SB11 SKP372	SK12	SK227	SKP88A	SKP403	SQ03横
SB11 SKP382	SK47	SK228	SKP114	SKP406	SKP51B
SB11 SKP418	SK46	SK229	SKP115	SKP408	SKP328A
SB11 SKP383	SK48A	SK230	SKP214	SKP411	SKP06横
SB12 SKP369	SK08	SK231	SKP220	SKP413	SK103
SB12 SKP370	SK09	SK232	SKP253	SKP417	SK142
SB12 SKP371	SK10	SK233	SKP254	SKP419	SK93
SB12 SKP401	SN04	SK235	SKP292・294	SKP420	SQ03横
SB13 SKP376E	SK25	SK237	SKP295	〔フラスコ状・袋状土坑〕	
SB14 SKP376A	SK25	SK238	SKP302	SKF04	SK78
SB14 SKP405	SKP27B	SK239	SKP303	SKF05	SK174
SB15 SKP366	SK04	SK241	SKP326	〔石囲炉〕	
SB15 SKP367	SK06	SK242	SKP327	SZ01	SN01
SB16 SKP402	SN12	SK245	SKP340	SZ08	SN08

目　　次

序

例言、凡例 …… ii

目次 …… iv

第1章　はじめに …… 1

　第1節　発掘調査に至るまで …… 1

　第2節　調査の組織と構成 …… 1

第2章　遺跡の立地と環境 …… 5

　第1節　自然的環境 …… 5

　第2節　歴史的環境 …… 5

第3章　発掘調査の概要 …… 10

　第1節　遺跡の概観 …… 10

　第2節　調査方法 …… 13

　第3節　調査経過 …… 13

第4章　調査の記録 …… 15

　第1節　検出遺構と出土遺物 …… 15

　　1、縄文時代 …… 15

　　(1)配石遺構 …… 15

　　(2)立石遺構 …… 20

　　(3)掘立柱建物跡 …… 30

　　(4)柱穴様ピット …… 83

　　(5)竪穴遺構 …… 98

　　(6)土器埋設遺構 …… 101

　　(7)土坑 …… 103

　　(8)フラスコ状土坑・袋状土坑 …… 108

　　(9)石囲炉・焼土遺構 …… 133

　　(10)陥し穴 …… 138

　　2、平安時代 …… 148

　　(1)竪穴住居跡 …… 148

　　(2)柱穴様ピット …… 153

　　3、時期不明 …… 153

　　(1)建物跡 …… 153

　　(2)溝状遺構 …… 153

　第2節　遺構外出土遺物 …… 191

　　1、土器 …… 191

　　2、土製品 …… 194

　　3、石器 …… 195

　　4、石製品 …… 196

第5章　自然科学的分析 …… 235

第6章　まとめ …… 238

写真図版

挿図目次

第１図　高屋館跡調査区位置図 …… 3・4
第２図　周辺の遺跡位置図及び地形分類図 …… 6
第３図　高屋館跡現況図 …… 11・12
第４図　ＳＱ01配石遺構・ＳＫ90・144・230・245・249土坑実測図 …… 7・18
第５図　ＳＱ02配石遺構・ＳＫ143・248土坑、ＳＺ08石囲炉実測図 …… 19・20
第６図　ＳＱ03・05・06・08配石遺構、ＳＫ253・255土坑実測図 …… 21・22
第７図　ＳＱ07配石遺構・ＳＫ160・162土坑実測図 …… 23・24
第８図　ＳＱ09・10配石遺構、ＳＫ161・164・233土坑実測図 …… 25・26
第９図　ＳＫＰ35・100・342・347・325・341立石遺構実測図 …… 29
第10図　ＳＢ01・02掘立柱建物跡実測図（１） …… 33・34
第11図　ＳＢ03・04掘立柱建物跡実測図（１） …… 35・36
第12図　ＳＢ01・02掘立柱建物跡実測図（２） …… 37
第13図　ＳＢ03・04掘立柱建物跡実測図（２） …… 38
第14図　ＳＢ05掘立柱建物跡実測図 …… 39・40
第15図　ＳＢ06掘立柱建物跡実測図 …… 41
第16図　ＳＢ07掘立柱建物跡実測図 …… 43・44
第17図　ＳＢ08掘立柱建物跡実測図 …… 45・46
第18図　ＳＢ09掘立柱建物跡実測図 …… 47・48
第19図　ＳＢ10掘立柱建物跡実測図 …… 49・50
第20図　ＳＢ11掘立柱建物跡実測図 …… 51・52
第21図　ＳＢ12掘立柱建物跡実測図 …… 53・54
第22図　ＳＢ13掘立柱建物跡実測図 …… 57・58
第23図　ＳＢ14掘立柱建物跡実測図 …… 59・60
第24図　ＳＢ15掘立柱建物跡実測図 …… 61・62
第25図　ＳＢ16掘立柱建物跡実測図 …… 63・64
第26図　ＳＢ17掘立柱建物跡実測図 …… 65・66
第27図　ＳＢ18掘立柱建物跡実測図 …… 67・68
第28図　ＳＢ19掘立柱建物跡実測図 …… 69・70
第29図　ＳＢ20・21・22掘立柱建物跡実測図（１） …… 71・72
第30図　ＳＢ20・21・22掘立柱建物跡実測図（２） …… 73・74
第31図　ＳＢ23掘立柱建物跡実測図 …… 75・76
第32図　ＳＢ24掘立柱建物跡実測図 …… 77・78
第33図　ＳＢ25掘立柱建物跡実測図 …… 79・80
第34図　ＳＢ26掘立柱建物跡実測図 …… 81・82
第35図　ＳＫＰ60・87・111・118・196・206柱穴様ピット実測図 …… 95
第36図　ＳＫＰ224・246・263・293・320・346柱穴様ピット実測図 …… 96
第37図　ＳＫＰ339・343・375・387・398・413・419柱穴様ピット実測図 …… 97
第38図　ＳＫＩ01竪穴遺構実測図 …… 99
第39図　ＳＫＩ02竪穴遺構実測図 …… 100
第40図　ＳＫＩ03竪穴遺構実測図 …… 102
第41図　ＳＲ01・02・03土器埋設遺構、ＳＫＰ32・33柱穴様ピット実測図 …… 104
第42図　ＳＫ01・02・03・05・14・18・19・22土坑実測図 …… 114
第43図　ＳＫ24・28・32・33・37・40・43・45土坑実測図 …… 115
第44図　ＳＫ39・48・49・53・55・59土坑実測図 …… 116
第45図　ＳＫ61・62・63・64・71・72土坑実測図 …… 117
第46図　ＳＫ73・77・80・81・82・84・85・86土坑実測図 …… 118
第47図　ＳＫ65・69・88・89・94・95土坑実測図 …… 119
第48図　ＳＫ91・92・97・98・100・101・102・104土坑実測図 …… 120
第49図　ＳＫ106・107・110・111・112・113・116土坑実測図 …… 121
第50図　ＳＫ117・118・120・129・131・132・133土坑実測図 …… 122
第51図　ＳＫ134・135・139・141・148土坑実測図 …… 123
第52図　ＳＫ145・161・165・167・169土坑実測図 …… 124
第53図　ＳＫ170・171・172・173土坑実測図 …… 125
第54図　ＳＫ176・179・182・184・185・186土坑実測図 …… 126
第55図　ＳＫ190・193・197・210・211・227土坑実測図 …… 127
第56図　ＳＫ178・228・229・231・232・235・237・238土坑実測図 …… 128
第57図　ＳＫ194・195・196・256・257土坑実測図 …… 129
第58図　ＳＫ239・241・242・247・250・251土坑実測図 …… 130
第59図　ＳＫ252・258・259土坑、ＳＫＦ01・02フラスコ状土坑実測図 …… 131
第60図　ＳＫＦ03・04・05フラスコ状・袋状土坑実測図 …… 132
第61図　ＳＺ01石囲炉・ＳＮ02・05・06・09・10焼土遺構実測図 …… 135
第62図　ＳＮ11・15・16・17・18・19・20・21焼土遺構実測図 …… 139
第63図　ＳＮ23・24・25・26・27・29・40焼土遺構実測図 …… 140
第64図　ＳＫＴ01・02・03陥し穴実測図 …… 142
第65図　ＳＫＴ04・05・06・09陥し穴実測図 …… 144

第66図　ＳＫＴ07・08・10陥し穴実測図 …… 145
第67図　ＳＫＴ11・12・03陥し穴実測図 …… 147
第68図　ＳＩ03竪穴住居跡実測図 …… 149・150
第69図　ＳＩ03竪穴住居跡
　　カマド実測図 …… 151・152
第70図　ＳＫＰ140・142・143・144
　　柱穴様ピット実測図 …… 153
第71図　ＳＢ27建物跡実測図 …… 154
第72図　ＳＤ01・02・03・04溝状遺構実測図 …… 156
第73図　遺構内出土土器(１) …… 157
第74図　遺構内出土土器(２) …… 158
第75図　遺構内出土土器(３) …… 159
第76図　遺構内出土土器(４) …… 160
第77図　遺構内出土土器(５) …… 161
第78図　遺構内出土土器(６) …… 162
第79図　遺構内出土土器(７) …… 163
第80図　遺構内出土土器(８) …… 164
第81図　遺構内出土土器(９) …… 165
第82図　遺構内出土土器(10) …… 166
第83図　遺構内出土土器(11) …… 167
第84図　遺構内出土土器(12) …… 168
第85図　遺構内出土土器(13) …… 169
第86図　遺構内出土土器(14) …… 170
第87図　遺構内出土土器(15) …… 171
第88図　遺構内出土土器(16) …… 172
第89図　遺構内出土土器(17) …… 173
第90図　遺構内出土土器(18) …… 174
第91図　遺構内出土土器(19) …… 175
第92図　遺構内出土土器(20) …… 176
第93図　遺構内出土土器(21) …… 177
第94図　遺構内出土土器(22) …… 178
第95図　遺構内出土土器(23) …… 179
第96図　遺構内出土土器(24) …… 180
第97図　遺構内出土土器(25) …… 181
第98図　遺構内出土土器(26) …… 182
第99図　遺構内出土土器(27) …… 183
第100図　遺構内出土土器(28) …… 184
第101図　遺構内出土土器(29) …… 185
第102図　遺構内出土土器(30) …… 186
第103図　遺構内出土土製品 …… 187
第104図　遺構内出土石器(１) …… 188
第105図　遺構内出土石器(２) …… 189
第106図　遺構内出土石器(３) …… 190
第107図　遺構外出土土器(１) …… 197
第108図　遺構外出土土器(２) …… 198
第109図　遺構外出土土器(３) …… 199
第110図　遺構外出土土器(４) …… 200
第111図　遺構外出土土器(５) …… 201
第112図　遺構外出土土器(６) …… 202
第113図　遺構外出土土器(７) …… 203
第114図　遺構外出土土器(８) …… 204
第115図　遺構外出土土器(９) …… 205
第116図　遺構外出土土器(10) …… 206
第117図　遺構外出土土器(11) …… 207
第118図　遺構外出土土器(12) …… 208
第119図　遺構外出土土器(13) …… 209
第120図　遺構外出土土器(14) …… 210
第121図　遺構外出土土器(15) …… 211
第122図　遺構外出土土器(16) …… 212
第123図　遺構外出土土器(17) …… 213
第124図　遺構外出土土器(18) …… 214
第125図　遺構外出土土器(19) …… 215
第126図　遺構外出土土器(20) …… 216
第127図　遺構外出土土器(21) …… 217
第128図　遺構外出土土器(22) …… 218
第129図　遺構外出土土器(23) …… 219
第130図　遺構外出土土製品(１) …… 220
第131図　遺構外出土土製品(２) …… 221
第132図　遺構外出土土製品(３) …… 222
第133図　遺構外出土土製品(４) …… 223
第134図　遺構外出土石器(１) …… 224
第135図　遺構外出土石器(２) …… 225
第136図　遺構外出土石器(３) …… 226
第137図　遺構外出土石器(４) …… 227
第138図　遺構外出土石器(５) …… 228
第139図　遺構外出土石器(６) …… 229
第140図　遺構外出土石器(７) …… 230
第141図　遺構外出土石器(８) …… 231
第142図　遺構外出土石器(９) …… 232
第143図　遺構外出土石器(10) …… 233
第144図　遺構外出土石器(11) …… 234
第145図　高屋館跡出土火山灰の
　　Ｒｂ－Ｓｒ分布図 …… 236
第146図　高屋館跡出土火山灰の
　　Ｋ－Ｃａ分布図 …… 236
第147図　高屋館跡出土火山灰のＦｅ量 …… 237
第148図　掘立柱建物跡規模比較図 …… 239
第149図　遺物分布密度図 …… 241・242

表　目　次

第１表　周辺の遺跡一覧表 …… 7
第２表　柱穴様ピット一覧表(１) …… 85・86
第３表　柱穴様ピット一覧表(２) …… 87・88
第４表　柱穴様ピット一覧表(３) …… 89・90
第５表　柱穴様ピット一覧表(４) …… 91・92
第６表　柱穴様ピット一覧表(５) …… 93・94
第７表　土坑一覧表(１) …… 109
第８表　土坑一覧表(２) …… 110
第９表　土坑一覧表(３) …… 111
第10表　土坑一覧表(４) …… 112
第11表　土坑一覧表(５) …… 113
第12表　分折値 …… 237

第1章　はじめに

第1節　発掘調査に至るまで(第1図)

鹿角市の西山地区では、標高150～200ｍの段丘上および山地斜面を切り開いて果樹園と畑が主に営まれている。ここで生産される農作物の搬出路を確保することを目的に、昭和57年、秋田県農政部よって農免農道整備事業が計画された。計画された農免農道は、鹿角市尾去沢の北方約1㎞にある久保田橋を起点とし、同市十和田の神田までを結ぶ全長6.51㎞である。

本農道の計画路線内には埋蔵文化財が包蔵されている可能性があることから県農政部鹿角農林事務所は、文化財保護法に基づき秋田県教育委員会に遺跡調査の依頼を行った。秋田県教育委員会はこれを受けて、昭和59年に計画路線内の遺跡分布調査を行った。その結果、8遺跡の存在が確認された。

この遺跡分布調査の結果をうけて、昭和60年と昭和62年には遺跡範囲確認のための調査が実施された。その結果、堪忍沢･高瀬館･用野目川向Ⅲ･太田谷地館･高屋館の5遺跡が調査の対象となることが判明した。

発掘調査は昭和61年に堪忍沢遺跡と高瀬館跡、昭和62年に太田谷地館跡第1次調査が行われた。翌昭和63年に太田谷地館跡第2次調査、用野目川向Ⅲ遺跡と高屋館跡の一部(取り付け道路部分)が調査された。そして、平成元年に高屋館跡の残りの部分(本線部分)の調査が行われたのである。

第2節　調査の組織と構成

所在地　　秋田県鹿角市花輪字館ヶ沢45

調査期間　　昭和63年10月17日～昭和63年12月3日
　　平成元年4月17日～平成元年9月2日

調査対象面積　　3,570㎡

調 査 面 積　　3,570㎡

調 査 主 体 者　　秋田県教育委員会

調 査 担 当 者　〔昭和63年度〕

船木　義勝　（秋田県埋蔵文化財センター学芸主事）

小畑　　巌　（秋田県埋蔵文化財センター学芸主事）

磯村　　亨　（秋田県埋蔵文化財センター非常勤職員）

〔平成元年度〕

小畑　　巌　（秋田県埋蔵文化財センター学芸主事）

小林　　克　（秋田県埋蔵文化財センター文化財主事）

小山内　透　（秋田県埋蔵文化財センター非常勤職員）

三浦　光男　（秋田県埋蔵文化財センター非常勤職員）

調査総務担当　〔昭和63年度〕

加藤　　進　（秋田県埋蔵文化財センター主査）

高橋忠太郎　（秋田県埋蔵文化財センター主事）

〔平成元年度〕

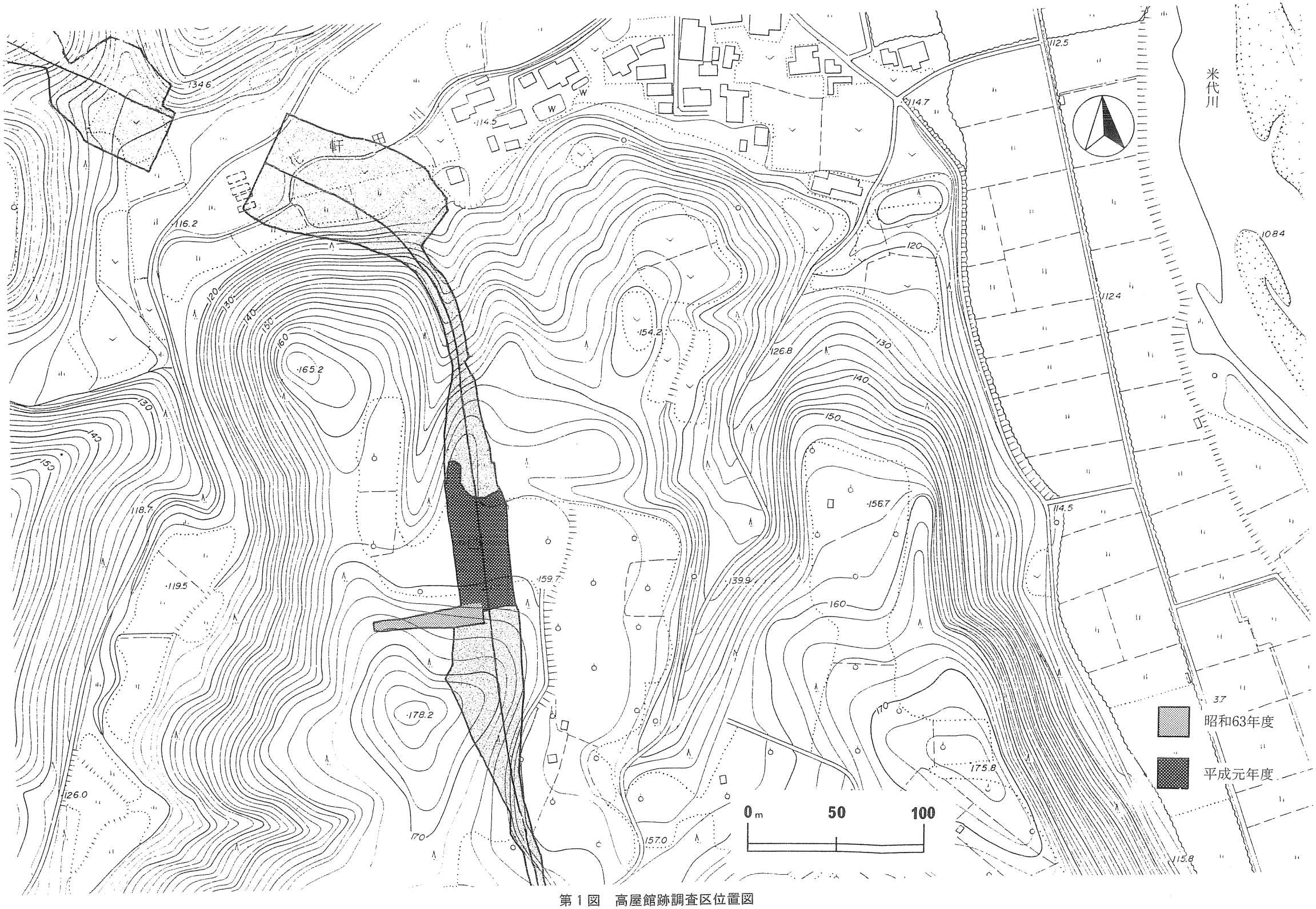
佐田　　茂　（秋田県埋蔵文化財センター主査）

高橋 忠太郎（秋田県埋蔵文化財センター主事）

調査協力機関　　秋田県鹿角農林事務所

鹿角市教育委員会

鹿角市高屋自治会



第１図　高屋館跡調査区位置図

第2章　遺跡の立地と環境

第1節　自然的環境

秋田県の北部、岩手県と境を接する鹿角市は、東に奥羽脊梁山脈、西に高度200～300ｍの低山地、その間に米代川･大湯川等によって形成された鹿角盆地に大きく分けることができる奥羽脊梁山脈は、標高千メートルを越える四角岳のほか、独鈷森(836ｍ)、二ツ森(733.9ｍ)がある。これに並行して盆地側に諸助山(768.6ｍ)、大森(803.2ｍ)がみられる。これに対して盆地の西側には高い山はなく、土筆森(263ｍ)のほか、300ｍ前後の三角点が認められる。盆地内は、段丘地形と沖積低地とに区分される。段丘面は高い方から高位面、中位面、鳥越面、低位面、毛馬内面の5段が認められる。鳥越面は、鳥越軽石質火山灰層の堆積した面で、鹿角盆地全体にわたって散在する。毛馬内面は毛馬内軽石質火山灰層に関係する最低位の段丘面で、大湯川沿いと米代川との合流点より下流に分布する。

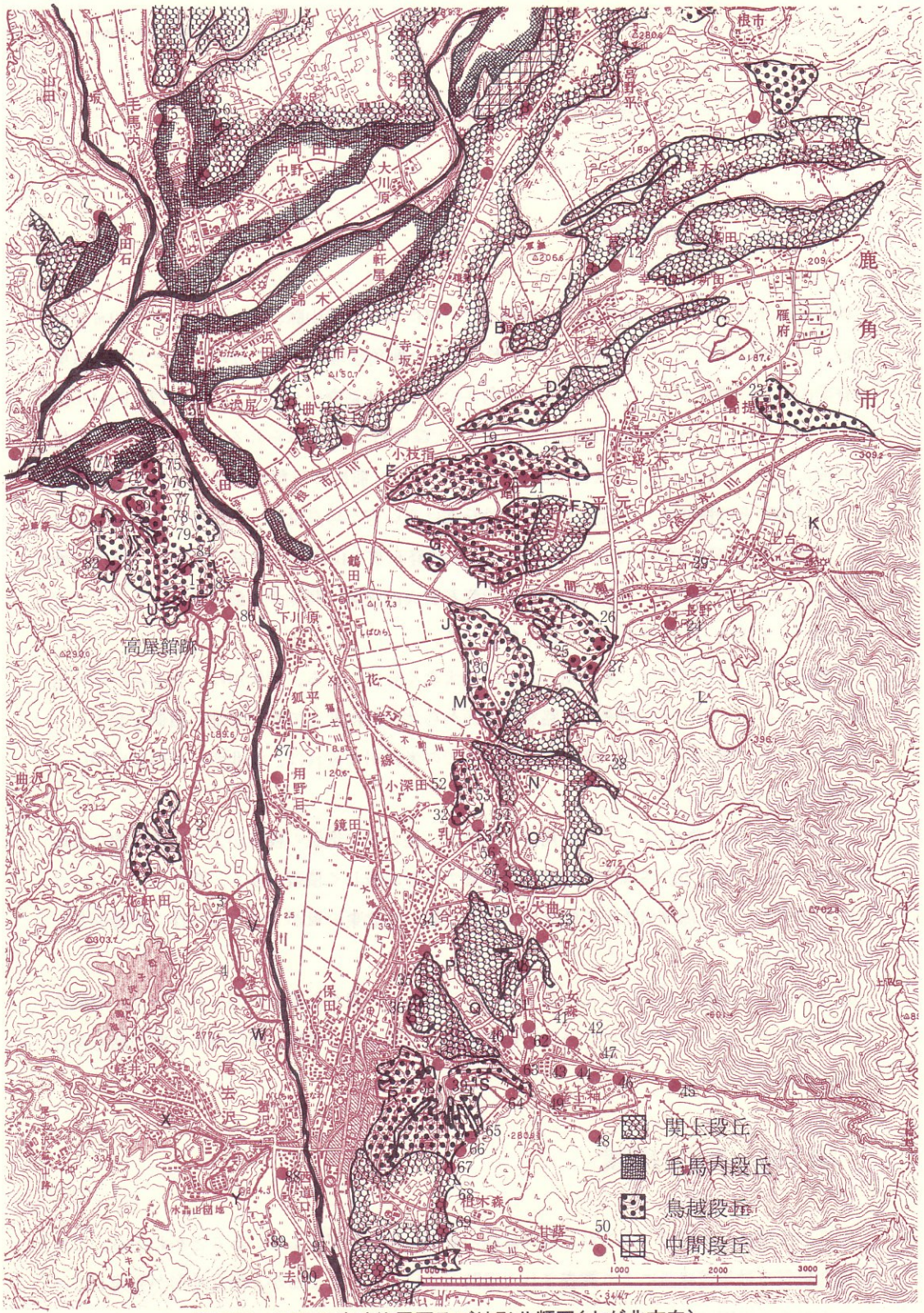
盆地内に流れ込む河川は、米代川と大湯川に大きく分けられる。米代川は、岩手県から秋田県に入ったのち、鹿角市八幡平で流路を西北西から北北西に変えて鹿角盆地の西側を北上し、鹿角市毛馬内で西に流れを再び変える。盆地内での米代川の流れは、北北西―南南東にのびる花輪断層に一致している。

「鹿角市史　第一巻」によると、鹿角市の気候は、昼と夜の気温の較差が大きく内陸的な盆地型気候であるとされる。冬は北西季節風の影響で寒さが厳しく積雪が多く、夏には「やませ」とよばれるオホーツク海高気圧から吹き出す冷たく湿った北東の風がしばしば稲作に影響を与えることがある。

近年になって開発行為がさかんになってきているものの豊かな自然が残されており、遺跡の周辺ではニホンカモシカやキツツキなど野生動物が目撃され、果樹を食い荒らす熊の話も身近に聞かれるほどである。

第2節　歴史的環境

第2図は遺跡の位置図であるが、鹿角盆地の東側に遺跡が集中していることがわかる。これは東北縦貫自動車道建設により調査された遺跡が多いことにもよるが、断丘地形が発達していることがその主因であろう。遺跡の多くは、鳥越段丘と関上段丘上に立地している。中世の館



第２図　周辺の遺跡位置図及び地形分類図（上が北方向）

第1表　周辺の遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代	番号	遺跡名	時代
1	太田谷地館	縄文(前・後)・弥生・平安	60	猿ヶ平Ⅰ	縄文(後・晩)・弥生
2	用野目川向Ⅲ	縄文(晩)・平安	61	案内Ⅱ	縄文(後～晩)
3	高瀬館	中世	62	案内Ⅲ	縄文・平安
4	堪忍沢	平安	63	案内Ⅰ	縄文(中～後)・平安
5	高田	古墳	64	孫右ェ門館	
6	寺ノ上B	続縄文・弥生・中世	65	中の崎	縄文・平安・中世
7	狐平	縄文(前・中)	66	柏木森	縄文・平安
8	柏崎	縄文(前・中)	67	明堂長根	縄文(晩)
9	一本木平		68	一本杉	縄文・平安・中世
10	八幡堂	縄文(後)	69	上葛岡Ⅳ	縄文・平安
11	大湯環状列石	縄文(後)	70	石野	古墳
12	小板野		71	上ノ野Ⅰ	弥生
13	草木C		72	上ノ野Ⅱ	縄文・弥生
14	申ヶ野		73	上ノ野Ⅲ	縄文
15	冠田		74	上ノ野Ⅳ	縄文
16	曲谷地A	古墳	75	上ノ野Ⅴ	縄文・平安
17	曲弥生B	古墳	76	上ノ野Ⅵ	縄文・弥生・平安
18	枯草板	古墳	77	上ノ野Ⅶ	縄文・弥生
19	鳥野遺跡	奈良	78	上ノ野Ⅷ	
20	平本館Ⅰ	縄文(後)	79	上ノ野Ⅸ	
21	平本館Ⅰ		80	上ノ野Ⅹ	縄文・平安
22	源田平	平安	81	板橋Ⅰ	縄文(晩)
23	菩堤野	奈良	82	板橋Ⅱ	縄文(後)
24	長野		83	板橋Ⅲ	縄文(後)
25	餅野Ⅰ		84	戸羽の沢	縄文(後)
26	餅野Ⅱ		85	花輪B	縄文(後)・弥生
27	餅野Ⅲ		86	花輪C	縄文(晩)・弥生
28	餅野Ⅳ		87	用野目	
29	餅野Ⅴ		88	下モ平	続縄文
30	万谷野	弥生	89	六角平	縄文(晩)
31	西町	縄文(晩)	90	三光塚1号	
32	乳牛	縄文(後)	91	三光塚2号	
33	大曲	縄文・平安	92	玉内	縄文(中・後・晩)・平安・中世
34	陣場	縄文・続縄文	記号	中世城館名	
35	天戸森	縄文(中～後)	A	当麻館	
36	御休堂	縄文(中～後)	B	丸館	
37	白山堂	縄文(後)	C	高間館	
38	日向屋敷Ⅰ	縄文(中)	D	一ツ森館	
39	下沢田	平安・中世	E	小枝指館	
40	案内Ⅳ	縄文(後・晩)・平安	F	小平館	
41	案内Ⅴ	縄文(中)・平安	G	新斗米館	
42	案内Ⅵ	縄文(中・後・晩)・平安	H	高市向館	
43	東山A	縄文・弥生	I	高市館	
44	東山B	弥生	J	万野館	
45	東山C		K	上台館	
46	赤坂A	縄文	L	折力内館	
47	赤坂B	縄文・続縄文	M	地羅野館	
48	産土神A・B・C	縄文	N	柴内館	
49	産土神D	縄文	O	乳牛館	
50	甘蕗	縄文	P	黒土館	
51	室田		Q	花輪古館	
52	西町Ⅱ	中世	R	花輪館	
53	西町Ⅰ	縄文・弥生	S	孫右ェ門館	
54	下乳牛	平安	T	碁石館	
55	乳牛平	縄文・弥生・中世	U	太田谷地館	
56	妻の神Ⅲ	縄文(中～後)・中世	V	高瀬館	
57	妻の神Ⅱ	縄文(後)平安・中世	W	かいぬま館	
58	妻の神Ⅰ	縄文(晩)平安・中世	X	茶白館	
59	猿ヶ平Ⅱ	縄文	Y	上山館	

跡もまた段丘地形を利用して防禦施設を備えていることが容易に窺われる。

鹿角盆地の西側は山地地形が発達しているため遺跡数は減少するが、鳥越段丘が見られる地域に遺跡が集中分布している。

ここでは、高屋館跡と関係の深い縄文、平安、中世の各時代ごとに主な遺跡を概観してみたい。

縄文時代の遺構、遺物がみつかっている遺跡は、53遺跡をかぞえる。国指定特別史跡である大湯環状列(11)は、昭和の初めごろからその存在がしられていたが、昭和26･27年に文化財保護委員会により本格的な調査及び保存がなされたた。調査では野中堂環状列石の外帯の外周線の直径がほぼ40ｍ、万座環状列石では45～46ｍとし、組石をＡ～Ｋまで９型式に分類している。組石下についても調査がなされ、ほとんどの組石下に小判形プランの土壙を確認している。また、第二発掘溝において「楕円及至円形の小屋と推定される柱穴」も検出されている。昭和59年からは鹿角市教育委員会により環状列石及びその周辺の解明を目的に発掘調査がすすめられている。その調査では、環状配石遺構、環状に壁柱穴を有する掘立柱建物跡、長方形を基調と掘立柱建物跡のほか多くの遺構、遺物が発見されている。そして環状列石の小塊に対応するように掘立柱建物跡が配されていたことが明らかになってきている。この結果、大湯環状列石の性格を縄文後期の一大墓域とし、掘立柱建物跡の多くは葬送儀礼にかかわる施設と考えられるに至っている。今回行った高屋館の調査では、環状配石遺構とそれを環状に取り囲むように配された掘立柱建物跡が見つかっており、大湯環状列石とほぼ同じ意図のもとに営まれた遺跡であることが推定される。この時期の他の遺跡としては東北縦貫道関係では、妻の神Ⅱ(57)、案内Ⅱ(61)、案内Ⅰ(63)、孫右門館(64)の各遺跡がある。

鹿角地方に顕著にみられる大湯浮石層は、十和田火山の降下火山灰であるが近年これとは異なる火山灰が検出されている。それは朝鮮民主主義人民共和国と中国との国境にある白頭山の降下火山灰である。太田谷地館跡(１)第２次調査では、平安時代の竪穴住居跡の埋土下部から検出され、竪穴住居跡の営まれた時期を特定するにあたり、大きな役割を果している。太田谷地館と花軒田川をはさんだ台地上にある本遺跡でも、平安時代の竪穴住居跡の埋土下部から同じ火山灰を検出している。堪忍沢遺跡(４)は、標高180～190ｍの丘陵地に立地し、13基の製鉄炉が見つかった製鉄遺跡である。

中世の遺跡では、館跡の多いことが大きな特徴である。それは鹿角四十二館などという呼び方に表れている。鹿角市史によれば、鹿角の館は郷村を単位とする一村一館の形態をとり、領主館的な権力の象徴というよりはその郭内に集落を内包した日常生活的機能をもつ、とされる。

高屋館跡は、その歴史的な背景や存続期間は明確でない。ただ、高屋館が鹿角四十二館のひ

とつにかぞえられていたこと。館主は秋元氏で、高屋村の村名を名字として高屋氏を名乗っていたこと。南部氏の勢力に押されて秋田領に落ちていったことなどが知られてるだけである。高屋館の北西約300ｍにある太田谷地館は２次にわたって調査が行われている。１次調査では東に突き出た舌状台地を区切る３条の空堀とその舌状台地から51軒の竪穴住居跡が検出されている。これらは８期にわたって営まれ、出土遺物から鉄製品(馬･武具･農工具)の生産が行われていることを明らかにしている。高屋館の南約３kmに高瀬館、そのさらに南にかいぬま館が続いている。

（参考文献）

秋田県教育委員会　『秋田県遺跡地図』　1976(昭和51年)

秋田県　秋田県総合地質図幅「花輪」　1973(昭和48年)

鹿角市　『鹿角市史』第１巻　1982(昭和57年)

秋田県教育委員会　『秋田県の中世城館』　秋田県文化財調査報告書第86集　1981(昭和56年)

鹿角市教育委員会　『鹿角の館館跡航空写真測量調査報告書(３)』　鹿角市文化財調査資料25　1984(昭和59年)

文化財保護委員会　『大湯町環状列石』　1953(昭和28年)

鹿角市教育委員会　『大湯環状列石周辺遺跡発掘調査報告書(４)』　鹿角市文化財調査資料33　1988(昭和63年)

第３章　発掘調査の概要

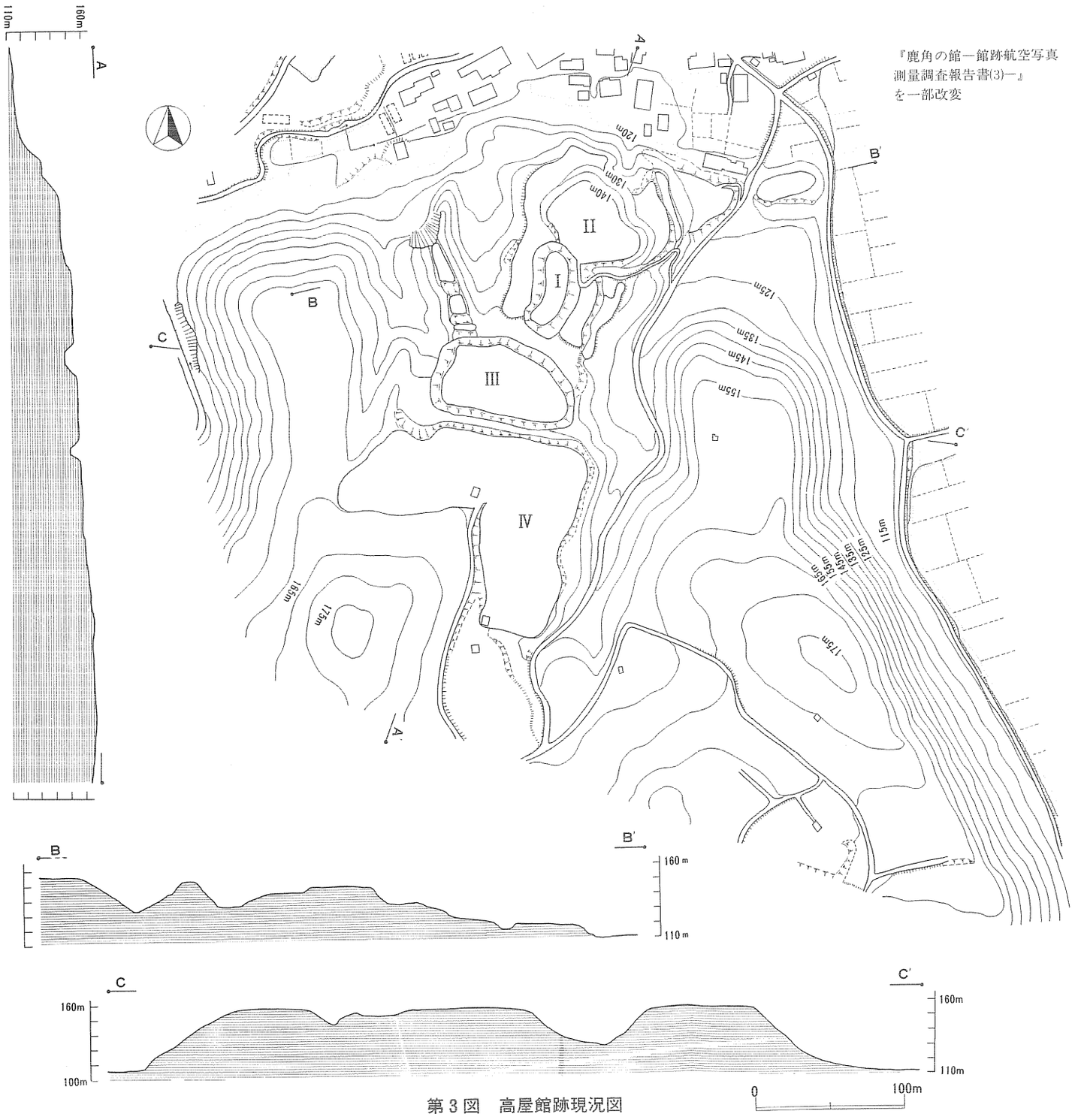
第１節　遺跡の概要（第３図・付図２）

高屋館は、鹿角市花輪字館ヶ沢に所在する。北流する米代川と南西から米代川に流れ込む花軒田川とによってつくられた舌状に北に伸びた台地の先端部に立地する。遺跡の北側の麓には高屋の集落と水田がひろがっており、遺跡と水田との比高差は40～45ｍである。

「秋田県の中世城館」および「鹿角の館―館跡航空写真測量調査報告書（３）―」によれば、高屋館は多郭連続式の館で、第Ⅰ～Ⅳ郭まであることがわかっている。第Ⅰ郭は「本丸」と伝承される郭であり、南北50ｍ、東西18ｍの広さを有する。第Ⅰ郭の北側には「蔵屋敷」とよばれる腰郭（第Ⅱ郭）が付属する。第Ⅰ郭との比高差は５ｍである。第Ⅰ郭の空堀を隔てて南側に第Ⅲ郭がある。東西90ｍ南北40ｍの規模を有する。この第Ⅲ郭と沢を隔てた東側の台地平坦部は現在も「馬場」とよばれているという。第Ⅳ郭は、第Ⅲ郭の南側にあり長さ80～90ｍの空堀によって第Ⅲ郭と切断されている。当時の住居区と推測されている。現況は、南から入って来る農道を境に東側は果樹園、西側は山林である。山林側より果樹園側のほうが低く、２ｍ前後の比高である。第Ⅲ郭と第Ⅳ郭を分かつ空堀の西端に水の湧き出る場所があり、その泉が当時用いられたものであろう。農免農道は、第Ⅳ郭南側標高175ｍの小山の東側を北上し、第Ⅳ郭内西側を通過して第Ⅲ郭西側にある沢すじに沿って抜けるものであった。したがって今回の調査は第Ⅳ郭内西側部分と取り付け道路部分3,570㎡が対象となっていたわけである。

調査区は、標高157～160ｍの台地上にあり、南から北に向かって緩く傾斜している。調査直前は山林であったが、過去に土を多量に動かした形跡があり、また耕作による攪乱も全体にわたって見受けられた。耕作は大湯浮石層の上面までで止まっているが、過去に土を動かした時に、土を取られて黒土が薄くしか残らなかった部分は、地山上面まで耕作が及んでいる。したがって、その部分の遺構、遺物の遺存状況は劣悪であった。

付図２の土層図は、調査区西側の土層を数地点に分けて掲載したものである。基本土層は、第Ⅰ層は耕作土で30～60cm。第Ⅱ層大湯浮石層５～15cm。第Ⅲ層黒色土層15～40cm。第Ⅳ層地山漸移層５～30cm。第Ⅴ層が地山となる。46～47ラインを境いに段差がついており、このあたりから北側の51～52ラインにかけて土が取られるかたちで北側に土が動かされている。



『鹿角の館一館跡航空写真測量調査報告書(3)一』
を一部改変

第３図　高屋館跡現況図

第２節　調査の方法

１、調査区の設定

本線部分が南北に長い道路幅の調査であったことから、工事用道路中心杭を基線としてグリット法により調査区を設定することにした。調査区にはNo.229、230、231の道路中心杭が打設されていたが、No.229の杭が動いた形跡が認められたことから、No.230と231の杭を結ぶ線を基線としＭＡラインとした。そしてNo.230杭を基準（ＭＡ50）として４ｍ×４ｍになるようにグリッドを設定した。南北方向に算用数字、東西方向にアルファベットを用いてそれを組み合わせることにした。なおグリッドを呼称する場合は南東隅の杭で行うことにした。ＭＡラインは磁北とは一致しておらず、磁北から５°東にずれている。

２、発掘調査方法

調査に伴う排土を置く場所がなく、調査区でやり繰りする必要があったことから、今回の調査の排土を昨年調査済の区域に置き、それでも置ききれなくなった場合は今年度調査済の部分に排土することにした。また、昨年調査の排土が今回の調査区内に置かれていたことから、これを重機を用いて昨年の調査区に移動することにした。表土を除去し、遺構のプランを確認するにあたっては、大湯浮石層上面と地山面で行うことにした。遺構の調査は、二分法または四分法とし場合に応じて適宜ベルトを残すことにした。遺構番号は、遺構の種類によって１番からそれぞれ付した。調査の記録は、図面の作成と写真撮影とによって行なった。作成した図面は、土層断面図、遺物出土状況、平面図等である。縮尺は、１/20を基本としたが、対象の大小により縮尺を変えて作成を行なった。写真撮影は、調査の流れに沿って行なった。また作業風景の撮影も適宜行なった。

第３節　調査の経過

４月17日朝から雨の空模様。午前に高屋自治会館において作業員説明会を開催。午後雨足が強まり、作業を断念した。４月18日前年に重機を使って表土を取り除いてしまっている部分についてプラン確認作業を開始した。４月21日晴れ、径2.5～３ｍの楕円形プランと２～３ｍの溝状プランを検出した。後者について調査に着手した。また遺構配置略図の作成を行なった。４月25日検出した溝状プランの遺構は、Ｔピットと判明。長軸方向を同じくして２基が並んでいることがわかった。ＮＨＫ記者柴田氏来跡。４月26日ＭＡライン西側及び50ライン南側において、縄文土器と石器が多く出土し焼土も散見され始めた。何らかの遺構の存在が予測されたため、出土遺物の位置を記録することにした。４月28日季節はずれの雪がちらつき、のちに雨

にかわった。Tピット埋土中の遺物取り上げを行なった。4月29日～5月7日までのゴールデンウィクの間、作業を休みとした。5月11日竪穴住居跡の遺物取り上げを行なった。これまで土坑として調査を行なってきたものの中に、柱痕が観察されるものが相当数あることがわかり、建物跡の存在が予想された。5月15日配石の平面図を作成。雷雨のため午後4時で作業を中止した。5月25日遺物包含層中の焼土遺構の半截写真を撮影した。焼土遺構が検出された面第Ⅲ層で周囲を精査したが、柱穴等のプランは検出されなかった。5月29日、ベルトコンベアーの配線のしなおしで午前の作業ができなかったのでこれまで出土した遺物の水洗いを行なった。6月13日遺物包含層の掘り下げをほぼ終了し、遺構のプラン確認作業を行なった。その結果、土坑と柱穴を多数検出した。6月26日、昨年の調査時に出た排土を重機で調査区域外に運搬する作業を開始。6月30日排土運搬作業が終了し、その部分の表土除去に着手。7月3日、基本土層図の作成と写真撮影を行なった。7月11日、偏平の長い自然石を縦にして柱穴様ピットに埋め込んだ遺構の断面図を作成した。7月14日、MA53グリッドでフラスコ状土坑を検出。出土遺物は僅少であった。遺構配置略図を作成したところ大きな弧を描くような配置状況であることに気づいた。7月22日古代の竪穴住居跡埋土中から火山灰を検出した。8月4日土坑や柱穴が集中して形づくる弧の内側に配石遺構を検出した。8月17日配石遺構の平面図およびエレベーション図作成。古代の竪穴住居跡の貼り床を除去する。柱穴の埋土中に焼土と炭化物をやや多く含むものを確認。8月24日、配石遺構の石を除去して、地山面で精査を行なった。土坑と柱穴を数基検出。9月2日、すべての調査と撤収作業を終了した。

第４章　調査の記録

第１節　検出遺構と出土遺物

調査で検出された遺構は、361遺構に上りそのほとんどが縄文時代のものである。その内訳を述べると縄文時代では、配石遺構９基、立石６基、掘立柱建物跡26棟、柱穴様ピット135基、竪穴遺構３基、土坑126基、フラスコ状・袋状土坑５基、土器埋設遺構３基、石囲炉２基、焼土遺構22基、陥し穴13基である。平安時代では竪穴住居跡１軒、柱穴様ピット５基、時期不明のものは建物跡１棟、溝状遺構４条であった。遺物は、縄文土器を中心にコンテナ(34cm×54cm×18cm)で約50箱が出土した。

以下に個々の遺構、遺物について述べる。

１　縄文時代

(１)配石遺構

人頭大からその２、３倍の大きさの自然石を配したもので、直線状や円形に配したものは認められるが、多くはひとつのまとまりをもつ程度である。ＳＱ07・09・10は弧状に配され、その弧の延長上にＳＱ03・01が位置する。配された石の石質は、安山岩・珪岩・玄武岩・凝灰岩等である。９基の配石遺構のうち６基の下部から土坑や柱穴様ピットが検出された。これらの法量については、一覧表を参照されたい。

ＳＱ01配石遺構(第４図、図版６・10)

ＭＡ50・51グリッドの黒色土中で南北に直線状にならべられた石を検出した。直線状の石の南側にさらに１群の石があり、全体は南北約5.7ｍ、東西約2.6ｍのひろがりをもつ。土取りと耕作を受けていることから、直線状の石は原形をとどめているものと思われるが、その他は動いた形跡が窺われた。石は川原石を用いており、加工を施した形跡はなかった。30～35cmのやや細長いのものが多く用いられ、50～60cm大の石もみられる。石を取り除いて地山面まで掘り下げたところ、土坑が５基みつかつた。径が50～60cm、確認面からの深さ15～20cmのもの(ＳＫ90、144Ａ、249)と、径が35～40cm、確認面からの深さ10cmのもの(ＳＫ230、245)とがある。土坑から遺物は出土しなかった。

ＳＱ02配石遺構(第５図、第74図６、第100図、図版６・９・10・22・29)

ＬＴ54、ＭＡ54・55グリッド内の黒色土(第Ⅲ層)中で検出した。ＭＡ55グリッド杭を中心として南東―北西方向に約6.3ｍの帯状に石が残されていた。そのほぼ中央にＳＺ08石囲炉が設

置されており、0.8×1mの規模を有する。8～35cm大の石を円形に置いるが、南西側には石が見あたらなかった。当初からなかったものか、抜き取られたものか、明らかでない。A—B断面からわかるように10×15×35cmの石がほぼ垂直に埋められている。燃焼面より約20cm地上に出ている。石囲炉の北西側には、15～40cm大の川原石が鉤の手状に残っている。石囲炉をはさんで反対の南東側には、15～40cm大の石を円形に配する1群がある。これらの下から2基の土坑が検出された。SK248土坑は、径33×55cm、深さ11cmである。SK143は、径40cm、確認面からの深さ16cmである。坑底から少し浮いた状態で小型の鉢形土器が横位で出土した。胴部に屈曲がみられ、文様帯はその屈曲部に設けられる。文様帯の下端で強く張り出した後、底部に達する。底部には高台が作り出されている。口縁部は2単位の波状を呈するが、波頂部と胴部文様帯下端部に厚みをもたせ鉛直方向に穿孔がなされている。これは紐などを通して吊ることができるようにしたもので、吊ったときに紐がかりをよくさせるために高台部分も2ヶ所けずり取っている。文様は、2本の沈線によって方形に区画したほかに直線と曲線で描かれる。

SZ08からは土器片4点が出土した。第100図3は、壺形土器の頸部である。風化と二次的な加熱のためか非常にもろくなっている。隆帯の脇に沈線が引かれ、隆帯上には刺突が施されている。

SQ03配石遺構(第6図、第105図6・7、図版9・10・43)

LT49、50グリッド黒色土(第Ⅲ層)中で検出したる。10～30cm大の石が土坑の上に配されている。柱穴様の掘り込みが後になされ、破壊を受けていることが推定された。土坑は、SK254とSK255の2基で、SK255土坑埋土中から遺物が出土している。

遺物は、石鏃2点が出土した。2点とも整った二等辺三角形の底辺中央に茎をもつ。茎の取り付け部分がわずかに抉られている。いずれも先端と茎の一部に欠損が認められる。

SQ05配石遺構(第6図、第142図1、図版4・9・43)

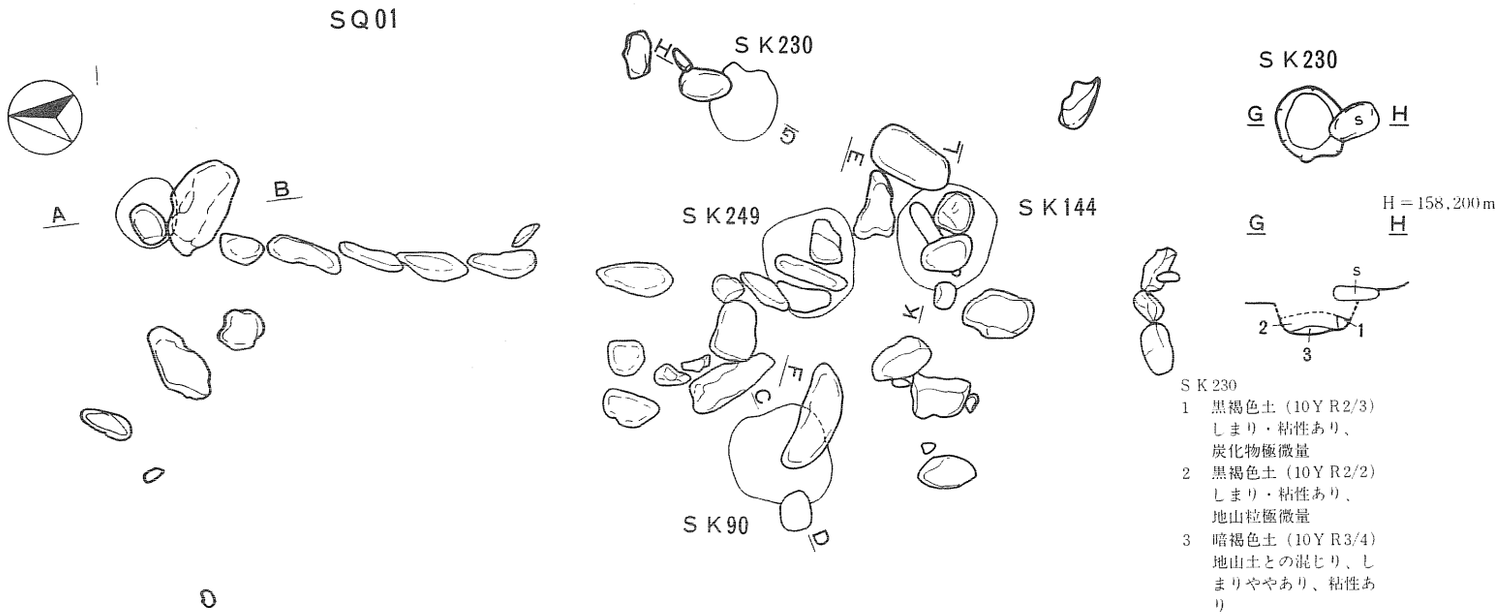
LS45、46グリッド第Ⅲ層中で検出した。図化できたものは比較的大きな石のみのであったがこのほかに礫も多数含まれていた。石を取り除いたあと精査を行なったが、土坑等の掘り込みは検出されなかった。第142図1の石皿が配石に混じって出土した。

SQ06配石遺構(第6図、図版9)

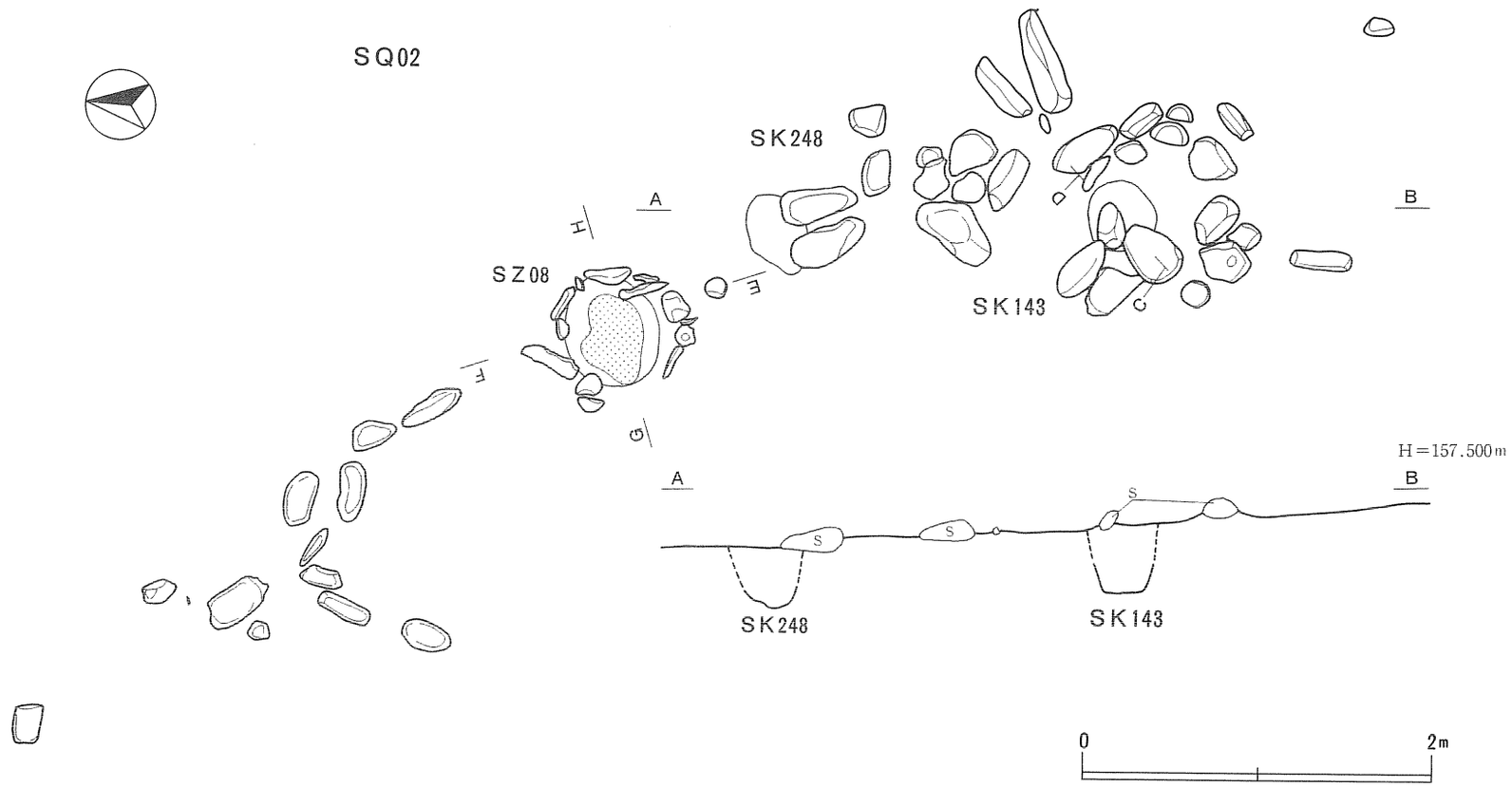
LQ49グリッド第Ⅲ層中で検出した。SQ01配石遺構と同様に直線状に配置されているが南側に幾分弧を描くようである。東西方向の規模は3.1mである。本遺構に伴う土坑、遺物は検出されなかった。

SQ07配石遺構(第7図、第90図21、図版4・7・11)

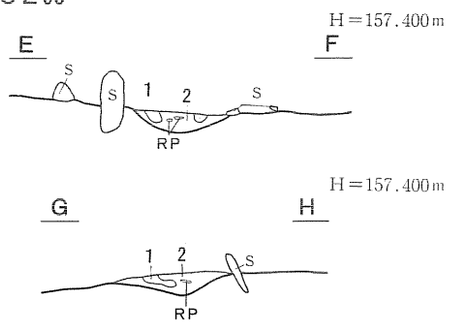
SQ07とした本遺構は、SQ09、SQ10配石遺構とともに本来はひとつの配石遺構を形成するものであるが、2ないし3の単位に分けることも可能であるため、記述の便宜上それぞれの



第4図　SQ01配石遺構・SK90・144・230・245・249土坑実測図

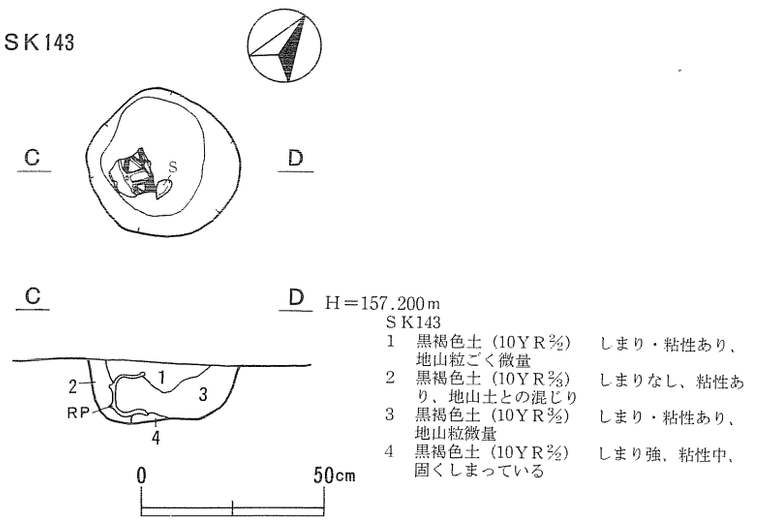


SZ08



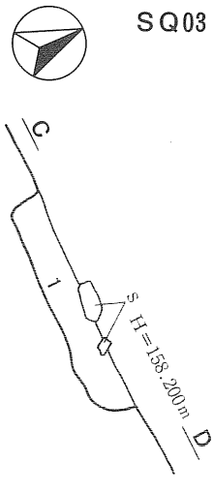
SZ08
1　赤褐色土（5YR⅓）　粘性中、しまりやや強、よく焼けている焼土
2　暗褐色土（7.5YR⅓）　粘性・しまり中、全体的に熱をおびて焼土化している、焼土粒多量混入

SK143

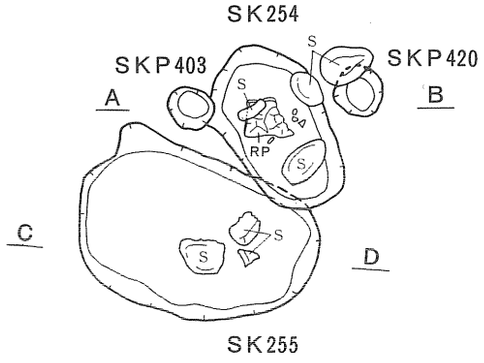


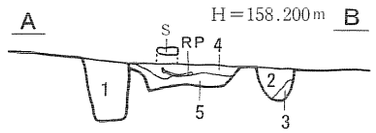
SK143
1　黒褐色土（10YR⅔）　しまり・粘性あり、地山粒ごく微量
2　黒褐色土（10YR⅔）　しまりなし、粘性あり、地山土との混じり
3　黒褐色土（10YR⅔）　しまり・粘性あり、地山粒微量
4　黒褐色土（10YR⅔）　しまり強、粘性中、固くしまっている

第5図　SQ02配石遺構・SK143・248土坑、SZ08石囲炉実測図

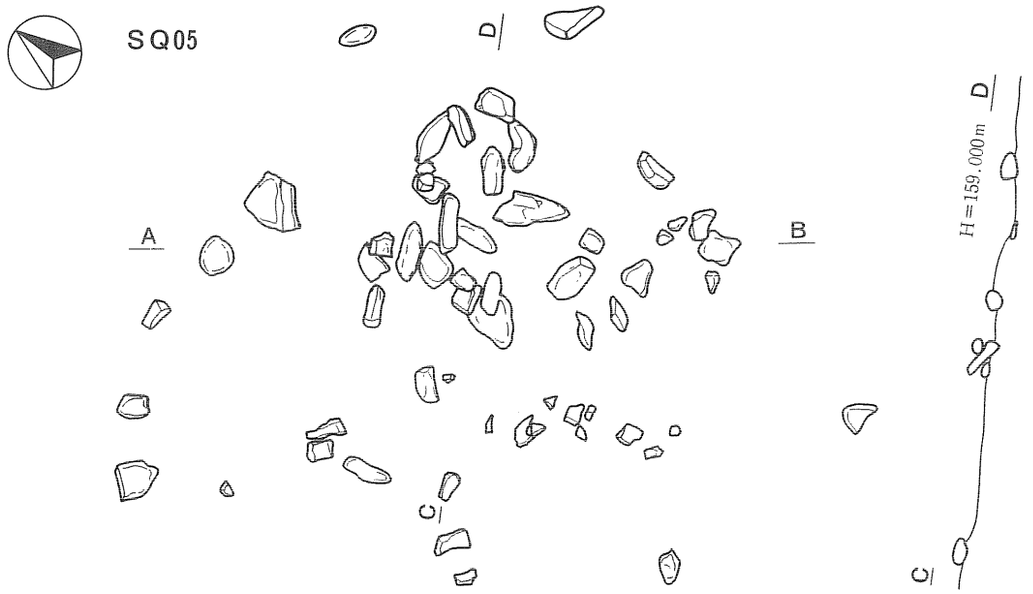


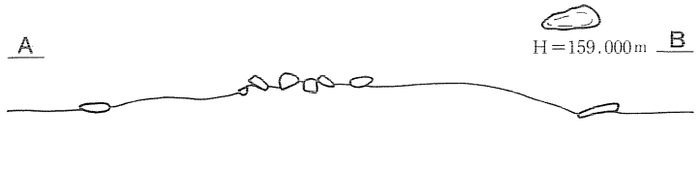
ＳＫ255
1　黒褐色土（10ＹＲ3/2）
　しまり強、粘性あり、
　地山粒・軽石極微量

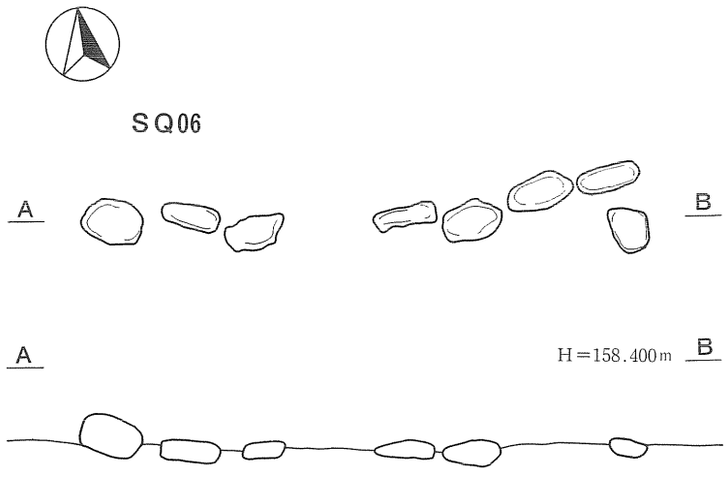


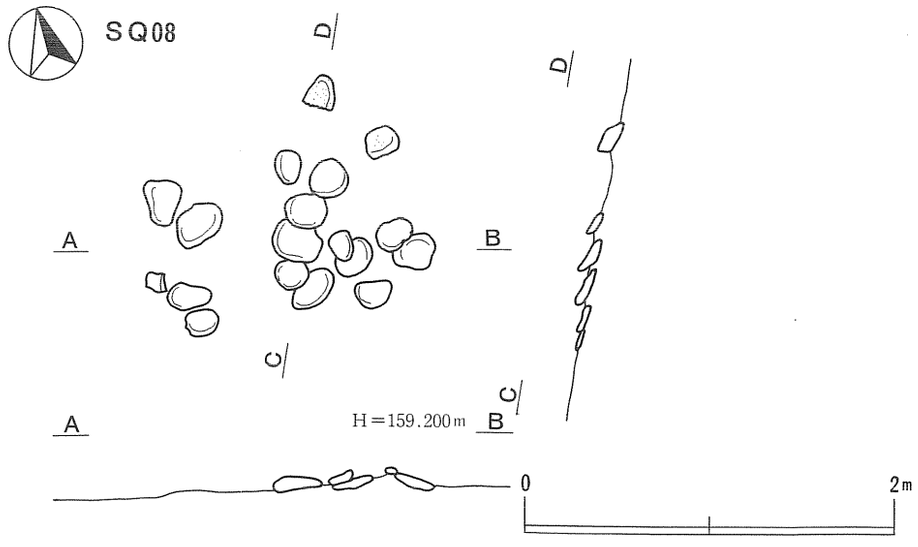


ＳＫＰ403
1　黒色土（10ＹＲ2/1）　しまりあり、粘性あり
　炭化物極微量
ＳＫＰ420
2　黒褐色土（10ＹＲ2/2・3/2）　しまりあり、粘
　性ややあり、軽石極微量
3　暗褐色土（10ＹＲ3/3）　しまりあり、粘性あ
　り
ＳＫ254
4　黒褐色土（10ＹＲ3/3）　しまり強、粘性あり
　炭化物径５㎝微量
5　黒褐色土（10ＹＲ3/2）　しまり強、粘性あり
　炭化物微量

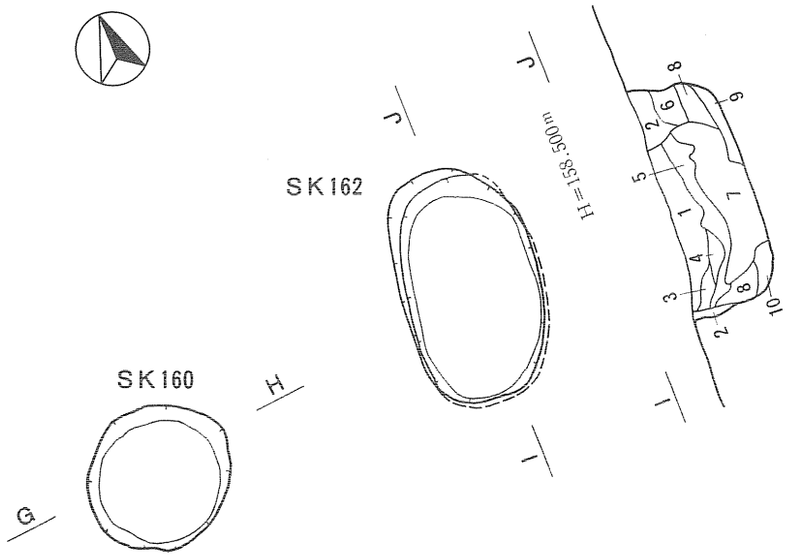




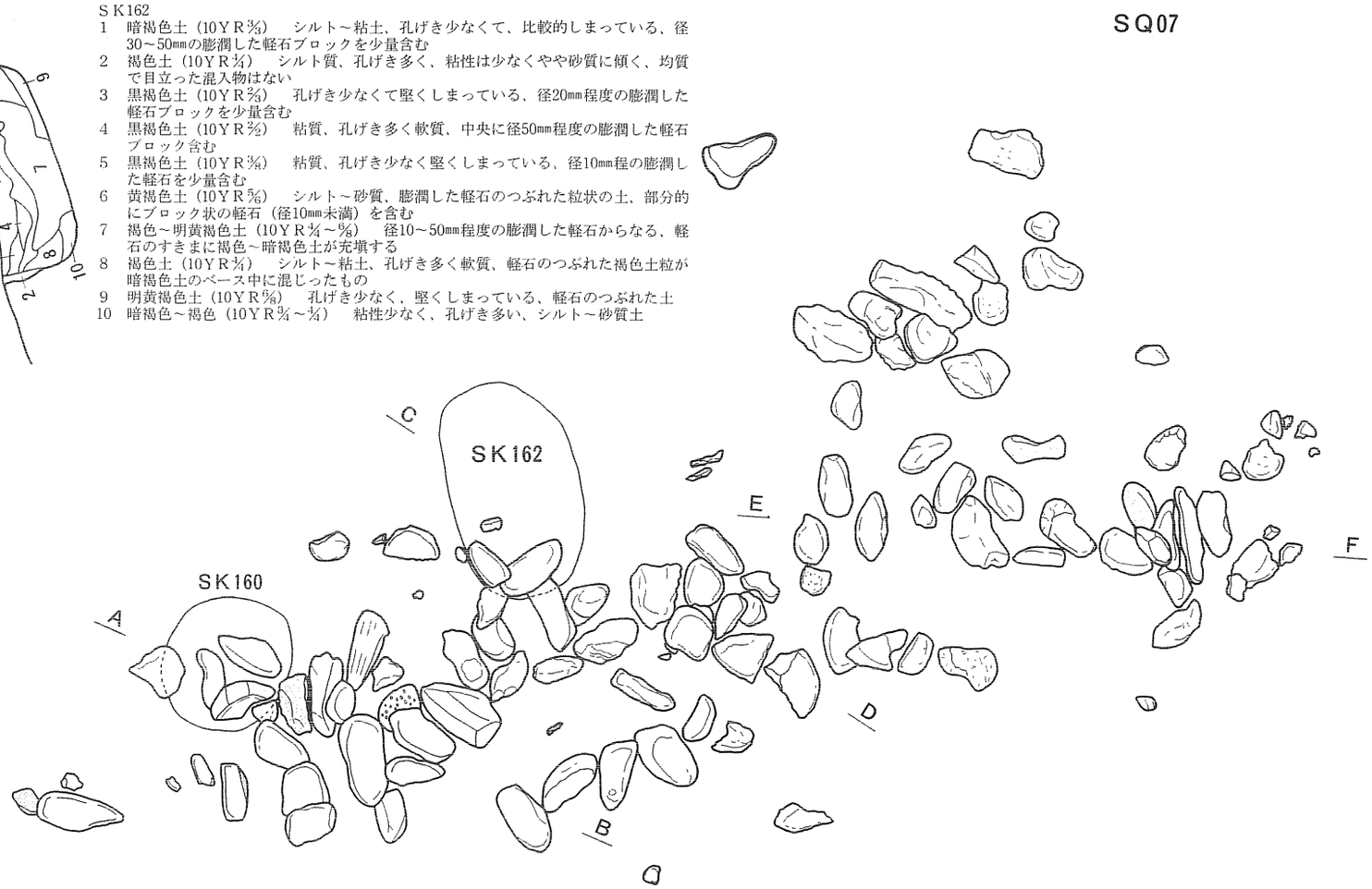


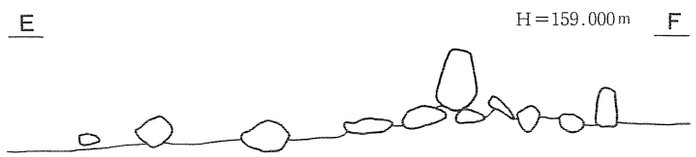


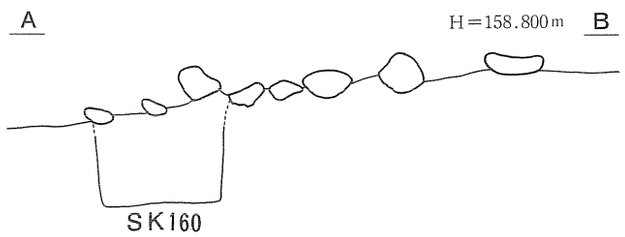
第６図　ＳＱ03・05・06・08配石遺構、ＳＫ253・255土坑実測図

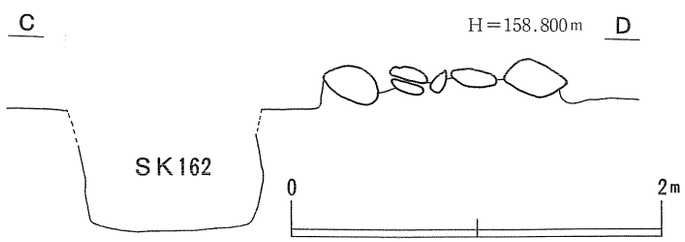


SK162
1　暗褐色土（10YR3/3）　シルト～粘土、孔げき少なくて、比較的しまっている、径30～50㎜の膨潤した軽石ブロックを少量含む
2　褐色土（10YR4/4）　シルト質、孔げき多く、粘性は少なくやや砂質に傾く、均質で目立った混入物はない
3　黒褐色土（10YR3/2）　孔げき少なくて堅くしまっている、径20㎜程度の膨潤した軽石ブロックを少量含む
4　黒褐色土（10YR3/2）　粘質、孔げき多く軟質、中央に径50㎜程度の膨潤した軽石ブロック含む
5　黒褐色土（10YR3/4）　粘質、孔げき少なく堅くしまっている、径10㎜程の膨潤した軽石を少量含む
6　黄褐色土（10YR5/6）　シルト～砂質、膨潤した軽石のつぶれた粒状の土、部分的にブロック状の軽石（径10㎜未満）を含む
7　褐色～明黄褐色土（10YR4/4～5/6）　径10～50㎜程度の膨潤した軽石からなる、軽石のすきまに褐色～暗褐色土が充填する
8　褐色土（10YR4/4）　シルト～粘土、孔げき多く軟質、軽石のつぶれた褐色土粒が暗褐色土のベース中に混じったもの
9　明黄褐色土（10YR6/6）　孔げき少なく、堅くしまっている、軽石のつぶれた土
10　暗褐色～褐色（10YR3/3～4/4）　粘性少なく、孔げき多い、シルト～砂質土



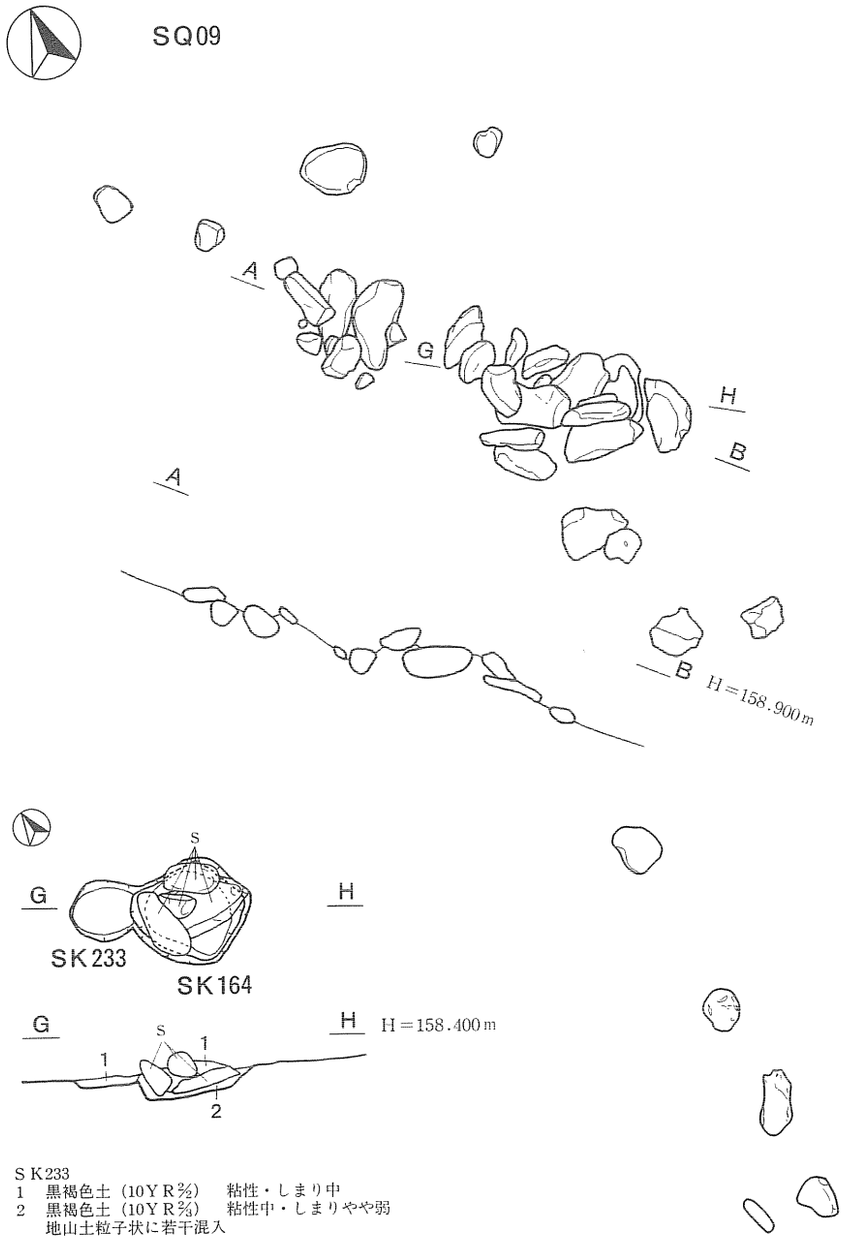




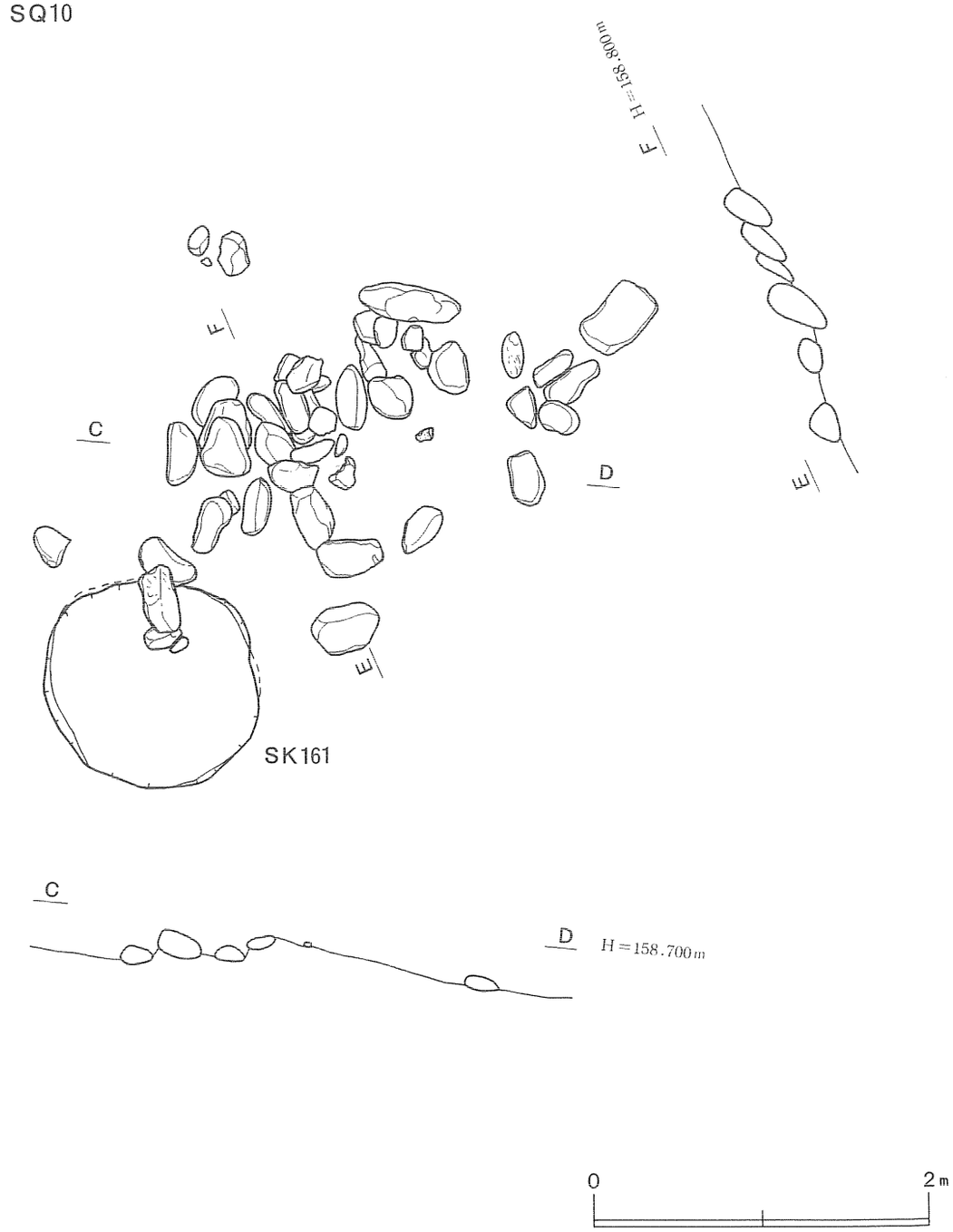


SK160
1　黒色土（10YR2/1）　粘土～シルト、堅くしまっている、黄褐色土ブロック少量含む
2　黒褐色土（10YR2/2）　粘土～シルト、堅くしまっている、黄褐色ブロック（軽石）40%程度含む
3　暗褐色土（10YR3/3）　粘土、きめ細く、均質
4　黒色土（10YR2/1）　粘土、やや孔げきあり、黄褐色ブロック（軽石）10%程度含む

第7図　SQ07配石遺構・SK160・162土坑実測図



SK233
1　黒褐色土（10YR2/2）　粘性・しまり中
2　黒褐色土（10YR2/3）　粘性中・しまりやや弱
　地山土粒子状に若干混入



第８図　ＳＱ09・10配石遺構、ＳＫ161・164・233土坑実測図

単位に遺構番号を付して述べることにした。本遺構は、ＬＲ46･47、ＬＱ46･47、ＬＰ46グリッドの第Ⅲ層中で検出された。石のひろがりは東西約８ｍ、南北約４ｍにおよび今回調査された配石遺構の中で最大の規模をもつ。さらに東側の調査区外にもひろがっていることが推定される。配されている石は大きいものでは60cmをこえるものが用いられている。本遺構の中での石の配列の規格性は希薄であるが東側調査境界近くに長さ35cmの石をほぼ直立させた状態で検出した。石を除去したあと地山面でＳＫ160･ＳＫ162土坑、柱穴様ピット１基を検出した。

遺物は、ＳＫ162土坑から土器底部破片が１点出土した。

ＳＱ08配石遺構（第６図、図版４・９）

ＬＱ45グリッド第Ⅲ層中で検出した。円形に近い偏平な石を多く配し、東西約1.5ｍ、南北約1.3ｍの規模である。図示できなかったが、石と石の間に礫もやや多く含まれていた。土坑等は伴っていなかった

ＳＱ09配石遺構（第８図、図版４・７・８・９）

ＬＴ47、48ＭＡ48グリッドの第Ⅲ層中で検出した。平安時代の竪穴住居跡ＳＩ03により南東側が破壊されている。Ａ―Ｂのエレベーションでわかるように、石を集中して配している部分が小山のように高くなっており、その下からＳＫ164･233土坑を検出した。ＳＫ164土坑埋土中に石がつめられた状況が確認された。遺物は出土しなかった。

ＳＱ10配石遺構（第８図、第52図、第75図１、第89図24～29、第90図１～20、第103図３・４、図版４・７・８・９・19・30・37・41）

ＬＳ47グリッド第Ⅲ層中で検出した。東側のＳＱ07、北西側にあるＳＱ09両配石遺構にはさまれるように位置する。ＳＱ09配石遺構同様平安時代の竪穴住居跡により破壊され、北西側は失われてしまっている。10cm前後から60cm大の石により構成されるが、規則性は希薄である。石の下からはＳＫ161土坑とＳＫＰ246柱穴様ピットが検出された。

遺物はＳＫ161土坑から出土した。第75図１は、深鉢形土器で埋土中に内面を上にして敷かれたような状況で出土した。ほぼ完全に復元することができた。底部からやや外反ぎみに立ち上がり、口縁部に近くなって最大径をもって内傾し口縁部に達する。口縁部はやや外に開き、波状を呈する。文様は地文にＲＬ縄文を施文した後、２ないし３本一組みの沈線で描かれ、区画された部分の地文を磨消している。文様帯の下は無文であるが、消し忘れた地文が一部に認められる。外面上部と内面に煤が付着している。法量は、口径が27.8cm、底径13.4cm、器高28.8cmである。焼成は良好で、色調は明黄褐色（10ＹＲ7/6）である。土製品では、鐸形土製品１点、環状の土製品１点、土器破片を三角形に加工したもの４点が出土している。鐸形土製品は完形で出土し、開口部径3.4cm、高さ5.4～5.5cmである。頂部には貫通孔はないが、穿孔しようとした痕跡が認められる。環状の土製品は、外面と側面に刺突列がみられ、外側から内側

に貫通孔が認められる。断面は方形を呈する。

（２）立石遺構

ここで立石遺構としたものは、柱穴様ピットを掘った後、縦長の自然石を中に据え土を埋め戻したもの。または柱穴様ピットにある程度土を埋め戻した後に同様の石を据えて、さらに土を埋め戻したものである。調査時に柱穴様ピットとして調査を行なったので、ここではＳＫＰの遺構略号をそのまま使用して述べたい。

ＳＫＰ35立石遺構（第９図、図版11）

ＭＡ48グリッド第Ⅲ層中で石を検出した後、第Ⅳ層上面で柱穴様の掘り込みを確認した。本遺構の北西隣にＳＢ13掘立柱建物跡柱穴とその一部を壊してＳＲ01埋設土器遺構が設置されている。本遺構は、径25cm、深さ42cmの柱穴様ピットを掘り、きめの細かい黒褐色土で10cm前後埋め戻したあとに石を据え、さらに黒褐色土を充填している。据えられた石は、長さ45cmの四角柱に近い形状の自然石である。掘り込みを確認した面から12cm上に石の頂部がある。

ＳＫＰ100立石遺構（第９図、図版11）

ＭＢ52グリッド第Ⅳ層中で石と黒褐色の楕円形プランを検出した。柱穴様ピットは径38×46cm、深さ54cmである。上部は余裕をもたせるようにやや広く掘り下げ、下部は石がちょうど入いるような幅で掘り下げている。掘り下げ終了後に縦長の石を垂直に据え、土を埋め戻している。柱穴様ピット下部に入っている土は、固くしまっていた。立石に用いられた石は、長さ60cmの偏平な自然石である。掘り込みを確認した面から６～７cm上に立石の頂部がある

ＳＫＰ325立石遺構（第９図、図版11）

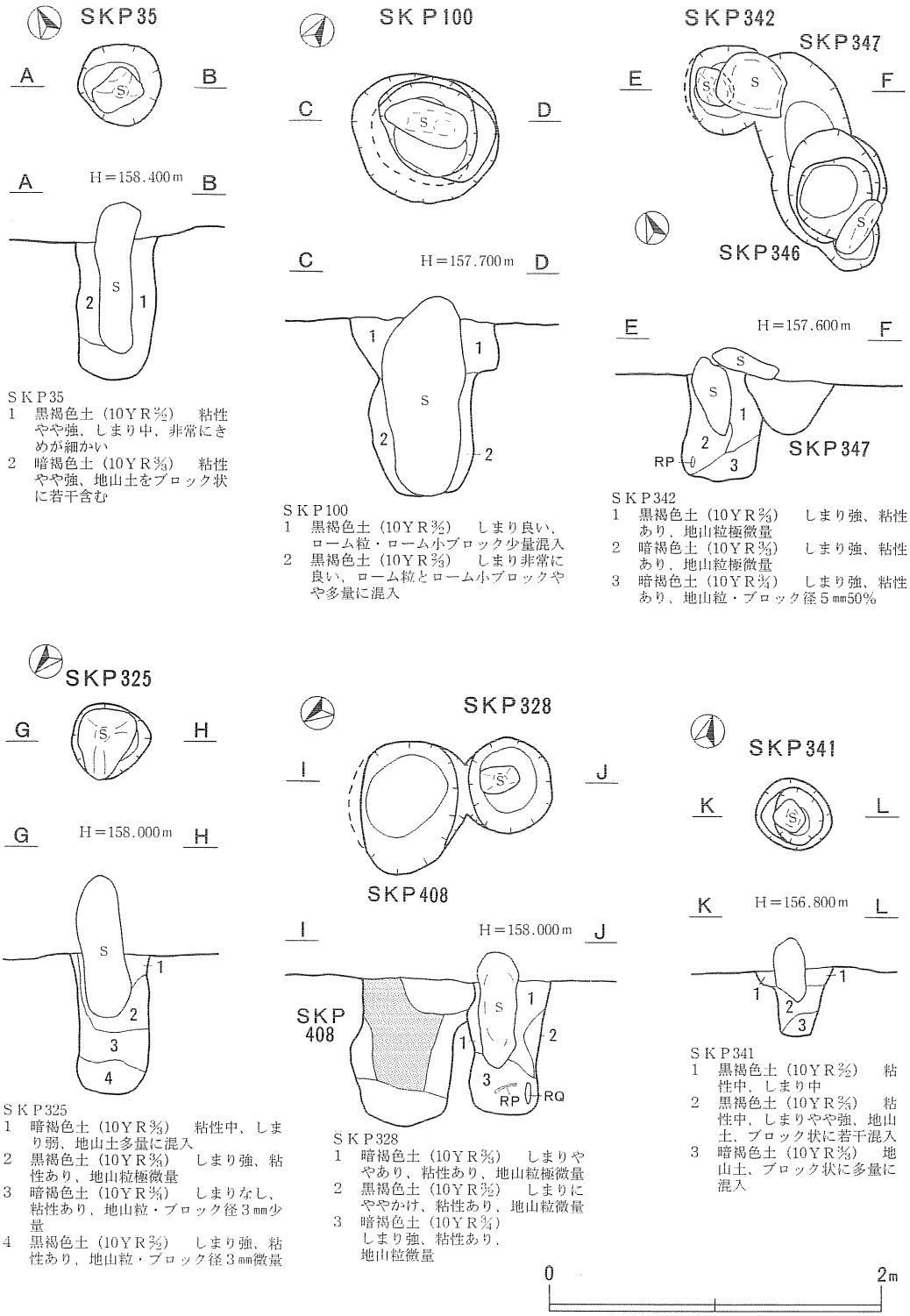
ＬＳ50グリッド第Ⅲ層中で石を検出し、第Ⅳ層中で円形プランの掘り込みを確認した。柱穴様ピットは、径24cm、深さ43cmで、半分以上黒褐色土又は暗褐色土で埋め戻した後に石を据えさらに埋め戻している。立石に用いられた石は、長さ43cmの三角柱様の自然石である。掘り込みを確認した面から、立石の頂部までは、23～24cmである。

ＳＫＰ328立石遺構（第９図、図版11）

ＬＱ49グリッド第Ⅳ層中で、円形プランと自然石を検出した。本遺構は、北側に位置するＳＫＰ408柱穴様ピットの一部を破壊している。径25×29cm、深さ41cmの柱穴様ピットを掘り、半分近くまで黒褐色土を埋め戻した後、縦長の自然石を据え、さらに土を埋め戻している。立石に用いられた石は、長さ35cmの自然石である。掘り込みを確認した面から、立石の頂部までは９cmである。

ＳＫＰ341立石遺構（第９図）

ＬＰ56グリッド第Ⅳ層中で検出した。調査区の北東隅に近く、環状に配置される掘立柱建物



SKP35
1　黒褐色土（10YR3/4）　粘性やや強、しまり中、非常にきめが細かい
2　暗褐色土（10YR3/3）　粘性やや強、地山土をブロック状に若干含む

SKP100
1　黒褐色土（10YR3/2）　しまり良い、ローム粒・ローム小ブロック少量混入
2　黒褐色土（10YR3/3）　しまり非常に良い、ローム粒とローム小ブロックやや多量に混入

SKP342
1　黒褐色土（10YR3/4）　しまり強、粘性あり、地山粒極微量
2　暗褐色土（10YR3/3）　しまり強、粘性あり、地山粒極微量
3　暗褐色土（10YR3/4）　しまり強、粘性あり、地山粒・ブロック径5㎜50%

SKP325
1　暗褐色土（10YR3/3）　粘性中、しまり弱、地山土多量に混入
2　黒褐色土（10YR3/4）　しまり強、粘性あり、地山粒極微量
3　暗褐色土（10YR3/4）　しまりなし、粘性あり、地山粒・ブロック径3㎜少量
4　黒褐色土（10YR3/2）　しまり強、粘性あり、地山粒・ブロック径3㎜微量

SKP328
1　暗褐色土（10YR3/3）　しまりやや弱、粘性あり、地山粒極微量
2　黒褐色土（10YR3/2）　しまりにややかけ、粘性あり、地山粒微量
3　暗褐色土（10YR3/4）　しまり強、粘性あり、地山粒微量

SKP341
1　黒褐色土（10YR3/2）　粘性中、しまり中
2　黒褐色土（10YR3/4）　粘性中、しまりやや強、地山土、ブロック状に若干混入
3　暗褐色土（10YR3/4）　地山土、ブロック状に多量に混入

第9図　SKP35・100・342・347・325・341立石遺構実測図

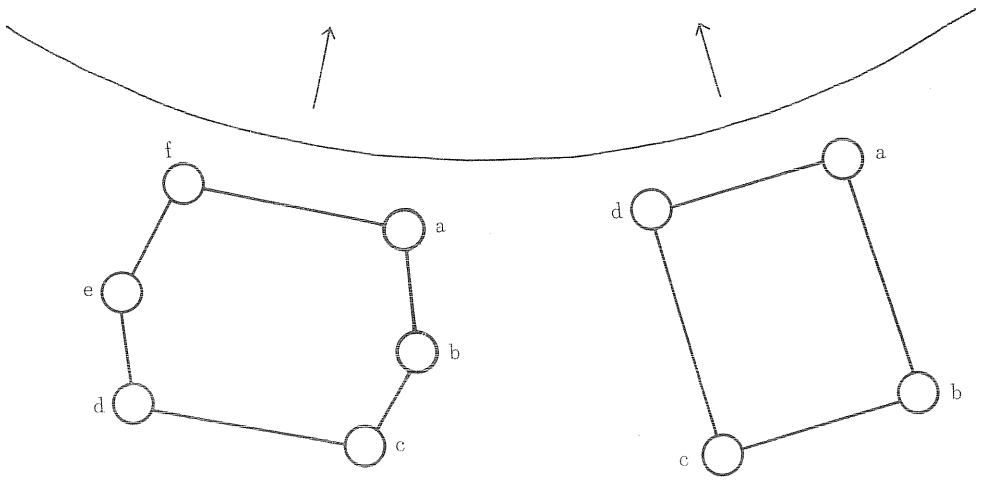
跡が途切れた空白部のやや北側に位置する。柱穴様ピットは径22～23cm、深さ20cmで、上部北西側がやや広く掘られている。半分以上土を埋め戻してから石を縦長に入れ、さらに土を入れて固定している。立石に用いられた石は、長さ19cmの自然石である。立石の頂部から柱穴様ピット確認面までは、10cm前後の差がある。

ＳＫＰ342立石遺構(第９図)

ＬＱ51グリッドとＬＱ52グリッドの境界線上に位置し、第Ⅴ層上面で検出した。柱穴様ピットは、径24～27cm、深さ32cmである。その東側上半は、他の柱穴様ピットによって破壊されている。立石は、黒褐色土と暗褐色土を埋め戻した後据えられ、さらに土を埋め戻して固定している。立石に用いられた石は、長さ24cmの自然石である。立石頂部から柱穴様ピット確認面までは、５cmの差がある。立石のそばにある比較的偏平な石は、本遺構に伴うものではない。

(３)掘立柱建物跡

調査区からは合計237基の柱穴様ピットが検出され、しかも帯状に半円を描くような配置がとられていた。これらの柱穴様ピットを位置とピット底面の標高から検討したところ、合計26棟の建物跡の存在が明らかになった。建物跡は、４本ないし６本の柱穴をもち、環状に配置されていたことが明らかになった。柱穴は、掘り方をもつものが多い。しかも、建物跡には竪穴住居跡にみられるような掘り込みは観察されず、平地式と推定された。このため、説明に当たっては掘立柱建物跡の語を用いることとした。また、建物跡柱穴の呼称としてアルファベット小文字を用いることとし、環の中心に向かって右の柱穴から時計回りにａ～ｆの文字を便宜上当てることにした。



ＳＢ01掘立柱建物跡(第10･12図、図版５･12)

ＬＲ55･56、ＬＳ55･56グリッド地山漸移層で検出した。建物跡のなかでＳＢ02と共に最も北に位置し、北から入っている沢が約４ｍに迫っている。地山は、南から北へゆっくり傾斜している。６本の柱から構成されｂとｅの柱は、ａとｃ、ｄとｆをそれぞれ結ぶラインより0.5～0.55ｍ外に位置する。ｆ―ａ間2.92ｍ、ｆ―ｄ間3.1ｍ、ａ―ｃ間3.33ｍである。柱で囲まれた範囲の面積は10.3㎡で、約６畳余りの広さに匹敵する。柱穴の埋土は、黒褐色又は暗褐色土が主体をなし、炭化物を含む。

ＳＢ02掘立柱建物跡(第10･12図、図版５)

位置的には、ＳＢ01掘立柱建物跡と同じであるが、建物は少し東側に寄っている。４本の柱からなり、ｄ―ａ間3.2ｍ、ｄ―ｃ間3.25ｍである。柱で囲まれた範囲の面積は約10.4㎡で、約６畳余りの広さになる。柱穴の埋土は、しまりに欠け粘土性を有する黒褐色又は暗褐色土が主体となす。

ＳＢ03掘立柱建物跡(第11･13図、図版５･12)

ＬＳ54･55･56、ＬＴ54･55グリッド地山漸移層で柱穴プランを検出した。ＳＢ01、02掘立柱建物跡の西隣に位置する。６本の柱から成り、ｆ―ａ間2.97ｍ、ｆ―ｄ間3.17ｍである。柱で囲まれた範囲の面積は、約10.8㎡で6.5畳余の広さである。柱穴の土層断面図Ａ―Ａ'をみるＳＫＰ186がＳＫＰ185に切られていることがわかる。埋土は、黒色又は黒褐色土が多く、しまりに欠ける。

ＳＢ04掘立柱建物跡(第11･13図、図版５)

ＳＢ03掘立建物跡とほぼ同じ位置にあり、柱穴が全体に東に寄っている。本建物跡の柱穴(ＳＫＰ185)がＳＢ03の柱穴(ＳＫＰ186)を一部壊していることから、本建物跡があとから建てられたことがわかる。４本の柱からなり、柱の間かくは３ｍ前後である。柱で囲まれた範囲の面積は約10㎡で、６畳余りの広さである。

ＳＢ05掘立柱建物跡(第14図、図版５･15)

ＭＡ54･55、ＭＢ54･55グリッド地山上面で柱穴プランを検出した。６本の柱穴から成り、ｆ―ａ間３ｍ、ｆ―ｄ間2.95ｍである。ｆ―ｄ間よりａ―ｃ間が広く、やや南西に開く。柱で囲まれた範囲の面積は約10.32㎡で、6.2畳余りの広さである。柱穴の埋土は黒色又は黒褐色土を主体とし、焼土粒と炭化物を含むものがある。柱に囲まれた中央付近に焼土遺構(ＳＮ02)が位置するが、本遺構に伴うかどうかは不明である。

ＳＢ06掘立柱建物跡(第15図、図版５)

ＭＡ52･53、ＭＢ52･53グリッド地山面で柱穴プランを検出した。４本の柱穴から成り、柱と柱の間かくは2.4～2.6ｍである。柱に囲まれた範囲の面積は、約6.4㎡で、約４畳分に相当す

る。柱穴の埋土は、暗褐色、黒褐色土を主体とし、柱穴b（ＳＫＰ78）には炭化物の混入が目立つ。ｃはＳＫＰ407によって切られている。ｄはＳＫＦ01、ＳＫ102と重複しているが、新旧関係は不明である。

ＳＢ07掘立柱建物跡（第16図、図版５）

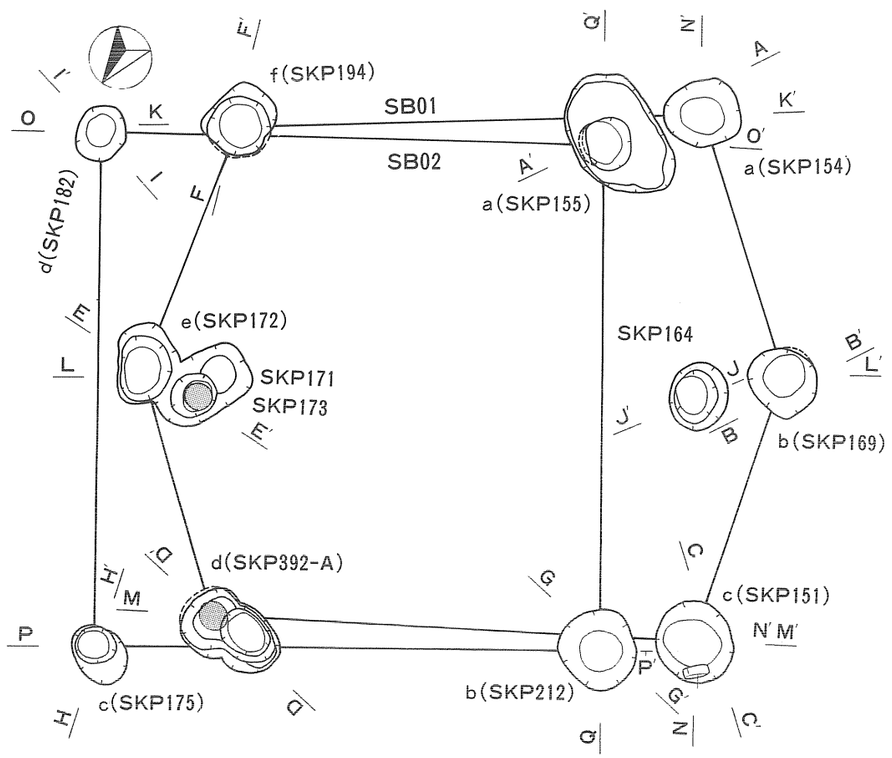
ＭＡ52･53、ＭＢ52･53グリッド地山面で、柱穴プランを検出した。ＳＢ06掘立柱建物跡と重複しているが、柱穴どうしの切り合いがないので新旧関係は明らかでない。６本の柱から成り、ｆ―ａ間1.93ｍ、ｅ―ｂ間2.57ｍ、ａ―ｃ間1.9ｍ、ｆ―ｄ2.1ｍである。柱に囲まれた範囲の面積は、約4.5㎡で、2.7畳に相当する。柱穴ｂは、ＳＫ72と切り合っている。ＳＫ72のプランを確認した時に柱穴様のプランが見えなかったことから、ＳＫ72のほうが新しいものと推定される。柱穴の埋土は、ブロック状の地山を含む黒褐色、暗褐色土が主体である。

ＳＢ08掘立柱建物跡（第17図、図版５･12）

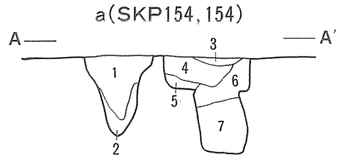
ＭＡ52、ＭＢ50･51･52、ＭＣ51･52グリッド地山面で柱穴プランを検出した。耕作によって柱穴ｄ、ｅ、ｆの上部は破壊されおり、特にｄについて著しかった。６本の柱から構成され、ｆ―ａ間4.5ｍ、ｅ―ｂ間約5.43ｍ、ｆ―ｄ間約4.05ｍ、ａ―ｃ間約3.97ｍである。柱に囲まれた範囲の面積は、19.38㎡で、約12畳に相当する。柱穴は掘り方と有し、柱痕の明確なものがある。深さは1.05～1.25ｍとしっかりしている。また、ａ、ｃ、ｆには浅い掘り込みが伴いａ、ｃにはついては南西側に、ｆについては北東側にみられる。ｄとｅについては、前述のように上部が破壊されているため明らかでないが、ｄには浅い掘り込みが伴っていた可能性がある。ｅについては、ｂとの関係上浅い掘り込みはなかったものと推定される。柱穴の埋土は、地山上を含む黒褐色土が主体であるが、柱痕部分の埋土は他に比較して地山土の混入割合が減少傾向にあることが窺われる。

ＳＢ09掘立柱建物跡（第18図、図版５･13）

ＭＢ51、ＭＣ51･52グリッド地山面で柱穴プランを検出した。ＳＢ08掘立柱建物跡と重複しているが、新旧関係は不明である。耕作により柱穴ｃの上部は破壊されていた。６本の柱から構成され、柱間の距離はｆ―ａ2.16ｍ、ｅ―ｂ2.92ｍ、ｆ―ｄ2.64ｍ、ａ―ｂ2.92ｍ、ｆ―ｄ2.64ｍ、ａ―ｃ2.92ｍである。ｆ―ｄよりａ―ｃが広く、南南西にやや開く。柱穴ｂは、調査終了後にその存在が明らかになったもので、地山上面での径が約65㎝深さ57㎝と推定される。埋土上部に白色粘土が確認された。柱に囲まれた範囲の面積は、約7.04㎡で、４畳余りの広さである。柱穴の埋土は、地山土のほか焼土粒、炭化物を含む黒褐色または黄褐色土がみられる。ひとつの柱穴に柱痕が複数あるもの、掘り込みが重複しているものがあり、何回か補修または建て替えが行なわれたことが推定される。

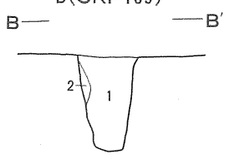


a(SKP154,154)



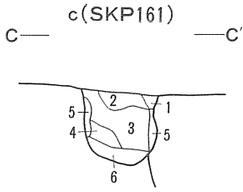
SB01（SKP154）
1　黒褐色土（10YR3/4）　多量のローム ブロック（中～小）と少量の炭化物混入、しまりやや悪い
2　黒褐色土（10YR3/2）　ローム粒少量含む、しまり悪い
SB02（SKP155）
3　にぶい黄褐色土（10YR4/3）　ローム小ブロック、炭化物少量混入
4　にぶい黄褐色土（10YR4/3）　ローム ブロック（中～小）少量混入
5　黒褐色土（10YR3/2）　ローム粒少量混入、しまりやや悪い
6　褐色土（10YR4/4）　ローム ブロック（中～小）多量に混入、しまり良い
7　黒褐色土（10YR2/3）　少量のローム中ブロックと炭化物、やや多量のローム小ブロック混入、しまり良い

b(SKP169)



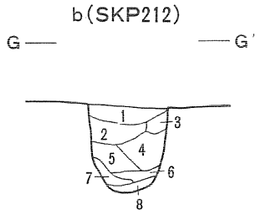
1　黒褐色土（10YR3/4）　しまり、粘性あり、地山粒微量
2　暗褐色土（10YR3/3）　しまり、粘性あり、地山粒少量

c(SKP161)



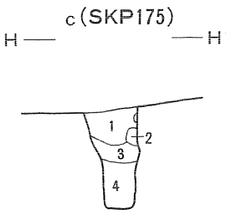
1　黒褐色土（10YR3/2）　しまりあり、粘性なし、焼土、地山粒微量
2　黒褐色土（10YR3/4）　しまり、粘性あり、地山粒、炭化物微量
3　黒褐色土（10YR3/2）　しまりややあり粘性あり、地山粒・ブロック50%
4　黒褐色土（10YR3/2）　しまりにやや欠け、粘性あり、地山粒微量
5　褐色土（10YR4/4）　しまり、粘性あり地山土80%
6　黒褐色土（10YR3/2）　しまり、粘性あり、地山粒、炭化物微量

b(SKP212)



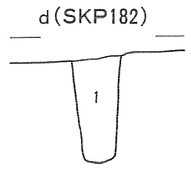
1　黒褐色土（10YR3/3）　しまりにやや欠け、粘性あり、地山粒・炭化物極微量
2　暗褐色土（10YR3/4）　しまりなし地山粒・炭化物微量
3　暗褐色土（10YR3/3）　しまり強、粘性あり、地山土少量、炭化物微量
4　黒褐色土（10YR3/2）　しまりややあり、粘性あり、地山ブロック径5mm～1cm微量、炭化物微量
5　黒褐色土（10YR2/3）　しまり・粘性あり、地山ブロック径5mm～1cm 30%
6　黄褐色土（10YR5/6）　地山土・しまり強・粘性あり
7　黒色土（10YR2/1）　しまり強・粘性あり・地山ブロック径2～3cm少量
8　褐色土（10YR4/6）　地山土と7の混じり、地山土70%

c(SKP175)



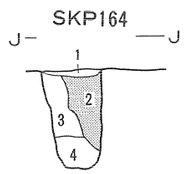
1　黒褐色土（10YR3/2）　しまりなし、粘性あり、（10YR3/3と混じり、炭化物微量
2　暗褐色土（10YR3/3）　しまりなし、粘性あり、地山粒と混じり
3　黒褐色土（10YR3/2）　しまりなし、粘性あり、地山粒極微量
4　黒色土（10YR2/1）　しまりなし粘性あり

d(SKP182)



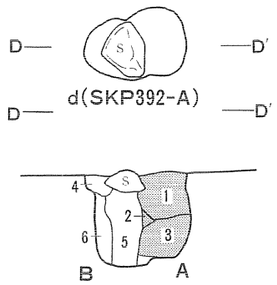
1　黒褐色土（10YR3/3）　しまりにやや欠け、粘性あり、全体的に地山粒少量

SKP164



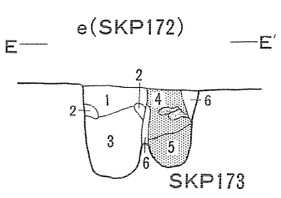
1　黒褐色土（10YR3/2）　しまりややあり、粘性あり、地山粒極微量
2　黒褐色土（10YR3/4）　しまりややあり、粘性あり、地山粒、炭化物微量　焼土粒極微量
3　黒褐色土（10YR3/2）　しまり強、粘性あり、地山粒、ブロック多量50%　炭化物微量
4　黒褐色土（10YR3/2）　しまりにやや欠け、粘性あり、地山粒少量

d(SKP392-A)



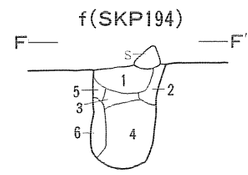
1　黒褐色土（10YR3/3）　しまりなし　粘性あり、地山粒微量、炭化物少量
2　黒褐色土（10YR3/4）　しまりに欠け、粘性あり、地山粒多量、1と5の混じり
3　黒褐色土（10YR3/2）　しまりなし　粘性あり、地山粒微量
4　黒褐色土（10YR3/2）　しまりにやや欠け粘性あり、地山粒極微量
5　暗褐色土（10YR3/4）　地山粒、ブロック多量60%、しまり強、粘性あり
6　黒褐色土（10YR3/3）　しまりなし　粘性あり、地山粒少量

e(SKP172)



（SKP172）
1　黒褐色土（10YR3/2）　しまりややあり、粘性あり、地山粒微量、炭化物極微量
2　暗褐色土（10YR3/4）　しまりなし　粘性あり、1と地山土の混じり、崩壊土
3　黒褐色土（10YR3/2）　しまりに欠け、粘性あり、地山粒微量
（SKP173）
4　黒色土（10YR2/1）　しまりにやや欠け、粘性あり、地山土極微量
5　黒色土（10YR2/1）　しまり、粘性あり、地山ブロック30%
6　黄褐色土（10YR5/6）　地山土柱穴埋土

f(SKP194)



1　黒褐色土（10YR3/2）　しまりに欠け、粘性あり、地山粒、炭化物極微量
2　暗褐色土（10YR3/4）　しまりややあり、粘性あり、1と地山土の混じり
3　黒褐色土（10YR3/2）　しまりなし　粘性あり、1と5の混じり
4　黒褐色土（10YR3/2）　しまりに欠け、粘性あり、地山粒、ブロック径1cm全体的に少量
5　暗褐色土（10YR3/3）　しまりややあり、粘性あり
6　黒褐色土（10YR3/2）　しまりなし　粘性あり、地山土と4の混じり

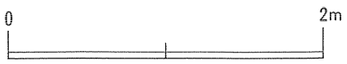
SB01

Pit番号	開口部径(cm)	底面径(cm)	高さ(cm)	底面標高(m)
154	50×45	27×23	53	156.43
169	45×39	28×25	63	156.27
161	54×48	37×30	45	156.30
392A	43	29	55	156.15
172	52×37	30×22	60	156.25
194	45×38	26	64	156.33

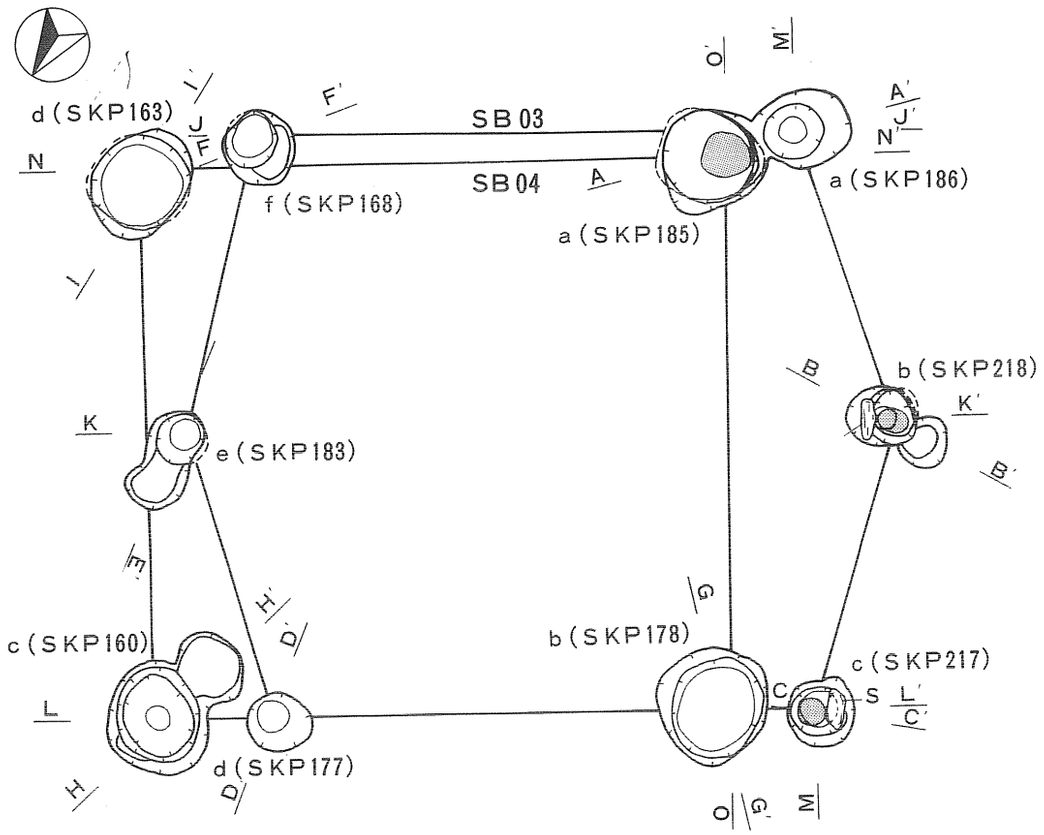
SB02

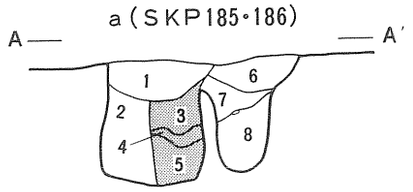
Pit番号	開口部径(cm)	底面径(cm)	深さ(cm)	底面標高(m)
155	33×27	25	61	156.37
212	50	26	61	156.15
175	41×32	20	63	156.03
182	35×32	21×18	69	156.27

水糸レベル 157.100m



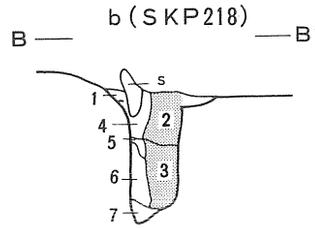
第10図　SB01・02掘立柱建物跡実測図(1)



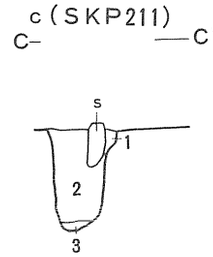


SB04（SKP185）
1　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒全体に混入し、ローム小ブロック少量混入しまり良い
2　黒褐色土（10YR2/2）　ローム小ブロック全体に均一に混入、しまりやや悪い
3　黒褐色土（10YR3/2）　ローム小ブロックやや多く混入、しまり良い
4　暗褐色土（10YR3/3）　ローム粒やや多く混入、しまり良い
5　黒色土（10YR2/1）　ロームブロック（中～小）混入、しまり良い

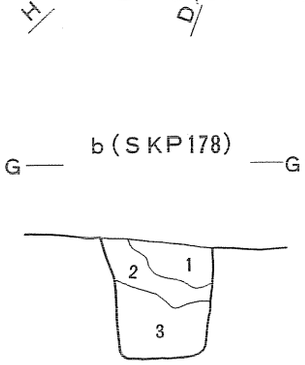
SB03（SKP186）
6　黒褐色土（10YR3/1）　多量のローム粒と少量の炭化物混入、しまり良い
7　黒色土（10YR2/1）　ローム粒少量混入、しまり良い
8　黒色土（10YR2/1）　ローム小ブロックと炭化物少量混入、しまりやや悪い



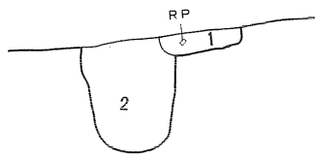
1　黒褐色土（10YR2/2）　しまりややあり、粘性あり
2　黒褐色土（10YR2/2）　しまりにややかけ・粘性あり、地山粒・炭化物微量
3　黒褐色土（10YR2/2）　しまりにやや欠け、粘性あり、地山粒・ブロック径5㎜少量、炭化物微量
4　黒褐色土（10YR3/2）　しまり・粘性あり・地山粒微量2より多い
5　黒褐色土（10YR2/2）　しまり・粘性あり・地山ブロック径3cm
6　黒褐色土（10YR3/2）　しまり強、地山粒・ブロック径5㎜少量
7　褐色土（10YR4/4）　地山土50%しまり強、張土



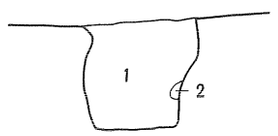
1　暗褐色土（10YR3/4）しまりややあり、粘性あり
2　黒色土（10YR2/1）しまりにやや欠け、粘性あり、地山粒・ブロック径1～3cm微量
3　黒褐色土（10YR2/2）地山土50%、張土、しまり強、地山ブロック径5㎜～1cm少量



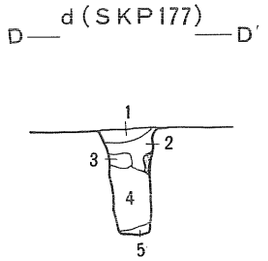
1　黒褐色土（10YR2/2）　しまり・粘性あり・地山粒・焼土粒微量
2　黒褐色土（10YR2/2）　しまりにやや欠け・粘性あり地山粒極微量
3　黒色土（10YR2/1）　しまりなし、粘性あり・地山粒ブロック径1cm少量



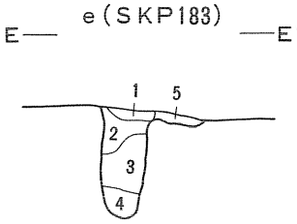
1　暗褐色土（10YR3/3）　しまり・粘性あり・軽石微量
2　黒褐色土（10YR2/2）　しまりにやや欠け・粘性あり・地山粒微量軽石極微量



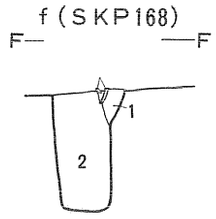
1　黒褐色土（10YR2/2）　黒褐色土（10YR2/33/2）が部分的に、にじんだ様相を呈する地山粒・ブロック径1～3cm全体的・少量・炭化物微量
2　黄褐色土（10YR5/8）



1　黒褐色土（10YR3/2）　しまり・粘性あり・地山粒極微量
2　黒褐色土（10YR2/3）　しまりにやや欠け、粘性あり、地山粒極微量
3　黒褐色土（10YR3/2）を基本とし10YR（3/4）と混じり、しまりなし、粘性あり、地山粒多量
4　黒褐色土（10YR2/2）　しまりなし、粘性あり、地山粒少量
5　黄褐色土（10YR5/8）　10YR(2/2)がブロック状に混入、張土



1　黒褐色土（10YR2/2）　しまり・粘性あり、地山粒極微量
2　黒褐色土（10YR2/3）　しまりにや欠け・粘性あり、地山粒微量
3　黒色土（10YR2/1）　しまりにやや欠け、粘性あり
4　黒色土（10YR2/1）　しまり強・粘性あり、地山ブロック径5cm混入
5　黒褐色土（10YR2/2）



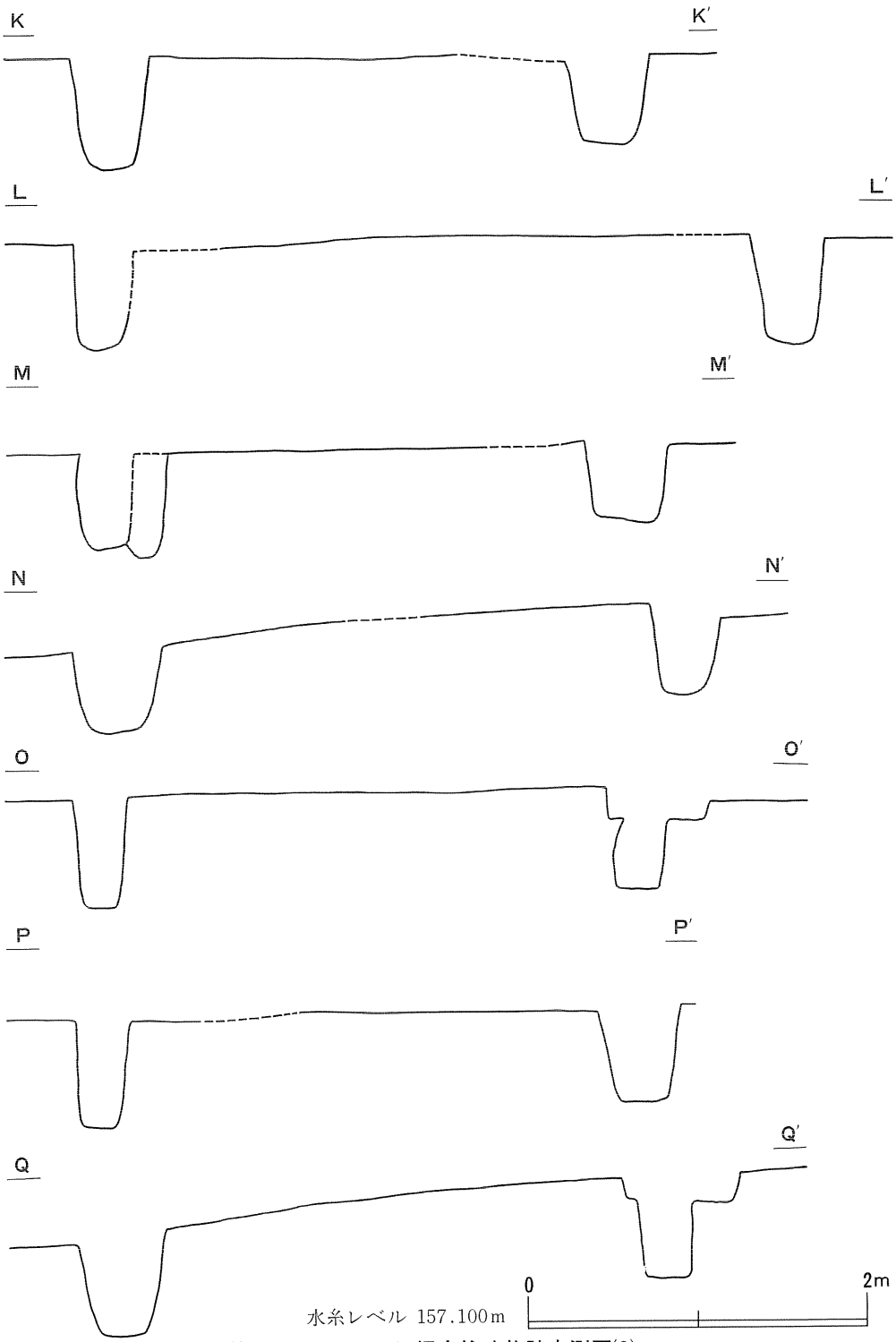
1　黒褐色土（10YR3/2）　しまりなし、粘性あり地山粒・炭化物極微量
2　黒褐色土（10YR2/2）　しまり・粘性なし、地山粒微量

SB03	開口部径(cm)				SB04				
PiT番号	50×43	底面径(cm)	深さ(cm)	底面標高(m)	PiT番号	開口部径(cm)	底面径(cm)	深さ(cm)	底面標高(m)
188	60×34	32	68	156.45	185	55	51	69	156.43
218		26	68	156.22	178	60	47×40	62	156.12
217	37	27	53	156.18	160	86×60	46×36	60	156.06
177	36	17	60	156.11	163	64×50	45	54	156.34
183	58×30	16	58	156.25					
168	40	24×20	66	156.27					

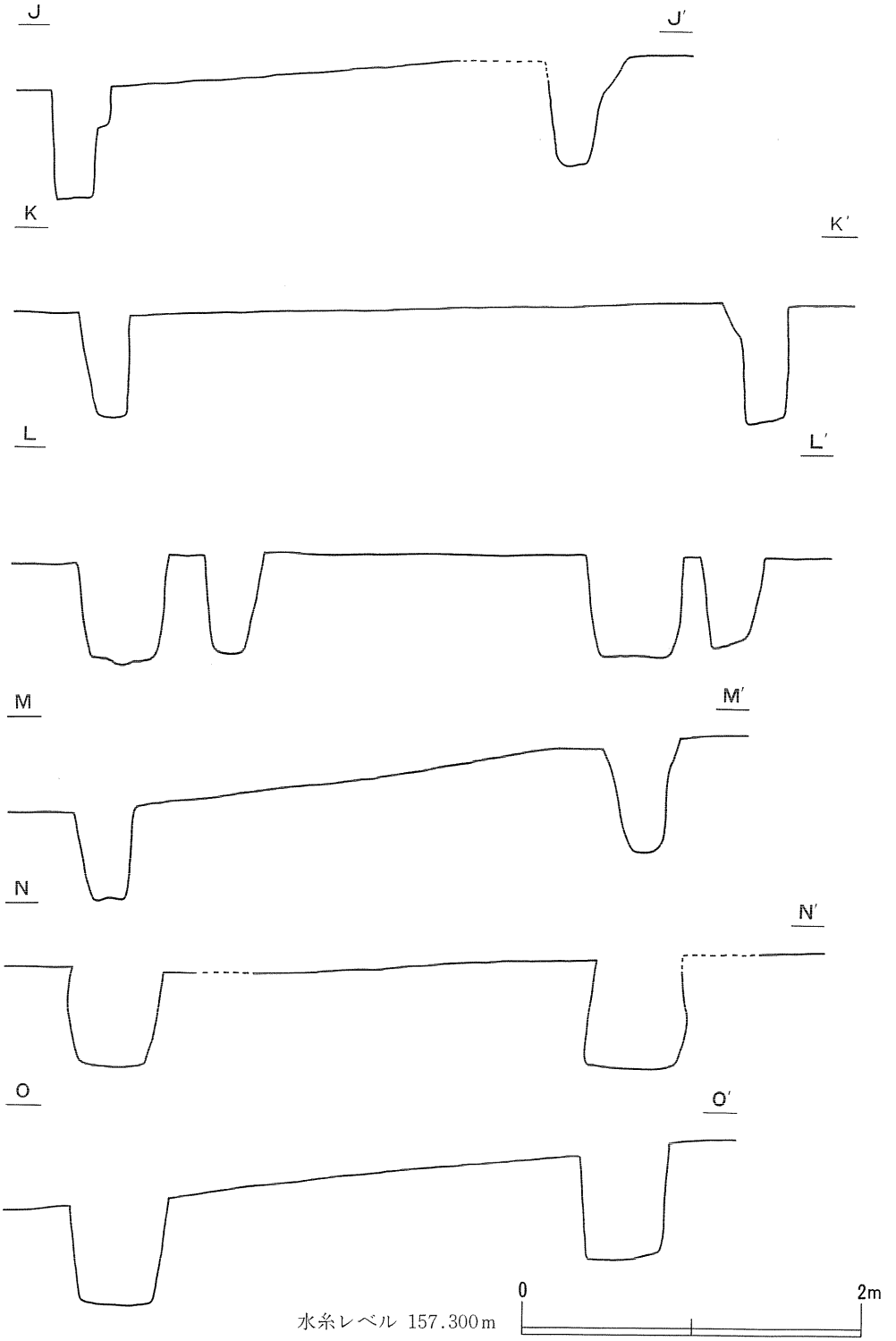
水糸レベル 157.200m

0　2m

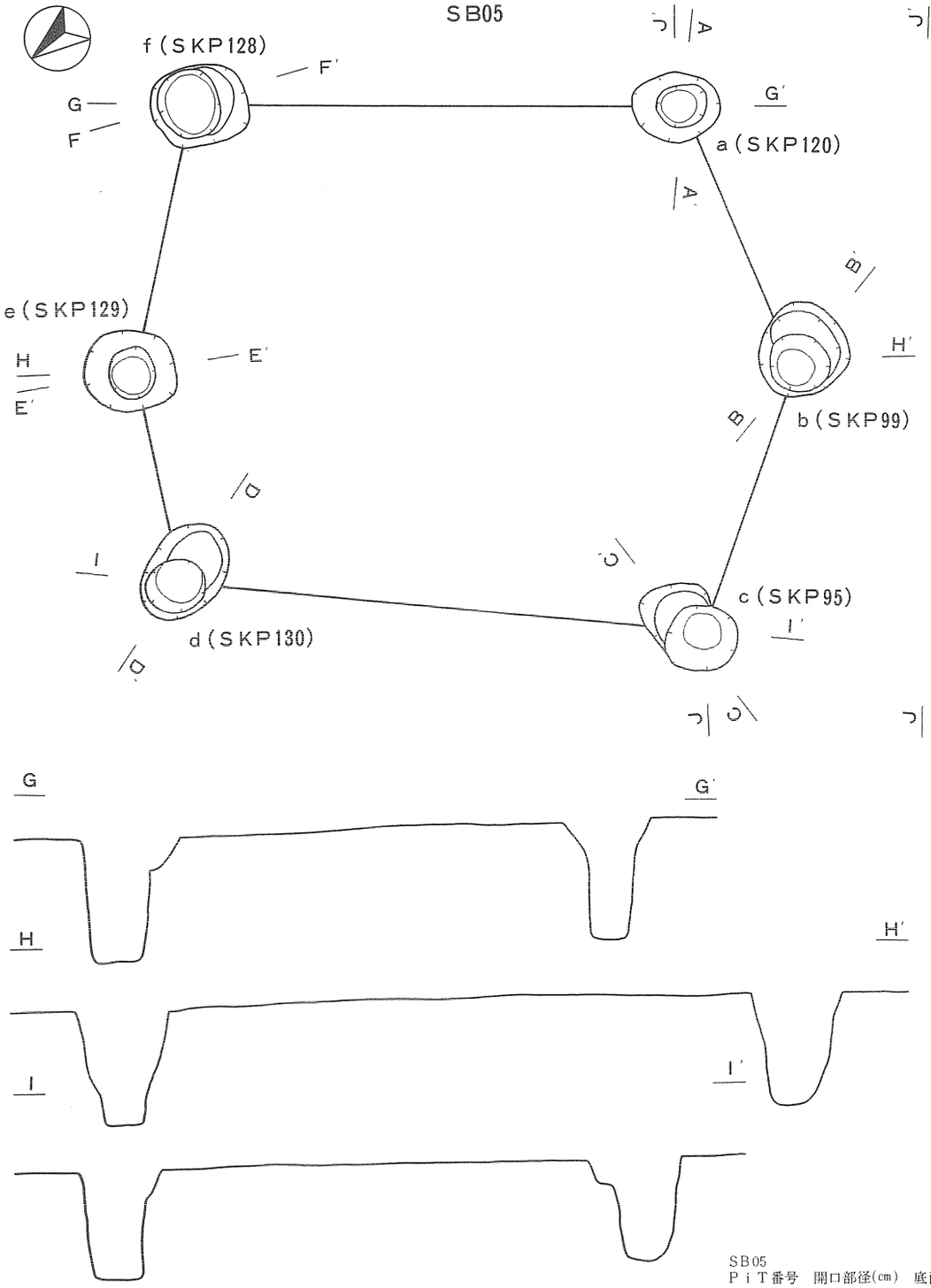
第11図　SB03・04掘立柱建物跡実測図(1)



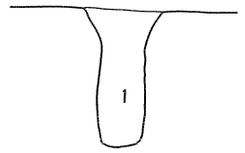
第12図　SB01・02掘立柱建物跡実測図(2)



第13図　SB03・04掘立柱建物跡実測図(2)

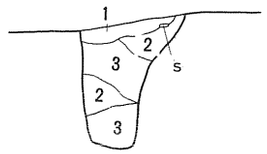


A　a (SKP120)　A′



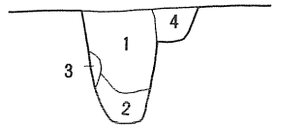
1　黒褐色土（10Y R3/2）　しまり良・ローム粒・ローム小ブロック・炭化物少量混入

B　b (SKP99)　B′



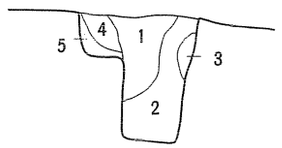
1　黒色土（10Y R2/1）　ローム小ブロック・炭化物・少量の焼土粒混入
2　黒色土（10Y R2/1）　しまりなし、ローム粒・ローム小ブロックやや多量に混入
3　黒色土（10Y R2/1）　しまり良、ロームブロック（大～小）やや多量に混入

C　c (SKP95)　C′



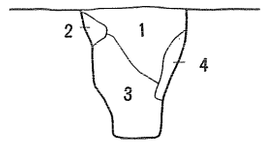
1　黒褐色土（10Y R2/2）　しまり良、ロームブロック（中～小）・小量の炭化物混入
2　黒色土（10Y R2/1）　しまりやや悪い、ローム粒少量混入
3　黄褐色土（10Y R3/1）　少量のローム粒・炭化物を含む

D　d (SKP130)　D′



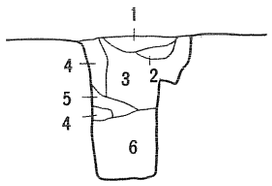
1　黒褐色土（10Y R2/1）　やや多量の炭化・小量のロームブロック（中～小）混入
2　黒褐色土（10Y R2/3）　しまり良、ロームブロック（大～中）やや多量に混入
3　黄褐色土（10Y R5/6）　しまり良、ローム中ブロック多量に混入
4　黒褐色土（10Y R3/2）　少量の焼き粒・炭化物・ローム中ブロックを含む
5　黒褐色土（10Y R3/2）　ローム大ブロック少量混入

E　e (SKP129)　E′



1　黒褐色土（10Y R2/2）　多量のローム小ブロックと少量の炭化物を含む
2　にぶい黄褐色土（10Y R4/3）　しまり悪い、ローム粒多量混入
3　黒色土（10Y R2/1）　しまり良い、ローム中ブロック少量混入
4　黒色土（10Y R2/1）　しまりやや悪い、ローム粒少量混入

F′　f (SKP128)　F′



1　黒褐色土（10Y R2/2）　やや多量のローム粒・少量の焼土粒・ローム中ブロック混入
2　黒褐色土（10Y R2/2）　しまり良い、ローム小ブロック少量混入
3　黒褐色土（10Y R3/2）　ローム小ブロック・少量の焼土粒炭化物混入
4　黄橙色土（10Y R7/8）　しまりやや悪い・ローム粒・ロームブロック（中～小）多量混入
5　黒褐色土（10Y R2/3）　ローム粒子全体に均一に混入
6　黒褐色土（10Y R2/2）　しまり良、ロームブロック（大～中）少量混入

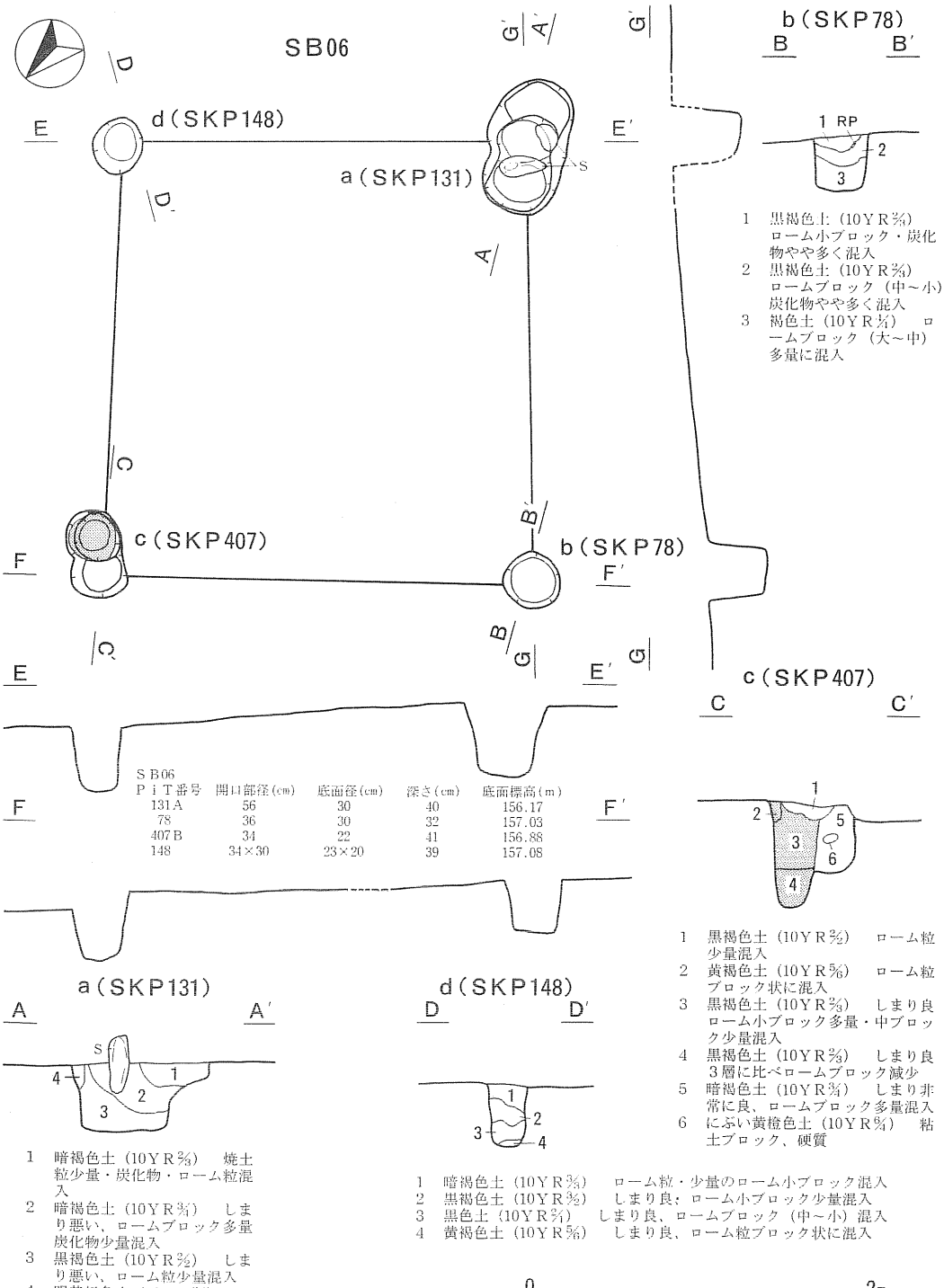
水糸レベル 157.100m

0　2m

SB05

ＰｉＴ番号	開口部径(cm)	底面径(cm)	深さ(cm)	底面標高(m)
120	55×44	21	76	156.22
99	58×52	23	68	156.12
95	65×46	23	61	156.05
130	65×43	23	65	156.96
129	57	23	70	156.02
128	59×50	37×30	77	156.08

第14図　SB05掘立柱建物跡実測図



第15図　SB06掘立柱建物跡実測図

ＳＢ10掘立柱建物跡(第19図、図版５)

ＭＣ50･51、ＭＤ50･51グリッド地山上面で柱穴がプランを検出した。建物跡の中で最も西寄に位置する。柱穴ｂは、ＳＫＩ01竪穴遺構に切られていることから、本建物跡は、ＳＫＩ01竪穴遺構より古いものと推定される。柱は６本から構成され、柱間の距離は、ｆ―ａ約2.86ｍ、ｅ―ｂ約3.38ｍ、ｆ―ｄ約3.76ｍである。柱穴ｂとｅの張り出しがａ―ｃ、ｆ―ｄの距離の割に弱い。柱に囲まれた範囲の面積は、約11.68㎡で７畳余りの広さである。柱穴の埋土は、地山土、炭化物を含む黒褐色又は黒色土が主体をなす。柱穴ａの断面(Ａ―Ａ')から本建物跡の柱の本来の太さが推定されるものと考える。

ＳＢ11掘立建物跡(第20図、図版５･13)

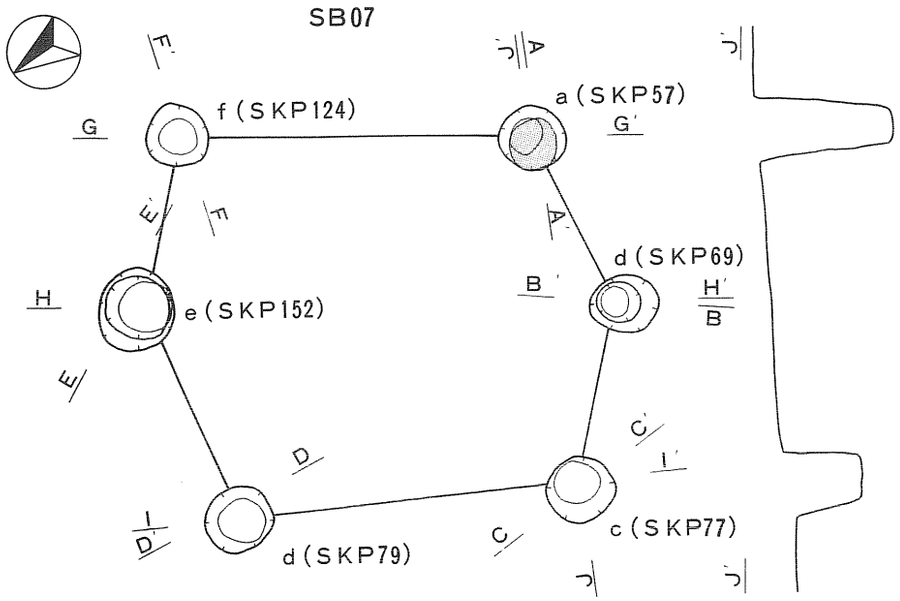
ＭＡ49、ＭＢ48･49･50、ＭＣ48･49･50グリッド第Ⅴ層上面で柱穴プランを検出した。６本の柱から構成され、柱間の距離はｆ―ａ約3.8ｍ、ｅ―ｂ約5.04ｍ、ｆ―ｄ約3.76ｍである。柱で囲まれた範囲の面積は約16.33㎡で、10畳の広さに相当する。柱穴は、柱痕の明瞭なものがあり、地山面からの深さは１～1.12ｍと深い。また柱穴ｄを除くすべての柱穴の浅い掘り込みが伴う。ただしｄの上部については、撹乱により変形をうけていることから、浅い掘り込みが伴っていた可能性はある。浅い掘り込みの位置は一定していない。柱穴ｆは、その北東側の一部をＳＫ48土坑によって破壊されている。埋土は、黒褐色土を主体とするが、浅い掘り込み部分の埋土は、黄褐色又は褐色の地山ブロック土を含む土がみられる。

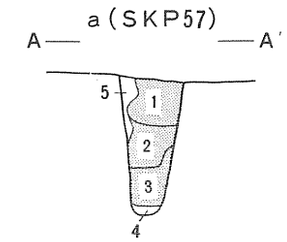
ＳＢ12掘立柱建物跡(第21図、図版５･13)

ＭＢ49･50、ＭＣ49･50グリッド第Ⅳ層上面で柱穴プランを検出した。ＳＢ11掘立柱建物跡と重複しているが、新旧関係は不明である。６本の柱から構成され、柱間の距離は、ｆ―ａ約2.32ｍ、ｅ―ｂ約2.91ｍ、ｄ―ｃ2.21ｍ、ｆ―ｄ2.15ｍ、ａ―ｃ2.26ｍである。柱に囲まれた範囲の面積は、約6.17㎡で４畳弱の広さに相当する。柱穴ｃ、ｆには浅い掘り込みが伴うようである。埋土は、地山土を含む黒色又は黒褐色土を主体とする。ｆの埋土上面に焼土層があるが、柱穴埋没後に形成された可能性が高い。

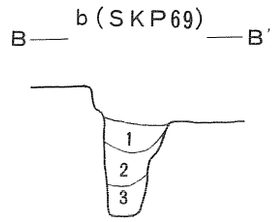
ＳＢ13掘立柱建物跡(第22図、図版５･14･15)

ＭＡ48･49、ＭＢ48グリッド第Ⅳ層上面で柱穴プランを検出した。６本の柱から構成され、柱間の距離はｆ―ａ2.36ｍ、ｅ―ｂ3.17ｍ、ｆ―ｄ2.73ｍである。柱に囲まれた範囲の面積は約7.64㎡で4.6畳の広さに相当する。柱穴ｄ、ｅ、ｆは、ＳＫＴ05陥し穴の調査を行なってその存在が明らかになった。ｄとｅでは切り合い関係は不明であったが、ｆではｆの埋土の下にさらにＳＫＴ05陥し穴の埋土が観察されたため、ｆがＳＫＴ05陥し穴を切っていることが確認された。柱穴ａはその北西側の一部分がＳＲ01埋設土器遺構によって破壊されている。柱穴ｂには東側に浅い掘り込みが伴う。土層断面Ｃ―Ｃ'をみると、数時期にわたることが看手され

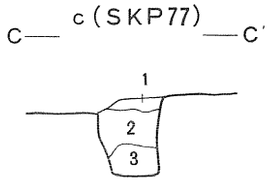




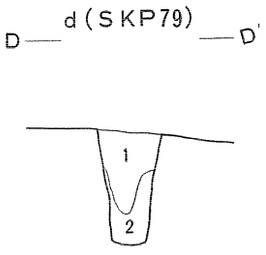
1　黒褐色土（10Y R3/1）　ローム粒とローム小ブロック少量混入
2　黒褐色土（10Y R2/2）　ローム中ブロックやや多く混入
3　黄褐色土（10Y R5/6）　ロームブロック（大～小）多量に混入、しまり良い
4　黒色土（10Y R2/1）
5　褐色土（10Y R4/4）　ローム粒やや多く混入



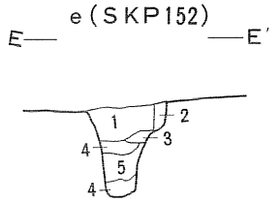
1　黒褐色土（10Y R2/2）　ロームブロック（中～小）少量混入、しまり良い
2　黒褐色土（10Y R2/2）　ローム小ブロック少量混入、しまり良い
3　暗褐色土（10Y R3/3）　ロームブロック（中～小）やや多量に混入、しまり非常に良い



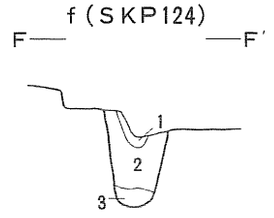
1　黒褐色土（10Y R3/1）　ローム粒とローム小ブロック少量混入
2　黒褐色土（10Y R3/2）　やや多量のローム粒と少量のローム小ブロック混入、しまり良い
3　黒褐色土（10Y R2/2）　ローム小ブロック少量混入



1　黒褐色土（10Y R2/2）　ローム粒、ロームブロック（中～小）少量混入
2　黄褐色土（10Y R5/6）　ローム粒、ロームブロック（中～小）やや多量に混入、しまりやや悪い



1　黒褐色土（10Y R3/2）　多量のローム小ブロック、少量のローム中ブロック混入
2　暗褐色土（10Y R3/3）　ローム細粒やや多く含む
3　暗褐色土（10Y R3/4）　ローム細粒ブロック状に堆積
4　黒褐色土（10T R2/2）　ローム小ブロック少量混入、しまりやや悪い
5　にぶい黄褐色土（10Y R4/3）　ロームブロック（中～小）やや多く混入、しまり良い

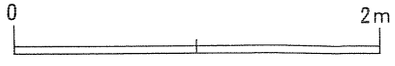


1　黒色土（10Y R17/1）　ロームブロック（中～小）少量混入、しまり良い
2　暗褐色土（10Y R3/4）　ローム粒ロームブロック（中～小）やや多量に混入、しまり良い
3　黒色土（10Y R2/1）　ローム小ブロック少量混入

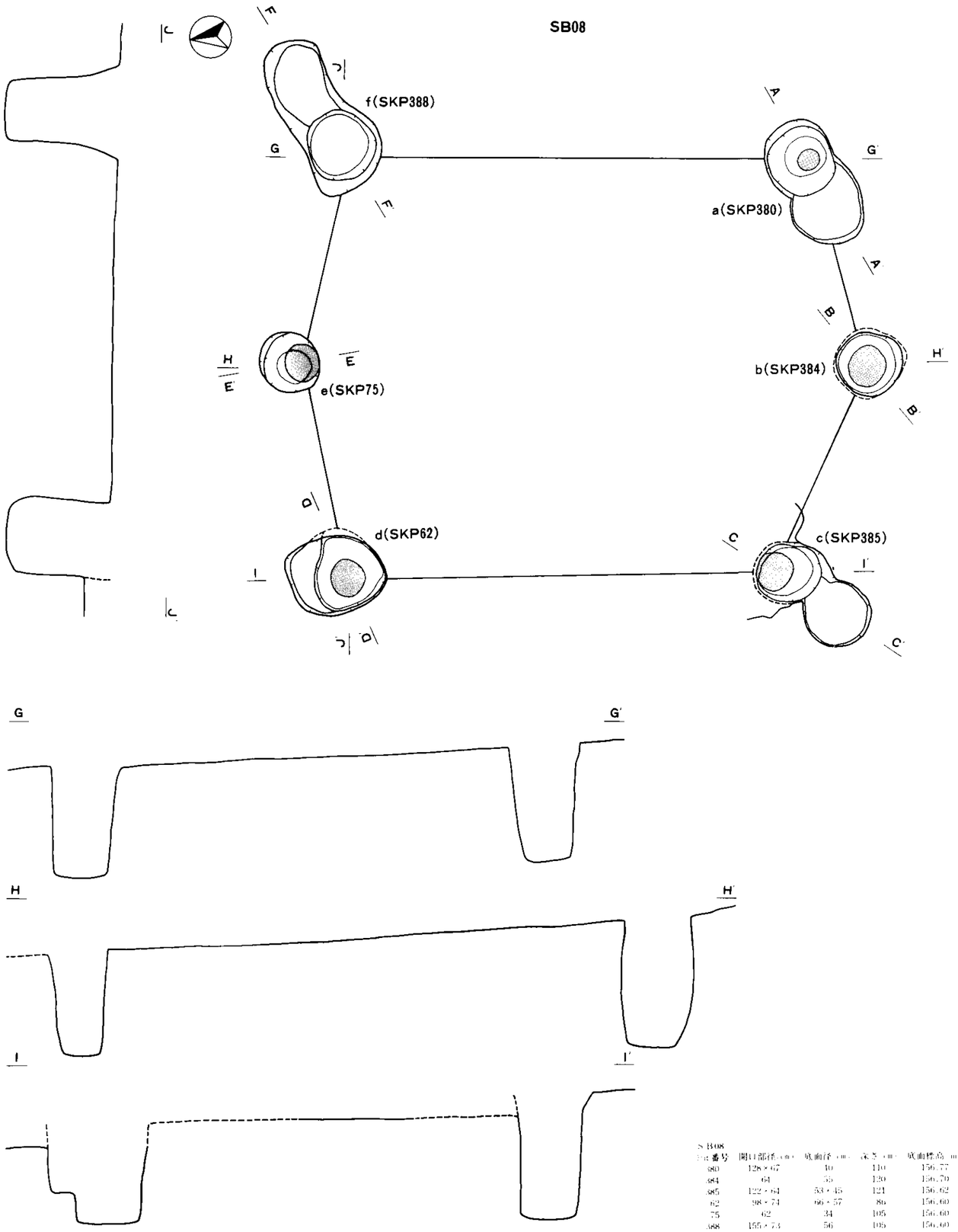
SB. 07

ＰｉＴ番号	開口部径(cm)	底面径(cm)	深さ(cm)	底面標高(m)
57	37	20×16	71	156.89
69	37	17	72	156.84
77	36	23	42	157.05
79	37	25	60	156.70
152	37	29	51	156.95
124	35	21	56	157.00

水糸レベル 157.700m



第16図　SB07掘立柱建物跡実測図

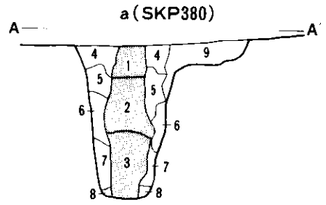


SB08

土壙番号	開口部径 (cm)	底面径 (cm)	深さ (cm)	底面標高 (m)
380	128×67	10	110	156.77
384	64	55	120	156.70
385	122×64	53×45	121	156.62
62	98×74	66×57	86	156.60
75	62	34	105	156.60
388	155×73	56	105	156.60

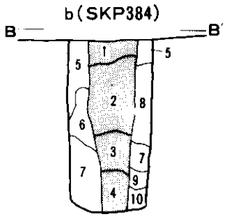
第17図　SB08掘立柱建物跡実測図

a(SKP380)



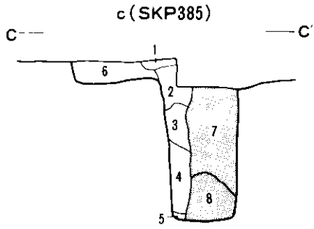
1　黒褐色土（10YR$^{2}/_{2}$）　ローム小ブロック（中～小）混入
2　暗褐色土（10YR$^{3}/_{3}$）　ローム小ブロック（大～小）混入
3　黒色土（10YR$^{2}/_{1}$）　少量のローム粒を含む、ボソボソとしていてしまりに欠ける
4　黒褐色土（10YR$^{2}/_{2}$）　ローム小ブロック（大～中）を含む
5　褐色土（10YR$^{4}/_{4}$）　やや多量のローム小ブロック（中～小）混入
6　明黄褐色土（10YR$^{6}/_{6}$）　ローム粒、ローム小ブロック（大～中）より成る
7　黄褐色土（10YR$^{5}/_{6}$）　ローム粒と多量のローム小ブロックより成る
8　黒色土（10YR$^{2}/_{1}$）
9　黒褐色土（10YR$^{3}/_{1}$）　少量のローム粒混入

b(SKP384)



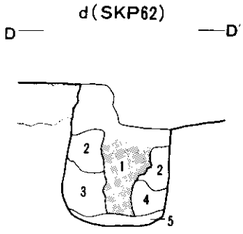
1　黒褐色土（10YR$^{2}/_{2}$）　ローム小ブロック少量混入
2　黒褐色土（10YR$^{2}/_{2}$）　ローム小ブロック（中～小）　少量の炭化物混入
3　黒褐色土（10YR$^{2}/_{2}$）　ローム小ブロック少量混入
4　黒褐色土（10YR$^{2}/_{2}$）　3層よりしまりに欠ける
5　黒褐色土（10YR$^{2}/_{2}$）　ローム大ブロックの混入が目立つ
6　黄褐色土（10YR$^{5}/_{6}$）　ローム大ブロック
7　明黄褐色土（10YR$^{6}/_{6}$）　ローム大ブロックから成るか、ややしまりに欠ける
8　暗褐色土（10YR$^{3}/_{4}$）　ローム小ブロック（大～中）混入
9　暗褐色土（10YR$^{3}/_{3}$）　ローム小ブロックから成る
10　黒褐色土（10YR$^{2}/_{2}$）　ローム小ブロック少量混入

c(SKP385)



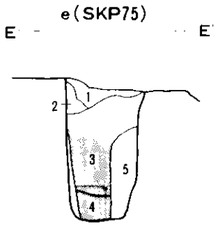
1　にぶい黄褐色土（10YR$^{5}/_{3}$）　ローム小ブロック混入
2　暗褐色土（10YR$^{3}/_{3}$）　ローム小ブロックと少量のローム大ブロック混入
3　明黄褐色土（10YR$^{6}/_{6}$）　ローム大ブロックやや多量に混入
4　明黄褐色土（10YR$^{6}/_{6}$）　ローム小ブロック（大～小）から成る
5　黒褐色土（10YR$^{2}/_{2}$）　ローム粒少量混入
6　暗褐色土（10YR$^{3}/_{3}$）　ローム粒とローム小ブロック少量混入
7　暗褐色土（10YR$^{3}/_{4}$）　ローム小ブロック（大～小）多量に混入
8　褐色土（10YR$^{4}/_{4}$）　少量のローム大ブロックとローム粒混入、しまりに欠ける

d(SKP62)



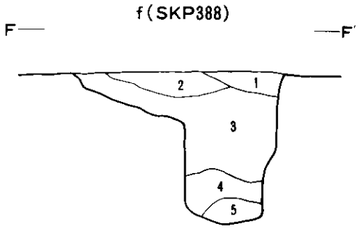
1　黒褐色土（10YR$^{2}/_{2}$）　ローム小ブロック少量混入
2　にぶい黄褐色土（10YR$^{5}/_{3}$）　ローム粒やや多量に混入
3　黒褐色土（10YR$^{2}/_{2}$）　ローム小ブロック（中～小）やや多く混入
4　黒色土（10YR$^{2}/_{1}$）　ローム中ブロック少量混入
5　褐色土（10YR$^{4}/_{4}$）　ローム大ブロックやや多く混入

e(SKP75)

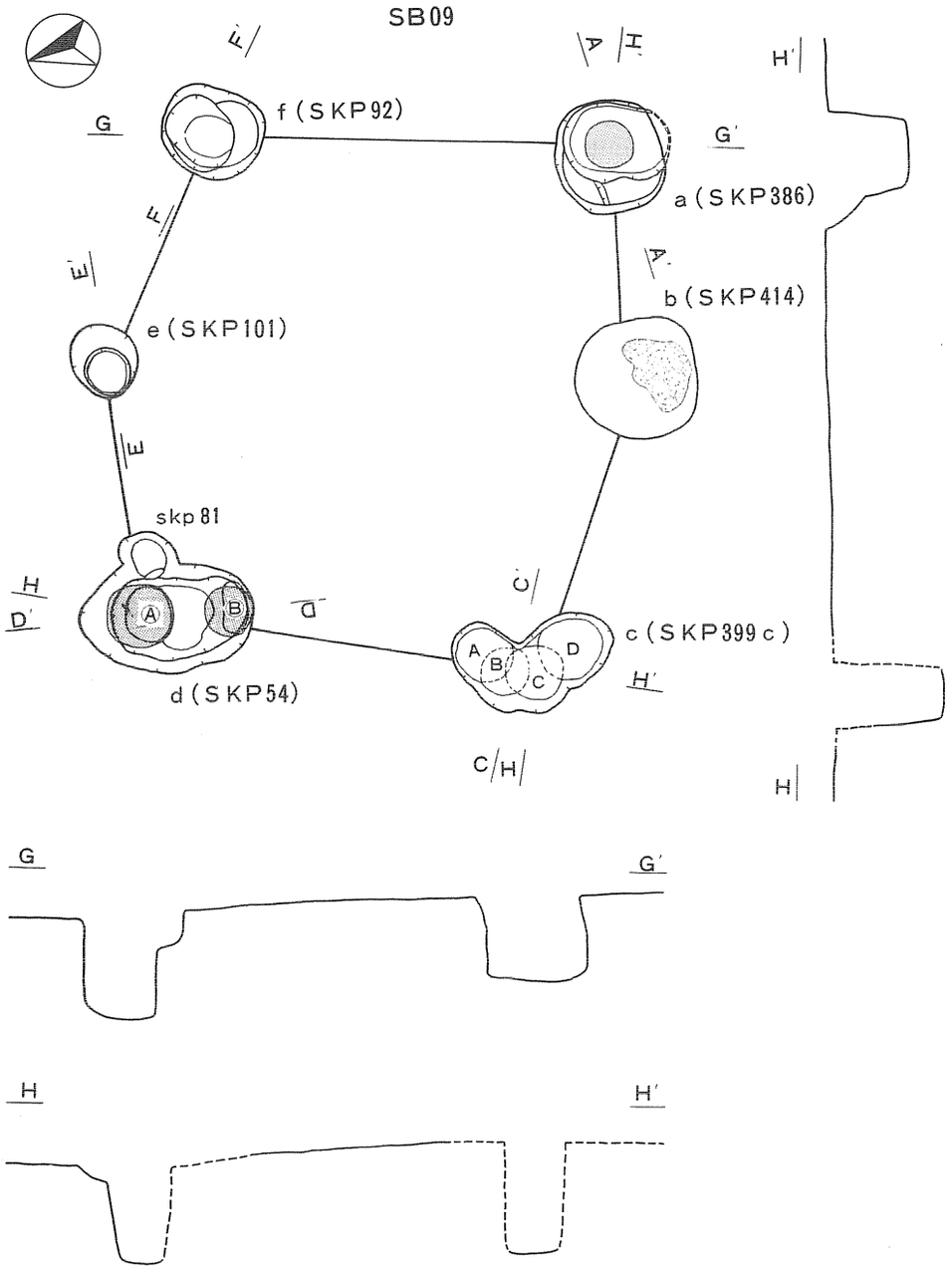


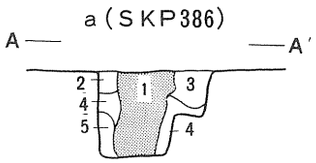
1　黒褐色土（10YR$^{2}/_{2}$）　ローム粒・ローム小ブロック（大～小）少量の炭化物を含む、しまり非常に良い
2　黄橙色土（10YR$^{8}/_{6}$）　ローム小ブロック（大～小）より成るしまり非常に良い
3　黒褐色土（10YR$^{2}/_{2}$）　ローム粒・ローム小ブロック（中～小）混入、しまりやや良
4　黒褐色土（10YR$^{3}/_{2}$）　ローム粒・ローム小ブロック（大～小）少量混入、しまりやや良
5　黒色土（10YR$^{2}/_{1}$）　ローム小ブロックを少量含む

f(SKP388)

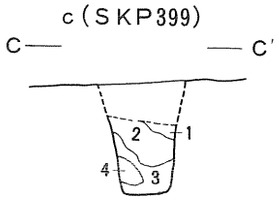


1　黒褐色土（10YR$^{2}/_{2}$）　ローム粒・焼土粒・炭化物少量混入
2　黒褐色土（10YR$^{2}/_{2}$）　ローム小ブロック（中～小）少量混入
3　黒褐色土（10YR$^{2}/_{2}$）　ローム小ブロック（大～中）やや多量に混入、しまり良い
4　黒褐色土（10YR$^{2}/_{3}$）　ローム中ブロック少量混入
5　黒色土（10YR$^{2}/_{1}$）　ローム粒少量混入、しまりにやや欠ける

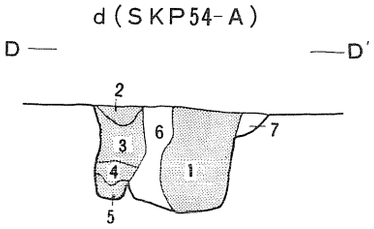




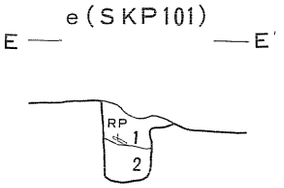
1　黒褐色土（10Y R3/1）　ローム粒・ロームブロック（中～小）少量混入。しまり良い。
2　黒褐色土（10Y R3/2）　ロームブロック（大・中）混入
3　黒褐色土（10Y R2/2）　ローム粒混入
4　黄褐色土（10Y R5/6）　ロームブロック（大～小）・黒色土混入、しまり非常によい
5　明黄褐色土（10Y R6/8）　ロームブロックより成る、しまり良い



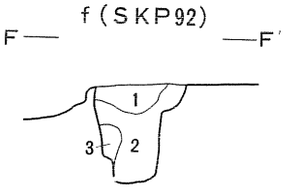
1　黒褐色土（10Y R2/3）　ロームブロック（中～小）混入
2　褐色土（10Y R4/6）　多量のロームブロック（中）から成る
3　暗褐色土（10Y R3/3）　ロームブロック（中）　やや多量に混入
4　黒褐色土（10Y R2/2）　ローム粒と少量のロームブロック（小）混入



1　暗褐色土（10Y R3/3）　ローム粒ロームブロック（大～中）・少量の焼土粒・炭化物を含む、しまり良い
2　明黄褐色土（10Y R6/8）　ローム中ブロック多量に混入
3　暗褐色土（10Y R3/4）　ロームブロック（中～小）やや多く混入、しまり良い
4　黒褐色土（10Y R2/2）　ローム粒混入
5　黒色土（10Y R2/1）　ローム粒をほとんど含まない
6　黒褐色土（10Y R3/2）　ロームブロック（大～中）やや多く混入、しまり良い
7　暗褐色土（10Y R3/3）　少量のローム粒と炭化物混入、しまり良い



1　暗褐色土（10Y R3/4）　ローム粒・炭化物・多量の焼土粒混入しまり良い
2　黒褐色土（10Y R3/1）　ローム粒・ロームブロック（中～小）少量の焼土粒混入、しまり良い



1　黒褐色土（10Y R3/2）　焼土粒・ローム粒少量混入
2　にぶい黄褐色土（10Y R4/3）　ローム粒・ロームブロック（中～小）混入
3　明黄褐色土（10Y R6/6）　ロームブロック（大～小）やや多量に混入、しまり良い

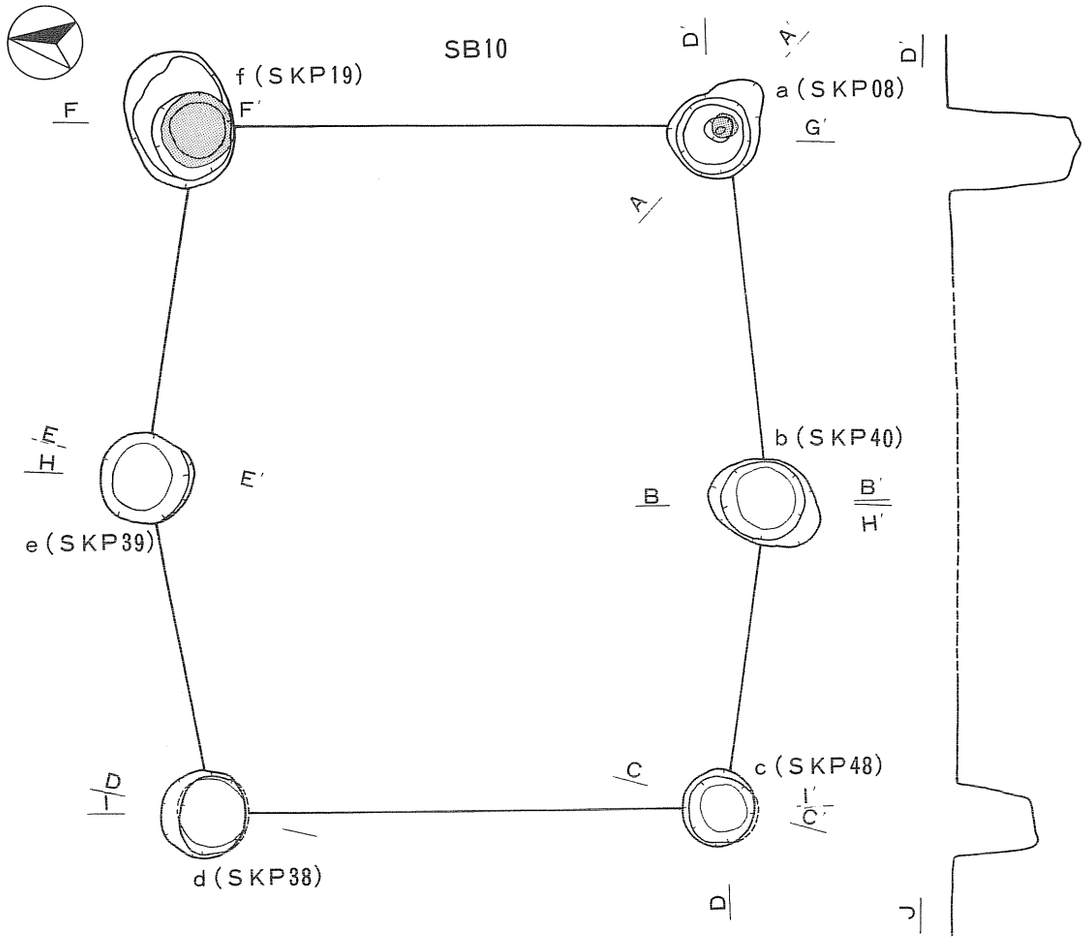
SB 09

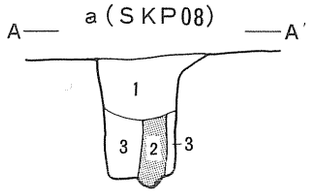
ＰｉＴ番号	開口部径(cm)	底面径(cm)	深さ(cm)	底面標高(m)
386	52	25	43	157.42
414	64	不明	57	157.11
399C	41	30	62	157.18
54A	61	30	54	157.12
101	40	23	41	157.24
92	55×49	21	55	157.20

水糸レベル 158.000m

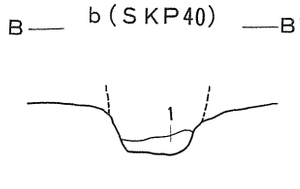
0　2m

第18図　SB09掘立柱建物跡実測図

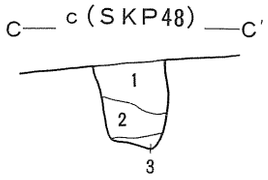




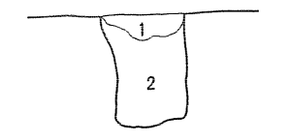
1　暗褐色土（10Y P3/3）　ローム粒と少量のローム小ブロック混入
2　黒色土（10Y P2/1）　ローム小ブロック・炭化物少量含む
3　黒褐色土（10Y R3/1）　ロームブロック（大～中）少量混入



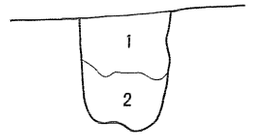
1　黒褐色土（10Y R2/3）　ロームブロック（小～中）・炭化物混入



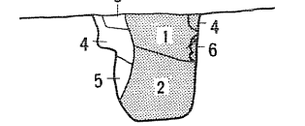
1　黒褐色土（10Y R2/3）　少量のローム粒・炭化物を含む
2　黒褐色土（10Y R2/2）　しまり欠ける、少量のローム小ブロックを含む
3　黒色土（10Y R2/1）　ローム粒を若干含む



1　黒色土（10Y R2/2）　ローム小ブロック（中～小）やや多量に含む



1　黒褐色土（10Y R2/2）　ロームブロック（中～小）・炭化物混入
2　黒褐色



1　黒褐色土（10Y R3/2）　ローム粒やや多量に混入
2　黒褐色土（10Y R3/1）　ローム粒、ロームブロック（中・小）混入
3　灰黄褐色土（10Y R4/2）　ローム粒混入
4　にぶい黄褐色土（10Y R 5/4）　ローム粒多量に混入
5　黒褐色土（10Y R2/2）　ロームブロック（大～中）混入
6　明黄褐色土（10Y R6/8）　ローム大ブロック

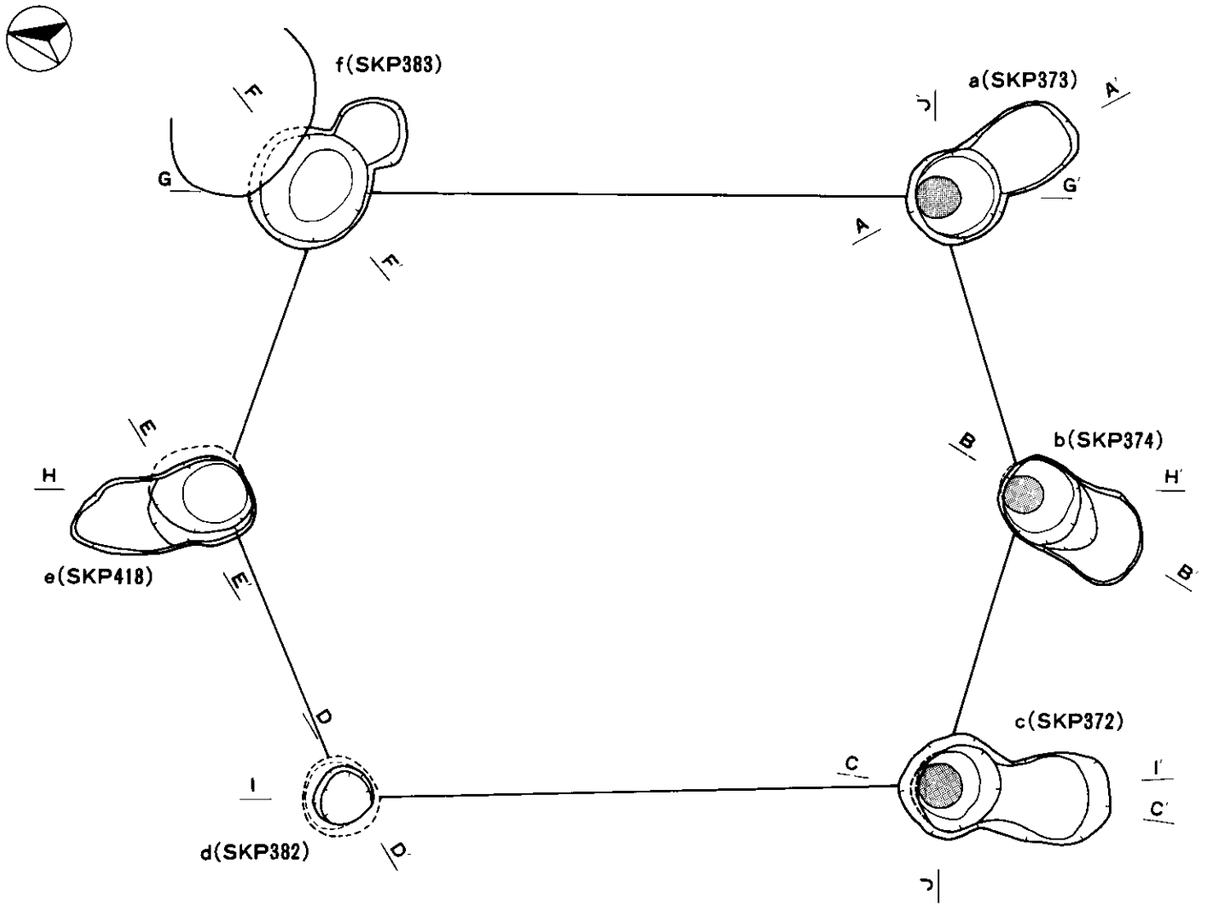
水糸レベル 158.000m

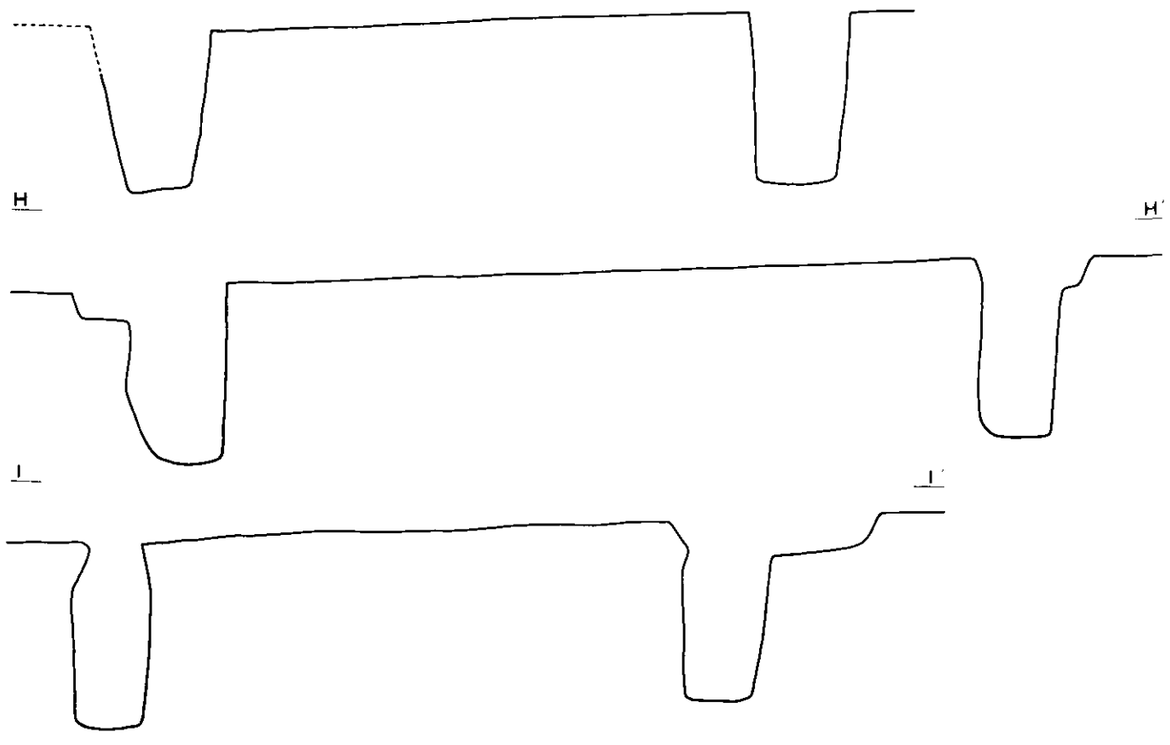
0　2m

SB 10

PiT番号	開口部径(cm)	底面径(cm)	深さ(cm)	底面標高(m)
08	50	32	22	157.15
40	61×46	32	46	157.34
48	48	25	60	157.38
38	46	38	64	157.10
39	49	35×30	57	157.05
19	76×56	30	70	157.15

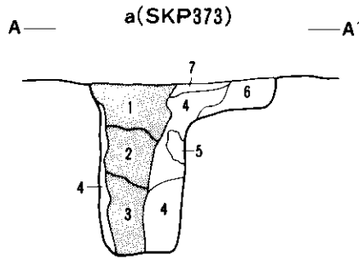
第19図　SB10掘立柱建物跡実測図



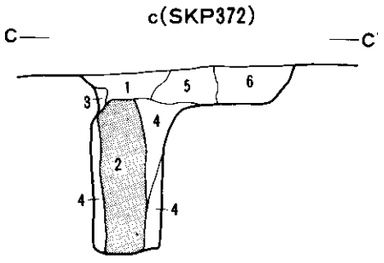


SB11

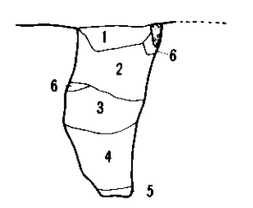
Pit番号	開口部径 cm	底面径 cm	深さ cm	底面標高 m
373	114×60	48	157.10	108
374	98×52	45	157.11	1.114
372	134×68	40	157.15	1.113
382	37	40	157.18	1.112
418	116×55	40	156.95	1.110
383	114×75	46×45	157.04	98



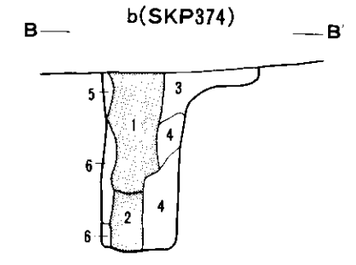
1　黒褐色土（10YR3/1）　ローム粒（小～中）炭化物含む
2　黒褐色土（10YR3/2）　ローム粒、焼土粒、炭化物混入
3　黒色土（10YR3/1）　焼土粒、炭化物、ローム粒を少量含む
4　明黄褐色土（10YR6/6）　黒色土、ローム粒、ロームブロック混入
5　黄橙色土（10YR7/8）　ロームブロック（小～中）から成る
6　黒褐色土（10YR3/2）　ローム大ブロックを少量含む
7　暗褐色土（10YR3/3）　ローム粒多量に混入



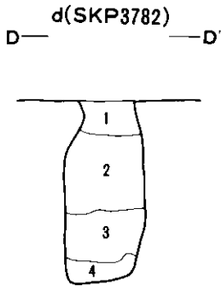
1　黒褐色土（10YR3/2）　ロームブロックと少量の焼土粒が混入
2　黒褐色土（10YR3/2）　ロームブロックをやや多く含む、また炭化物も少量混入
3　黒褐色土（10YR3/2）　黒色土と細かいローム粒混入
4　暗褐色土（10YR3/3）　地山ロームブロック（小・中）をやや多く含む
5　にぶい黄褐色土（10YR5/3）　ロームブロック多量に混入
6　黒褐色土（10YR3/1）　ロームブロック（小）を少量含む



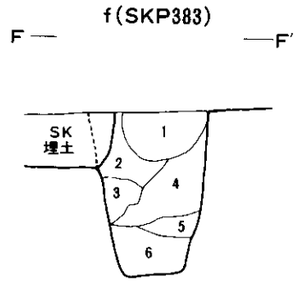
1　黒色土（10YR1.7/1）　ローム粒と少量のローム小ブロックを含む
2　黒褐色土（10YR3/2）　ローム粒とやや多量のロームブロック（小・中）を含む
3　暗褐色土（10YR3/3）　ローム粒・ロームブロック（大・中・小）多量に混入
4　明黄褐色土（10YR6/6）　ローム粒・ロームブロック多量に混入
5　黒色土（10YR1.7/1）　ローム粒とローム小ブロック少量混入
6　黄褐色土（10YR5/6）　ロームブロック



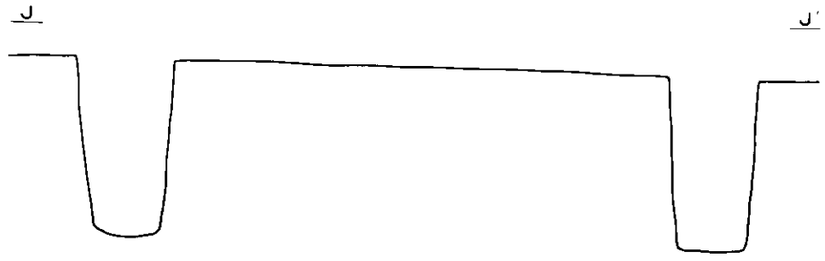
1　黒褐色土（10YR3/2）　ロームブロック（粒径5～10mm）少量混入
2　黒色土（10YR3/1）　ローム粒をほとんど含まずボソボソしている
3　褐色土（10YR4/4）　ロームブロック（粒径10～20mm）をやや多く含む
4　暗褐色土（10YR3/3）　しまり悪い、ローム粒わずかに含む
5　にぶい黄褐色土（10YR4/3）　ローム粒・ロームブロックを含む
6　黒褐色土（10YR3/2）　ロームブロック（10～30mm）をやや多く含む



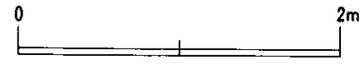
1　にぶい黄褐色土（10YR5/3）　ローム粒、ローム小ブロック炭化粒混入、ボソボソしている
2　褐色土（10YR4/4）　しまりやや悪い、ローム粒、炭化物、やや多量のロームブロック（中～小）混入
3　黒褐色土（10YR3/2）　しまり悪い、ロームブロック（中～小）を少量含む
4　にぶい黄褐色（10YR5/3）　しまり非常に良い、ロームブロック（大～小）多量に混入



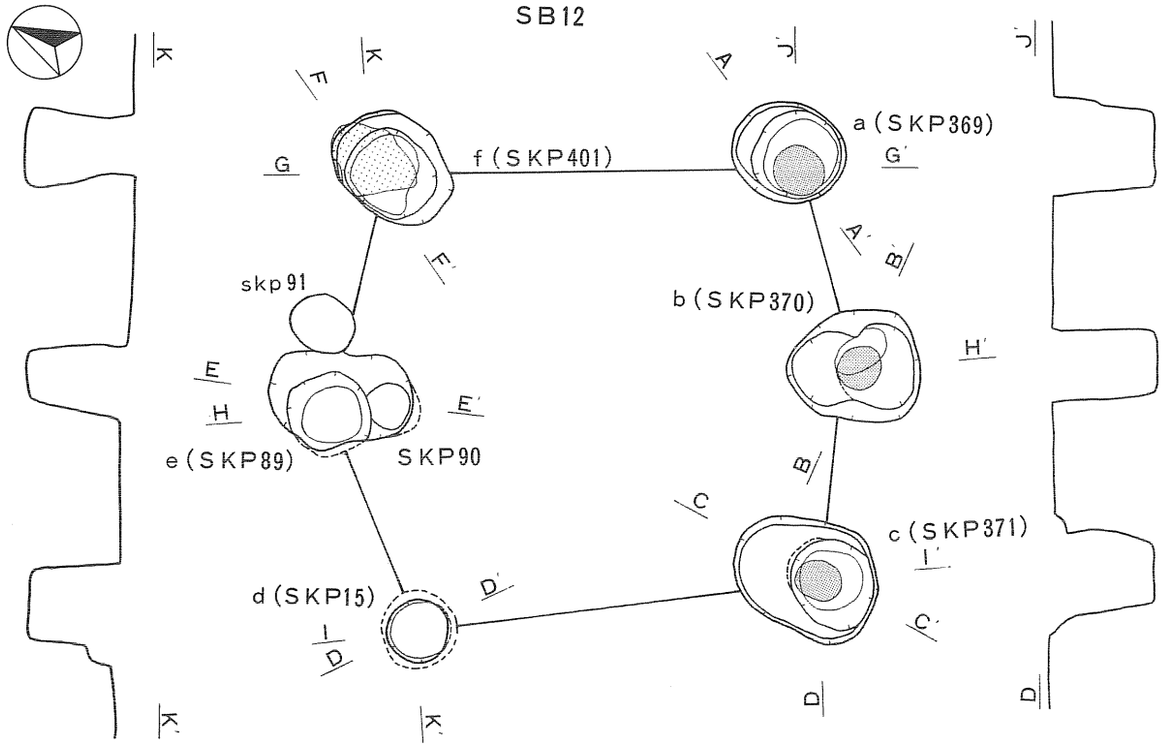
1　黒褐色土（10YR3/2）　ロームブロック（中～小）、炭化物混入
2　褐色土（10YR4/4）　ロームブロック（中）の混入目立つ
3　黄褐色土（10YR5/8）　ロームブロック（大）と黒色土混入
4　黒褐色土（10YR3/2）　ロームブロック（大）の混入目立つ
5　にぶい黄橙色土（10YR6/4）　ボソボソした感じを受ける
6　にぶい黄褐色土（10YR5/3）　しまり悪い

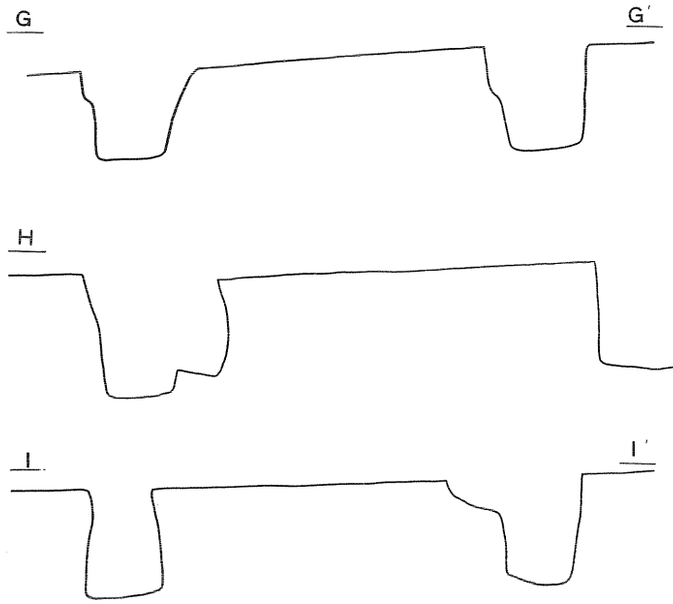


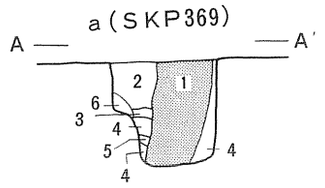
水糸レベル 158.500m



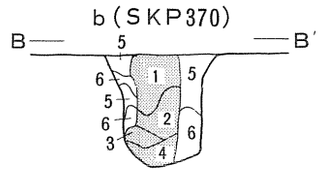
第20図　SB11掘立柱建物跡実測図



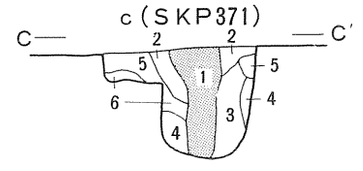




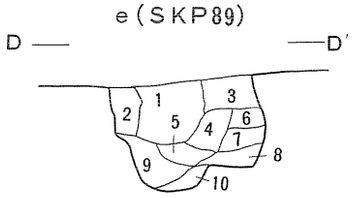
1　黒褐色土（10Y R2/2）　ローム粒、ロームブロック（大・中）が混入した黒褐色土
2　黒褐色土（10Y R3/1）　ローム粒少量混入
3　明黄褐色土（25Y6/6）　黒褐色土とロームブロックが混入した土
4　黒褐色土（10Y R3/1）　ロームブロック（中）やや多く混入
5　黒褐色土（10Y R3/1）　4層よりもロームブロックの混入多い
6　明黄褐色（10Y R6/8）　ローム粒・ロームブロック（大）より成る



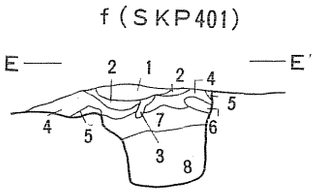
1 黒褐色土（10Y R2/2）　ローム粒とローム小ブロック混入
2　黒褐色土（10Y R2/2）　ローム小ブロックの混入が1層より多くなる
3　黒褐色土（10Y R3/2）　ロームブロックの量は少なくなるが、粒径が大きくなる
4　黒色土（10Y R2/1）　しっとりとしていて、ローム粒とブロックの混入がほとんどなくなる
5　暗褐色土（10Y R3/3）　ローム小ブロック少量混入
6　明黄褐色土（2.5Y6/6）ローム小ブロックを多く含む



1　黒褐色土（10Y R3/2）　ロームブロック（5～10mm）をやや多く含む、柱痕
2　黒褐色土（10Y R2/2）　ローム粒少量混入
3　黒色土（10Y R2/1）　ローム粒少量混入
4　明黄褐色土（2.5Y6/6）黒色土を少量混入したロームブロックより成る
5　にぶい黄褐色土（10Y R4/3）　黒色土とローム粒がほぼ同量ずつ混入
6　黄橙色土（10Y R7/8）　地山ロームブロックより成る



1．黒褐色土（10Y R2/2）　しまり・粘性あり
2　黒褐色土（10Y R2/2）　しまり・粘性あり、地山粒・ブロック径5㎜～1㎝微量
3　黒色土（10Y R2/1）　しまりにやや欠け、粘性あり、地山粒・ブロック微量
4　黒褐色土（10Y R2/2）　しまり・粘性あり、地山粒微量
5　黒褐色土（10Y R2/2）　しまりにやや欠け、粘性あり
6　黒色土（10Y R2/1）　しまりにやや欠け、粘性あり、地山粒極微量
7　黒色土（10Y R2/1）　しまり・粘性あり、地山ブロック30%
8　黒色土（10Y R2/1）　しまりにやや欠け、粘性あり
9　黒褐色土（10Y R2/2）　しまりややあり、粘性あり　地山粒・ブロック少量
10　黒色土（10Y R2/1）　しまりややあり、粘性あり、地山ブロック径5%～1㎜少量



1　にぶい褐色土（7.5Y R5/4）　粘性・しまり強、焼土（明赤褐色5Y R5/8）をブロック及び粒子状に若干混入
2　極暗褐色土（7.5Y R2/3）　粘性・しまりやや強、黒褐色土と粘土が混じりあった層
3　にぶい褐色土（7.5Y R5/4）～灰黄褐色（10Y R4/2）　粘性・しまりやや強、粘土
4　黒褐色土（10Y R2/2）　粘性・しまり中、極僅かに地山土をブロック状に含む
5　暗褐色土（10Y R3/4）　粘性やや強、しまり中、ローム層
6　黒褐色土（7.5Y R2/2）　粘性・しまり中、焼土を粒子状に極僅かに含む
7　黒色土（7.5Y R2/1）　粘性・しまり中、地山土を砂粒～ブロック状（径1～70・80㎜程度）に多量に含む
8　黒色土（7.5Y R2/1）　粘性・しまり中　地山土を砂粒～ブロック状（径1～20㎜程度に多量に含む、含む割合は7層より多い

1　黒褐色土（10Y R2/2）　ロームブロック（大～小）、少量の炭化物混入

SB12

Ｐｉｔ番号	開口部径(cm)	底面径(cm)	深さ(cm)	底面標高(m)
369	62×54	38	56	157.64
370	73×60	39×25	58	157.64
371	80×63	35	58	157.65
15	34	33	59	157.60
89	54	32	63	157.50
401	70×53	34	50	157.61

水糸レベル 158.300m

0　2m

第21図　SB12掘立柱建物跡実測図

るが、柱穴ｃはこのなかで最も古い時期のものである。

ＳＢ14掘立柱建物跡(第23図、図版５･14･15)

ＭＡ48･49、ＭＢ47･48グリッド第Ⅳ層上面で柱穴プランを検出した。ＳＢ13掘立柱建物跡とＳＫＴ05陥し穴と重複している。６本の柱から構成され、柱間の距離はｆ－ａ約2.83ｍ、ｅ－ｂ約3.32ｍ、ｆ－ｄ約3.30ｍである。柱に囲まれた範囲の面積は約9.26㎡で5.6畳の広さに相当する。柱穴の埋土は、黒褐色土を主体とし粘性を有する。地山粒、焼土粒を含む。柱穴ａの埋土は、土層断面Ａ－Ａ'の２～６層に相当し、ＳＢ13掘立柱建物跡の柱穴ｃを切っている。また土層断面Ｆ－Ｆ'から、本建物跡がＳＫＴ05陥し穴より新しいことがわかる。

ＳＢ15掘立柱建物跡(第24図、図版５)

ＭＢ48、ＭＣ47･48･49、ＭＤ47･48グリッド第Ⅴ層上面で柱穴プランを検出した。柱穴様ピット、掘立柱建物跡が集中して形成する環のやや外側(南西側)に位置する。６本の柱から構成され、柱間の距離はｆ－ａ約3.23ｍ、ｅ－ｂ約4.42ｍ、ｄ－ｃ約3.13ｍ、ｆ－ｄ約3.9ｍである。柱に囲まれた範囲の面積は、約14.91㎡で９畳余りの広さに相当する。柱穴の埋土は、黒褐色土を主体とし、地山土、焼土粒、炭化物を含む。

ＳＢ16掘立柱建物跡(第25図、図版５･14･15)

ＭＡ46･47･48、ＭＢ47グリッド第Ⅳ層上面で柱穴プランを検出した。６本の柱から構成されるが、ｂとｅの柱穴が外に張り出さずにａ－ｃ、ｆ－ｄの線上に位置する。このため平面形は正方形に近い。柱間の距離は、ｆ－ａ約3.08ｍ、ｅ－ｂ約3.1ｍ、ｄ－ｃ約3.13ｍ、ｆ－ｄ約2.94ｍである。柱に囲まれた範囲の面積は、約9.24㎡で5.6畳余りの広さに相当する。本建物跡は、ＳＢ17、ＳＢ18掘立柱建物跡と重複関係にある。ＳＢ17掘立柱建物跡との新旧関係は不明であるが、ＳＢ18掘立柱建物跡とは土層断面Ｃ－Ｃ'から、本建物跡のほうが新しいことがわかる。重複関係にはないが、土層断面Ｆ－Ｆ'を見るとＳＢ13掘立柱建物跡柱穴ｃを切っていることから、本建物跡のほうが新しいことがわかる。柱穴の埋土は、焼土粒、炭化物を含む黒褐色土を主体とする。

ＳＢ17掘立柱建物跡(第26図、図版５･14･15)

ＭＡ47、ＭＢ46･47グリッド第Ⅳ層上面で柱穴プランを検出した。６本の柱から構成され、柱間の距離はｆ－ａ約2.23ｍ、ｅ－ｂ約2.93ｍ、ｆ－ｄ約2.51ｍ、ａ－ｃ約3.04ｍである。ｆ－ｄよりａ－ｃのほうが幅があり柱穴の配置は南東側に開いている。柱に囲まれた範囲の面積は、約7.15㎡で4.3畳余りの広さに相当する。柱穴の埋土は、黒褐色土を主体とし、地山土と炭化物を含む。確認面からの深さは45～58cm、柱穴ｂの南東側には浅い掘り込みが伴う。柱穴ｅの北西側は、ＳＫ43土坑によって破壊されている。

ＳＢ18掘立柱建物跡（第27図、図版５）

ＬＴ46、ＭＡ46･47、ＭＢ46グリッドの第Ⅳ層上面で柱穴プランを検出した。６本の柱から構成され、柱間の距離はｆ－ａ約2.9ｍ、ｅ－ｂ約3.34ｍ、ｆ－ｄ約2.94ｍである。柱で囲まれた範囲の面積は約9.22㎡で5.6畳の広さに相当する。柱穴ａの南西側には浅い掘り込みが伴なう。ｄの西側にＳＫ32土坑があるが、新旧関係は不明である。ｅはＳＫ28土坑の調査終了間際に検出されてることから、これも新旧関係は明らかでない。

ＳＢ19掘立柱建物跡（第28図、図版５）

ＬＴ46･47、ＭＡ47グリッド第Ⅴ層上面で柱穴プランを検出した。６本の柱から構成され、柱間の距離はｆ－ａ約2.2ｍ、ｅ－ｂ約2.63ｍ、ｆ－ｄ約3.1ｍである。柱で囲まれた範囲の面積は約7.49㎡で4.5畳余りの広さに相当する。柱６本の構成で柱穴ｂ、ｅが外に張り出す建物のなかでは、ｆ－ａ間が狭く、ｂとｅの柱穴の張り出しが相対的に弱いという特徴がある。柱穴の土層断面では、柱痕がわかるものが多く、埋土は黒色又は黒褐色土を主体とする。

ＳＢ20、21、22掘立柱建物跡（第29･30図、図版５･15）

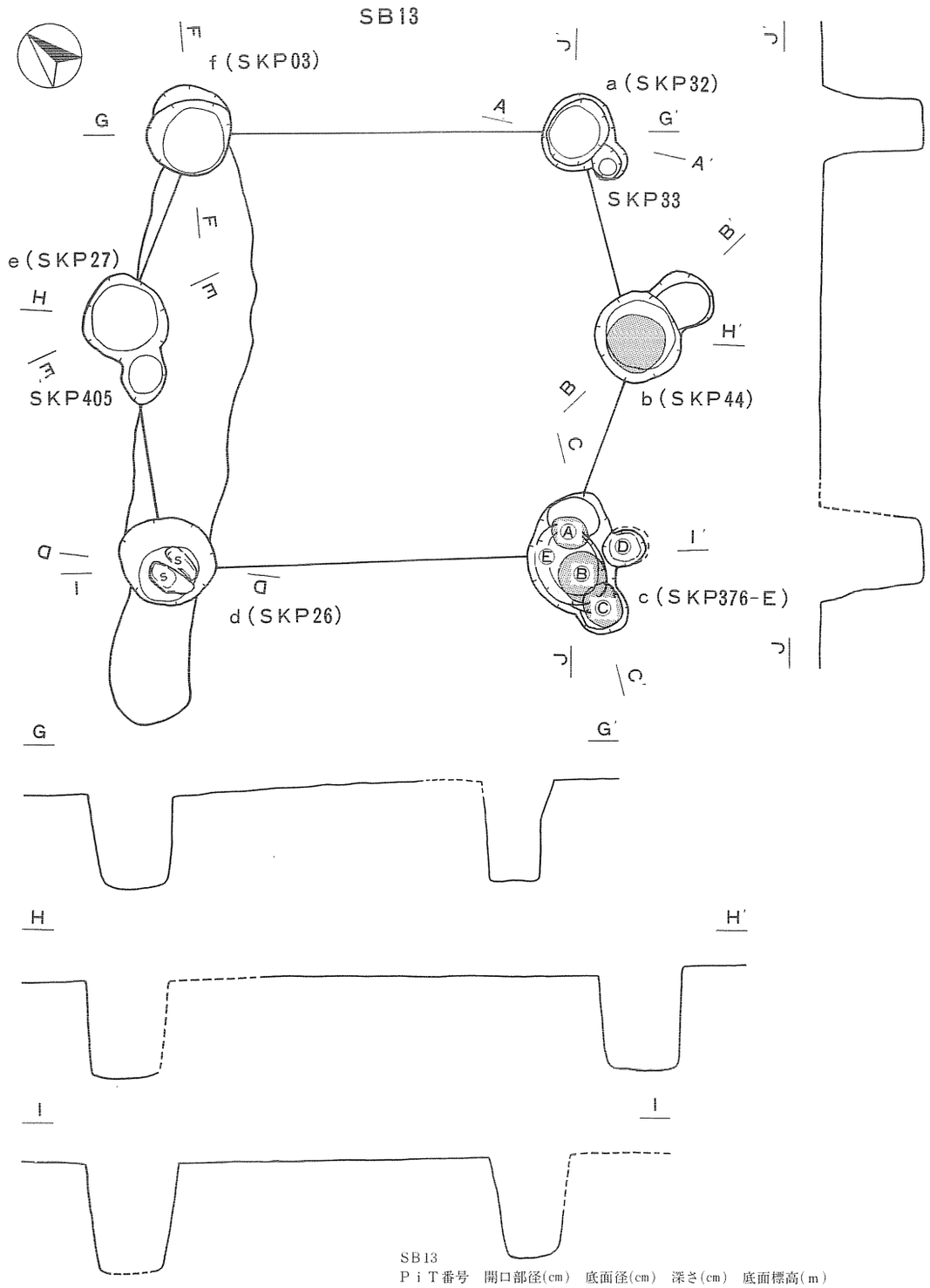
ＬＲ45･46、ＬＳ45、ＬＴ45･46グリッド第Ⅳ層上面で柱穴プランを検出した。ほぼ同じ規模の掘立柱建物跡が３棟重複しており、同じような位置に数度にわたって建て替えが行なわれている。いずれも６本の柱から構成され、柱間の距離はｆ－ｄ3.5～4.36ｍ、ｅ－ｄ4.78～5.3ｍ、ｄ－ｃ3.64～4.2ｍ、ｆ－ｄ4.04～4.47ｍ、ａ－ｃ3.94～4.2ｍである。柱に囲まれた範囲の面積は17.09～20.55㎡で10～12.5畳の広さに相当する。土層断面Ｄ－Ｄ'とＥ－Ｅ'からＳＢ20が３棟の跡立柱建物跡のうち最も古いことが明らかである。次にＳＢ21ＳＢ22の新旧であるが、柱痕が認められるもの、特に柱穴ａ、ｂ、ｃについて認められるものが最も新しいと推定すると、ＳＢ22が最も新しい建物と考えることが可能である。柱穴の埋土は、地山土、焼土粒を含む黒色土又は黒褐色土が多い。柱痕を取りまくようにある埋土には、黄褐色系の土もあり、黒色土又は黒褐色土と交互に埋めもどしているものもある。

ＳＢ23掘立柱建物跡（第31図、図版５）

ＬＱ45･46、ＬＲ46グリッド第Ⅴ層上面で柱穴プランを検出した。６本の柱から構成され、ｆ－ａ2.33ｍ、ｅ－ｂ3.37ｍ、ｆ－ｄ2.68ｍ、ａ－ｃ3.1ｍである。柱に囲まれた範囲の面積は約8.15㎡で５畳弱の広さに相当する。柱穴ａとｆはＳＱ07配石遺構の下から検出されていることから、本建物跡が営まれたのは配石遺構がつくられる以前と考えられる。

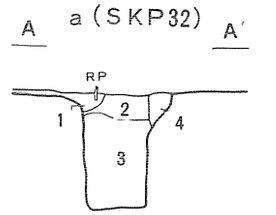
ＳＢ24掘立柱建物跡（第32図、図版５）

ＬＱ45･46、ＬＲ45･46グリッド第Ⅴ層上面で柱穴プランを検出した。６本の柱からなり、ｆ－ａ2.8ｍ、ｅ－ｂ3.67ｍ、ｆ－ｄ3.15ｍである。柱に囲まれた範囲の面積は、10.19㎡で６畳余りの広さに相当する。柱穴ｂの位置とＳＱ08の石の位置から、本建物跡はＳＱ08を一部破壊



SB13

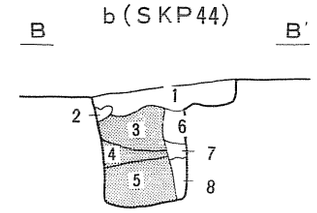
ＰｉＴ番号	開口部径(cm)	底面径(cm)	深さ(cm)	底面標高(m)
32	50	31	63	157.62
44	80×56	44	65	157.60
376E	不明	43×30	64	157.63
26	62	35	68	157.56
27	53	40	61	157.57
03	55	38	57	157.60



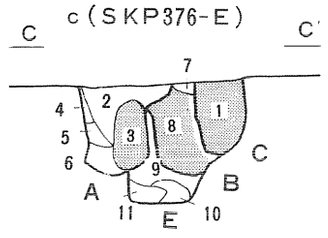
SR01
1　黒褐色土（10Y R2/2）　粘性中しまりやや強・褐色土（10Y R 4/4)をブロック状に若干混入す

SKP32
2　黒色土（10Y R2/1）　粘性中・しまりややあり・地山土が粒子状に極わずかに混入す
3　黒褐色土（10Y R2/2）　黒褐色土を主とするが、地山軽石土が径２～３cmのブロック状に20～30%程度混入す

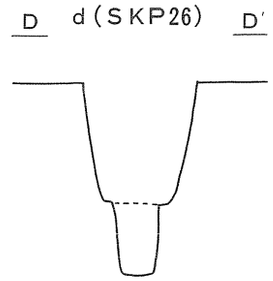
SKP33
4　黒褐色土（10Y R2/3）　粘性中しまりややあり、地山土が粒子状に極わずかに混入す

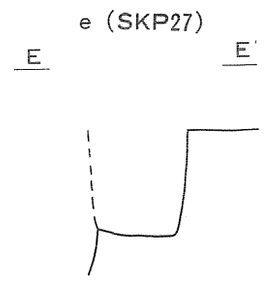


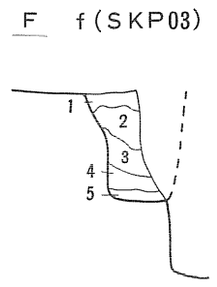
1　黒色土（10Y R2/1）　しまり・粘性あり　焼土粒・焼土ブロック少量・炭化物・地山ブロック⌀２cm微量
2　暗褐色土（10Y R3/4）　しまりにやや欠け・粘性あり・漸移層の崩壊土
3　黒褐色土（10Y R2/2）　しまりややあり　粘性あり・焼土粒・炭化物粒・地山粒少量
4　黒色土（10Y R2/1）　しまりにやや欠け　粘性あり・焼土粒・地山粒微量
5　黒褐色土（10Y R2/2）　しまりややあり　粘性あり・地山粒・ブロック⌀１cm少量
6　黄褐色土（10Y R5/8）　しまり強・粘性あり・黒色土混じり・張土
7　黒褐色土（10Y R2/2）　しまり強・粘性あり・地山粒・ブロック微量
8　黄褐色土（10Y R5/8)と黒褐色土（10Y R2/2）の混合土 しまり強・粘性あり・張土
9　黒褐色土（10Y R2/2）　しまり・粘性あり



1　黒褐色土（10Y R3/2）　ローム粒・ロームブロック（小）・焼土粘少量混入
2　黒褐色土（10Y R3/1）　焼土粒・ローム粒を少量含む
3　黒褐色土（10Y R3/2）　ロームブロック（中～小）少量混入
4　明黄褐色土（10Y R6/6）　ローム粒から成る
5　褐色土（10Y R4/4）　ローム粒、やや多く混入
6　黒褐色土（10Y R2/2）　少量のロームブロック（中）混入
7　にぶい黄褐色（10Y R4/3）　ローム粒（細）少量混入
8　黒褐色土（10Y R3/2）　ロームブロック（中～小）をやや多く含む
9　黄褐色土（10Y R5/8）　ロームブロック（大～中）多量に混入
10　褐色土（10Y R4/6）　ローム粒とロームブロック（中～小）から成る
11　黒褐色土（10Y R2/2）　少量のロームブロック（中～小）混入







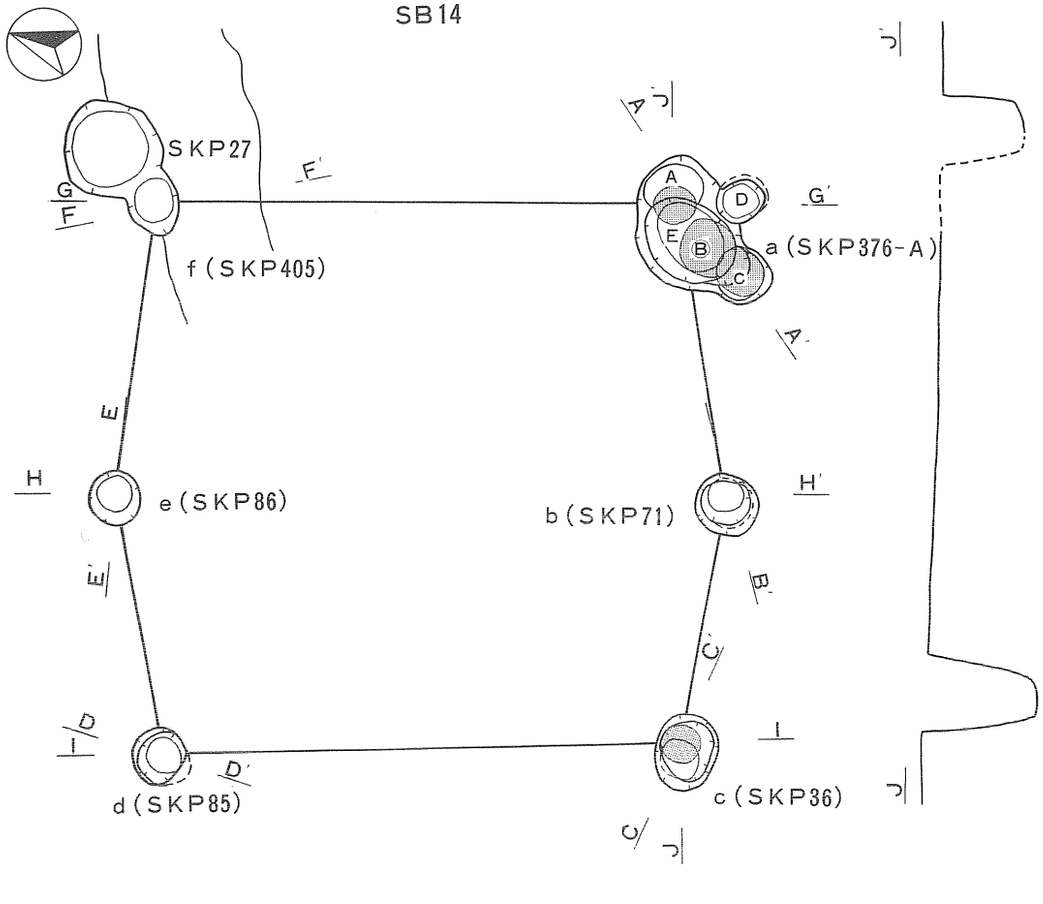
1　黒褐色土（10Y R3/1）　ローム粒小量混入
2　暗褐色土（10Y R3/3）　ローム粒微量混入
3　暗褐色土（10Y R3/4）　ローム粒多量混入
4　黒褐色土（10Y R3/2）　ロームブロック少量混入
5　黒色土（10Y R1.7/1）

SKT05

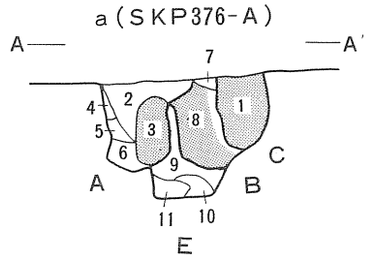
水糸レベル 158.500m

0　2m

第22図　ＳＢ13掘立柱建物跡建物跡実測図

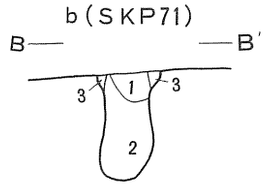


a（SKP376-A）



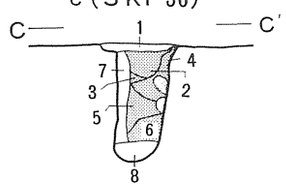
2　黒褐色土（10Y R3/1）　焼土粒・ローム粒を少量含む
3　黒褐色土（10Y R3/2）　ロームブロック（中～小）少量混入
4　明黄褐色土（10Y R6/6）　ローム粒から成る
5　褐色土（10Y R4/4）　ローム粒・やや多く混入
6　黒褐色土（10Y R2/2）　少量のロームブロック（中）混入
1、7～11は第22図と同じ。

b（SKP71）



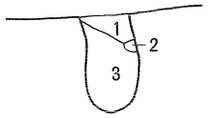
1　黒褐色土（10Y R2/2）　しまりややあり・粘性あり・焼土粒・地山粒微量
2　黒褐色土（10Y R2/3）　しまりややあり・粘性あり・焼土粒微量・地山粒少量
3　暗褐色土（10Y R3/3）　しまり・粘性あり

c（SKP36）



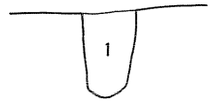
1　黒褐色土（10Y R2/2）　しまりにやや欠け・粘性あり
2　黒褐色土（10Y R2/3）　しまり・粘性あり
3　暗褐色土（10Y R3/3）　しまりにやや欠け・粘性あり
4 黒褐色土（10Y R2/3）　しまり・粘性あり・地山粒微量
5　暗褐色土（10Y R3/3）　しまりなし粘性あり、地山粒・ブロック∅約1cm少量、
6　黒褐色土（10Y R3/2）　しまりにやや欠け・粘性あり、（10Y R2/3）と（10Y R3/4）との混じり・地山粒微量
7　褐色土（10Y R4/4）　しまりややあり・粘性あり・地山粒・ブロック多量
8　黒褐色土（10Y R2/2）　しまり・粘性あり・地山粒微量

d（SKP85）



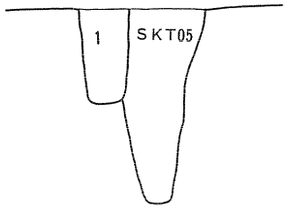
1　黒褐色土（10Y R2/3）　しまりなし・粘性あり・炭化物・地山粒微量
2　褐色土（10Y R4/6）　しまりあり・地山ブロック
3　黒褐色土（10Y R2/2）　しまり・粘性あり・地山粒微量

e（SKP86）

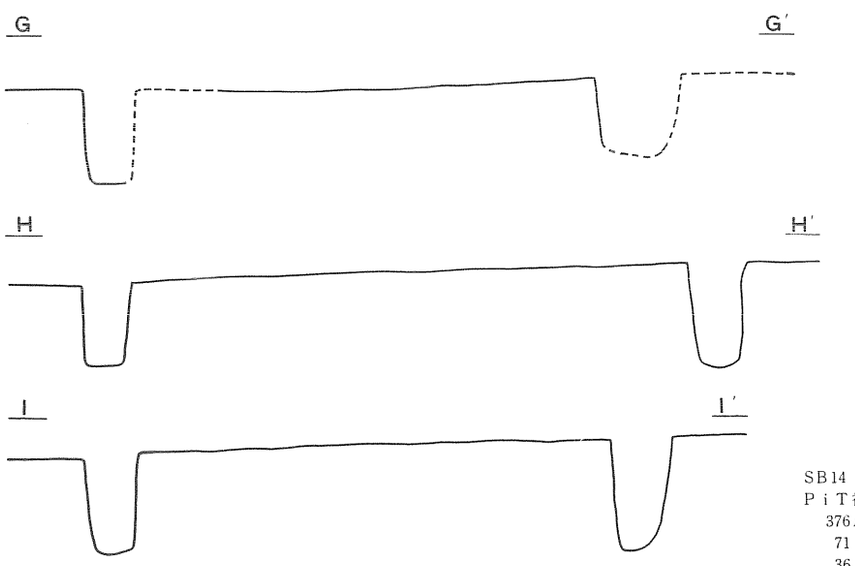


1　黒褐色土（10Y R2/3）　しまり・粘性あり、地山粒・炭化物微量

f（SKP405）



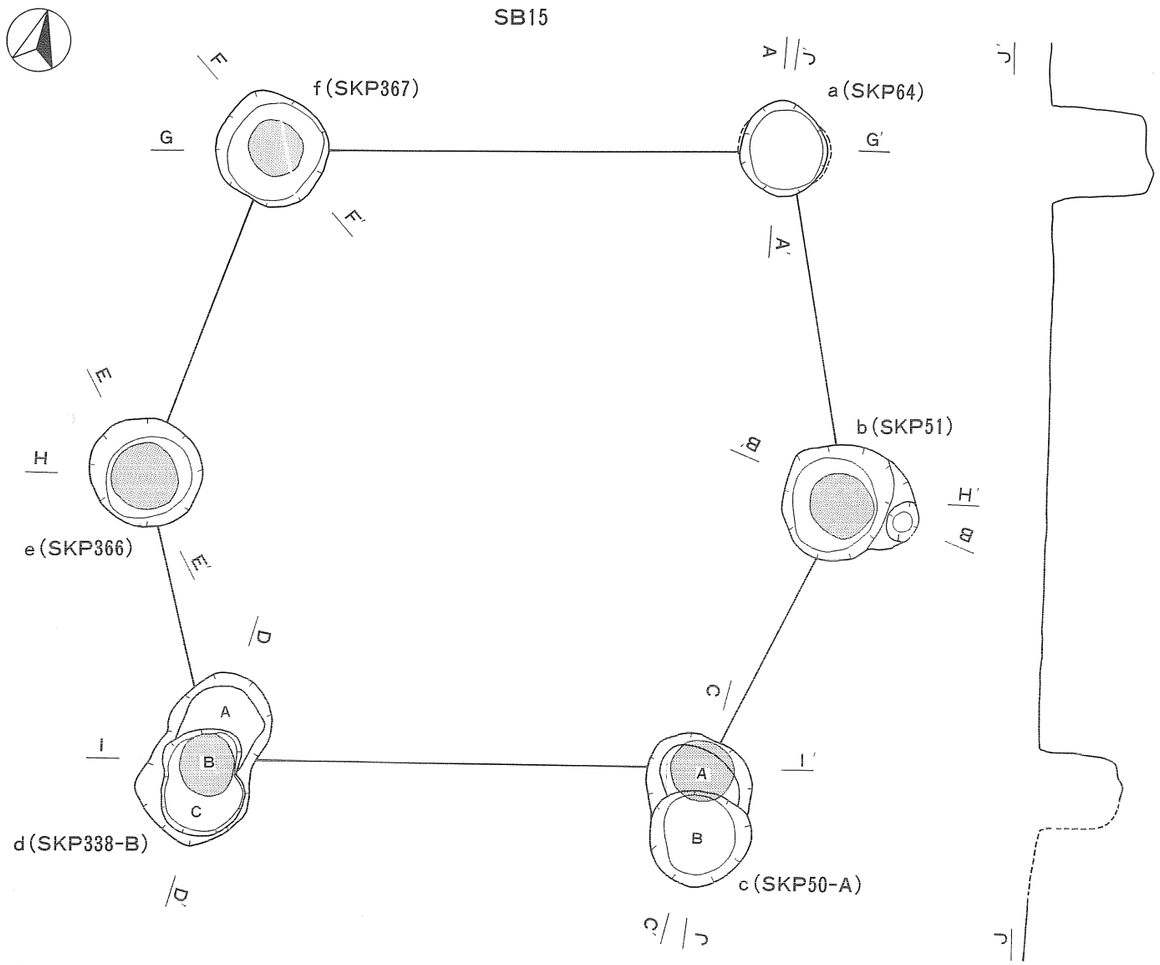
1　黒色土（10Y R2/1）　地山ロームブロック多量含む

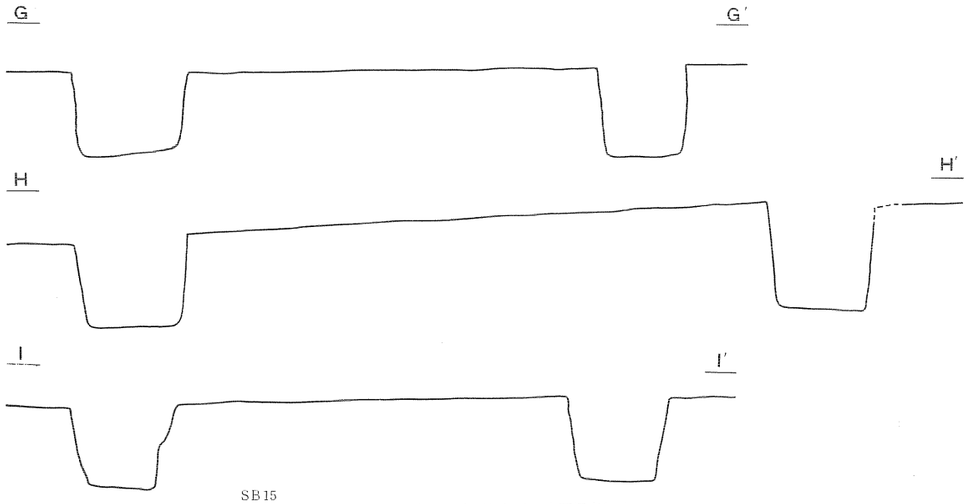


SB14

Ｐｉｔ番号	開口部径(cm)	底面径(cm)	深さ(cm)	底面標高(m)
376A	42	32	44	157.82
71	35	19	57	157.77
36	42×33	21	64	157.75
85	30	19	50	157.77
86	28	19	45	157.80
405	29	20	52	157.67

第23図　ＳＢ14掘立柱建物跡実測図

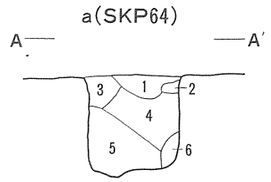




SB15

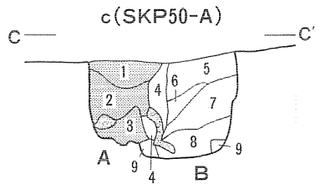
Pit番号	開口部径(cm)	深さ(cm)	底面径(cm)	底面標高(m)
64	55	46	59	157.76
51	75×67	60×54	67	157.77
50A	67	47	53	157.90
338B	62	40	57	157.80
366	73	51	57	157.73
367	73	62	56	157.80

a(SKP64)



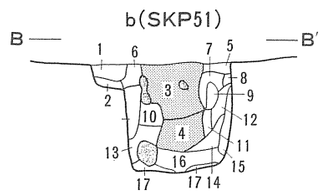
1　黒色土（10YR2/1）　しまりなし、粘性あり　地山ブロック径1～2cm微量
2　褐色土（10YR4/4）　しまりなし、粘性あり　黒褐色（10YR3/2）と混じる
3　黒褐色土（10YR3/2）　しまりなし、粘性あり、地山粒、ブロック径5mm～1cm少量
4　黒褐色土（10YR3/2）　しまりまったくなし　粘性あり、地山粒、ブロック径5mm微量
5　黒褐色土（10YR3/2）　しまりなし、粘性あり、地山粒、ブロック径1～2cm30%
6　暗褐色土（10YR3/3）　しまりなし、粘性あり、地山ブロック多量

c(SKP50-A)



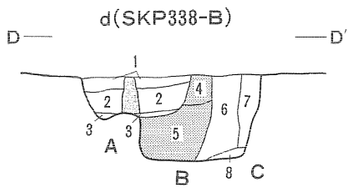
1　黒色土（10YR2/1）　しまりなし、粘性あり
2　黒褐色土（10YR3/2）　しまりに欠け、粘性あり、炭化物微量、地山粒微量
3　黒褐色土（10YR3/1）　しまりややあり、粘性あり、炭化物微量、地山ブロック径1cm30%
4　黒褐色土（10YR3/2）　しまりあり、粘性あり、炭化物微量、地山粒径1～5mm少量
5　暗褐色土（10YR3/4）　しまり強、地山粒・ブロック4層より多い、人為的堆積
6　暗褐色土（10YR3/3）　しまりあり、5層より地山粒、ブロック多い
7　暗褐色土（10YR3/1）　地山ブロックと5・6層の土の混じりで、地山土が大半、人為的堆積
8　黄褐色土（10YR5/6）　地山土ブロック、人為的堆積
9　黒褐色土（10YR3/2）　しまりなし、粘性あり、地山粒微量、古い柱穴、人為的堆積

b(SKP51)



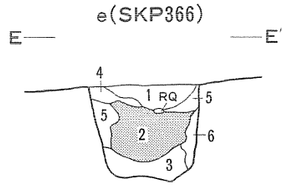
1　黒褐色土（10YR3/2）　しまりにやや欠け、粘性あり、地山粒、ブロック微量
2　黒色土（10YR2/1）　しまりあり、粘性あり、炭化物微量
3　黒色土（10YR2/1）　しまりあり、粒性あり、炭化物、地山粒微量
4　黒褐色土（10YR3/2）　しまりなし、粘性あり、炭化物微量、地山、ブロック少量
5　黒褐色土（10YR3/1）　しまりにやや欠け、粘性あり、地山粒微量
6　黒褐色土（10YR3/2）　しまりなし、粘性あり、1層より薄め、地山粒微量
7　黒褐色土（10YR3/1）　しまり強、粘性あり、地山ブロック径1～3cm微量
8　黄褐色土（10YR5/6）　しまりにやや欠け、粘性あり、地山土
9　褐色土（10YR4/4）　しまりややあり、粘性あり、地山土と黒色土の混じり
10　黒褐色土（10YR3/3）　しまりにやや欠け、粘性あり、地山粒・ブロック少量
11　黒褐色土（10YR3/1）　しまりあり、粘性あり、地山ブロック40%
12　暗褐色土（10YR3/3）　しまりにやや欠け、粘性あり、地山粒30%
13　黒褐色土（10YR3/2）　しまりあり、粘性あり、地山粒微量
14　黄褐色土（10YR5/8）　しまり強、地山土に黒色土混じりの層
15　黄褐色土（10YR5/6）　しまり強、地山の張土
16　黄褐色土（10YR5/4）　しまり強、地山の張土
17　黒色土（10YR2/1）　しまりなし、粘性あり、地山粒微量

d(SKP338-B)



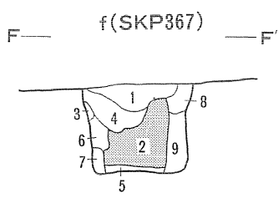
1　黒褐色土（10YR3/2）　しまりややあり、粘性あり、地山粒極微量、毛根多量
2　黒褐色土（10YR3/4）　しまりにやや欠け、粘性あり、径3～5cm少量
3　黄褐色土（10YR5/8）　地山ブロック
4　黒褐色土（10YR3/2）　しまりなし、粘性あり、地山粒微量
5　黒色土（10YR2/1）　しまりややあり、粘性あり、地山粒、ブロック径3～5mm少量20%
6　黒褐色土（10YR3/2）　しまりあり、粘性あり、地山ブロック径1～3cm多量50%
7　黄褐色土（10YR5/6）　しまり強、粘性あり、地山土90%
8　黒色土（10YR2/1）　しまりあり、粘性あり

e(SKP366)



1　黒褐色土（7.5YR3/1）　ローム粒、ローム小ブロック、少量の焼土粒を含む
2　黒褐色土（7.5YR3/2）　しまり非常に良い、少量のロームブロック（小）を含む
3　黒色土（7.5YR1.7/1）　ローム粒を含む
4　暗褐色土（7.5YR3/3）　細かいローム粒混入
5　黒褐色土（7.5YR3/2）　ロームブロック(小)を少量含む
6　黒褐色（7.5YR3/2）　ローム粒、ロームブロック（小）をやや多く含む

f(SKP367)

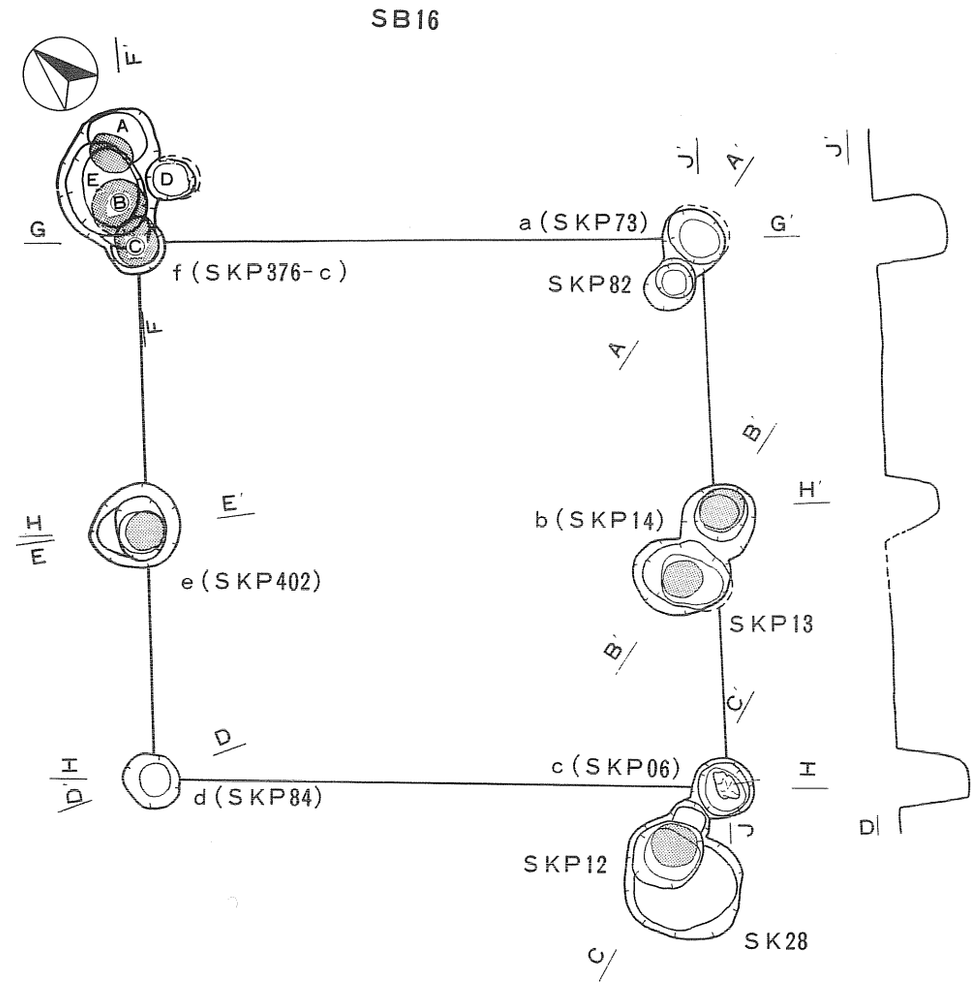


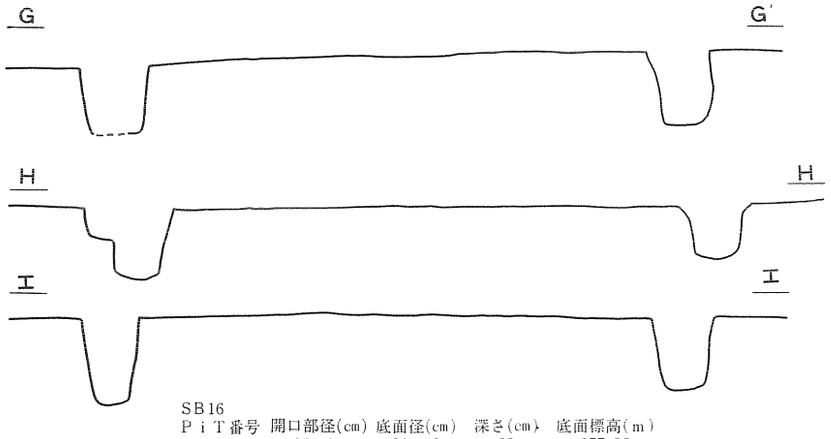
1　黒色土（7.5YR2/1）　しまり良い、ローム粒と少量のロームブロック混入
2　黒褐色土（7.5YR3/1）　しまり良い、ローム小ブロックやや多量に混入
3　黄橙色土（10YR8/8）　地山ロームブロック
4　黒褐色土（10YR3/2）　ローム細粒混入
5　黒色土（7.5YR1.7/1）
6　暗褐色土（10YR3/3）　ローム細粒多量に混入
7　黒色土（7.5YR1.7/1）　ローム粒少量混入
8　明黄褐色（10YR7/6）　ローム粒とロームブロック混入
9　明黄褐色（10YR6/6）　9層よりロームブロックの混入多い

水糸レベル 158.600m

0　2m

第24図　SB15掘立柱建物跡実測図



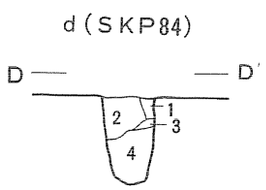


SB16

Pit番号	開口部径(cm)	底面径(cm)	深さ(cm)	底面標高(m)
73	35×30	24×19	39	157.98
14	40	20	35	158.10
06	34	21	37	158.00
84	30	17	48	157.90
402	50×45	24	40	158.02
376C	30	25	37	157.93

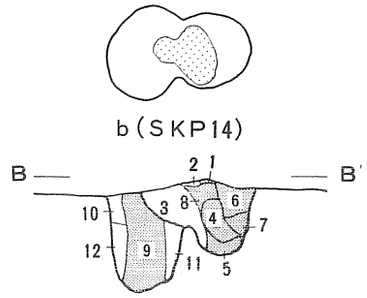
a (SKP73)

d (SKP84)



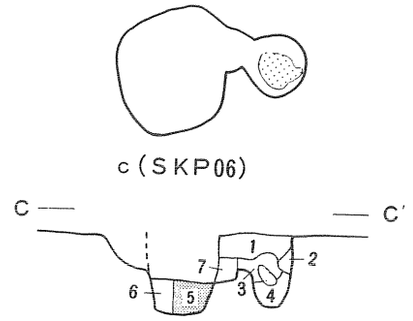
1　暗褐色土（10Y R3/3）　しまりなし・粘性あり・黒褐色土（10Y R2/2)との混じり
2　黒褐色土（10Y R2/2）　しまりやや欠け・粘性あり・焼土粒・炭化物・地山粒極微量
3　暗褐色土（10Y R3/4）　しまりなし・
4　黒褐色土（10Y R2/3）　しまりなし・粘性あり・炭化物微量

b (SKP14)



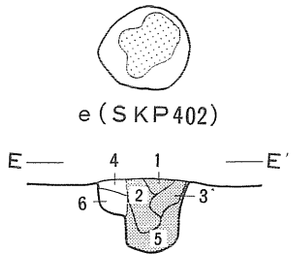
SKP14
1　黒褐色土（7.5Y R2/2）　しまりなし・粘性あり・やや加熱を受けた土
2　暗褐色土（7.5Y R3/4）　しまりにややかけ・粘性ややあり・焼土
3　黒褐色土（7.5Y R2/2）　しまりなし・粘性あり・焼土粒少量・炭化物・炭化物微量
4　褐色土（7.5Y R4/4）　しまり・粘性なし・(7.5Y R4/8）焼土ブロックも混入
5　黒褐色土（10Y R2/3）　しまりなく・粘性あり　焼土粒微量
6　黒褐色土（10Y R2/2）　しまり・粘性あり・焼土粒・炭化物微量
7　暗褐色土（10Y R3/4）　しまり・粘性あり・炭化物・地山粒微量
8　黒褐色土（10Y R2/2）　しまり・粘性あり・焼土粒・炭化物・地山粒微量
SKP13
9　黒褐色土（10Y R2/3）　しまりややあり・粘性あり、地山粒・ブロック少量・炭化物微量
10　暗褐色土（10Y R2/4）　しまり・粘性あり、地山粒微量
11　暗褐色土（10Y R3/3）　しまり・粘性あり・地山粒少量
12　暗褐色土（10Y R3/4）　しまり・粘性あり、地山粒・ブロック多量

c (SKP06)



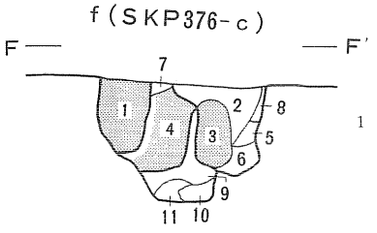
SKP06
1　黒褐色土（10Y R2/2）　しまりなし・粘性あり・焼土粒極微量・地山粒微量
2　黒褐色土（10Y R2/3）　しまりなし・粘性あり
3　黒色土（10Y R2/1）　しまり・粘性あり・焼土粒極微量・地山粒微量
4　黒褐色土（10Y R2/2）　しまり強・粘性あり・地山ブロック多量
SKP12
5　暗褐色土（10Y R3/3）　しまりなし・粘性あり・地山ブロック微量・(10Y R2/2 3/4 2/5）なども混じりあった状態
6　褐色土（10Y R4/4）・しまり・粘性あり
7　黒色土（10Y R2/1）　しまりややあり・粘性あり・炭化物・地山粒微量

e (SKP402)



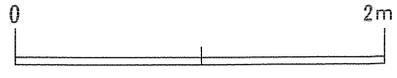
1　暗褐色土（7.5Y R3/4）　しまりややあり・焼土・明赤褐色土（5Y P5/8）の焼土粒混入・炭化物微量
2　暗褐色土（7.5Y R3/3）　焼土・しまりややあり・粘性あり
3 黒褐色土（10Y R2/3）　しまりにややかけ粘性あり・(7.5Y R3/3）が、いくぶん混じっている
4　黒褐色土（10Y R2/2）　しまり・粘性あり　焼土粒微量
5　黒褐色土（10Y R2/3）　しまりに欠け・粘性あり・焼土粒・炭化物微量
6　褐色土（10Y R4/4）　しまり・粘性あり、焼土粒微量

f (SKP376-c)

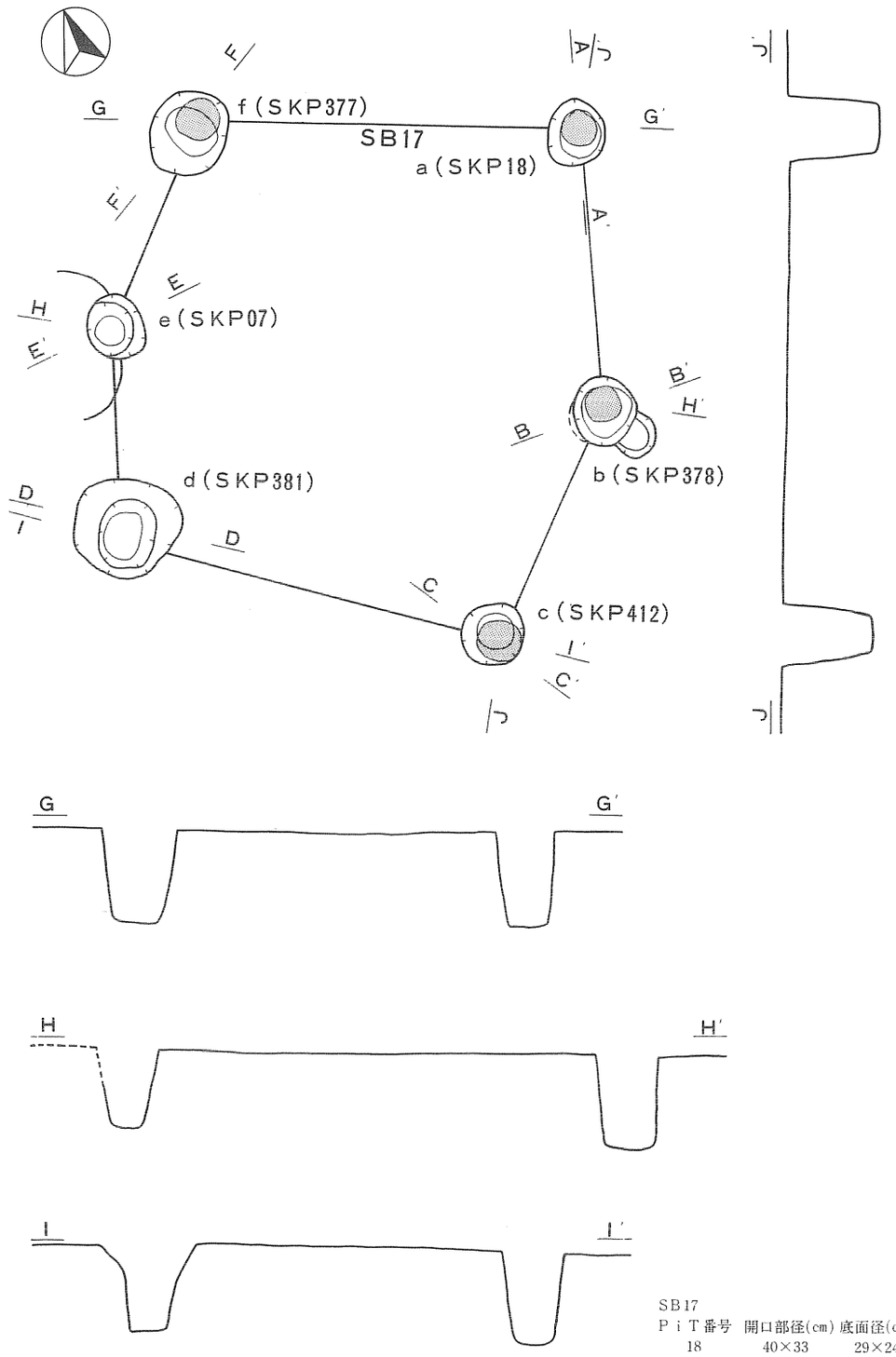


1　黒褐色土（10Y R3/2）　ローム粒・ロームブロック(小)・焼土粒少量混入

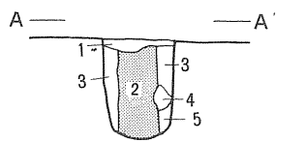
水糸レベル 158.500m



第25図　SB16掘立柱建物跡実測図

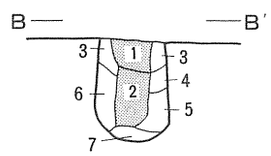


a（SKP18）



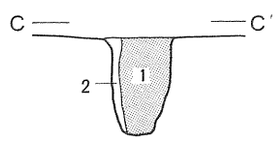
1　黒色土（10Y R2/1）　しまりややあり、粘性あり、地山粒微量
2　黒褐色土（10Y R2/2）　しまりにやや欠け、粘性あり　地山粒１よりやや多く混入　炭化物微量
3　黒褐色土（10Y R2/3）　しまりあり、粘性あり、地山粒・ブロック少量
4　黒褐色土（10Y R2/2）　しまりなし、粘性あり、地山ブロック微量
5　黒褐色土（10Y R2/3）　しまりややあり、粘性あり、地山粒・地山ブロック少量

b（SKP378）



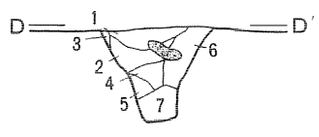
1　黒褐色土（10Y R2/2）　しまりややあり、粘性あり、炭化物・地山粒微量
2　黒色土（10Y R2/1）　しまりにやや欠け、粘性あり、地山粒・地山ブロック径１～３cm微量
3　黒褐色土（10Y R2/3）　しまりあり　粘性あり、地山粒１よりやや多く混入
4　黒褐色土（10Y R2/2）　しまりややあり、粘性あり、地山粒少量
5　黒褐色土（10Y R2/2）　しまりあり　粘性あり、地山粒・地山ブロック径５～10mm少量４より多い
6　黒褐色土（10Y R2/2）　しまりあり　粘性あり、地山ブロック多量
7　黒色土（10Y R2/1）　しまり強、粘性あり、地山ブロック多量

c（SKP412）



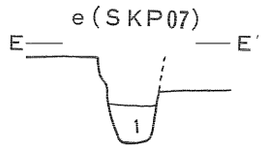
1　黒褐色土（10Y R2/2）　しまりにやや欠け、粘性あり、地山粒・ブロック径１～３cm少量、炭化物微量
2　黒褐色土（10Y R2/3）　しまりややあり、粘性あり、地山粒微量

d（SKP381）



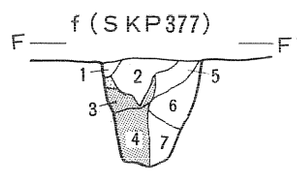
1　黒褐色土（10Y R2/2）　しまりあり、粒性あり、地山粒径１mm未満微量
2　黒褐色土（10Y R2/3）　しまりややあり、粘性あり、地山ブロック径１cm微量
3　黒褐色土（10Y R2/3）　しまりあり、粘性あり
4　黒褐色土（10Y R2/2）　しまりややあり、粘性あり、炭化物・地山粒微量
5　黒褐色土（10Y R2/2）　しまりあり、粘性あり、炭化物微量、地山粒・ブロック少量
6　黒褐色土（10Y R2/3）　しまりあり、粘性あり、炭化物微量、地山粒・ブロック少量
7　黒色土（10Y R2/1）　しまりあり、粘性あり、地山粒微量

e（SKP07）



1　黒褐色土（10Y R2/2）　しまりにやや欠け、粘性強

f（SKP377）

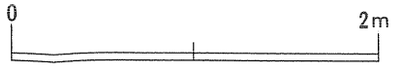


1　黒褐色土（10Y R2/2）　しまりにやや欠け、粘性あり、地山粒・ブロック混入
2　黒褐色土（10Y R2/3）　しまりややあり、粘性あり、地山粒径１～10mm微量
3　黒褐色土（10Y R2/2）　しまりにやや欠け、粘性あり、地山粒微量　ブロック径５～20mm少量
4　黒色土（10Y R2/1）　しまりなし　粘性あり、地山粒微量
5　黒褐色土（10Y R2/2）　しまりあり、粘性あり、地山粒微量
6　黒褐色土（10Y R2/3）　しまりあり、粘性あり、地山ブロック径１～３cm多量
7　黒褐色土（10Y R2/2）　しまりややあり、粘性あり、地山粒・径１cmブロック少量

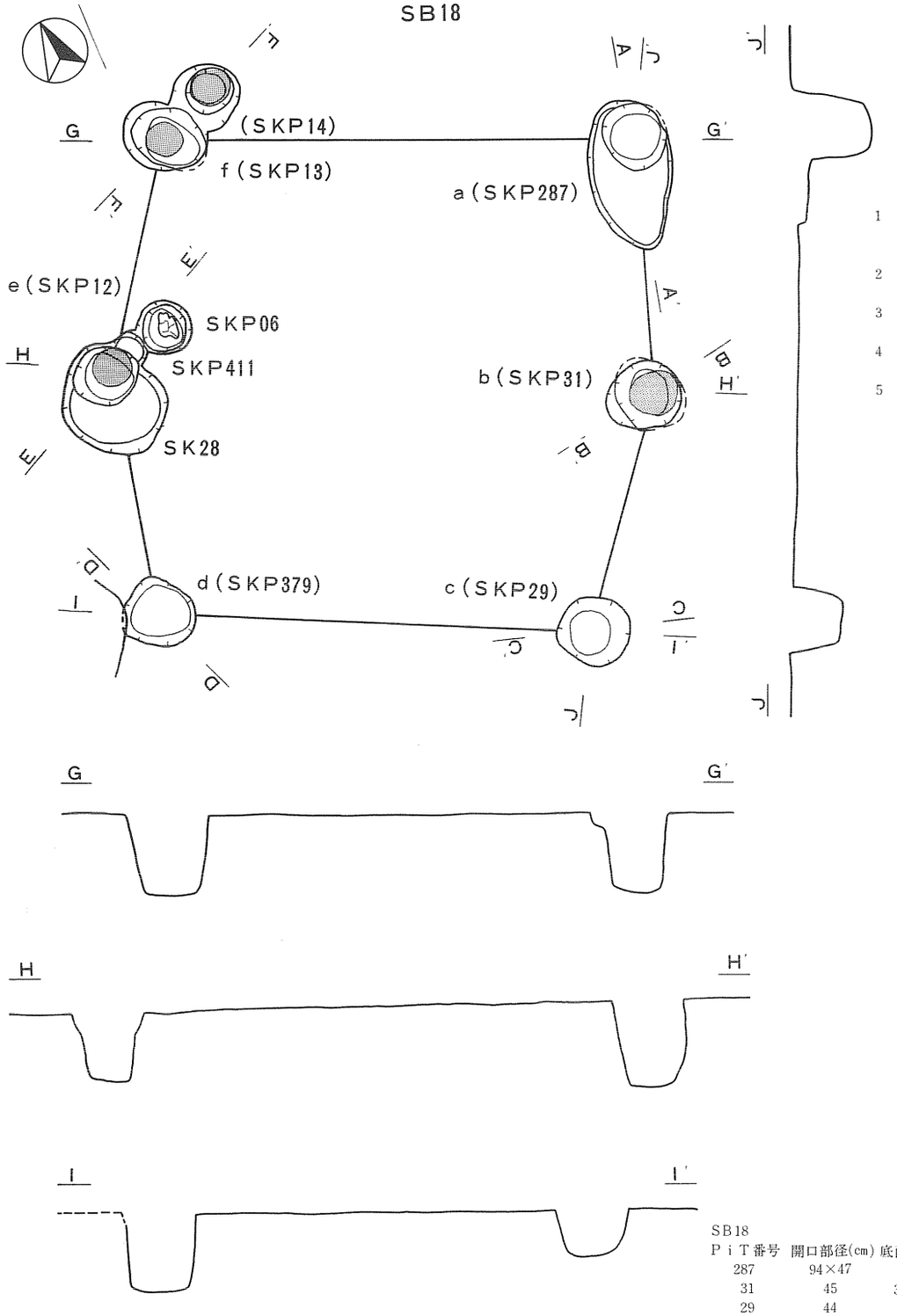
SB17

ＰｉＴ番号	開口部径(cm)	底面径(cm)	深さ(cm)	底面標高(m)
18	40×33	29×24	56	157.84
378	54×33	28	54	157.88
412	36	21	52	157.97
381	59	27×21	49	157.97
07	38	17	46	157.86
377	53×45	32×21	55	157.85

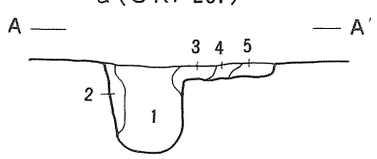
水糸レベル 158.500m



第26図　SB17掘立柱建物跡実測図

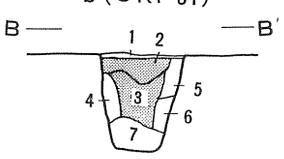


a(SKP287)



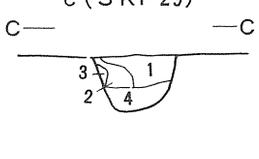
1　黒色土（10Y R2.8/1）　粘土・きめ細かく、固くしまっている、ごくわずかに焼土粒を含む
2　暗褐色土（10Y R3.8/3）　粘土・孔げきなく、固くしまっている
3　にぶい黄橙色（10Y R7.8/3）　きわめて細かな粘土・孔げきは少ない
4　黒色土（10Y R2.8/1）　粘土・孔げきあり・軟質
5　黒褐色土（10Y R3.8/2）　粘土・きめ細かい

b(SKP31)



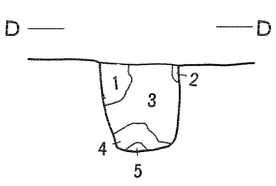
1　黒色土（10Y R2/1）　しまり・粘性あり
2　黒褐色土（10Y R2/2）　しまり・粘性あり・地山粒・ブロック径1～2cm微量、炭化物微量
3　黒褐色土（10Y R2/2）　地山粒微量炭化物2より多い・しまりにやや欠け粘性あり
4　暗褐色土（10Y R3/3）　地山粒微量しまりにやや欠け・粘性あり
5　暗褐色土（10Y R3/3）　地山粒微量しまり・粘性あり
6　暗褐色土（10Y R3/3）　地山粒・ブロック50%混入・しまりややあり・粘性あり
7　黒褐色土（10Y R2/2）　しまりややあり・粒性あり・3より暗く地山粒多し

c(SKP29)



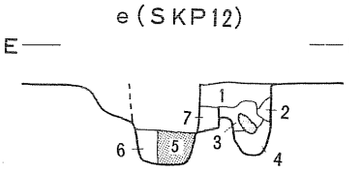
1　黒色土（10Y R2/1）　しまり・粘性あり・地山粒極微量
2　黒褐色土（10Y R2/2）　しまり・粘性あり・地山粒・炭化物微量
3　褐色土（10Y R4/6）　しまり・粘性あり
4　黒色土（10Y R2/1）　しまり・粘性あり

d(SKP379)



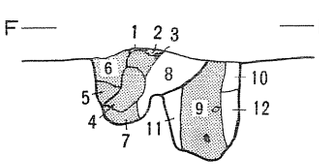
1　黒褐色土（10Y R2/2）　しまりややあり・粘性あり・地山ブロック径1～3cm多量
2　褐色土（10Y R4/6）　しまり・粘性あり・漸移層・崩壊土
3　黒褐色土（10Y R2/2）　を基本としし、(10Y R2/1 2/3)と入り混った層、地山粒・ブロック少量
4　黒色土（10Y R2/1）　しまり・粘性あり・地山粒微量
5　にぶい黄褐色土（10Y R5/4）　粘土

e(SKP12)



5　黒色土（10Y R2/1）　しまり・粘性あり・焼土粒極微量・地山粗微量
6　黒褐色土（10Y R2/2）　しまり強粘性あり・地山ブロック多量
1～4、7は第25図を参照

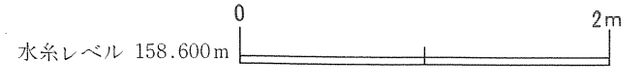
f(SKP13)



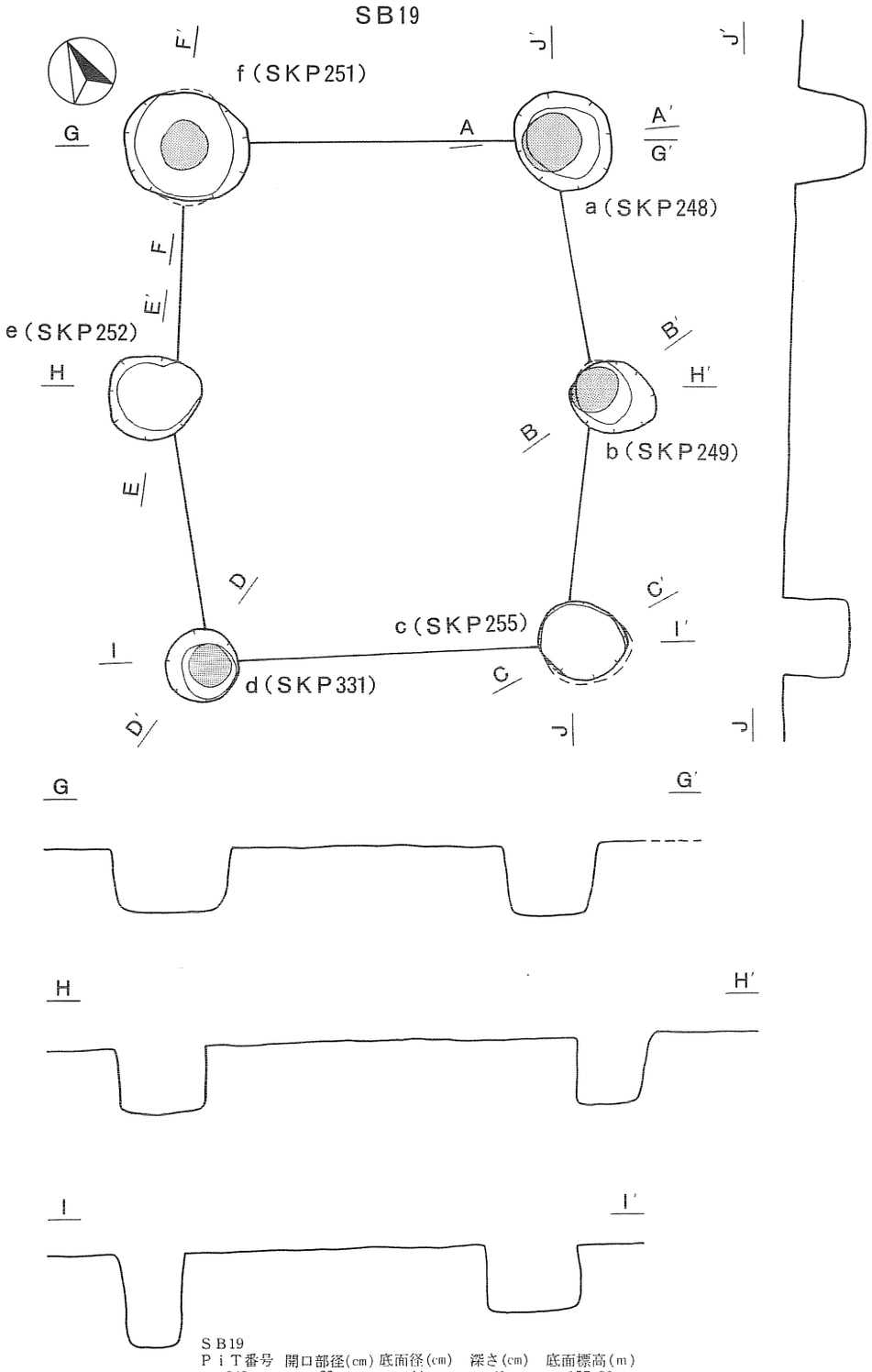
SKP 13
9　黒褐色土（10Y R2/3）　しまりややあり・粘性あり・地山粒・ブロック・炭化物微量
10　暗褐色土（10Y R3/4）　しまり粘性あり・地山粒微量
11　暗褐色土（10Y R3/4）　しまり粘性あり・地山粒少量
12　暗褐色土（10Y R3/4）　しまり粘性あり・地山粒・ブロック多量
1～8は第25図を参照

SB18

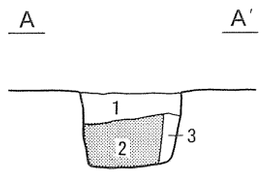
PiT番号	開口部径(cm)	底面径(cm)	深さ(cm)	底面標高(m)
287	94×47	30	46	157.94
31	45	30×24	54	157.91
29	44	25	31	157.14
379	44	35	47	157.95
12	40	30	42	157.95
13	52×40	34×25	50	157.89



第27図　SB18掘立柱建物跡実測図

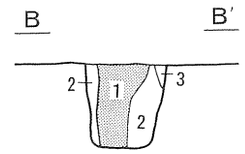


a（SKP248）



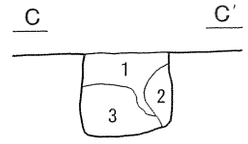
1　黒色土（10YR3/1）　しまっている。ごく少量の黄褐色土ブロック（軽石）を含む
2　黒褐色土（10YR3/2）　粘土～シルト、孔げきあり、軟質黄褐色土ブロック（軽石）を1割程度含む
3　黒褐色土（10YR3/2）　粘土～シルト、かたくしまっている、黄褐色土ブロック（軽石）を3割程度含む

b（SKP249）



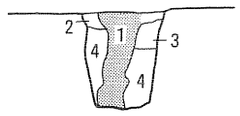
1　黒色土（10YR3/1）　ローム粒とローム小ブロック，炭化物混入、しまりやや悪い、柱痕部分
2　にぶい黄褐色土（10YR4/3）やや多量のローム粒とロームブロック（大～小）混入しまり良い
3　褐色土（10YR4/4）　ローム粒から成る。

c（SKP255）



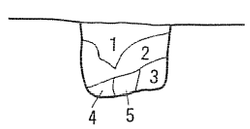
1　黒褐色土（10YR3/2）　ローム粒と炭化物・少量のロームブロック混入
2　暗褐色土（10YR3/3）　ローム粒とロームブロック（中～小）やや多量に混入、しまり良い
3　黒色土（10YR2/1）　ローム粒とローム小ブロック，少量のローム大ブロック混入、しまり良い

d（SKP331）



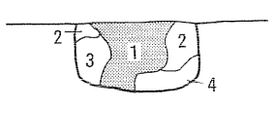
1　黒褐色土（10YR3/2）　やや孔げきあり、木炭・焼土粒をごく少量含む、わずかに黄褐色粒を含む
2　暗褐色土（10YR3/3）　粘土孔げき少なくしまっている
3　黒褐色土（10YR3/3）　粘土孔げき少なく比較的しまっている、ごく少量の黄褐色粒を含む
4　黒褐色土（10YR3/2）　シルト、孔げき多く軟質、わずかに焼土粒を含む、上部で軽石ブロックを含む

e（SKP252）



1　黒色土（10YR2/1）　粘土、孔げきあり、軟質、ごく少量の黄褐色土ブロック（軽石）を含む
2　黒褐色土（10YR3/2）　粘土孔げきあり、軟質、黄褐色土ブロック（軽石）1割程度含む
3　褐色土（10YR4/6）　シルト軽石がつぶれて粒子状になった土、暗褐色土を4割程度含む
4　黒褐色土（10YR3/2）　粘土孔げきあり・軟質、黄褐色土ブロック（軽石）を3割程度含む
5　黒褐色土（10YR3/2）　粘土～シルト、孔げきあり、軟質ごく微量の黄褐色土粒含む

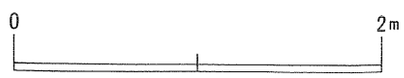
f（SKP251）



1　黒色土（10YR1.7/1）　粘土、孔げきあり、ごく少量の黄褐色土ブロック（軽石）を含む
2　黄褐色土（10YR5/6）　軽石がつぶれて粒子状になった土孔げきあり、軟質あり
3　黒褐色土（10YR3/2）　粘土からシルト、孔げきあり，黄褐色土ブロック（軽石）ないし黄褐色土粒1割程度含む
4　黒色土（10YR2/1）　粘土、比較的しまっている、北側で黄褐色土ブロック（軽石）を3割程度含む

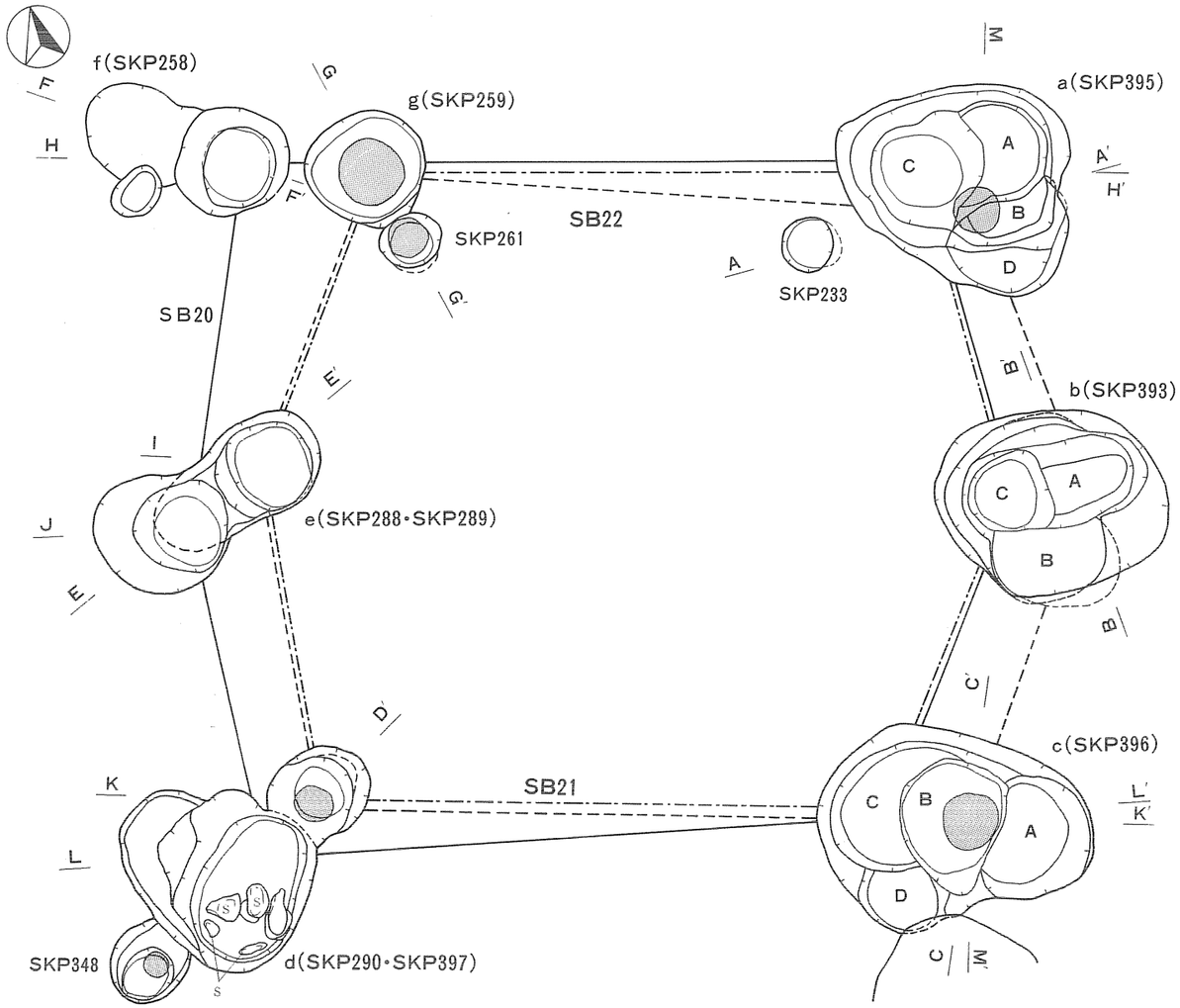
SB19

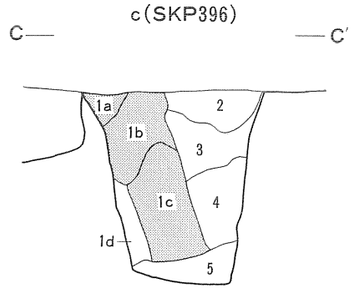
PIT番号	開口部径(cm)	底面径(cm)	深さ(cm)	底面標高(m)
248	60	44	41	157.90
249	52×44	33	47	157.91
255	52	48	45	157.98
331	43	32	54	157.85
252	55	43	41	157.90
251	75×63	58	37	157.93



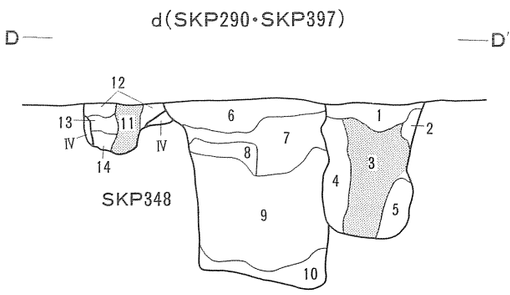
水糸レベル 158.600m

第28図　SB19掘立柱建物跡実測図

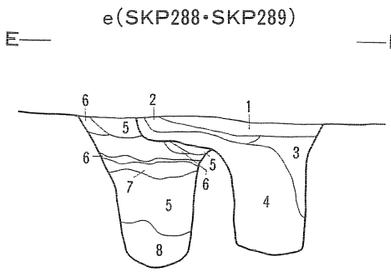




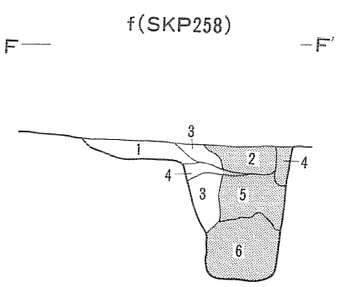
1a　黒褐色土（10YR3/2）　シルト、孔げき多く軟質、若干の焼土粒、少量の軽石、木炭を含む
1b　黒褐色土（10YR3/3）　シルト～粘土、孔げき少なくしきっている、焼土粒、木炭を僅かに含む、軽石30%程、軽石の径は1c層より大きく最大100mmの大きさがある
1c　黒褐色土（10YR3/3）　やや孔げきあり、軟質、少量の焼土粒・木炭、30%程軽石を含む、軽石の径は20mm程
1d　黒褐色土（10YR3/2）　粘土、孔げき多く軟質、水分を含む、少量の軽石を含む
2　黒褐色土（10YR3/2～3/3）　シルト、孔げき少なくしまっている、僅かに木炭粒を含む、軽石を40%程含む、径最大50mm
3　暗褐色～明黄褐色土（10YR3/3～5/6）　シルト～砂、孔げきが少なくしまっている、軽石と暗褐色土の混じりあった土、軽石は径小さく最大20mm程
4　重褐色土（10YR5/1）　軽石層、20%程の黒褐色土がすきまを埋める、軽石の径は大きく最大100mm、平均40mm
5　黒色土（10YR1.7/1）　粘土、僅かに孔げきあり、水分を含む、少量の軽石を含む



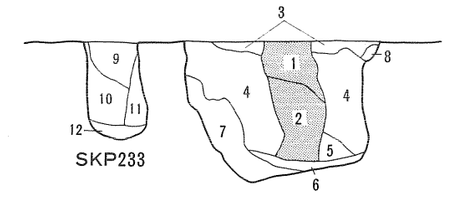
（SKP290）
1　黒褐色土（10YR2.8/2）　粘土～シルト、堅くしまっている、少量の木炭を含む
2　明黄褐色土（10YR6.8/6）　軽石ブロック、孔げきあって軟質
3　黒褐色土（10YR2.8/3）　粘土～シルト、黄褐色土粒ごく少量含む
4　明黄褐色土（10YR6.8/6）　軽石、孔げきあって軟質、部分的に黒褐色土を含む、僅かに焼土粒を含む
5　暗褐色土（10YR3.0/3）　シルト、孔げき大、黄褐色土・褐色土、黒色土の混合土
（SKP397）
6　黒褐色土（10YR2.8/3）　粘土～シルト、孔げきあり、軟質、黄褐色土粒少量含む
7　黒褐色土（10YR3.8/2）　シルト、孔げきあり、極めて軟質、20%程軽石を含む
8　明黄褐色土（10YR6.8/6）　軽石層、30%程黒褐色土を含む
9　明黄褐色土（10YR6.8/6）　軽石層、40%程黒褐色土を含む
10　黒色土（10YR1.7/1）　粘土、水分を多く含む
（SKP348）
11　黒褐色土（10YR3/2）　シルト、孔げき少なくしまっている、僅かに下部で黄褐色土粒含む
12　黒褐色土（10YR3/2～3/3）　粘土、孔げき多く軟質、黄　色土粒が少量混じる
13　黒褐色土（10YR3/2）　粘土、孔げき少なくしまっている、黄褐色土粒下部に含む
14　黒褐色土（10YR3/3）　粘土　孔げき少なくしまっている



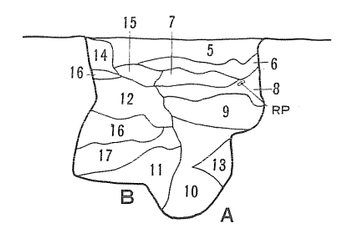
（SKP288）
1　黒褐色土（10YR2.8/2）　粘土～シルト、僅かに孔げきあり、ごく少量黄褐色土粒、木炭を少量含む
2　褐色土（10YR4.8/4）　シルト～砂、僅かに粘性あり、黄褐色土ブロックを40%程含む
3　黒褐色土（10YR2.8/2）　粘土、孔げきあり、軟質、黄褐色土ブロック10%程、木炭を少量含む
4　黒褐色土（10YR2.8/2）　粘土、比較的しまっている、黄褐色土ブロック20%程含む
（SKP289）
5　明黄褐色土（10YR6.8/6）　堅くしまっている、軽石のブロック
6　黒褐色土（10YR2.5/2）　粘土、孔げき少なく、比較的しまっている
7　黄橙色（10YR7.8/8）　軽石、きわめて堅くしまっている
8　黒褐色土（10YR3.8/2）　粘性あり、孔げきあり、軟質



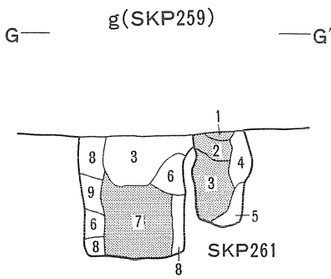
1　黒色土（10YR3/1）　粘土、しまりあり、極少量の黄褐色土ブロック（軽石）を含む
2　黒褐色土（10YR3/2）　ややしまりあり、小粒の黄褐色土ブロック（軽石）30%程
3　明黄褐色土（10YR6/8）　軽石のブロック孔げきあり、軟質
4　黒褐色土（10YR3/2）　粘土、孔げきあり、軟質、黄褐色土ブロック（軽石）20%程
5　黒褐色土（10YR3/2）　粘土、孔げきあり、黄褐色土ブロック（軽石）20%程
6　黒褐色土（10YR3/2）　粘土～シルト、孔げきあり、軟質



（SKP395）
1　黒褐色土（10YR3/2）　焼土粒・焼土ブロック・ローム小ブロック・炭化物混入
2　黒褐色土（10YR3/1）　しまり悪い、ロームブロック（中～小）少量の焼土ブロック、炭化物混入
3　黒褐色土（10YR3/2）　少量の焼土粒とローム小ブロック混入
4　にぶい黄褐色土（10YR5/4）　しまり良、多量のロームブロック（大～小）少量の焼土ブロック、炭化物混入
5　黒褐色土（10YR3/3）　少量のロームブロック（中～小）混入
6　黒色土（10YR2/1）　少量のローム小ブロック、炭化物混入
7　黄褐色土（10YR5/6）　しまり良い、多量のロームブロック（大～中）から成る
8　にぶい黄褐色土（10YR5/3）　ローム粒やや多く混入
（SKP233）
9　黒褐色土（10YR3/2）　少量のローム粒、ロームブロック、炭化物混入
10　黒褐色土（10YR3/2）　やや多量のローム小ブロック、小量のローム中ブロック炭化物混入
11　明黄褐色土（10YR5/8）　しまり良い、ロームブロック（中～小）多量に混入
12　黒褐色土（10YR3/2）　少量のロームブロック（小）混入



1　黒褐色土（10YR3/2）　ロームブロック少量混入
2　暗褐色土（10YR3/3）　しまり良い、ローム粒・ローム小ブロック・焼土粒・炭化物混入
3　黒褐色土（10YR3/2）　しまり良い、ロームブロック（大～小）少量の焼土粒・炭化物混入
4　黒褐色土（10YR3/2）　しまり良い、多量のロームブロック（中～小）少量の焼土粒混入
5　明黄褐色土（10YR6/6）　しまり非常に良い、ローム大ブロックとその間を黒色土が埋めるように堆積、黒色土中には焼土粒が混入
6　明黄褐色土（10YR7/6）　しまり非常に良い、ローム大ブロックが密に堆積している
7　黒色土（10YR2/1）　しまりやや悪い、多量のローム小ブロック、少量の焼土粒混入
8　黒褐色土（10YR3/2）　しまり良い、少量のローム粒・焼土粒・ロームブロック（小）混入
9　黄褐色土（10YR5/8）　ローム粒とローム大ブロック混入
10　黒色土（10YR2/1）　しまり良い、ローム小ブロック少量混入
11　暗褐色土（10YR3/4）　しまり良い、ローム小ブロック多量に混入
12　黄褐色土（10YR5/6）　しまり良い、ローム粒・ローム小ブロック密に混入
13　暗褐色土（10YR3/4）　しまり良い、ローム粒・ローム小ブロックが16層よりも密に混入、焼土粒も少量混入

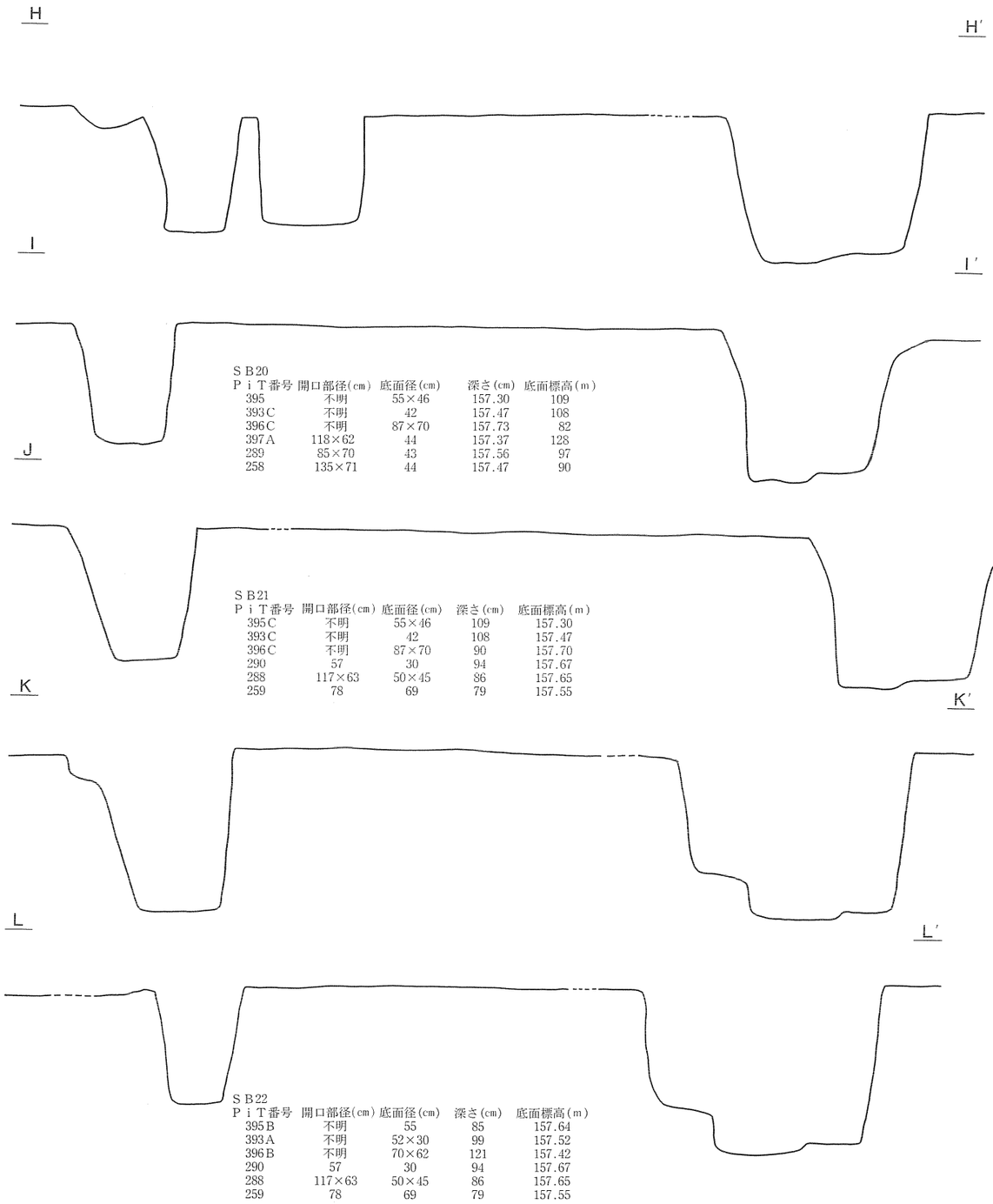


1　黒褐色土（10YR3/2）　粘土、しまりあり、軟質、黄褐色土粒を若干含む
2　黒色土（10YR3/1）　粘土、しまりあり、1㎝大の黄褐色土粒を5%程含む
3　黒褐色土（10YR3/4）　粘土、孔げき少なくしまりあり、数mm～2㎝大の黄褐色粒を40%含む
4　黒褐色土（10YR3/2）　粘土、しまりなくパサついている、軟質；極微量の黄褐色土粒を含む
5　暗褐色土（10YR3/3）　粘土、孔げき少なくしまりあり、1mm～2㎝大の黄褐色土粒を40%含む
6　黒色土（10YR1.7/1）　粘土、しまり中、軟質、数mm～3㎝大の黄褐色土粒を50%含む
7　黒褐色土（10YR3/3）　粘土、しまりあり、軟質、孔げきあり、数mm～2㎝の黄褐色土粒70%
8　明黄褐色土（10YR6/8）　シルト、しまり中、水分を多く含む
9　黒褐色土（10YR3/2）　粘土、しまりなくサラサラ、数mm～1㎝大の黄褐色土を60%含む

水糸レベル 159.000m

0　2m

第29図　SB20・21・22掘立柱建物跡実測図(1)



SB20

Pit番号	開口部径(cm)	底面径(cm)	深さ(cm)	底面標高(m)
395	不明	55×46	157.30	109
393C	不明	42	157.47	108
396C	不明	87×70	157.73	82
397A	118×62	44	157.37	128
289	85×70	43	157.56	97
258	135×71	44	157.47	90

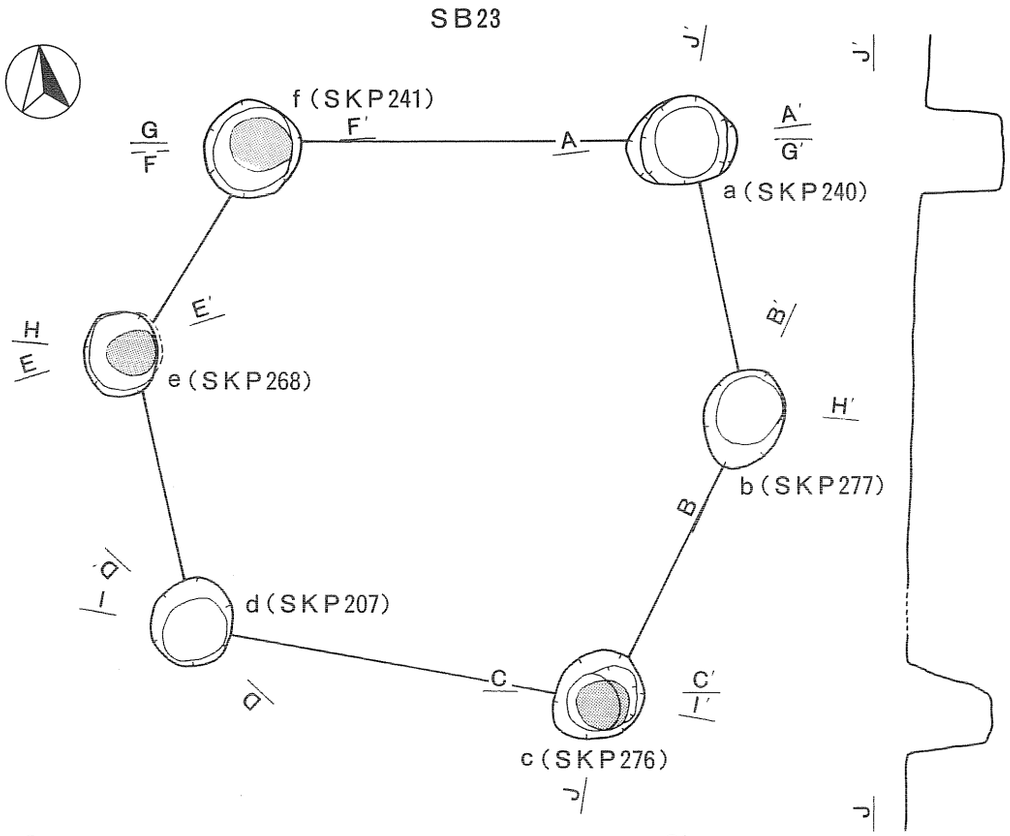
SB21

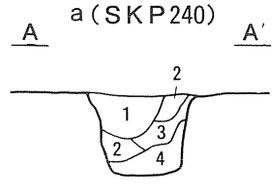
Pit番号	開口部径(cm)	底面径(cm)	深さ(cm)	底面標高(m)
395C	不明	55×46	109	157.30
393C	不明	42	108	157.47
396C	不明	87×70	90	157.70
290	57	30	94	157.67
288	117×63	50×45	86	157.65
259	78	69	79	157.55

SB22

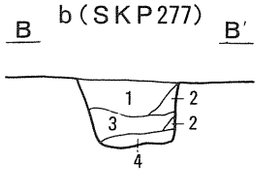
Pit番号	開口部径(cm)	底面径(cm)	深さ(cm)	底面標高(m)
395B	不明	55	85	157.64
393A	不明	52×30	99	157.52
396B	不明	70×62	121	157.42
290	57	30	94	157.67
288	117×63	50×45	86	157.65
259	78	69	79	157.55

第30図　SB20・21・22掘立柱建物跡実測図(2)

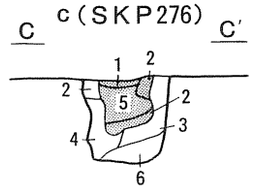




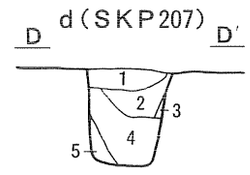
1　黒色土（10YR3/1）　ローム粒とローム小ブロック混入
2　黒褐色土（10YR3/2）　ロームブロック（中～小）少量混入、しまり良い
3　黒色土（10YR3/1）　1層とほぼ同じだが、ローム粒の混入量が多く、炭化物も観察される、しまりやや良い
4　暗褐色（10YR3/3）　ロームブロック（中～小）多量に混入、しまり非常に良い



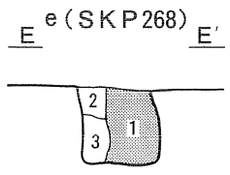
1　黒褐色土（10YR3/2）　微細ローム粒とローム粒全体に混入
2　褐色土（10YR4/4）　多量のローム粒とロームブロック（中～小）混入、しまりやや悪い
3　黒褐色土（10YR3/3）　少量のローム粒と焼土粒混入、しまり悪い
4　黒色（10YR1/1）　ローム小ブロック少量混入、しまり良い



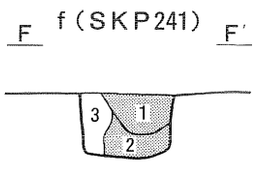
1　黒褐色土（10YR3/2）　粘土・しまり弱い、数mm～1cm大の黄褐色土粒（軽石）を40%程度含む
2　暗褐色土（10YR3/3）　しまりあり、黄褐色土粒（軽石）を60%混入
3　にぶい黄褐色土（10YR4/3）　固くしまっている、黄褐色土粒（軽石）を80%むらなく混入
4　にぶい黄褐色土（10YR4/3）　3に比べ混入率が50%程度
5　暗褐色土（10YR3/4）　粘土・しまり弱、細粒状の黄褐色土粒を40%混入
6　褐色土（10YR4/4）　固くしまっている、黄褐色土粒30%混入



1　黒褐色土（10YR3/2）　やや多量のローム粒・少量の焼土粒混入
2　黒褐色土（10YR3/2）　少量のローム粒とローム中ブロック混入、しまり良い
3　褐色土（10YR4/4）　ローム粒多量に混入
4　黒褐色土（10YR3/2）　ロームブロック（中～小）少量混入、しまり良い
5　黒褐色土（10YR3/2）　ローム大ブロック少量混入、しまり良い



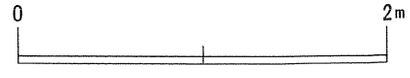
1　黒色土（10YR3/1）　少量のローム粒・ローム小ブロック混入、しまりやや悪い
2　黒褐色土（10YR3/3）　やや多くのローム粒とローム小ブロック混入、しまりやや良い
3　黄褐色土（10YR5/6）　やや多くのロームブロック（中～小）少量のローム大ブロック混入、しまり良い



1　黒色土（10YR3/1）　少量のローム粒混入、しまり良い
2　黒褐色土（10YR3/2）　ローム粒全体に分布し、少量の焼土粒とローム中ブロック混入、しまり良い
3　黒褐色土（10YR3/2）　ローム粒焼土粒・ローム中ブロック混入、しまり良い

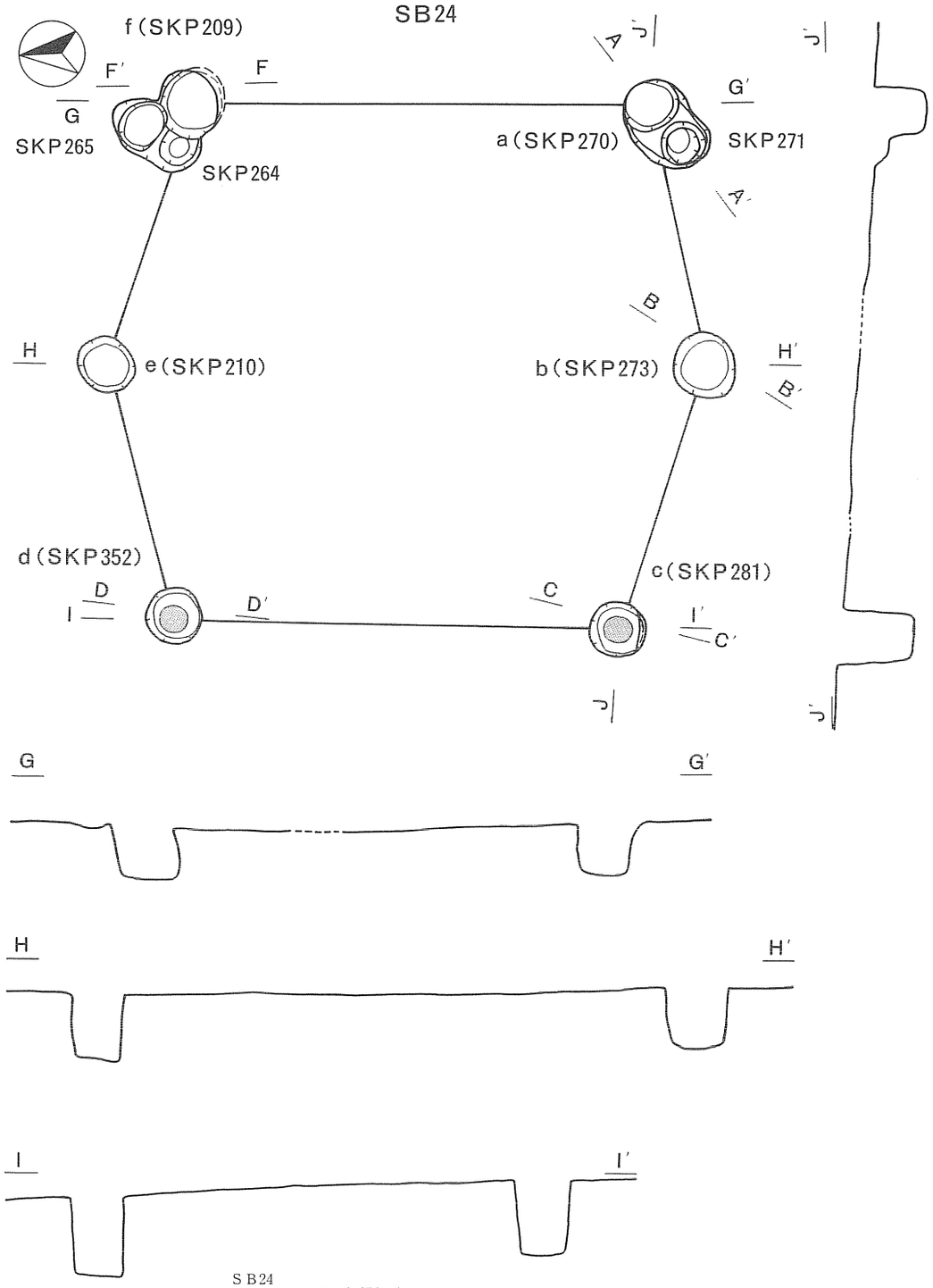
SB23

PiT番号	開口部径(cm)	底面径(cm)	深さ(cm)	底面標高(m)
240	59×46	35	45	157.88
277	56×44	35	39	158.03
276	53×47	30	48	157.94
207	46	35	53	157.97
268	46×40	39	40	157.97
241	51	41	34	158.00



水糸レベル　158.600m

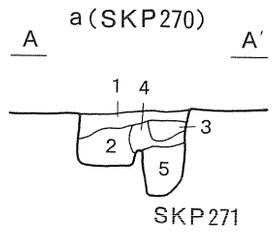
第31図　SB23掘立柱建物跡実測図



SB24

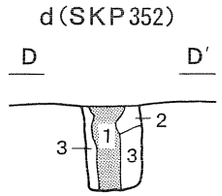
PIT番号	開口部径(cm)	底面径(cm)	深さ(cm)	底面標高(m)
270	46	27	30	158.10
273	39	29	39	158.17
281	34	28	46	158.20
352	34	27	48	158.07
210	37	26	38	158.10
209	43	33	32	158.09

a(SKP270)



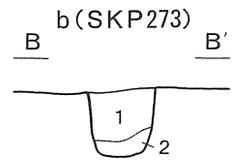
1　黒褐色土（10YR3/2）　しまりあり・粘土孔げきあり・少量の黄褐色土粒・軽石を5%程度含む
2　暗褐色土（10YR3/3）　ややしまりあり・粘土・孔げきあり・少量の黄褐色土粒・軽石を5%程度含む
3　黒褐色土（10YR3/2）　強くしまっている粘土・数mm～1cm大の黄褐色土ブロック・軽石を40%含む
4　黒褐色土（10YR3/2）　強くしまっている粘土・数mm～1cm大の黄褐色土ブロック・軽石を60%含む
5　暗褐色土（10YR3/3）　ややしまりあり・孔げきあり・むらなく数mm～1cm大の黄褐色土ブロックを80%程度混入

d(SKP352)



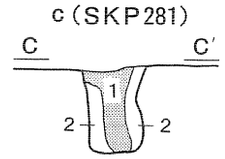
1　黒褐色土（10YR3/2）　シルト・軟質・少量の黄褐色土粒を含む
2　黒色土（10YR2/1）～黒褐色土(10YR3/2)　粘土・孔げき少なくしまっている・黄褐色土ブロック・軽石を少量含む
3　褐色土（10YR4/4）　シルト～砂・孔げき少なく固くしまっている・黄褐色土ブロック・軽石を4割程度含む

b(SKP273)



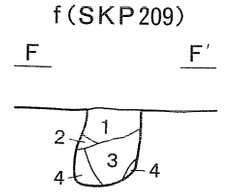
1　黒褐色土（10YR3/2）　少量のローム粒と炭化物混入
2　黒褐色土（10YR3/2）　ローム中ブロック少量混入・しまり良い

c(SKP281)

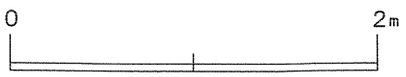


1　黒褐色土（10YR2/1）　粘土・孔げき少なく・比較的しまっている・少量木炭を含む・わずかに黄褐色土ブロックを含む
2　黒褐色土（10YR3/4）　粘土・やや孔げきあり・黄褐色土粒を含む

f(SKP209)

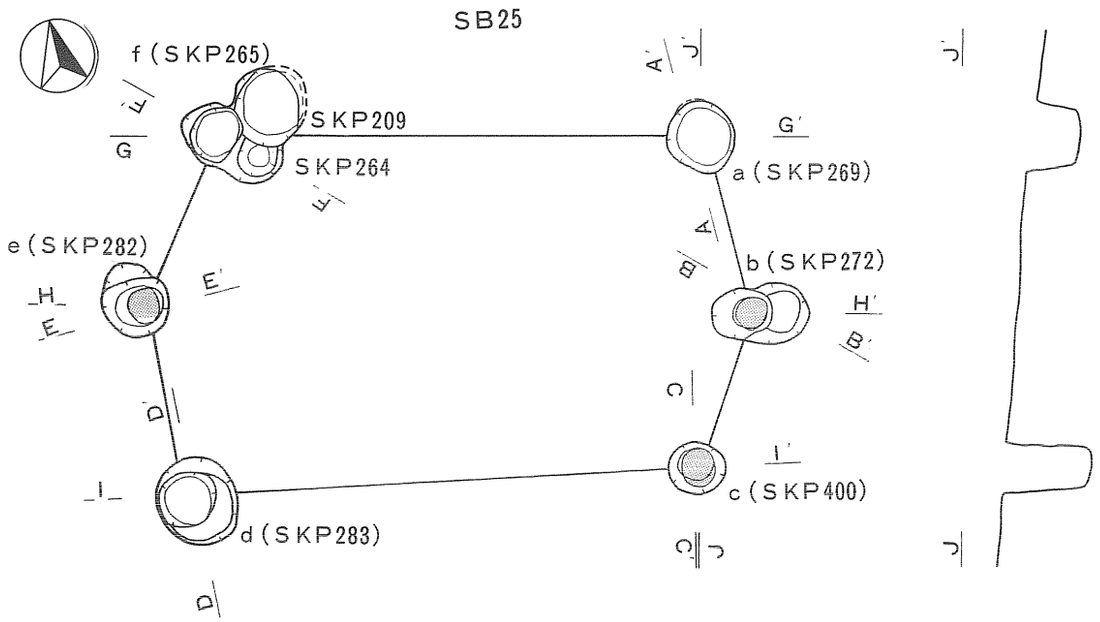


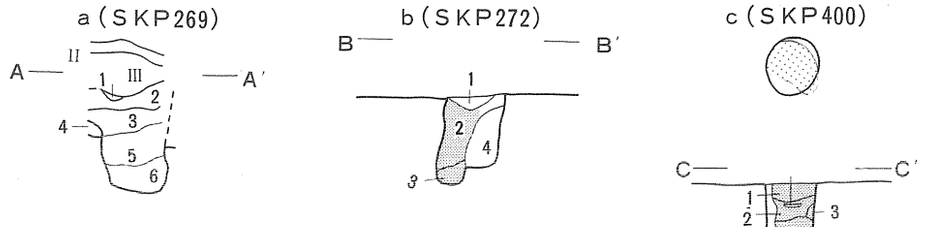
1黒黒褐色土（10YR3/1）　少量のローム粒・炭化物混入
2　黄橙色土（10YR7/8）　しまり良いローム粒から成る
3　黒褐色土（10YR2/2）　しまり良い少量のローム粒とローム小ブロック混入
4　暗褐色土（10YR3/4）　しまり良いローム中ブロック混入



水糸レベル 158.700m

第32図　SB24掘立柱建物跡実測図

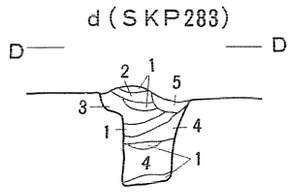




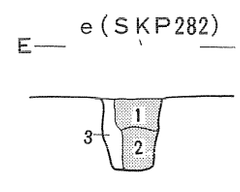
a（SKP269）
1　黒褐色土（10Y R2/2）　やや孔げきあり
2　黒色土（10Y R2/1）　孔げき少なくしまっている焼土粒含
3　黒色土（10Y R2/1）　孔げき少なく比較的しまっている
4　黒褐色土（10Y R3/2）　孔げき少なくしまっている、緊密な土
5　黒褐色土（10Y R2/2）　孔げき少なくしまっている、焼土粒・少量の軽石を含む
6　黒褐色土（10Y R2/2）　孔げきややあり軟質、黄色土粒少量含む

b（SKP272）
1　黒褐色土（10Y R3/2）　ローム小ブロック少量混入
2　黒褐色土（10Y R2/2）　しまりやや悪い・ローム粒・少量の焼土粒混入
3　黒褐色土（10Y R2/2）　しまり良い、ローム中ブロック少量混入
4　暗褐色土（10Y R3/4）　ローム粒多量・焼土粒少量混入

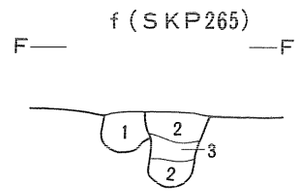
c（SKP400）
1　暗赤褐色土（5Y R3/2）　しまり良い、焼土粒多量・焼土小ブロック少量・炭化物混入
2　赤褐色土（5Y R4/6）　しまり良い、焼土粒多量・焼土ブロック・炭化物少量混入
3　赤黒色（2.5Y R2/1）焼土粒少量含む
4　暗赤褐色土（2.5Y R3/6）しまりやや良い、焼土粒多量・炭化物少量混入
5　暗赤褐色土（5Y R3/3）　しまりやや悪い、焼土粒・炭化粒混入



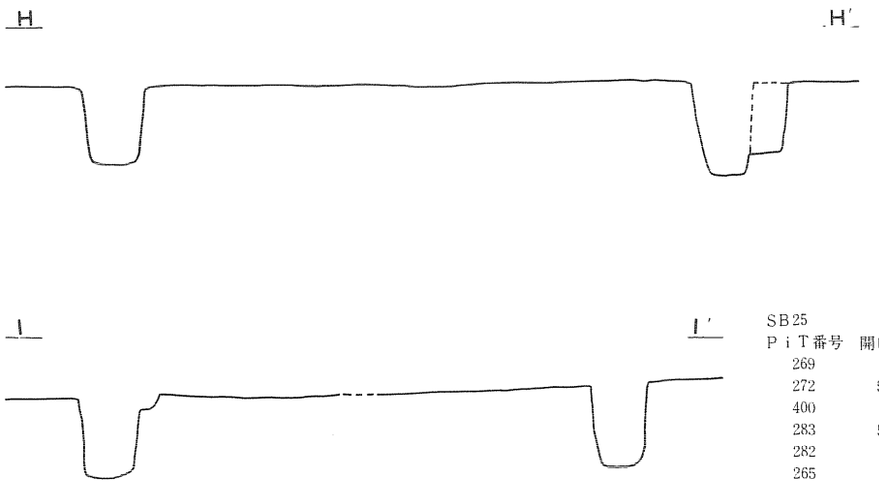
d（SKP283）
1　にぶい赤褐色土（5Y R48/4）粘性あり軟質、木炭粒少量含
2　黒褐色土（7.5Y R2.8/2）シルト孔げきあり、軟質、木炭粒少量含
3　暗褐色土（7.5Y R3.8/3）シルト孔げきあり、きわめて柔かい焼土粒を含む
4　黒色土（10Y R2.8/1）　シルト黄褐色粒を少量含む孔げきあり、柔かい
5　黒褐色土（10Y R2.8/2）　孔げき少なくしまっている



e（SKP282）
1　黒褐色土（10Y R3/2）　焼土粒・炭化物・ローム粒混入
2　赤褐色土（5Y R4/6）　焼土粒多量・炭化物少量混入
3　黒褐色土（10Y R2/2）　ローム粒・ローム小ブロック混入硬質



f（SKP265）
1　黒褐色土（10Y R2/3）　しまり良い、ローム粒・焼土粒・炭化物混入
2　極暗赤褐色土（5Y R2/3）　しまり良い、焼土粒・焼土ブロック・炭化物多量混入
3　黒褐色土（5Y R2/1）　ローム粒・焼土粒全体に混入、ロームブロック少量混入



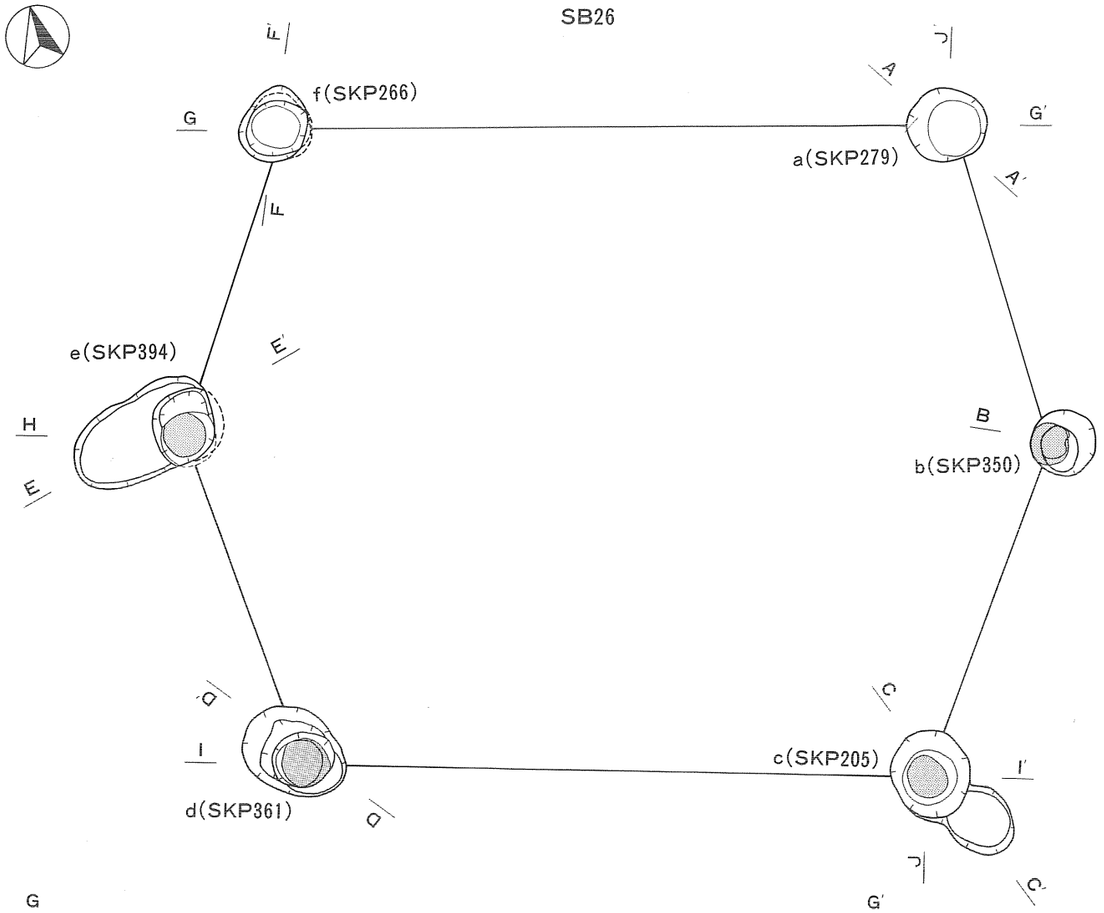
水糸レベル 158.800m

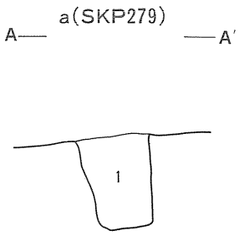
0　2m

SB25

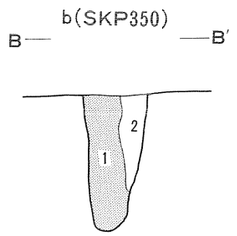
PiT番号	開口部径(cm)	底面径(cm)	深さ(cm)	底面標高(m)
269	37	30	31	158.15
272	54×28	18	46	158.05
400	32	20	48	158.09
283	50×43	25	45	158.05
282	36	24	41	158.06
265	34	25×21	40	158.05

第33図　SB25掘立柱建物跡実測図

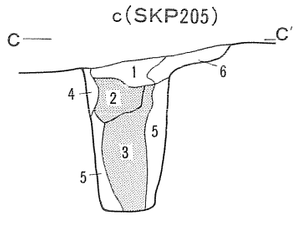




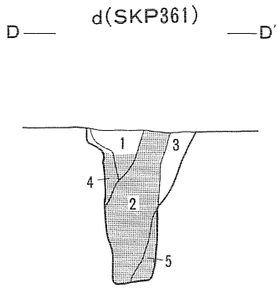
1 黒褐色土（10YR3/4） ホソボソして、しまりやや悪い、ローム粒と焼土粒が全体に混入し、少量のロームブロック（大～中）が混入



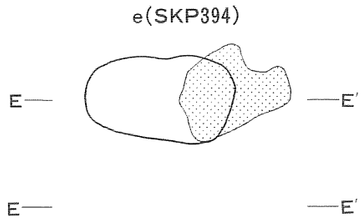
1 黒褐色土（10YR3/2） 粘土～シルト、孔げき多く、軟質、上部木炭、黄褐色土粒と極少量の焼土粒を含む
2 褐色土（10YR4/4） シルト～砂、孔げき少なく堅くしまっている、上部で黄褐色土（軽石を30%程度含む）少量の焼土粒を含む

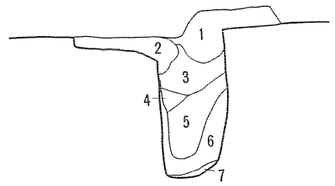


1 黒褐色土（10YR3/2） ローム粒と少量の焼土粒混入
2 暗褐色土（10YR3/3） しまり良い、ロームブロック（中～小）少量の炭化物混入
3 暗褐色土（10YR3/3） ロームブロック（中）、炭化物、少量の焼土粒混入、ボソボソしている
4 黄褐色土（10YR5/6） しまり良い、ローム粒ブロック状に混入
5 黄褐色土（10YR5/6） ローム大ブロック、ローム粒多量混入、ボソボソしている
6 暗褐色土（10YR3/4） しまりやや悪い、ロームブロック（中～小）混入

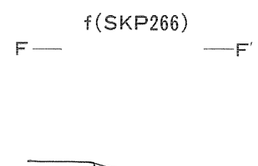


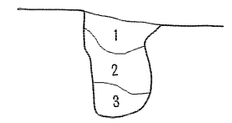
1 黒色土（10YR1.7/1） 粘土、孔げき少なくしまっている、均質な土
2 黒褐色土（10YR3/2） 粘土、孔げき多く軟質、黄褐色土ブロック、黄褐色土粒を少量含む
3 暗褐色～黒褐色土（10YR3/2～3/3）黄褐色土ブロック 軽石を40%程度含む
4 にぶい黄褐色土（10YR5/4） 孔げき少なく堅くしまっている粘土
5 明黄褐色土（10YR6/6） シルト～砂、孔げき多く軟質、軽石のつぶれた土



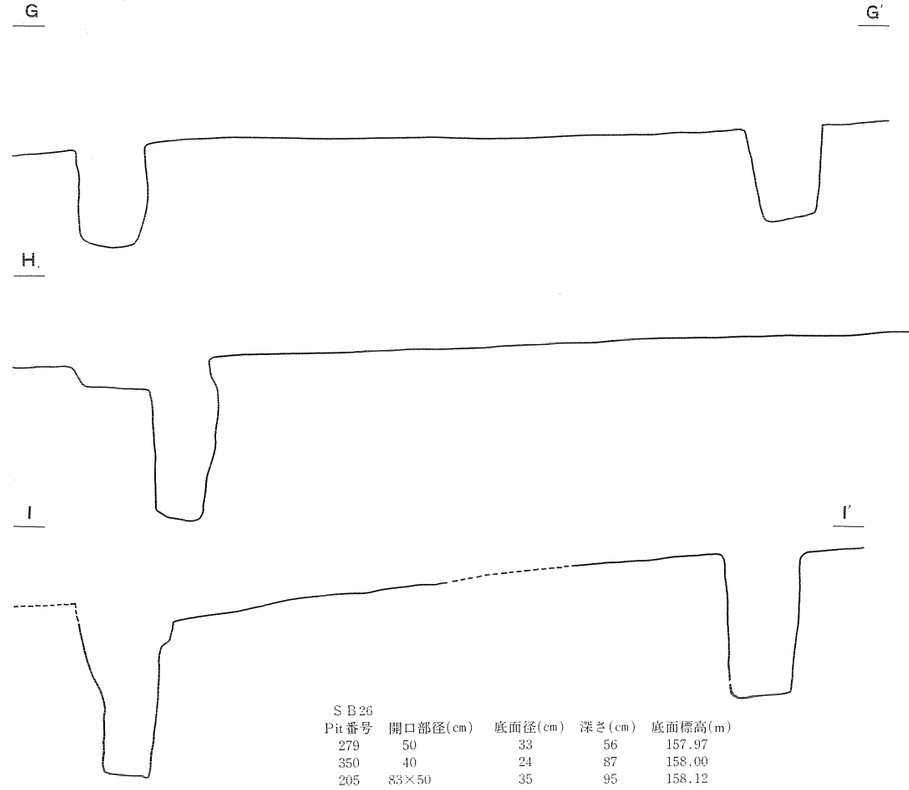


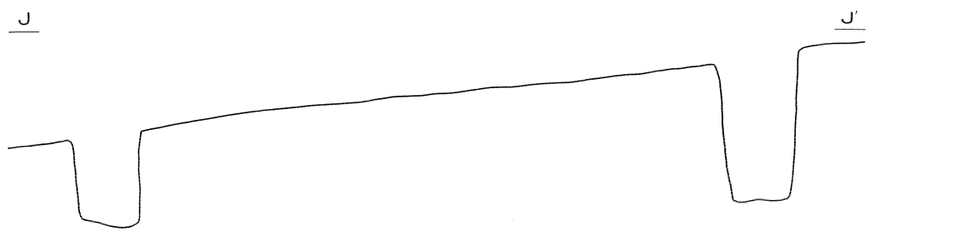
1 黒褐色土（10YR3/2） 焼土細粒を全体に含む他、焼土小ブロック、炭化物を含む
2 明黄褐色土（10YR6/6） しまり良い、多量のローム粒、ロームブロック（中～小）混入
3 黒褐色土（10YR3/3） ローム小ブロックを全体に含む他、焼土粒、炭化物を少量含む
4 黄褐色土（10YR5/6） 多量のローム粒を含む
5 褐色土（10YR4/6） ローム粒、ローム中ブロックに含む、ボソボソしている
6 明黄褐色土（10YR6/6） しまり良い、多量のロームブロック（大～中）から成る
7 黒褐色土（10YR3/2） ローム粒少量混入

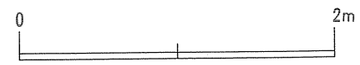




1 黒褐色土（10YR3/2） ローム粒とローム小ブロック、少量の焼土粒混入
2 黒褐色土（10YR3/2） しまりやや悪い、ローム粒とロームブロック（中～小）、少量の焼土粒混入、1層よりロームブロックの量多く、焼土粒少ない
3 黒色土（10YR2/1） しまり良い、ローム粒とロームブロック（中～小）混入







水糸レベル 159.200m

SB26

Pit番号	開口部径(cm)	底面径(cm)	深さ(cm)	底面標高(m)
279	50	33	56	157.97
350	40	24	87	158.00
205	83×50	35	95	158.12
361	69×48	28	100	157.70
394	94×57	35	89	157.70
266	42	30	65	157.80

第34図 SB26掘立柱建物跡実測図

して建てられたことが考えられる。柱穴の埋土は、黄褐色土と黒褐色土を主体とする。柱痕がわかるものもあり、柱痕部分の埋土は炭化物や黄褐色土を含む黒褐色土である。柱穴ｅについては、当初から完掘してしまったことから、土層断面図を提示できなかった。

ＳＢ25掘立柱建物跡（第33図、図版５）

ＬＱ45･46、ＬＲ45･46グリッド第Ⅴ層上面で柱穴プランを検出した。平面図は南北方向におしつぶしたような六角形を呈する。主な柱間の距離は、ｆ―ａ約2.68ｍ、ｅ―ｂ3.3ｍ、ｄ―ｃ2.78ｍ、ｆ―ｄ２ｍ、ａ―ｃ1.81ｍである。柱に囲まれた範囲の面積は、5.76㎡で3.5畳弱の広さに相当する。柱穴の埋土には、焼土粒と炭化物の混入が観察され、特に柱穴ｃにおいて著しい混入を示す。なお本建物跡とＳＢ24、26掘立柱建物跡とは重複関係にあるが、新旧関係について明らかにできなかった。

ＳＢ26掘立柱建物跡（第34図、図版５）

ＬＱ44･45、ＬＲ44･45･46グリッド第Ⅴ層上面で柱穴プランを検出した。掘立柱建物跡のなかでＳＢ23とともに最も東側に位置する。平面図は、いわゆる変形六角形である。主な柱間の距離は、ｆ―ａ4.3ｍ、ｅ―ｂ5.52ｍ、ｄ―ｃ3.97ｍ、ｆ―ｄ4.06ｍ、ａ―ｃ4.15ｍである。柱に囲まれた部分の面積は、約19.8㎡で12畳の広さに相当する。建物跡のほぼ中央に焼土遺構（ＳＮ40）が位置する。焼土は全体ににじんだ様相を呈している。柱穴の埋土は、黒褐色、黄褐色土などからなるが、柱痕のわかるものでは、その部分に焼土粒、炭化物を含む黒褐色土、暗褐色土が観察される。

（４）柱穴様ピット（第35～37図、第７～11表、図版21･29･31･32･41･43）

237基にのぼる柱穴様ピットのうち掘立柱建物跡の柱穴として先に取り上げたもの以外の102基を柱穴様ピットとして一括した。第２表～第６表に検出位置、規模、底面の標高と柱痕のわかったものについてはその規模等も掲げる。

ここでは、そのうちの主なものについて、図を掲載し併せて若干の説明を加えたい。

平面形から概観すると、円形、楕円形、不整円形のほかに、円形と隅丸方形が重くなったものがある。後者は、柱穴に浅い掘り込みが伴うもので、ＳＫＰ375、ＳＢ08、ＳＢ11、ＳＢ18、ＳＢ20･21･22、ＳＢ26の各掘立柱建物跡の柱穴にみられる。これらのほとんどは径60㎝、深さ１ｍをこえるもので、今回検出された柱穴様ピットのなかで最大の規模を有する。また浅い掘り込み部分の機能については、明らかにできるような資料は得られなかった。ただ浅い掘り込みの位置が建物の内側にくることは稀で、ほとんどが建物の外側にくるという傾向が窺われた。

土層断面からみると、径30㎝、深さ30㎝前後の柱穴様ピットを例外として、多くの柱穴様ピ

ットは掘り方をもつことがわかる。ＳＫＰ111の例は、直径95cm、深さ40～45cmに掘り込んだ後のに、中央からやや南西寄りに深さ19～20cmのピットを設けている。その深さに比して長い柱を据えたためであろうか、根固めに用いたと思われる石をつめている。この例は、調査範囲のなかでは他に見当たらなかった。ＳＢ08掘立柱建物跡柱穴ｆにより東側上部が切られている。

柱穴様ピットから土器、土製品、石器、フレークなどが出土した。そのうち土器については破片資料が多い。これは柱穴という用途からすれば当然のことで、埋土中から出土した遺物は、柱穴が自然または人為的に埋まる段階で混入したものと判断できる。出土した土器のほとんどが沈線によって文様が構成されるもので、縄文後期前葉の時間の幅に納まるものである。なお、掘立柱建物跡の柱穴から出土した遺物についても、柱穴様ピット出土遺物に含めている。以下に出土遺物について述べる。

ＳＫＰ54(第106図１)　主要剥離面の背面下端に調整を施して弧状の刃部を作出している。石質は頁岩である。

ＳＫＰ163(第106図３)　主要剥離面の背面上端に刃部を作出している。石材は頁岩である。

ＳＫＰ186(第103図６)　土器のほか鐸形土製品１点が出土した。開口部の半分以上が欠失していた。２本の沈線の間に刺突が連続して施される。高さは5.6cm、焼成は良好で色調は明褐色(7.5ＹＲ5/6)を呈する。

ＳＫＰ221(第73図１)　小さい波状口縁をもつ深鉢形土器である。口縁部文様帯が広くとられている。沈線文が施される。内外面に煤が付着している。口径は19.2cmである。

ＳＫＰ361(第73図２)　埋土上面に流れ込んだと思われる壺形土器である。沈線による曲線文が横位に展開する。

ＳＫＰ373(第98図20～25、第99図１～６)　ＳＢ11掘立柱建物跡柱穴である本ピットからは、３個体分の土器片が出土した。20～22、１～３は深鉢形土器の口縁部と胴部下半の資料である。口縁は破状を呈し、波頂部口唇に刻目文が認められる。地文にＬＲ縄文が施されており、口縁部文様帯は波頂部に対応して斜位の沈線が引かれ、磨消し手法によりやや広い無文帯が設けられている。文様帯は、横位の沈線によって区分される。胴部文様は明らかでないが、沈線に磨消し手法を加えた文様が認められる。外面に煤、内面に炭化物が付着している。

(５)竪穴遺構

調査区からは、３基の竪穴遺構が検出された。当初は、竪穴住居跡として調査に着手したが、竪穴と呼べる掘り込みがあるにもかかわらず、床面は掘り放しの状態で、炉跡が検出されなかった。このことから住居跡とはせず竪穴遺構として報告することにした。

第２表　柱穴様ピット一覧表（１）

遺構番号	検出グリット	開口部径(cm)	底面径(cm)	深さ(cm)	底面標高(cm)	柱痕		
						径(cm)	底面標高(m)	深さ(cm)
2	MA47	28×24	20×17	36	157.98m			
16	MC･MD50	40	22	30	157.70			
17	MC50	33	26	25	157.75			
20	MB51	43	23×17	66	157.14			
22	MC50	40	28	47	1587.50			
24	MB51	30	16	40	157.35			
25	MC50	40	22	36	157.49			
28	MA47	25	16	30	158.08			
30	MA46	36	19	53	157.93			
33	MA48	23	11	32	157.93			
37	MA47	33	17	34	158.02			
45	MD49･50	47	40	49	157.53			
46	MC49	20	14	13	159.10			
47	MD46	35×27	27×22	22	158.44			
55	MC49	28	23	28	157.94			
58	MC52	37	28	11	157.24			
59	MC52	43	37	11	157.20			
60	MC52	30	26×15	30	157.03			
67	MB48	40	37×29	32	157.97			
68	MB52	35	30		157.27			
70	MA47	25	15	32	158.05			
72	MA47	38×32	20×16	47	157.92			
74	MA47	41	28	10	158.28			
76	MA47	60×26	17	30	158.05			
80	MB53	42×33	32×26	52	156.87			
81	MC51	32	18	52	157.18			

第3表　柱穴様ピット一覧表(2)

遺構番号	検出グリット	開口部径(cm)	底面径(cm)	深さ(cm)	底面標高(m)	柱痕		
						径(cm)	底面標高(m)	深さ(cm)
82	MA47	27	12	41	157.96			
87	MB52	40	25	53	157.80	27	157.80	53
88	MB49	26	13	34	157.70			
90	MB49	45	25	50	157.62			
91	MB49·50	36	21	43	157.64			
93	MB53	26	20	35	156.93			
94	MB55	35	23	15	156.50			
97	MC51	40	22	70	157.10			
98	MB55	31	23	12	156.59			
104	MB50	29	18	33	157.67			
106	MB51	36×25	26×16	43	157.25			
111	MA52	95	92	44	157.20	24	157.02	62
117	MA50	49	30	27	157.59			
118	MA52	77×50	26	66	156.96	37	156.96	66
119	MA53	24	17	54	157.02			
121	MA54	47×27	20	34	156.66			
134	MA54	30	18	36	156.69			
135	MA54	25	18	22	156.79			
139	MA54	28	20	16	157.58			
145	MA53	31	22	44	156.96			
149	LT·MA53	42	17	38	157.16			
150	MA53	30	24	44	156.90			
151	LS54	32	20	17	157.05			
162	LS56	30	19	40	156.17			
164	LS55	44×36	24×18	63	156.26			
165	LR55	33	20	55	156.37			

第4表　柱穴様ピット一覧表(3)

遺構番号	検出グリット	開口部径(cm)	底面径(cm)	深さ(cm)	底面標高(m)	柱痕		
						径(cm)	底面標高(m)	深さ(cm)
171	LR55	38	22	33	156.50	25	156.50	33
173	LR55	40	21	48	156.41	25	156.41	48
176	LR56	31	24	49	156.15			
179	LS·LR54	35×20	22	34	156.87			
180	LR55	30	20	17	156.81			
181	LR55	48×43	50×40	13	156.85			
184	LR56	30	19	40	156.27			
195	LR06	60×38	23	38	156.26			
196	LQ44	117×85	88×63	76	158.15	45	158.15	74
200	LS56	56×28	15	29	156.18			
201	LR56	41×32	32×25	49	156.19			
202	LR55	28	15	21	156.83			
203	LR55	50×40	19	43	156.52			
206	LQ44	61	50	69	158.39	44	158.4	69
211	LS55	20	8	20	156.66			
213	LR56	53×31	20	17	156.37			
215	LS55	24	16	38	156.41			
219	LS56	38	32	25	156.41			
221	LT54	46	20	23	156.80			
224 A	LT54	68×45	28	34	156.95	17	156.94	34
224 B	LT54	46	21	44	156.87			
224 C	LT54	44	25	49	156.84			
225	LT54	33	18	36	156.61			
230	LT50	67×55	50×40	20	157.66	18	157.56	28
232	LR45	35	23	33	158.19			
233	LS46	34	33	63	157.86			

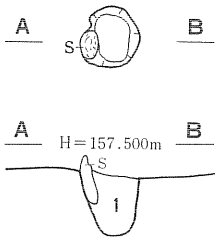
第５表　柱穴様ピット一覧表(４)

遺構番号	検出グリット	開口部径(cm)	底面径(cm)	深さ(cm)	底面標高(m)	柱痕		
						径(cm)	底面標高(m)	深さ(cm)
245	LR47	42	20	33	157.94			
246	LS47	63	58	54	157.68	37	157.68	54
256	LT46	33	30	42	157.91			
261	LS46	40×34	26	60	157.74	25	158.00	46
263	LR46	51×42	20	63	157.74			
264	LR46	32	13	20	158.23			
271	LQ45·46	35	23	45	157.95			
275	LQ45	28	19	25	158.30			
278	LQ45	35	20	54	157.95			
291	LS45·46	43×24	15	27	158.23			
293	LS45·46	45×39	43×28	17	158.35	21	158.25	26
296	LT44	45	37	19	158.71			
304	LR47	50	38	27	157.93			
309	LQ48	42×35	32×28	13	157.92			
319	LQ49	50	40	45	157.45			
320 A	LR49·50	54	45	43	157.40			
320 B	LR49·50	63	36	50	157.32	30	157.32	50
330	LQ50	39	30	21	157.51			
333	LR46	39×28	30×23	19	158.17			
336	LS46	32	24	35	157.95			
337	LS46	21	15	27	158.20			
339	MD·ME49	39	29	45	157.65			
343	MD·ME49	40	27	43	157.66	20	157.66	45
344	LQ45	33	25	40	158.18			
345	LQ45	30	22	28	158.29			
346	LQ51	35	16	52	156.94			

第6表　柱穴様ピット一覧表(5)

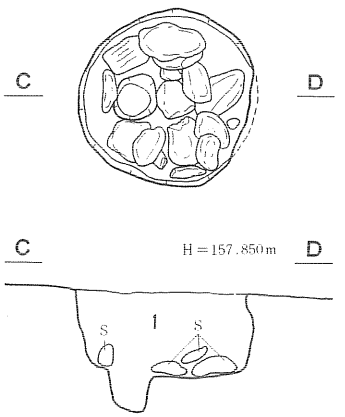
遺構番号	検出グリット	開口部径(cm)	底面径(cm)	深さ(cm)	底面標高(m)	柱痕		
						径(cm)	底面標高(m)	深さ(cm)
347	LQ51	27	13	27	157.21			
348	LT45	47	32×24	33	158.26	17	158.26	33
351	LQ45	23	18	59	158.00			
353	LR45	20	15	17	158.36			
360	LQ45	22	18	37	158.23			
364	LQ46	23	15	23	158.18			
368	MC49	63×50	30	60	157.68			
375	MC50·51	140×86	58×35	73	157.07	40	157.12	62
387	MC49	68×60	46	40	157.70	37	157.72	38
391	MA55·56	48×40	18	22	156.38			
398	LS48	71	57	61	157.36	30	157.39	54
403	MA49	23	18×13	33	157.73			
406	MC47	27	13	22	158.22			
408	LQ49	38×32	26×20	41	157.47			
411	MA46·47	22	17	24	158.12			
413	LS51	93×80	78×64	48	157.14	58	157.14	48
415	LR52	20	12	47	157.00			
416	LT46	37×26	27×17	25	158.15			
421	LT53	25	18	30	157.10			

SKP60



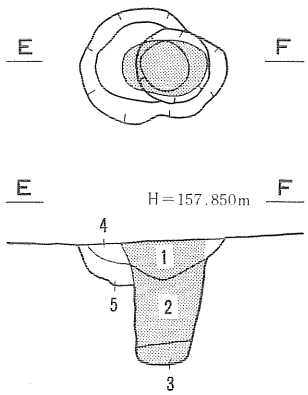
SKP60
1　黒色土（10YR2/1）　ローム粒・ローム小ブロック少量混入、しまり良い

SKP111



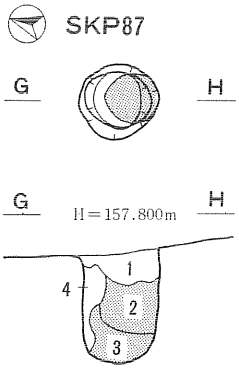
SKP111
1　黒色土（10YR1.7/1）　しまり良い、少量のローム小ブロック、微量の炭化物を含む

SKP118



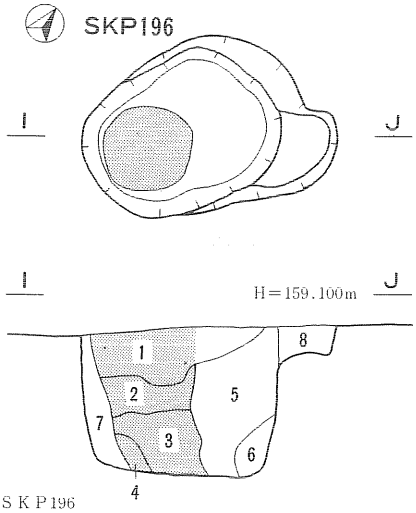
SKP118
1　黒褐色土（10YR3/2）　ロームブロック（中～小）少量混入
2　黒褐色土（10YR3/3）　しまり良い、ロームブロック（中～小）やや多く混入
3　黒色土（10YR2/1）　しまり良いローム中ブロック少量混入
4　黒色土（10YR2/1）　少量の焼土粒とローム粒混入
5　黒色土（10YR2/1）　しまり良い4層より焼土粒の混入多い

SKP87



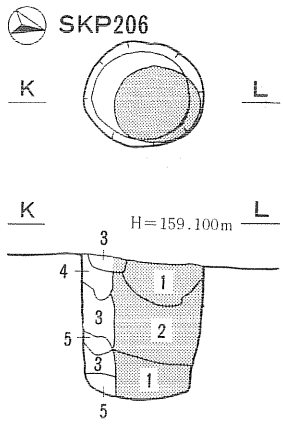
SKP87
1　にぶい黄褐色土（10YR4/3）少量の焼土粒、炭化物、ローム中ブロック、やや多量のローム粒混入
2　黒褐色土（10YR3/2）　しまり非常に良い、ロームブロック（大～小）、少量の炭化物、焼土粒混入
3　褐色土（10YR4/4）　しまり良い、ローム小ブロック多量に混入
4　にぶい黄橙（10YR6/4）　しまり良い、ロームブロック（大～小）多量に混入

SKP196



SKP196
1　黒褐色土（10YR3/2）　ローム粒、ロームブロック（中～小）混入
2　暗褐色土（10YR3/3）　しまり良い、ロームブロック（大～小）やや多く混入
3　黒褐色土（10YR3/2）　しまり良い、ローム大ブロック多く混入
4　黒色土（10YR2/1）　ロームブロック（中～小）少量混入
5　黒褐色土（10YR3/2）　しまり良い、ローム中ブロック全体に混入、炭化物も少量混入
6　黒色土（10YR2/1）　しまり良い、ローム小ブロックを含む
7　明黄褐色土（10YR6/8）　しまり良い、ローム大ブロック多量に含む
8　にぶい黄褐色土（10YR5/3）　しまり良い、ローム細粒ブロック状に混入

SKP206

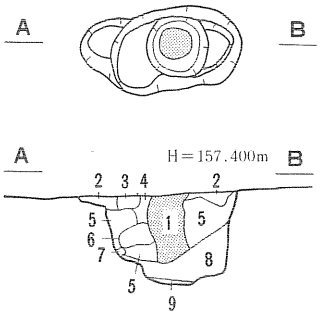


SKP206
1　黒褐色土（10YR3/2）　しまり良い、ローム粒、ローム小ブロック・炭化物混入
2　黒褐色土（10YR3/2）　しまりやや悪い、粘性若干あり、多量のロームブロック（中～小）・少量のローム大ブロック混入
3　褐色土（10YR4/4）　しまり悪いロームブロック（大～小）混入
4　明黄褐色土（10YR6/6）　ローム大ブロック・ローム粒より成る
5　黒色土（10YR2/1）　ローム粒をほとんど含まない

0　2m

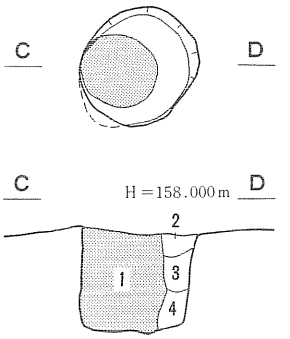
第35図　SKP60・87・111・118・196・206柱穴様ピット実測図

SKP224



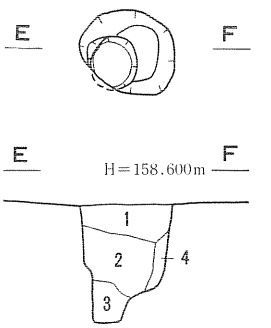
SKP224
1　黒褐色土（10YR⅔）　しまりなし、粘性あり、地山粒微量、焼土粒微量
2　黒褐色土（10YR⅔）　しまりあり、粘性あり、地山粒、焼土粒極微量
3　暗褐色土（10YR⅓）　しまりあり、粘性あり、地山土との混じり
4　暗褐色土（25YR⅓）　しまりなし、粘性なし、焼土
5　黄褐色土（10YR⅝）　しまり強、粘性あり、地山土ブロック状に90%
6　黒色土（10YR⅔）　しまりややあり粘性あり、地山粒微量
7　黒褐色土（10YR⅔）　5層と6層の混合土
8　黄褐色土（10YR⅝）　しまり強
9　黒褐色土（10YR⅔）　しまり・粘性中

SKP246



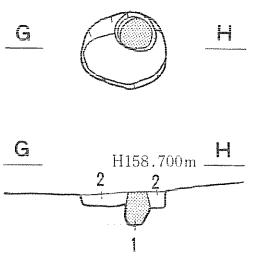
SKP246
1　黒色土（10YR1.7/1）　粘土、わずかに孔げきあり、少量黄褐色とブロック（軽石）を含む
2　明黄褐色（10YR⅝）　軽石のつぶれた土、孔げきあり、軟質
3　黒色土（10YR1.7/1）　粘土、比較的しまっている
4　黄褐色土（10YR5.8/6）　粘土、軽石と黒褐色土が混じりあっている。やや孔げきあり

SKP263



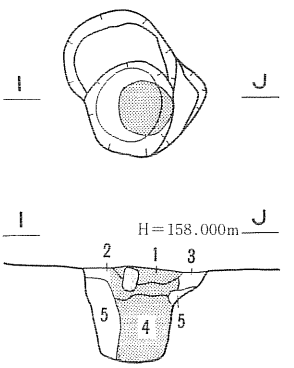
SKP263
1　黒褐色土（10YR⅔）　ロームブロック（中～小）全体に混入、焼土粒・炭化物少量混入
2　黒褐色土（10YR⅔）　しまり良い、多量のロームブロック（中～小）・少量のローム大ブロック混入
3　暗褐色土（10YR⅜）　しまりやや良、ロームブロック（大～小）混入

SKP293



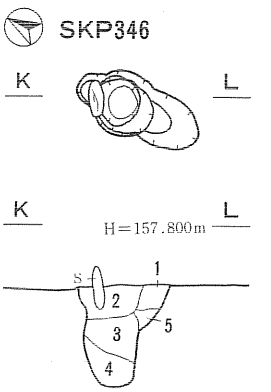
SKP293
1　黒褐色土（10YR⅔）　微細ローム粒全体に混入
2　黒色土（10YR⅔）　しまり良い、ローム粒少量混入

SKP320

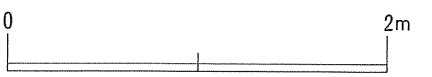


SKP320
1　黒褐色土（10YR⅔）　しまりにやや欠け、粘性あり、地山ブロック径5cm極微量
2　黒褐色土（10YR⅔）　しまりややあり、粘性あり、地山ブロック径3㎜極微量
3　褐色土（10YR⅔）　しまりややあり、粘性あり、地山ブロック径5cm
4　暗褐色土（10YR⅜）　しまりなし、粘性あり、地山粒ブロック径1～3cm少量
5　褐色土（10YR⅔）　しまりややあり、粘性あり、地山粒、ブロック状に50%

SKP346

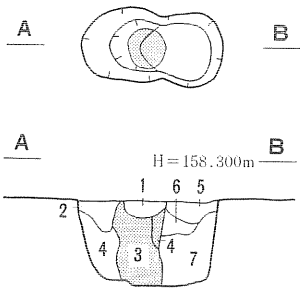


SKP346
1　黒褐色土（10YR⅔）　粘性・しまり中
2　黒褐色土（10YR⅔）　しまり強、粘性あり、地山粒、ブロック径3㎜微量
3　黒褐色土（10YR⅔）　しまりあり、粘性あり、地山粒・ブロック径3㎜微量
4　黒褐色土（10YR⅔）　しまりあり、粘性あり、地山ブロック径5㎜、3層より多い
5　暗褐色土（10YR⅜）　しまりあり、粘性あり、地山粒微量



第36図　SKP224・246・263・293・320・346柱穴様ピット実測図

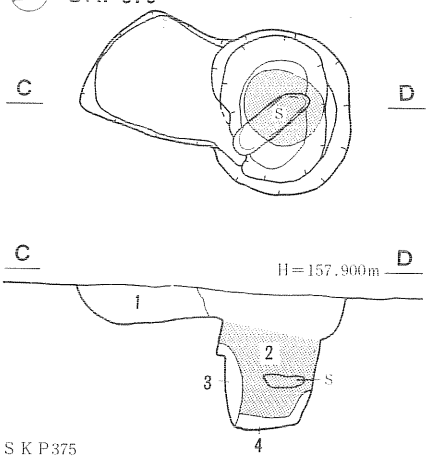
SKP343　SKP339



SKP343
1　黒褐色土（10YR3/2）　シルト、やや孔げきあり、軟質、根が多い
2　暗褐色土（10YR3/3）　シルト～粘土、やや孔げきあり、黄褐色土粒と黒褐色土粒が混じり合った土
3　黒色土（10YR2/1）　粘土、わずかに孔げきあり、黄褐色土粒を少量含む
4　黒褐色土（10YR3/2）　粘土～シルト、孔げき多く軟質、20%程度の黄褐色土（軽石を含む）

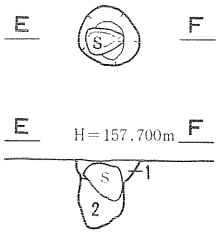
SKP339
5　黒褐色土（10YR3/2）　孔げき少なくしまっている。上部分に黄褐色土ブロックを含む
6　黒褐色土（10YR3/3）　粘土、孔げき少なくしまって、20%程度の軽石（黄褐色土を含む）
7　暗褐色土（10YR3/3）　シルト、孔げき少なくしまっている、40%程度の黄褐色土（軽石を含む）

SKP375



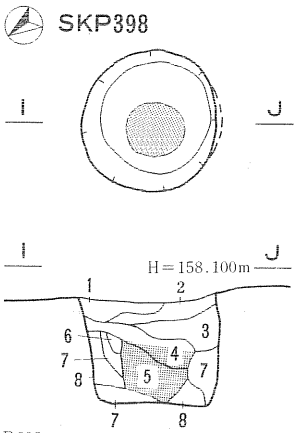
SKP375
1　にぶい黄褐色土（10YR5/4）　ローム粒・少量のローム小ブロック・炭化物混入
2　黒色土（10YR2/1）　ローム粒・ロームブロック・炭化物をそれぞれ少量含む
3　黒褐色土（10YR3/2）　ローム小ブロックを均一に含む
4　黒色土（10YR1.7/1）　少量のローム粒を含む

SKP419



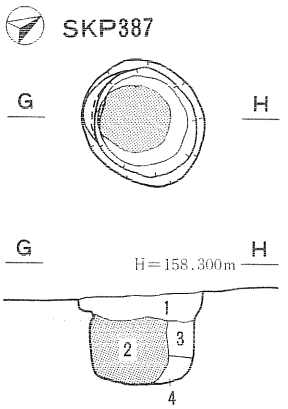
SKP419
1　暗褐色土（10YR3/3）　しまりあり、粘性あり、
2　黒褐色土（10YR3/2）　しまりあり、粘性あり、径2cm地山ブロック微量

SKP398



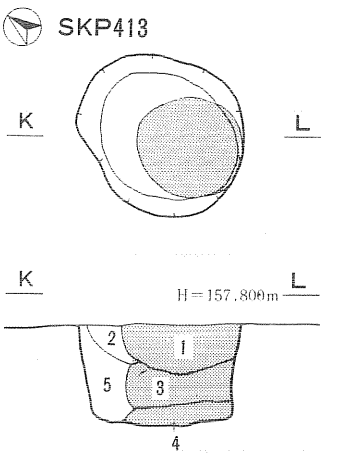
SKP398
1　黒色土（10YR1.7/1）　粘土、しまり強、少量の軽石を含む
2　黒色土（10YR2/1）　粘土、ややしまりあり、2cm大の軽石5%
3　黒色土（10YR2/1）　粘土、ややしまりあり、2層に比べ軽石の混入率が50%と高い
4　黒色土（10YR1.7/1）　2層、3層と比べて混入率がごく少量
5　黒褐色土（10YR3/2）　粘土、しまりややあり、小粒の軽石がムラなく60%程混入
6　黒褐色土（10YR3/2）　粘性弱、小粒の軽石を80%全体に混入
7　黒褐色土（10YR3/2）　粘性弱、6層とほぼ同じだがしまりが強い
8　黒褐色土（10YR3/2）　よくしまっている。1～7層のなかで一番堅い、軽石80%混入

SKP387

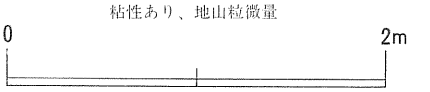


SKP387
1　黒褐色土（10YR3/2）　ローム粒・ロームブロック（中～小）少量の焼土粒を含む
2　暗褐色土（10YR3/3）　粒やや多量に混入
3　明黄褐色土（10YR6/8）　ローム粒とローム小ブロックから成る
4　黒色土（10YR1.7/1）

SKP413



SKP413
1　黒褐色土（10YR3/2）　しまりなし、粘性あり、炭化物極微量、地山粒微量
2　黒褐色土（10YR3/3）　しまりややあり、粘性あり、地山粒極微量
3　暗褐色土（10YR3/3）　しまりあり、粘性あり、炭化物極微量、地山ブロック径1cm少量
4　黒褐色土（10YR3/2）　しまり強、粘性あり、地山ブロック径5mm～1cm少量（3層より少ない）
5　暗褐色土（10YR3/3）　しまりあり、粘性あり、地山粒微量



第37図　SKP339・343・375・387・398・413・419柱穴様ピット実測図

ＳＫＩ01竪穴遺構(第38図、第73図３・４、第79・80・104図、図版16・29・33・42)

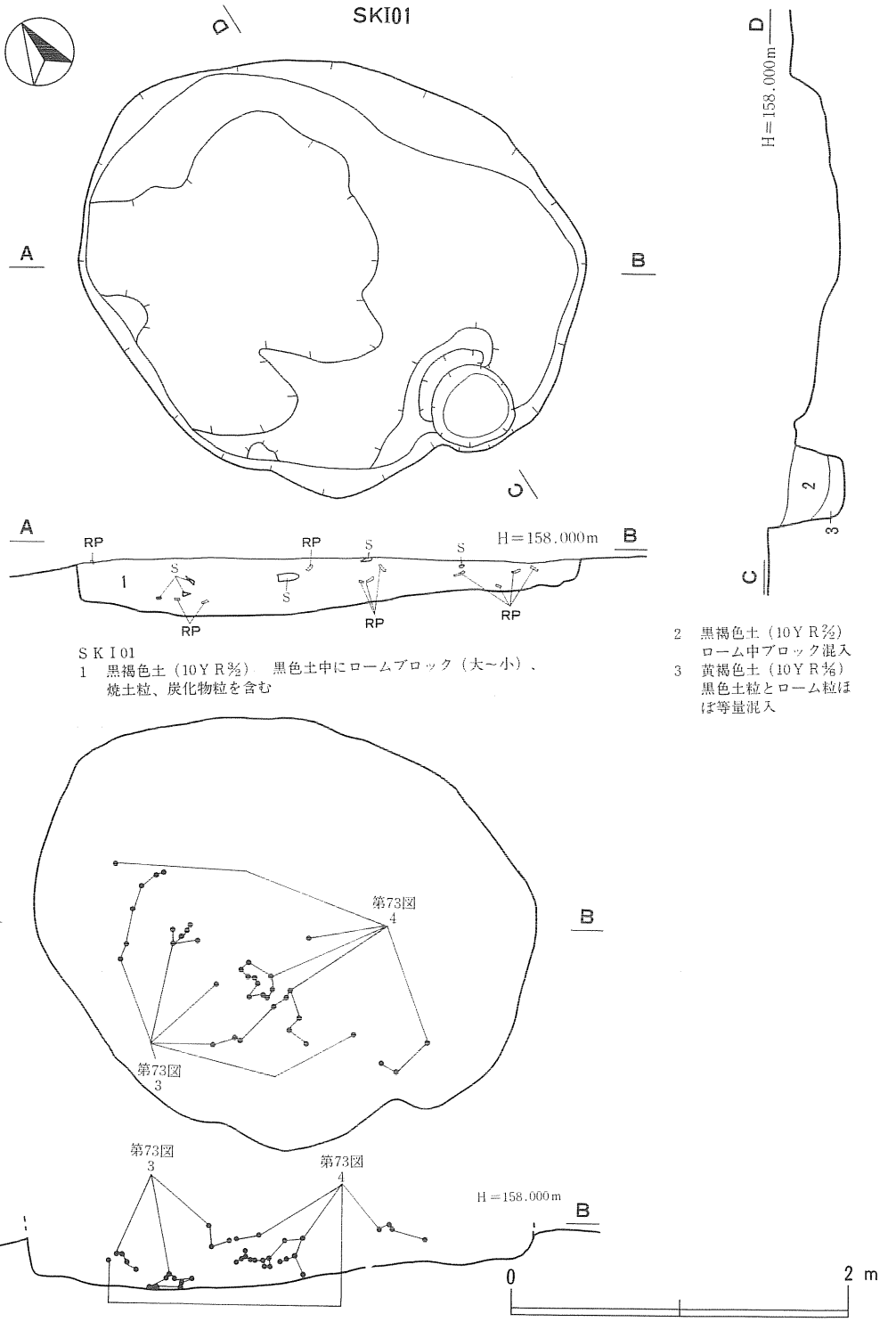
ＭＤ50グリッド第Ⅳ層上面でプランを検出した。プラン確認時より土器片、石器などの遺物が出土し始めた。平面図は、北西南西方向に長軸を有する楕円形である。規模は長軸３ｍ、短軸2.5ｍ、深さは11～35cmと一定でない。第Ⅴ層を掘り込んで床面をつくっており、北西側半分近くをさらに掘り下げている。平坦な面があまり認められず壁溝、炉とも検出されなかった。柱穴は、南側壁に接するように一個所のみ検出された。径47～50cm、床面からの深さ28cmである。この柱穴を取り囲むように北側床面が帯状に高くなっている。本遺構とＳＢ10掘立柱建物跡とは重複関係にあり、建物跡の柱穴が本遺構の床面の下から検出されている。埋土は一層のみで、多量の遺物が出土した。

第73図３と４は復元できた深鉢形土器である。４の口縁は、ゆるい波状を呈し、横走する３条の沈線が口縁部文様帯と胴部文様帯を分ける。胴部は３条の沈線により波頭文が描かれ、その下に同様の沈線により胴部文様帯を区画する。波状口縁部からと波頭文頂部から斜位に沈線が引かれ、沈線がぶつかった所に円形の刺突が施されている。焼成は良好で、色調は褐色(10ＹＲ4/4)である。３は粗製の深鉢形土器で、内外面とも煤が付着している。口縁部は複合口縁である。小さく屈曲する部分の縄文を磨消して無文帯をつくっている。器高26.7cm、口径20.9cm、底部10.5cmである。焼成は良好で、色調は暗褐色(10ＹＲ3/3)である。その他は破片資料である。縄文地文を沈線で区画し、区画された部分の縄文を磨消すもの(第79図４・８・29・33、第80図１・２・４・５)。細い沈線により文様が描かれるもの(第79図１～３・23・28・30、第80図６)。２本の沈線に挟まれた微隆起線上に刺突が施されたもの(第79図24)などがある。石器は第104図１の１点が出土したほか、フレークが合計19点出土した。

ＳＫＩ02竪穴遺構(第39図、第81図、第82図１～８、図版16・34・42)

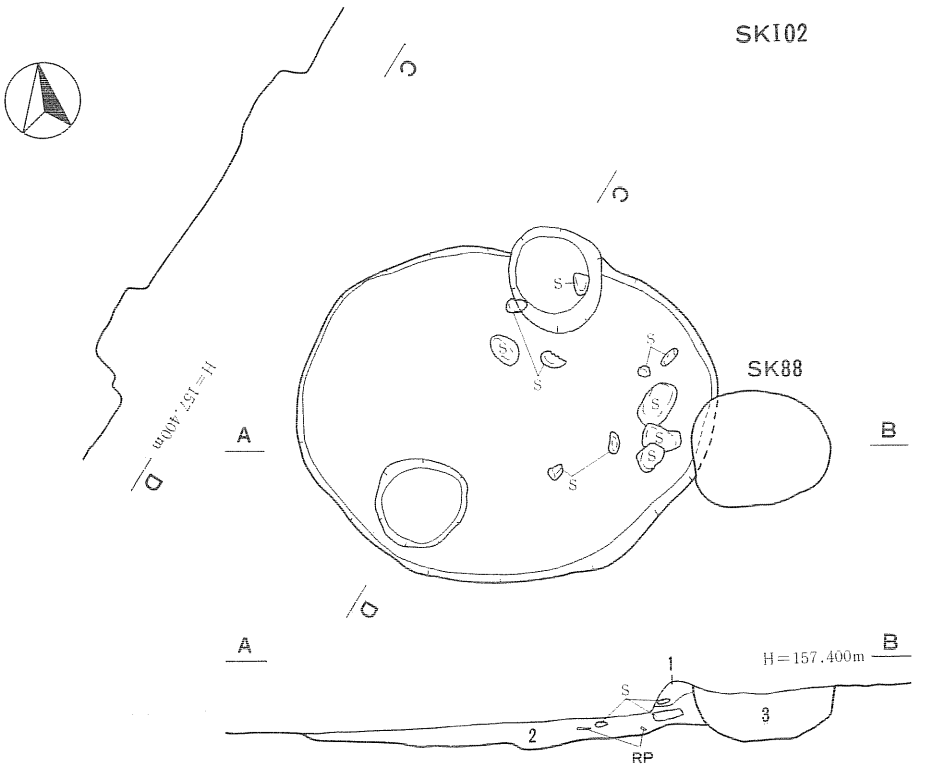
ＭＡ53・54、ＭＢ53・54グリッド第Ⅳ層中で遺物が集中出土しているのが認められ、第Ⅴ層上面でプランを検出した。平面図は楕円形を呈し、長軸2.17ｍ、短軸1.9ｍの規模である。壁高は、東側が19.2cm、西側で４cmとなっている。これは第Ⅴ層が南東から北西へ緩く傾斜しているためである。東側の壁は、ＳＫ88土坑により壊されている。床面は踏みしめられた面があまり観察されず、炉、壁溝とも認められなかった。柱穴は北東側と南西側に確認した。北東側の柱穴は、51×57cm、深さ約５cm、南西側のものは48×50cm、深さ約10cmである。埋土は二層に分層されたが、プラン検出のため第一層がほとんど削られてしまっている。１、２層とも地山土、焼土、炭化物を含んでいる。

出土遺物は土器片127点、フレーク９点である。文様は、半截竹管又は棒状工具による沈線を描くものが多い。口縁部に縄文原体の側面圧痕を施すものもある(第81図３・12)。胎土に砂粒を若干含み、焼成は良好である。

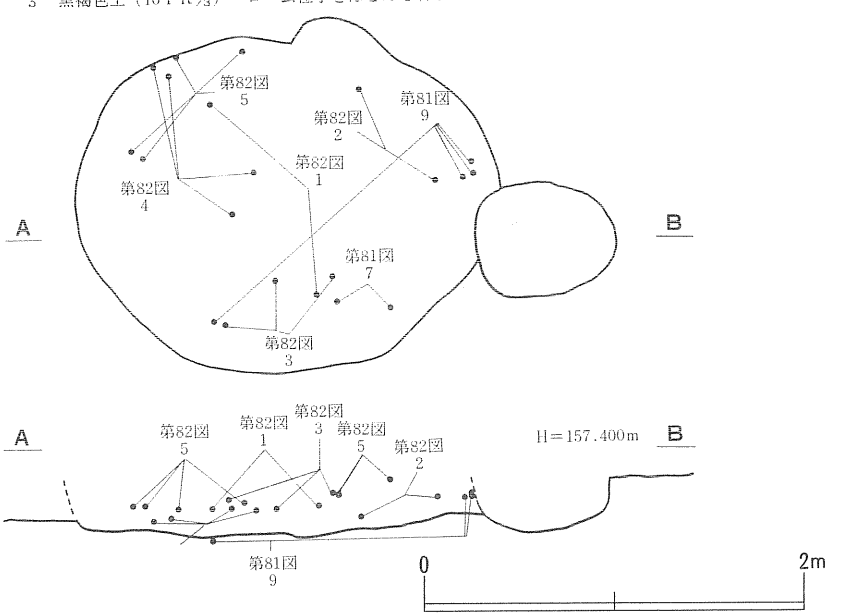


SKI01
1　黒褐色土（10YR3/2）　黒色土中にロームブロック（大～小）、焼土粒、炭化物粒を含む
2　黒褐色土（10YR3/2）ローム中ブロック混入
3　黄褐色土（10YR5/6）黒色土粒とローム粒ほぼ等量混入

第38図 SKI01竪穴遺構実測図



S I 02
1　暗褐色土（10Y R 3/3）　ローム粒・焼土粒・炭化物混入
2　黒褐色土（10Y R 3/2）　しまり良い、多量の炭化物とローム小ブロック、少量の焼土粒混入
S K 88
3　黒褐色土（10Y R 2/3）　ローム粒子をほとんど含まない



第39図　SKI02竪穴遺構実測図

ＳＫＩ03竪穴遺構(第40図、第73図５、第82図９～24、第83図、第84図１～15、図版16･29･34･35･42)

ＬＲ44･45、ＬＳ44･45グリッド第Ⅳ層中でプランを検出した。南北方向3.14ｍ、東西方向3.02ｍの規模を有する。土層断面Ａ―Ｂの１層と２層を分ける線を壁の立ち上がりとみると、破線のラインが推定され、ほぼ円に近い平面図となる。それを単なる埋土の違いとみれば、北西方向にだらだらと伸びる不整形となる。調査では、第一層にあたる部分が攪乱を受けていた形跡が認められず、床面も段差なく連続していること。さらに１層中と２層中出土の遺物が接合していることから、これらに時期差はなく単なる埋土の違いと判断された。床面は踏みしめられた面がほとんど観察されず、南から北にわずかに傾斜している。壁高は、４～23cmである。炉、壁溝、柱穴は検出されなかった。南東側はＳＫ195土坑に、北東側はＳＫ197土坑、ＳＢ26掘立柱建物跡柱穴にそれぞれ壊されている。また南西側においてＳＢ20、21、22掘立柱建物跡柱穴と重複が認められたが新旧関係は明らかにできなかつた。埋土は３層に分層された。

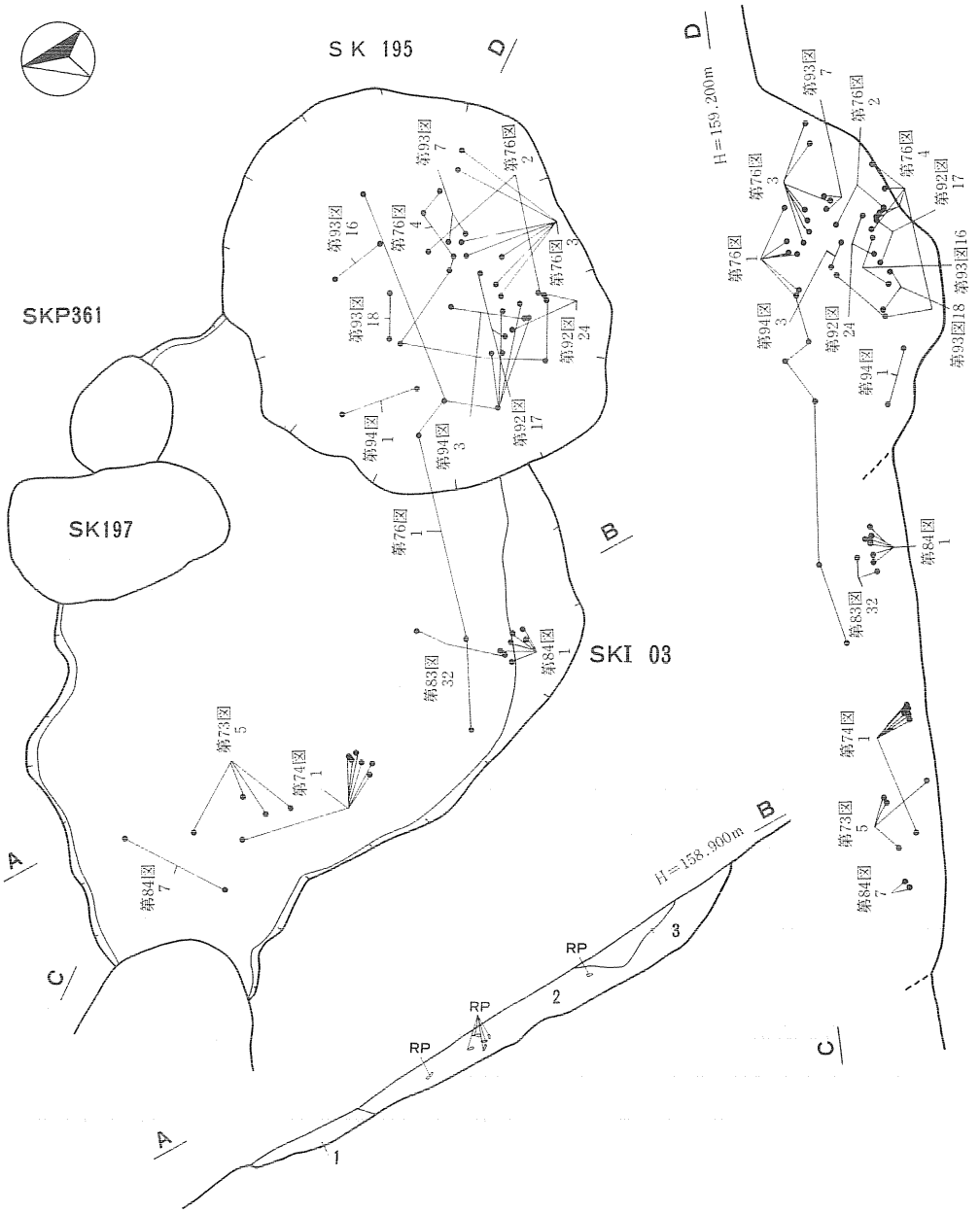
出土遺物は、土器片200点、フレーク47点余りである。このほかにチップが集中して出土している。第73図５は注口土器の下半である。地文にＬＲ縄文を施文し、沈線により文様が描かれる。文様帯の下を画する２本の沈線の下は無文となり、よく研磨されている。注口部は欠失しており、その部分にアスファルトの付着が観察される。焼成は良好で、色調は黒褐色(10ＹＲ3/1)である。第83図27～29･31～35、第84図１は、同一個体で壺形土器と思われる。文様は、沈線による渦巻文が横に展開し、沈線により区画された部分の地文を磨消している。焼成は良好、色調は外面がにぶい橙色(7.5ＹＲ6/4)、内面がにぶい褐色(7.5ＹＲ5/6)を呈する。第82図19は、微隆起線の両側に沈線を並走させる。また波状口縁頂部に鉛直方向の刺突が施される。第84図12は、土器破片を四角に加工したものである。

(６)土器埋設遺構

ＳＲ01土器埋設遺構(第41図、第78図２、図版21･29)

ＭＡ48グリッド第Ⅳ層上面で検出した。ＳＢ13掘立柱建物跡柱穴ａ(ＳＫＰ32)の北西側上部を壊している。径40～43cm、深さ３～10cmの掘り込み中に深鉢形土器の口縁部を倒立させた状態で検出した。

出土した深鉢形土器は、推定口形29.2cm、口縁はゆるい波状となり５単位であると推定される。文様は棒状工具の押し引にきによる沈線文である。複合口縁上と口縁下に沈線が巡り、波頂下に渦巻状の文様が描かれている。そしてそれをつなぐように弧線が充填される。その下に２条の沈線がめぐり、口縁部と胴部を区画する。焼成は良好で、色調は浅黄橙色(10ＹＲ8/4)を呈する。内面は剝落が全体に観察される。



ＳＫＩ03
1　黒褐色土（10ＹＲ2/2）　よくしまっている、粘土、黄褐色土ブロックを40%程ムラなく混入
2　黒色土（10ＹＲ2/1）　しまりあり、数mm大の黄褐色土粒をムラなく10%程混入、粘土、遺物（土器片）を多数含む
3　黒褐色土（10ＹＲ3/2）　ややしまりあり、数mm大の黄褐色土粒をムラなく10%程混入、粘土、微小の岩粒も若干混入

第40図 SKI03竪穴遺構実測図

ＳＲ02土器埋設遺構(第41図、第78図３、図版21･29)

ＭＣ55グリッド杭の東約1.3ｍの第Ⅲ層中で検出した。本遺構の北西約0.5ｍにＳＺ01石囲炉、南西約0.7ｍにＳＫ253土坑が位置する。壺形土器の上半部が倒立した状態で埋設されていた。掘り込みは黒色土中で完結しているため明確ではないがほぼ円形の平面形を呈し径約21cm、深さは約11cmである。土器埋設中の埋土は、第Ⅲ層と明らかに異なり、褐色の度合が強くしまっている。

埋設土器は、口唇部と胴部下半が欠失している。接合状況をみると胴部の接合資料はＭＤ51･52グリッド第Ⅰ層中出土の破片である。胴部に最大径をもち、肩の部分は張ることなくほぼ直立する頸部に達する。文様は網目状撚糸文が施され、頸部は磨消されて無文となっている。焼成は良好である。

ＳＲ03土器埋設遺構(第41図、第78図４、図版21)

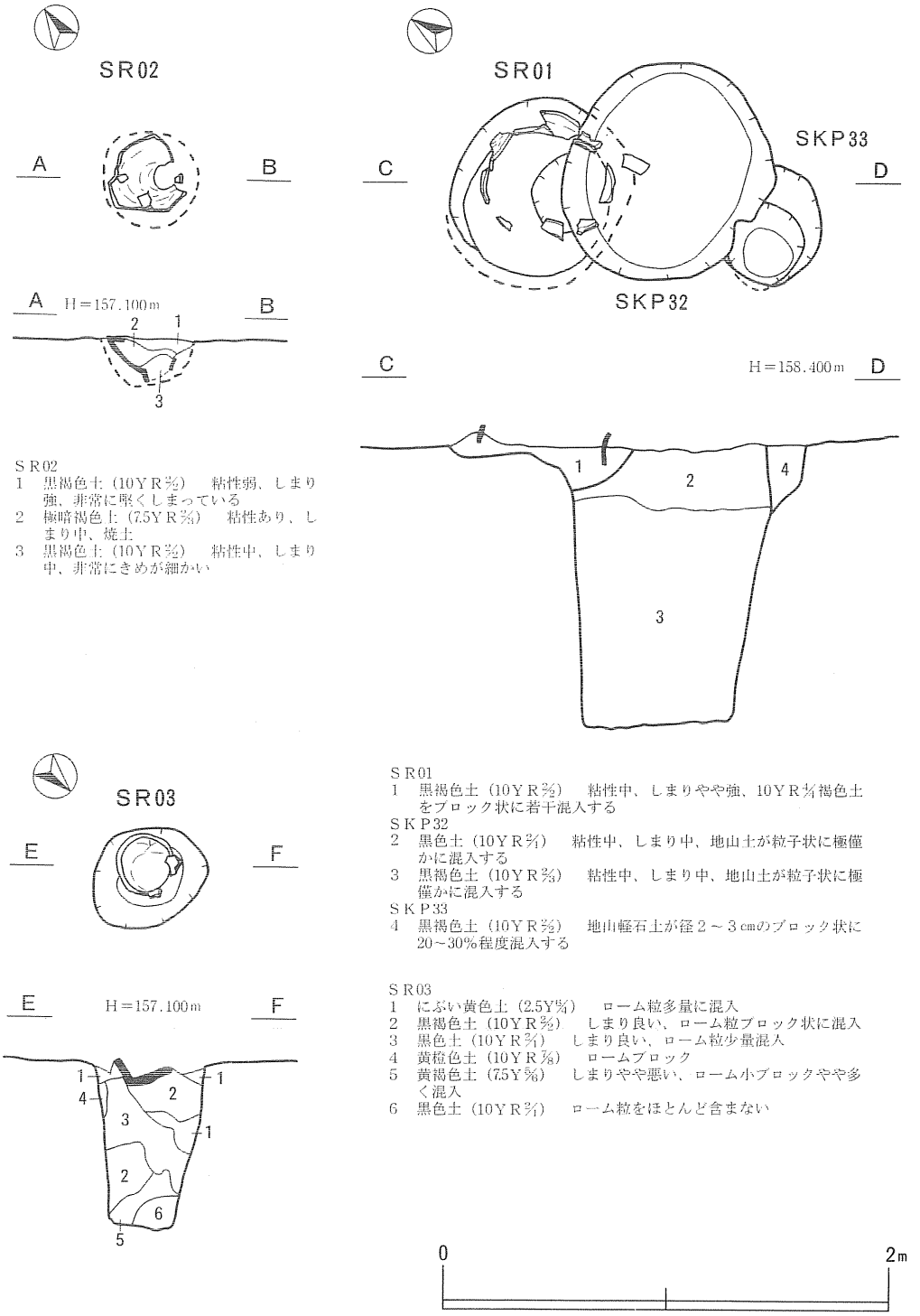
ＭＢ58グリッド第Ⅳ層中検出した。掘り込みの平面形は楕円形で、規模は22×26cm、深さ37～38cmである。その埋土上部に深鉢形土器の底部がほぼ正位で埋設されていた。これに同じグリッド内から出土した胴部破片が接合した。文様はなく研磨されている。胴部はやや内湾ぎみに立ち上がる。焼成は良好で外面の色調はにぶい黄褐色(10ＹＲ4/3)、内面は黒褐色(10ＹＲ3/2)である。

(７)土坑(第42～59図、第84～95図、第103図、第104･105図、図版16～20･29･30･35～43)

調査の結果126基の土坑があることが明らかになった。それぞれの検出位置と計測値等に関し第２表～第６表にまとめた。ここでは本遺跡における土坑の特徴について概観したいと思う。

はじめに土坑の検出面であるが、第Ⅳ層上面ないしは第Ⅴ層上面で検出されている。第Ⅱ層上面または第Ⅲ層上面で検出されたものは皆無である。位置は、環状に配される掘立柱建物跡に沿う形で全体の50％にあたる63基が位置する。この63基のうちの多くが調査区の北半に位置する傾向が見られる。これに対して、環の中心から半径7.1ｍの範囲には、8.7％にあたる11基が位置する。半径7.1をこえ掘立柱建物跡の内側までの間は希薄になり６基4.7％である。掘立柱建物跡がかたちづくる環の外側にも土坑が位置し、30％にあたる38基が認められる。38基のうち調査区南半に多くが位置する傾向がみられる。

平面形は、円形のもの63基(50％)、楕円形のもの48基(38％)、不整円形15基(11.9％)に大別される。楕円形の土坑のうち長軸方向が環の中心に向いているものは19基で約40％である。その他は方向が一定しないが、長軸方向が環に沿うような方向にあるものも16基(33％)認められる。



SR02
1　黒褐色土（10YR2/2）　粘性弱、しまり強、非常に堅くしまっている
2　極暗褐色土（7.5YR2/3）　粘性あり、しまり中、焼土
3　黒褐色土（10YR3/2）　粘性中、しまり中、非常にきめが細かい

SR01
1　黒褐色土（10YR2/2）　粘性中、しまりやや強、10YR4/4褐色土をブロック状に若干混入する

SKP32
2　黒色土（10YR2/1）　粘性中、しまり中、地山土が粒子状に極僅かに混入する
3　黒褐色土（10YR3/3）　粘性中、しまり中、地山土が粒子状に極僅かに混入する

SKP33
4　黒褐色土（10YR3/2）　地山軽石土が径２～３cmのブロック状に20～30%程度混入する

SR03
1　にぶい黄色土（2.5Y5/4）　ローム粒多量に混入
2　黒褐色土（10YR3/2）　しまり良い、ローム粒ブロック状に混入
3　黒色土（10YR2/1）　しまり良い、ローム粒少量混入
4　黄橙色土（10YR7/8）　ロームブロック
5　黄褐色土（7.5Y5/6）　しまりやや悪い、ローム小ブロックやや多く混入
6　黒色土（10YR2/1）　ローム粒をほとんど含まない

第41図　SR01・02・03土器埋設遺構・SKP32・33柱穴様ピット実測図

人骨などが出土した土坑は認められず、土坑埋土について土壌分析を行ったわけではないので、墓壙と断定することはできないが、配石遺構の下から検出されたもの、土坑内に石を詰めたもの、他の土坑とやや異なる出土状況を呈する遺物を伴うものなどは、単に貯蔵を目的とするものとは区別しておかなければならないであろう。配石遺構の下から検出されたものは、合計14基である。ＳＱ01配石遺構の下からは5基が検出されているが、ＳＫ144、249土坑内からは20～50cm近い大きさの石が検出された。ＳＱ02配石遺構では2基が検出され、ＳＫ143土坑内から小型の鉢形土器が横位で出土している。ＳＱ03配石遺構からは2基が検出され、ＳＫ255土坑内から石鏃2点が出土している。ＳＱ07配石遺構では2基が検出され、ＳＫ162土坑の埋土は人為的に埋め戻されているのがわかる。ＳＱ09配石遺構では2基検出され、ＳＫ164土坑中に20～40cm大の石が詰まっていた。ＳＱ10配石遺構ではＳＫ161土坑内に土器が敷かれたような状況がみられ、鐸形土製品、環状土製品なども出土している。鐸形土製品は、ＳＫ37、118、195の各土坑からも出土している。埋土中に大きな石を詰めたものでは、ＳＫ73、88、134、253の各土坑がある。また、ＳＫ235土坑内からは3個体の土器が一括出土し、その出土状況にはやや特異な点が指摘できる。すなわち、壺形土器の中に鉢形土器を包み込むように置いた状況がみられたことであった。このほかに、ＳＫ162の埋土の堆積状況と関連するが、上部に配石遺構を伴わない場合や出土遺物もない場合でも、埋土の堆積状況が人為的なものも注意される。ＳＫ05･65･148･186･170などがこれにあたる。

以上に掲げたものとは性格は異なるが、土坑埋土中に粘土を貼ってそこで火を使用したものも検出されている。ＳＫ63、251土坑がそれである。

出土遺物は、土器･土製品、石器･石製品であり、人骨の出土は認められなかった。時期は、出土遺物から縄文時代後期前葉と考えられる。遺物が出土していない土坑については、前述した検出面の関係から、第Ⅲ層中に掘り込み面をもつものと考えられ、第Ⅲ層が後期前葉を中心とする遺物包含層であることからみて、該期のものと推定することができるであろう。以下に、土坑ごとに出土遺物を概観する。

ＳＫ22（第85図3）　ＭＡ44グリッド出土遺物と接合したものである。地文にＲＬ縄文を施し、口縁に沿って縄文原体側面圧痕を2巡させている。口縁は波状を呈する。

ＳＫ24（第85図10）　ミニチュア土器の底部である。

ＳＫ32（第85図）　19･20は同一個体である。外面に朱がみられるが、胎土中に朱と同色の赤色粒子の混入が認められる。

ＳＫ43（第86図）　13は、波状を呈する口縁部に沈線を施し、その下部の地文を磨消し無文部を設けている。器面に朱は認められないが、胎土に赤色粒子が観察される。

ＳＫ63（第87図）　1～11はすべて同一個体で、口径や器高は不明であるが、器形は深鉢形土

器である。口縁は波状を呈し２本１組の沈線で文様が描かれる。口縁部文様は斜行する沈線の間に「Ｓ」字状文が入り、横位の沈線で文様帯が区画される。胴部文様は、弧線が縦方向に描かれ、文様帯の下端は横位の沈線で画される。胴部文様帯の中央部に横走する１条の沈線が断続しているが認められる。器面に煤が付着し、胎土中に赤色粒子が観察される。

ＳＫ98　第74図４は壺形土器の口縁部から頸部にかけての資料である。地文にＲＬ縄文を施し、頸部に原体の側面圧痕を１巡されている。口径は11cm、焼成は良好で色調はにぶい黄橙色(10ＹＲ7/4)を呈する。頸部に穿孔されている。貫通はしていない。ＳＫ98土坑を確認した時確認面で出土していることから、本来はＳＫ98土坑に伴うものとは考えにくい。

ＳＫ102　第74図５は小型の鉢形土器である。ＭＡ53グリット出土破片と接合している。口縁は２単位からなる波状を呈し、口縁に沿って半截竹管状工具により沈線が引かれ、その間にＬＲ縄文が充填されている。沈線から底部にかけては無文である。遺存度は1/2である。破片資料は、第88図22が深鉢形土器の口縁部、23が浅鉢形土器である。

ＳＫ109土坑　第89図１は深鉢形土器の胴部破片である。胎土中に赤色粒子を混入する。この破片をみる限り外面は黒褐色(10ＹＲ3/2)を呈し、朱の塗彩は認められないが、内面には塗彩が認められる。

ＳＫ112土坑　第89図４・５・９にも胎土中に赤色粒子の混入が見られる。このほかに第89図８の破片の内外面には煤が付着しており、その上に朱が部分的に塗彩されている。朱は断面にも認められることから、土器が破損してから何らかの理由で朱が付着したものと考えられる。

ＳＫ135土坑　プラン確認面のやや上方で磨製石斧６点が一括して出土した。第104図６～８、第105図３が刃部を北から北西に向け、第105図１・２が刃部を東から南東に向けて出土している。第104図６は全長３cm、厚さ0.5～0.6cmで、基部と刃部の一部が欠損している。第104図７は、全長6.2cm、厚さ1.4cm。第104図８は全長10.1cm、厚さ１cmで刃先が欠損している。第105図１は全長6.9cm、厚さ1.3～1.4cmで刃先が欠損している。第105図２は、全長9.2cm、厚さ1.4～1.6cm、これも刃先に欠損が認められる。第105図３は全長9.6cm、厚さ２～2.1cmで刃先に欠損が認められる。出土状況から判断して埋納されたものとは認められず、流れ込みの可能性が大である。

ＳＫ170土坑　第75図２は、深鉢形土器の胴部下半から底部にかけての資料である。ＲＬ縄文が施されている。底径は6.7ｃｍである。第90図22は、口縁が波状を呈する深鉢形土器である。50ｍ以上も離れたＭＣ55･56グリッド出土破片と接合している。

ＳＫ172土坑(第91図)　破片資料のみであるが、器形は深鉢形土器(１～５)、壺形土器の破片(19)がみられる。また14･16･20･21･24は、器形は明らかでないが、胎土に赤色粒子の混入が認

められる。

ＳＫ174土坑　第105図５は、主要剝離面の背面の左側縁と下端に調整を施し、刃を作り出している。石質は頁岩である。

ＳＫ178土坑　深鉢形土器２個体分が出土した(第75図３・４)。３は、口縁部から胴部にかけての資料であるが、ＬＲ縄文が施文されている。４は底部から張りぎみに立ち上がり、口縁部が大きく開く器形である。文様は、ＲＬ縄文のみ施文され、口縁部と胴下半分とで原体をころがす方向が異なる。口径は27.2cm、底径7.4cm、推定の器高43.5cmである。

ＳＫ194土坑(第92図)　３は深鉢形土器の口縁部である。器面は風化が著しい。口縁は小波状を呈し、沈線により円文と長円文が描かれ、円文と円文を弧状につなぐように縄文原体側面圧痕が施される。その下にＬＲ縄文が施文されている。５は貫通孔があけられたもので、用途は不明である。表面はかなり磨滅している。

ＳＫ195土坑　第76図１・２は、深鉢形土器である。２は地文にＲＬ縄文を施し、沈線により口縁部文様帯を構成する。第76図３は、壺形土器の胴部破片である。頸部と胴部を２本の隆帯で分け、隆帯間を縦の隆帯で連絡して方形に区画する。隆帯の両脇に沈線を沿わせ、隆帯と隆帯の接点に円形の刺突を施す。胴部文様は、縦位の隆帯で４単位に区画され、区画された面に沈線により直線や曲線が描かれる。焼成は良好で、色調は内外面とも橙色(7.5ＹＲ6/6)を呈する。第76図４は、底部資料で底面に平行な葉脈痕が認められる。土製品では、鐸形土製品が１点出土している。

ＳＫ227土坑　第77図１は、やや小型の深鉢形土器である。底部から外反して立ち上がり胴部上半で最大径をもって口縁に達する。ＲＬ縄文を地文に施し、口縁部と胴部を分けるように２条の沈線を施文し、その間の地文を磨消して無文帯を作り出している。法量は、口径16.5cm、底径9.5cm、器高22.4cmである。遺存度は1/2、焼成は良好で、色調は黄褐色(10ＹＲ5/6)である。

ＳＫ235土坑　第77図２・３・４の３個体は底面近くから一括出土したものである。４の中に３が置かれ、そのそばから２が横位で出土している。２は、内外面とも煤が付着しているが、外面はていねいに研磨されている。口縁部に２本１組の沈線が２条横位に引かれ、２条の沈線を縦に連絡する弧線が一カ所だけ認められる。沈線の引き方は粗雑である。胴部上半に最大径をもち、法量は口径12.4cm、底径7.7cm、器高16.1～16.9cmである。３は、３または４単位の波状口縁を呈する深鉢形土器で遺存度は1/2弱である。文様は施されておらず、胎土に赤色粒子を含む。色調はにぶい黄橙色(10ＹＲ6/4)を呈する。４は、頸部に橋状把手を有する壺形土器である。口縁部は４単位の波状を呈し、それに粘土紐を巻きつけ、その下に粘土紐をまるく交差させたものを貼りつけている。橋状把手は、口縁の波頂部に対応してつけられており、胴部

文様帯は橋状把手から垂下する沈線によって区画されている。さらに文様帯は横位の沈線によって2段に区画されていると推定され、縦位に連続するS字状文と斜位の沈線から構成される。口径は9.7cm、胎土に砂粒を含む。色調は灰黄褐色(10YR6/2)を呈する。

SK238土坑　第94図15～17・19は細い原体のLR縄文を地文に施し、沈線に沿って円形の刺突が行われている。器形は、深鉢形と推定される。胎土は緻密であるが、ややもろい。

SK253土坑　第78図1は、胴部上半に最大径を有する深鉢形土器である。文様はLR縄文のみで、施文方向は一定しない。内面はよく研磨されており、胎土は小砂粒を若干含む。色調は、外面が明黄褐色(10YR6/6)、内面が橙色(7.5YR6/6)を呈する。

(8)フラスコ状土坑・袋状土坑

フラスコ状土坑・袋状土坑は5基検出した。SKF01・02・05からは縄文時代後期の土器が出土した。SKF05の土器は後期前葉に属するものである。

SKF01フラスコ状土坑(第59・第96図1、図版20・40)

MA53グリッドで検出した。SK102と重複しており、本遺構が古い。平面形は円形と思われる。遺構の規模は坑口部径1.17m、頸部径0.92m、坑底部径1.46m、深さ0.99mで、底面は平坦である。埋土は5層に分層した。黒褐色とにぶい黄褐色を主体とし、いずれも地山ロームブロックが混入し、1層には微量の焼土粒子も混入している。埋土の状況から人為的堆積と思われる。

遺物は埋土中より土器が1点出土した。細い沈線を平行に3条施文するもので，焼成は大変良好である。

SKF02フラスコ状土坑(第59図・第96図2、図版20・40)

LS52グリッドで検出した。平面形はほぼ円形である。遺構の規模は坑口部径0.75m×0.86m、頸部径0.60m×0.69m、坑底部径0.95m、深さ0.75mで、底面はやや凹凸している。埋土は9層に分層した。黒褐色土を主体としており、いずれの層にも地山ロームブロックや粒子が混入し、特に4・6層はロームブロックを多量に含む。埋土の推積状況から人為的推積と考えられる。

遺物は埋土中より土器の口縁部が1点出土した。浅く、細い沈線を施文しているもので、焼成は大変良好である。

SKF03フラスコ状土坑(第60図、図版20)

LS54グリッドで検出した。平面形は楕円形である。遺構の規模は坑口部径0.68m×0.82m、坑底部1.62m×1.70m、深さ1.31mで、底面は平坦である。埋土は9層に分層した。黒褐色土や明黄褐色土を主体にしており、6層は硬い地山ローム(明黄褐色)が主体で、ブロック

第7表　土坑一覧表(1)

遺構番号	検出グリット	平面形	規模		深さ	主軸方位
			口径	底部径		
1	MD49	円	73	57×50	11	
2	MD48 ME48	不整円	70×60	64×50	6	
3	MD47 ME47	楕円	84×67	77×58	12	N—46°—W
5	MC48	円	84×75	67	19	
14	MB48 MC48	不整円	78×65	55	36	
18	MD49	円	63	50	16	
19	MD48	円	72	55	16	
22	MA44	円	84	73	14	
24	MD50·51 ME50·51	円	100×90	90×80	22	
28	MA47·48	不整円	64	55	15	
32	MA46 MB46	円	83×75	60	15	
33	MA46	楕円	75×52	64×44	10	N—21°—E
37	MB45	円	55	38	17	
39	MA44	楕円	160×144	150×130	36	N—20°—E
40	MB50 MC50	円	44	40	16	
43	MB47	円	90	85×75	18	
45	MB50 MC50	不整		50×35	17	
48	MB50	楕円	110×84	97×72	30	N—85°—W
49	MB50 MB50	楕円	104×65	100×62	15	N—16°—E
53	MC46	不整円	132×128	120×110	13	
55	MC47	円	51	43	8	
59	MC49 MD49	円	58	50	12	
61	MA51	円	82×70	74×63	24	
62	MB51	楕円	72×53	68×46	8	N—48°—E
63	MA47	楕円	105×79	101×75	27	N—38°—E
64	MA49	円	102	81	31	

第8表　土坑一覧表(2)

遺構番号	検出グリット	平面形	規模		深さ	主軸方位
			口径	底部径		
65	MC47	円	100	85×72	37	
69	MC46	円	55	40×33	21	
71	MB52	楕円	58×44	50×38	17	N－50°—W
72	MB52	楕円	128×90	117×85	20	N—60°—W
73	MB52	円	80×75	72×65	21	
77	MA52	円	55	48	15	
80	MB53·54	円	64×55	51	17	
81	MB54	円	54	47	18	
82	MB49	楕円	84×63	78×55	17	N—17°—W
84	MA50	円	69×63	57	15	
85	MA50	不整楕円	110×65	56×42	31	N—33°—W
86	MA52	円	103	90	27	
88	MA53 MB53	円	74×60	40×34	19	
89	MA53	円	64×62	54×46	37	
90	MA50·51	不整円	53	40	17	
91	LQ51	楕円	66×52	39	37	N—52°—E
92	LQ51	楕円	82×67	75×58	23	N—26°—E
94	LR51	楕円	130×103	113×86	27	N—18°—E
95	LR51·52	円	95	70	59	
97	LR53	隅丸楕円	131×70	104×53	19	N—76°—W
98	LQ54	円	103	90	15	
100	LP55 LQ55	円	44	33	12	
101	LQ55	円	55	48	19	
102	MA53	不整円	90×82	81×57	37	
104	MB52	不整円	67×58	55	13	
106	MA55	楕円	46×38	41×31	12	N—40°—E

第9表　土坑一覧表(3)

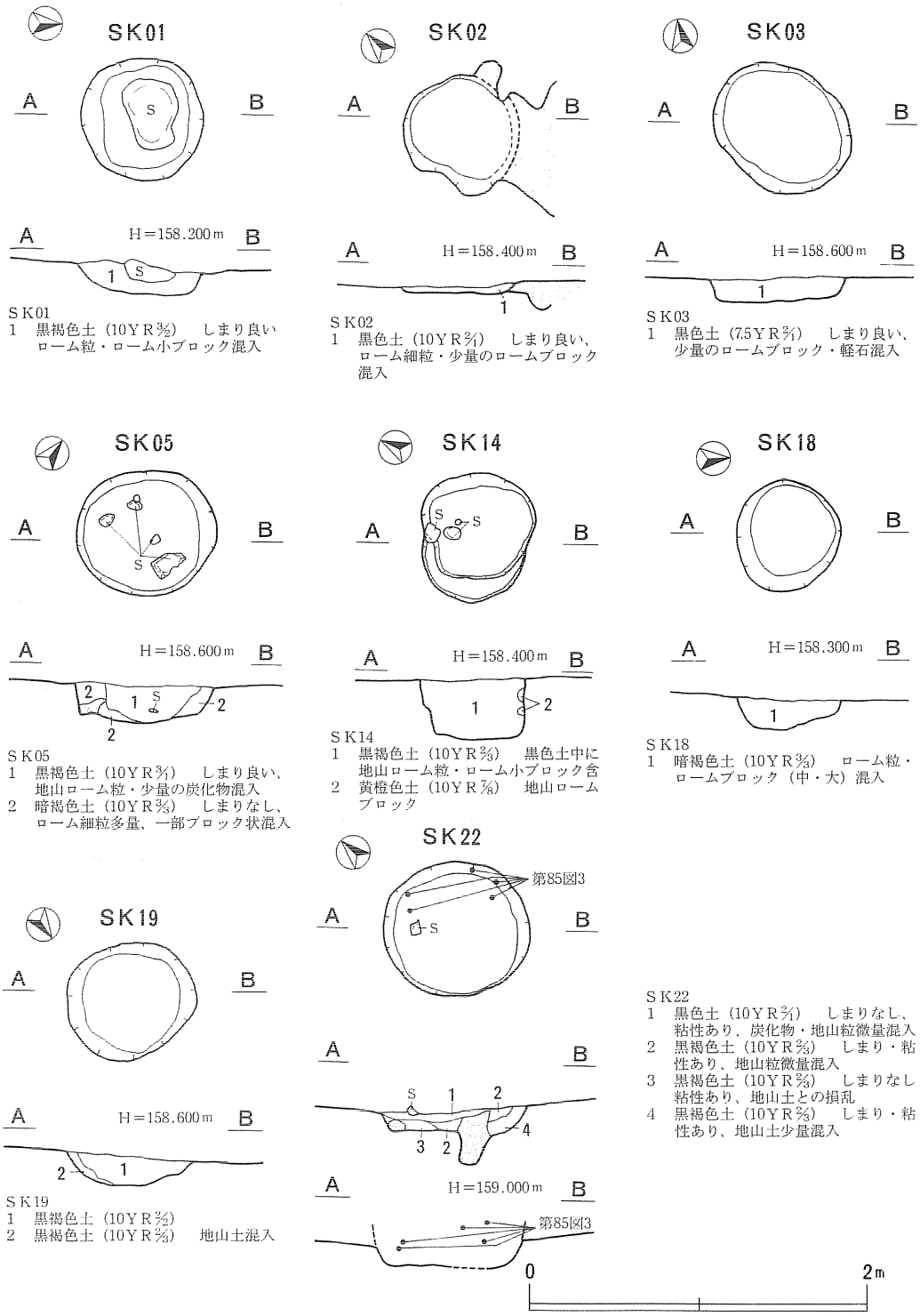
遺構番号	検出グリット	平面形	規模		深さ	主軸方位
			口径	底部径		
107	MA52	不整円	78	55	20	
110	LR53·LS53	楕円	121×88	86×70	27	N—71°—E
111	MA53 MB53	楕円	86×72	65×56	29	N—51°—W
112	LT53 MA53	不整円	128	110	24	
113	LR54	不整円	60×55	45×38	8	
116	LS54	楕円	70×55	54×42	18	N—89°—E
117	LR54·55 LS54·55	楕円	222×117	142×100	33	N—58°—E
118	LS54	楕円	122×90	105×75	28	N—58°—E
120	LS56 LT56	円	70	64	22	
129	LS54	円	54	45	16	
131	LS54	楕円	88×78	82×68	14	N—78°—E
132	LS54	不整円	76×46	34	21	
133	LQ55 LR55	円	42	28	27	
134	LS54 LT54	円	75	70	17	
135	LT46	楕円	80×60	70×56	16	N—30°—E
139	LS54	円	51	35	7	
141	LT51 MA51	楕円	102×73	73×56	26	N—16°—E
143	LT54 MA54	円	40	30	16	
144	MA50	円	55	48	18	
145	LT54	不整楕円	73×42	64×34	16	N—80°—E
148	LT50	円	150×130	98×90	61	
160	LR47	円	82	67	42	
161	LS47 LT47	円	123	118	27	
162	LQ47 LR47	楕円	128×75	110×65	51	N—8°—W
164	LT48	不整円	65×60	47×38	17	
165	LS45·46 LT45·46	円	60	35	15	

第10表　土坑一覧表(4)

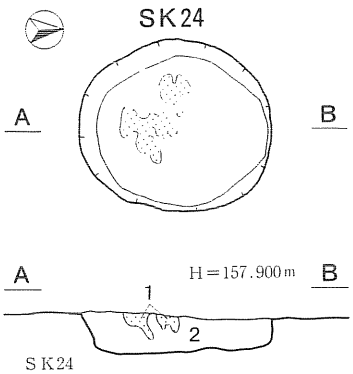
遺構番号	検出グリット	平面形	規模		深さ	主軸方位
			口径	底部径		
167	LS45	不整楕円	84×72	78×69	14	
169	LS44·45	楕円	110×92	99×84	46	N—8°—E
170	LS44	楕円	157×107	150×100	46	N—5°—E
171	LR44 LS44	楕円	80×60	30×26	17	N—16°—E
172	LS43	不整楕円	不明×160	165×150	47	
173	LS43	不整円	100	85	28	
176	LQ47·48 LR47·48	円	100	90	16	
178	LQ49	円	72	53	19	
179	LR49	楕円	95×70	87×56	31	N—20°—E
182	LQ50 LR50	楕円	123×100	111×88	28	N—37°—W
184	LQ50	不整円	67×55	60×50	41	
185	LQ50	円	48	40	17	
186	LR50	楕円	125×110	96×70	30	N—3°—W
190	LQ50	楕円	72×50	45	33	N—2°—E
193	LQ43	楕円	100×84	88×70	38	N—7°—E
194	LR44	楕円	(120)×90	(110)×80	13	N—42°—W
195	LR44	楕円	226×196	78×54	75	N—67°—E
196	LR44	楕円	(160)×92	(146)×68	22	N—10°—E
197	LR44·45	楕円	118×70	100×55	56	N—4°—E
210	LQ42	円	96	85	23	
211	LR43	円	48	38	13	
227	MB49	円	55	40	21	
228	MA52·53	楕円	123×80	119×61	26	N—22°—E
229	MA52·53	楕円	103×85	86×74	28	N—18°—W
230	MA50·51	円	38	30	12	
231	LT53·54	円	90×55	48	38	

第11表　土坑一覧表(5)

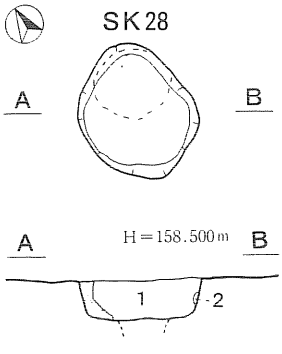
遺構番号	検出グリット	平面形	規模		深さ	主軸方位
			口径	底部径		
232	LT48 MA48	円	65	58	33	
233	LT48	円	34	24	7	
235	LS44	円	110×65	70×48	26	
237	LS44 LT44	円	72	57	18	
238	LQ47	円	40	36×25	15	
239	LS44·45	円	64	52	19	
241	LT49	円	42	35	20	
242	LT49 MA49	円	52	43	10	
245	MA51	円	38	31	9	
247	LS54 LT54	楕円	80×60	70×50	21	N—77°—E
248	LT54 MA54	楕円	50×33	35×23	11	N—57°—E
249	MA50	不整円	55×50	45×38	10	
250	LS54	円	44	30	9	
251	LR42·43	楕円	150×112	127×80	38	N—8°—W
252	MB51	楕円	98×84	87×66	20	N—8°—W
253	MB55	円	60	38×20		
254	MA49	楕円	100×55	81×40	10	N—85°—E
255	MA49	楕円	130×88	118×75	23	N—38°—E
256	LR43·44	円	80×74	70×70	29	
257	LR44	(楕円)	(80×150)	(67×123)	31	N—48°—E
258	LT50	円	85	82	28	
259	MO41	楕円	71×156	64×148	6～10	N—5°—W



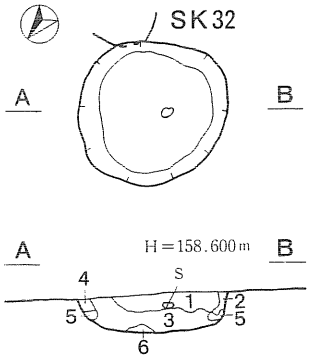
第42図　SK01・02・03・05・14・18・19・22土坑実測図



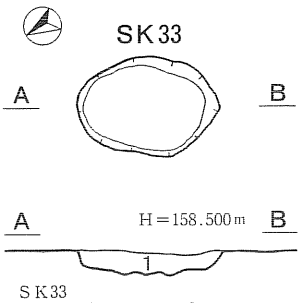
SK24
1　橙色土（5YR⅝）　焼土粒と小焼土ブロックで成る、炭化物少量含む
2　黒褐色土（10YR⅔）　ローム粒少量混入



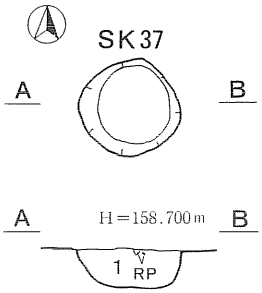
SK28
1　黒褐色土（10YR⅔）　しまり・粘性あり、炭化物・地上粒径1～3㎜微量、毛根混入
2　ロームブロック



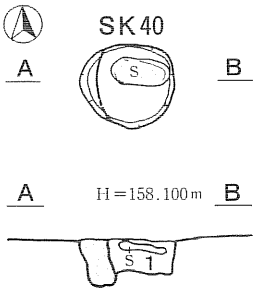
SK32
1　黒褐色土（10YR⅔）　しまりなし粘性なし、地上粒ブロック状及び1㎜粒で少量混入
2　黒褐色土（10YR⅔）　しまりなし粘性あり、混入物は一層より少ない
3　黒色土（10YR⅔）　しまり・粘性あり、地山粒径1㎜微量混入
4　黒褐色土（10YR⅔）　しまり・粘性あり、炭化物微量混入
5　暗褐色土（10YR¾）　しまり・粘性あり
6　黒褐色土（10YR⅔）　しまりややあり、粘性あり、地山粒多量混入



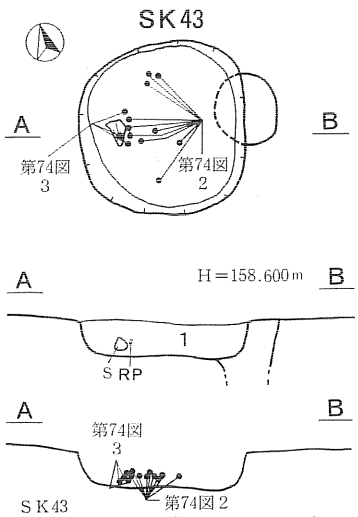
SK33
1　黒褐色土（10YR⅔）　しまり・粘性あり・地山粒微量混入



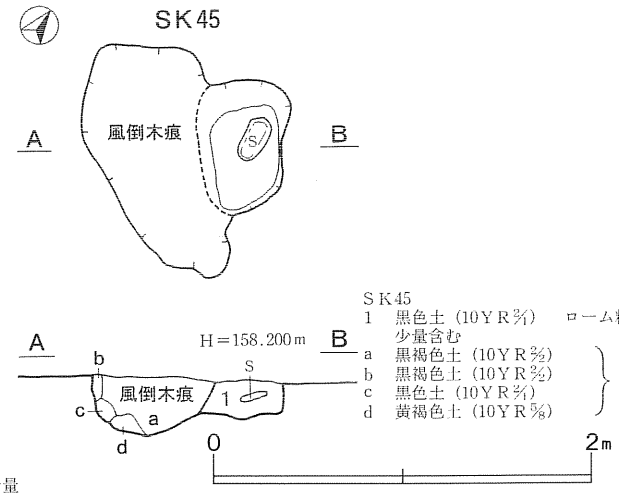
SK37
1　黒褐色土（10YR⅔）　しまり・粘性あり、地山粒微量、黒褐色土・黒色土が50%混入



SK40
1　黒褐色土（10YR⅔）　ローム細粒少量混入

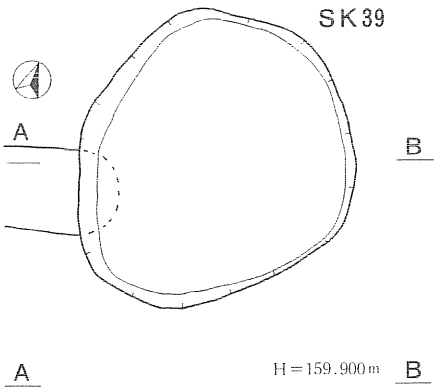


SK43
1　黒色土（10YR⅔）　しまりややあり、粘性あり、焼土粒、炭化粒微量、地上粒少量

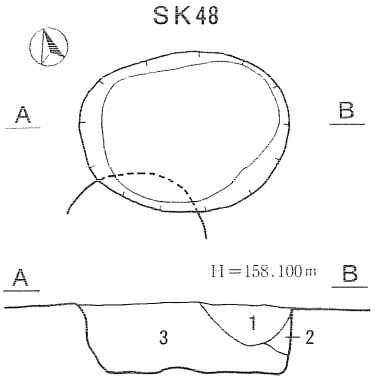


SK45
1　黒色土（10YR⅔）　ローム粒を少量含む
a　黒褐色土（10YR⅔）
b　黒褐色土（10YR⅔）
c　黒色土（10YR⅔）
d　黄褐色土（10YR⅝）
} 風倒木痕

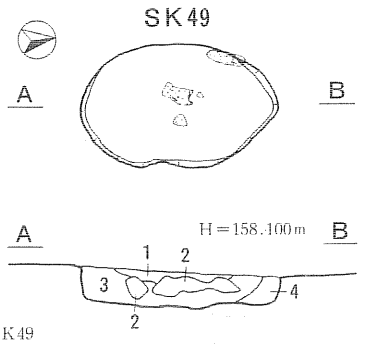
第43図　SK24・28・32・33・37・40・43・45土坑実側図



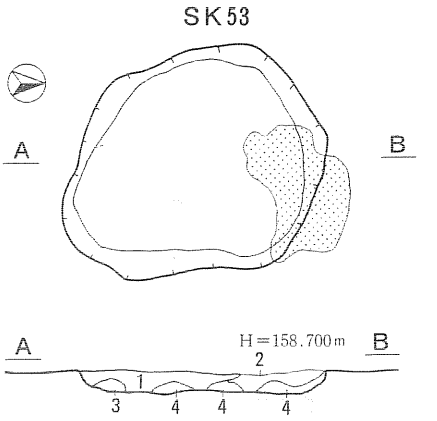
SK39
1　黒色土（10YR2/1）　しまりややあり、粘性あり、地山粒微量混入
2　黒褐色土（10YR2/2）　しまりややあり、粘性あり、地山粒少量
3　地山ブロック



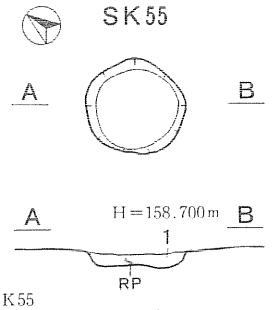
SK48
1　黒色土（10YR1.7/1）　ローム粒少量混入
2　暗褐色土（10YR3/3）　ローム細粒やや多量に混入
3　黒褐色土（10YR3/2）　ローム粒ブロック（中～小）・炭化物やや多量に混入



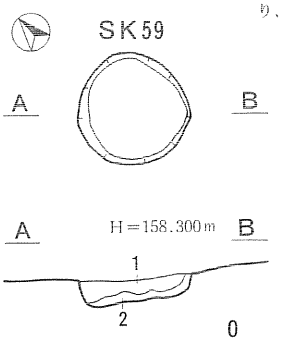
SK49
1　暗褐色土（10YR3/3）　焼土粒と粘土粒子混入
2　にぶい黄橙色土（10YR7/4）　焼土粒・炭化物・粘土質の土が混入
3　灰黄褐色土（10YR4/2）　ローム粒・ローム中ブロック焼土粒・炭化物混入
4　にぶい黄褐色土（10YR5/4）　ローム粒・少量の焼土粒混入



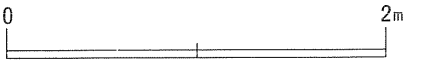
SK53
1　黒褐色土（10YR3/2）　しまりなし、粘性あり、焼土粒、炭化物微量
2　黒褐色土（7.5YR3/2）　しまり・粘性あり、焼土粒少量、炭化物微量
3　黒褐色土（10YR3/2）　しまりなし、粘性あり、焼土粒少量、地山粒微量
4　黒褐色土（10YR3/2）　しまり・粘性あり、焼土粒極微量、炭化物微量



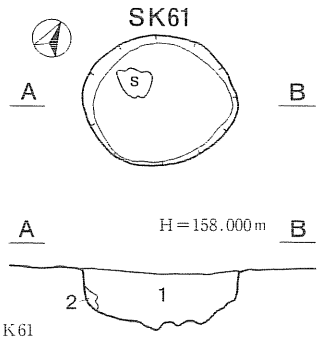
SK55
1　黒褐色土（10YR3/2）　しまり・粘性あり、地山粒極微量、10YR5/3との混合



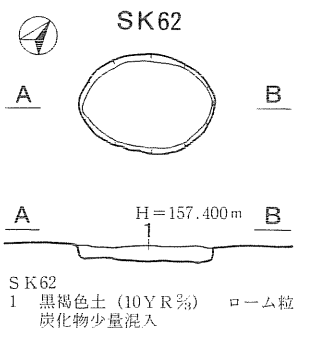
SK59
1　黒色土（10YR2/1）　ロームブロック（大～中）少量含む
2　黄橙色土（10YR7/8）　地山ローム



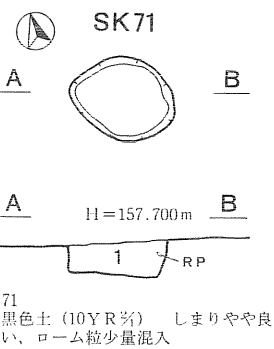
第44図　SK39・48・49・53・55・59土坑実測図



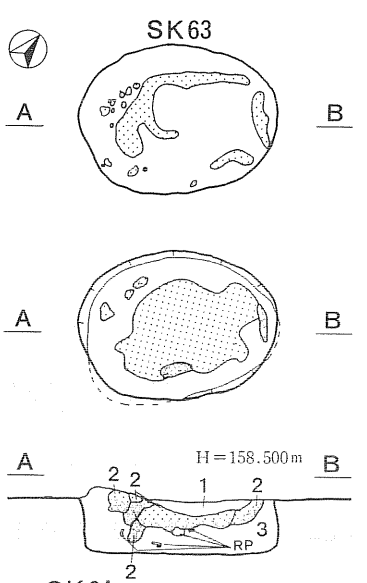
SK61
1　黒褐色土（10YR2/2）　しまり良い　ローム粒・ローム小ブロック・炭化物を含む
2　明黄褐色土（10YR7/6）　ロームブロック

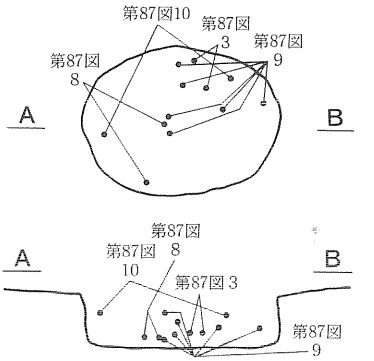


SK62
1　黒褐色土（10YR3/3）　ローム粒炭化物少量混入

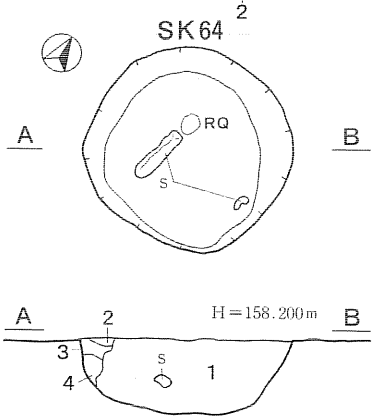


SK71
1　黒色土（10YR3/1）　しまりやや良い、ローム粒少量混入

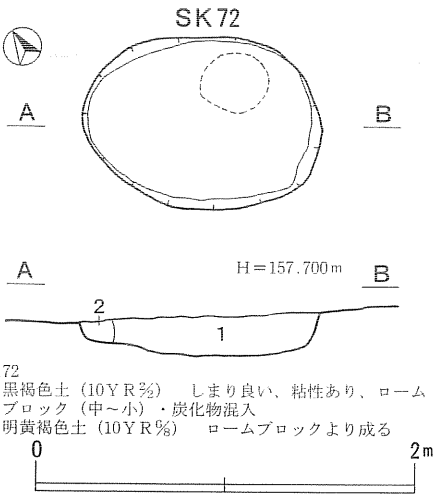




SK63
1　黒褐色土（10YR2/2）　しまり・粘性あり、地山土・焼土粒微量
2　明褐色土（7.5YR5/6）　張出された層であり、上側かなりよく焼けている、下側褐色土やや焼土化がにぶい
3　黒色土（7.5YR2/1）　しまり・粘性あり、地山土粒・ブロック微量

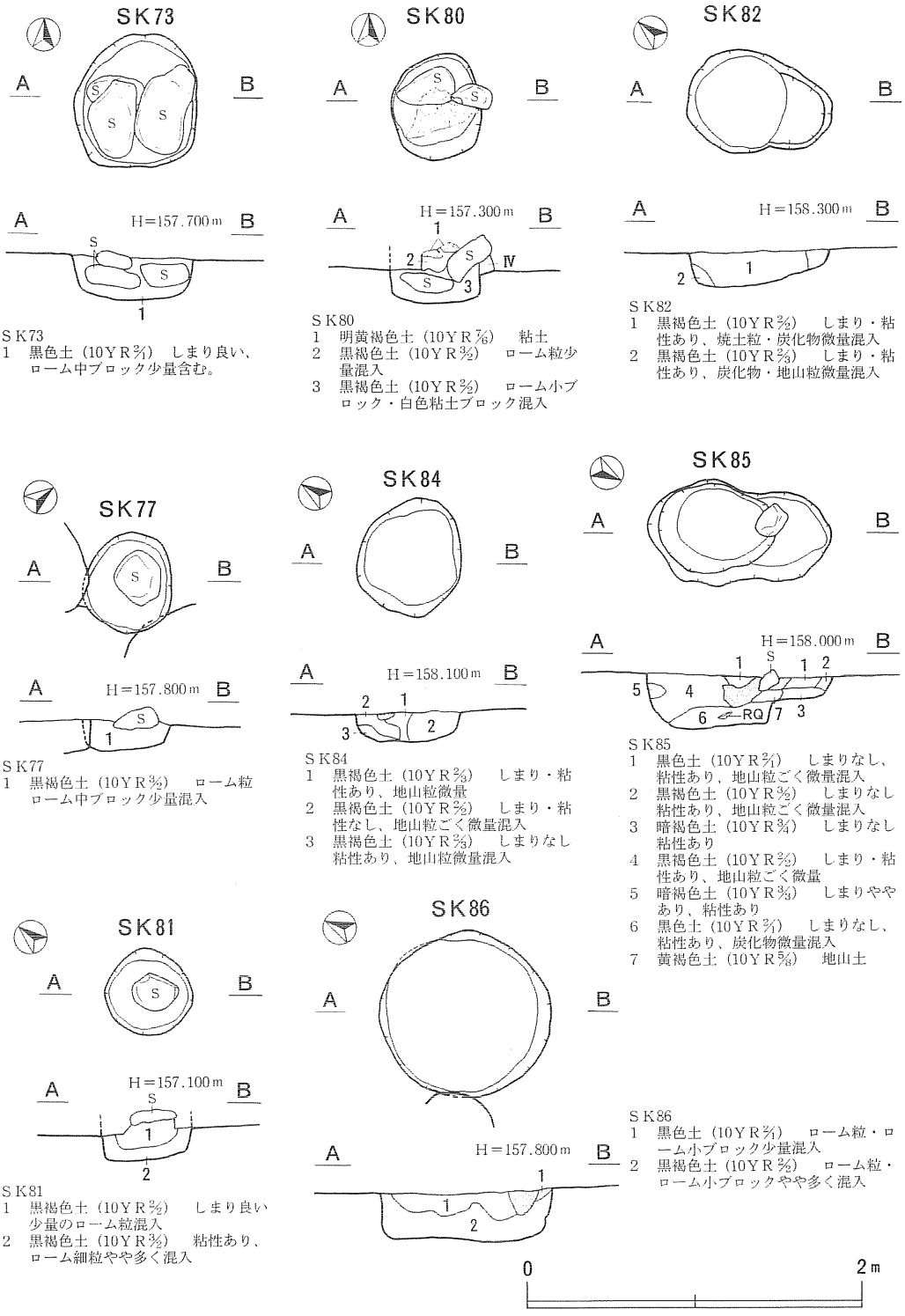


SK64
1　黒褐色土（10YR2/2）　地上粒少量混入
2～4は掘りすぎ



SK72
1　黒褐色土（10YR2/2）　しまり良い、粘性あり、ロームブロック（中～小）・炭化物混入
2　明黄褐色土（10YR6/8）　ロームブロックより成る

第45図　SK61・62・63・64・71・72土坑実側図



SK73
1　黒色土（10YR3/1）　しまり良い、ローム中ブロック少量含む。

SK80
1　明黄褐色土（10YR7/6）　粘土
2　黒褐色土（10YR3/2）　ローム粒少量混入
3　黒褐色土（10YR3/2）　ローム小ブロック・白色粘土ブロック混入

SK82
1　黒褐色土（10YR3/2）　しまり・粘性あり、焼土粒・炭化物微量混入
2　黒褐色土（10YR3/3）　しまり・粘性あり、炭化物・地山粒微量混入

SK77
1　黒褐色土（10YR3/2）　ローム粒ローム中ブロック少量混入

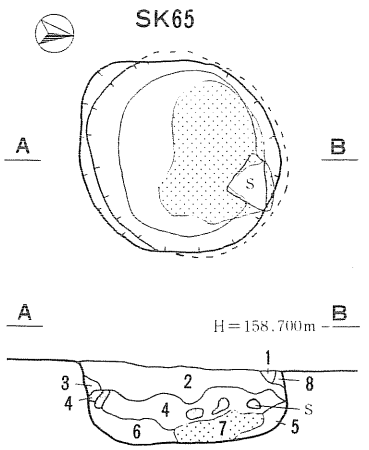
SK84
1　黒褐色土（10YR3/2）　しまり・粘性あり、地山粒微量
2　黒褐色土（10YR3/2）　しまり・粘性なし、地山粒ごく微量混入
3　黒褐色土（10YR3/3）　しまりなし粘性あり、地山粒微量混入

SK85
1　黒色土（10YR3/1）　しまりなし、粘性あり、地山粒ごく微量混入
2　黒褐色土（10YR3/2）　しまりなし粘性あり、地山粒ごく微量混入
3　暗褐色土（10YR3/4）　しまりなし粘性あり
4　黒褐色土（10YR3/2）　しまり・粘性あり、地山粒ごく微量
5　暗褐色土（10YR3/3）　しまりややあり、粘性あり
6　黒色土（10YR3/1）　しまりなし、粘性あり、炭化物微量混入
7　黄褐色土（10YR5/6）　地山土

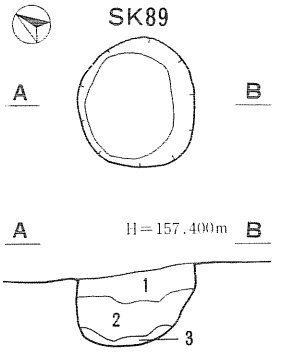
SK81
1　黒褐色土（10YR3/2）　しまり良い少量のローム粒混入
2　黒褐色土（10YR3/3）　粘性あり、ローム細粒やや多く混入

SK86
1　黒色土（10YR3/1）　ローム粒・ローム小ブロック少量混入
2　黒褐色土（10YR3/2）　ローム粒・ローム小ブロックやや多く混入

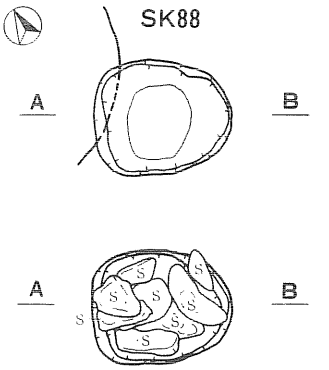
第46図　SK73・77・80・81・82・84・85・86土坑実測図



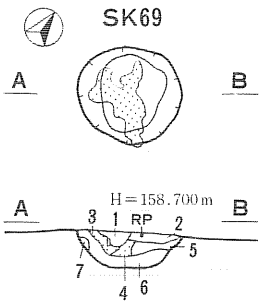
S K65
1　黒褐色土（10Y R2/3）　しまりなし、粘性あり
2　黒褐色土（10Y R2/2）　しまりなし、粘性あり　炭化物・焼土粒微量、地山粒ブロック少量
3　暗褐色土（10Y R3/4）　しまりなし、粘性あり
4　黒色土（10Y R2/1）　しまりなし、粘性あり　焼土粒・炭化物微量
5　黒褐色土（10Y R2/2）　しまりなし、粘性あり　焼土粒・炭化物ごく微量
6　黒褐色土（10Y R2/2）しまり・粘性あり、焼土粒・炭化物少量、地山粒微量　地山粒
7　暗褐色土（7.5Y R3/4）　しまり・粘性あり、炭化物少量、地山粒・ブロック微量
8　地山ブロック



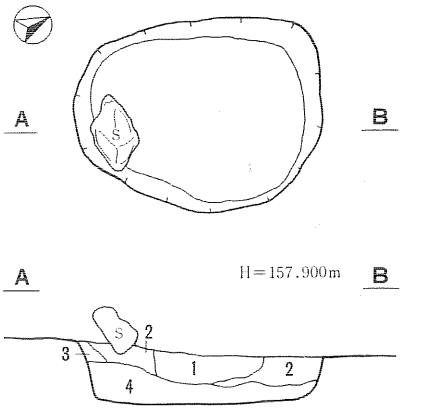
S K89
1　黒褐色土（10Y R3/2）　ローム粒・ローム小ブロック・焼土粒・炭化物を少量含む
2　褐色土（10Y R4/4）　しまり良い、多量のロームブロック、炭化物含む
3　黒褐色土（10Y R3/4）　しまり良いローム小ブロック少量混入



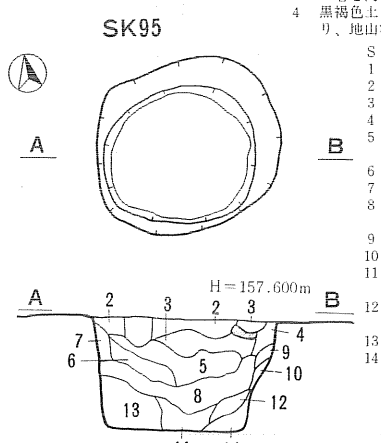
S K88
1　黒褐色土（10Y R3/3）　ローム粒子をほとんど含まない



S K69
1　黒褐色土（10Y R3/3）　しまり・粘性なし、焼土粒ごく微量
2　暗褐色土（10Y R3/3）　しまりあり、粘性なし、炭化物・焼土粒ごく微量
3　暗褐色土（7.5Y R3/4）しまり・粘性なし、焼土にじみ
4　褐色土（7.5Y R4/4）　しまりあり、粘性なし、焼土
5　暗褐色土（10Y R 3/4）　しまりなし、粘性あり、炭化物・焼土粒ごく微量
6　黒褐色土（10Y R 3/2）しまり・粘性あり、炭化物・地山粒微量
7　褐色土（10Y R 4/4）　しまり・粘性あり



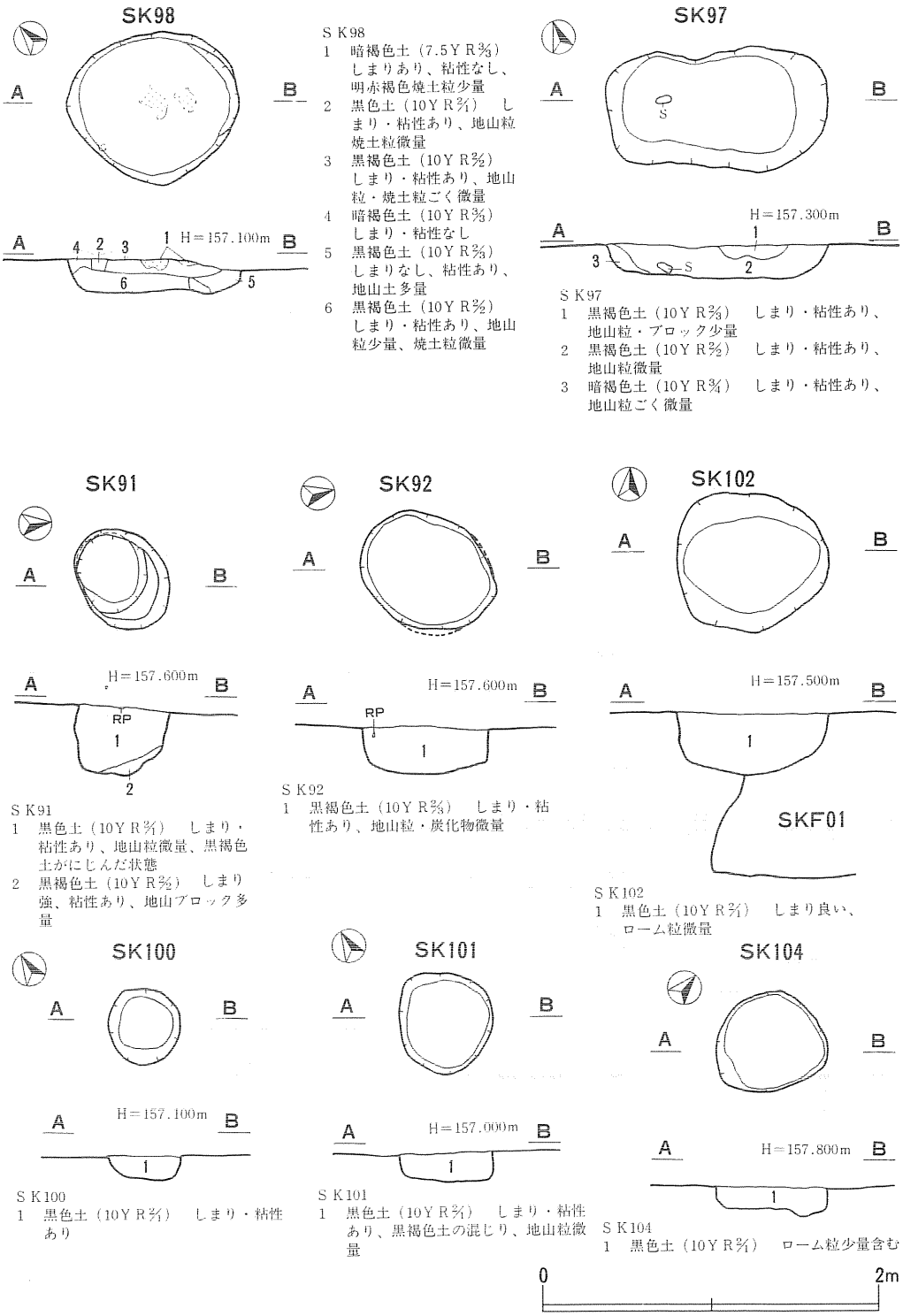
S K94
1　黒色土（10Y R 3/1）　しまり・粘性あり　地山粒・炭化物微量
2　黒褐色土（10Y R 3/2）　しまり・粘性あり、地山粒・炭化物ごく微量
3　2層と同じ、地山ブロック混入
4　黒褐色土（10Y R 3/3）　しまり・粘性あり、地山粒少量、炭化物微量



S K95
1　黒色土（10Y R1.7/1）　しまりあり、粘性なし、軽石多量
2　黒褐色土（10Y R3/2）　しまりあり、粘性なし、地山粒、炭化物ごく微量
3　暗褐色土（10Y R3/3）　しまり・粘性あり、地山粒・炭化物微量
4　暗褐色土（10Y R3/4）　しまりあり、粘性なし、地山粒・炭化物ごく微量
5　暗褐色土（10Y R3/3）　しまり・粘性あり、炭化物微量、地山粒・ブロック径5㎜多量
6　黒褐色土（10Y R3/2）　しまり・粘性あり、地山粒微量、炭化物ごく微量
7　褐色土（10Y R4/4）　しまり・粘性なし、粒子細
8　黒褐色土（10Y R3/2）　しまり・粘性あり、地山ブロック径5㎜微量、炭化物ごく微量
9　褐色土（10Y R4/4）　しまりあり、粘性あり、地山粒微量（粒子細）
10　褐色土（10Y R4/4）　8・9層との混じり、しまり・粘性なし、粒子細
11　黒褐色土（10Y R3/2）　しまり・粘性あり、地山ブロック径1～3㎝多量、炭化物ごく微量
12　暗褐色土（10Y R3/4）　褐色土・黒褐色土との混じり、しまり・粘性あり、地山粒多量
13　暗褐色土（10Y R3/3）　しまり・粘性あり、地山粒・ブロック径5㎜多量
14　暗褐色土（10Y R3/3）　しまり・粘性あり

0　2m

第47図　SK65・69・88・89・94・95土坑実測図



S K98
1　暗褐色土（7.5Y R3/3）しまりあり、粘性なし、明赤褐色焼土粒少量
2　黒色土（10Y R2/1）　しまり・粘性あり、地山粒焼土粒微量
3　黒褐色土（10Y R2/2）しまり・粘性あり、地山粒・焼土粒ごく微量
4　暗褐色土（10Y R3/3）しまり・粘性なし
5　黒褐色土（10Y R2/3）しまりなし、粘性あり、地山土多量
6　黒褐色土（10Y R2/2）しまり・粘性あり、地山粒少量、焼土粒微量

S K97
1　黒褐色土（10Y R2/3）　しまり・粘性あり、地山粒・ブロック少量
2　黒褐色土（10Y R2/2）　しまり・粘性あり、地山粒微量
3　暗褐色土（10Y R3/4）　しまり・粘性あり、地山粒ごく微量

S K91
1　黒色土（10Y R2/1）　しまり・粘性あり、地山粒微量、黒褐色土がにじんだ状態
2　黒褐色土（10Y R2/2）　しまり強、粘性あり、地山ブロック多量

S K92
1　黒褐色土（10Y R2/3）　しまり・粘性あり、地山粒・炭化物微量

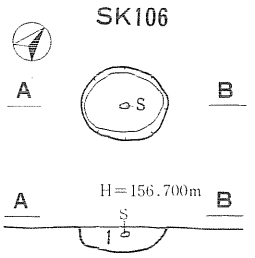
S K102
1　黒色土（10Y R2/1）　しまり良い、ローム粒微量

S K100
1　黒色土（10Y R2/1）　しまり・粘性あり

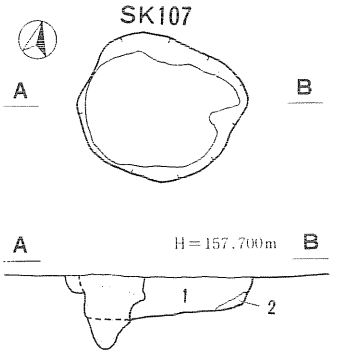
S K101
1　黒色土（10Y R2/1）　しまり・粘性あり、黒褐色土の混じり、地山粒微量

S K104
1　黒色土（10Y R2/1）　ローム粒少量含む

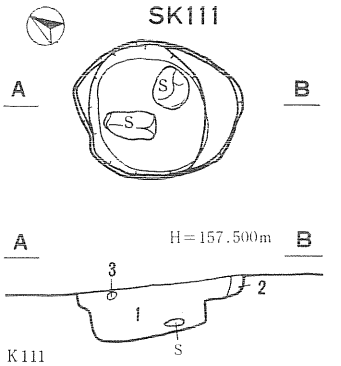
第48図　SK91・92・97・98・100・101・102・104土坑実測図



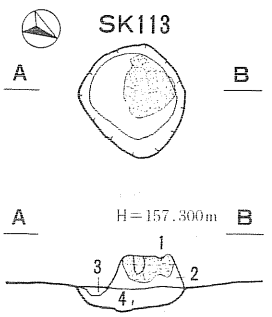
SK106
1　黒色土（10YR3/1）　しまり良い、少量のローム粒・ローム中ブロックを含む



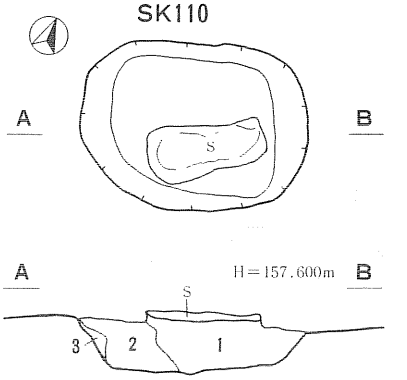
SK107
1　黒褐色土（10YR3/2）　しまりやや悪い、少量の焼土粒・ローム粒・ローム小ブロック混入
2　黒色土（10YR3/1）　ローム粒微量混入



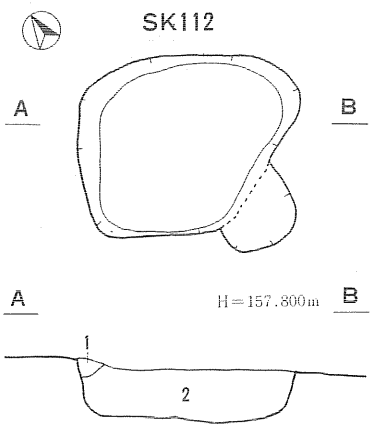
SK111
1　黒褐色土（10YR3/2）　しまり良い、焼土粒・炭化物・ローム小ブロック少量混入
2　黒褐色土（10YR3/1）　ローム粒少量混入
3　橙色土（5YR6/8）　しまりやや悪い、焼土粒密に堆積



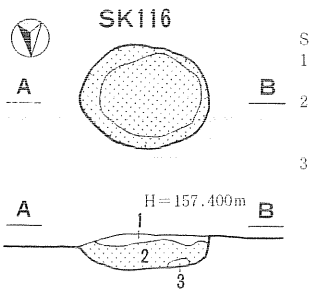
SK113
1　にぶい黄橙色土（10YR6/3）　粘土・炭化物ごく微量
2　黒褐色土（10YR3/2）　しまり強、粘性ややあり、1層の土混入
3　黒褐色土（10YR3/2）　しまりあり、粘性ややあり、焼土粒ごく微量
4　黒褐色土（10YR3/2）　しまりあり、粘性ややあり、地山粒微量、炭化物ごく微量



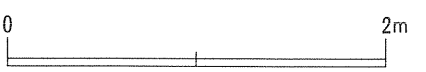
SK110
1　黒褐色土（10YR3/2）　しまり・粘性なし、地山ブロック径1～3cm少量
2　暗褐色土（10YR3/3）　しまりなし、粘性あり、地山粒微量
3　黄褐色土（10YR5/6）　崩壊土



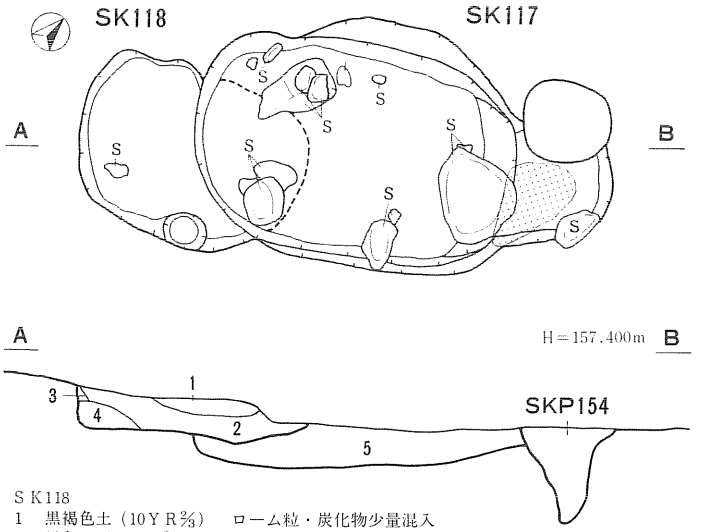
SK112
1　明黄褐色土（10YR7/6）　粘土塊
2　黒褐色土（10YR3/2）　しまり良い、ローム粒・ローム小ブロックやや多く混入



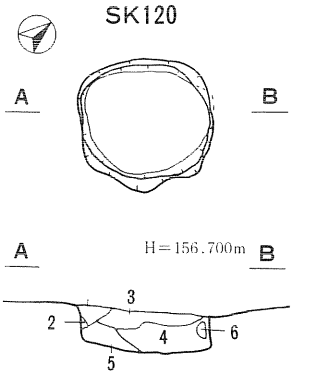
SK116
1　暗褐色土（10YR3/3）　焼土小ブロック・炭化物少量混入
2　にぶい赤褐色土（5YR5/4）　しまり良い、焼土粒・焼土小ブロック・炭化物やや多く混入
3　黒褐色土（10YR3/2）　しまり良良い、焼土粒少量混入



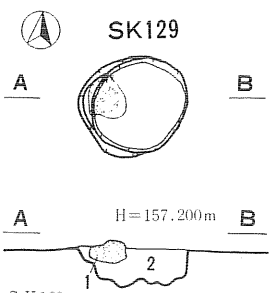
第49図　SK106・107・110・111・112・113・116土坑実測図



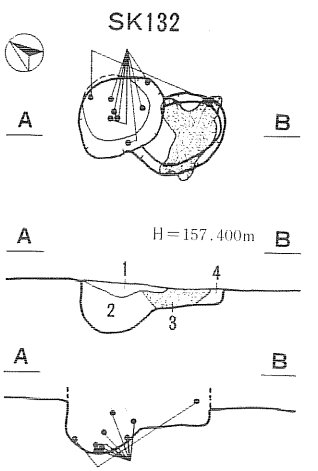
S K118
1　黒褐色土（10Y R 2/3）　ローム粒・炭化物少量混入
2　黒色土（10Y R 2/1）　しまり良い、ロームブロック（大～小）・焼土小ブロック・炭化物少量混入
3　にぶい黄褐色土（10Y R 5/4）　ローム粒やや多量に含む
4　黒褐色土（10Y R 2/2）　ローム小ブロック・焼土粒少量混入
S K117
5　黒褐色土（10Y R 3/1）　ロームブロック（中～小）・焼土粒・炭化物やや多く混入



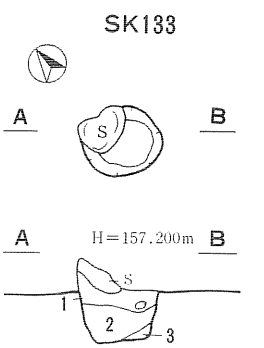
S K120
1　黒褐色土（10Y R 3/2）　しまりなし、粘性あり
2　暗褐色土（10Y R 3/4）　しまりなし、粘性あり
3　黒褐色土（10Y R 2/2）　しまりなし、粘性あり、地山粒・ブロック径5㎜微量
4　暗褐色土（10Y R 3/4）　しまり粘性あり、地山粒多量
5　黒色土（10Y R 2/1）　しまりなし、粘性あり、地山粒微量
6　地山ブロック



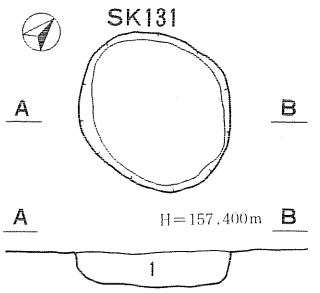
S K129
1　灰褐色土（10Y R 5/2）　粘土
2　黒色土（10Y R 2/1）　しまり良い、ローム粒・ローム小ブロック少量混入



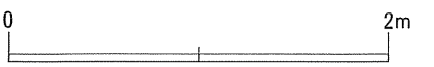
S K132
1　黒色土（10Y R 2/1）　ローム粒少量混入
2　黒褐色土（10Y R 2/2）　ロームブロック（中～小）少量混入
3　灰白色土（10Y R 7/1）　しまり良い、粘土
4　灰黄褐色土（10Y R 5/2）　灰白色粘土粒やや多く混入



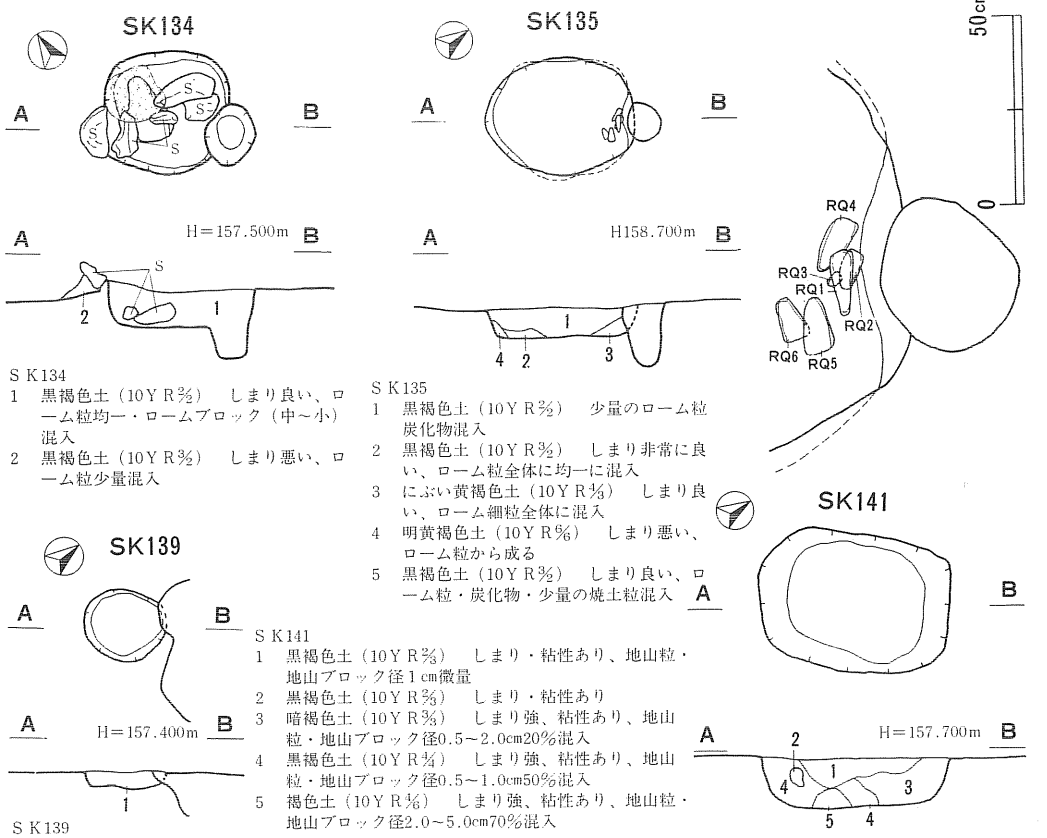
S K133
1　黒褐色土（10Y R 3/2）　しまり・粘性あり、地山粒微量
2　黒褐色土（10Y R 2/2）　しまり・粘性あり、地山粒微量
3　暗褐色土（10Y R 3/3）と地山土の混じり、しまりあり



S K131
1　黒褐色土（10Y R 3/2）　しまり良い、少量のローム粒・炭化物・ローム小ブロック混入



第50図　SK117・118・120・129・131・132・133土坑実測図



S K134
1　黒褐色土（10Y R 3/2）　しまり良い、ローム粒均一・ロームブロック（中～小）混入
2　黒褐色土（10Y R 3/2）　しまり悪い、ローム粒少量混入

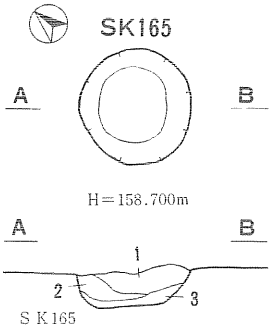
S K135
1　黒褐色土（10Y R 3/2）　少量のローム粒炭化物混入
2　黒褐色土（10Y R 3/2）　しまり非常に良い、ローム粒全体に均一に混入
3　にぶい黄褐色土（10Y R 4/3）　しまり良い、ローム細粒全体に混入
4　明黄褐色土（10Y R 6/6）　しまり悪い、ローム粒から成る
5　黒褐色土（10Y R 3/2）　しまり良い、ローム粒・炭化物・少量の焼土粒混入

S K139
1　黒色土（10Y R 2/1）　しまり良い、ローム小ブロック全体に均一に混入

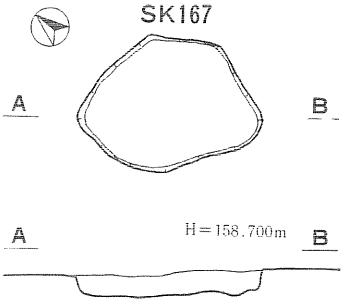
S K141
1　黒褐色土（10Y R 3/3）　しまり・粘性あり、地山粒・地山ブロック径1cm微量
2　黒褐色土（10Y R 3/3）　しまり・粘性あり
3　暗褐色土（10Y R 3/3）　しまり強、粘性あり、地山粒・地山ブロック径0.5～2.0cm20%混入
4　黒褐色土（10Y R 3/4）　しまり強、粘性あり、地山粒・地山ブロック径0.5～1.0cm50%混入
5　褐色土（10Y R 4/6）　しまり強、粘性あり、地山粒・地山ブロック径2.0～5.0cm70%混入

S K148
1　黒色土（10Y R 2/1）　しまり・粘性あり、地山粒ごく微量
2　黒褐色土（10Y R 3/2）　しまり・粘性あり、地山粒ごく微量
3　褐色土（10Y R 4/4）　しまり強、粘性あり、地山ブロック状50%混入
4　暗褐色土（10Y R 3/3）　しまりなし、粘性あり
5　黒褐色土（10Y R 2/1）　しまりなし、粘性あり、地山粒微量
6　黒褐色土（10Y R 3/2）　しまり・粘性あり、地山粒少量
7　黒褐色土　（10Y R 3/2）　しまり・粘性あり、地山粒少量、地山土混入
8　黒褐色土（10Y R 3/2）　しまり・粘性あり、地山粒・ブロック30%
9　褐色土（10Y R 4/4）　しまり強、粘性あり、地山土ブロック状70%
10　黒褐色土（10Y R 3/4）　しまり・粘性あり、地山粒・ブロック径3cm径量混入
11　黒褐色土（10Y R 3/2）　しまりややあり、粘性あり、地山粒・ブロック径5mm少量、炭化物ごく微量混入
12　黒褐色土（10Y R 3/2）　しまり・粘性あり、地山粒微量
13　黒褐色土（10Y R 3/2）　しまり強、粘性あり、地山粒・ブロック径3mm少量混入
14　黒褐色土（10Y R 3/2）　しまりなし、粘性あり、地山粒微量
15　黒褐色土（10Y R 3/2）　しまり強、地山粒ごく微量
16　黒褐色土（10Y R 3/2）　しまり強、粘性あり、地山粒70%、地山ブロック径3mm混入
17　黒褐色土（10Y R 3/2）　しまりややや欠け、粘性なし、地山粒微量

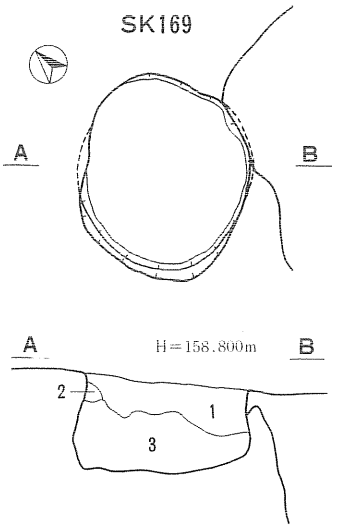
第51図　SK134・135・139・141・148土坑実測図



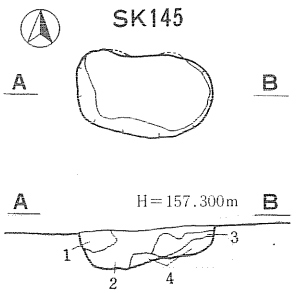
S K165
1　黒褐色土（10Y R3/2～3/2）　しまりあり、孔げきなし、長さ30㎜大木炭含む、黄褐色土ブロック少量含む
2　黒褐色土（10Y R3/2～3/3）　孔げき多く軟質、焼土粒・黄褐色土粒少量含む
3　褐色土（10Y R4/4）　孔げき多く軟質、黄褐色土・暗褐色土が斑に混じっている土



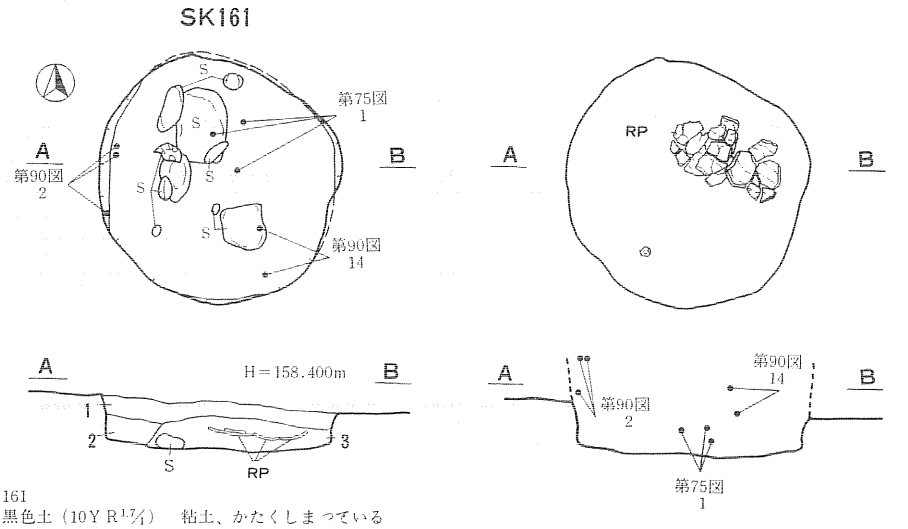
S K167
1　黒褐色土（10Y R3/2）　ローム中ブロックと炭化物混入、硬質



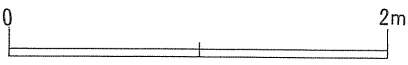
S K169
1　黒褐色土（10Y R3/2）　シルト、孔げきあり、軟質、木炭・焼土粒・軽石少量含む
2　黒褐色土（10Y R3/2）　シルト、粘性あり、孔げき多く、きわめて軟質
3　黒色土（10Y R1.7/1）　粘土、しまりあり、孔げき少なく、わずかに軽石を含む



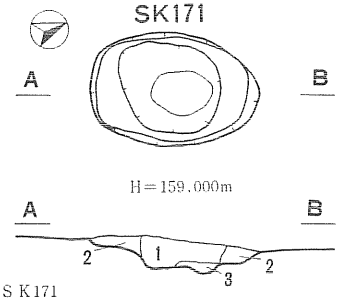
S K145
1　黒褐色土（10Y R3/2）　しまりややあり、粘性あり、地山粒ごく微量
2　黒褐色土（10Y R2/3）　しまり強、粘性あり、地山粒・炭化物・焼土粒微量
3　黒褐色土（10Y R3/2）　しまり強、粘性あり、地山粒・炭化物微量、焼土粒ごく微量
4　黒褐色土（10Y R3/2）　黒褐色土と地山土との混じり、しまりにやや欠け、粘性あり、地山土50%

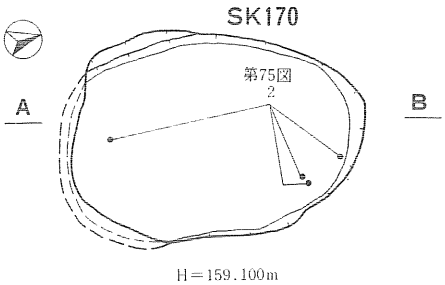


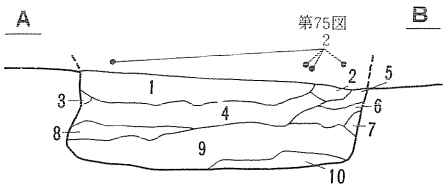
S K161
1　黒色土（10Y R1.7/1）　粘土、かたくしまっている
2　黒褐色土（10Y R3/2）　粘土、孔げき少なくしまっている
3　黒褐色土（10Y R3/2）　孔げきややあり、黄褐色土ブロックごく少量含む



第52図　SK145・161・165・167・169土坑実測図

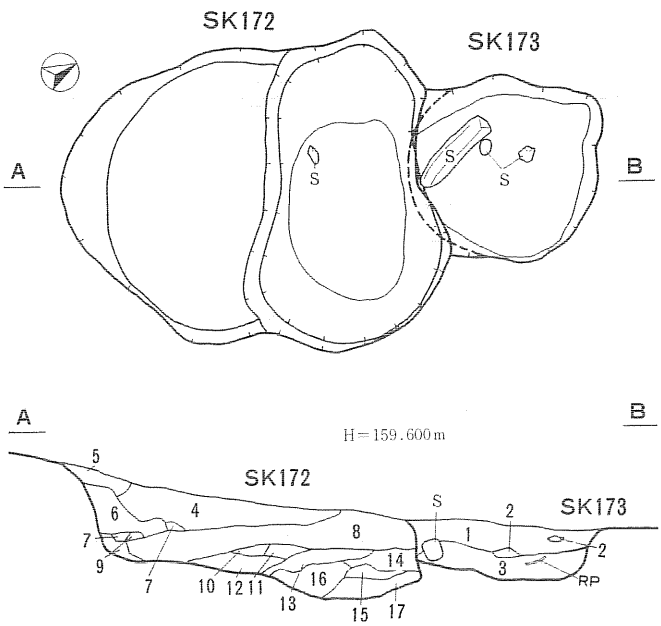




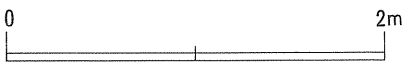


S K171
1　黒色土（10Y R$^{2.8}/_{1}$）粘土～シルト孔げきあり、軟質ごくわずかに黄褐土粒を含む
2　黒褐色土（10Y R$^{2.8}/_{3}$）　粘土～シルト　げき少なく比較的しまっている
3　暗褐色土（10Y R$^{3.8}/_{3}$）　粘土、孔げき少なく固くしまっている、黄褐色土３割程度含む

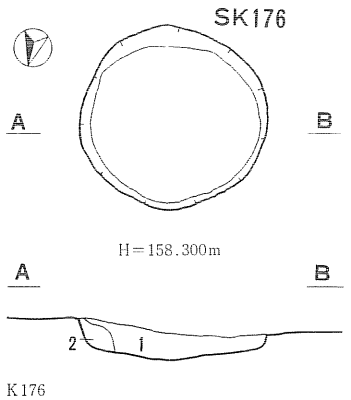
S K170
1　黒褐色土（10Y R$^{3}/_{2}$）　粘土～シルト微量の黄褐色土粒を含む、孔げき有、軟質
2　黒色土（10Y R$^{2}/_{1}$）　粘土、比較的しまっている、孔げき少ない、均質で混入物ない
3　暗褐色土（10Y R$^{4}/_{3}$）　シルト、固くしまっている、均質で混入物ない
4　黒褐色土（10Y R$^{3}/_{2}$）　粘土、孔げき少なくしまっている。黄褐色ブロック（軽石）を４割程度含む
5　黒色土（10Y R$^{2}/_{1}$）　シルト、やや粘性を帯ている、孔げき少なくしまっている
6　黒褐色土（10Y R$^{3}/_{2}$）　シルト、孔げきあり、軟質、黄褐色土ブロック（軽石）を２割程度含む
7　黄褐色土（10Y R$^{5}/_{6}$）　軽石ブロック、固くしまっている
8　明赤褐色土（５Y R$^{5}/_{6}$）　シルト焼土層、焼土は斑状に混入、少量の木炭粒を含む
9　黒色土（10Y R$^{1.7}/_{1}$）　粘土～シルト、きめ細かく均質、ごく微量の黄褐色土粒を含む
10　黒色土（10Y R$^{1.7}/_{1}$）粘土、水分を含む、黄褐色土ブロック３割程度含む



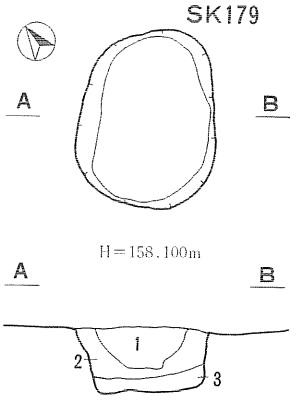
S K172、S K173
1　黒色土（10Y R$^{2}/_{1}$）　シルト、孔げきなくしまっている、微量の黄褐色粒を含む
2　暗褐色土（10Y R$^{3}/_{3}$）　シルト、孔げき少なくしまっている、黄褐色土ブロック（軽石）を含む
3　黒褐色土（10Y R$^{3}/_{2}$）　粘土、孔げきあり、軟質少量の黄褐色粒・少量の黒褐色粒を含む
4　黒色土（10Y R$^{2}/_{1}$）　シルト、孔げき少なくしまっている、ごく少量の黄褐色土ブロックを含む
5　黒褐色土（10Y R$^{3}/_{2}$）　粘土、孔げきなく固くしまっている、均質な土
6　黒褐色土（10Y R$^{3}/_{2}$）　シルト、孔げきなくしまっている、黄褐色土粒をごく少量含む
7　暗褐色土（10Y R$^{3}/_{4}$）　粘土、比較的しまっている、ブロック状の混入土
8　黒色土（10Y R$^{1.7}/_{1}$）粘土、わずかに孔げきあり、微量の黄褐色土粒、焼土粒を含む
9　黒褐色土（10Y R$^{3}/_{2}$）　粘土、孔げき少なく固くしまっている、褐色土粒と黒色土粒が混り合った土
10　黒色土（10Y R$^{2}/_{1}$）　シルト、黄褐色土粒およびブロックが混入する
11　黒褐色土（10Y R$^{3}/_{2}$）　シルト、孔げきあり軟質
12　黒色土（10Y R$^{1.7}/_{1}$）　シルト、わずかに粘性を帯ている。孔げきややあり
13　暗褐色土（10Y R$^{3}/_{4}$）　黄褐色土（軽石のつぶれた土）と黒色土が混じり合った上、固くしまっている
14　黒色土（10Y R$^{2}/_{1}$）　粘土～シルト、孔げきなく固くしまっている、黄褐色土粒わずかに混じる
15　黒褐色土（10Y R$^{3}/_{2}$）　粘土～シルト、孔げきありやや軟質、黄褐色土ブロックおよび粒を含む
16　黒褐色土（10Y R$^{3}/_{2}$～$^{3}/_{4}$）　粘土～シルト、孔げきなく固くしまっている、黄褐色土粒をわずかに含む
17　黒色土（10Y R$^{1.7}/_{1}$）　粘土、孔げきがあり軟質、水分を多く含む



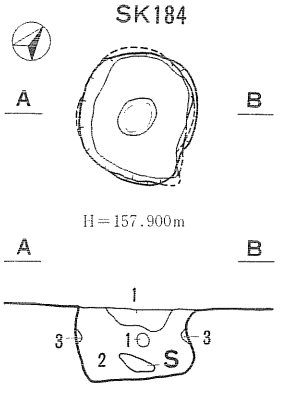
第53図　SK170・171・172・173土坑実測図



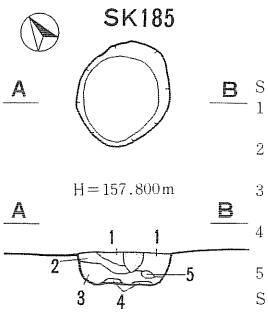
S K176
1　黒褐色土（10Y R3/3）　粘土、しまり・孔げきあり、黄褐色土粒（軽石）少量含む
2　暗褐色土（10Y R3/4）　粘土、しまり・孔げきあり



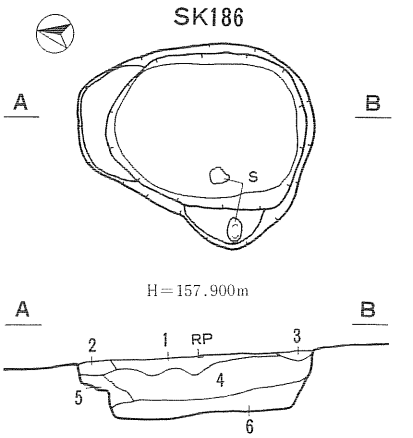
S K179
1　明黄褐色土（10Y R6/6）　軽石、暗褐色土と混じる孔げきあり（西側）
2　黒褐色土（10Y R3/2）　粘土、しまりあり、黄褐色土ブロック（軽石）10%含む
3　黒褐色土（10Y R3/3）　粘土、しまりあり、黄褐色土ブロック（軽石）30%含む



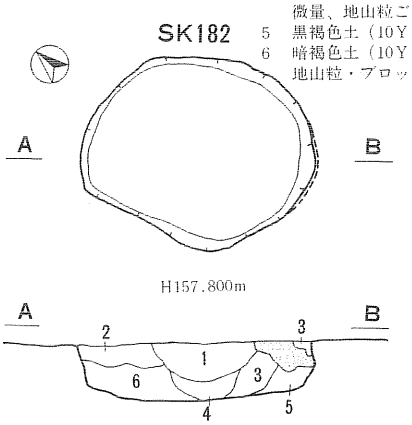
S K184
1　黒褐色土（10Y R3/2）　しまりややあり粘性あり、炭化物微量
2　暗褐色土（10Y R3/4）　しまり強、粘性あり、地山ブロック径0.5～２cm10%
3　黄褐色土（10Y R5/6）　しまり・粘性あり



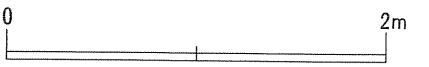
S K185
1　黒褐色土（10Y R3/2）　しまり強、粘性あり地山粒微量
2　暗褐色土（10Y R3/4）　しまり強、粘性あり地山粒少量
3　黒褐色土（10Y R3/3）　しまり強、粘性あり地山粒ごく微量
4　褐色土（10Y R3/4）　しまり強、粘性あり地山ブロック状
5　地山ブロック



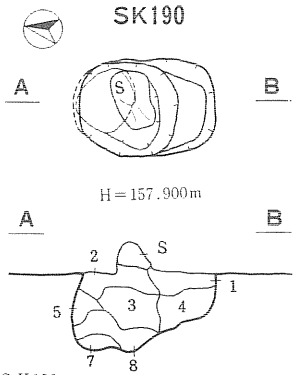
S K186
1　黒褐色土（10Y R3/2）　しまり・粘性あり、地山粒・炭化物・焼土粒ごく微量
2　黒褐色土（10Y R3/2）　しまり・粘性あり、地山粒ごく微量
3　暗褐色土（7.5Y R3/3）しまり強、粘性あり、炭化物（赤褐色土）・焼土粒微量
4　黒褐色土（7.5Y R3/3）　しまりあり、炭化物微量、地山粒ごく微量、焼土にじみ
5　黒褐色土（10Y R3/2）　しまり・粘性あり
6　暗褐色土（10Y R3/3）　しまり強、粘性あり、地山粒・ブロック径３～５㎜少量



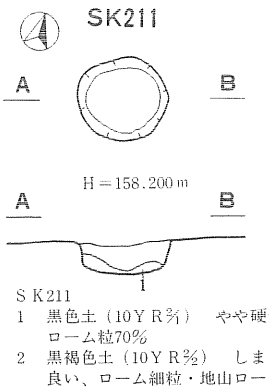
S K182
1　黒褐色土（10Y R3/2）　しまり・粘性あり、地山ブロック径0.3～１cm微量
2　褐色土（10Y R3/4）　しまりなし、粘性あり、地山ブロック径１cm少量、暗褐色土系の混じり合った様相を呈す
3　暗褐色土（10Y R3/3）　しまり強、粘性あり、地山粒微量
4　黒褐色土（10Y R3/3）　しまり強、粘性あり、地山粒・ブロック径0.3～１cm微量
5　褐色土（10Y R3/4）　しまり強、粘性あり、地山ブロック径５㎜微量
6　黄褐色土（10Y R5/6）　しまり強、粘性あり、地山土90%



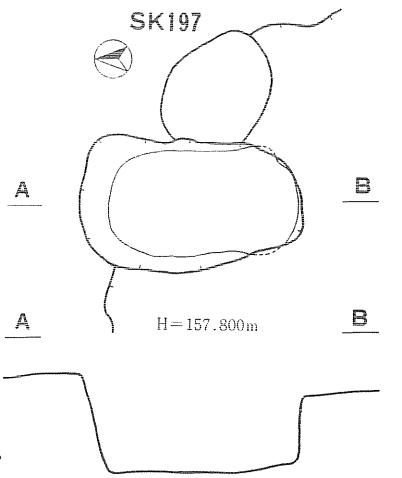
第54図　SK176・179・182・184・185・186土坑実測図



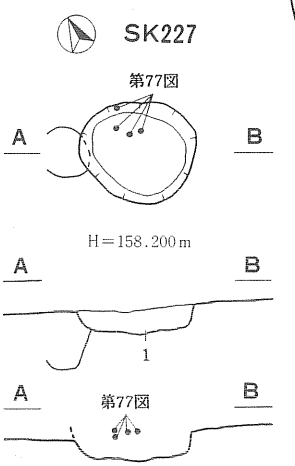
S K190
1　黒褐色土（10Y R3/2）　しまり強、地山粒微量
2　暗褐色土（10Y R3/3）　しまり・粘性あり・地山粒・ブロック径1cm30%
3　褐色土（10Y R4/4）　しまり強、粘性あり、地山粒・ブロック径1～3cm70%
4　暗褐色土（10Y R3/3）　しまり強、粘性あり、地山グロック径5mm40%
5　暗褐色土（10Y R3/3）　しまり強、粘性あり、地山粒微量
6　黒褐色土（10Y R3/3）　しまり強、粘性あり、地山粒ごく微量
7　黒褐色土（10Y R3/2）　しまり強、粘性あり

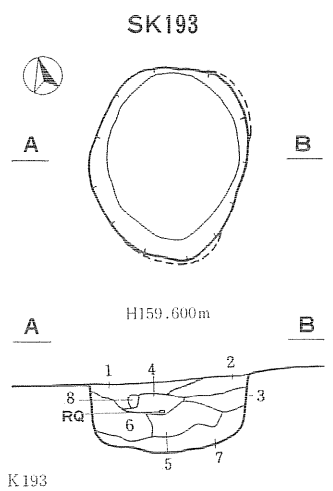


S K211
1　黒色土（10Y R3/1）　やや硬質ローム粒70%
2　黒褐色土（10Y R3/2）　しまり良い、ローム細粒・地山ローム（軽石粒）含む

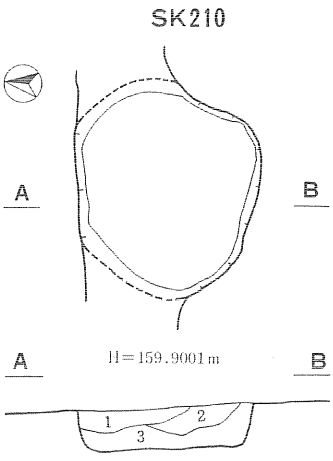


S K227
1　黒褐色土（10Y R3/1）　しまり粘性あり、炭化物多量地山粒微量

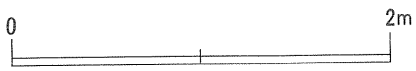




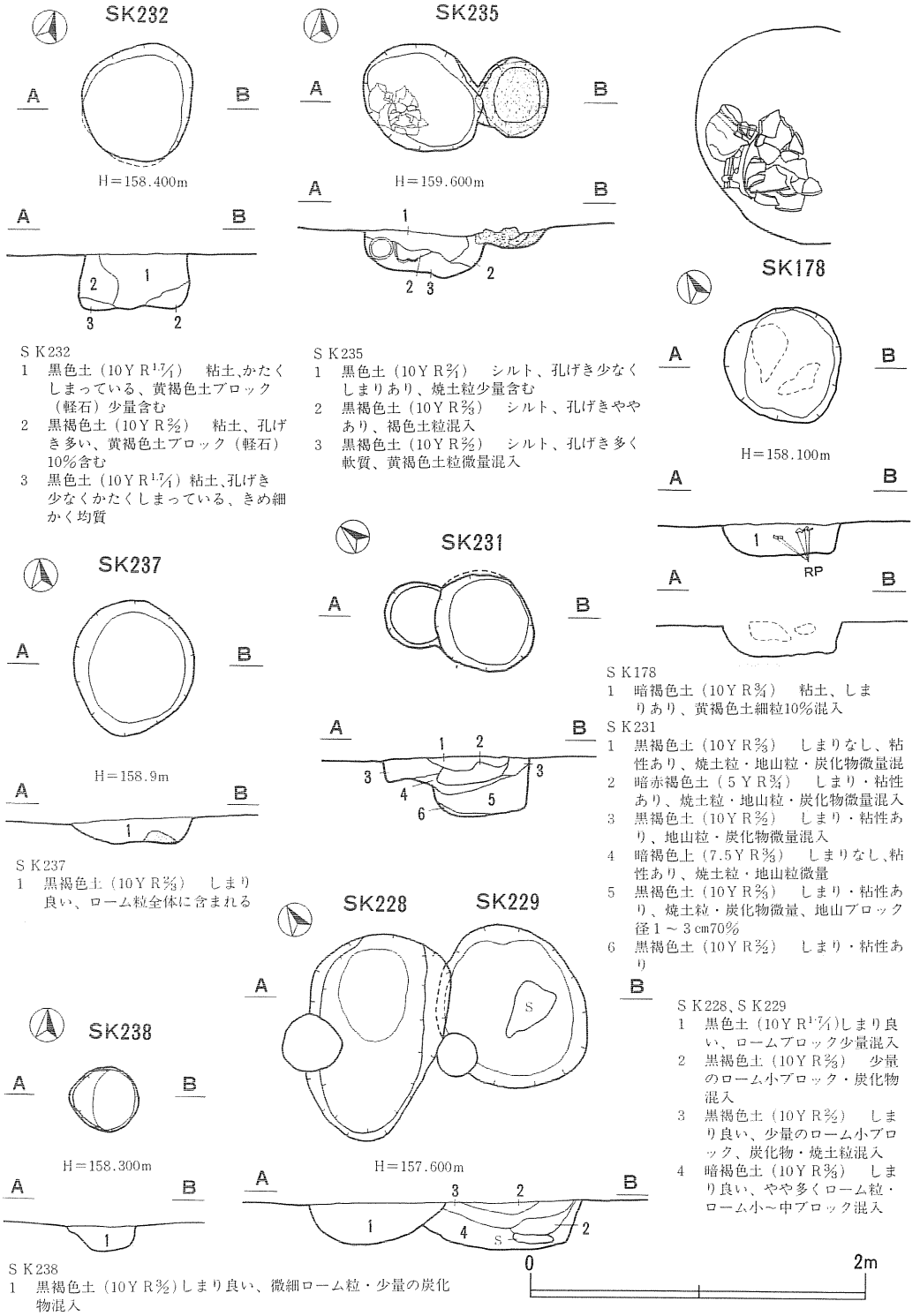
S K193
1　黒褐色土（10Y R3/2）　シルト、孔げきあり、軟質黄褐色土ブロック少量含む
2　暗褐色土（10Y R3/3）　粘土、しまり良い、孔げき少ない、焼土粒少量
3　黒褐色土（10Y R3/2）　シルト、孔げきあり、軟質黄褐色土粒少量含む
4　黒褐色土（10Y R3/3）　粘土、孔げきあり、軟質、少量の黄褐色土粒、微量の焼土粒を含む
5　黄褐色土（10Y R5/6）　孔げき多く軟質、軽石のつぶれた土30%含む、黒褐色土混入
6　暗褐色土（10Y R3/3）　孔げき少なく、しまり良い
7　黒色土（10Y R3/1）　孔げき少なく、かたくしまっている、少量の木炭粒を含む黄褐色土粒混入
8　明黄褐色土（10Y R7/6）ブロック



S K210
1　黒色土（10Y R2/1）　シルト、孔げき多く軟質、植物根多量混入
2　黒褐色土（10Y R3/3）　シルト～粘土、孔げき多く軟質、黄褐色ブロック多量混入
3　黒褐色土（10Y R2/2」　シルト～粘土、孔げき多く軟質、黄褐色土粒・木炭粒少量混入



第55図　SK190・193・197・210・211・227土坑実測図



S K232
1　黒色土（10Y R 1.7/1）　粘土、かたくしまっている、黄褐色土ブロック（軽石）少量含む
2　黒褐色土（10Y R 3/2）　粘土、孔げき多い、黄褐色土ブロック（軽石）10%含む
3　黒色土（10Y R 1.7/1）粘土、孔げき少なくかたくしまっている、きめ細かく均質

S K235
1　黒色土（10Y R 2/1）　シルト、孔げき少なくしまりあり、焼土粒少量含む
2　黒褐色土（10Y R 3/3）　シルト、孔げきややあり、褐色土粒混入
3　黒褐色土（10Y R 3/2）　シルト、孔げき多く軟質、黄褐色土粒微量混入

S K178
1　暗褐色土（10Y R 3/4）　粘土、しまりあり、黄褐色土細粒10%混入

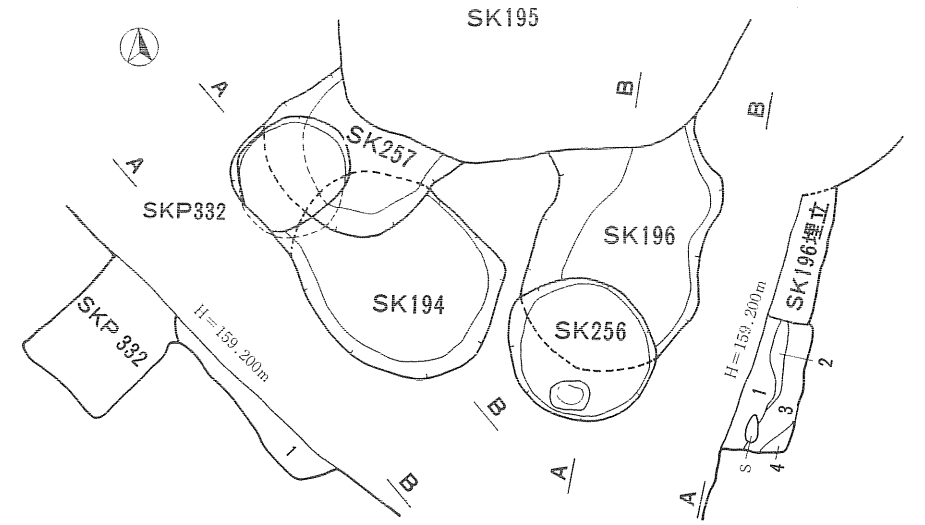
S K231
1　黒褐色土（10Y R 3/3）　しまりなし、粘性あり、焼土粒・地山粒・炭化物微量混
2　暗赤褐色土（5Y R 3/4）　しまり・粘性あり、焼土粒・地山粒・炭化物微量混入
3　黒褐色土（10Y R 3/2）　しまり・粘性あり、地山粒・炭化物微量混入
4　暗褐色土（7.5Y R 3/3）　しまりなし、粘性あり、焼土粒・地山粒微量
5　黒褐色土（10Y R 2/3）　しまり・粘性あり、焼土粒・炭化物微量、地山ブロック径1～3cm70%
6　黒褐色土（10Y R 3/2）　しまり・粘性あり

S K237
1　黒褐色土（10Y R 3/3）　しまり良い、ローム粒全体に含まれる

S K228、S K229
1　黒色土（10Y R 1.7/1）しまり良い、ロームブロック少量混入
2　黒褐色土（10Y R 3/3）　少量のローム小ブロック・炭化物混入
3　黒褐色土（10Y R 3/2）　しまり良い、少量のローム小ブロック、炭化物・焼土粒混入
4　暗褐色土（10Y R 3/3）　しまり良い、やや多くローム粒・ローム小～中ブロック混入

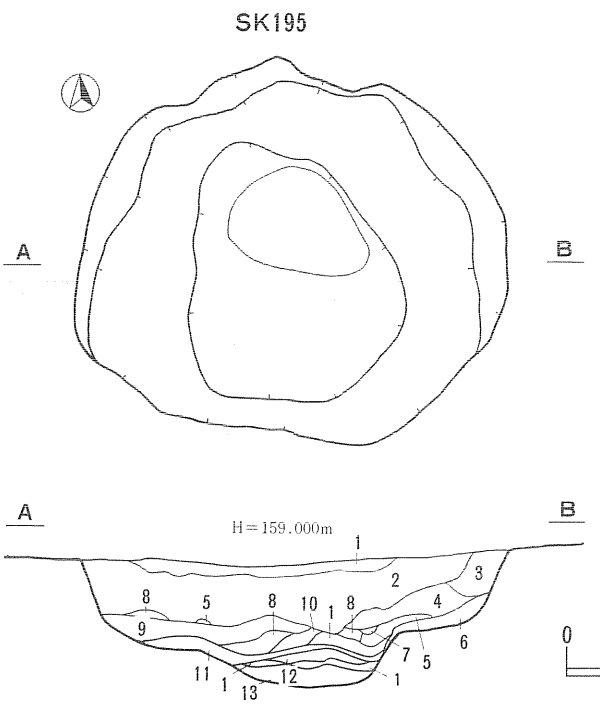
S K238
1　黒褐色土（10Y R 3/2）しまり良い、微細ローム粒・少量の炭化物混入

第56図　SK178・228・229・231・232・235・237・238土坑実測図

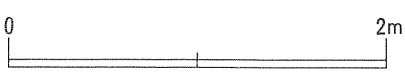


S K194
1　黒褐色土（10Y R3/1）　ややしまあり、粘土、地山面との境界面は地山上と混入している、若干の炭粒が混入

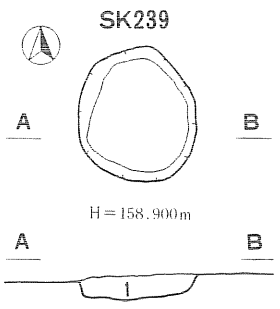
S K196
1　黒褐色土（10Y R3/2）　しまり良い、焼土粒、焼土小ブロック、炭化物混入
2　明黄褐色土（10Y R6/6）　ローム粒と少量のローム小ブロック混入
3　黒褐色土（10Y R3/2）　しまり良い、ローム粒をほとんど含まない
4　黄褐色土（10Y R5/6）　しまり良い、ローム粒、ロームブロック（中～小）やや多く混入



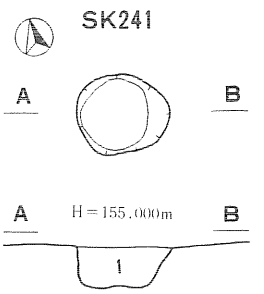
S K195
1　暗赤褐色土（5 Y R3/2）　焼土粒、焼土小ブロックがブロック状に堆積、炭化物少量混入
2　黒褐色土（7.5Y R3/1）　しまり良い、焼土ブロック、炭化物、ローム小ブロック全体に混入
3　にぶい黄褐色土（10Y R5/4）　ローム粒（80%）、ローム中ブロック（10%）混入
4　黒褐色土（5 Y R3/2）　しまり良い、ロームブロック（中～小）少量、焼土粒(20%)炭化物混入
5　明赤褐色土（5 Y R5/6）　しまりにムラがある、焼土ブロック（60%）、炭化物（10%）混入、若干粘性あり
6　暗褐色土（7.5Y R3/3）　ローム粒、ローム小ブロックやや多く（90%）混入
7　極暗褐色土（7.5Y R2/3）　焼土粒（30%）ローム小ブロック（20%）混入、硬質
8　にぶい赤褐色土（5 Y R5/4）　軟質だがしまりが良い、焼土粒（80%）、炭化物（10%）、ローム粒混入
9　黒褐色土（7.5Y R3/1）　2層より焼土粒の混入少ない
10　黒褐色土（7.5Y R3/2）　ローム小ブロック（40%）、炭化物少量混入
11　赤褐色土（5 Y R4/6）　しまりにややムラがある、焼土粒、焼土ブロック（80%）混入
12　黒褐色土（5 Y R3/2）　しまりやや良い、焼土粒（10%）混入
13　黒褐色土（5 Y R3/1）　しまり良い、焼土粒、ローム粒子少量混入



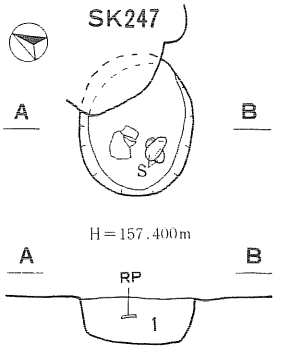
第57図　SK194・195・196・256・257土坑実測図



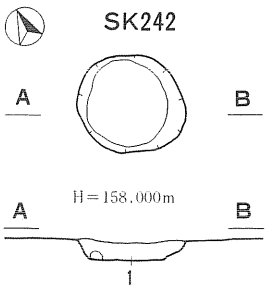
S K239
1　黒褐色土（10Y R2/2）　しまり良い　ローム粒多量・ロームブロック（大～中）少量混入



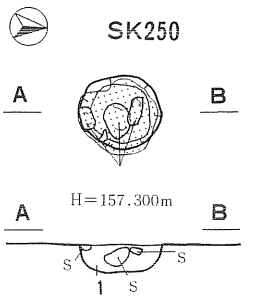
S K241
1　黒色土（10Y R2/1）　しまりなし、粘性あり、地山粒微量



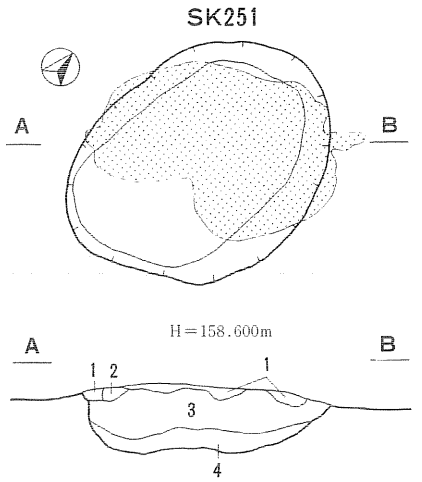
S K247
1　黒褐色土（10Y R2/3）　しまり良い　ローム中ブロック・炭化物少量混入



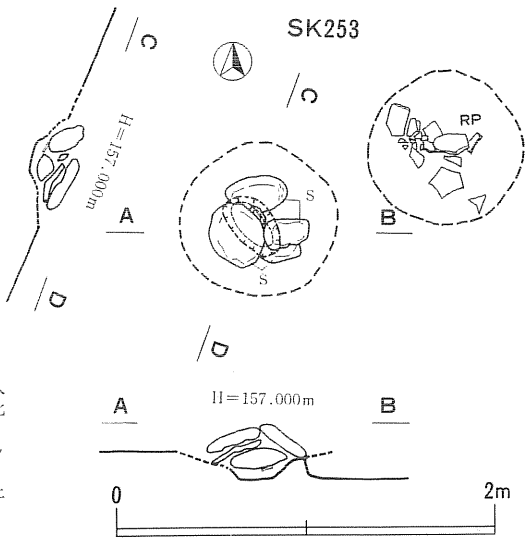
S K242
1　黒褐色土（10Y R2/2）　しまり強、粘性あり。地山粒ごく微量



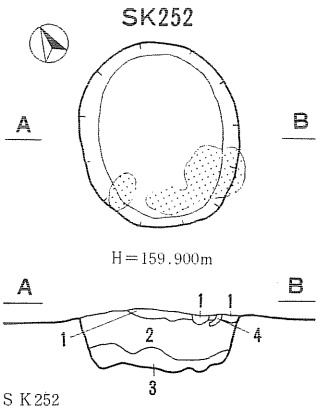
S K250
1　極暗褐色土（7.5Y R2/3）　焼土粒微量混入



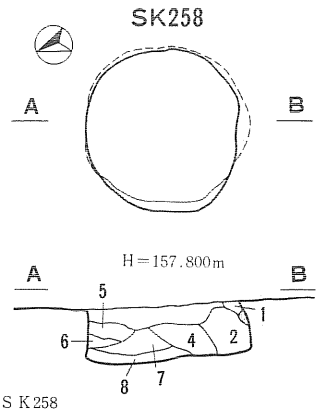
S K251
1　黒褐色土（5 Y R2/2）　焼土粒・焼土ブロック・炭化物混入
2　褐色土（10Y R4/4）　多量のローム粒・少量の焼土粒・炭化物混入
3　明赤褐色土（5 Y R5/8）　しまり非常に良い、ロームブロック（大～中）・多量の焼土粒・焼土ブロック混入
4　黒褐色土（5 Y R3/1）　しまり良い、ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量混入



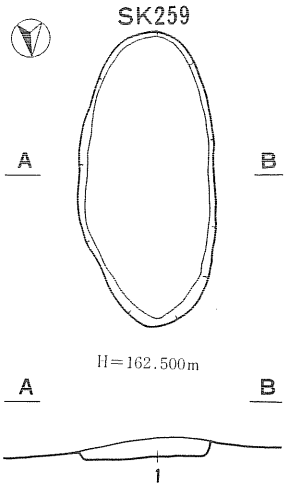
第58図　SK239・241・242・247・250・251土坑実測図

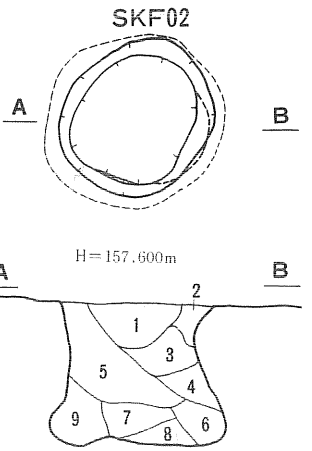


SK252
1　橙色土（2.5YR⅝）　しまり良い、焼土粒と小砂利を含む
2　暗褐色土（7.5YR¾）　しまり良い、少量の焼土粒とローム小ブロックを含む
3　黒褐色土（10YR⅔）　しまり良い、ローム粒、ロームブロック（小）を含む
4　暗赤褐色土（5YR¾）　焼土粒と黒色土混入

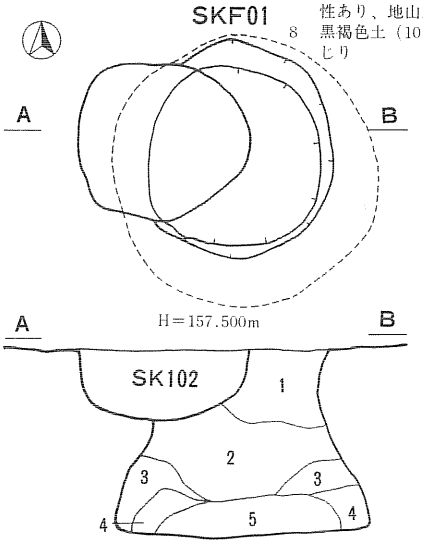


SK258
1　暗褐色土（10YR⅜）　しまり、粘性あり
2　黒褐色土（10YR⅖）　しまりにやや欠け、粘性あり、地山粒微量
3　黒褐色土（10YR⅖）　しまりあり、粘性あり、地山粒・ブロック径1cm微量
4　黒褐色土（10YR⅖）　しまりにやや欠け、粘性あり、地山粒微量、焼土粒、炭化物極微量
5　黒褐色土（10YR⅔）　しまり・粘性あり、地山粒微量
6　黒褐色土（10YR⅜）　しまり・粘性あり、地山粒少量
7　黄褐色土（10YR⅝）　しまり・粘性あり、地山土ブロック状
8　黒褐色土（10YR⅜）　6と7のまじり





SKF02
1　黒色土（10YR½）　しまりにやや欠け、粘性あり、地山ブロック径1cm極微量
2　黒褐色土（10YR⅔）　（¾）がにじんだ様相、地山ブロック径1cm極微量
3　黒褐色土（10YR½）　しまり・粘性あり、地山ブロック極微量
4　黒褐色（10YR⅜）　しまりなし、粘性あり、地山粒多量、ブロック微量
5　黒褐色（10YR⅔）　しまりなし、粘性あり、地山粒・ブロック少量
6　黒褐色土（10YR⅜）　しまりなし、粘性あり、地山粒・ブロック径5m多量
7　黒褐色土（10YR⅔）　しまりなし、粘性あり、地山粒・ブロック5より多い
8　黒褐色土（10YR⅔）　しまりややあり・粘性あり、地山粒ブロック微量
9　暗褐色土（10YR⅜）　しまりなし、粘性あり、地山粒微量

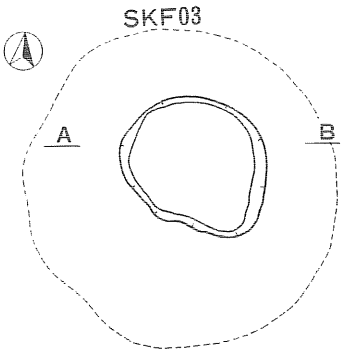


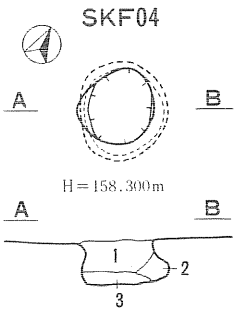
SKF01
1　黒褐色土（10YR⅜）　少量のロームブロック（中～小）微量の焼土粒混入
2　黒褐色土（10YR⅖）　しまり良い、ローム粒、ロームブロック（中～小）混入
3　にぶい黄褐色土（10YR⅔）　ローム粒・ロームブロック（大～中）やや多量混入
4　黒褐色土（10YR⅖）　ローム中ブロック少量混入
5　黒色土（10YR1.7/1）　ロームブロック（中～小）少量混入
6　黒色土（10YR⅔）　しまり良い、ローム粒微量混入

SK259
1　黒色土（7.5YR1.7/1）　しまり良い、軽石粒を少量含む

0　2m

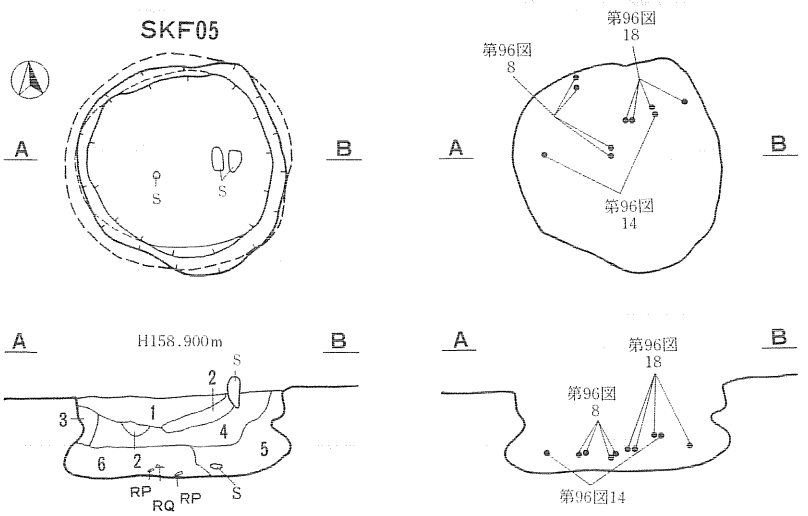
第59図　SK252・258・259土坑　SKF01・02フラスコ状土坑実測図



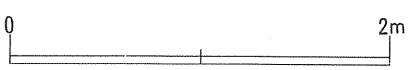


ＳＫＦ04
1　黒褐色土（10ＹＲ3/3）黒褐色土と暗褐色土の混じり、地山粒・炭化物微量混入
2　黒褐色土（10ＹＲ3/3）黒褐色土と暗褐色土の混じり、３層の中では最も明るい、地山粒・炭化物微量混入
3　黒褐色土（10ＹＲ3/3）黒褐色土と暗褐色土の混じり、地山粒・炭化物微量混入

ＳＫＦ03
1　黒褐色土（10ＹＲ3/1）　少量のローム粒とローム小ブロック混入
2　明黄褐色土（10ＹＲ6/6）　しまりにやや欠ける，ローム小ブロック密に堆積、少量のローム中ブロックも混入
3　黒褐色土（10ＹＲ3/2）　しまり良い、ローム粒と少量のローム中ブロック混入
4　黒褐色土（10ＹＲ3/2）　しまり良い、ローム粒とローム小ブロックやや多く混入
5　黒褐色土（10ＹＲ3/2）　しまり良い、ロームブロック（中～小）全体に均一に混入
6　明黄褐色土（10ＹＲ6/8）　しまり良い、硬質ロームをくだいたようなブロックまじりのローム土
7　黄褐色土（10ＹＲ5/6）　多量のローム粒と少量のローム中ブロック混入
8　褐色土（10ＹＲ4/4）　多量のローム粒混入、やや粘性あり
9　黒褐色土（10ＹＲ3/2）　ローム粒とやや多量のローム小ブロック混入



ＳＫＦ05
1　黒褐色土（10ＹＲ3/2）　しまり・孔げき・粘性あり黄褐色土微量
2　黒色土（10ＹＲ2/1）　ややしまり・粘性あり、地山土を40%混入
3　黒褐色地（10ＹＲ3/2）　非常によくしまっている、壁崩壊土（黄褐色土混入）
4　黒色土（10ＹＲ1.7/1）　しまりあり、数mm大の地山土が若干混入、他に数cm大の炭が数片みられる
5　黒色土（10ＹＲ2/1）　ややしまりあり、１mm～１cm大の地山土が30%混入
6　黒褐色土（10ＹＲ3/2）　よくしまっている、１mm～４cm大の地山土が30%混入



第60図　SKF03・04・05フラスコ状・袋状土坑実測図

も混じる。7～9層は、多量のローム粒子もしくはロームブロックが混入しており、明らかに人為的に埋められたものである。遺物は出土しなかった。

ＳＫＦ04袋状土坑(第60図)

ＭＡ48グリッドで検出した。平面形はほぼ円形である。遺構の規模は坑口部0.35ｍ×径0.41ｍ、頸部径0.48ｍ×0.52ｍ、坑底部径0.42ｍ×0.45ｍ、深さ0.23ｍで、底面はやや凹凸している。埋土は3層に分層した。黒褐色を基本としており、いずれも炭化物･地山粒子が微量ながら混入している。遺物は出土しなかった。

ＳＫＦ05袋状土坑(第60図･第96図3～19、図版40)

ＬＴ44･45グリッドで検出した。平面形はほぼ円形である。遺構の規模は坑口部径1.06ｍ×1.20ｍ、頸部径0.90ｍ×0.95ｍ、坑底部径1.23ｍ、深さ0.42ｍで、底面はほぼ平坦である。埋土は6層に分層した。埋土は褐色土と黒褐色土を主体としており、いずれにも地山ローム粒子が混入し、2･3･5･6層はその度合いが高く、4層にはわずかに炭化物が混入する。埋土の状況から人為的堆積と考えられる。

遺物は鉢形土器、深鉢形土器が底面から10～20cm上で多く出土した。3･4は鉢形土器で、3は地文が縄文で、平口縁の直下に沈線を施す。焼成は大変良好で、色調は赤褐色である。4は平口縁で、3条の沈線を施す赤色塗彩の土器である。5･9･11～14は縦に撚糸文を施しているもので、11は網目状撚糸文である。いずれも深鉢形土器であろう。5･9･13は口縁部で、波状を呈する。9･13は色調が赤褐色、焼成は良好で、同一個体と思われる。6･7は平口縁部でその直下に縄文を横に施文した土器で、外面に煤状炭化物が付着しており、同一個体と思われる。8･17は赤色塗彩の土器で同一個体であろう。8は口縁部で波状となる。18は深鉢形土器の胴部で、内外ともよく研磨され、外面には煤状炭化物が多く付着する。土坑確認面の東側で0.06ｍ×0.15ｍの礫が確認された。

(9)石囲炉･焼土遺構

検出総数は、石囲炉2基、焼土遺構22基にのぼる。検出した層位は、第Ⅲ層中である。石囲炉は竪穴住居跡に付設されていたものではなく単独で検出されている。焼土遺構についても何らかの遺構に伴うと考えられるものが少なく、ＳＮ02とＳＮ40焼土遺構のそれぞれがＳＢ05、ＳＢ26掘立柱建物跡と関係が推定される程度で確実に伴うと断定はできない。注意されるのは、焼土遺構の検出位置であるが、そのほとんどが配石遺構、掘立柱建物跡が形成する環の外側に位置する。調査の北西側および南西側がこれに該当する。第149図からわかるように、その区域は土器、石器などの遺物がまとまって出土しており、これらの遺物の出土状況から投棄されたことが推定される。したがって焼土遺構の大部分は不用品の焼却と関連をもつものと推

定される。検出した焼土はみな一様ではなく、砂粒状のもの、硬質のブロック状になったもの、薄くにじんだ程度のものなどが観察された。遺構として取り上げなかったが、焼土そのものを投棄しているのも観察された。

またＳＺ08とした石囲炉はＳＱ02配石遺構の項で一緒に記述しているので、ここでは割愛することとした。

①石囲炉

ＳＺ01石囲炉（第61図･第100図１、図版22）

ＭＢ55グリッドで検出した。北西側に15～30cm大の石が残っている。石を含めた全体の規模は、北西―南東方向が65cmである。焼土は39×45cmの範囲に検出された。石は熱を受けた痕跡が明確にわかり、赤く変色しているのが観察された。

出土遺物は、土器片１点である。器厚は薄く、沈線文が施されている。

②焼土遺構

ＳＮ02焼土遺構（第61図･第100図６・７、図版22）

ＭＡ55グリッドで検出した。北西―南東方向47cmの範囲に焼土が検出された。焼土はところどころ木根によるものと思われる攪乱を受けている。ＳＢ05掘立柱建物跡のほぼ中央に位置するが関連は不明である。

出土遺物は、土器片２点である。２は口縁に近い部分の破片である。

ＳＮ05焼土遺構（第61図、図版22）

ＭＣ45グリッドで遺物包含層を調査中に検出した。北東―南西方向118cm、北西―南東方向59～85cmの焼土粒を含む暗褐色土の範囲内に焼土の堆積が２ヶ所みられた。土層断面中第２層は、砂粒状になった焼土層である。この焼土層は、第１層の焼土にくらべてしまり、粘性ともに欠ける。

遺物は出土しなかった。

ＳＮ06焼土遺構（第61図）

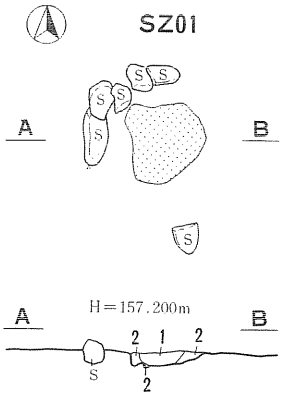
ＭＤ46グリッド杭を含む南側に検出した。96×44cmの範囲に焼土の堆積が２ヶ所みられた。いずれの焼土も砂粒状で粘性がなかった。

遺物は出土しなかった。

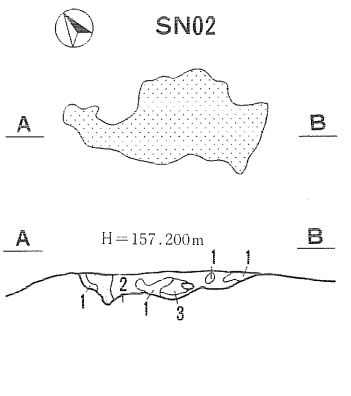
ＳＮ09焼土遺物（第61図）

ＭＢ44グリッドに検出した。55×60cmの焼土粒を含む黒褐色土の範囲内に焼土の堆積が著しい部分が点々と観察された。

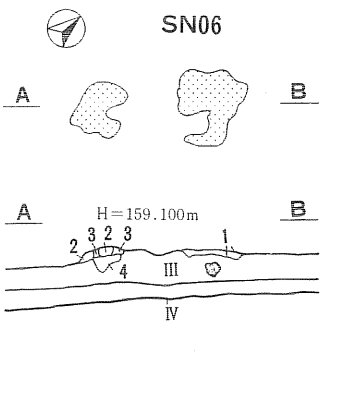
遺物は出土しなかった。



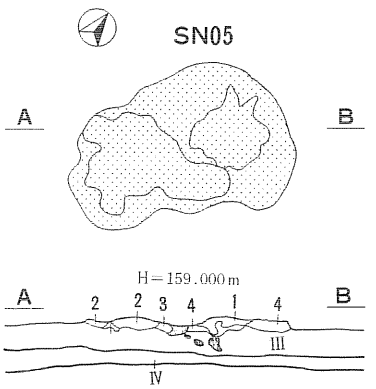
SZ01
1　褐色土（10YR3/6）　粘性弱、しまりやや強、焼土よく焼けている
2　黒褐色土（10YR3/3）　粘性しまり中、褐色土の焼土が多量に混入する



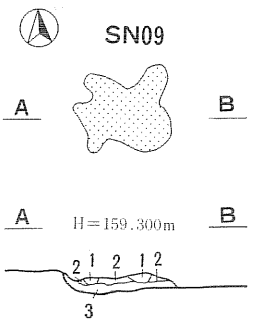
SN02
1　褐色土（7.5YR4/6）　粘性中、しまりやや強、非常によく焼けている焼土
2　褐色土（7.5YR3/4）　粘性・しまりやや弱、若干焼けている焼土
3　褐色土（7.5YR4/4）　粘性・しまり中、黒褐色土の混入若干あり、焼け方は、二層よりよく、一層より劣る



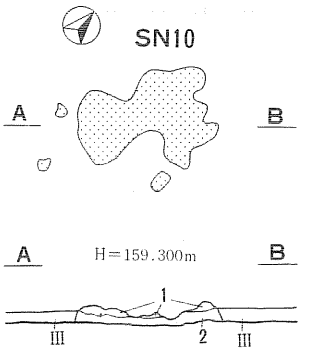
SN06
1　極暗赤褐色土（5YR2/3）　しまりあり、粘性なし、砂状
2　赤褐色上（2.5YR3/6）　しまりあり粘性なし、砂状
3　黒色土（7.5YR3/1）　しまりあり、粘性なし、焼土粒
4　黒褐色土（7.5YR2/2）　しまりなし粘性やや欠ける、炭化物・焼土粒微量



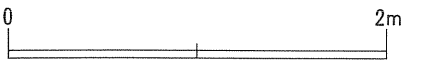
SN05
1　暗赤褐色土（2.5YR）　しまりあり、粘性なし、赤褐色土粒子含む
2　赤褐色土（2.5YR4/8）　しまりなし、粘性なし、砂状
3　黒褐色土（7.5YR2/2）　しまりあり、粘性なし、焼土粒混入
4　極暗褐色土（7.5YR2/3）　しまり・粘性ややあり、焼土粒混入



SN09
1　暗赤色土（10YR3/6）しまり・粘性なし、粒子細かくシルト状である
2　黒褐色土（7.5YR2/2））しまり・粘性ややあり、焼土粒0.1㎜以下微量
3　黒色土（10YR2/1）　しまり・粘性あり、焼土粒径1～3㎜



SN10
1　黒褐色土（7.5YR2/2）　粘性なし、しまりあり、焼土ブロック多量混入火熱をうけややくすんだ色
2　黒色土（10YR2/1）　しまりややあり、粘性あり、焼土粒径1～3㎜微量混入



第61図　SZ01石囲炉・SN02・05・06・09・10焼土遺構実測図

ＳＮ10焼土遺構（第61図、図版22）

ＭＢ44グリッドで検出した。ＳＮ09焼土遺構のすぐ南側に位置する。第Ⅲ層が熱を受けて褐色味が強くなった土とともに焼土ブロックが多量に含まれているのが観察された。焼土ブロックがみられるのは、63×100cmの範囲である。

遺物は出土しなかった。

ＳＮ11焼土遺構（第62図）

ＭＣ45グリッドで検出した。23×32cmの範囲にうすくにじんだ焼土があり、その中に数ヶ所焼土の集中が観察された。

遺物は出土しなかった。

ＳＮ15焼土遺構（第62図）

ＭＢ46グリッドで検出した。45×20cmの範囲に焼土が観察された。熱を受けて硬化した面はみられなかった。

遺物は出土しなかった。

ＳＮ16焼土遺構（第62図・第100図8）

ＭＣ44グリッドで検出した。北西側に古い倒木痕がみられる。29×65cmの範囲ににじんだような焼土がひろがっており、その中に顕著な焼土堆積が数ヶ所に分かれて観察された。

出土遺物は土器片１点である。８は、横位の沈線の下にＬＲ縄文が施されている。

ＳＮ17焼土遺構（第62図）

ＭＤ45グリッドで検出した。ほぼ30×60cmの範囲に焼土粒まじりの黒褐色土があり、その中に焼土が数ヶ所に分かれて観察された。焼土は、粘性のない砂粒状であった。

遺物は出土しなかった。

ＳＮ18焼土遺構（第62図、図版22）

ＭＤ45グリッドで検出した。ＳＮ17焼土遺構の南東約２ｍに位置する。44×66cmの範囲のに焼土が観察された。焼土中には焼土ブロックを含む。

遺物は出土しなかった。

ＳＮ19焼土遺構（第62図）

ＭＤ19グリッドで検出した。焼土粒を含んだ黒褐色土が20×32cmの範囲にひろがり、その中に焼土堆積が観察された。

遺物は出土しなかった。

ＳＮ20焼土遺構（第62図）

ＭＤ45グリッドで検出した。ＳＮ19焼土遺構の南側に本遺構が位置する。焼土がにじんだ黒色土とともに砂粒状の焼土が観察された。焼土の広がりは、ほぼ52×52cmの範囲である。

遺物は出土しなかった。

ＳＮ21焼土遺構（第62図）

ＭＤ44グリッドで検出した。焼土のにじみが見られる黒色土が38×38cmの範囲に広がり、その中に焼土が数ヶ所に分かれて観察された。焼土は砂粒状で粘性・しまりに欠ける。

遺物は出土しなかった。

ＳＮ22焼土遺構

ＭＣ45グリッド杭から北に約１ｍのところで検出した。25×35ｍの範囲に焼土粒を含む黒褐色土とともに焼土ブロックが見られた。遺物包含層調査中に誤って掘ってしまい、土層断面図を作成することができなかった。

遺物は出土しなかった。

ＳＮ23焼土遺構（第63図）

ＳＮ20焼土遺構の南約１ｍのＭＤ44グリッドで検出した。焼土のにじみがみられる黒色土が19×38cmの範囲にみられ、その中に砂粒状の焼土が数ヶ所に分かれて観察された。

遺物は出土しなかった。

ＳＮ24焼土遺構（第63図、第100図９）

ＭＥ56グリッドで検出した。27×36cmの範囲に焼土がみられた。焼土は一様ではなく、特によく熱を受けて著しい赤変箇所が観察された。

出土遺物は土器片一点である。

ＳＮ25焼土遺構（第63図）

ＭＤ55グリッドで検出した。焼土は砂粒状で２ヶ所に認められ、北西側が30×45cm、南東側が11×20cmの広がりをもつ。焼土層の下に焼土粒を含んだ黒褐色土層が観察される。

遺物は出土しなかった。

ＳＮ26焼土遺構（第63図、第100図10～12）

ＭＤ54グリッドで検出した。焼土範囲は30×37cm、焼土は砂粒状を呈し、小さい焼土ブロックを含む。

出土遺物は、10～12の土器片３点である。10は口縁部、11は口縁部に近い部分の資料である。11には朱が塗彩されている。12の胎土中には、赤色粒子が含まれている。

ＳＮ27焼土遺構（第63図、第100図13～17、図版22）

ＭＤ54グリッドで検出した。ＳＮ26焼土遺構の南東側に位置する。30×32cmの範囲に焼土が認められ、砂粒状の焼土であるが、よくしまっている。

出土遺物は13～17は同一個体で壺形土器と思われる。内外面に朱が塗彩されているが、断面にも朱が認められる。

ＳＮ28焼土遺構(第100図18)

ＭＢ56グリッドで検出した。22×34cmの範囲に焼土が認められ、砂粒状を呈する。

出土遺物は18の１点である。内面に朱の塗彩が認められる。

ＳＮ29焼土遺構(第63図)

ＭＢ55グリッドで検出した。ＳＢ05掘立柱建物跡柱穴ｃと一部重複しており、本遺構の下から柱穴が検出されていることから、本遺構が新しいと推定できる。21×28cmの範囲ににじんだような焼土が認められた。

遺物は出土しなかった。

ＳＮ40焼土遺構(第63図)

ＬＱ45グリッドで検出した。おおよそ75×200cmの範囲ににじんだような焼土が認められた。ＳＢ24掘立柱建物跡柱穴ｃの上に本遺構があることから、本遺構のほうが新しいと推定される。またＳＢ26掘立柱建物跡のほぼ中央に位置するが、同建物跡に伴うかどうかは不明である。

遺物は出土しなかった。

(10)陥し穴

13基検出され、長軸がいずれも等高線にほぼ沿う形で配置されており、陥し穴どうしの重複はない。規模に違いがあるものの、形態はほぼ似ている。横断面形はいずれも「Ｖ」字形である。ＳＫＴ03･04･07･08･09･13から縄文時代後期の土器が出土している。ＳＫＴ03･08･09出土土器は後期前葉に属する。

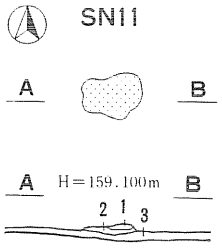
ＳＫＴ01陥し穴(第64図，図版23)

ＬＴ57グリッドで検出したもので、ＳＫＴ02と隣接する。遺構の規模は確認面の長軸2.99ｍ、短軸0.37ｍ～0.58ｍ、底部の長軸3.21ｍ、短軸0.08～0.14ｍ、深さ0.67ｍで、主軸方向はＮ―62°―Ｅである。埋土は６層に分層した。埋土は黒褐色土を主体としており、いずれも地山ローム粒子もしくはブロックがわずかに混入している。

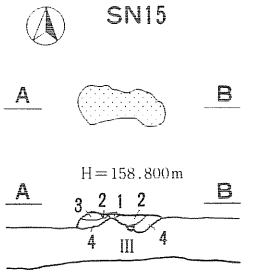
遺物は出土しなかった。

ＳＫＴ02陥し穴(第64図，図版23･24)

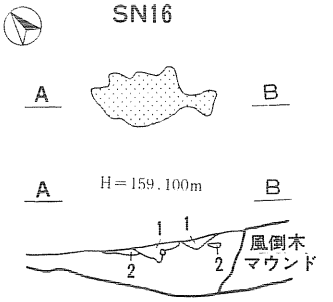
ＬＳ56･57グリッドで検出したもので、ＳＫＴ01と隣接する。遺構の規模は確認面の長軸4.37ｍ、短軸0.39ｍ～0.67ｍ、底部の長軸4.60ｍ、短軸0.09ｍ～0.25ｍ、深さ0.89ｍで、主軸方向はＮ―45°―Ｅである。埋土は９層に分層した。黒褐色土や黄褐色土を主体とし、いずれも地山粒子もしくはブロックが混入しており、４・９層には地山ロームが多い。５層は黄褐色土を呈する壁の崩落土である。



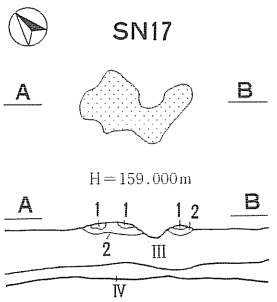
SN11
1　黒褐色土（5YR3/2）　しまりやや欠け、粘性なし
2　黒色土（7.5YR2/1）　しまり粘性やや欠ける、にじんだ色あい
3　黒色土（10YR2/1）　しまりややあり、粘性あり、焼土粒径1～3㎜微量



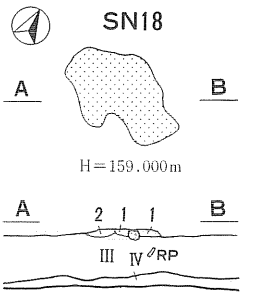
SN15
1　極暗褐色（7.5YR2/3）　しまりあり、粘性なし、炭化粒・焼土粒微量
2　明褐色土（7.5YR5/8）　しまりあり、粘性なし
3　暗褐色土（7.5YR3/4）　しまりあり、粘性なし、焼土粒径1～5㎜多量
4　黒褐色土（7.5YR3/2）　しまりあり、粘性なし、焼土粒微量



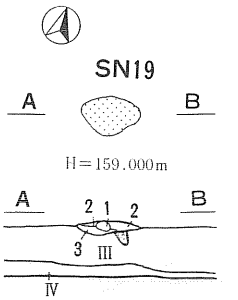
SN16
1　褐色土（7.5YR4/6）　しまりやや欠け、粘性なし
2　暗褐色土（7.5YR3/4）　しまりあり、粘性ややあり、焼土にじみ



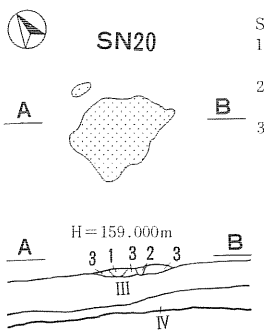
SN17
1　赤褐色土（2.5YR4/8）　しまり・粘性なし、砂状
2　黒褐色土（7.5YR3/2）　しまりなし、粘性ややあり、焼土粒混入



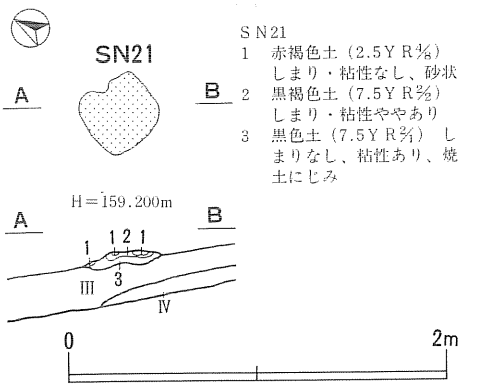
SN18
1　褐色土（7.5YR4/4）　しまりあり、粘性ややあり、赤褐色焼土ブロック混入
2　暗褐色土（7.5YR3/4）　しまりややあり、粘性なし、赤褐色焼土ブロック混入



SN19
1　褐色土（7.5YR4/6）　しまりあり、粘性なし
2　黒褐色土（7.5YR3/2）　しまりやや欠け、粘性ややあり、焼土粒
3　黒色土（7.5YR2/1）　しまり・粘性ややあり、焼土にじみ

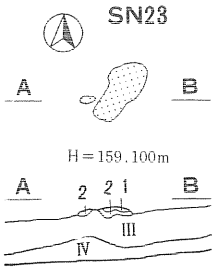


SN20
1　暗赤褐色土（5YR3/6）　しまり・粘性なし、砂状
2　暗赤褐色土（5YR3/4）　しまり・粘性なし、砂状
3　黒色土（7.5YR2/1）　しまりなし、粘性あり、焼土にじみ

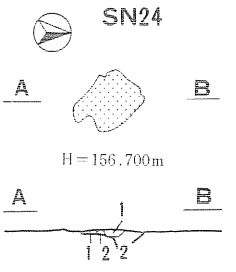


SN21
1　赤褐色土（2.5YR4/6）　しまり・粘性なし、砂状
2　黒褐色土（7.5YR3/2）　しまり・粘性ややあり
3　黒色土（7.5YR2/1）　しまりなし、粘性あり、焼土にじみ

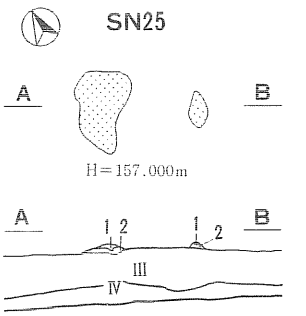
第62図　SN11・15・16・17・18・19・20・21焼土遺構実測図



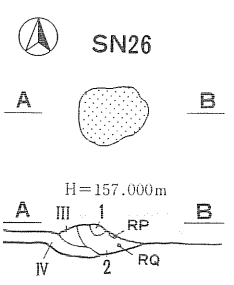
ＳＮ23
1　黒褐色土（５ＹＲ3/2）　しまり・粘性なし、砂状
2　黒色土（7.5Ｙ1/1）　焼土にじみ



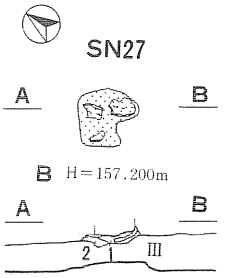
ＳＮ24
1　明褐色土（7.5ＹＲ5/8）　しまり弱、粘性中、焼土
2　暗褐色土（7.5ＹＲ3/3）　しまり・粘性中、焼土多量に混入



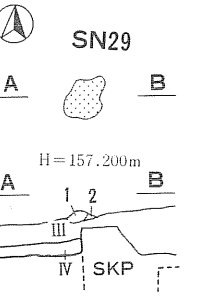
ＳＮ25
1　赤褐色土（５ＹＲ4/8）　しまり強、粘性なし、固くしまっている砂粒状
2　黒褐色土（7.5ＹＲ3/2）　しまり、粘性中、焼土混入



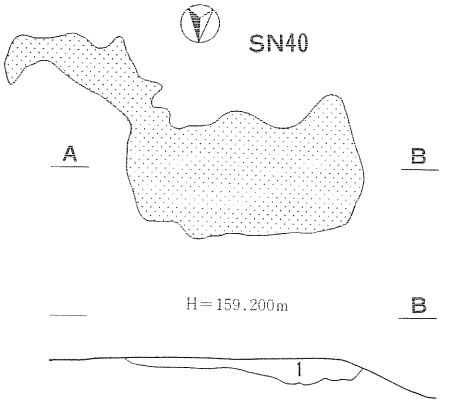
ＳＮ26
1　黒褐色土（7.5ＹＲ3/2）　しまり・粘性強、径２～３㎜石状焼土を含む
2　黒褐色土（7.5ＹＲ3/2）　しまり・粘性やや強、径２～20㎜石状焼土を含む



ＳＮ27
1　赤褐色土（2.5ＹＲ4/8）　しまり強、粘性なし、砂粒状の固まった焼土
2　黒褐色土（５ＹＲ2/2）　しまり・粘性中、若干焼けている焼土



ＳＮ29
1　暗褐色土（7.5ＹＲ3/4）　しまり・粘性やや強、うっすらと焼けた焼土砂粒焼土が若干混入
2　極暗褐色土（7.5ＹＲ2/3）　しまり・粘性中、ほんの少し焼けている



ＳＮ40
1　黒褐色土（10ＹＲ2/2）　しまり良い、焼土粒少量混入

第63図　SN23・24・25・26・27・29・40焼土遺構実測図

遺物は出土しなかった。

ＳＫＴ03陥し穴(第64図･第101図1～15，図版23･41)

ＭＤ48･ＭＥ48グリッドで検出した。遺構の規模は確認面の長軸3.80ｍ、短軸0.36ｍ～0.62ｍ、底部の長軸4.19ｍ、短軸0.05ｍ～0.12ｍ、深さ1.16ｍで、主軸方向はＮ―96°―Ｅである。埋土は5層に分層した。黒褐色土を主体とし、2層は明黄褐色を呈する壁崩落土で、いずれの層にも地山ローム粒子もしくはブロックが混入している。

遺物は深鉢形土器や壺形土器、フレイクが出土した。1･3～8･14は地文が無文で、平行もしくは曲線的な沈線で文様を描くものである。2は折返し口縁とした後、縦に撚糸文を施文する深鉢形土器で、焼成は良好で、色調は赤褐色を呈する。10は縄文を沈線で区画して、その外を磨り消すものである。1･10は底面から25cmほど上で出土している。

ＳＫＴ04陥し穴(第65図･第101図16～18，図版23)

ＭＥ49グリッドで検出したが、大半は調査区外で全容は不明である。遺構の規模は確認面の現在部短軸0.50ｍ、底部の現在部短軸0.09ｍ～0.13ｍ、深さ1.53ｍで、主軸方位はＮ―81°―Ｅである。埋土は6層に分層した。黒褐色土を主体としており、2～6層には地山ローム粒子およびブロックが混入している。3･5層に地山ローム･ブロックの混入が多い。

遺物は土器が出土している。16は縄文を施文後に沈線を描き、磨消縄文手法によって縄文帯と無文帯を区画するものである。17は撚糸文を、18は縄文のみを施している。いずれも埋土上半からの出土である。

ＳＫＴ05陥し穴(第65図，図版23)

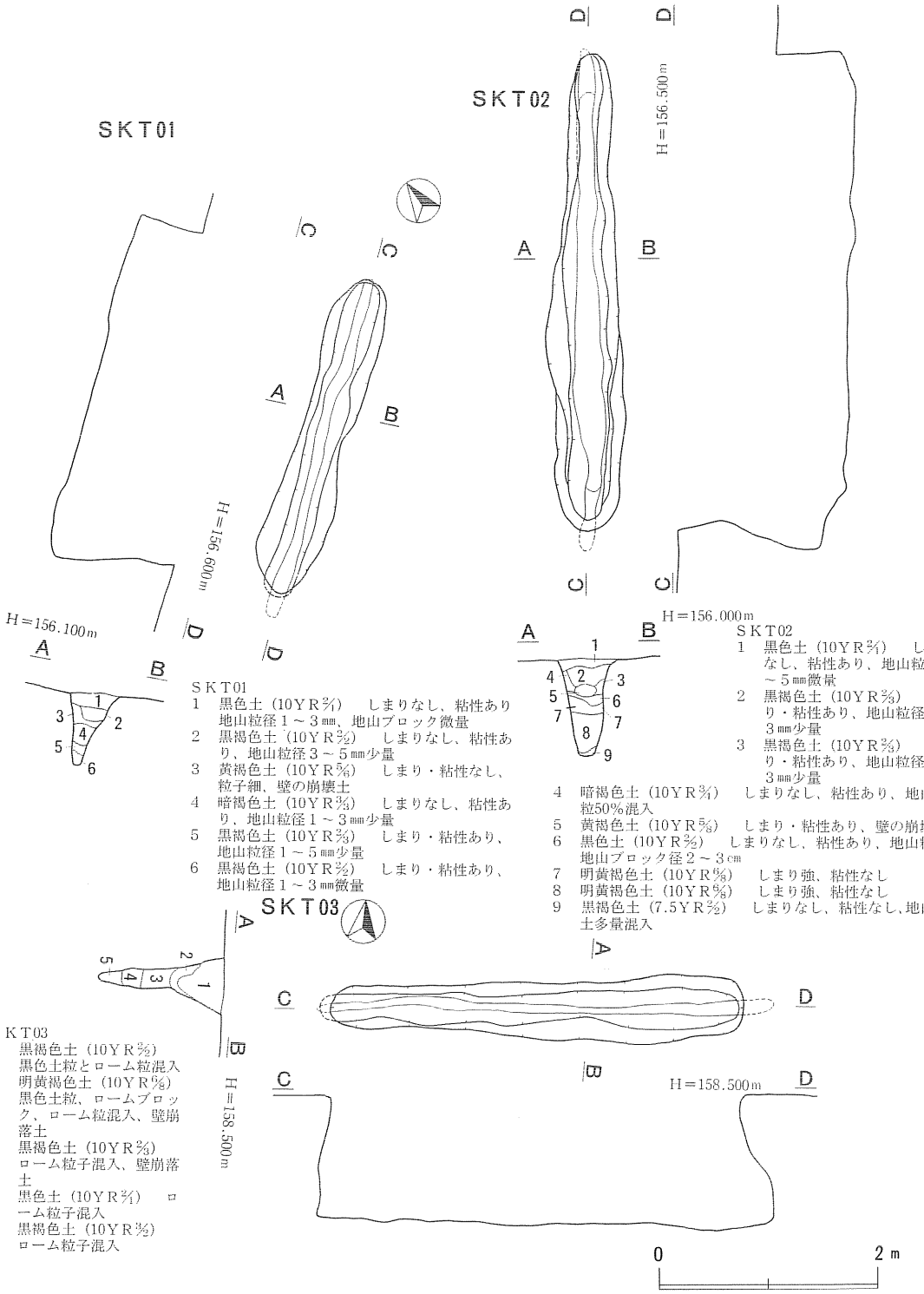
ＭＡ48･ＭＢ48グリッドに位置し、ＳＢ13の柱穴ｄ･ｅ･ｆとＳＢ14の柱穴ｆ、ＳＫＰ337と重複しており、本遺構が古い。遺構の規模は確認面の長軸3.78ｍ、短軸0.43ｍ～0.74ｍ、底部の長軸4.01ｍ、短軸0.12ｍ～0.23ｍ、深さ1.18ｍで、主軸方向はＮ―59°―Ｅである。埋土は5層に分層した。黒色土や黒褐色土を主体にしており、いずれの層にも地山ローム粒子やブロックを混入している。4層は明黄褐色土で、黒色土と多量の地山ローム粒子が混入している。

遺物は出土しなかつた。

ＳＫＴ06陥し穴(第65図，図版23･24)

ＭＡ44グリッドで検出した。遺構の規模は確認面の長軸2.61ｍ、短軸0.37ｍ～0.45ｍ、底部の長軸3.22ｍ、短軸0.07ｍ～0.16ｍ、深さ1.08ｍ、主軸方向Ｎ―76°―Ｅである。埋土は8層に分層した。暗褐色土や黒褐色土を主体として、1層以外は地山ロームが混入する。2･5層は漸移層の混じった壁崩落土、7層は明黄褐色を呈する地山ロームの崩落土である。

遺物は出土しなかった。



SＫＴ01
1　黒色土（10ＹＲ2/1）　しまりなし、粘性あり　地山粒径１～３㎜、地山ブロック微量
2　黒褐色土（10ＹＲ2/2）　しまりなし、粘性あり、地山粒径３～５㎜少量
3　黄褐色土（10ＹＲ5/6）　しまり・粘性なし、粒子細、壁の崩壊土
4　暗褐色土（10ＹＲ3/3）　しまりなし、粘性あり、地山粒径１～３㎜少量
5　黒褐色土（10ＹＲ3/3）　しまり・粘性あり、地山粒径１～５㎜少量
6　黒褐色土（10ＹＲ2/2）　しまり・粘性あり、地山粒径１～３㎜微量

SＫＴ02
1　黒色土（10ＹＲ2/1）　しまりなし、粘性あり、地山粒径１～５㎜微量
2　黒褐色土（10ＹＲ3/3）　しまり・粘性あり、地山粒径１～３㎜少量
3　黒褐色土（10ＹＲ3/3）　しまり・粘性あり、地山粒径１～３㎜少量
4　暗褐色土（10ＹＲ3/4）　しまりなし、粘性あり、地山粒50％混入
5　黄褐色土（10ＹＲ5/8）　しまり・粘性あり、壁の崩壊
6　黒色土（10ＹＲ2/2）　しまりなし、粘性あり、地山粒地山ブロック径２～３㎝
7　明黄褐色土（10ＹＲ6/8）　しまり強、粘性なし
8　明黄褐色土（10ＹＲ6/8）　しまり強、粘性なし
9　黒褐色土（7.5ＹＲ2/2）　しまりなし、粘性なし、地山土多量混入

SＫＴ03
1　黒褐色土（10ＹＲ3/2）　黒色土粒とローム粒混入
2　明黄褐色土（10ＹＲ6/8）　黒色土粒、ロームブロック、ローム粒混入、壁崩落土
3　黒褐色土（10ＹＲ3/3）　ローム粒子混入、壁崩落土
4　黒色土（10ＹＲ2/1）　ローム粒子混入
5　黒褐色土（10ＹＲ3/3）　ローム粒子混入

第64図　ＳＫＴ01・02・03陥し穴実測図

ＳＫＴ07陥し穴(第66図，第101図19，図版23)

ＭＤ44･ＭＤ45グリッドに位置し、ＳＫＴ08と隣接して同一方向を向く。わずかながら調査区外にでているため全容は不明であるが、遺構の規模は確認面の現存部長軸3.01ｍ、短軸0.18ｍ～0.24ｍ、底部の現存部長軸3.39ｍ、短軸0.05ｍ～0.07ｍ、深さ1.03ｍで、主軸方向はＮ―73°―Ｅである。埋土は２層に分層した。１層の黒色土が主体で、２層は暗褐色土の漸移層ブロックである。

出土遺物の19は地文が無文で、直線的な文様を描く土器で、焼成は良好である。埋土上半からの出土である。

ＳＫＴ08陥し穴(第66図･第101図20～25，図版23･24)

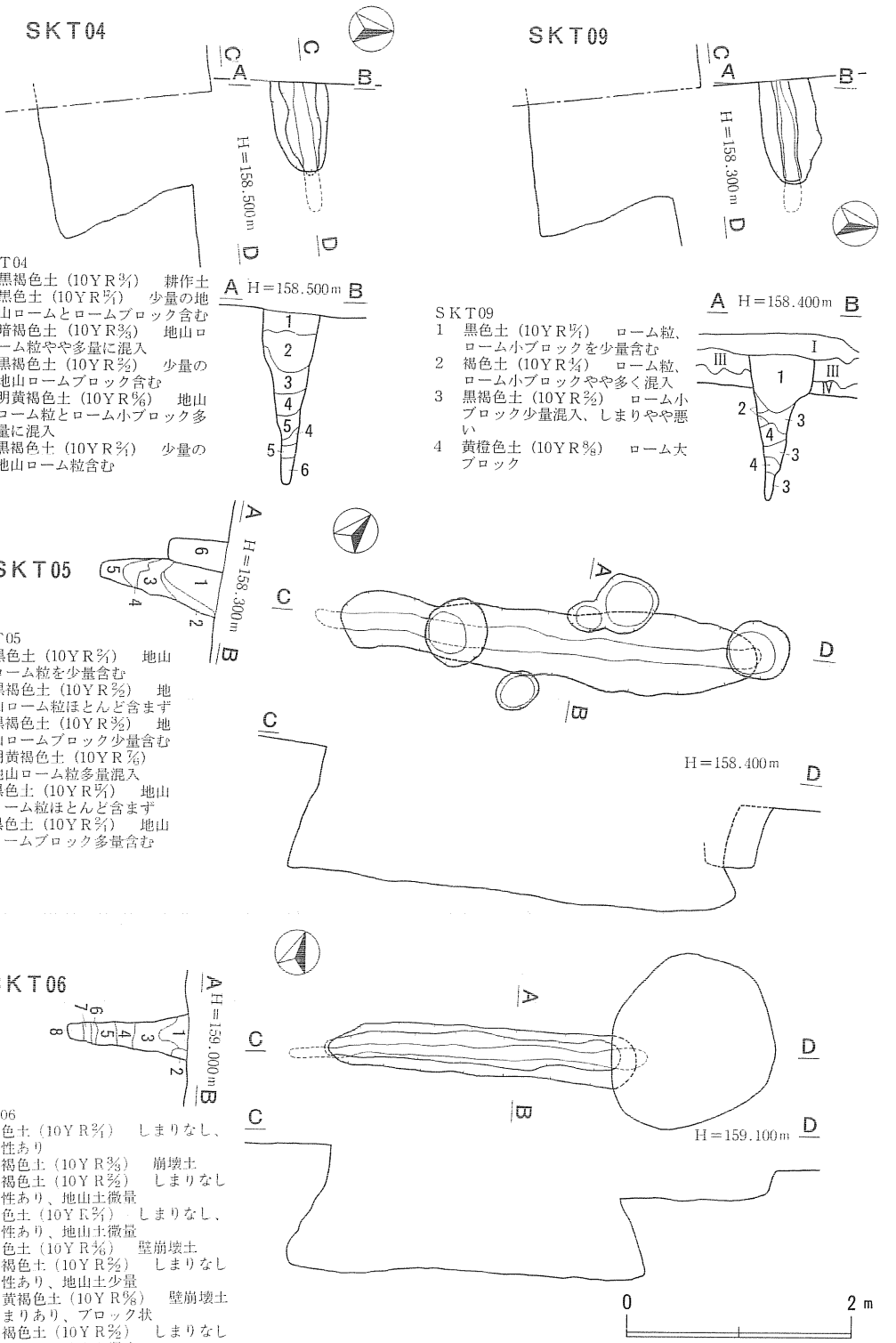
ＭＥ45グリッドに位置し、ＳＫＴ07と隣接して同一方向を向き、Ⅲ層(遺物包含層)の半ばから掘り込まれている。半分ほどが調査区外のため全容は不明であるが、遺構の規模は、確認面の現存部長軸2.14ｍ、短軸0.33ｍ～0.42ｍ、底部の現存部長軸2.45ｍ、短軸0.08ｍ～0.10ｍ、深さ1.30ｍで、主軸方向はＮ―74°―Ｅである。埋土は８層に分層した。黒褐色土や黄褐色土を主体としている。いずれの層にも地山ローム粒子やロームブロックが混入し、３･７層は地山ロームが主体となっていることなど、埋土の状況から、人為堆積と考えられる。

遺物は、縄文土器やフレイクが出土した。20は地文が無文で、やや厚く黒い付着物の上に３本１組の曲線的な文様を描き、内面は赤色塗彩されている。黒い付着物はあるいは黒漆かもしれない。21は撚糸文を施文後に曲線的な沈線を描き、部分的にその中を磨り消している。22は地文が縄文で、その上に曲線的な沈線を施す壺形土器である。23～25は粗製の深鉢形土器である。いずれも埋土半ばから上半にかけて出土した。

ＳＫＴ09陥し穴(第65図･第102図1～6，図版23)

ＭＥ50グリッドに位置し、ＳＫＴ04と隣接しほぼ同一方向を向く。遺構はⅢ層(遺物包含層)の上部より掘り込まれている。遺構の大半は調査区外のため全容は不明であるが、遺構の規模は確認面の現存部長軸0.94ｍ、短軸0.45ｍ～0.50ｍ、現存部の長軸1.18ｍ、短軸0.04ｍ～0.15ｍ、深さ1.31ｍで、主軸方向はＮ―80°―Ｅである。埋土は４層に分層した。いずれの層にも地山ローム粒子やロームブロックが混入している。特に遺構半ばから、３層の黒褐色土と４層の黄橙色土が互層になっていることから人為堆積と考えられる。

遺物は深鉢形土器や土製品が出土した。１～５は縄文や撚糸文を施した土器で、１･２は網目状撚糸文を施文している。６は土器片を四角に加工した土製品で、周縁は擦って整形されている。三角形に折れているが、復原形は１辺3.5cmの方形である。２は底面から10cmほど上で出土した。



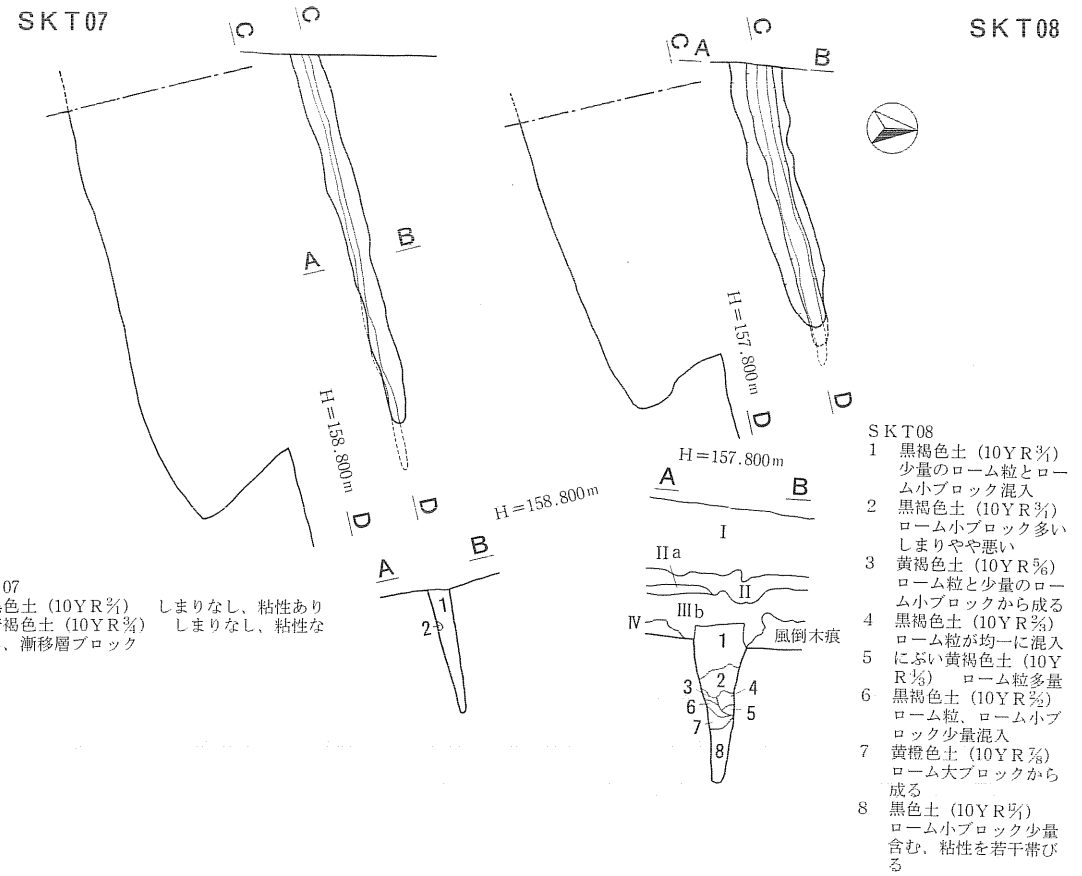
SKT04
1　黒褐色土（10YR3/1）　耕作土
2　黒色土（10YR2/1）　少量の地山ロームとロームブロック含む
3　暗褐色土（10YR3/3）　地山ローム粒やや多量に混入
4　黒褐色土（10YR3/2）　少量の地山ロームブロック含む
5　明黄褐色土（10YR6/6）　地山ローム粒とローム小ブロック多量に混入
6　黒褐色土（10YR3/1）　少量の地山ローム粒含む

SKT09
1　黒色土（10YR2/1）　ローム粒、ローム小ブロックを少量含む
2　褐色土（10YR4/4）　ローム粒、ローム小ブロックやや多く混入
3　黒褐色土（10YR3/2）　ローム小ブロック少量混入、しまりやや悪い
4　黄橙色土（10YR8/8）　ローム大ブロック

SKT05
1　黒色土（10YR2/1）　地山ローム粒を少量含む
2　黒褐色土（10YR3/2）　地山ローム粒ほとんど含まず
3　黒褐色土（10YR3/3）　地山ロームブロック少量含む
4　明黄褐色土（10YR7/6）　地山ローム粒多量混入
5　黒色土（10YR2/1）　地山ローム粒ほとんど含まず
6　黒色土（10YR2/1）　地山ロームブロック多量含む

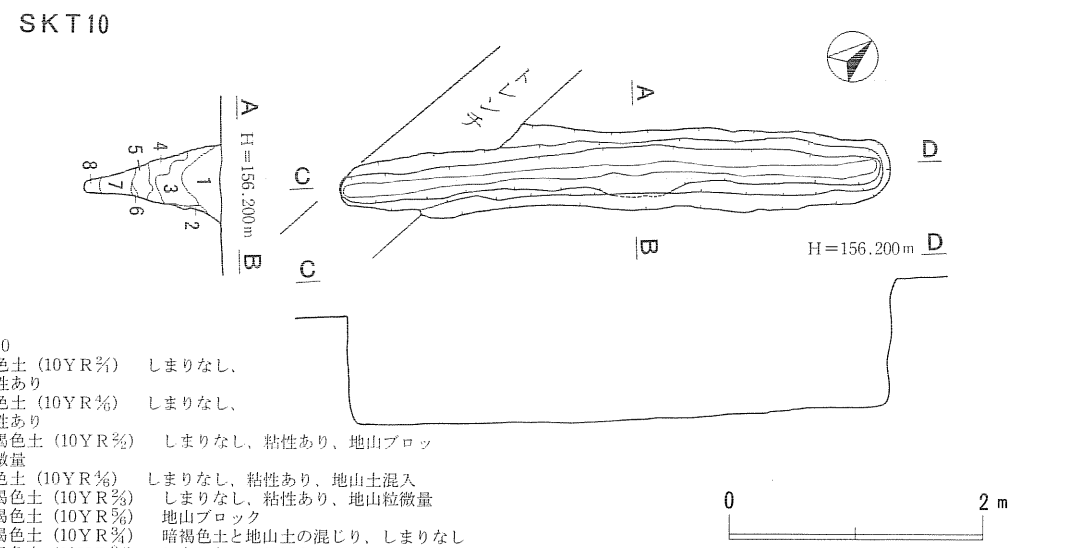
SKT06
1　黒色土（10YR2/1）　しまりなし、粘性あり
2　暗褐色土（10YR3/3）　崩壊土
3　黒褐色土（10YR3/2）　しまりなし粘性あり、地山土微量
4　黒色土（10YR2/1）　しまりなし、粘性あり、地山土微量
5　褐色土（10YR4/6）　壁崩壊土
6　黒褐色土（10YR3/2）　しまりなし粘性あり、地山土少量
7　明黄褐色土（10YR6/8）　壁崩壊土しまりあり、ブロック状
8　黒褐色土（10YR3/2）　しまりなし粘性あり、地山土混入

第65図　SKT04・05・06・09陥し穴実測図



SKT07
1　黒色土（10YR2/1）　しまりなし、粘性あり
2　暗褐色土（10YR3/4）　しまりなし、粘性なし、漸移層ブロック

SKT08
1　黒褐色土（10YR3/1）少量のローム粒とローム小ブロック混入
2　黒褐色土（10YR3/1）ローム小ブロック多いしまりやや悪い
3　黄褐色土（10YR5/6）ローム粒と少量のローム小ブロックから成る
4　黒褐色土（10YR3/4）ローム粒が均一に混入
5　にぶい黄褐色土（10YR4/3）　ローム粒多量
6　黒褐色土（10YR2/2）ローム粒、ローム小ブロック少量混入
7　黄橙色土（10YR7/8）ローム大ブロックから成る
8　黒色土（10YR2/1）ローム小ブロック少量含む、粘性を若干帯びる



SKT10
1　黒色土（10YR2/1）　しまりなし、粘性あり
2　褐色土（10YR4/6）　しまりなし、粘性あり
3　黒褐色土（10YR2/2）　しまりなし、粘性あり、地山ブロック微量
4　褐色土（10YR4/6）　しまりなし、粘性あり、地山土混入
5　黒褐色土（10YR2/3）　しまりなし、粘性あり、地山粒微量
6　黄褐色土（10YR5/6）　地山ブロック
7　暗褐色土（10YR3/4）　暗褐色土と地山土の混じり、しまりなし
8　黒褐色土（10YR2/2）　しまりなし、粘性あり

第66図　SKT07・08・10陥し穴実測図

ＳＫＴ10陥し穴（第66図，図版23･24）

ＭＥ58グリッドに位置し、南西上面はトレンチによってやや堀り下げられている。遺構の規模は確認面の推定長軸4.47ｍ、短軸0.50ｍ～0.65ｍ、推定長軸4.29ｍ、短軸0.07ｍ～0.10ｍ、深さ1.09ｍで、主軸方向はＮ―43°―Ｅである。

埋土は８層に分層した。褐色土系を主体とし、３～５･７層には、地山ローム粒子･ブロックが褐色土と混じり、６層は黄褐色土のロームブロックである。

遺物は出土しなかった。

ＳＫＴ11陥し穴（第67図，図版24）

ＬＲ52グリッドで検出したもので、ＳＫＰ415と重複し、本遺構が古い。遺構の規模は確認面の長軸が3.84ｍ、短軸0.61ｍ～0.70ｍ、底部の長軸4.14ｍ、短軸0.07ｍ～0.10ｍ、深さ1.43ｍで、主軸方向はＮ―46°―Ｅである。埋土は12層に分層した。褐色系の土層を主体にして、いずれの層にも地山ローム粒子･ブロックが混入している。４･５･８･10･12層は黄褐色の地山ロームを基本とする。

遺物は出土しなかった。

ＳＫＴ12陥し穴（第67図，図版24）

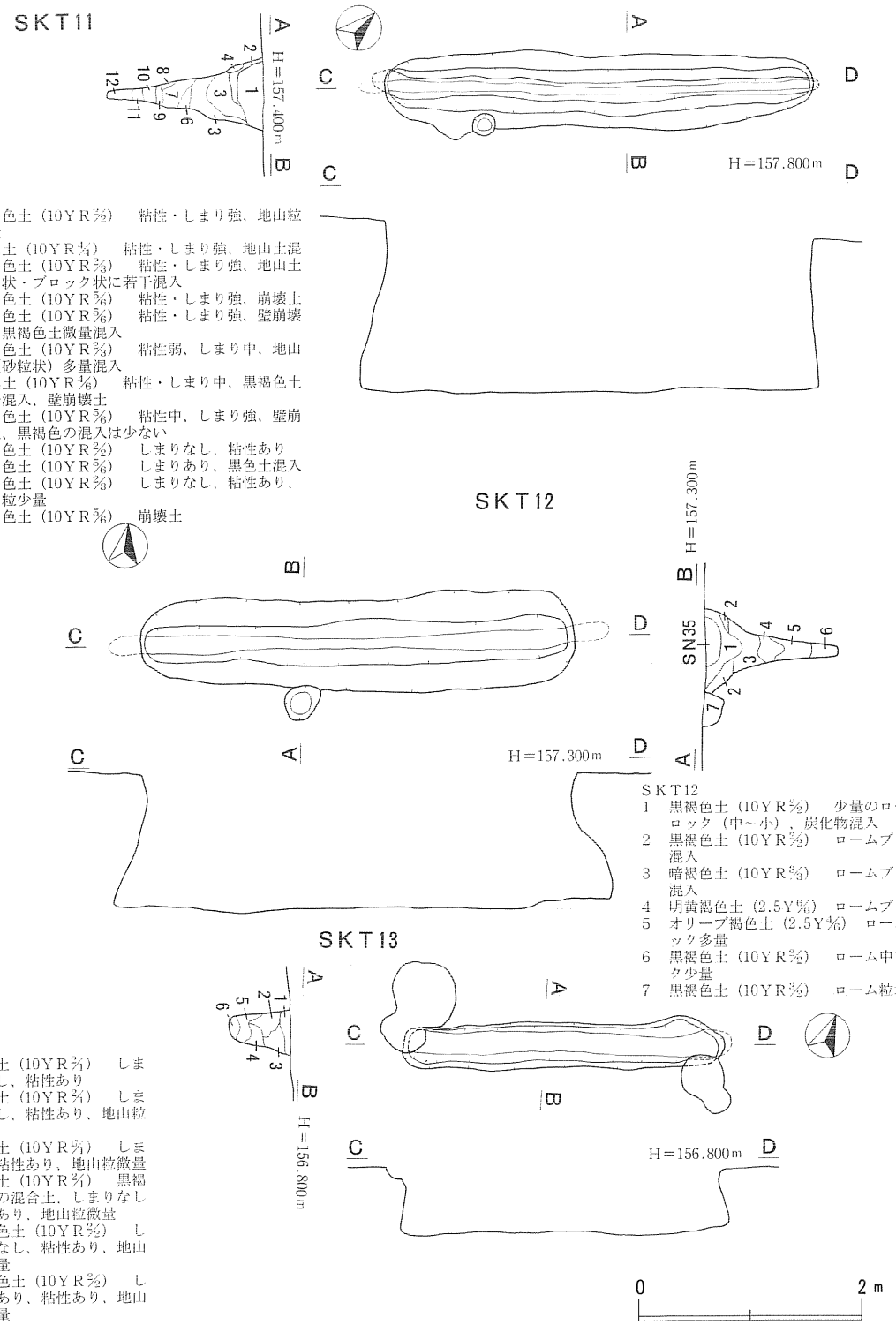
ＬＳ54グリッドで検出したもので、ＳＫ250･ＳＫＰ151と重複し、本遺構が古い。遺構の規模は確認面の長軸が3.91ｍ、短軸0.76ｍ～0.90ｍ、底部の長軸4.52ｍ、短軸0.08ｍ～0.17ｍ、深さ1.20ｍで、主軸方向はＮ―89°―Ｅである。埋土は６層に分層した。黒褐色土を主体として、いずれにも地山ローム粒子･ブロックが混入する。４層は明黄褐色のローム主体の層で、３･５層は、ロームブロックが多い。

遺物は出土しなかった。

ＳＫＴ13陥し穴（第102図７･８，図版24）

ＬＳ55･ＬＳ56グリッドで検出したもので、柱穴のＳＢ01の柱穴ｃとＳＢ04の柱穴ｃと重複しており、本遺構が古い。遺構の規模は確認面の長軸が2.89ｍ、短軸0.35ｍ～0.46ｍ、底部の長軸2.95ｍ、短軸0.15ｍ～0.22ｍ、深さ0.55ｍで、主軸方向はＮ―79°―Ｅである。埋土は６層に分層した。黒褐色を主体にして、２～６層には地山粒子が混入し、特に５層はその混入度が高い。

遺物は撚糸文を施文した土器が２点（７･８）出土した。いずれも埋土半ばから上面での出土である。



SKT11
1　黒褐色土（10YR2/2）　粘性・しまり強、地山粒微量
2　褐色土（10YR4/4）　粘性・しまり強、地山土混
3　黒褐色土（10YR2/3）　粘性・しまり強、地山土粒子状・ブロック状に若干混入
4　黄褐色土（10YR5/8）　粘性・しまり強、崩壊土
5　黄褐色土（10YR5/6）　粘性・しまり強、壁崩壊土、黒褐色土微量混入
6　黒褐色土（10YR2/3）　粘性弱、しまり中、地山土（砂粒状）多量混入
7　褐色土（10YR4/6）　粘性・しまり中、黒褐色土若干混入、壁崩壊土
8　黄褐色土（10YR5/6）　粘性中、しまり強、壁崩壊土、黒褐色の混入は少ない
9　黒褐色土（10YR2/2）　しまりなし、粘性あり
10　黄褐色土（10YR5/6）　しまりあり、黒色土混入
11　黒褐色土（10YR2/3）　しまりなし、粘性あり、地山粒少量
12　黄褐色土（10YR5/6）　崩壊土

SKT12
1　黒褐色土（10YR2/3）　少量のロームブロック（中～小）、炭化物混入
2　黒褐色土（10YR3/2）　ロームブロック混入
3　暗褐色土（10YR3/4）　ロームブロック混入
4　明黄褐色土（2.5Y6/6）　ロームブロック
5　オリーブ褐色土（2.5Y5/4）　ロームブロック多量
6　黒褐色土（10YR2/2）　ローム中ブロック少量
7　黒褐色土（10YR3/2）　ローム粒均一

SKT13
1　黒色土（10YR2/1）　しまりなし、粘性あり
2　黒色土（10YR2/2）　しまりなし、粘性あり、地山粒微量
3　黒色土（10YR2/1）　しまり・粘性あり、地山粒微量
4　黒色土（10YR2/1）　黒褐色土の混合土、しまりなし粘性あり、地山粒微量
5　黒褐色土（10YR2/2）　しまりなし、粘性あり、地山粒多量
6　黒褐色土（10YR3/2）　しまりあり、粘性あり、地山粒微量

第67図　SKT11・12・13陥し穴実測図

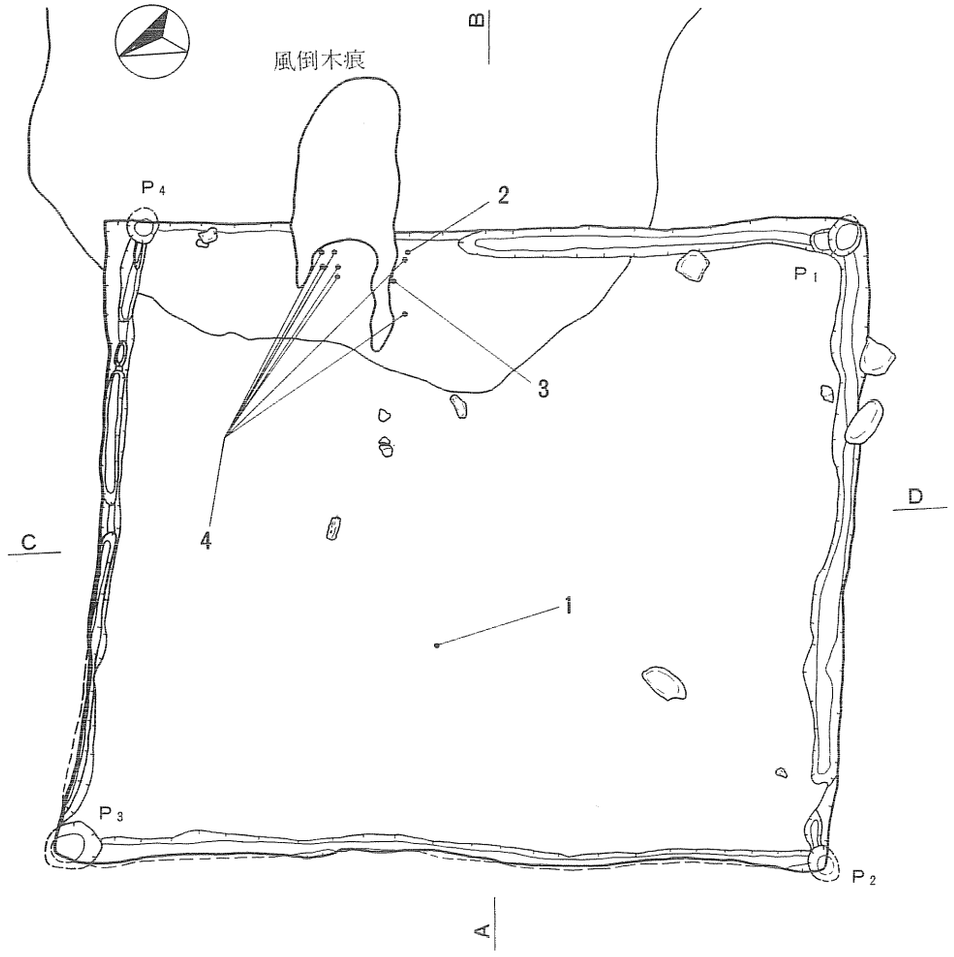
２、平安時代

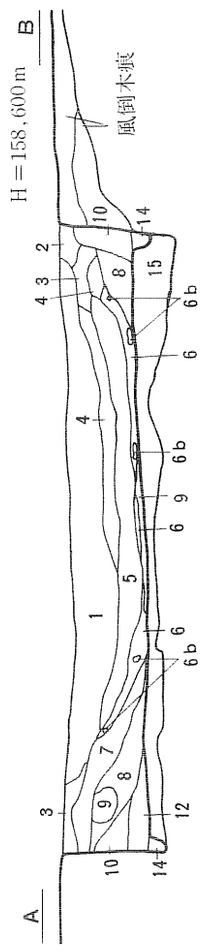
（１）竪穴住居跡

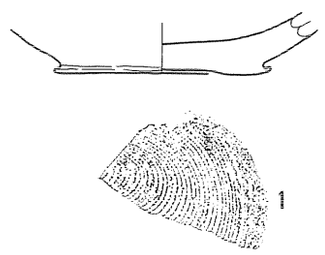
ＳＩ03竪穴住居跡（第68･69図、図版４･５･７･25･26･30）

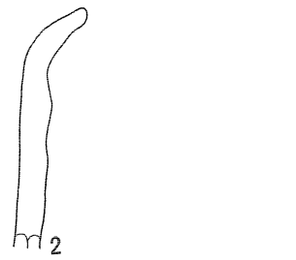
ＬＳ47･48、ＬＴ47･48グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で黒色土中に軽石粒が多量に含まれる方形プランを確認した。配石遺構（ＳＱ09、ＳＱ10）の一部を破壊し、また東側にある倒木痕を切って構築されている。平面形は長方形を呈し、長辺4.17～4.2ｍ、短辺3.49～3.53ｍの規模である。床は全面にわたって貼られており、よく踏み固められている。貼床に用いた土は、地山ブロックを多量に含む黒褐色土である。壁溝は、カマドが付設されている南東壁の一部を除いて観察された。幅は６～21cm、深さは浅いところで0.5～2.5cm、深いところで18.6cmであるが平均すれば６cm余りである。柱穴は、壁と壁がぶつかる四隅に合計４本検出された。それぞれの径と深さは、P_1径18×23cm、深さ41.4cm、P_2径16×21cm、深さ23.4cm、P_3径26×30cm、深16.7cm、P_4径17×19cm、深22.7cmである。壁高は、南東壁が47.8～50.3cm、南西壁が46.6～55.6cm、北西壁が42.8～59.1cm、北東壁が36.5～48.8cmである。埋土は、13層に分層された。全体に大湯浮石層第Ⅱ層に含まれる軽石粒を混入するが、このほかにこれらとは異なる火山灰を検出した。第５章の自然科学的分析の結果、白頭山を噴出源とする火山灰であることが判明した。土層断面から白頭山火山灰は、大湯浮石の純層の上に堆積していることがわかる。したがって本竪穴住居跡の廃棄された時期を大湯浮石降下後から白頭山火山灰降下後の間に求めることが可能である。カマドは、南東壁に向かって中央からやや左に寄った位置に付設されていた。カマドの煙道部を主軸とした場合の方向はＮ―113.5°―Ｅである。主に左側からの力を受けて崩れており、原形をとどめていなかった。これに反し煙道部は比較的よく残っており、長さ31～41cmの石をトンネル状に組んでいる。カマド断面図から硬化した燃焼部の下に貼床とは異なる黒色土の層が観察される。これはカマドを付設する際に焼焼部にあたる部分を一度掘り込み、黒色土を敷いているものと推定される。

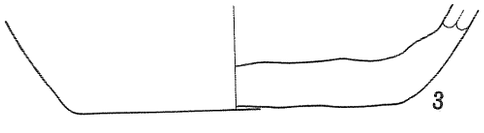
遺物は、カマドとその周囲から甕形土師器が、竪穴住居跡埋土中から壺形須恵器の底部破片が出土した。1は壺形須恵器の底部破片である。底部には、回転糸切り痕がみられる。２は、カマド右軸の竪穴住居壁との取り付け部分の床面に出土した。口縁部にヨコナデ、内面にヘラナデ調整が施され黒色処理がなされている。３はカマド右軸の床面に出土した。内面黒色処理がなされており、２と同一個体であろう。４は、カマド崩壊土中から出土した破片と、右袖の床面に出土したものが接合したものである。外面は縦位又は斜位のヘラケズリ、内面はヘラナデ調整、口縁部はヨコナデが施されている。内面は黒色処理がなされる。外面の色調は、明赤褐色（2.5ＹＲ5/6）である。口径13.9cm、底径8.5cm、器高13.6cmである。

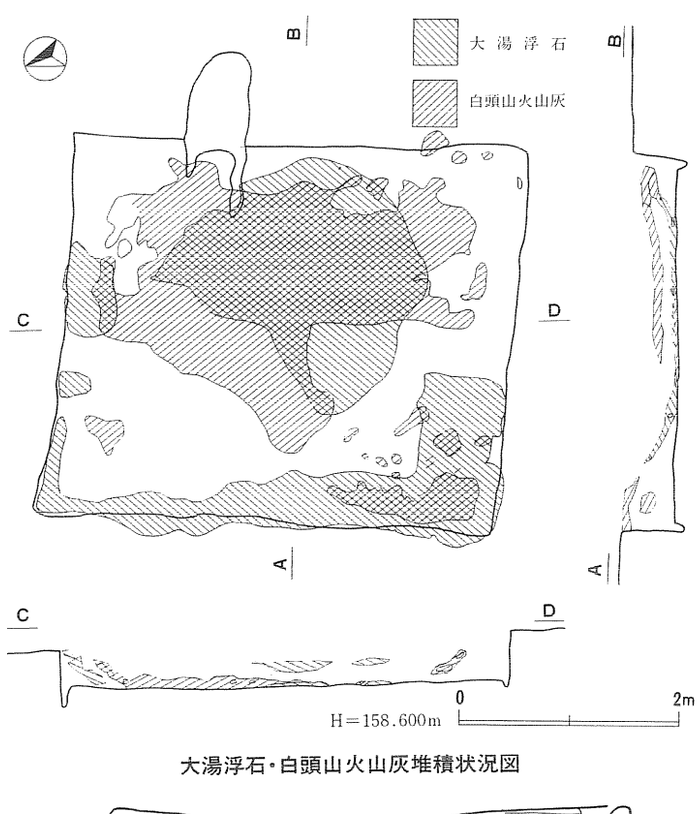




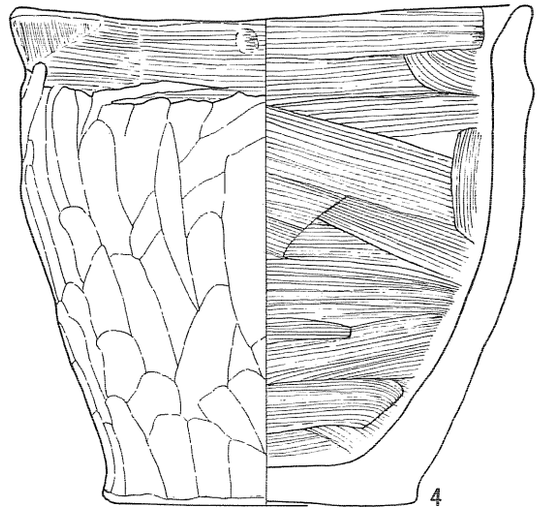


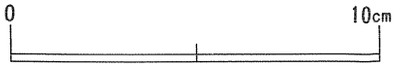


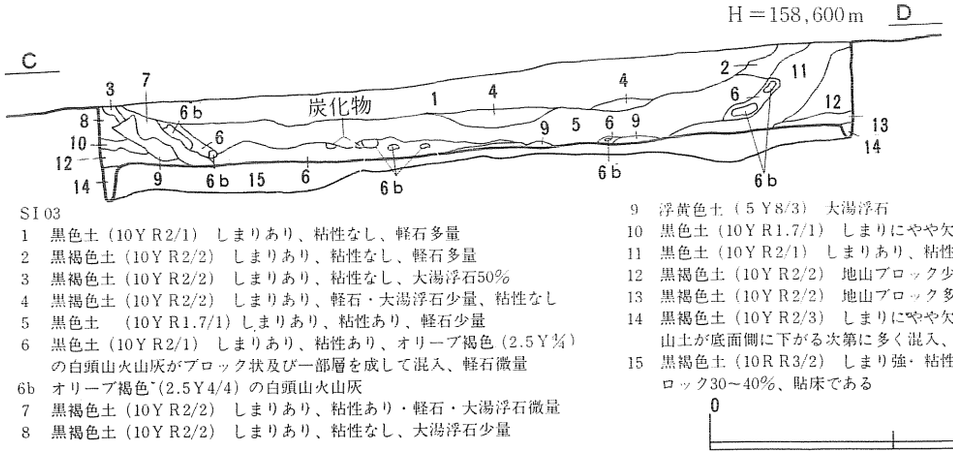




大湯浮石・白頭山火山灰堆積状況図



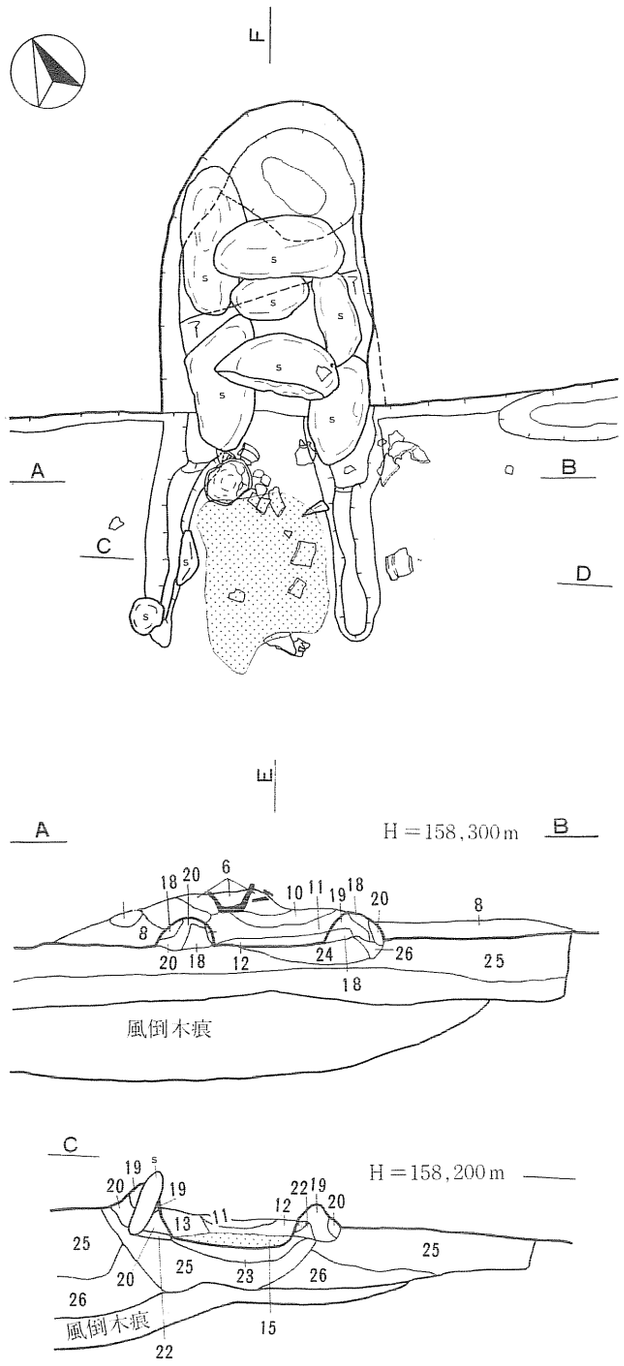


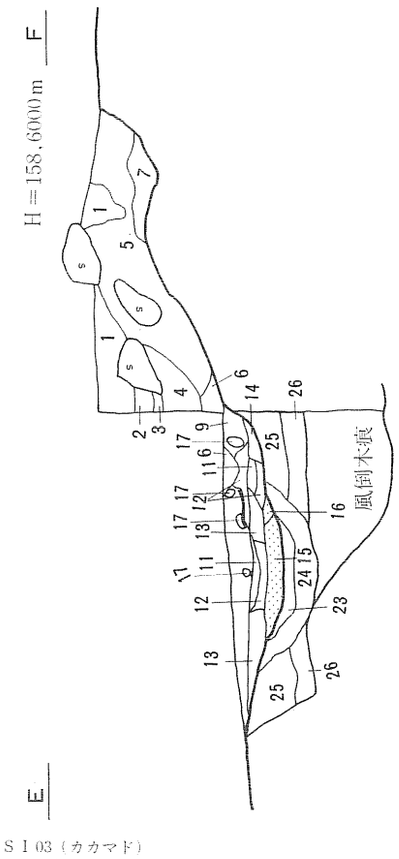


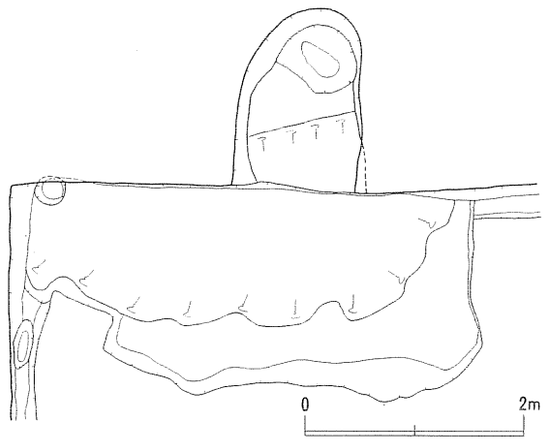
SI03
1　黒色土（10YR2/1）　しまりあり、粘性なし、軽石多量
2　黒褐色土（10YR2/2）　しまりあり、粘性なし、軽石多量
3　黒褐色土（10YR2/2）　しまりあり、粘性なし、大湯浮石50%
4　黒褐色土（10YR2/2）　しまりあり、軽石・大湯浮石少量、粘性なし
5　黒色土　（10YR1.7/1）しまりあり、粘性あり、軽石少量
6　黒色土（10YR2/1）　しまりあり、粘性あり、オリーブ褐色（2.5Y¾）の白頭山火山灰がブロック状及び一部層を成して混入、軽石微量
6b　オリーブ褐色（2.5Y4/4）の白頭山火山灰
7　黒褐色土（10YR2/2）　しまりあり、粘性あり・軽石・大湯浮石微量
8　黒褐色土（10YR2/2）　しまりあり、粘性なし、大湯浮石少量
9　浮黄色土（5Y8/3）　大湯浮石
10　黒色土（10YR1.7/1）　しまりにやや欠け・粘性あり
11　黒色土（10YR2/1）　しまりあり、粘性あり、地山粒少量
12　黒褐色土（10YR2/2）　地山ブロック少量
13　黒褐色土（10YR2/2）　地山ブロック多量
14　黒褐色土（10YR2/3）　しまりにやや欠け、粘性あり、地山土が底面側に下がる次第に多く混入、周溝
15　黒褐色土（10R R3/2）　しまり強・粘性ややあり・地山ブロック30～40%、貼床である

0　2m

第68図　ＳＩ03竪穴住居跡実測図



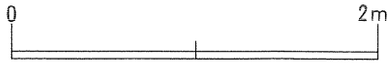




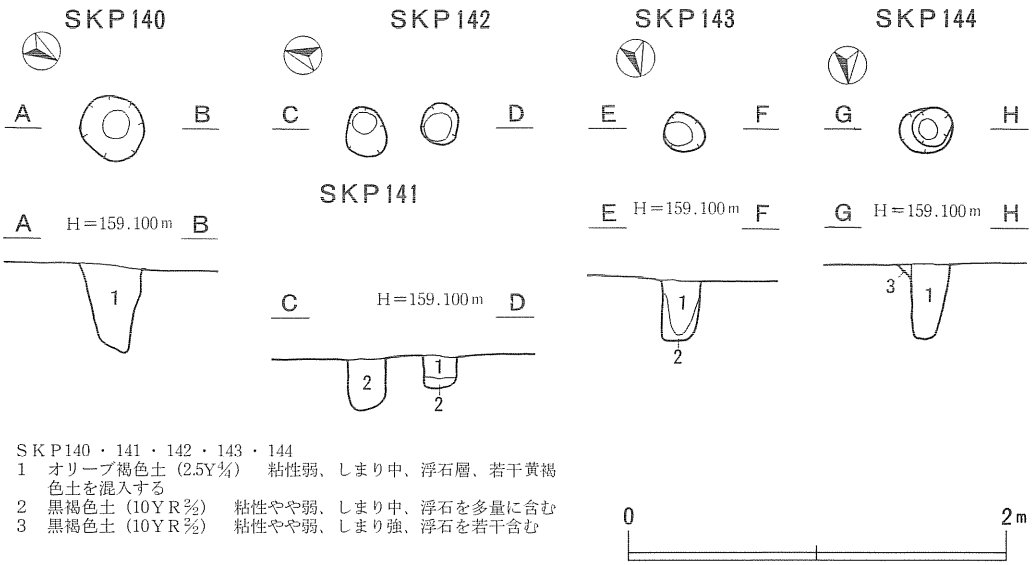
SI03竪穴住居跡カマド完掘

ＳＩ03（カカマド）

1　黒色土（10Ｙ R2/1）　しまりややあり、粘性ややあり、軽石多量、大湯浮石極めて微量
2　黒褐色土（10Ｙ R2/3）　しまりあり、粘性あり、軽石極めて微量、大湯浮石少量
3　黒褐色土（10Ｙ R2/3）　しまりなし、粘性ややあり、大湯浮石ブロック状に多量
4　黒褐色土（10Ｙ R2/2）　しまりなし、粘性ややあり、地山粒微量、大湯浮石極めて微量
5　黒褐色土（10Ｙ R2/3）　しまりややあり、粘性ややあり
6　黒褐色土(7.5Ｙ R2/2)　しまりなし・粘性あり、焼土粒少量、
7　暗褐色土（10Ｙ R3/3）　しまりややあり、粘性ややあり、大浮浮石多量
8　黒褐色土（10Ｙ R2/2）　しまり強・粘性ややあり、大湯浮石多量、焼土粒微量
9　黒褐色土(7.5Ｙ R2/2)　５Ｙ R(3/4)の焼土ブロック混入
10　褐色土(7.5Ｙ R4/6)　しまり強、粘性ややあり、径２～３cmの焼土ブロック混入
11　赤赤色土（５Ｙ R4/8）　しまり強、粘性ややあり、非常によく焼けている
12　暗褐色土(7.5Ｙ R3/4)　しまりあり、粘性あり、焼土粒極めて微量
13　黒褐色土（10Ｙ R3/2）　しまりあり、粘性あり、焼土粒極めて微量、地山土がブロック状に混入
14　極暗褐色土（7.5Ｙ R2/3）　しまりややあり、粘性ややあり、焼土粒極めて微量
15　明赤褐色土（５Ｙ R5/8）　しまり強、焼土　｝火床面
16　赤褐色土（５Ｙ R4/8）　しまり強、焼土　｝
17　明赤褐色（５Ｙ R5/8）　焼土ブロック
18　暗褐色土（7.5Ｙ R3/3）　しまりあり、粘性あり　｝
19　赤褐色土（５Ｙ R4/8）　しまり強、粘性あり　｝
20　黄褐色土（10Ｙ R5/8）　しまり強、粘性強　｝袖部構築土
21　極暗褐色土(7.5Ｙ R2/3)　しまりあり、粘性あり　｝
22　暗褐色土（10Ｙ R3/3）　しまりあり、粘性あり　｝
23　褐色土(7.5Ｙ R4/6)　しまり強、粘性あり、軽石微量　｝
24　黒色土（10Ｙ R2/1）　しまりあり、粘性あり、孔隙なし　｝
25　黒色土（10Ｙ R2/1）　しまりやや強、粘性あり、地山粒及び径３～５cmのブロック微量　｝張土
26　黒褐色土（10Ｙ R2/2）　しまりあり、粘性ややあり、径５～10cmの地山ブロック多量　｝



第69図　ＳＩ03竪穴住居跡カマド実測図



ＳＫＰ140・141・142・143・144
1　オリーブ褐色土（2.5Y4/4）　粘性弱、しまり中、浮石層、若干黄褐色土を混入する
2　黒褐色土（10YR3/2）　粘性やや弱、しまり中、浮石を多量に含む
3　黒褐色土（10YR3/2）　粘性やや弱、しまり強、浮石を若干含む

第70図　ＳＫＰ140・141・142・143・144柱穴様ピット実測図

（２）柱穴様ピット（第70図、図版28）

ＬＳ45、ＬＴ45グリッド第Ⅲ層上面でオリーブ褐色の円形プランを合計５基検出した。径20～35cm、深さ17～40cmの規模である。埋土は大湯浮石層に由来すると思われる軽石粒を多量に含んでいる。様穴様ピット間の規則的な配置は認められなかった。出土遺物がなかったため時期の決め手にならなかったが、埋土から大湯浮石降下前後と推定される。

３、時期不明

(1)建物跡

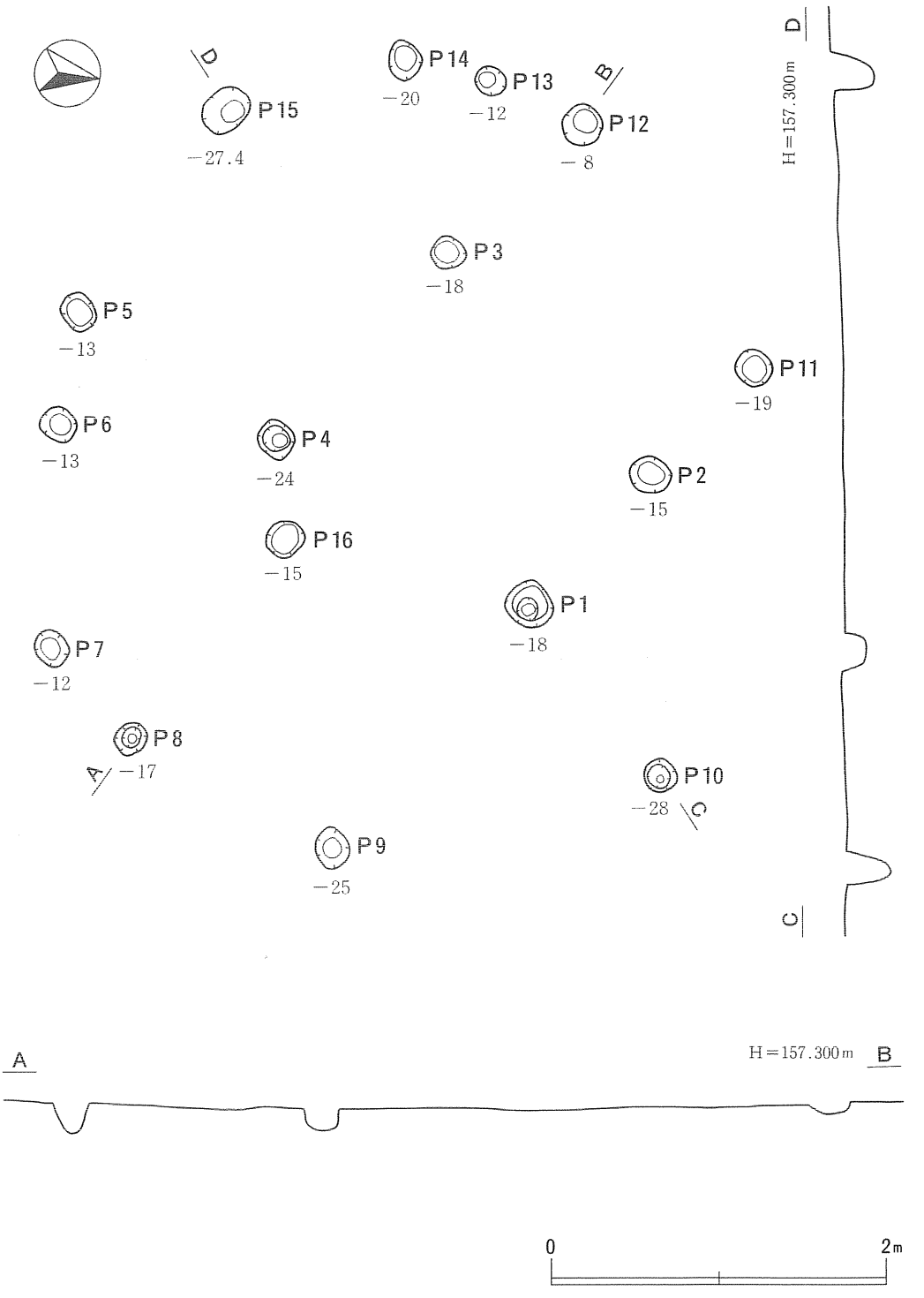
ＳＢ27建物跡（第71図、図版28）

ＬＰ53･54、ＬＱ53･54グリッド第Ⅴ層中で柱穴プランを検出した。耕作により地山上面まで削平をうけているものと推定され、柱穴のみ検出した。竪穴住居跡のような掘り込みをもつのかどうか不明である。柱穴は、東西５ｍ、南北4.4ｍの範囲に確認された。柱穴に付した数字は確認面からの深さ（cm）である。柱穴の埋土は、地山土を含む黒色または黒褐色土である。

遺物は出土しなかった。

（２）溝状遺構

合計４条検出された。そのうち２条（ＳＤ01、ＳＤ02溝条遺構）は、昭和63年度調査時に検出されたものである。



第71図　ＳＢ27建物跡実測図

ＳＤ01溝条遺構（第72図、図版２）

東西に細長い昭和63年度調査区のＭＣラインとＭＬラインの間の第Ⅴ層上面でプランを確認した。南から西に緩く傾斜する斜面上に位置する。全長33.43ｍ、幅0.39～0.72㎝、確認面からの深さ0.05～0.19ｍの規模を有する。地山が緩く傾斜しているため、南側壁の遺存は比較的良好であるが、北側壁は良くない。底面標高は160.14～160.28ｍの間を上下しており、底面の一定方向への傾斜はみとめられない。

遺物は出土しなかった。

ＳＤ02溝状遺構（第72図、図版28）

昭和63年度調査区の最も西側に位置し、第Ⅴ層上面でプランを確認した。全長8.57ｍ、幅0.6～1.2ｍ、深さ0.03～0.35ｍである。ＳＤ01溝状遺構と同様に第Ⅴ層が南から北へ傾斜しているため、谷側の壁の遺存は良くなかった。底面標高は南東端が162.33ｍで北西にいくにしたがって低くなり北西端は161.51ｍとなる。比高差は0.82ｍである。北西端の壁は徐々に認められなくなり、底面と同じ高さに吸収されてしまっている。埋土は、大湯浮石由来と思われる軽石粒を含む。遺物は出土しなかった。

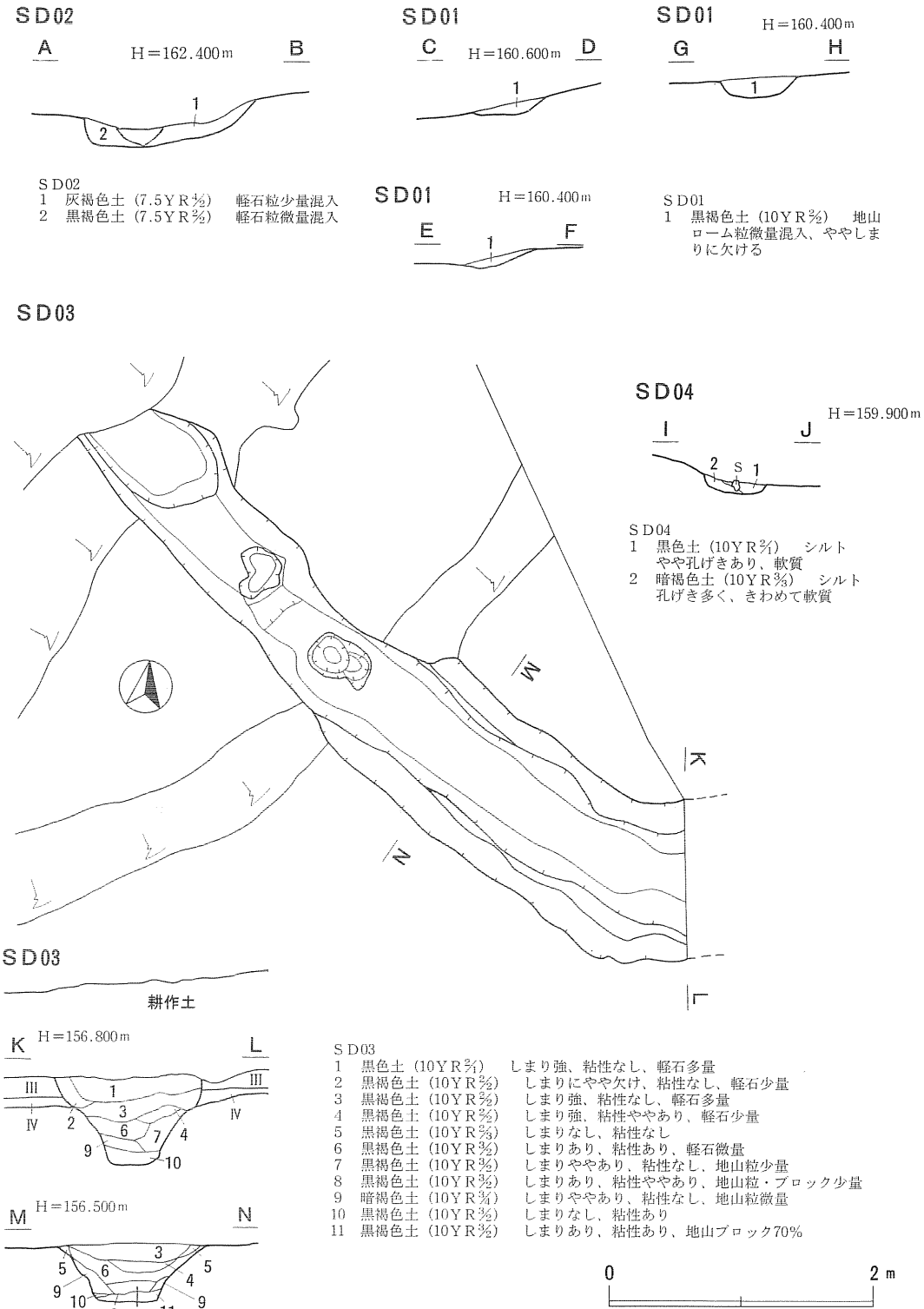
ＳＤ03溝状遺構（第72図･第102図９～18･第106図４・５、図版28･43）

ＬＰ56･57、ＬＱ57･58グリッド第Ⅳ層上面でプランを確認した。平成元年度調査区の北東端に位置し、調査区外の東側に伸びているものと思われる。北から沢が入っており、その沢に向かって落ち込んでいるのが図からわかる。沢に近いほうの遺構上部は、土取りによって削平を受けている。調査が可能であった部分の全長は5.58ｍ、幅0.6～1.23ｍ、深さ0.051～0.5ｍであった。底面標高は、調査区境界に近い南東が155.968ｍ、北西側の沢の落ち際が155.171ｍとなり、比高差0.797ｍである。土層断面Ａ―Ｂをみると、本遺構の壁の立ち上がりは、第Ⅳ層および第Ⅲ層を切っていることがわかる。耕作土の厚さからみて、第Ⅲ層上部まで耕作が及んでいることが窺われるから、本遺構が掘り込まれた面は第Ⅲ層上部より上ということが推定される。

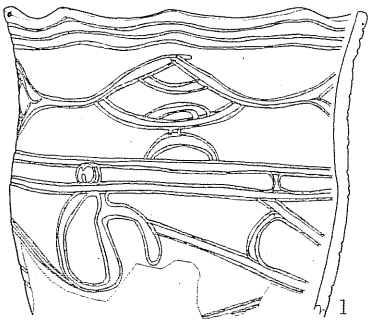
出土遺物は、土器片と石器、フレークであるが、その大部分は溝状遺構が北側の沢に落ち込んだ部分から出土している。石器は、第106図４と５が出土した。４は主要剝離面背面の下端と両側縁に調整を行っている。石材は、粘板岩である。

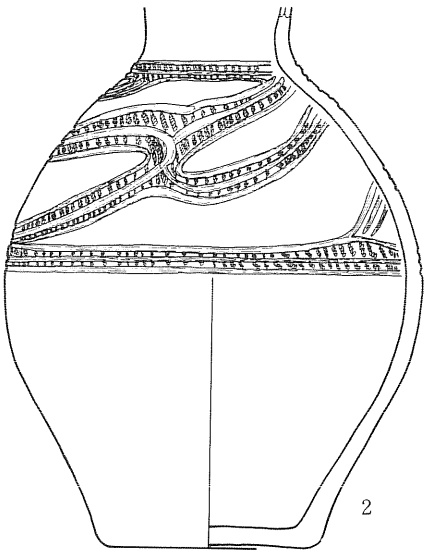
ＳＤ04溝状遺構（第72図）

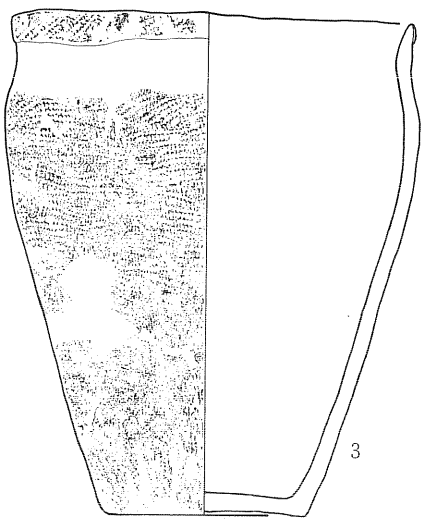
ＳＤ01、ＳＤ02溝状遺構と同様調査区の最も南に位置する。北西に長く伸びた溝状遺構で、東側調査区域外に伸びていることが推定される。調査することができた本遺構の全長は14.73ｍ、幅0.39～0.68ｍ、深さ0.059～0.201ｍである。底面標高は、東側調査区境界近くで159.515ｍ、西端で159.285ｍとなり、比高差は0.23ｍである。ＬＱ42グリッドでＳＫ210土坑と重

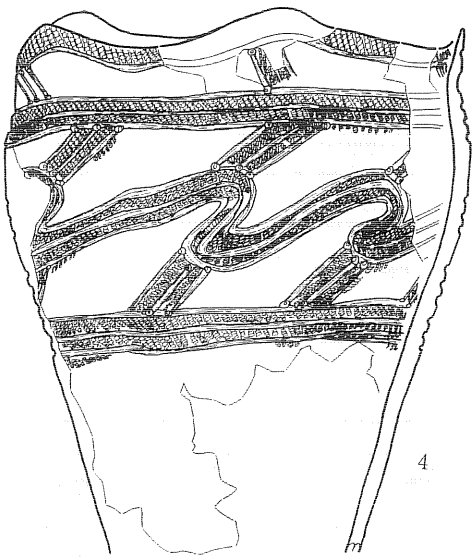


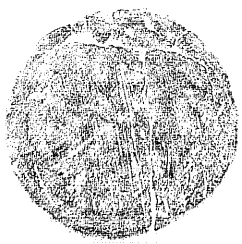
第72図　SD01・02・03・04溝状遺構実測図

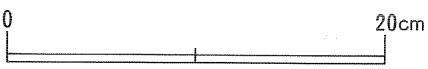


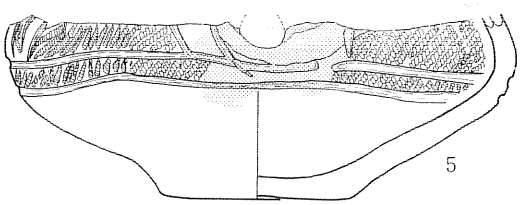






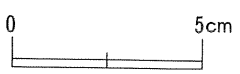




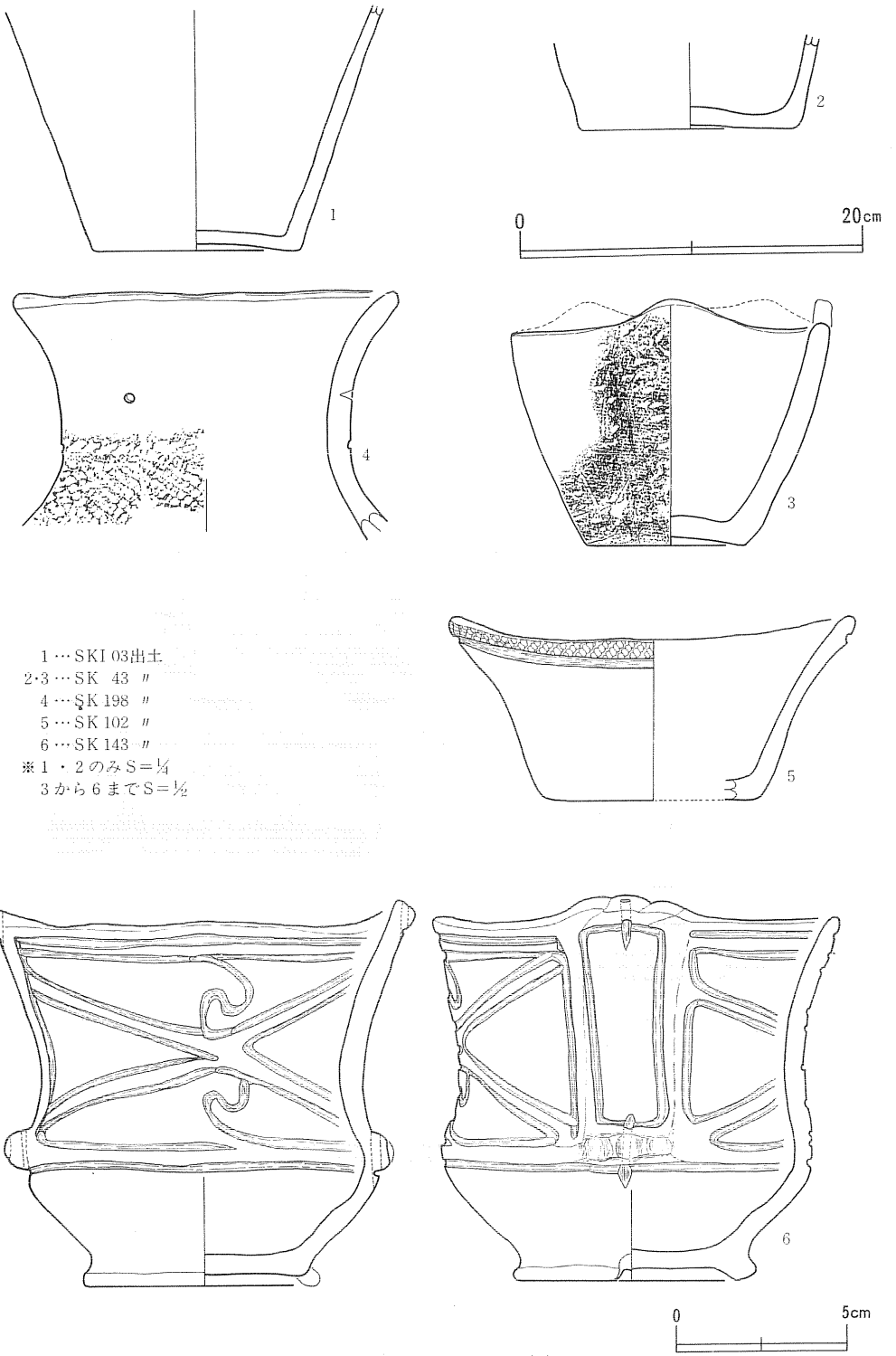


1 ……SKP221出土
2 ……SKP361出土
3 ・ 4…SKI01出土
5 ……SKI03出土
※5はS＝½
　その他はS＝¼

アスファルト付着

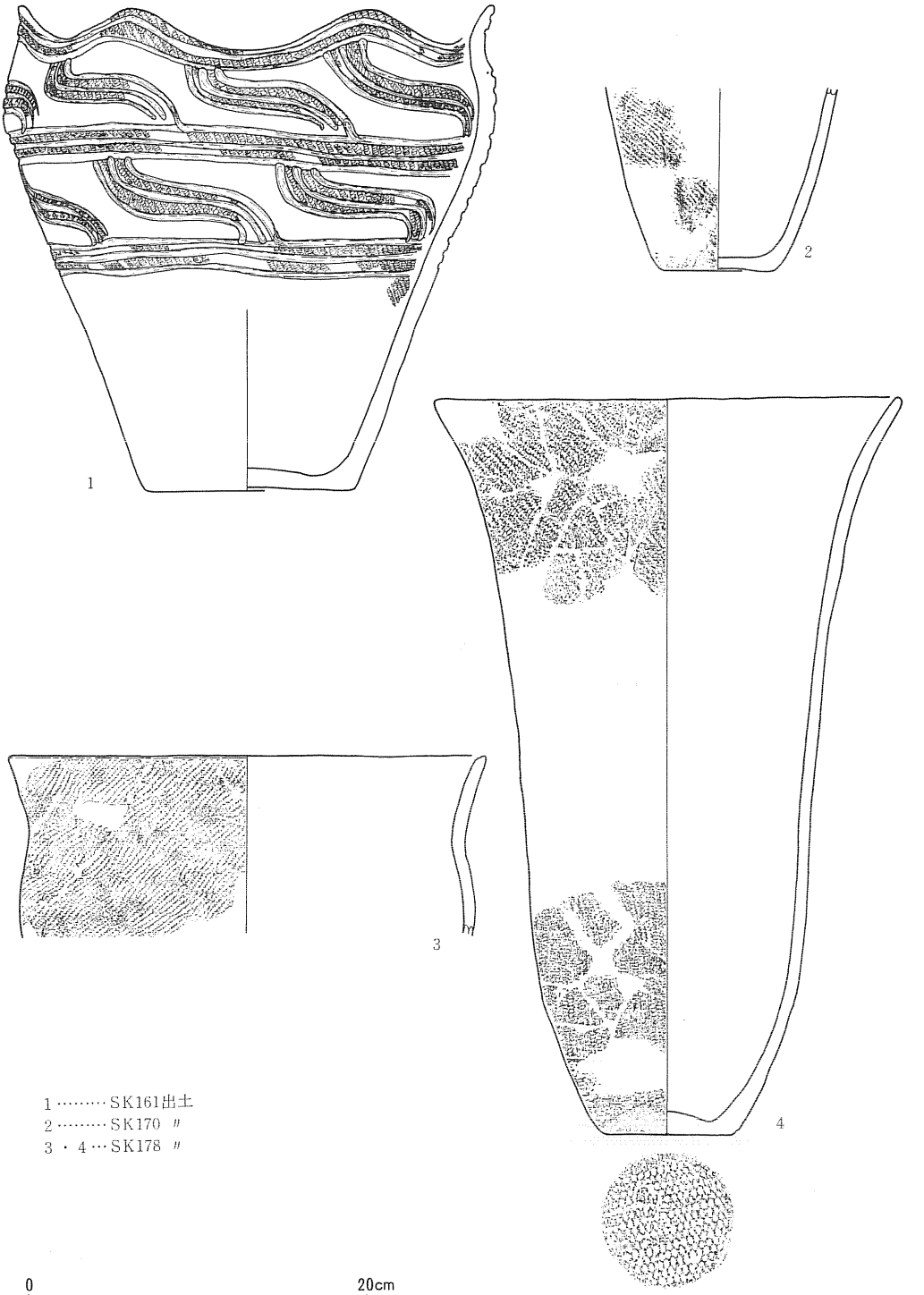


第73図　遺構内出土土器(1)



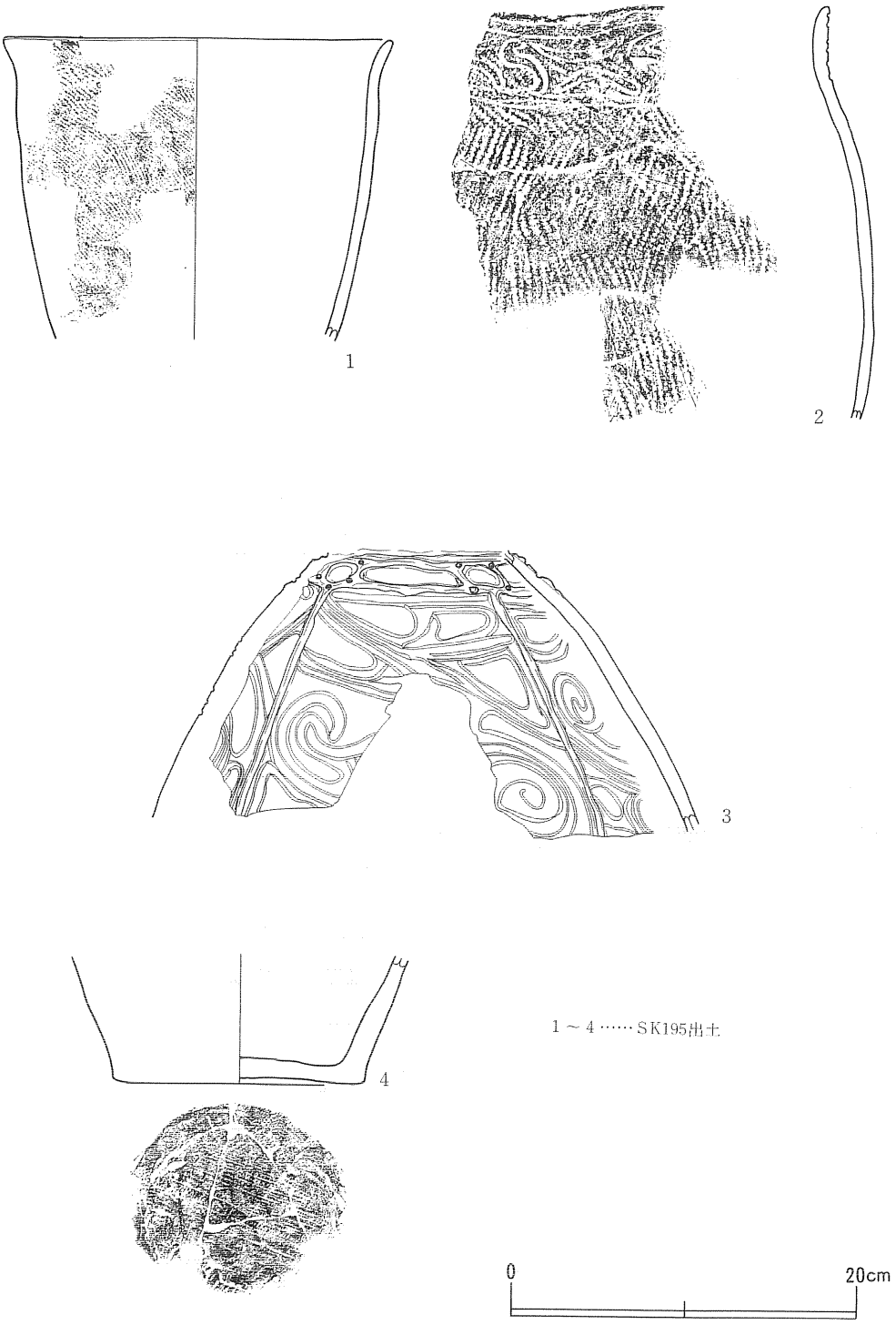
1…SKI 03出土
2・3…SK　43　〃
4…SK 198　〃
5…SK 102　〃
6…SK 143　〃
※1・2のみS＝¼
3から6までS＝½

第74図　遺構内出土土器(2)

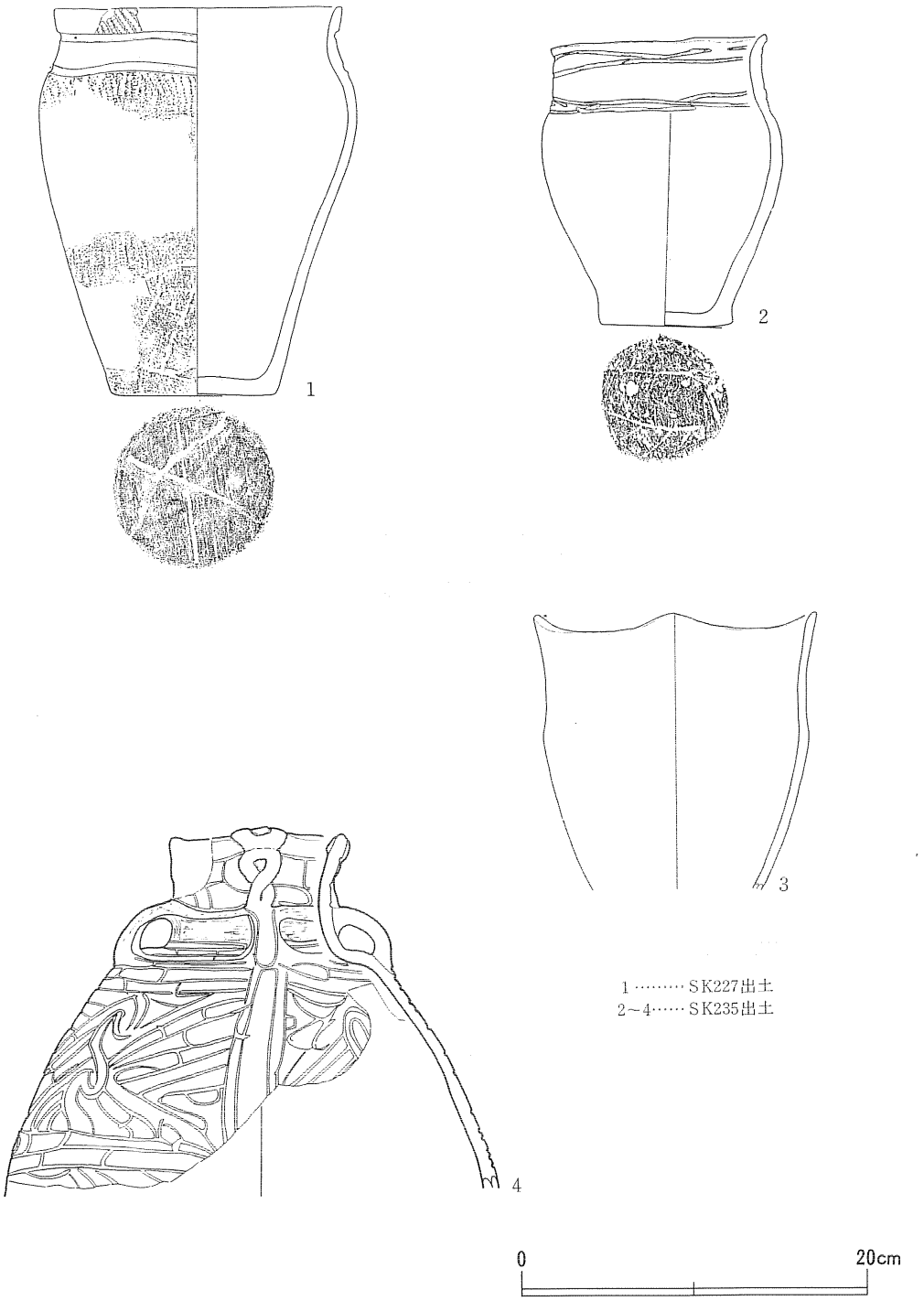


1……SK161出土
2……SK170　〃
3・4…SK178　〃

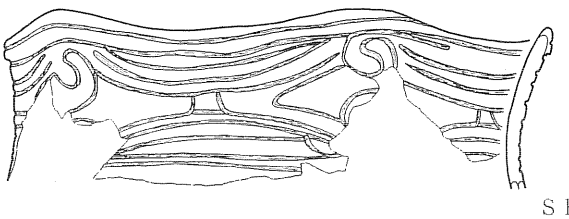
第75図　遺構内出土土器(3)

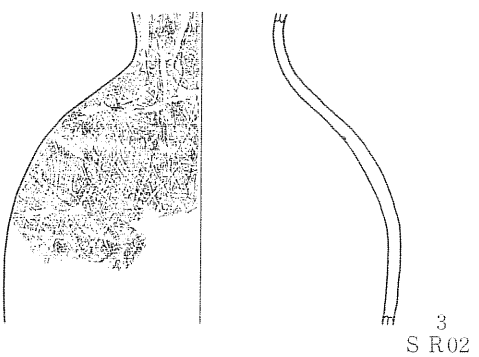


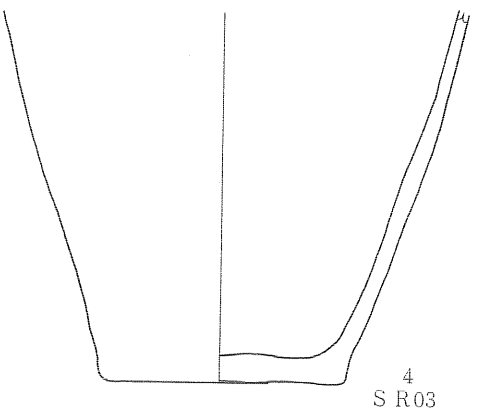
第76図　遺構内出土土器(4)

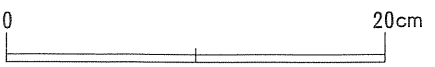


第77図　遺構内出土土器(5)

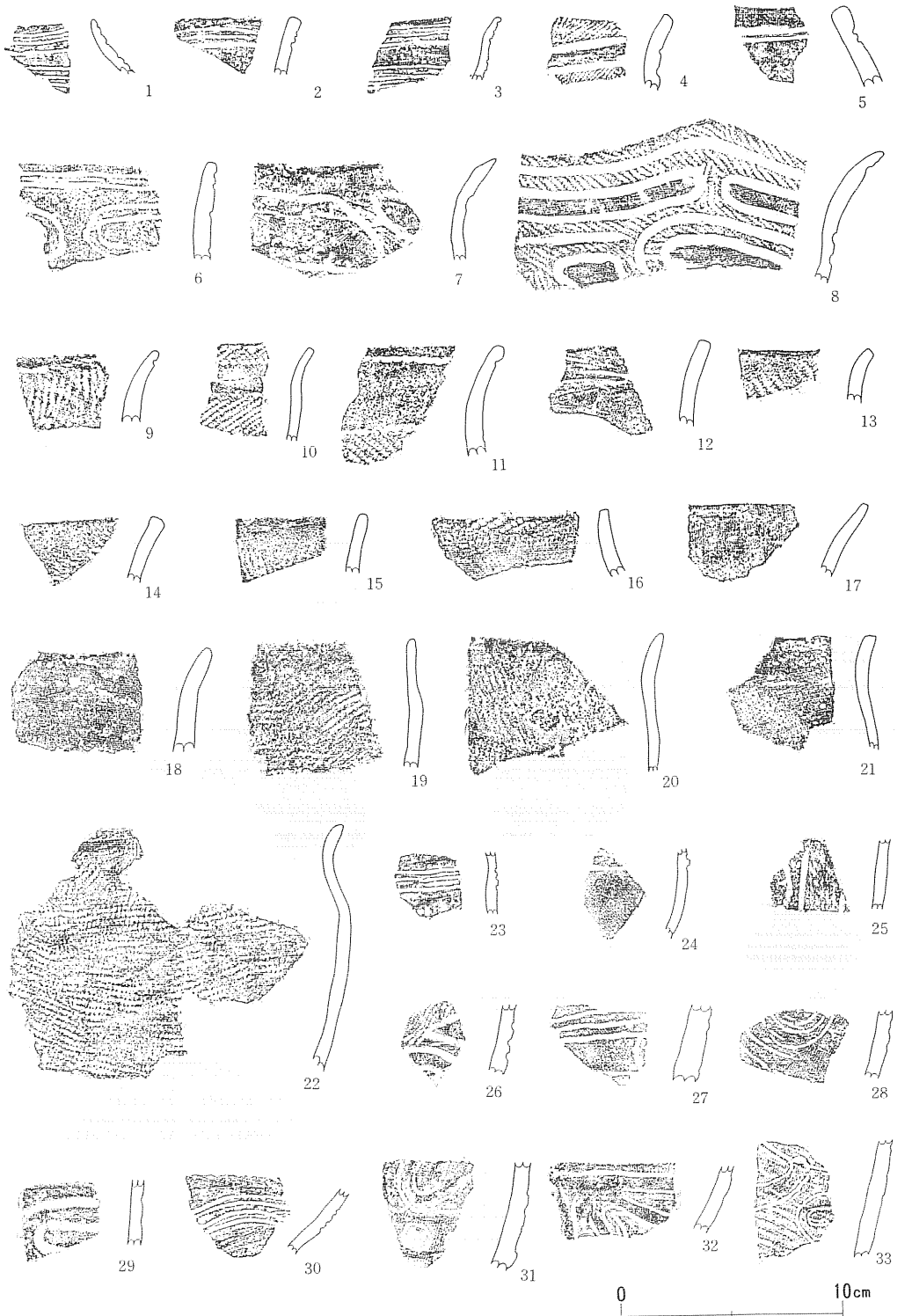




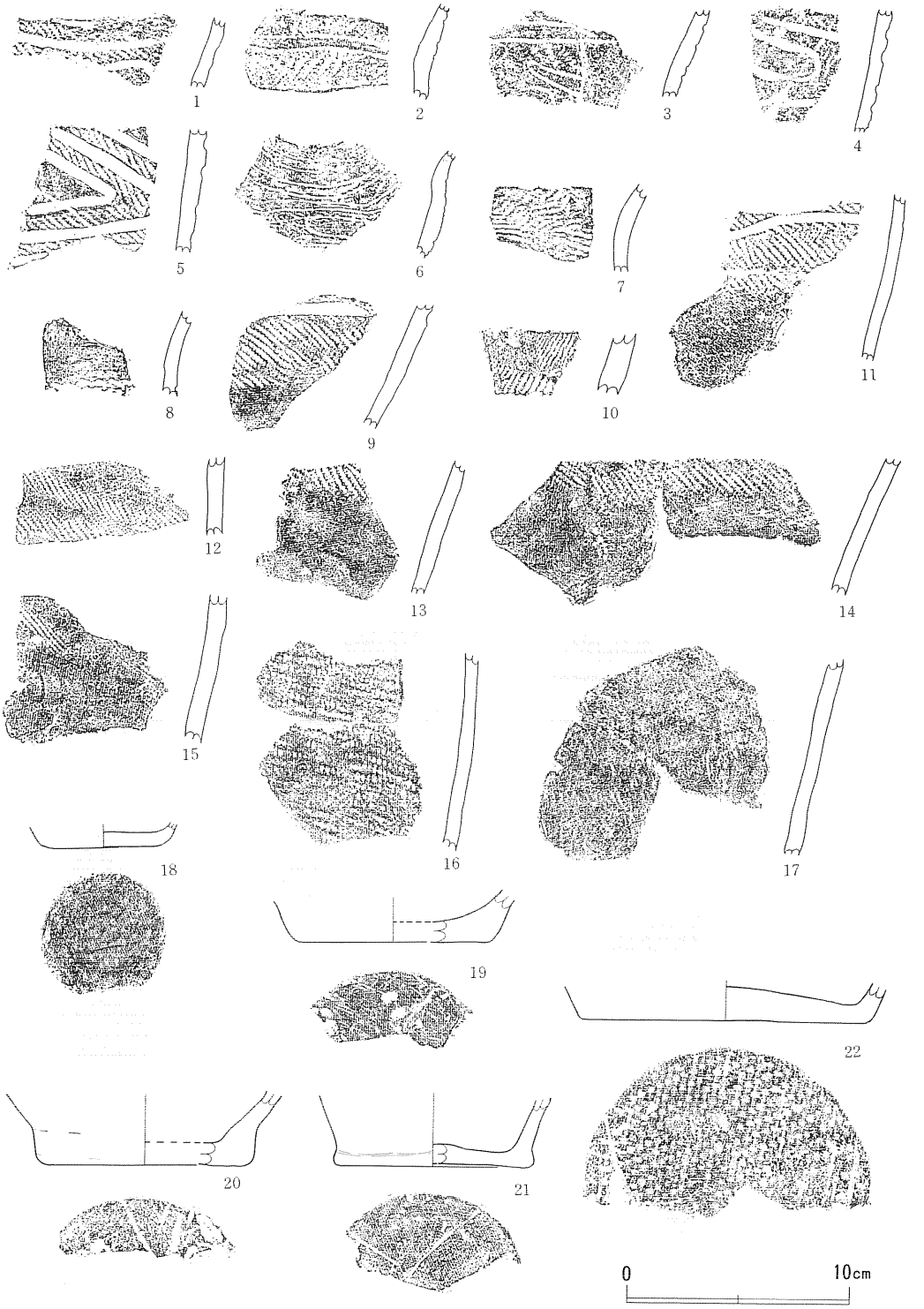




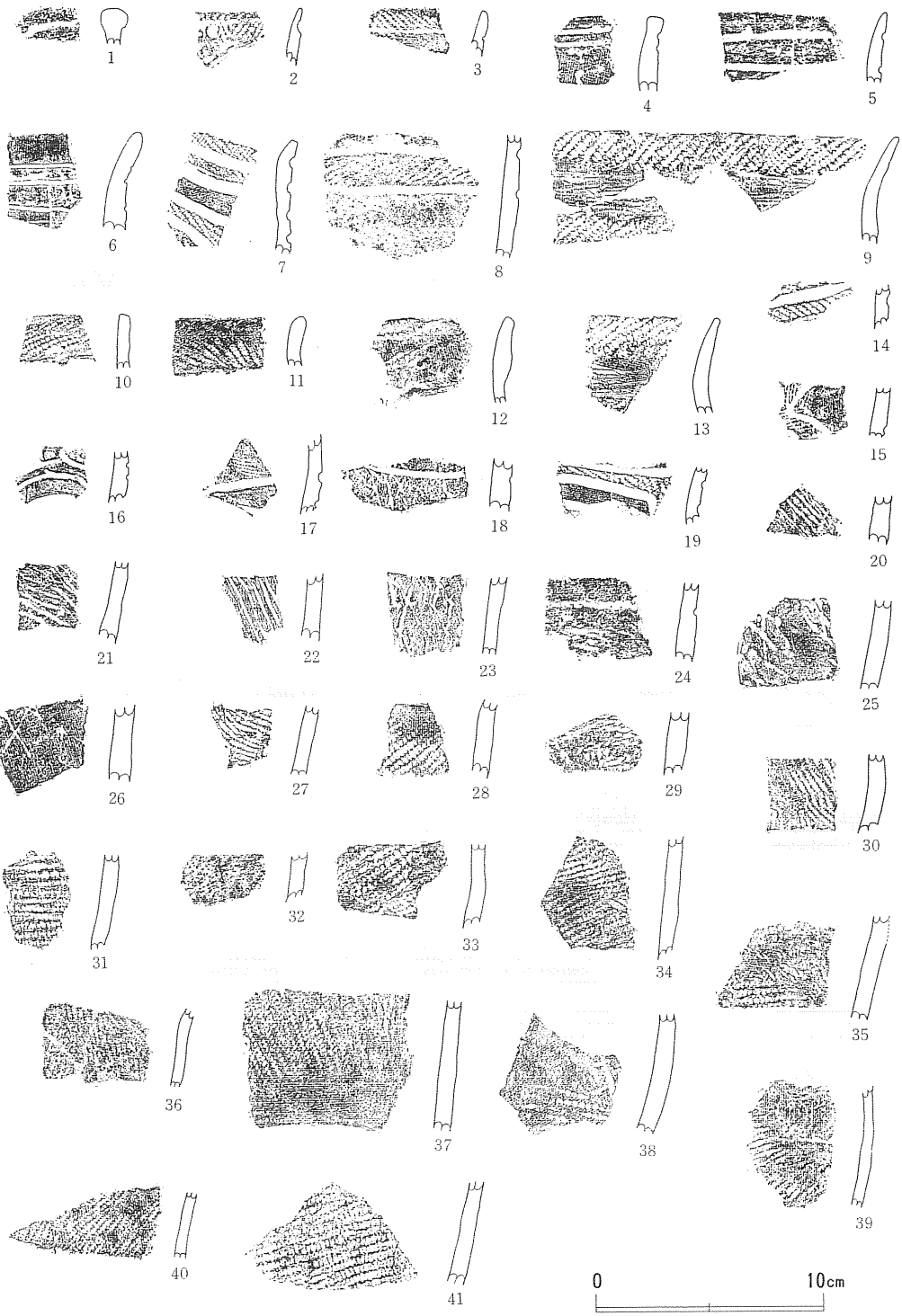
第78図　遺構内出土土器(6)



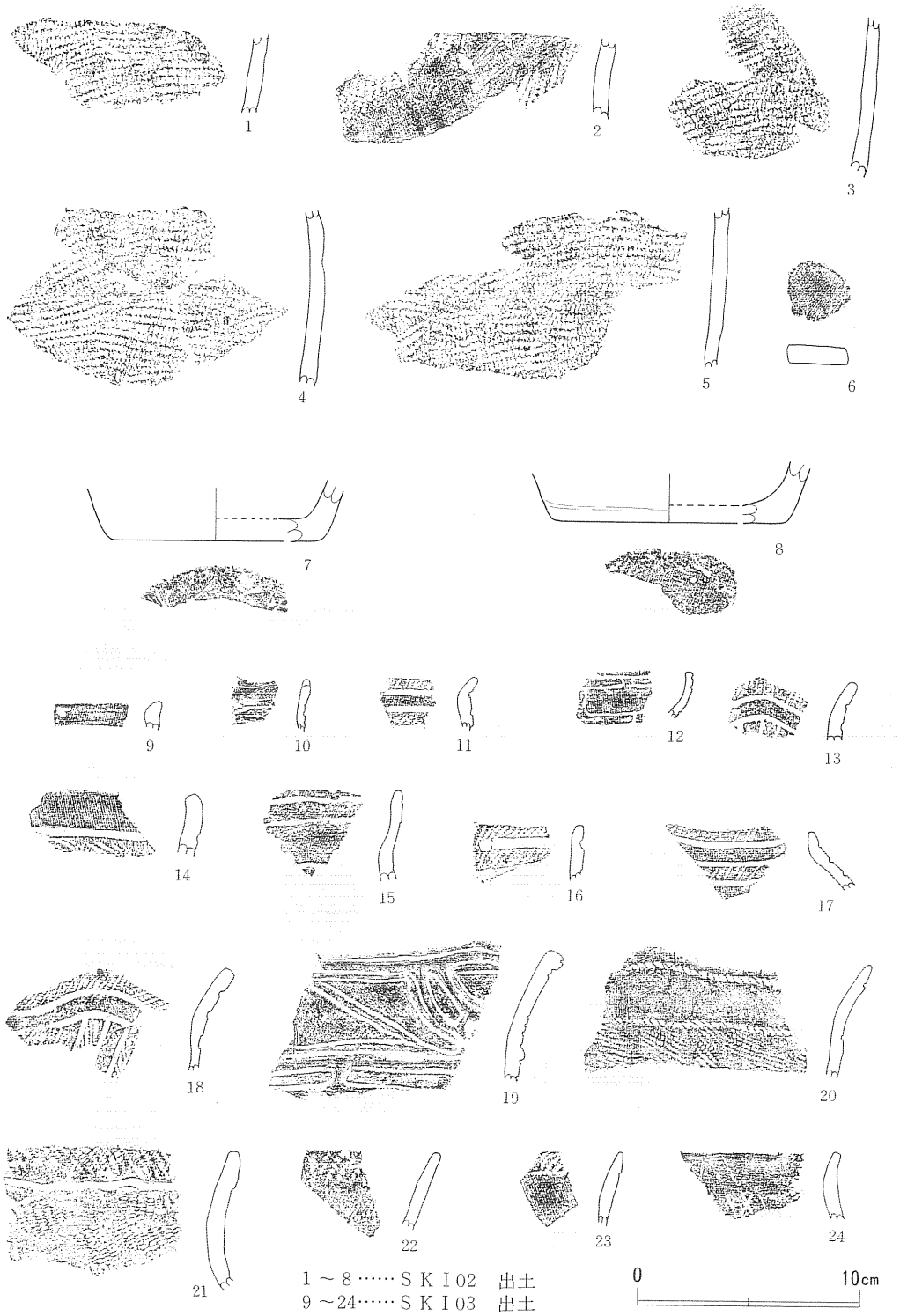
第79図　遺構内出土土器（7）—ＳＫＩ01



第80図　遺構内出土土器（８）―ＳＫＩ01

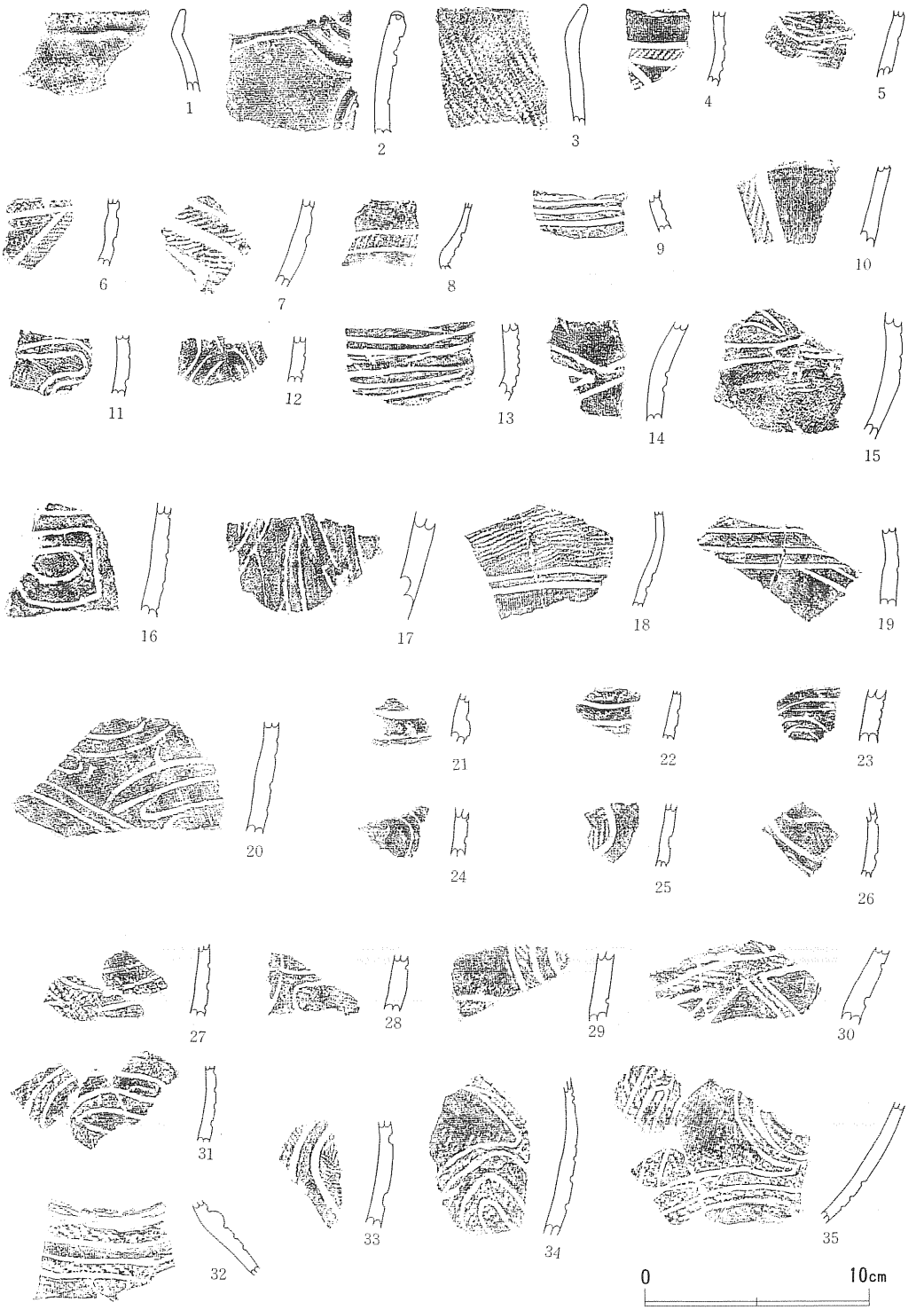


第81図　遺構内出土土器（9）—ＳＫＩ02

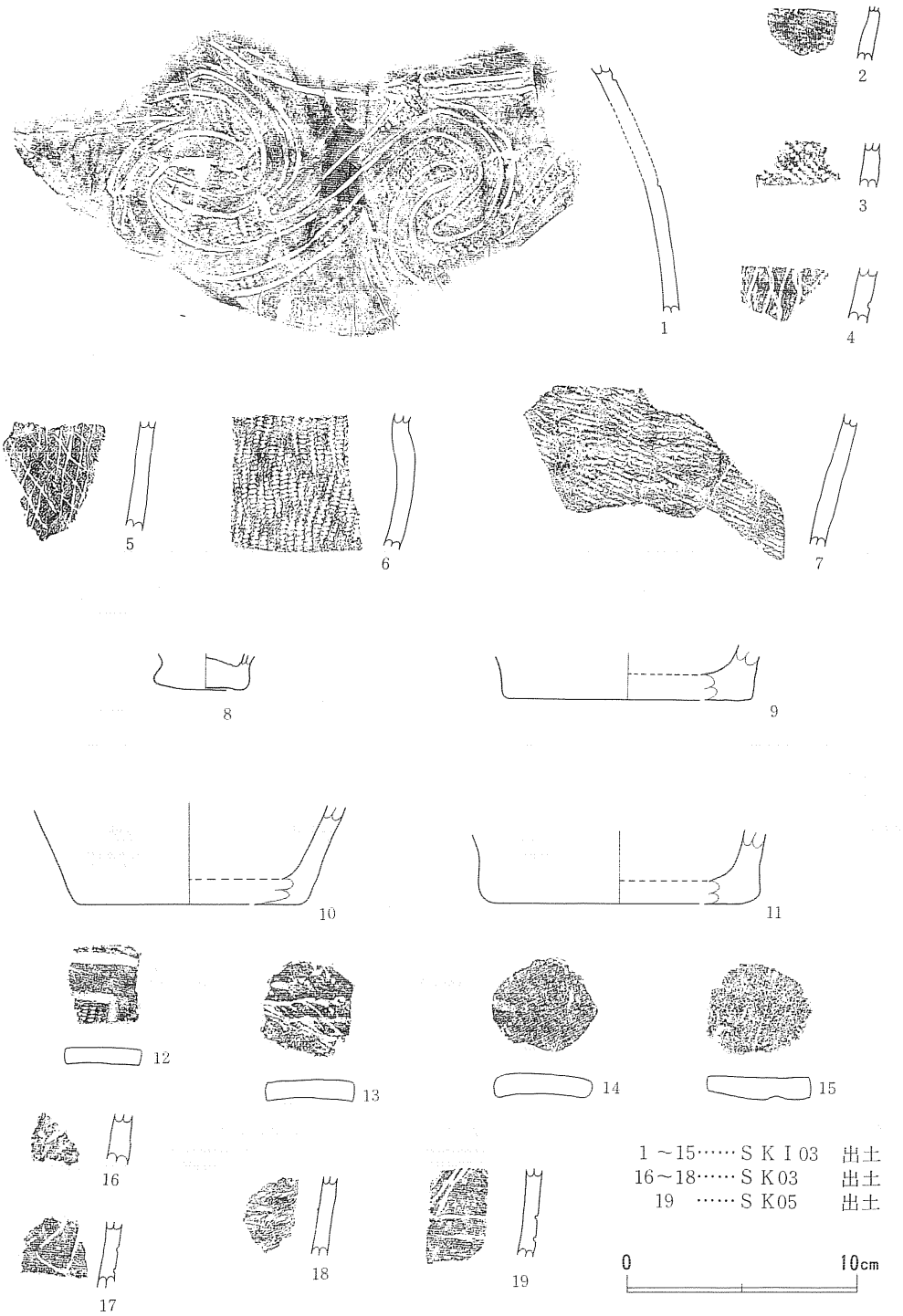


1～8……ＳＫＩ02　出土
9～24……ＳＫＩ03　出土

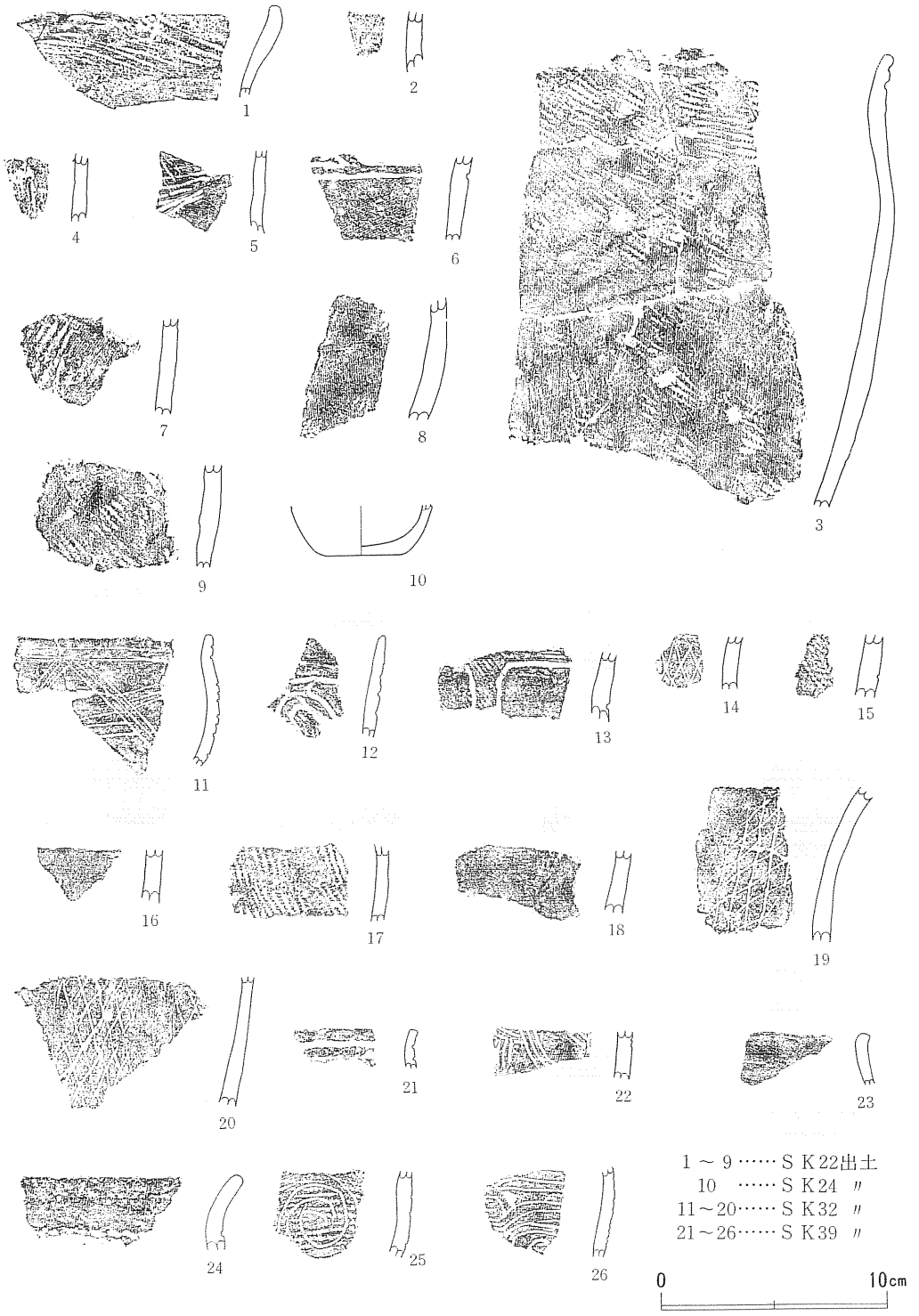
第82図　遺構内出土土器（10）



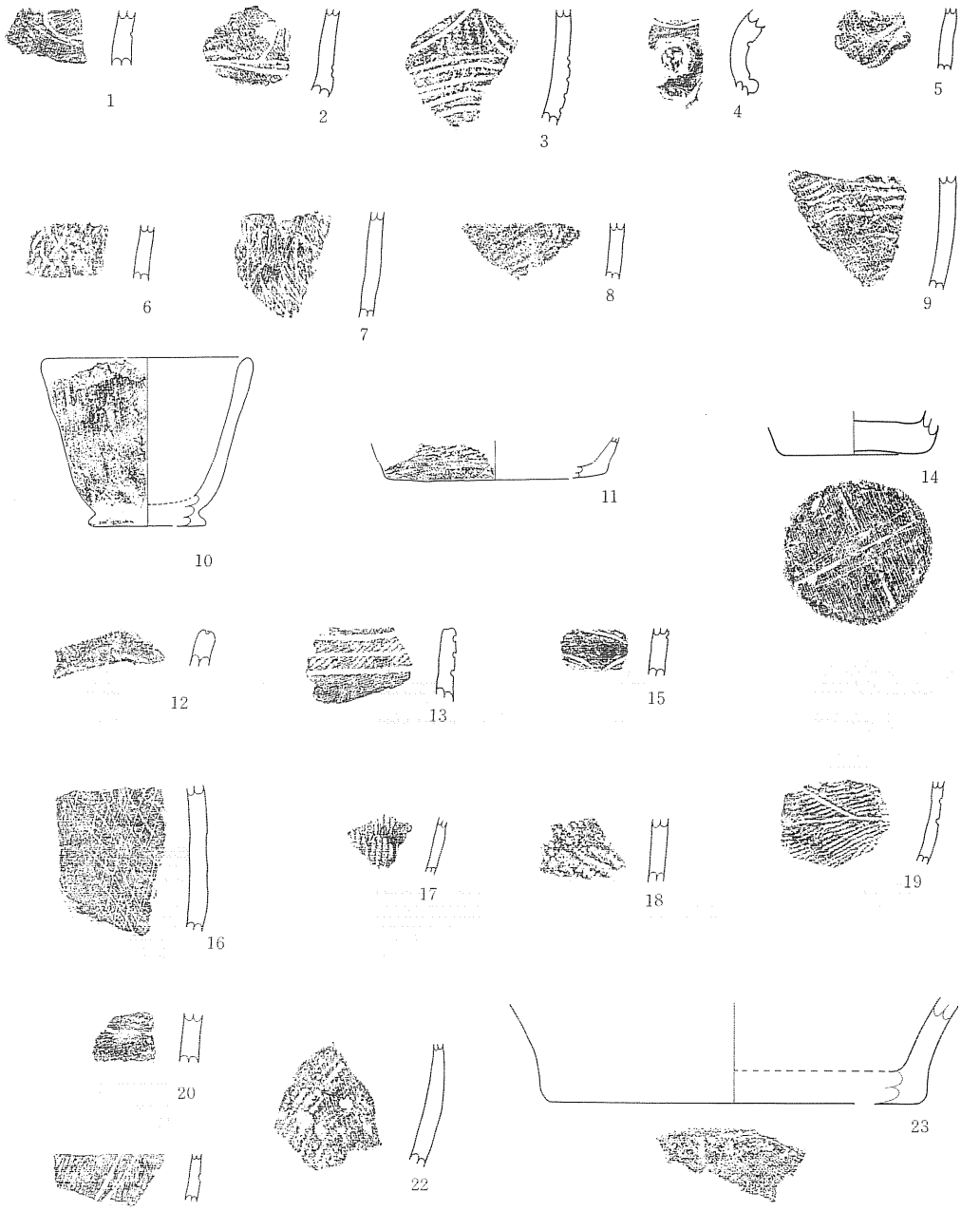
第83図　遺構内出土土器（11）—ＳＫＩ03



第84図　遺構内出土土器（12）



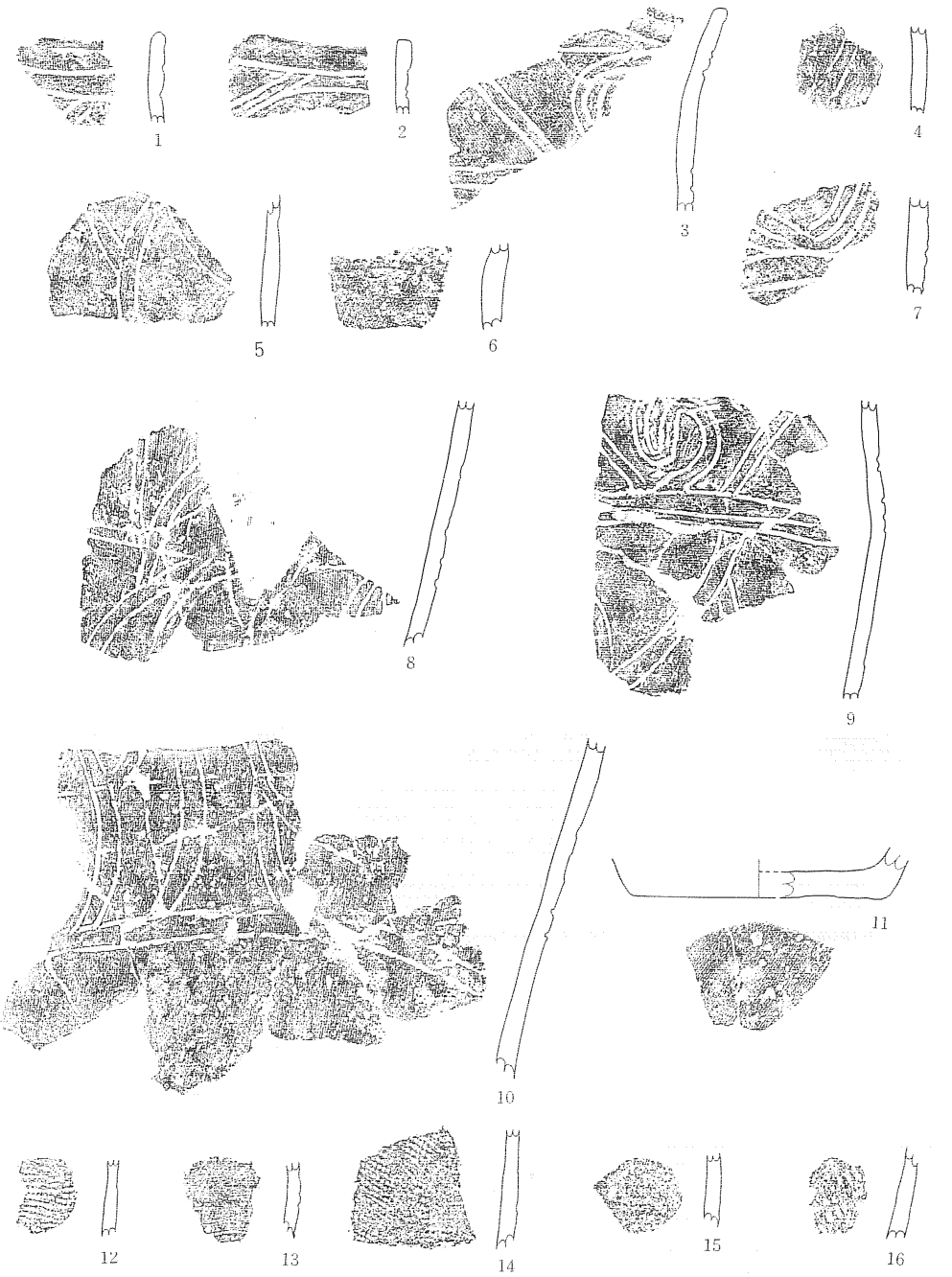
第85図　遺構内出土土器（13）



1～11……ＳＫ39出土
12，13……ＳＫ43　〃
14，15……ＳＫ45　〃
16　……ＳＫ48　〃
17～19……ＳＫ49　〃
20～23……ＳＫ53　〃
24　……ＳＫ55　〃

0　10cm

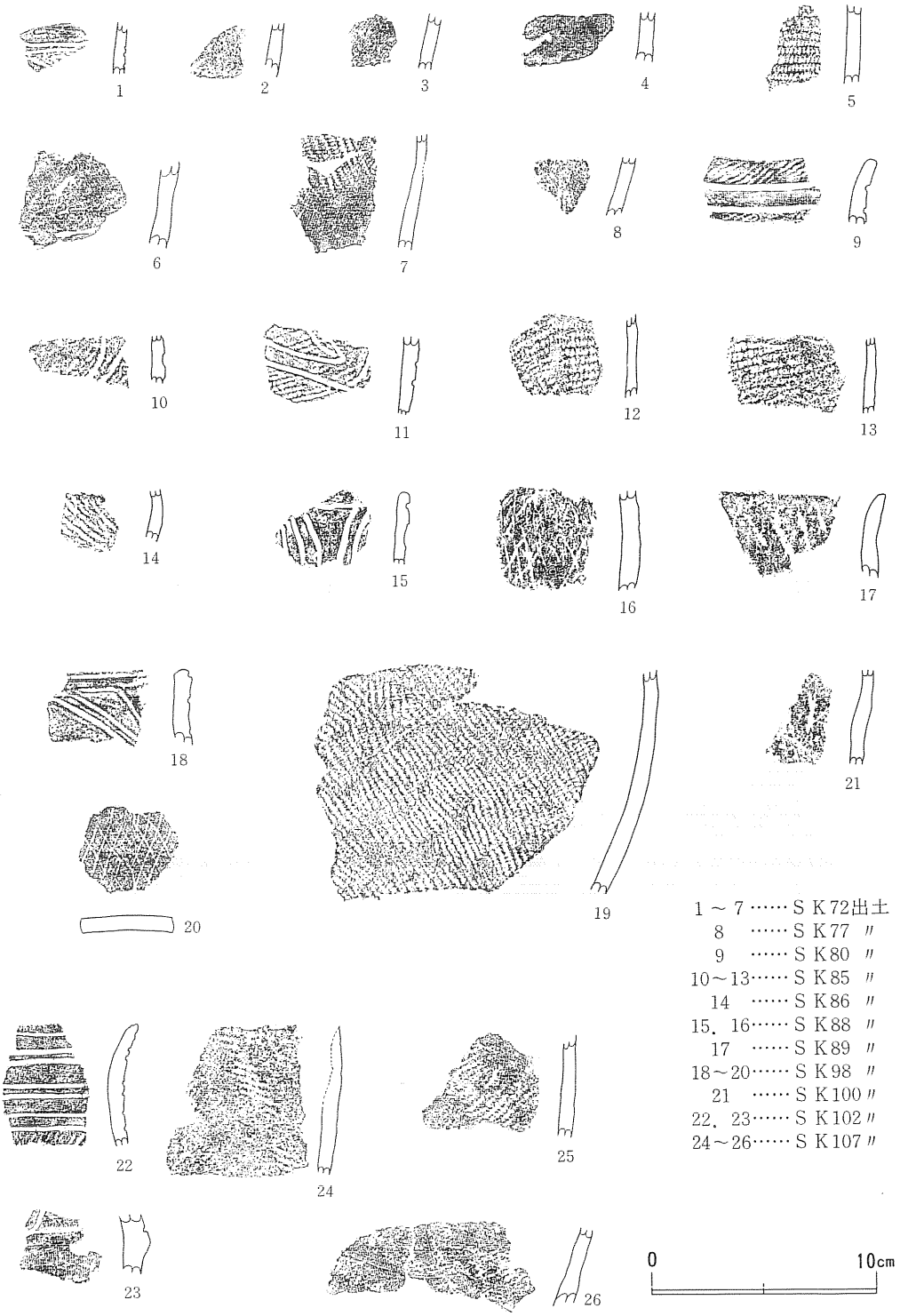
第86図　遺構内出土土器（14）



1～11……ＳＫ63出土
12～14……ＳＫ65　〃
15，16……ＳＫ71　〃

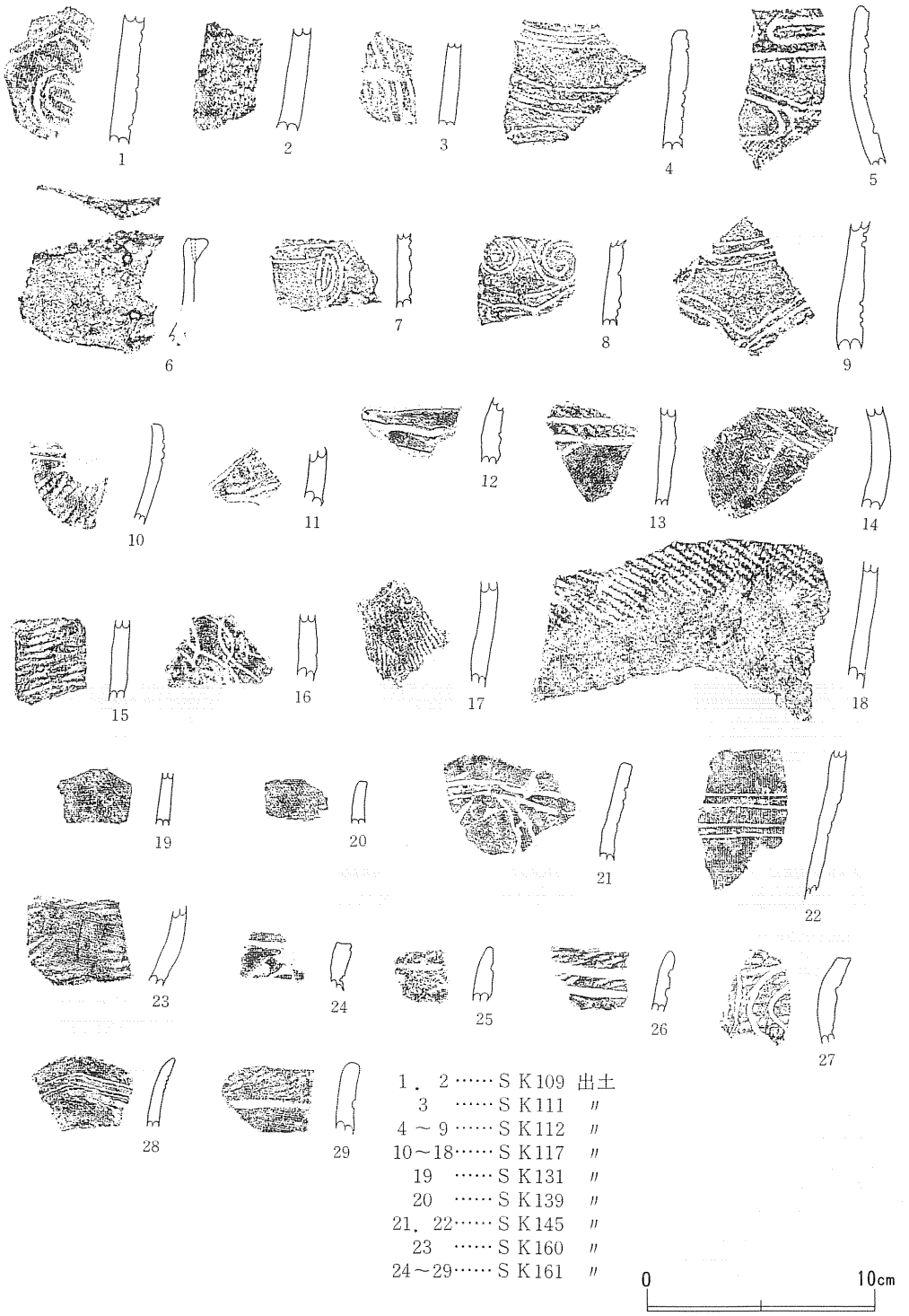
0　10cm

第87図　遺構内出土土器（15）

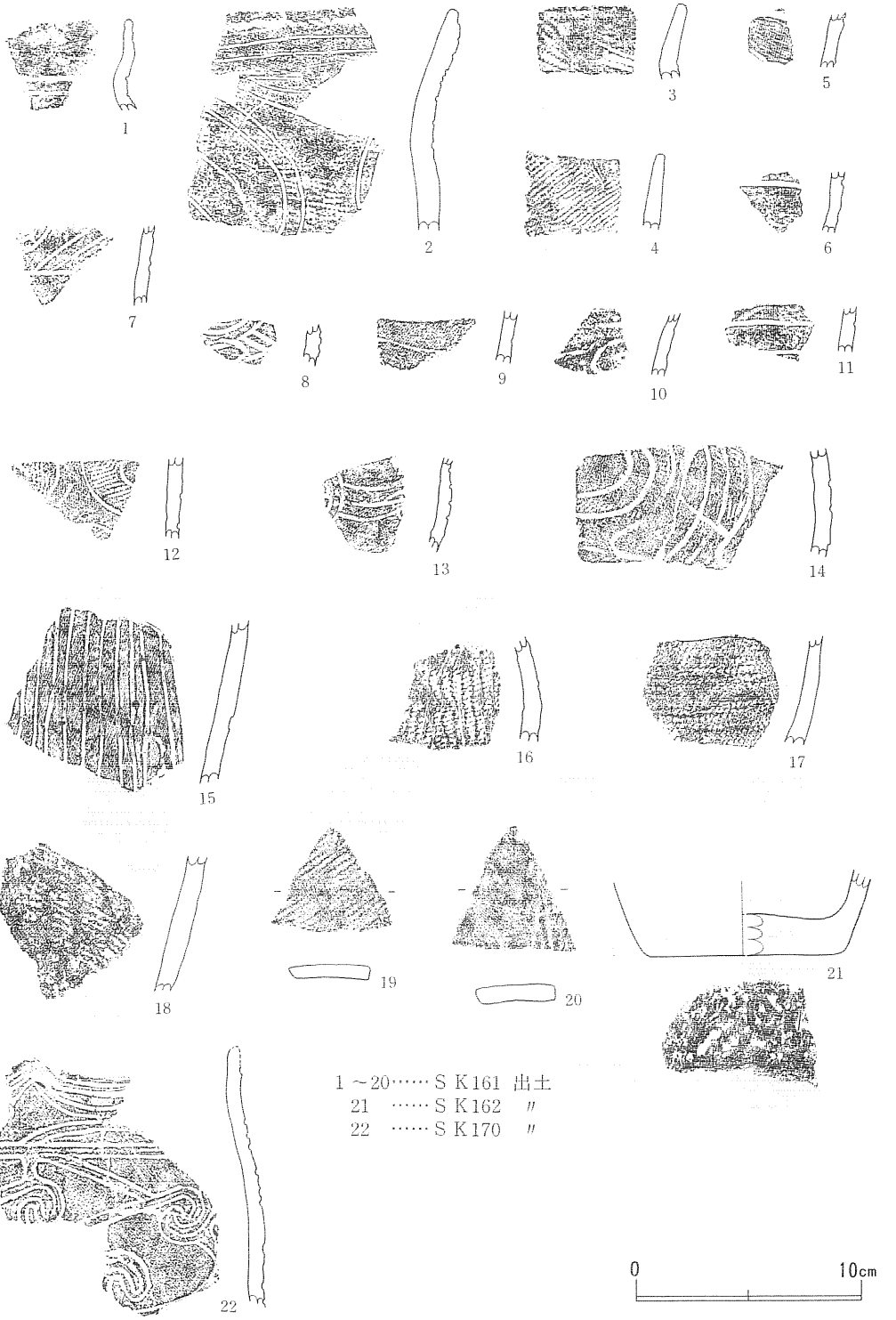


1～7……SK72出土
8　……SK77　〃
9　……SK80　〃
10～13……SK85　〃
14　……SK86　〃
15，16……SK88　〃
17　……SK89　〃
18～20……SK98　〃
21　……SK100　〃
22，23……SK102　〃
24～26……SK107　〃

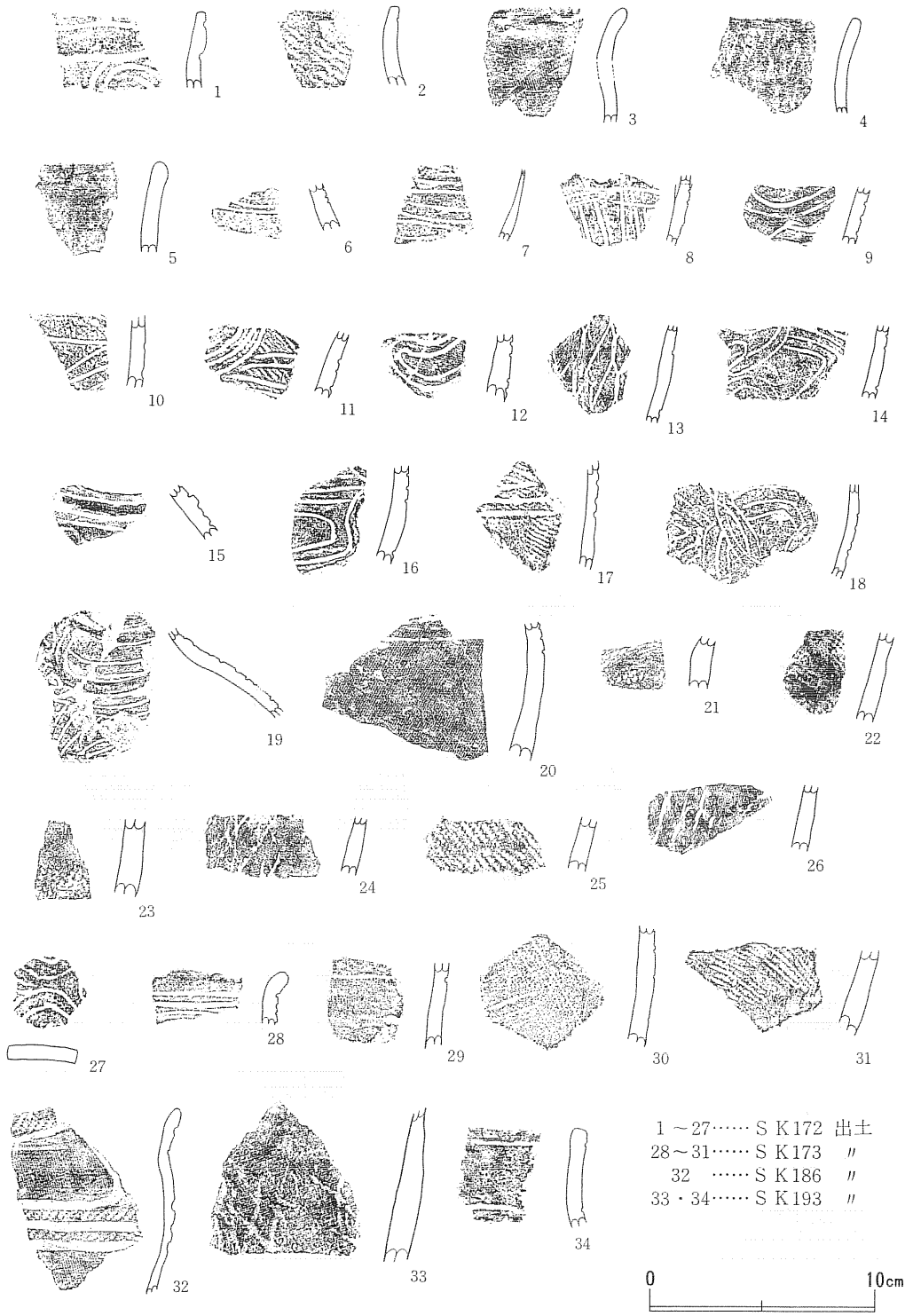
第88図　遺構内出土土器（16）



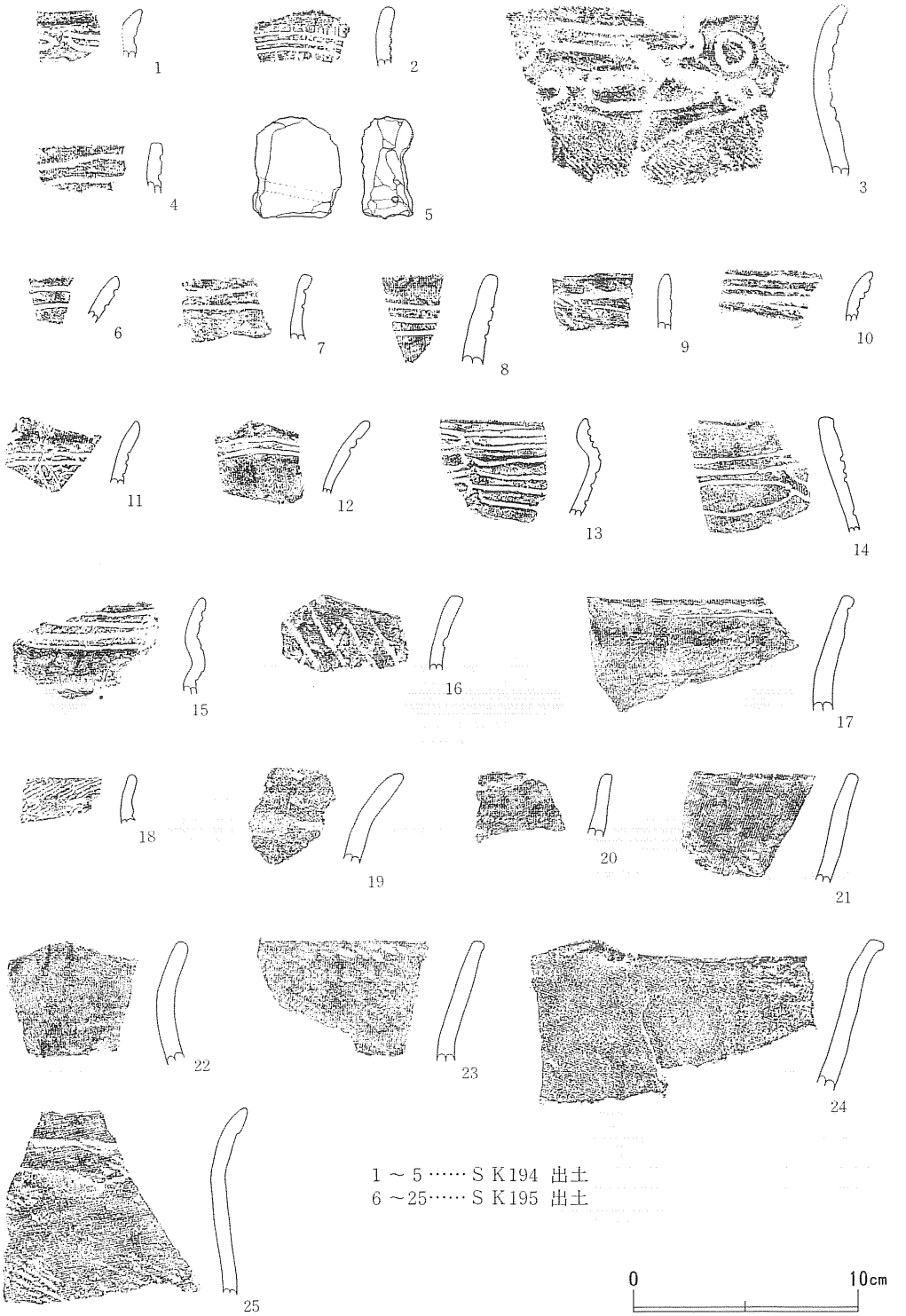
第89図　遺構内出土土器（17）



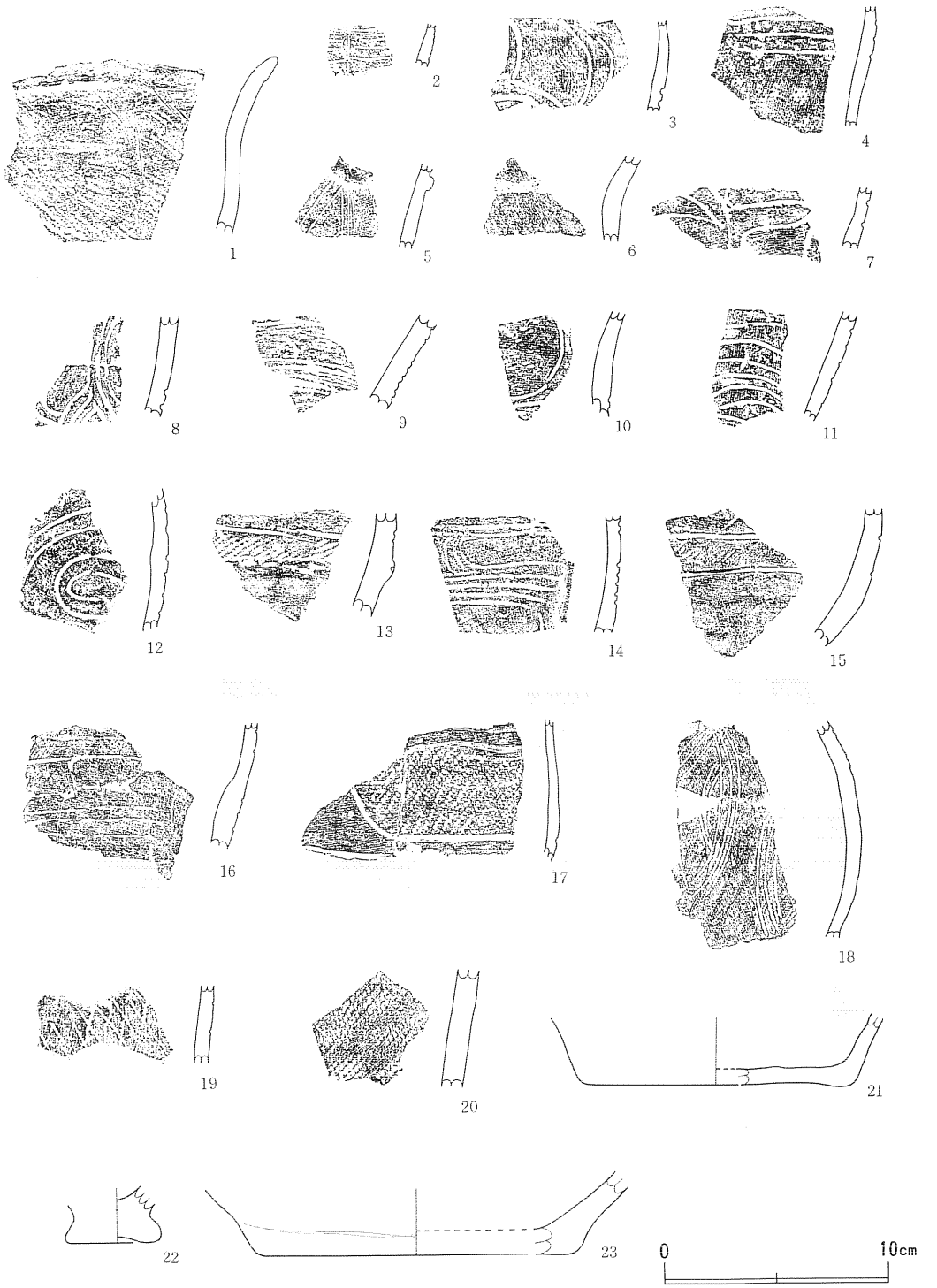
第90図　遺構内出土土器（18）



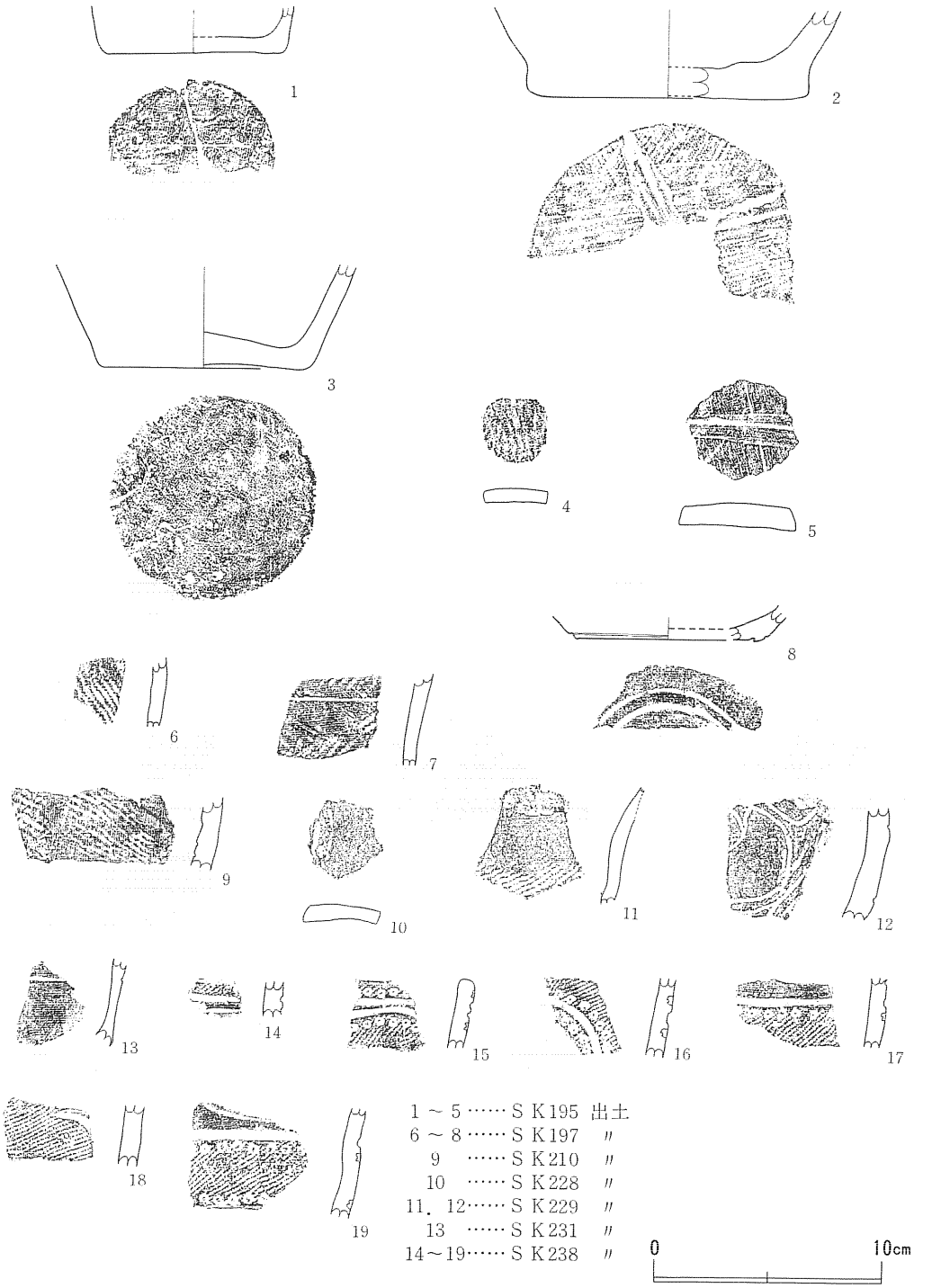
第91図　遺構内出土土器（19）



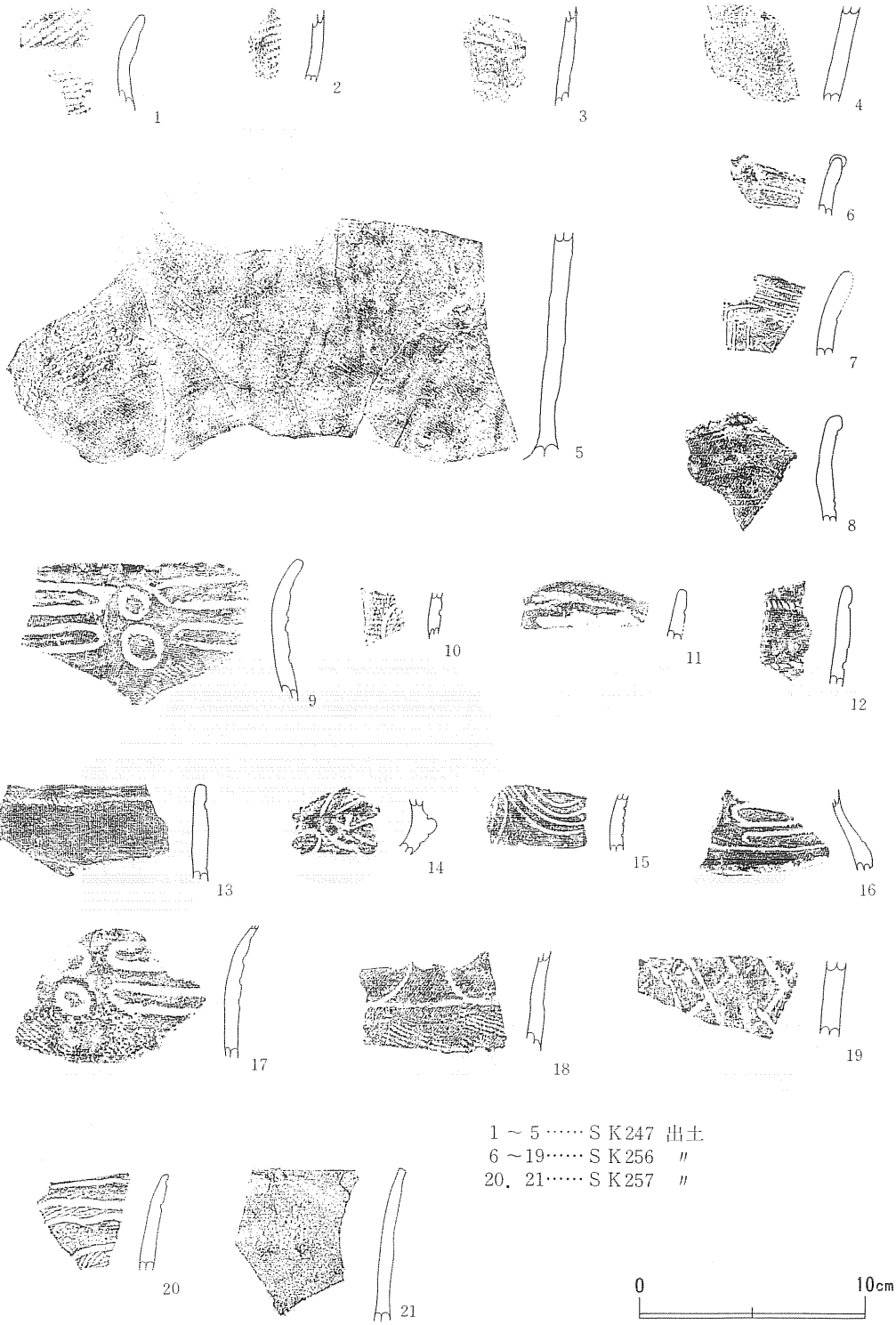
第92図　遺構内出土土器（20）



第93図　遺構内出土土器（21）—ＳＫ195

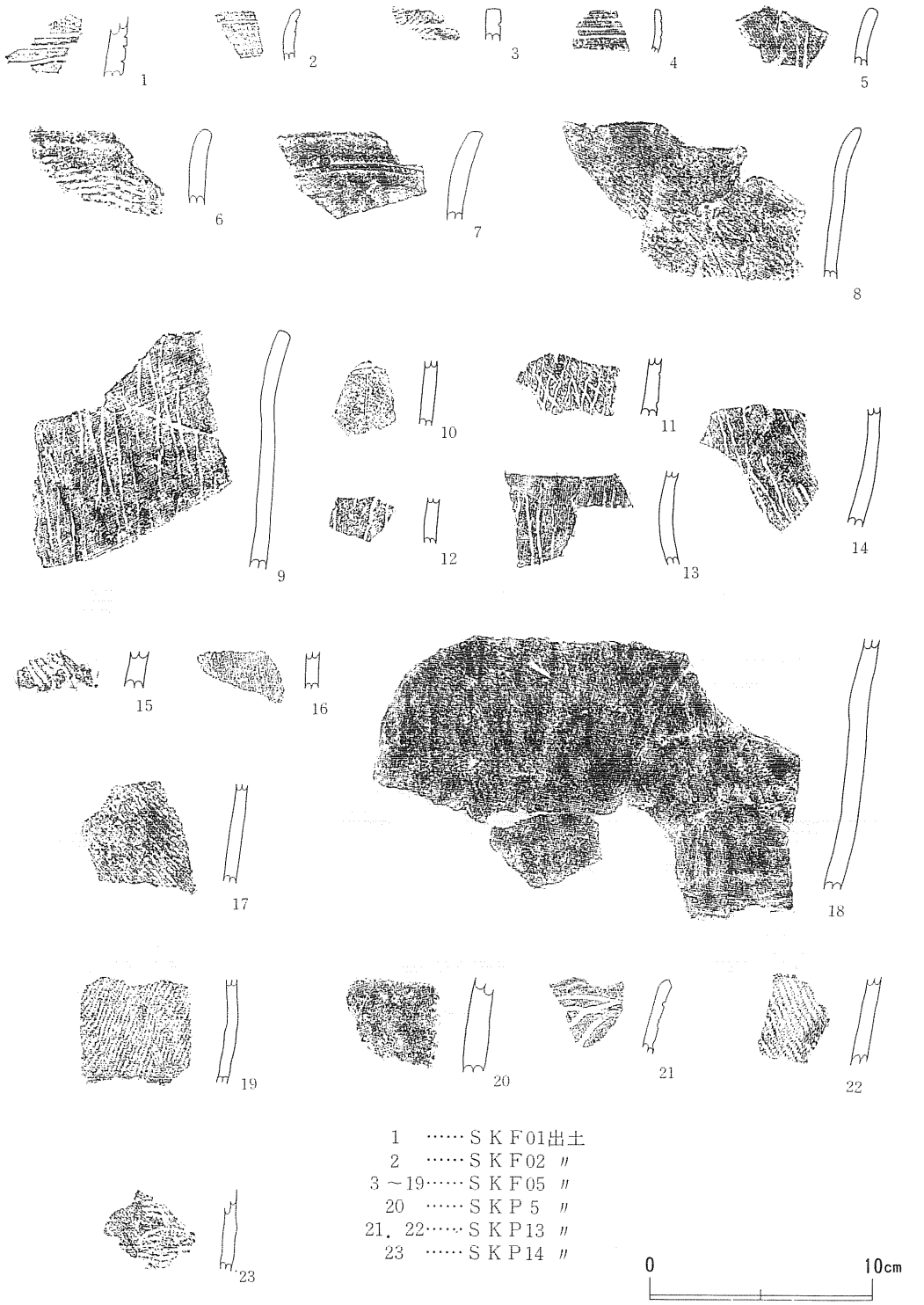


第94図　遺構内出土土器（22）



1 ～ 5 …… S K247　出土
6 ～19 …… S K256　〃
20．21 …… S K257　〃

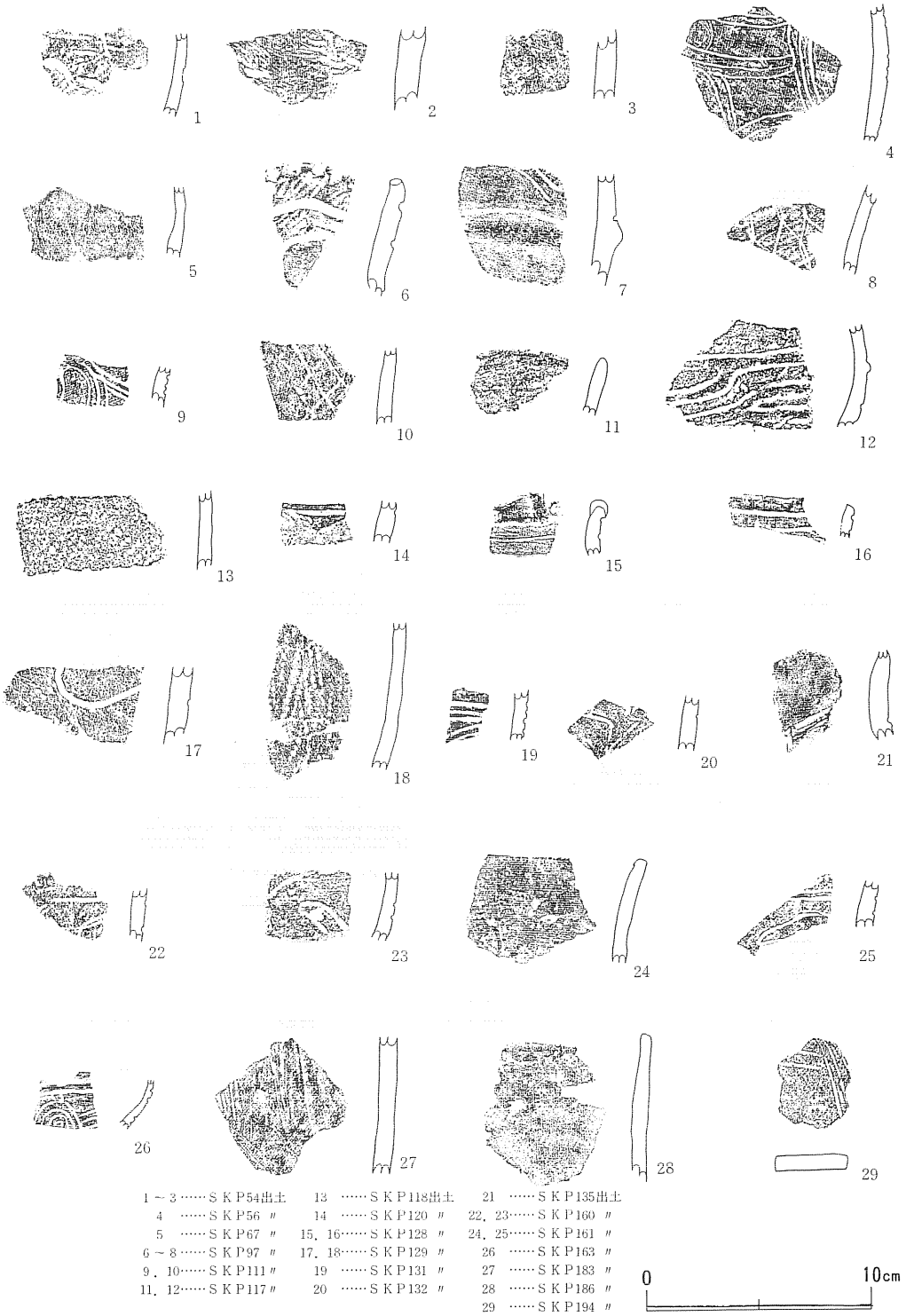
第95図　遺構内出土土器（23）



1　……ＳＫＦ01出土
2　……ＳＫＦ02　〃
3～19……ＳＫＦ05　〃
20　……ＳＫＰ5　〃
21．22……ＳＫＰ13　〃
23　……ＳＫＰ14　〃

0　10cm

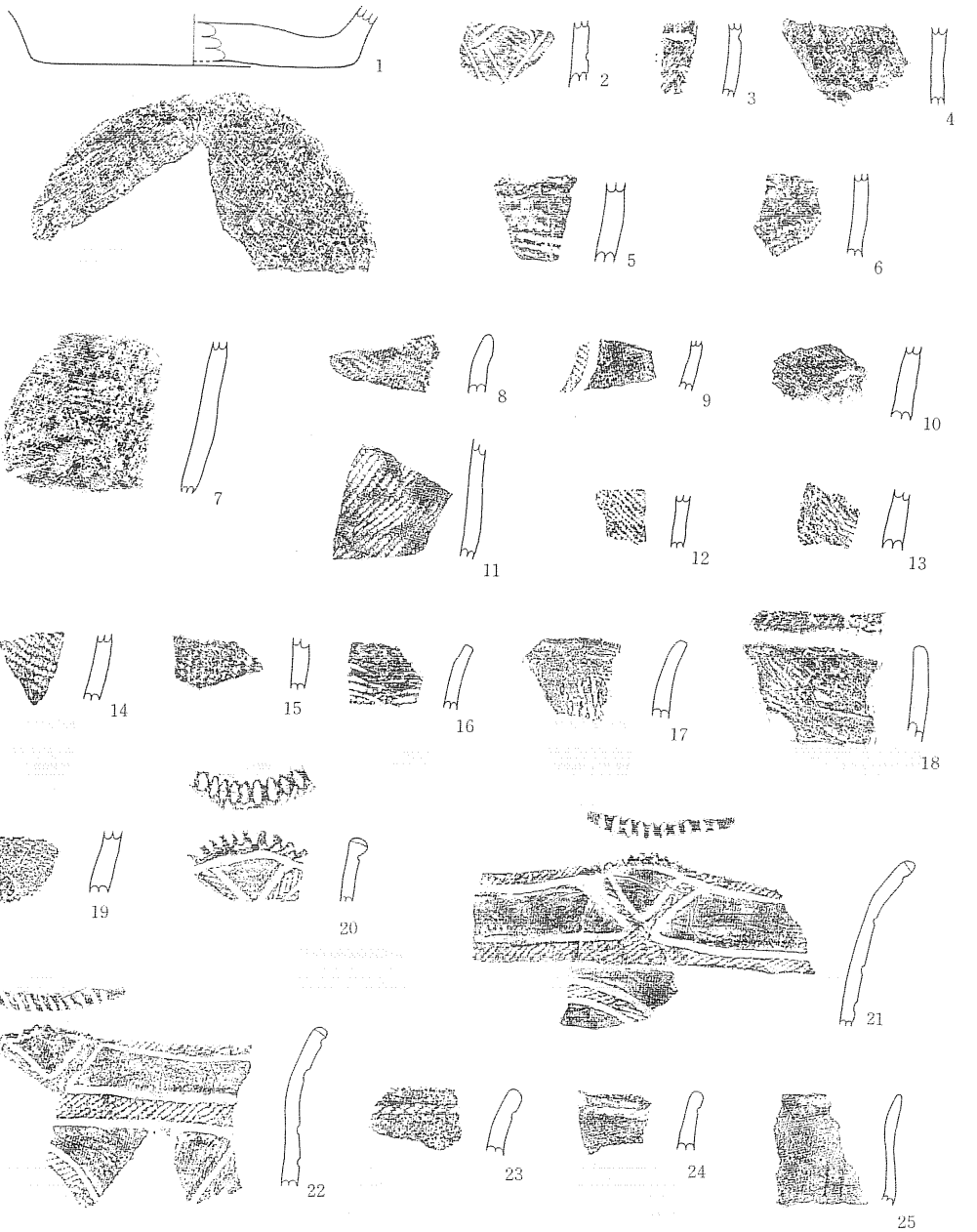
第96図　遺構内出土土器（24）



1～3……ＳＫＰ54出土　13　……ＳＫＰ118出土　21　……ＳＫＰ135出土
4　……ＳＫＰ56　〃　14　……ＳＫＰ120　〃　22，23……ＳＫＰ160　〃
5　……ＳＫＰ67　〃　15，16……ＳＫＰ128　〃　24，25……ＳＫＰ161　〃
6～8……ＳＫＰ97　〃　17，18……ＳＫＰ129　〃　26　……ＳＫＰ163　〃
9，10……ＳＫＰ111　〃　19　……ＳＫＰ131　〃　27　……ＳＫＰ183　〃
11，12……ＳＫＰ117　〃　20　……ＳＫＰ132　〃　28　……ＳＫＰ186　〃
29　……ＳＫＰ194　〃

0　10cm

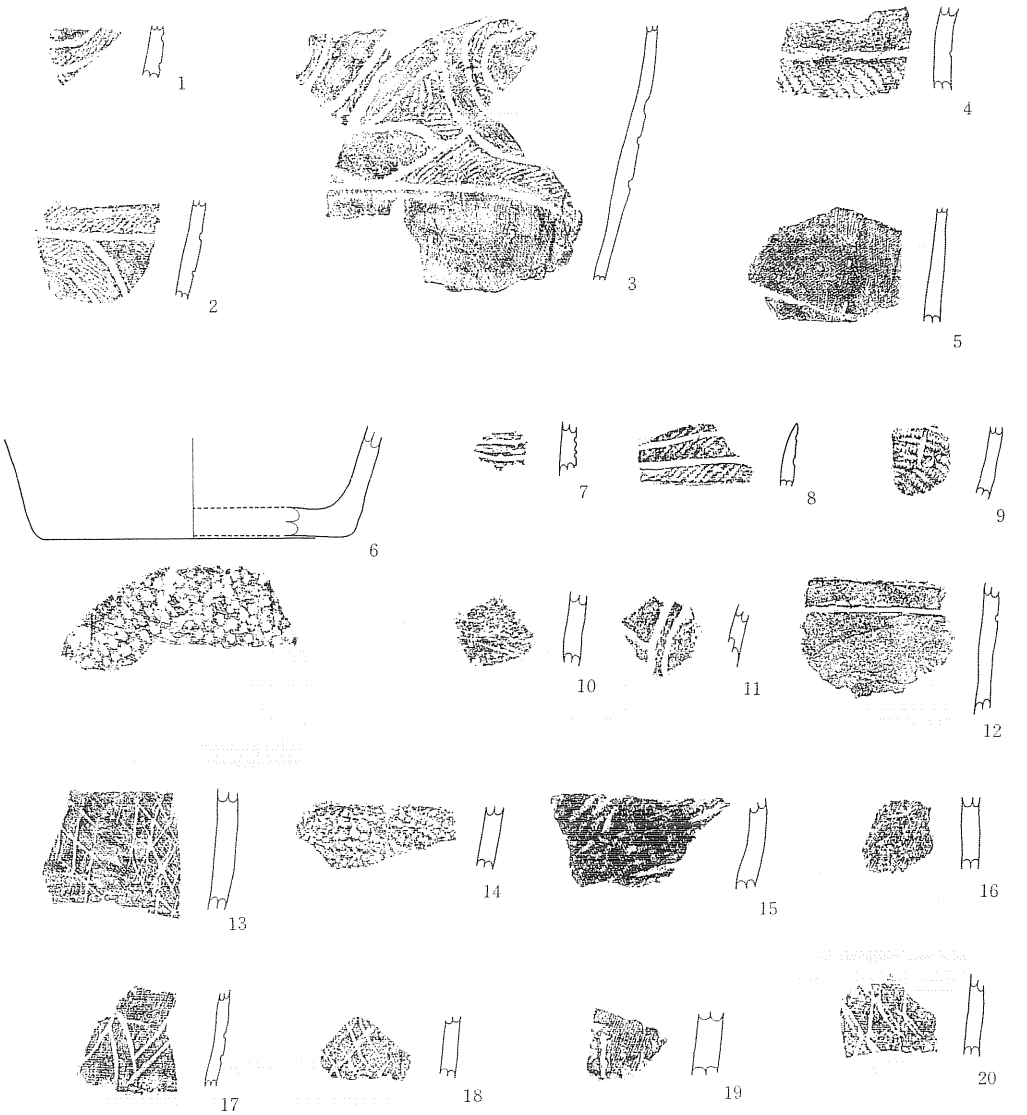
第97図　遺構内出土土器（25）



1　……ＳＫＰ168出土　　9・12……ＳＫＰ332出土
2　……ＳＫＰ230　〃　　10　……ＳＫＰ341　〃
3・4……ＳＫＰ263　〃　　13　……ＳＫＰ342　〃
5・6……ＳＫＰ264　〃　　14・15……ＳＫＰ350　〃
7　……ＳＫＰ278　〃　　16　……ＳＫＰ352　〃
8・11……ＳＫＰ288　〃　　17～19……ＳＫＰ361　〃
20～25……ＳＫＰ373　〃

0　10cm

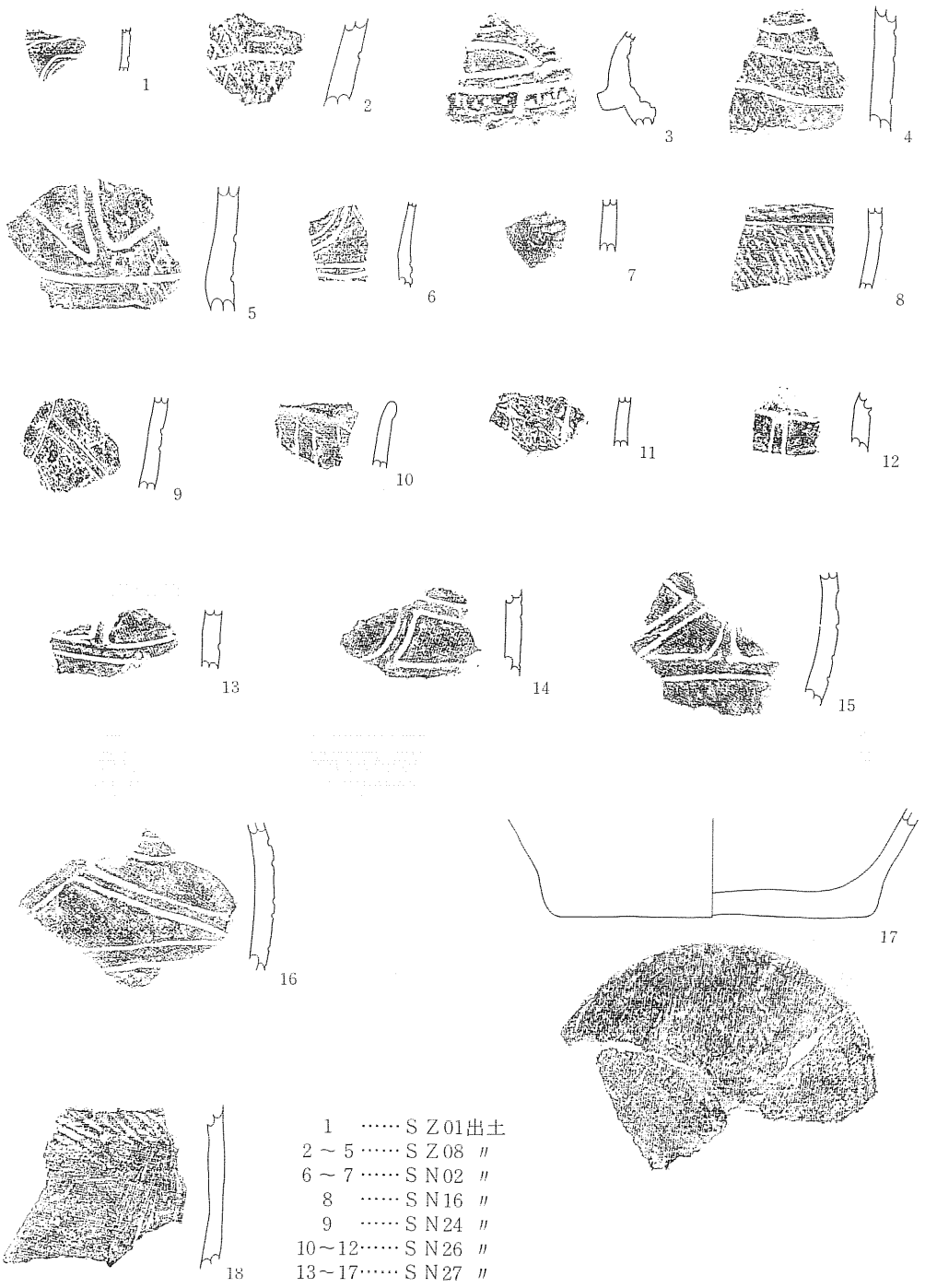
第98図　遺構内出土土器（26）



1 ～ 6 ……ＳＫＰ373出土
7 ……ＳＫＰ374 〃
8 ～10……ＳＫＰ380 〃
11・12……ＳＫＰ381 〃
13 ……ＳＫＰ385 〃
14 ……ＳＫＰ388出土
15 ……ＳＫＰ396 〃
16 ……ＳＫＰ397 〃
17 ……ＳＫＰ399 〃
18・19……ＳＫＰ400 〃
20 ……ＳＫＰ418 〃

0　10cm

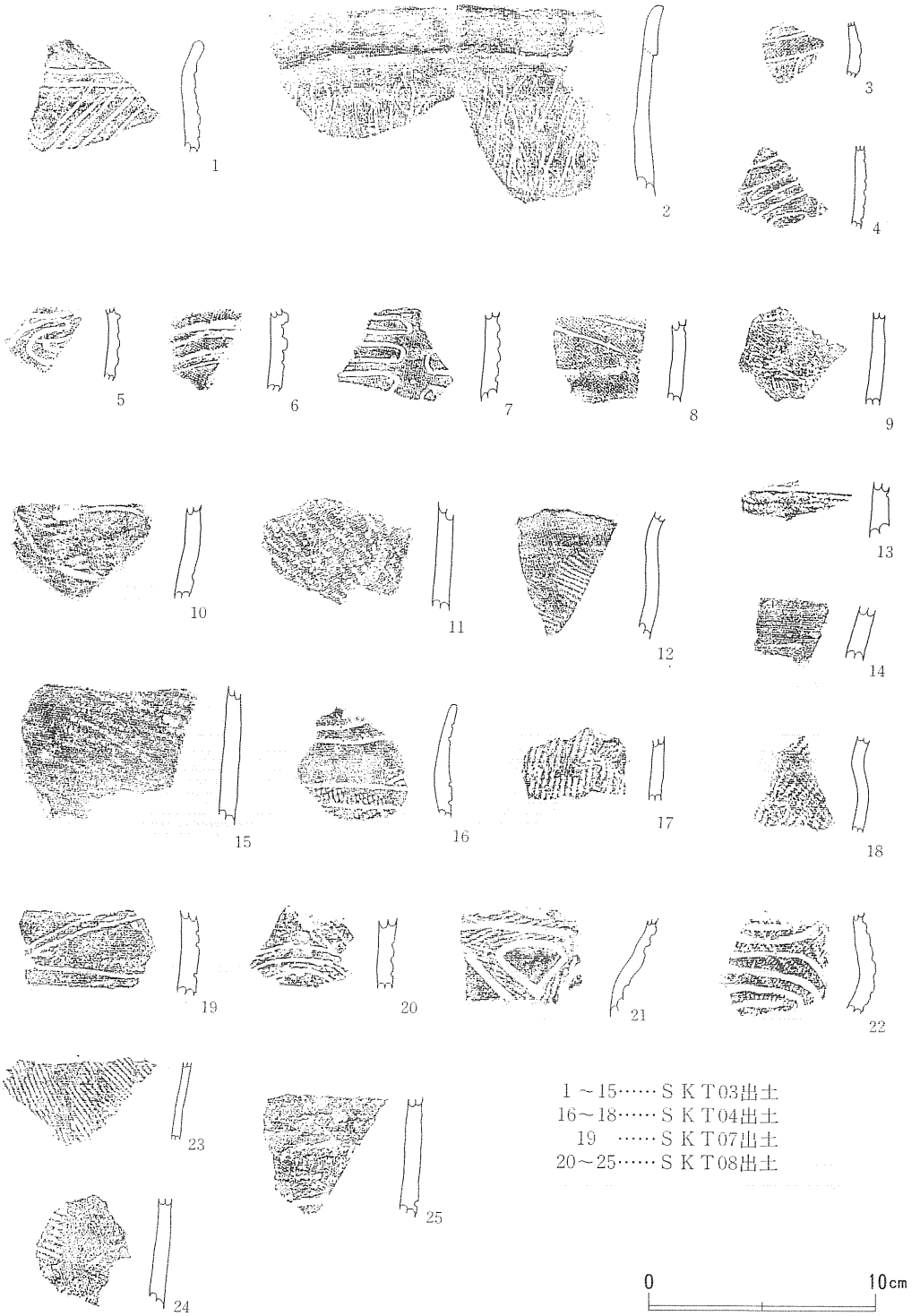
第99図　遺構内出土土器（27）



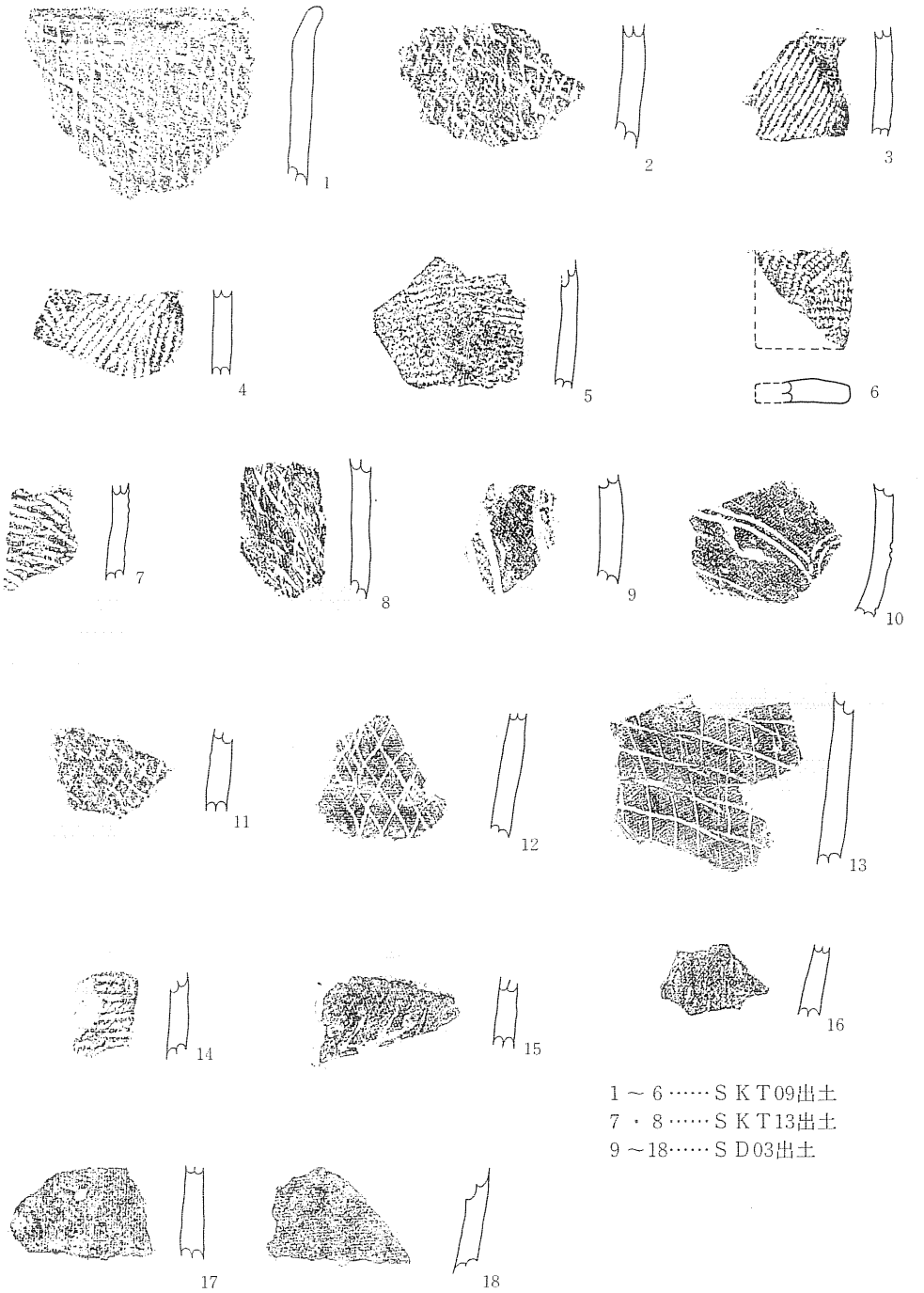
1　……ＳＺ01出土
2～5……ＳＺ08　〃
6～7……ＳＮ02　〃
8　……ＳＮ16　〃
9　……ＳＮ24　〃
10～12……ＳＮ26　〃
13～17……ＳＮ27　〃
18　……ＳＮ28　〃

0　10cm

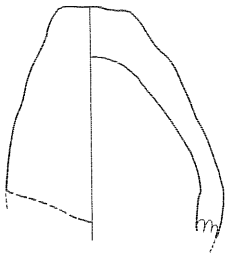
第100図　遺構内出土土器（28）



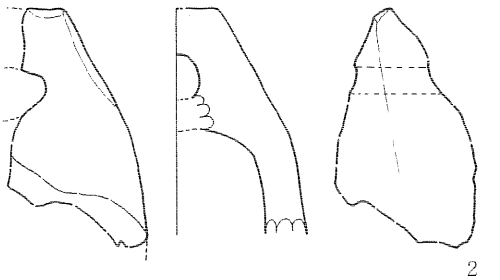
第101図　遺構内出土土器（29）



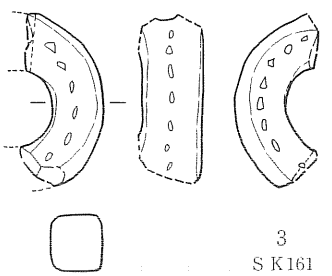
第102図　遺構内出土土器（30）



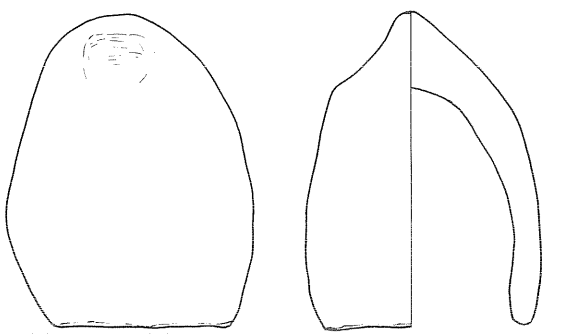
1
S K37



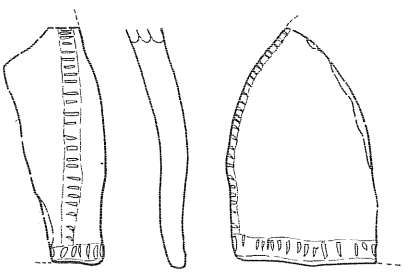
2
S K118



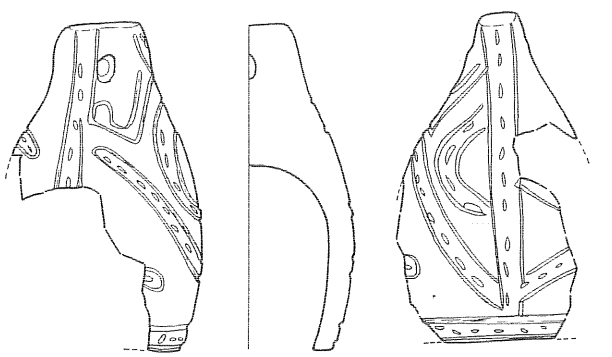
3
S K161



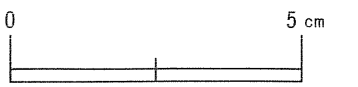
4
S K161



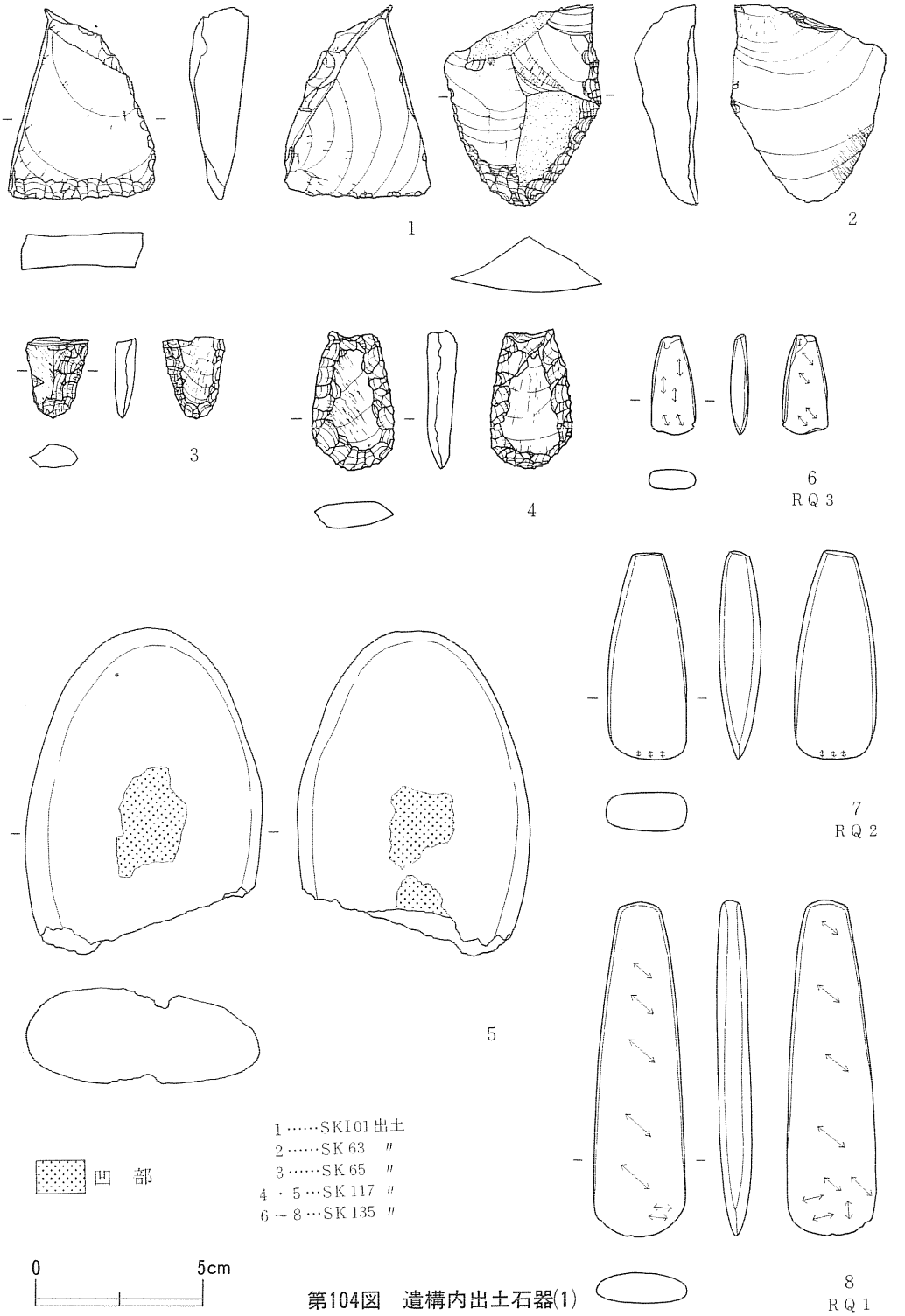
5
S K195



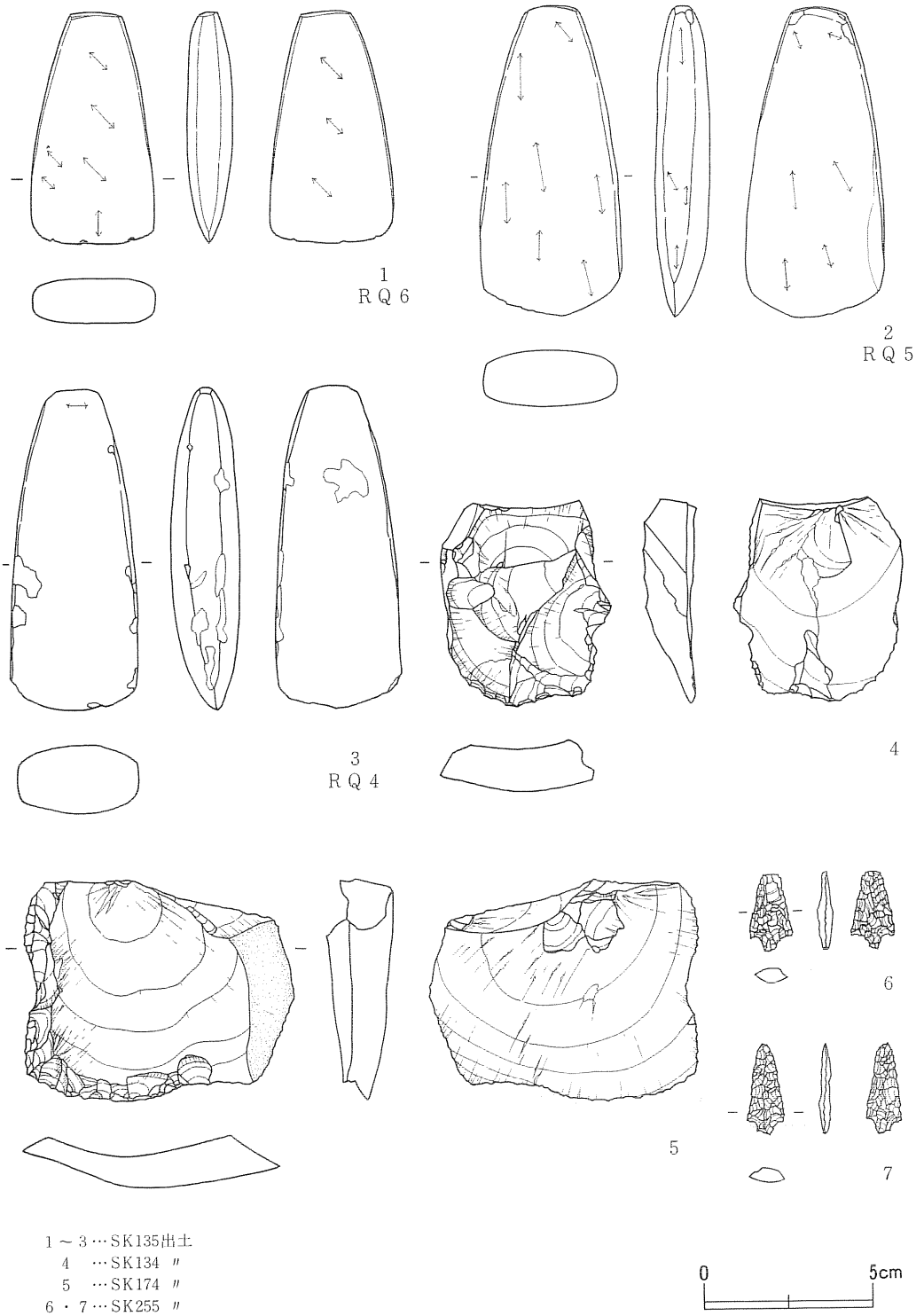
6
S K P186



第103図　遺構内出土土製品

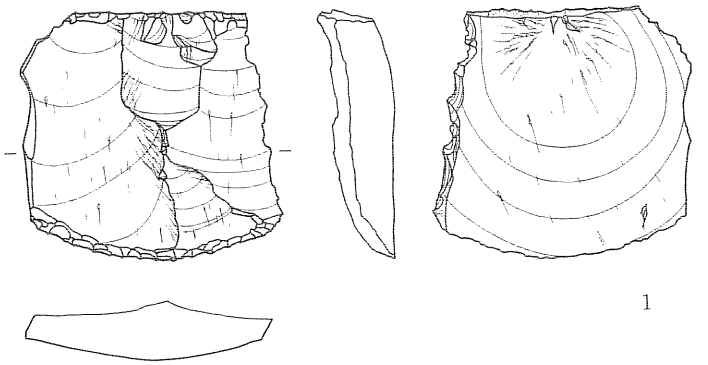


第104図　遺構内出土石器(1)

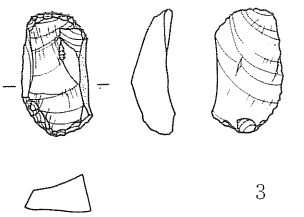


1～3…SK135出土
4　…SK134　〃
5　…SK174　〃
6・7…SK255　〃

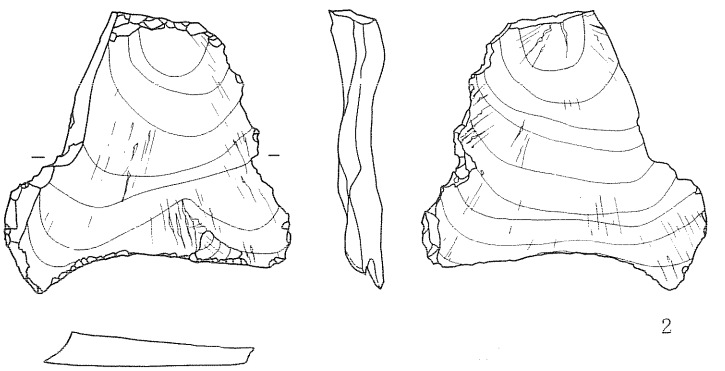
第105図　遺構内出土石器(2)



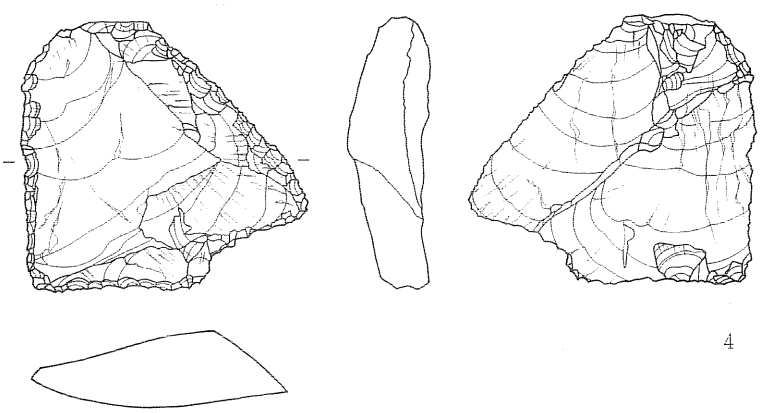
1



3

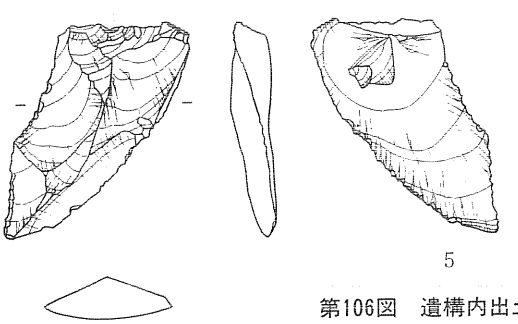


2



4

1……SKP54 出土
2……SKP92　〃
3……SKP163　〃
4・5…SD03　〃



5

0　5cm

第106図　遺構内出土石器(3)

複しており、土層断面A—Bから本遺構がSK210土坑を切っていることがわかる。埋土は2層に分層された。遺物は図化できなかったが、縄文土器片2点とフレーク4点が出土した。

第2節　遺構外出土遺物

1、土器·土製品

①土器(第107～129図、図版44～55)

縄文時代前期·後期·晩期·弥生時代後期、平安時代の土器が出土している。このうち主体をなすのは、縄文時代後期前葉の土器である。第149図は、その分布をグリッドごとに表したものである。

第Ⅰ群　縄文時代前期の土器(第118図1～4)

口縁部資料2点、胴部資料2点の合計である。1、2は撚紐原体側面圧痕が口縁部に施されたものである。3は、地文にLRの縄文を施し、粘土紐を縦位に貼り付けている。4は、深鉢形土器の胴部から底部にかけての資料で、右撚りの縄を撚り合わせた原体で文様を施している。

第Ⅱ群　縄文時代後期の土器

1類　隆線文、隆沈文の土器(第107図、第118図5～16、第119図1～8、124図1)

第107図1～3は、口縁部文様帯に隆線と沈線、胴部文様帯に沈線が施される。隆線の両脇には沈線が併走する。1の胴部文様は、波頂部に対応して縦位の沈線が引かれ、それをはさむように弧線が描かれる。その後にLRの縄文が部分的に施文される。文様帯下端は、低い隆線により区画されるが、区画はあいまいで隆線は水平ではない。法量は口径19.7cm、底径9.3cm、器高36.6cmである。焼成は良好で、色調は浅黄橙色(10YR8/4)である。2の口縁部文様帯は2段となり、胴部文様は「K」字状の沈線文が連続する。口径は26.7cmである。3の隆線上にはLR縄文が施され、波頂部口唇には垂直に近い方向に穿孔がなされ、そこから口唇上に沈線が引かれる。第118図9は深鉢形土器の口縁部であるが、内面にも沈線が施される。第118図15·第119図3～5には隆沈文が認められる。

2類　地文上に沈線文が施文される土器(第109図1、第119図9～15、第120図1～4、第124図2)

第109図1は、口縁部に小さい突起がつけられ、地文にLR縄文を施した後、細い沈線で弧線や渦文、楕円文が描かれる。渦文と楕円文は、突起に対応するように割り付けられている。文様帯は、胴部中ごろで区画される。第119図9·10は深鉢形土器と思われ、同一個体である。LRの縄文地文に横位の沈線と円文が描かれる。第120図3·4は、細く浅い沈線により曲線が

描かれる。焼成は良好で、色調は橙色（５ＹＲ6/6）を呈する。同一個体の可能性がある。

３類　沈線文の土器（第108図２・３、第109図２～４、第110図、第114図２・４～７、第116図、第120図５～12、第121図、第122図、第123図１・２・４）

第108図２と３は、第107図１の胴部文様が２段に構成されて沈線で描かれるものである。２は、口径22.3cm、底部12.4cm、器高29cm。焼成は良好で、色調はにぶい黄橙色（10ＹＲ7/4）を呈する。底部は中央部がきれいに破損しており、粘土の継ぎ目がこの部分にあることが推定される。３は、花弁状に開くやや特徴的な器形の深鉢である。文様帯下端が最後に区画されるため、割り付けられた文様に左右され、水平とならない。口径は、30.8cmである。第110図１は、口縁部破片で推定口径は31.8cmである。内面器面の剥落がみられる。焼成は良好で、灰白色（10ＹＲ8/2）を呈する。第120図５～10、第121図１には口縁部に無文帯が設けられる。５には、ボタン状の付文が認められ、第120図６・８、第121図１の口唇部には垂直方向の穿孔がなされている。第120図６と第121図１とは同一個体であろう。第120図11･12には粘土紐の貼り付けが認められ、その下に無文部が設けられると推定される。第121図４～９は、曲線文や弧線が描かれる。８は渦文になるかもしれない。第122図３～６は、施文が他の土器にくらべ丁寧で焼成も良い。３と６は同一個体であろう。第114図４～７は壺形土器である。５の口縁は４単位の波状を呈し、口唇部に粘土の貼り付けが認められる。口縁部には、波頂部に対応して貫通孔があけられている。胴部上半に入組文が施される。焼成は良好で、色調はにぶい黄橙色（10ＹＲ7/2）を呈する。第116図１は、横位の２条１組の沈線が併走し、その間に弧線と渦文の組合せが施文される。また口縁部と推定される内側に屈曲した部分にも、２条１組の沈線が施される。器形は不明である。第116図２は、壺形土器を胴部上部で切断したものである。短い頸部の下に長円文、胴部には円文と直線によって文様が描かれている。外面と頸部内面に朱が塗彩されている。

４類　磨消縄文の土器（第108図１、第109図２、第114図３、第115図１・２、第123図３・５～15、第124図３・４）

第108図１は、複合口縁で小さな突起を有する。突起の下に円文が施され、その横に交差し合う沈線が数条描かれる。地文のＬＲ縄文を磨消し無文部を設けるが、沈線間の地文は残されるため帯状となる。文様帯下端を区画する意識が乏しい。第114図３は、台付きの浅鉢形土器で、胎土に砂粒が含まれる。第115図１・２は壺形土器で、胴部上半に文様帯をもつ。第123図７は円文が施されている。第123図10･12の波状口縁の頂部には、鉛直方向に穿孔が認められる。第123図５･14は、太い沈線が引かれ円形の刺突が施される。第124図３は、突起の頂部に刺突が行われる。焼成は良好で、非常に堅緻な感じを受ける。第124図４は、大型の深鉢形土器である。地文の縄文は細かく、コンパス文が施される。焼成は良好で、色調はにぶい黄橙色

(10ＹＲ6/3)を呈する。

5類　粗製の土器である。(第111図、第112図、第113図、第114図1、第124図5～12、第125図、第126図)

第111図１～４、第112図１、第124図５～12、第125図の土器は、撚糸文を施した土器である。そのうち第111図１・２、第125図５～12･14･16･17、第126図１は、撚糸原体の側面圧痕が口縁部に施される。第111図５～９、第112図２～６、第113図、第126図９～21は、地文のみのものまたは無文のものである。第111図５は、波状を呈する複合口縁をもつ。第112図５、第113図２・３の底部拓本からは、木葉痕とともに底部の作り方の一端を窺うことができる。底部を一気に作らず、中央部を先に作った後にその外側に粘土紐を巻き付けている。このため破損は、中央部と粘土紐を巻き付けた部分の境に観察される。第126図２～８は、口縁部付近に沈線が一条ないし二条引かれる。

6類　土器底部(第127図15～21、第128図１～３)

第127図16･20は、高台状に作り出された底部をもつ。16は、紐等をかけることを意図したものと思われ、粘土を抉り取った部分が２カ所認められる。木葉痕等は認められず、沈線で半円状の文様が描かれる。第127図14･15･21、第128図２は底部からやや開きぎみに立ち上がる。壺形土器の底部と思われる。第127図17、第128図１には網代痕、第127図19には平行な葉脈が認められる。

7類　ミニチュア土器(第127図１～14)

１は胎土に砂粒を含み、やや雑なつくりである。２･６･10には沈線文が施される。11の底部には、同心円または渦文が沈線で描かれている。13の内面には朱が付着している。いずれも焼成は良好である。

8類　蓋(第117図)

１は、欠損していて全体は不明であるが、つまみ部のつけ根近くに穿孔がなされている。器面は丁寧に整形している。内面には朱が付着しており、胎土中に赤色粒子を含む。２も全体は不明であるが、つまみ部は空洞となる。胎土中に赤色粒子を含む。３は細い沈線で渦文が描かれる。内面縁辺は、蓋のすわりを考えて水平方向に整形を行なっている。４は、沈線文と刺突文で文様を描き、つまみ部に垂直方向の貫通孔を有する。５はやや長いつまみをもち、沈線文が施されるが、つまみ頂部にも円文が描かれる。つまみに対応する部分の内面はくぼみをもたせている。

第Ⅲ群　縄文時代晩期の土器(第128図４)

１点のみの出土である。口縁に小さい突起をもち、文様に入組三叉文が施される。内面に煤が付着している。

第Ⅳ群　弥生時代の土器(第115図５、第128図５～13、第129図１～17)

第115図５は、胴部中央からやや下に最大径をもつ壺形土器である。頸部に細縄文を帯状に施文し、その下に綾絡文が施される。胴部から底部にかけては、細縄文が施されるが、胴部が最も張り出す部分の下にも綾絡文が断続して認められる。第128図７・８にも綾絡文が施される。第128図６は、口縁端に縄文が施され、その下に撚糸の原体側面圧痕が行われる。外面に煤が付着している。第129図１～３は、交互刺突文が施されたものである。第128図５、第129図２は、口唇部に縄文が施され、交互刺突文の上に沈線による文様が施文されている。第128図11は、山形文が施されるが、断続した線の組み合わせに近く、一本の沈線で連続して引かれたものではない。第128図９は、細い沈線で山形文が描かれる。第129図４～17のうち９は条線文が、その他は縄文が施文されたものである。

第Ⅴ群　平安時代の土器(第129図18･19)

18は、坏形土師器の底部である。内面は黒色処理され平滑に仕上げている。ミガキは認められない。19は、須恵器の底部であるが、器形は不明である。

②土製品(第130～133図、図版56～58)

土偶、環状土製品、鐸形土製品、キノコ形土製品、円盤状土製品、十字形土製品など６種類である。

土偶(第130図１～４)　１と２は顔の部分である。１は、顔が前方に突き出る形態のものであろう。２は人物か動物か不明である。耳にあたる部分に穿孔が認められることから、吊り下げて用いられたことを示唆するものであろう。直線を組み合わせた沈線が施される。３、４は首から下の部分である。縦と横の沈線で文様が描かれる。

十字形土製品(第130図５)　方形に近い十字形を呈し、一方の面に沈線と刺突文が施され、他方の面は無文である。横から見ると、文様のある面が反り返っている。用途は不明である。

環状土製品(第130図６)　外側は六角形、内側は円形を呈する環状土製品である。紐を通す貫通孔が認められる。色調は明赤褐色(2.5ＹＲ5/6)を呈する。

鐸形土製品(第130図７～13、第131図１～５)　貫通孔があるものと不明なものがある。文様は沈線と刺突文が施される。13は、開口部に対して貫通孔が垂直方向にあけられている。第131図２・４の貫通孔は、楕円形を呈する開口部の短軸に平行にあけられている。第131図５は、開口部の反対側でなく、横に貫通孔をもつ。鐸形土製品と形態は異なるが、空洞で吊り下げるための貫通孔が認められることから、鐸形土製品の範疇に含めた。

キノコ形土製品(第131図６、７)　６は傘の中央部がくぼむ。つくりは粗雑である。

円盤状土製品(第132図、第133図)　土器破片に二次加工を加えて、円形･三角形などに整形しているものである。三角形を呈するものも便宜上この項に含めた。土器の胴部片を利用して

いるものが大部分であるが、口縁部、底部を利用しているものも少数認められる。

2、石器·石製品

①**石器**(第134～142図·143図1、図版59～62)

出土した石器は、石鏃·石槍·石錐·石匙·石篦·掻器·削器·磨製石斧·凹石·磨石·石皿など12種である。

石鏃(第134図1·2、第144図6)　茎を有するものが2点、アメリカ式石鏃が1点である。第134図1は長さ2.4cm、幅1.4cm、重さ1.2g、石質はめのうである。第144図2は、長さ3.3cm、幅1.2cm、重さ1.5～1.6g、石質は頁岩である。基部にアスファルトの付着が認められる。

石槍(第134図3～8)　柳葉形を呈するもので、3～7は両面に剥離を行なっているが、8のみ片面に素材の剥離面を残している。また8の折損した面の一部分にはアスファルトが付着している。

石錐(第134図9～11)　何らかのたかちでつまみ部を有するもの3点である。9、10は一端が尖るような剥片に錐部を作り出したもので、錐部とつまみ部の境が明らかでない。11は剥片の一部に片面加工による小さな錐部を作り出したものである。

石匙(第134図12、13)　縦型のもの2点である。石質は12がチャート、13が頁岩である。

石篦(第134図14、15、第135図1～4)大小の剥片に荒い二次加工を施して、ヘラ状にしたものである。二次加工は、片面と両面加工がみられ、第135図2～4は両面にやや細かい加工を加えている。

掻器(第135図5～13、第136図1～10、第137図1～10、第138図1～5)　不定形の剥片の一部に弧状の刃部を作出したもの(第135図5～13、第136図1～10、第137図1～3、第138図5)、刃部が直線状のもの(第137図4～10、第138図1～4)に大きく分けられる。第135図8は、つまみの付いたもので両面加工による抉りが認められる。何らかの形の柄に取り付けるためのものであろう。それは第135図6にも認められる。第136図5と第138図3にはアスファルトが付着している。これも着柄と関連をもつものと考えられる。

削器(第138図6～8)　6は横長剥片の一端、7は縦長剥片側縁、8は縦長剥片の両側縁に刃部を作出している。いずれも片面のみの加工である。

磨製石斧(第139図1～6)　平面形が撥形を呈する定角式石斧(1、2)と平面形が短冊形を呈するもの(3～6)に分けられる。4は片面だけが著しく研磨されるという特徴をもつ。

石錘(第139図7)　1点のみ見つかった。偏平な楕円礫の短軸方向に加工を加えている。重さ42.5gである。

凹石(第140図、第141図1～3)　偏平な自然礫の片面または両面に、小さなくぼみを有す

る。第140図５は、全面にわたって、第141図３は側面が磨られている。

磨石（第141図４～10）　円礫で全面が磨られているものである。４と５は水洗いの際洗い流してしまったが、全面に朱が付着していた。

石皿（第142図２～６、第143図１）　第142図４と第143図１は石皿としてのほか有溝砥石としても用いられている。第142図６は、表面に朱が塗彩されたものである。

②石製品（第143図２～９・第144図、図版62）

円盤状石製品（第143図２～８）　凝灰岩や砂岩を円盤状に加工したもので、穿孔されたものもある。

三角形石製品（第143図９）　凝灰岩を三角形に加工したもので片面中央部にくぼみを有する。

線刻石（第144図１～４）　やや偏平な礫の表裏に条線または沈線が認められるものである。

石冠（第144図５）　全面が研磨され、断面形はほぼ三角形を呈する。

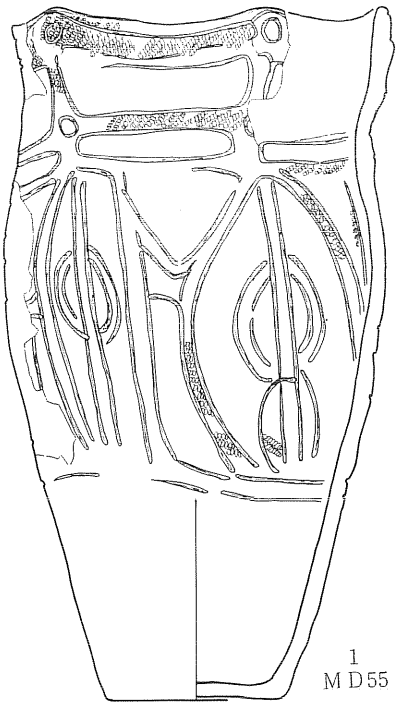
（参考文献）

十腰内遺跡調査団　『十腰内』　青森県弘前市十腰内縄文式遺跡調査予報　1969（昭和44年）

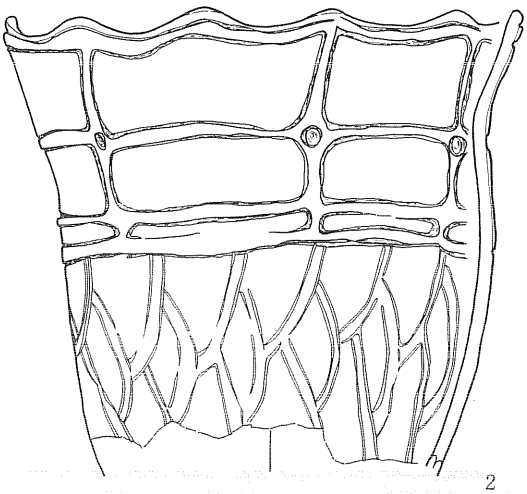
成田滋彦　「切断土器考」『弘前大学考古学研究』　第３号　1986（昭和61年）

本間　宏　「東北地方北部における縄文後期前葉土器群の実態」『よねしろ考古』　第１号　1985（昭和60年）

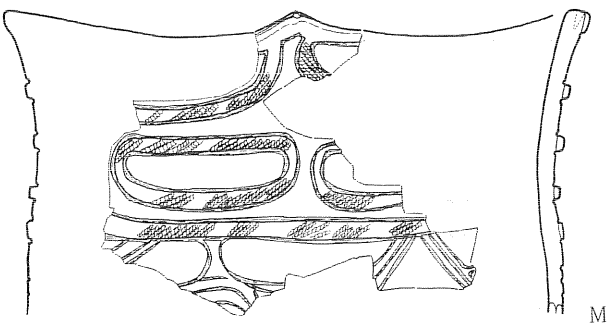
高橋忠彦　「秋田県の縄文時代後期の土器」『研究紀要』　第４号　秋田県埋蔵文化財センター　1989（平成元年）



1
M D55



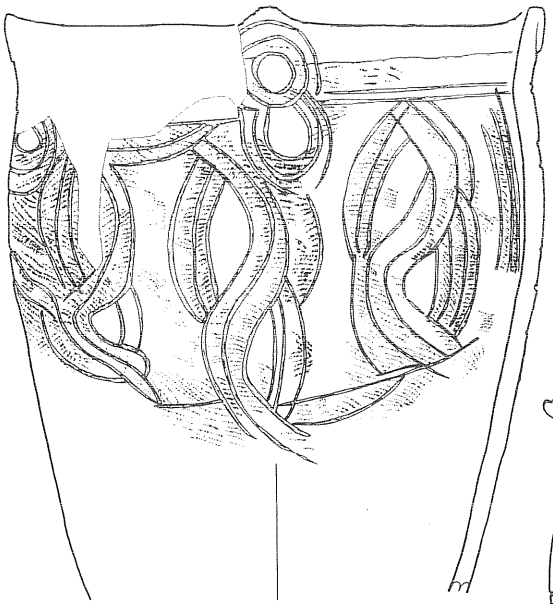
2
M D45



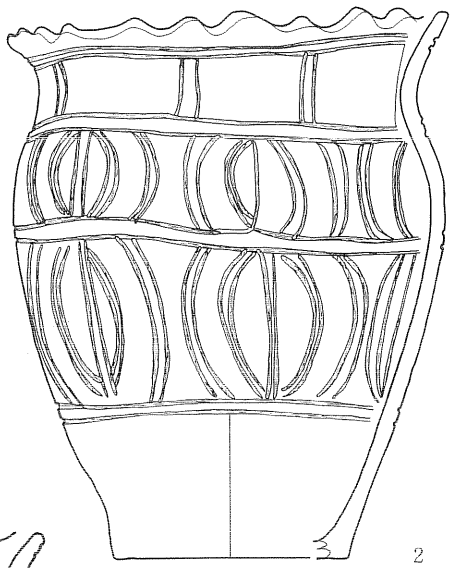
3
M C43

0　20cm

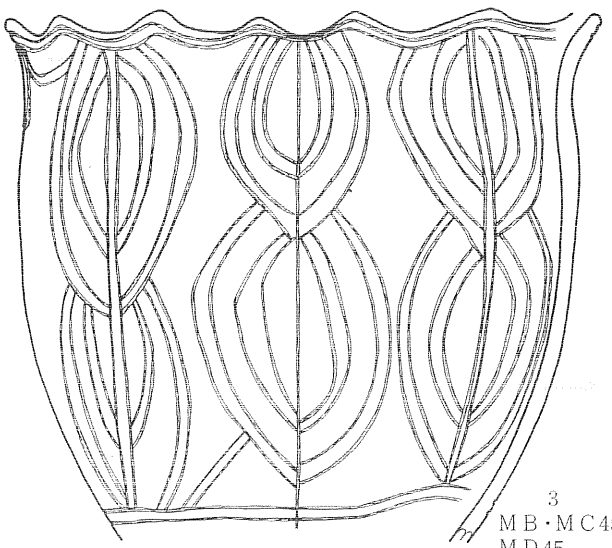
第107図　遺構外出土土器(1)



1
MD54



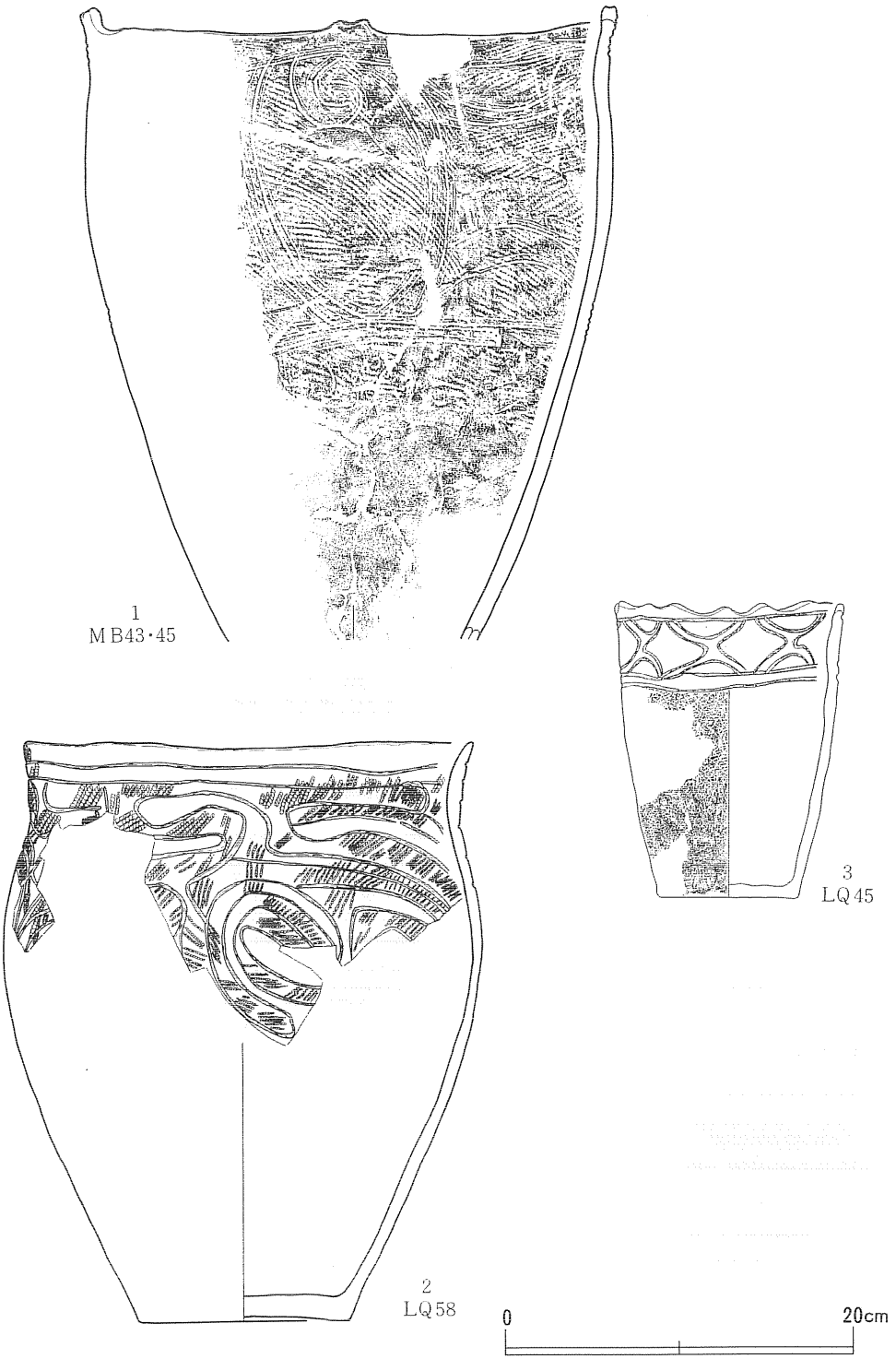
2
MB44・45



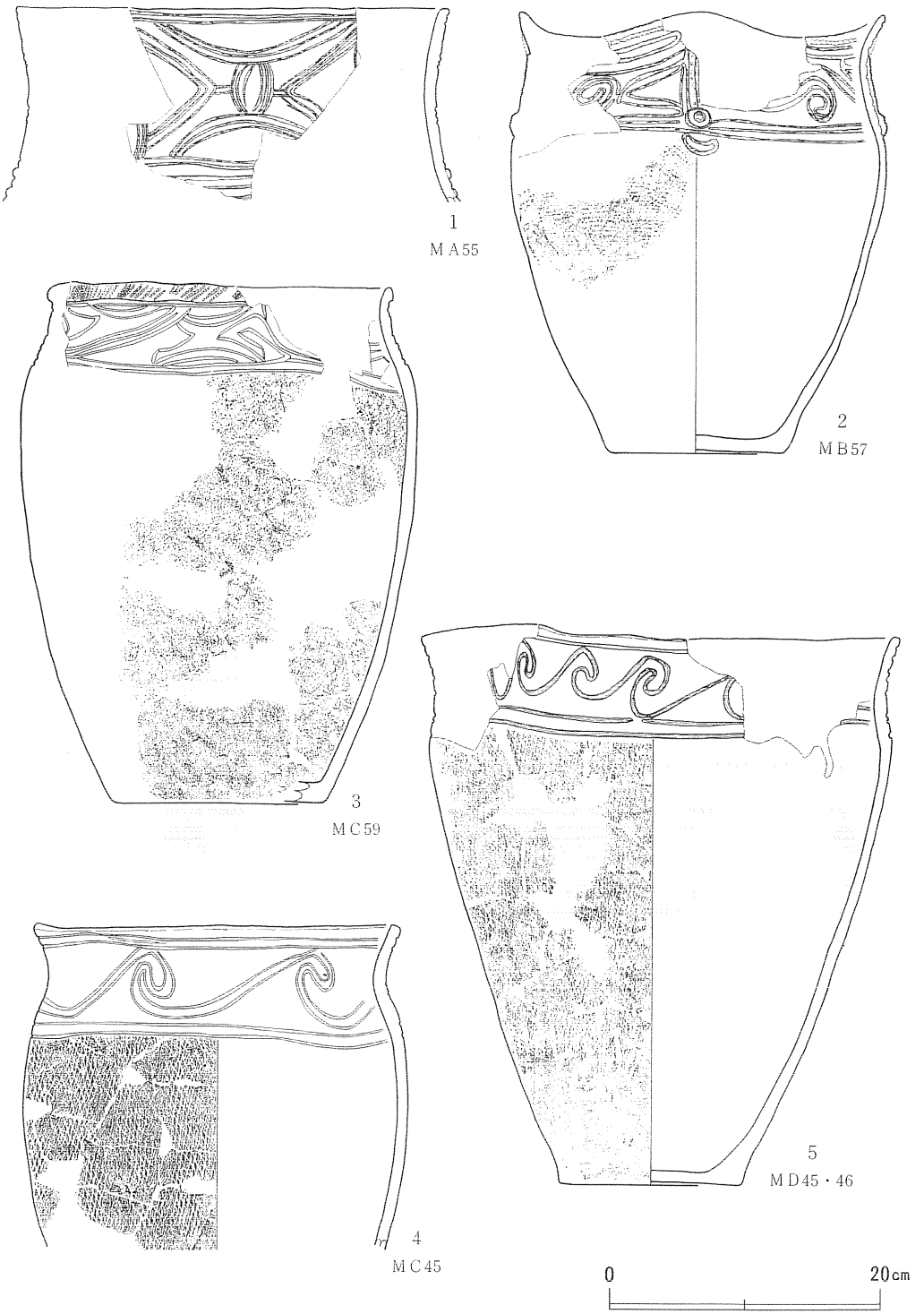
3
MB・MC45
MD45

0　20cm

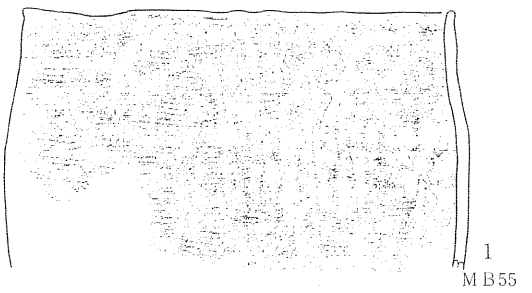
第108図　遺構外出土土器(2)

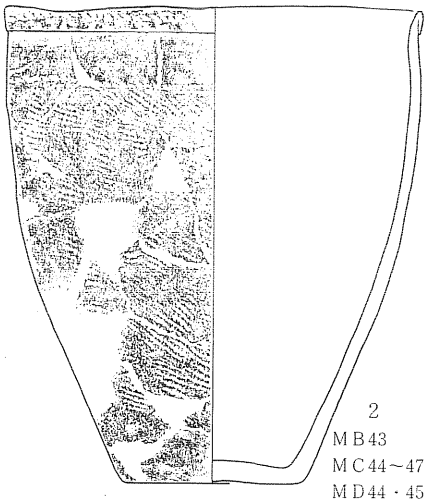


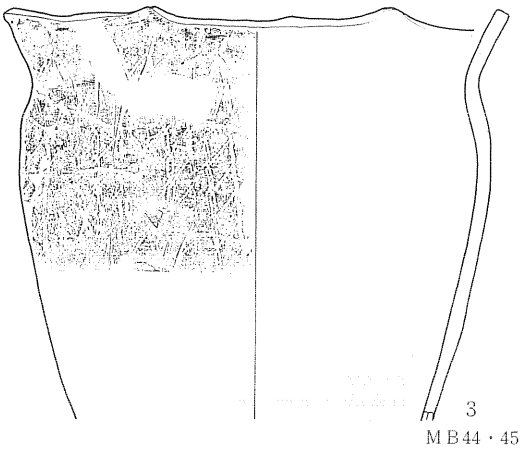
第109図　遺構外出土土器(3)

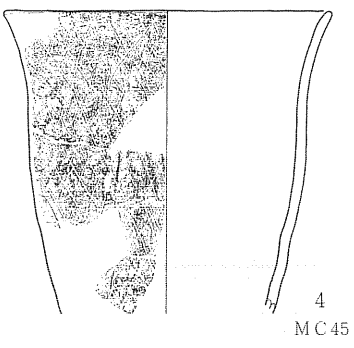


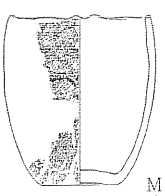
第110図　遺構外出土土器（４）

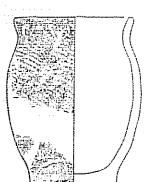


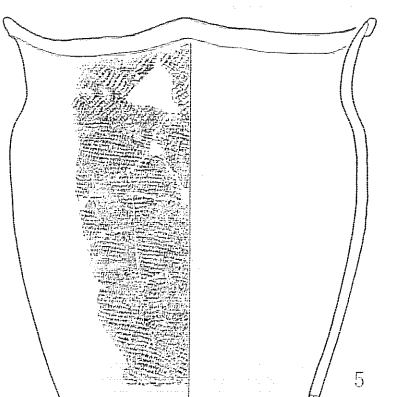


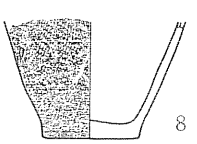


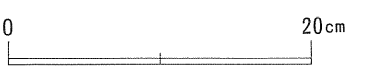




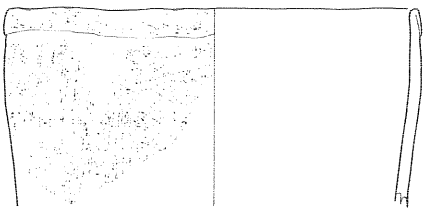




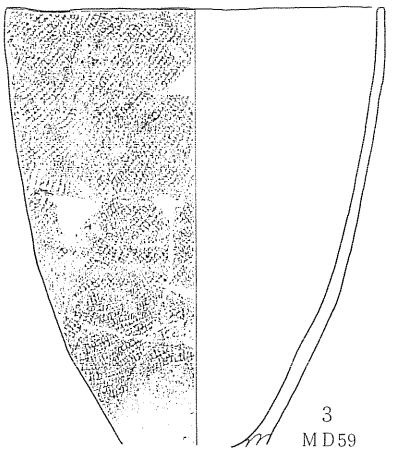




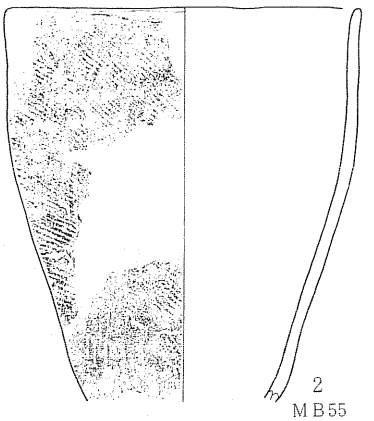
第111図　遺構外出土土器（5）



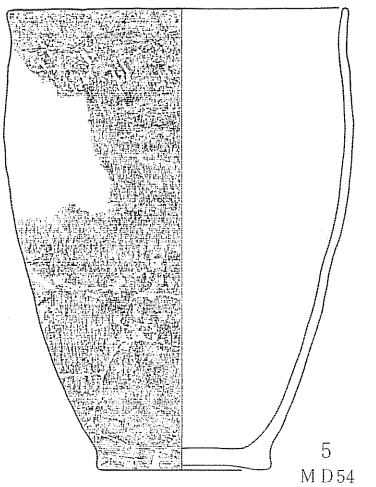
1
ME53



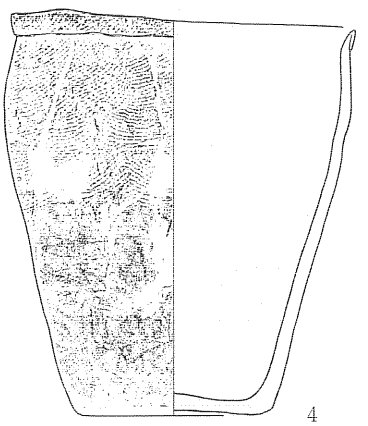
3
MD59



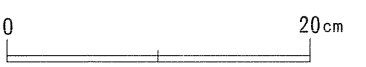
2
MB55



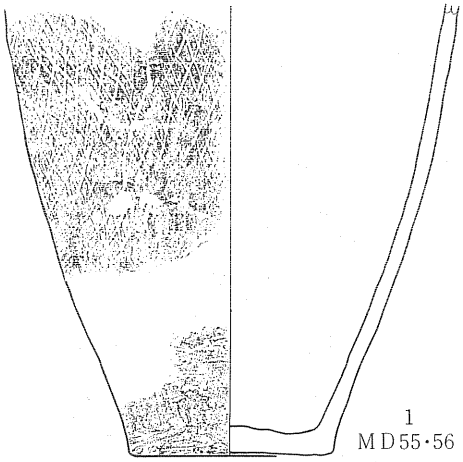
5
MD54

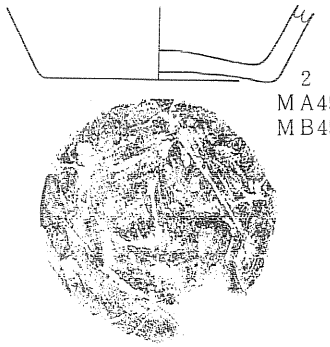


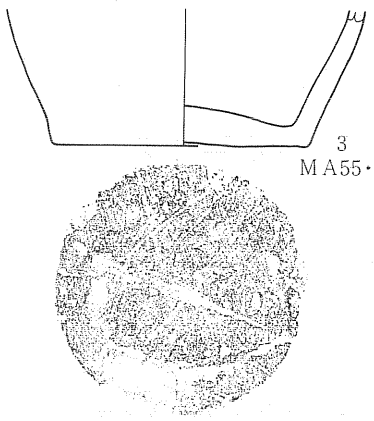
4
ME45

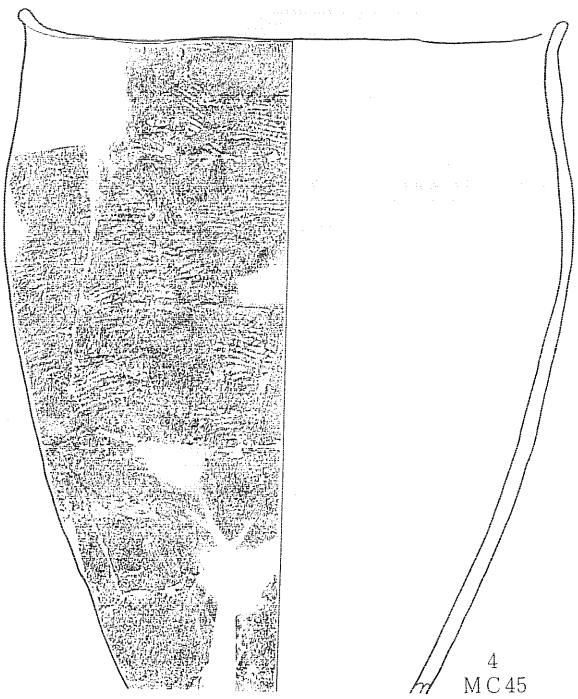


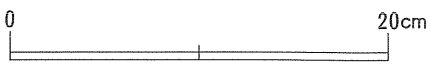
第112図　遺構外出土土器（6）



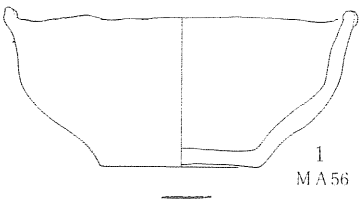




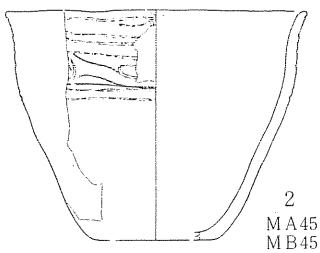




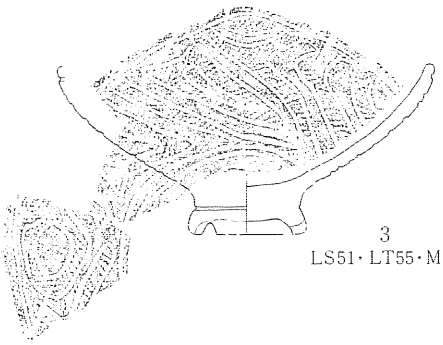
第113図　遺構外出土土器（7）



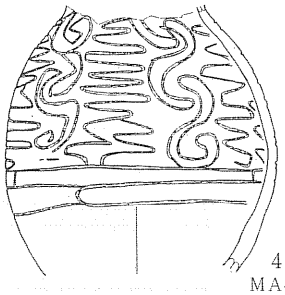
1
MA56



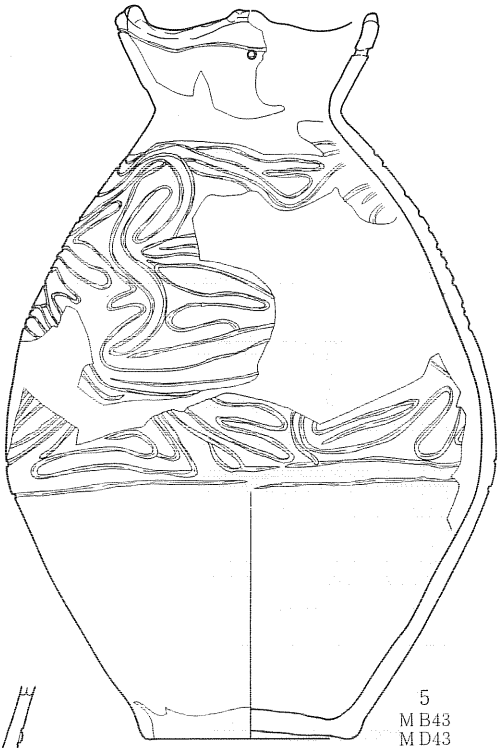
2
MA45
MB45



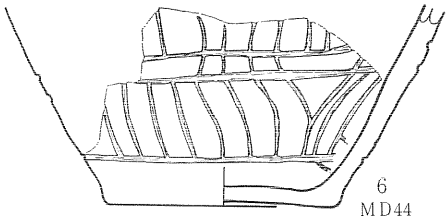
3
LS51・LT55・MA55



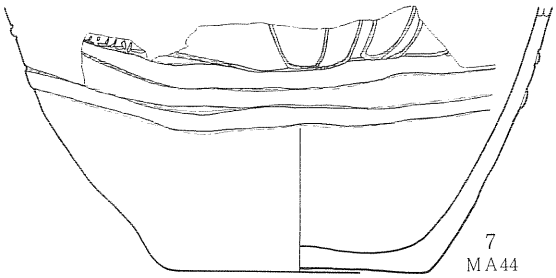
4
MA47



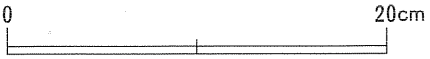
5
MB43
MD43



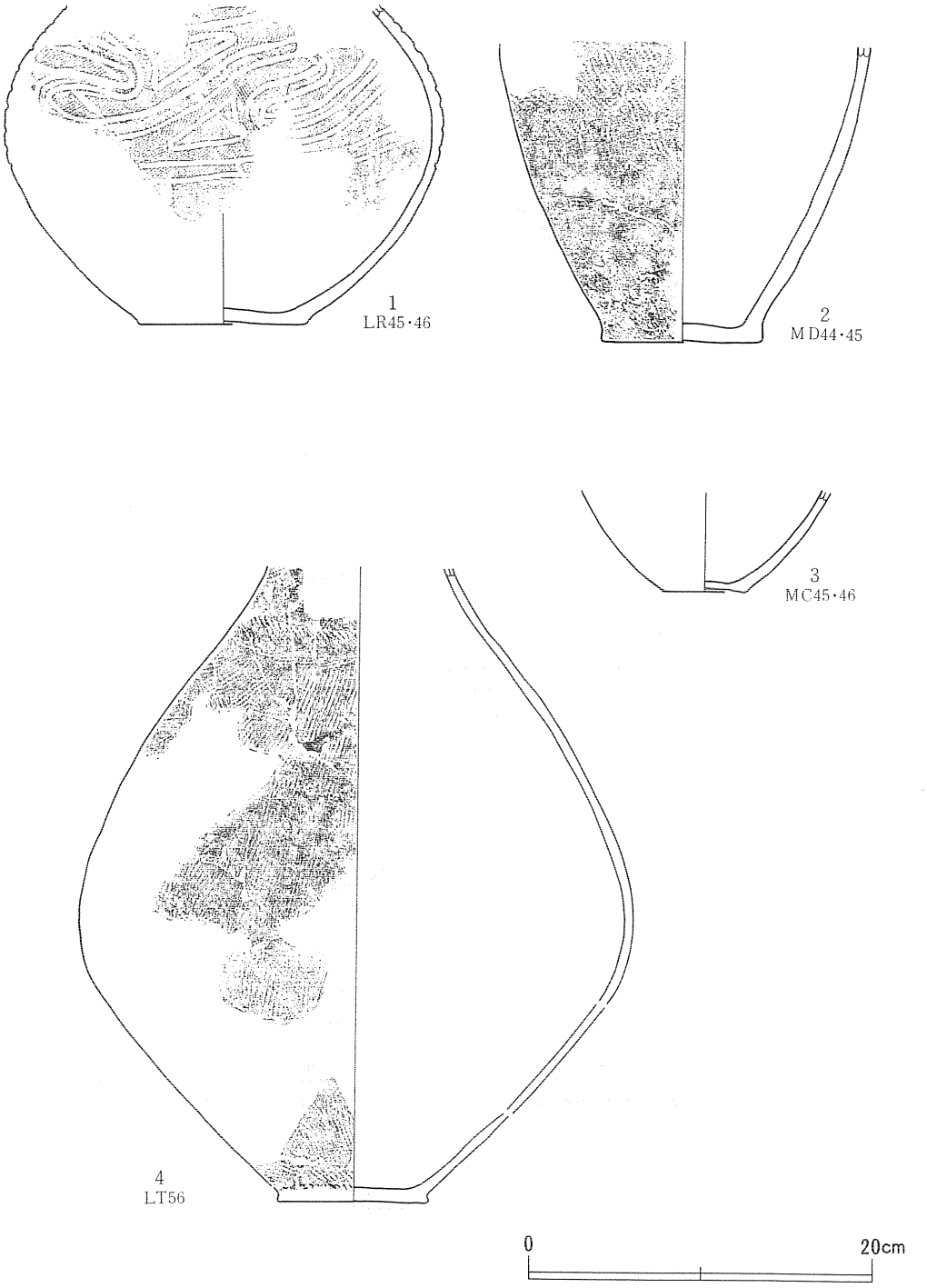
6
MD44



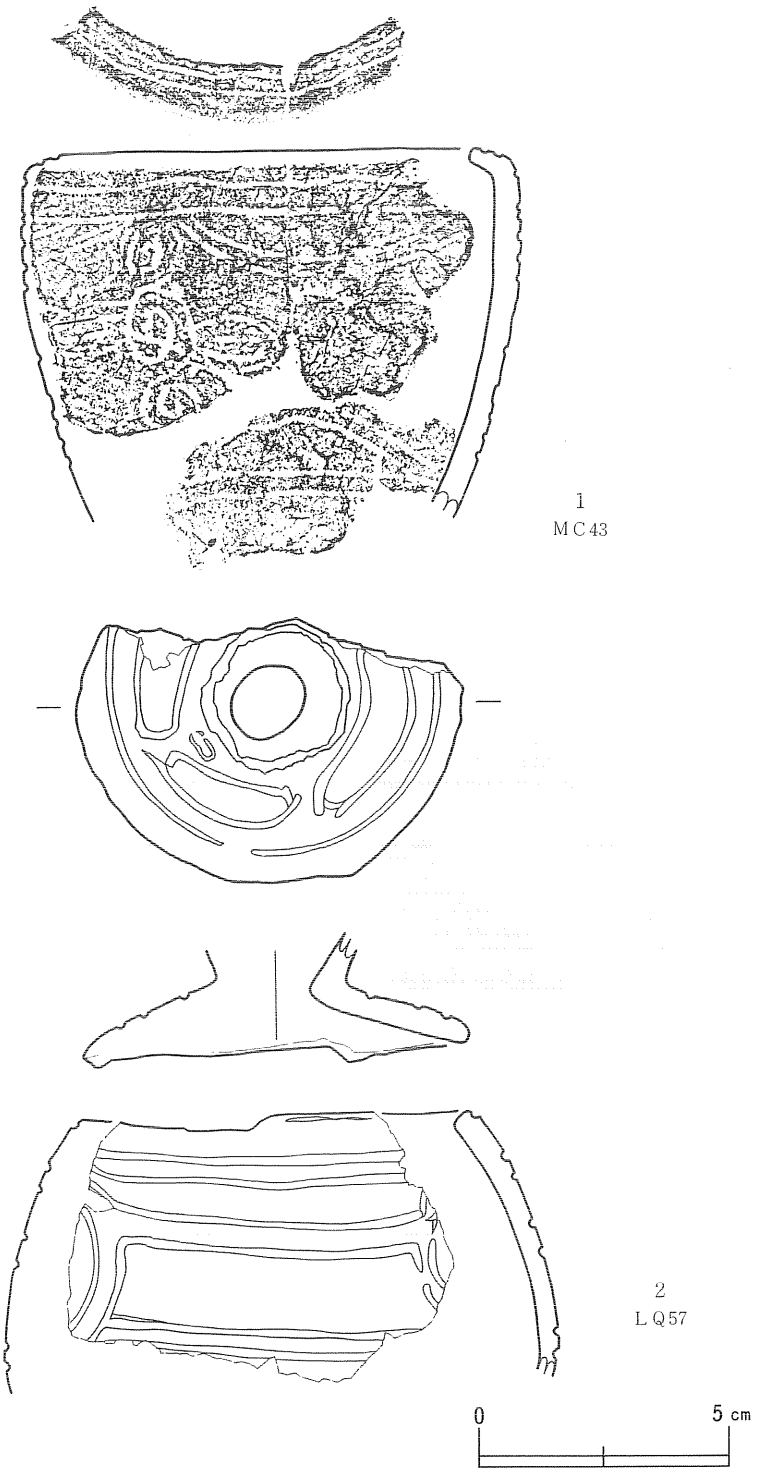
7
MA44



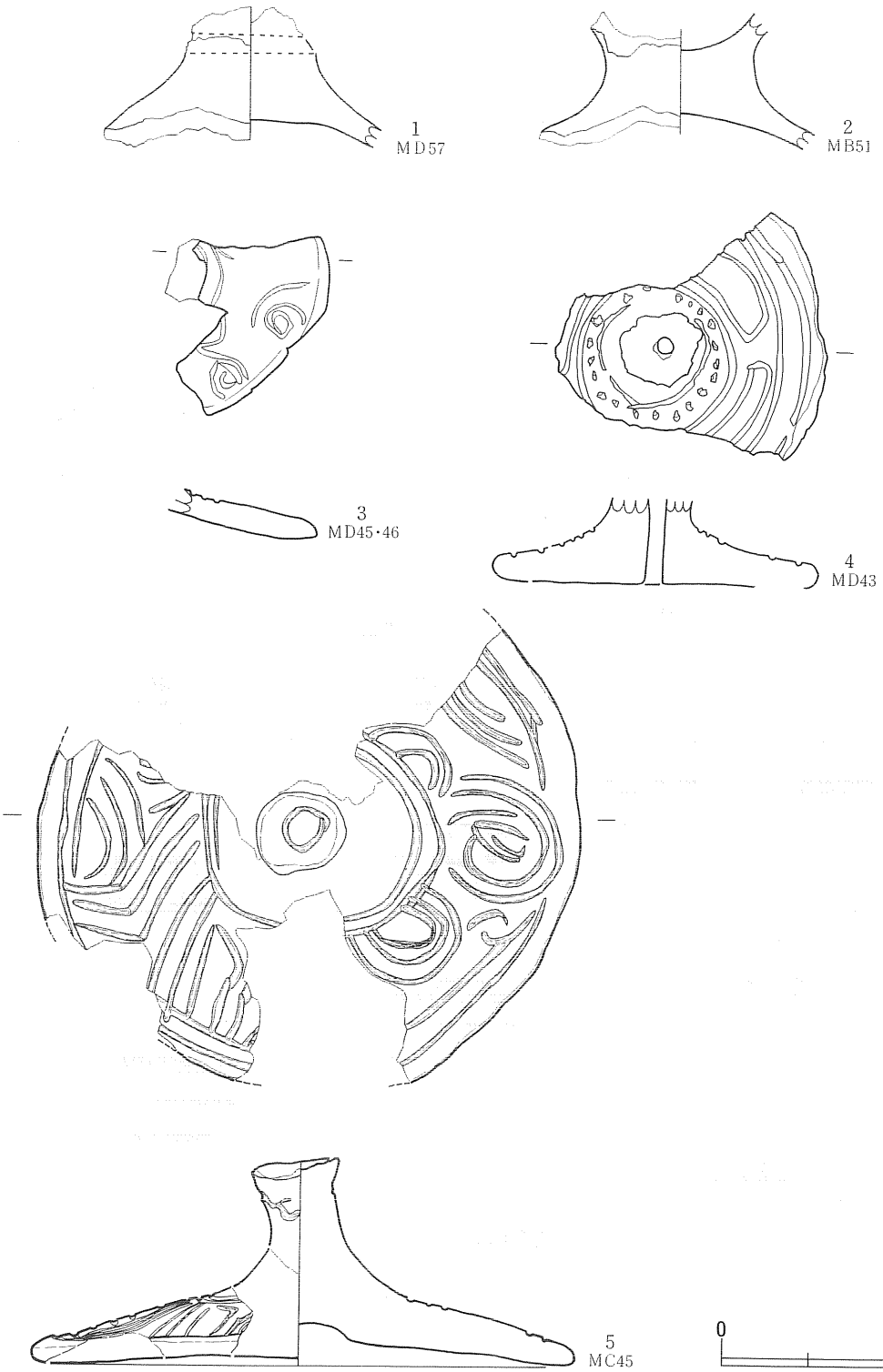
第114図　遺構外出土土器(8)



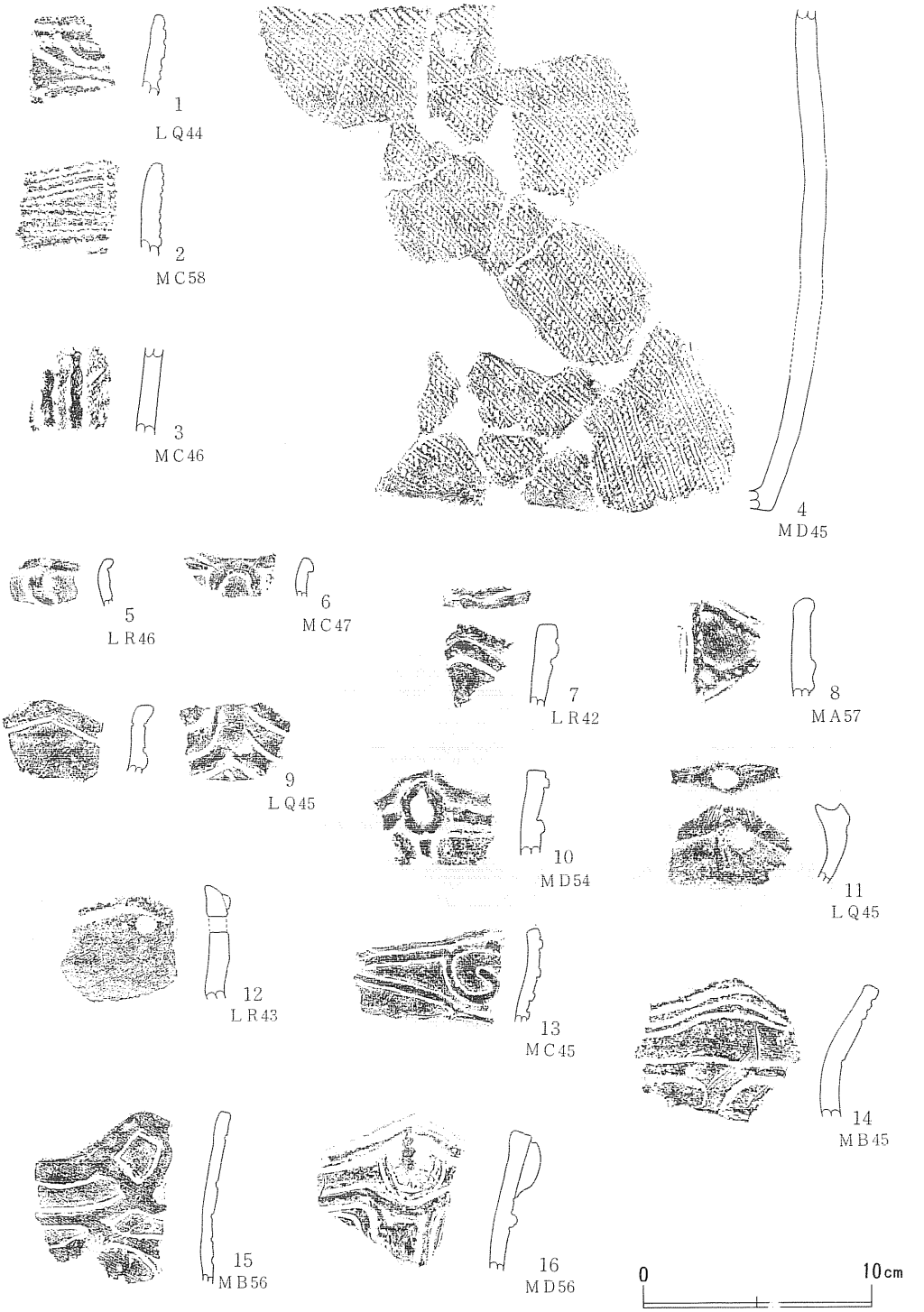
第115図　遺構外出土土器(9)



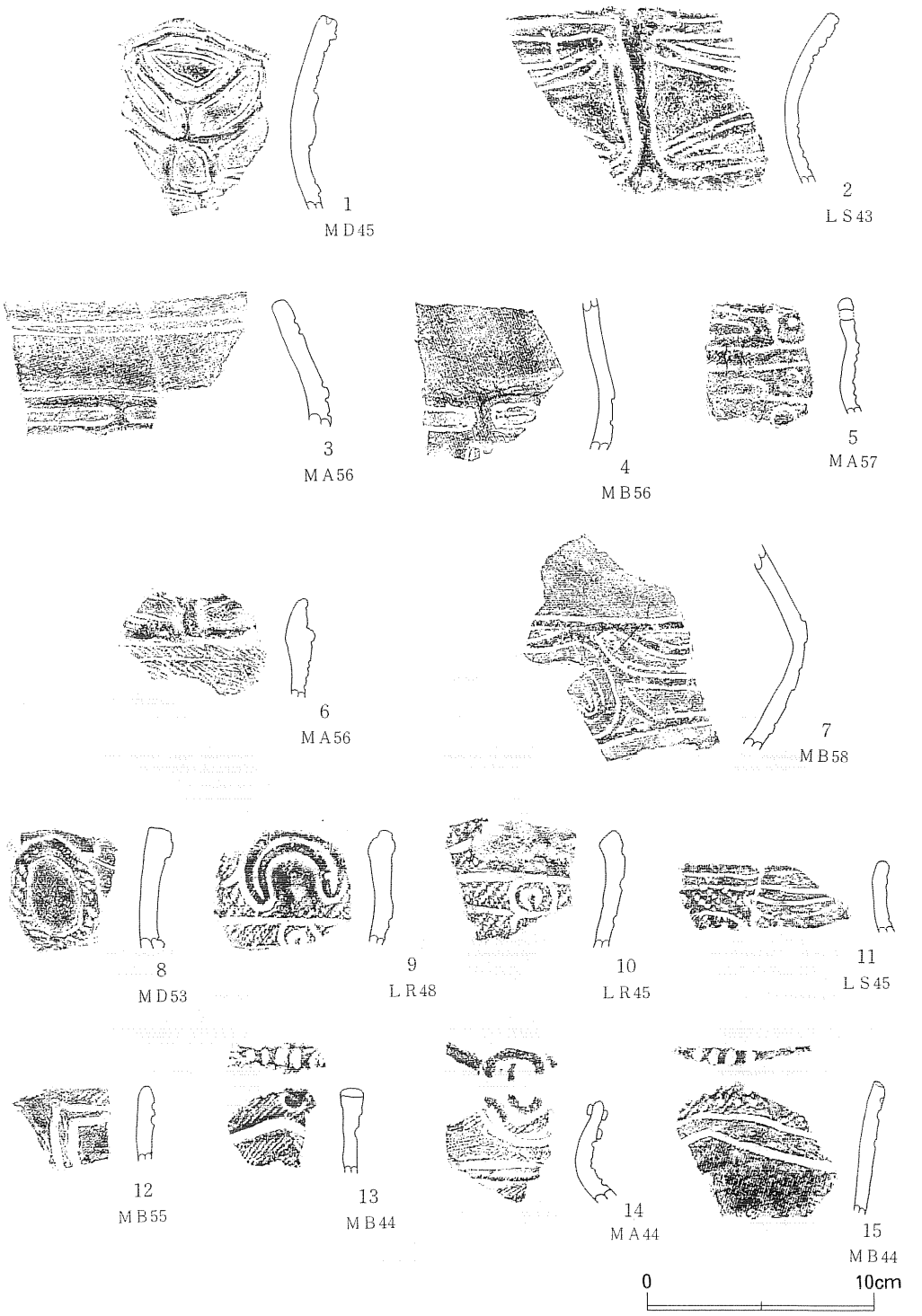
第116図　遺構外出土土器（10）



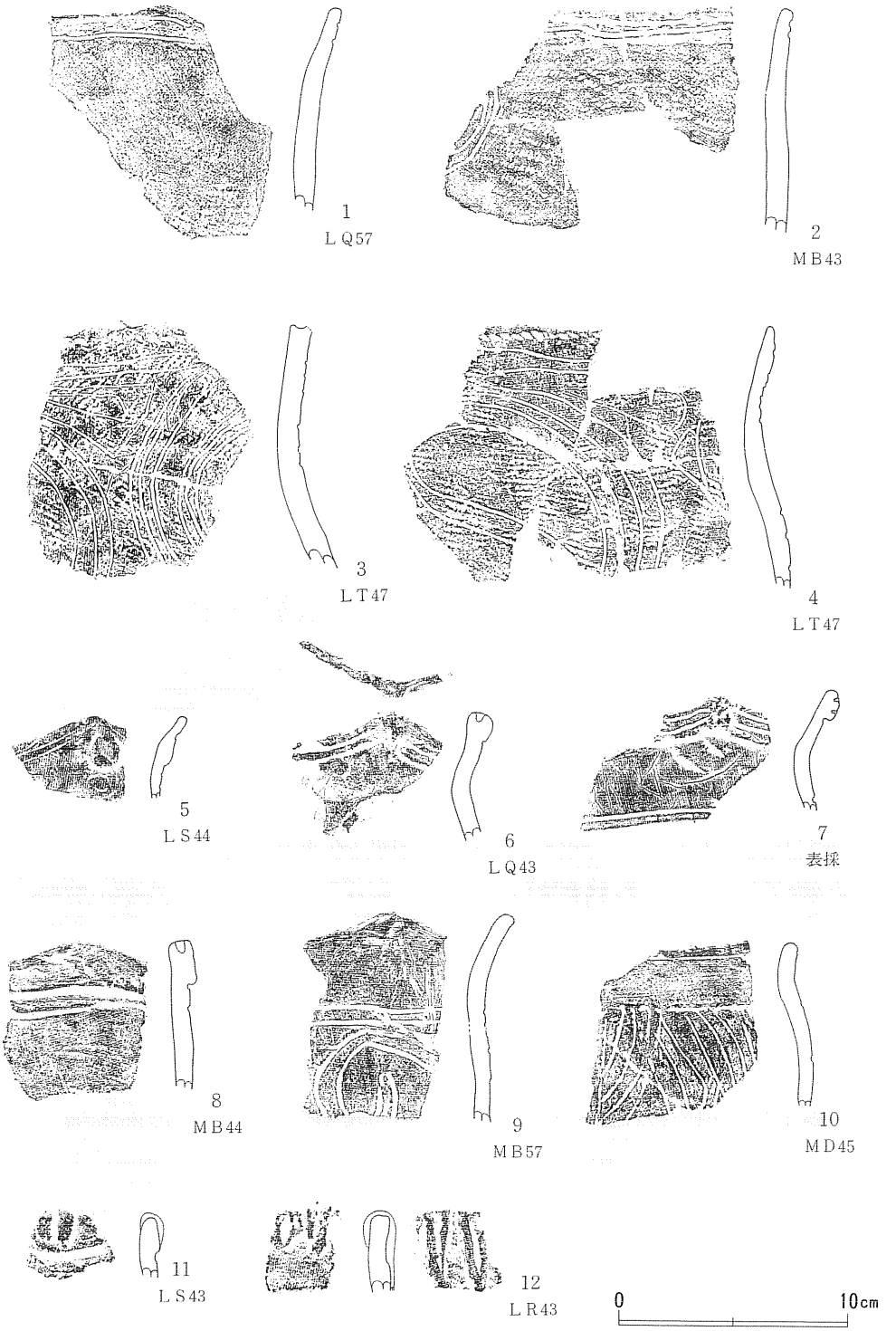
第117図　遺構外出土土器(11)



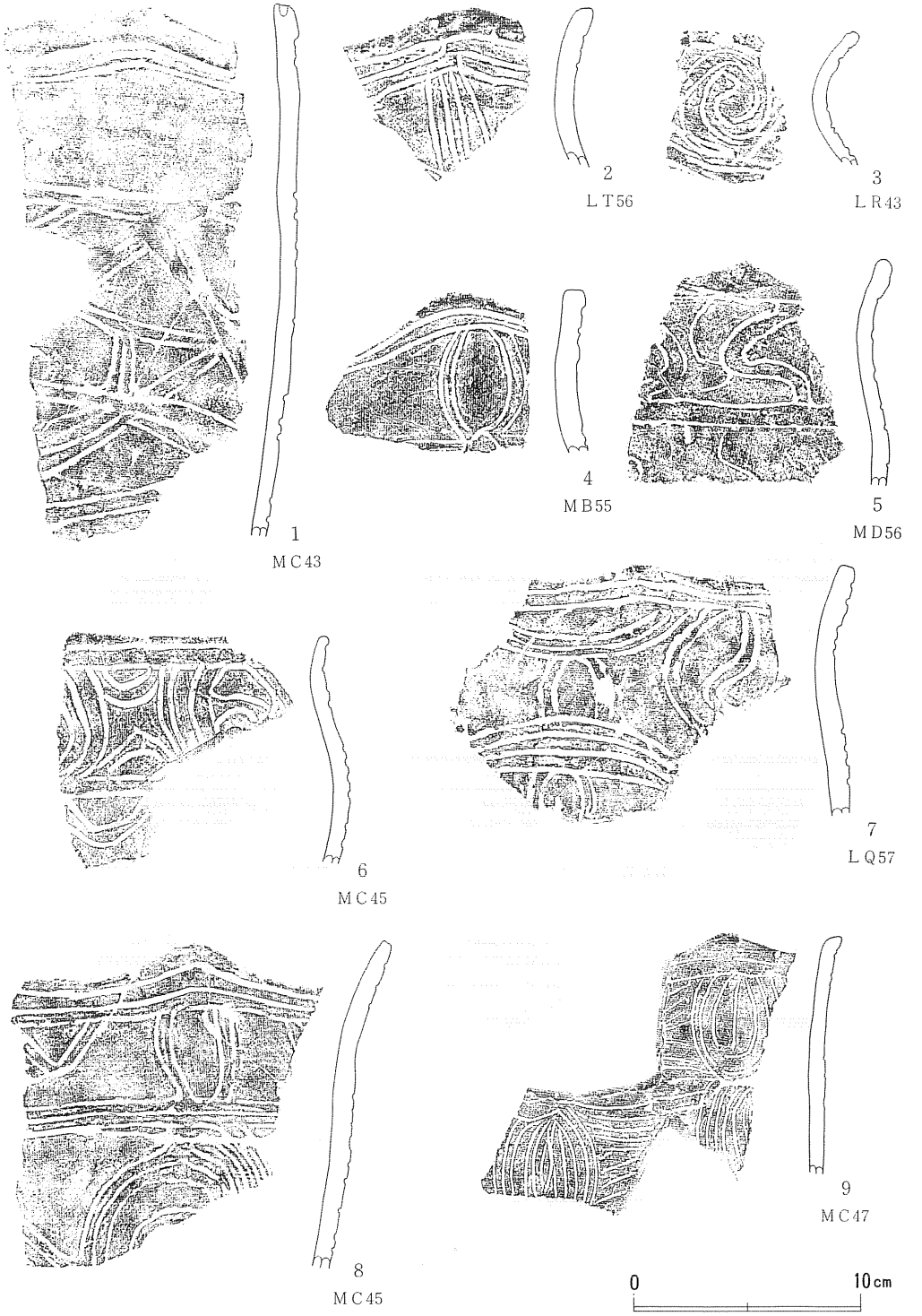
第118図　遺構外出土土器（12）



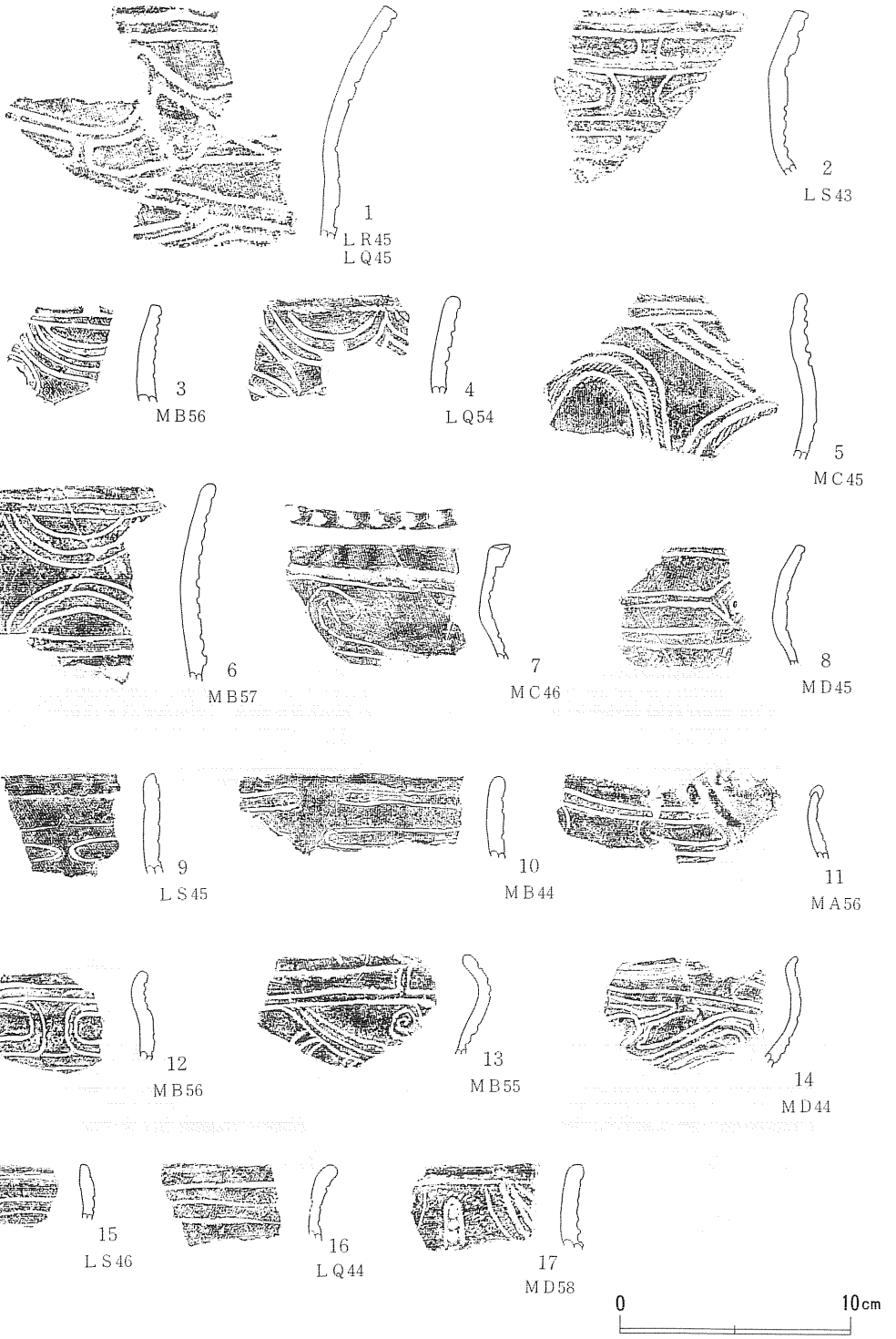
第119図　遺構外出土土器（13）



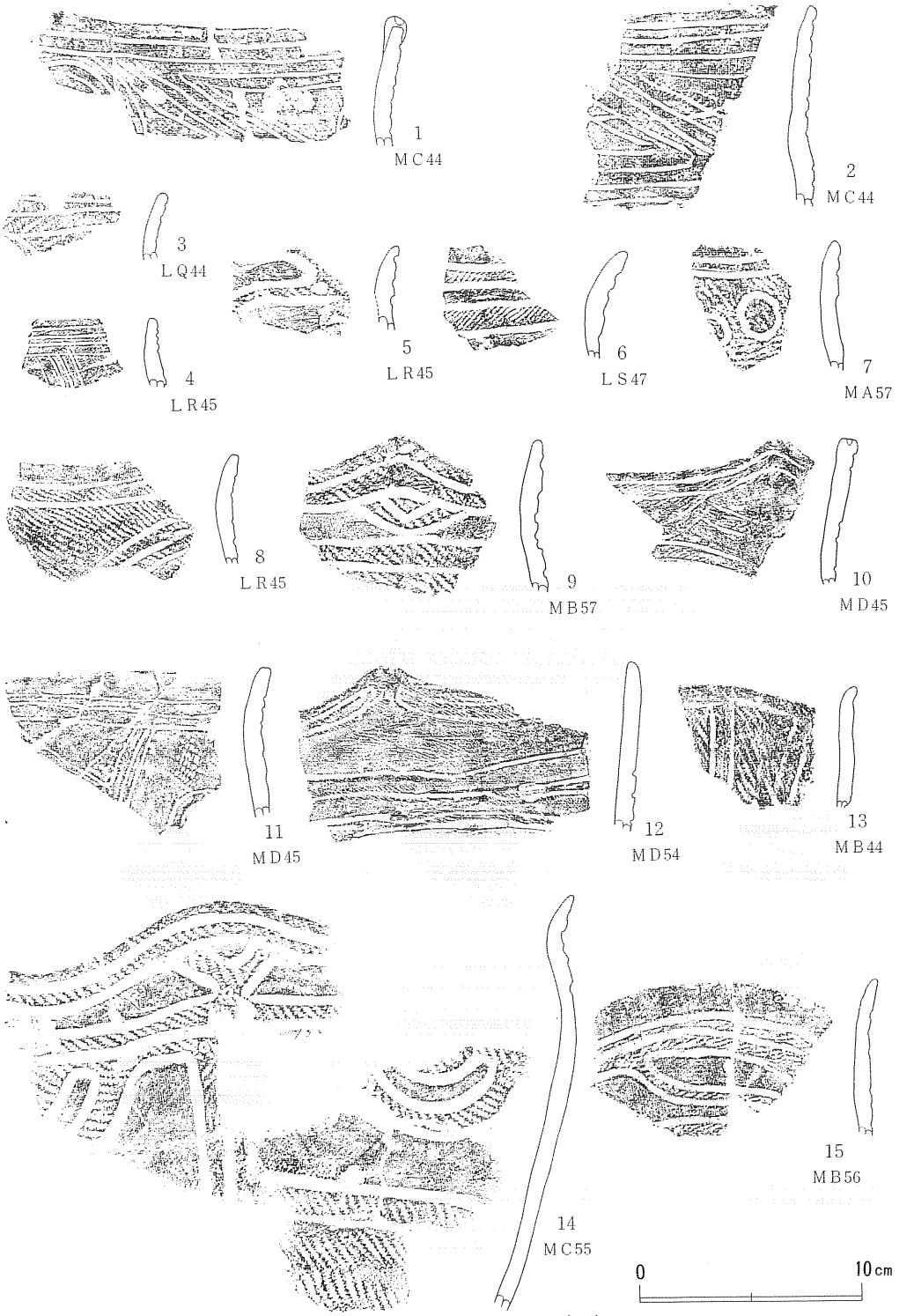
第120図　遺構外出土土器（14）



第121図　遺構外出土土器（15）



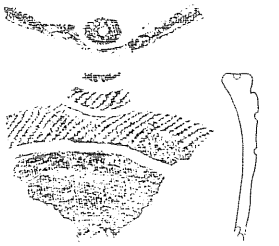
第122図　遺構外出土土器（16）

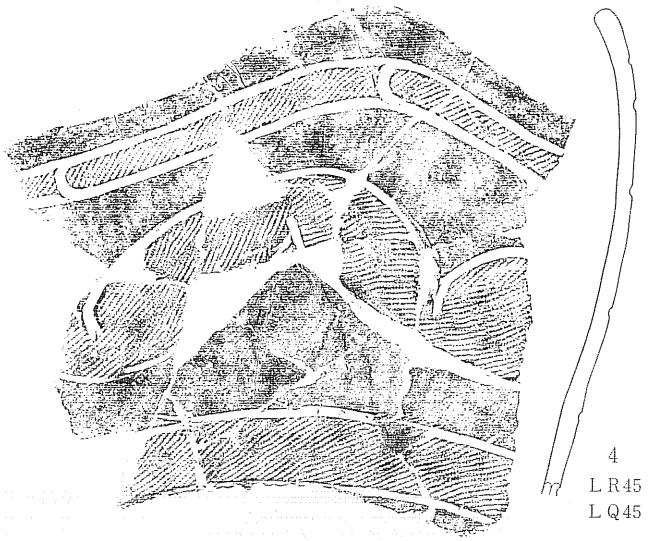


第123図　遺構外出土土器（17）

1
MD59

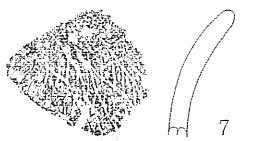
2
MC56

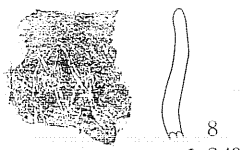

3
LT44


4
LR45
LQ45

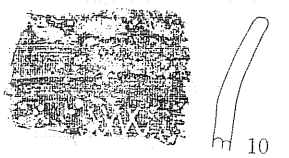
5
LR45

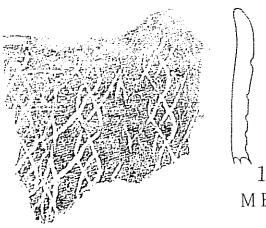
6
MB55

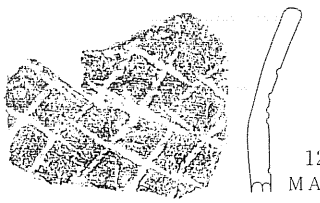

7
MB44


8
LS43

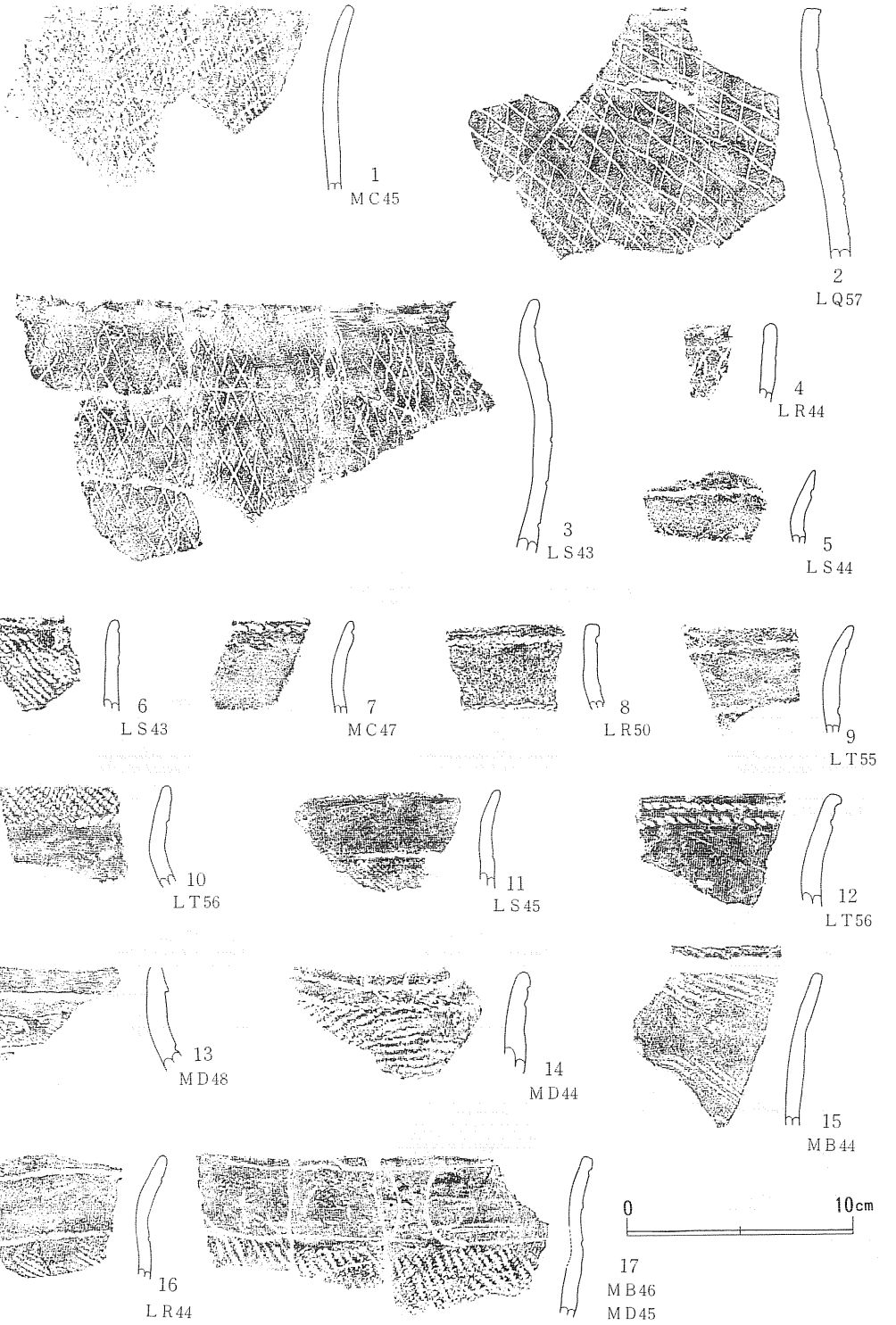
9
MB44


10
LT43

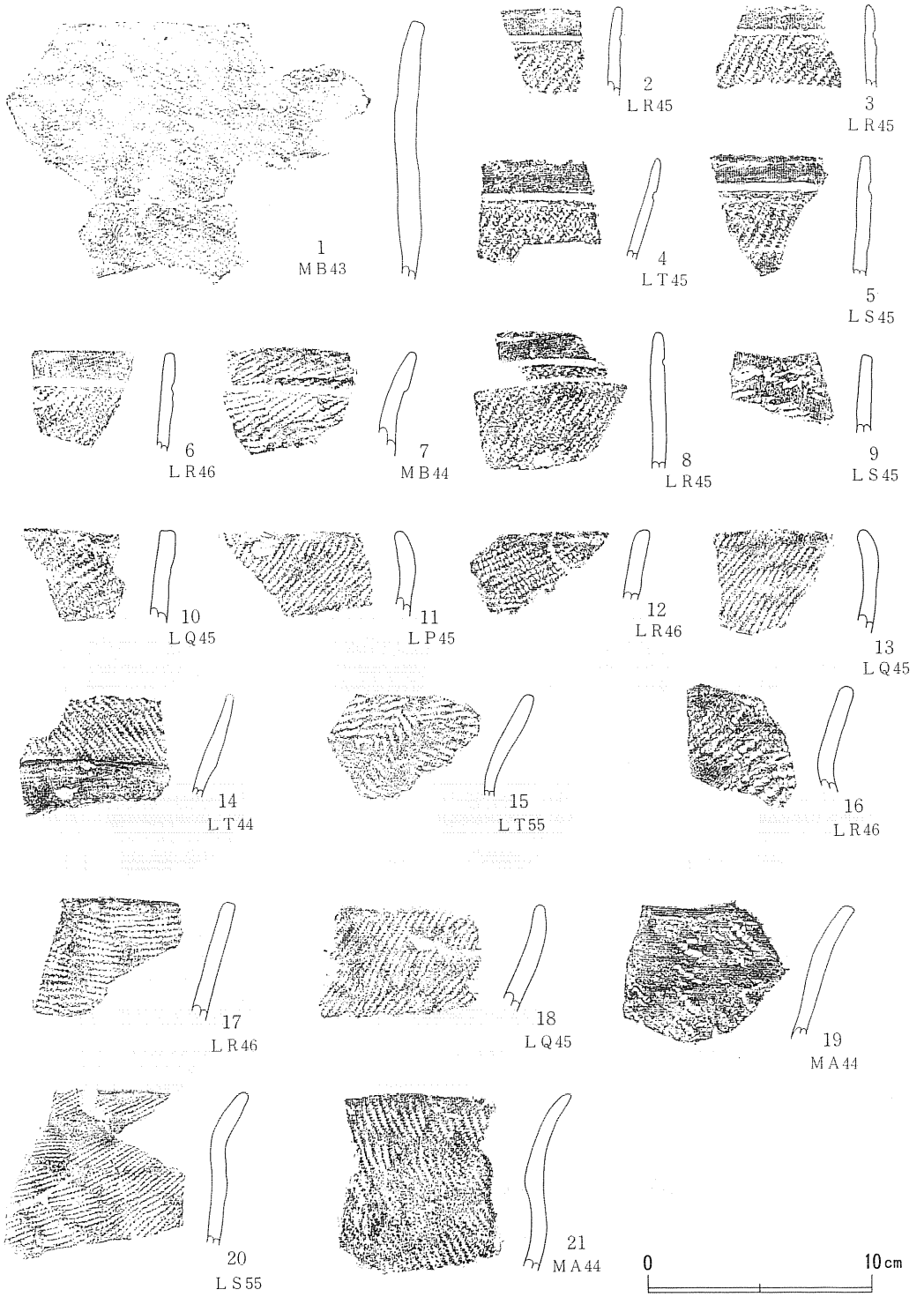

11
MB44


12
MA44

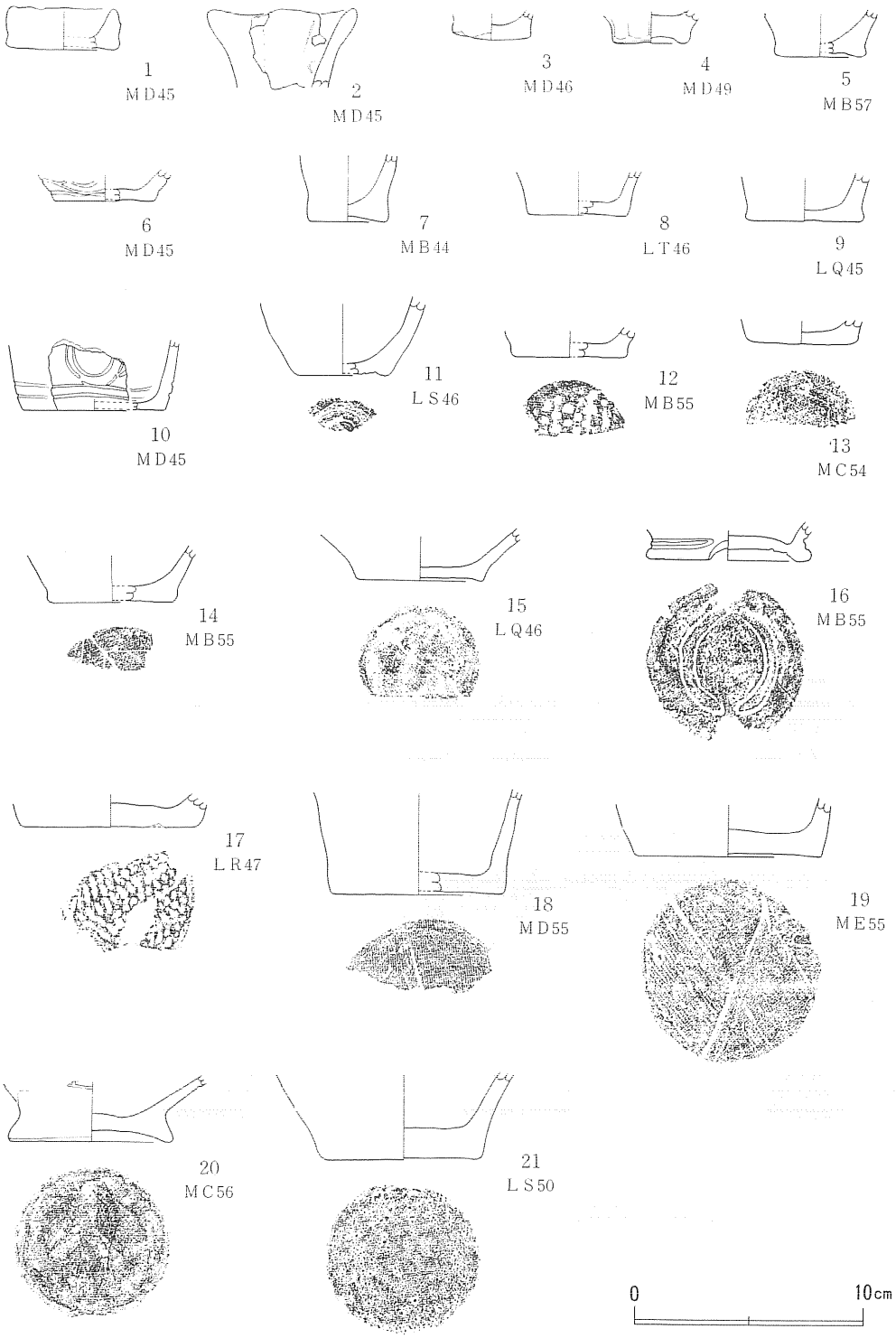
第124図　遺構外出土土器（18）



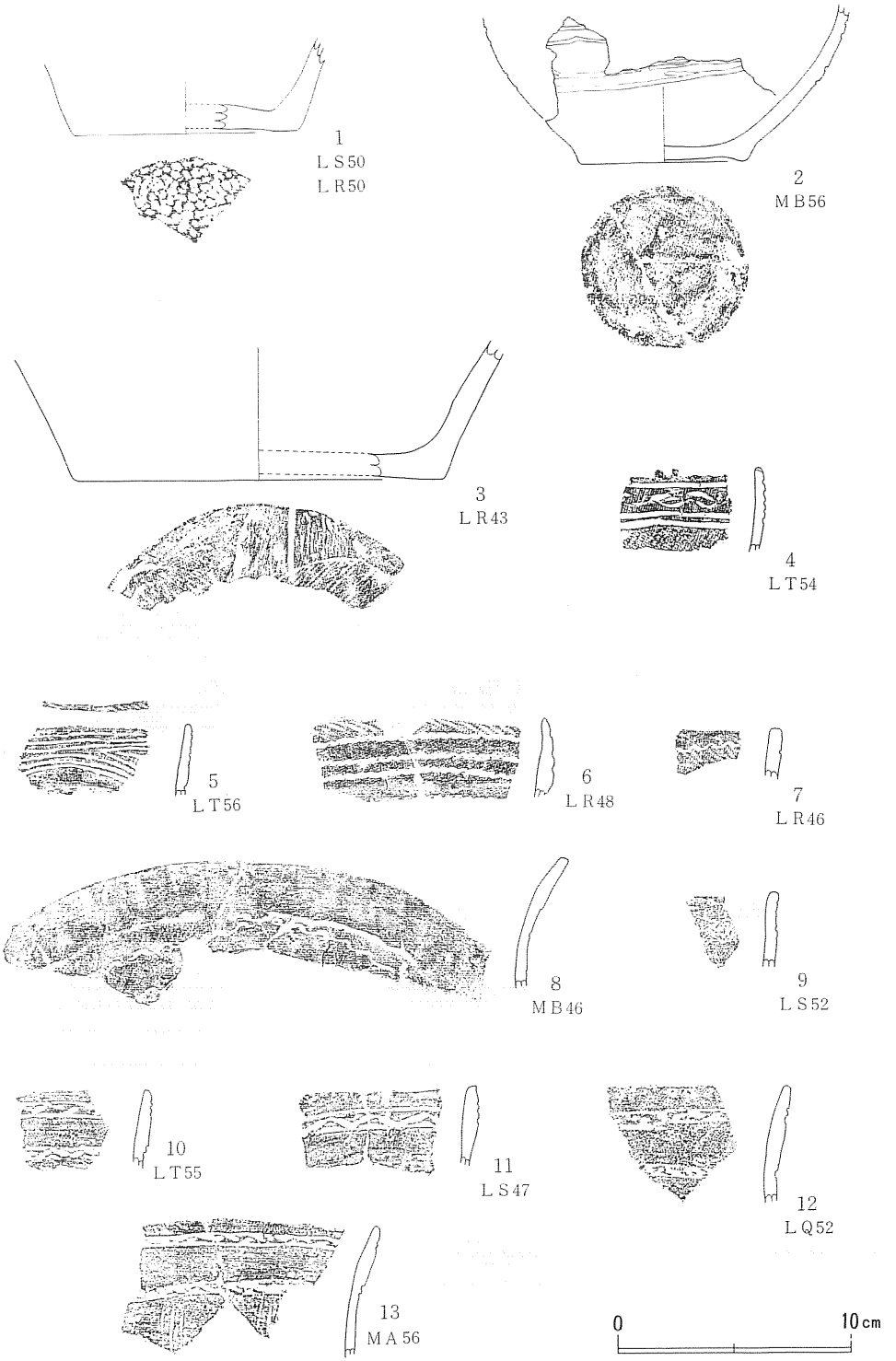
第125図　遺構外出土土器（19）



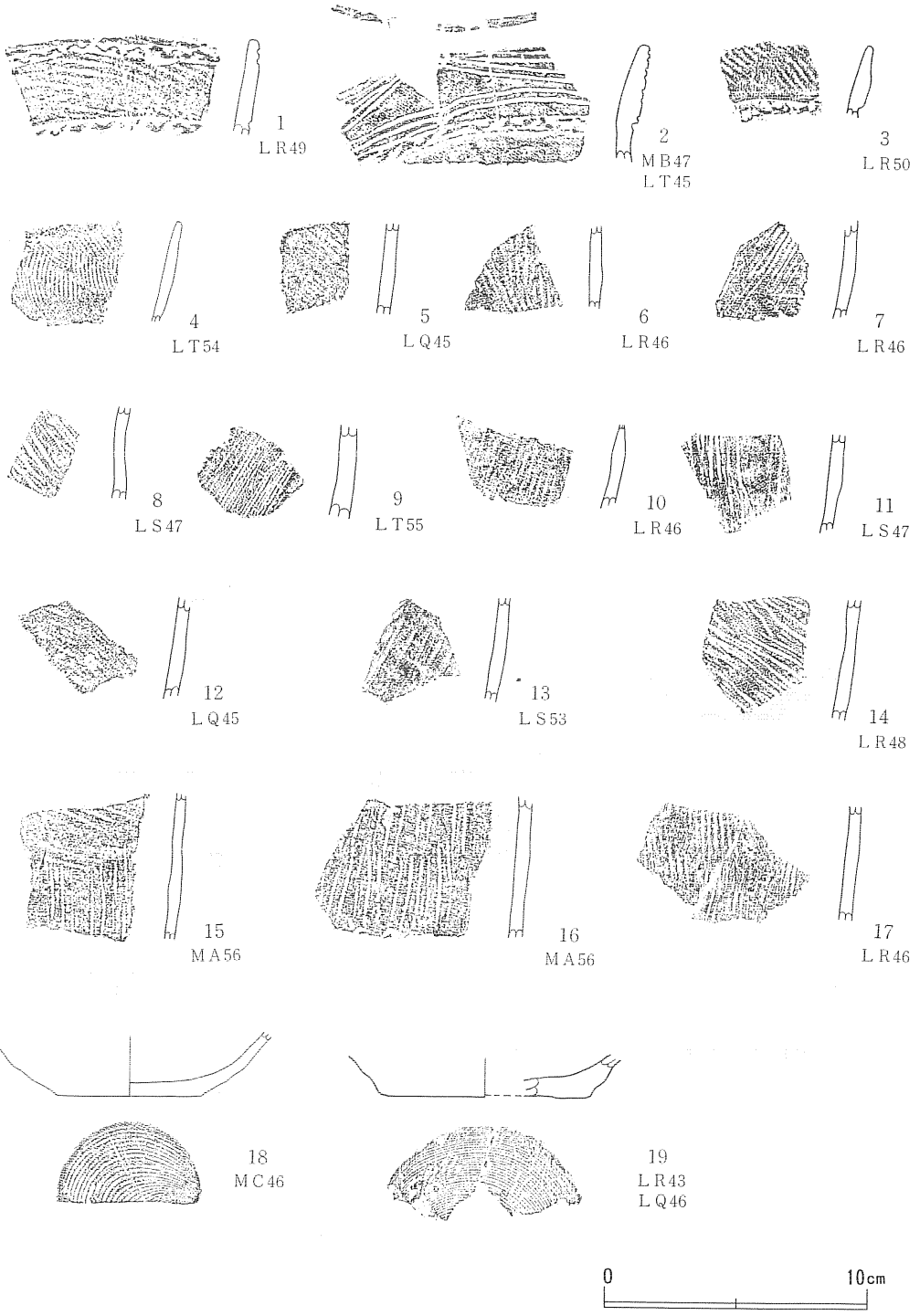
第126図　遺構外出土土器（20）



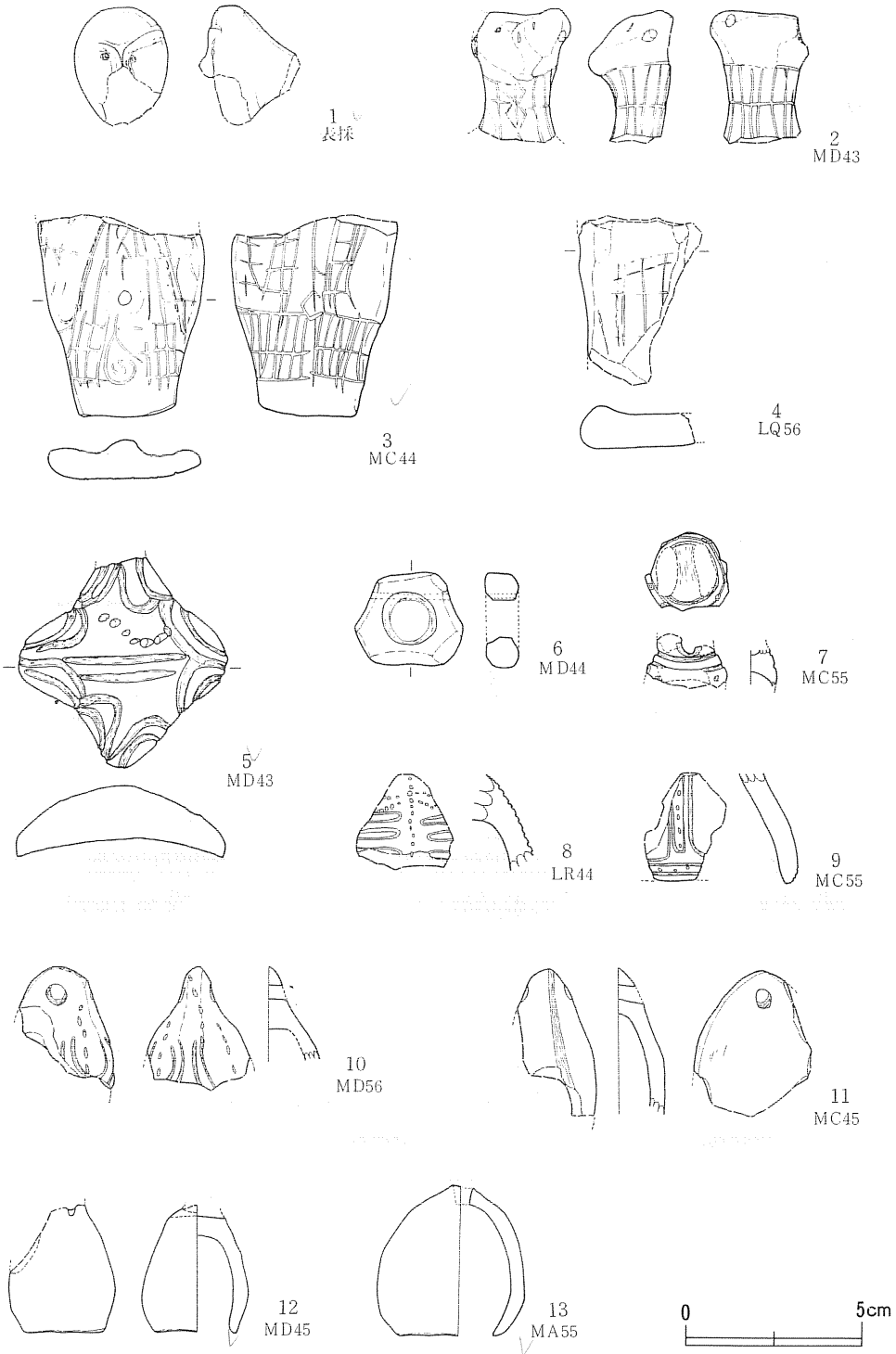
第127図　遺構外出土土器（21）



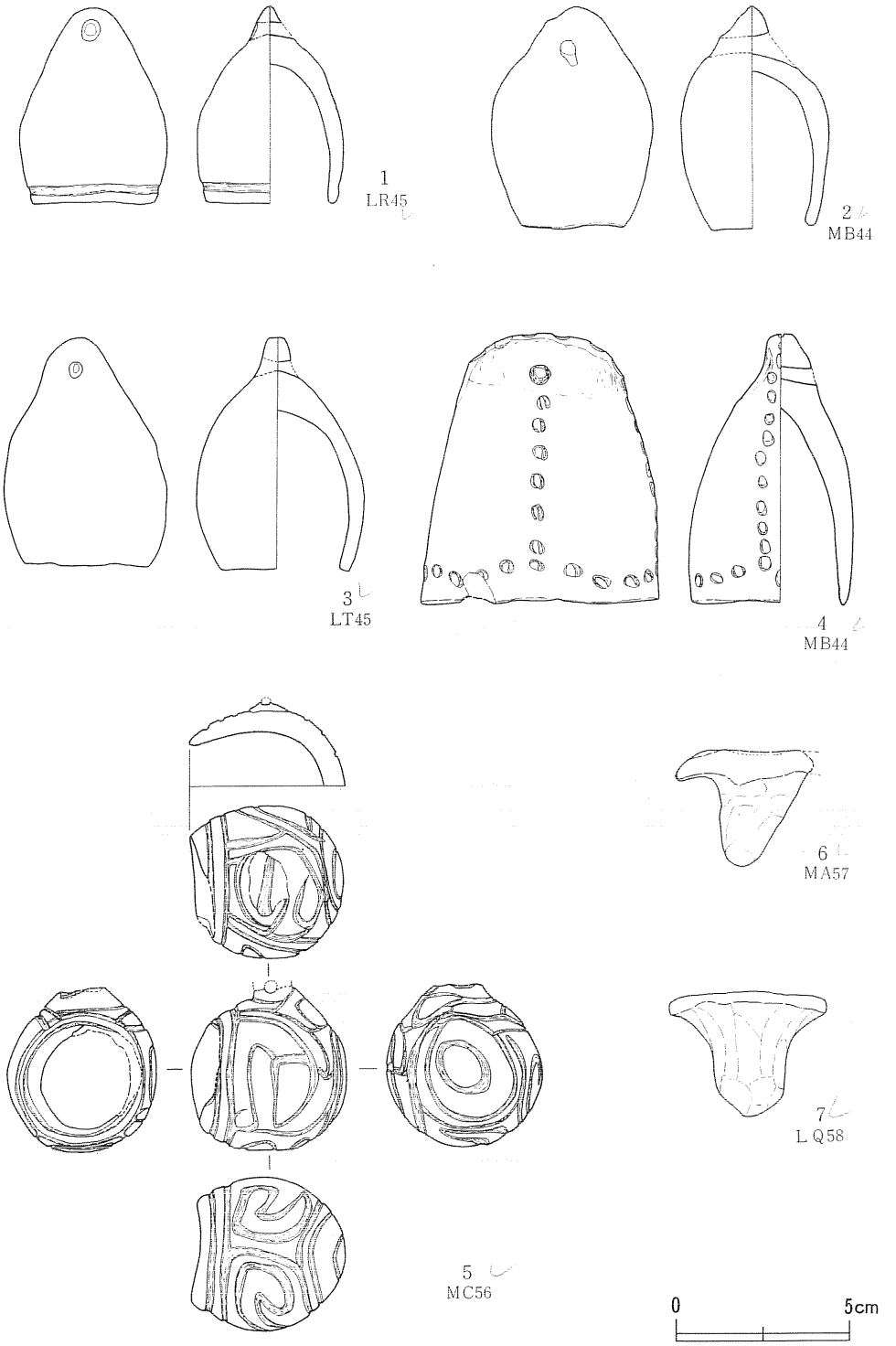
第128図　遺構外出土土器（22）



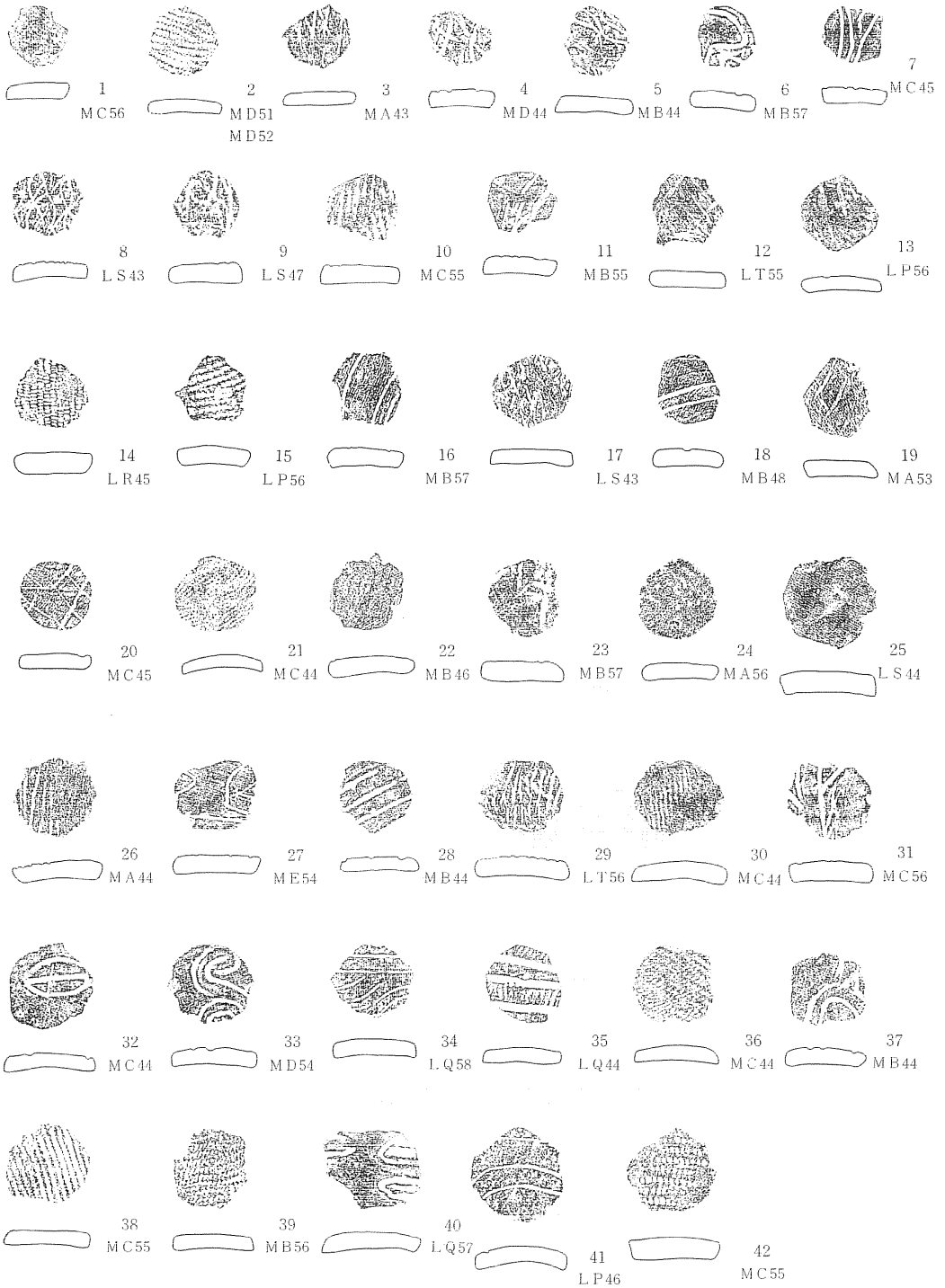
第129図　遺構外出土土器（23）



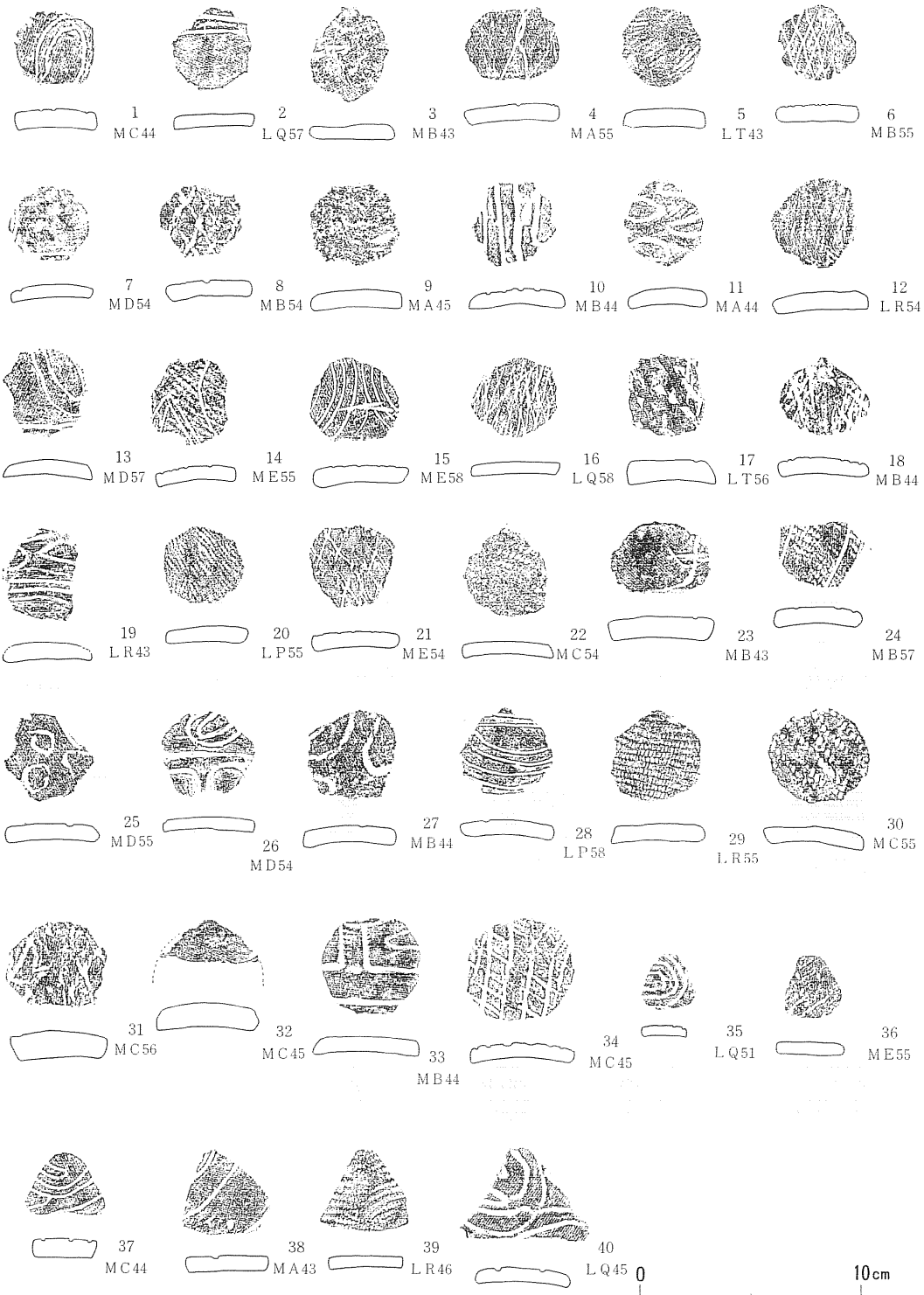
第130図　遺構外出土土製品(1)



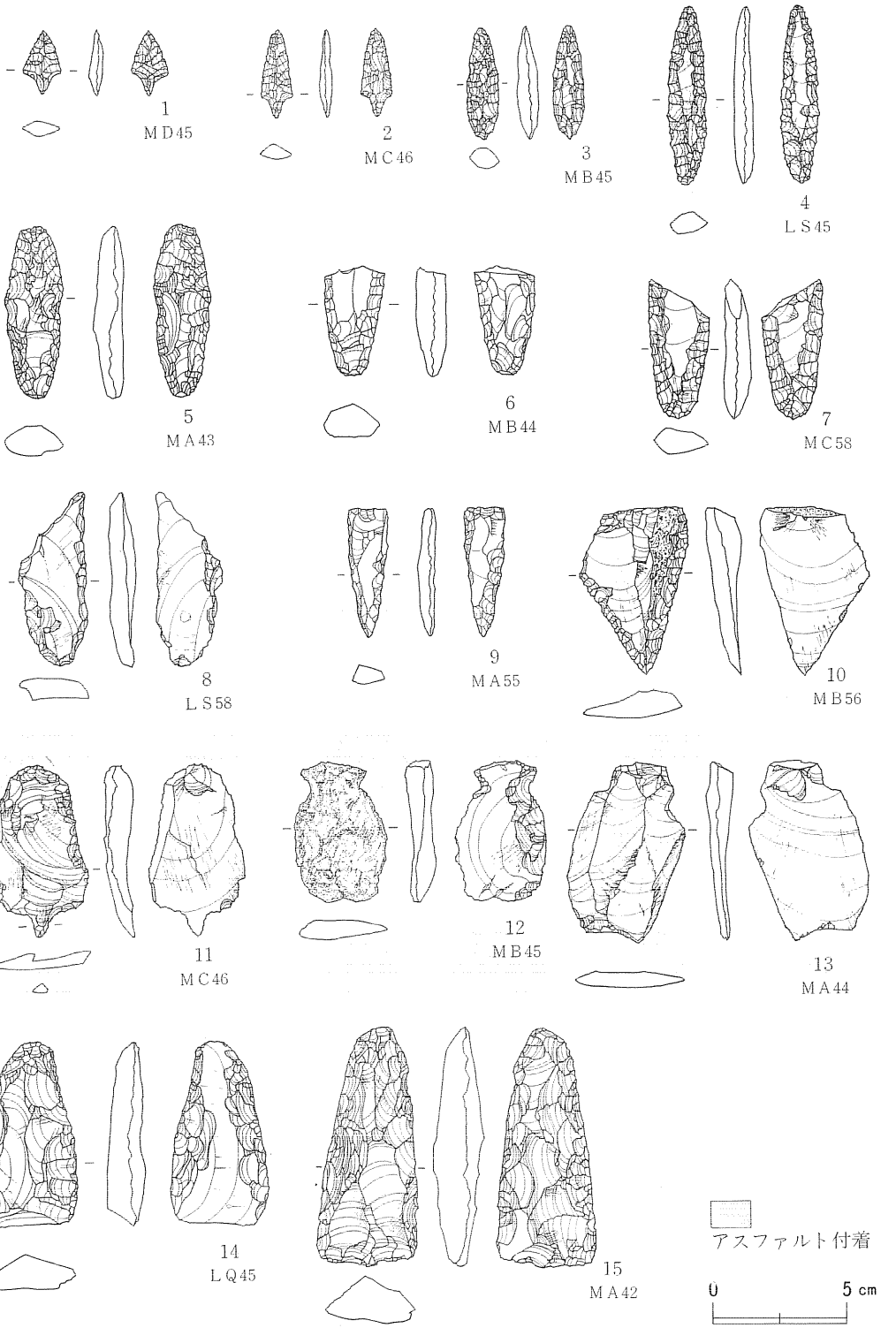
第131図　遺構外出土土製品(2)



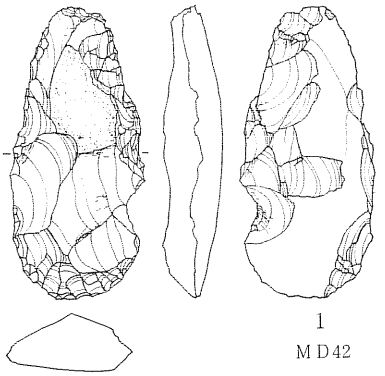
第132図　遺構外出土土製品（３）

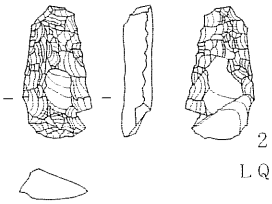


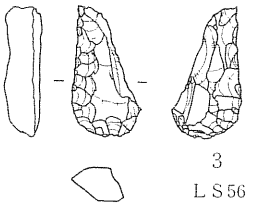
第133図　遺構外出土土製品（4）

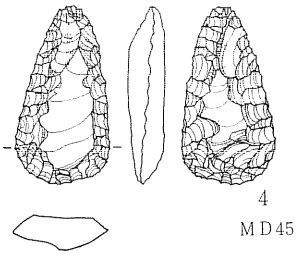


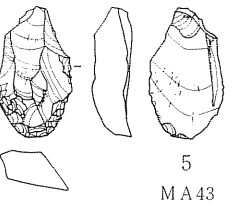
第134図　遺構外出土石器（１）

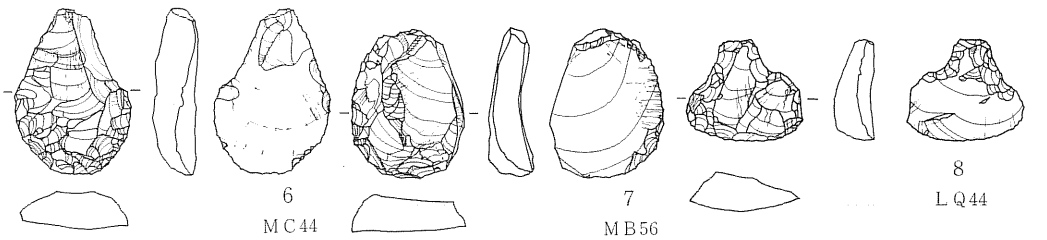

1
MD42


2
LQ46


3
LS56

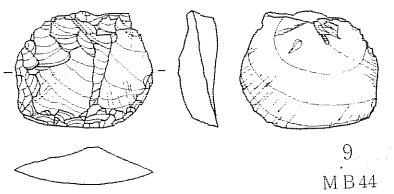

4
MD45

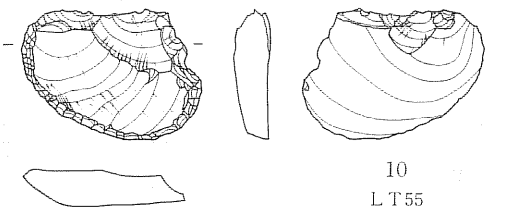

5
MA43

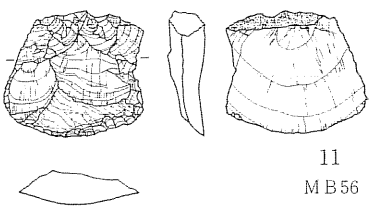

6
MC44

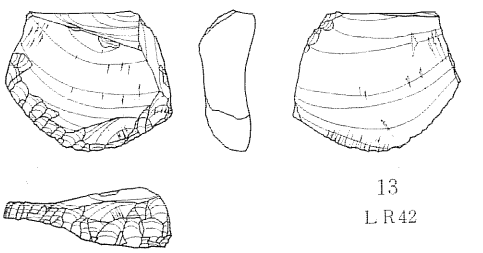
7
MB56

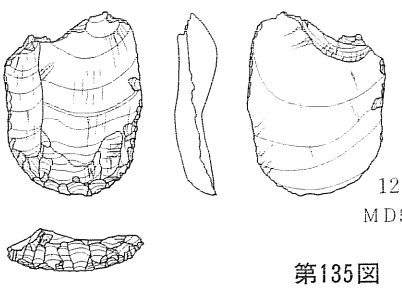
8
LQ44


9
MB44


10
LT55

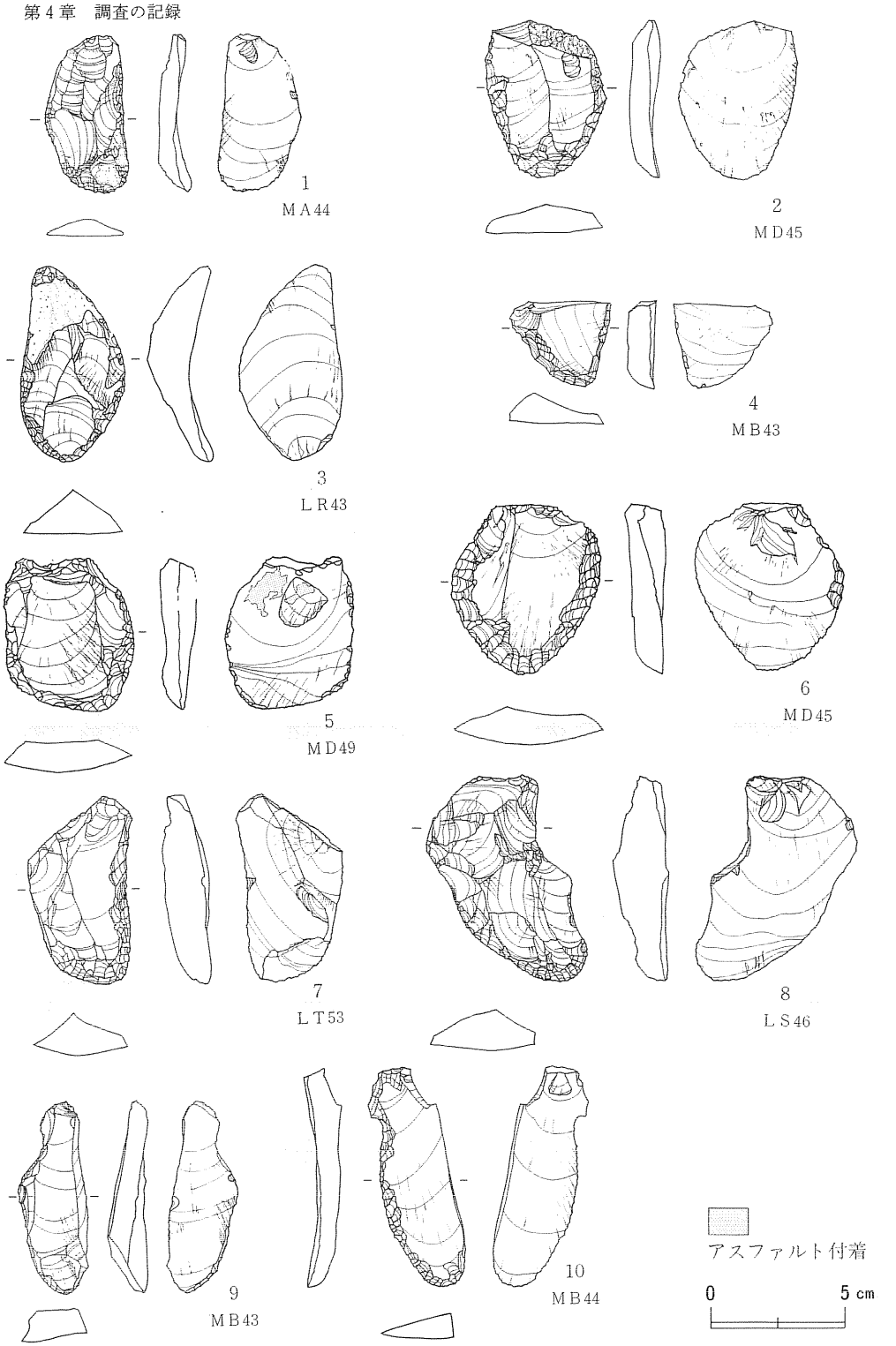

11
MB56


13
LR42

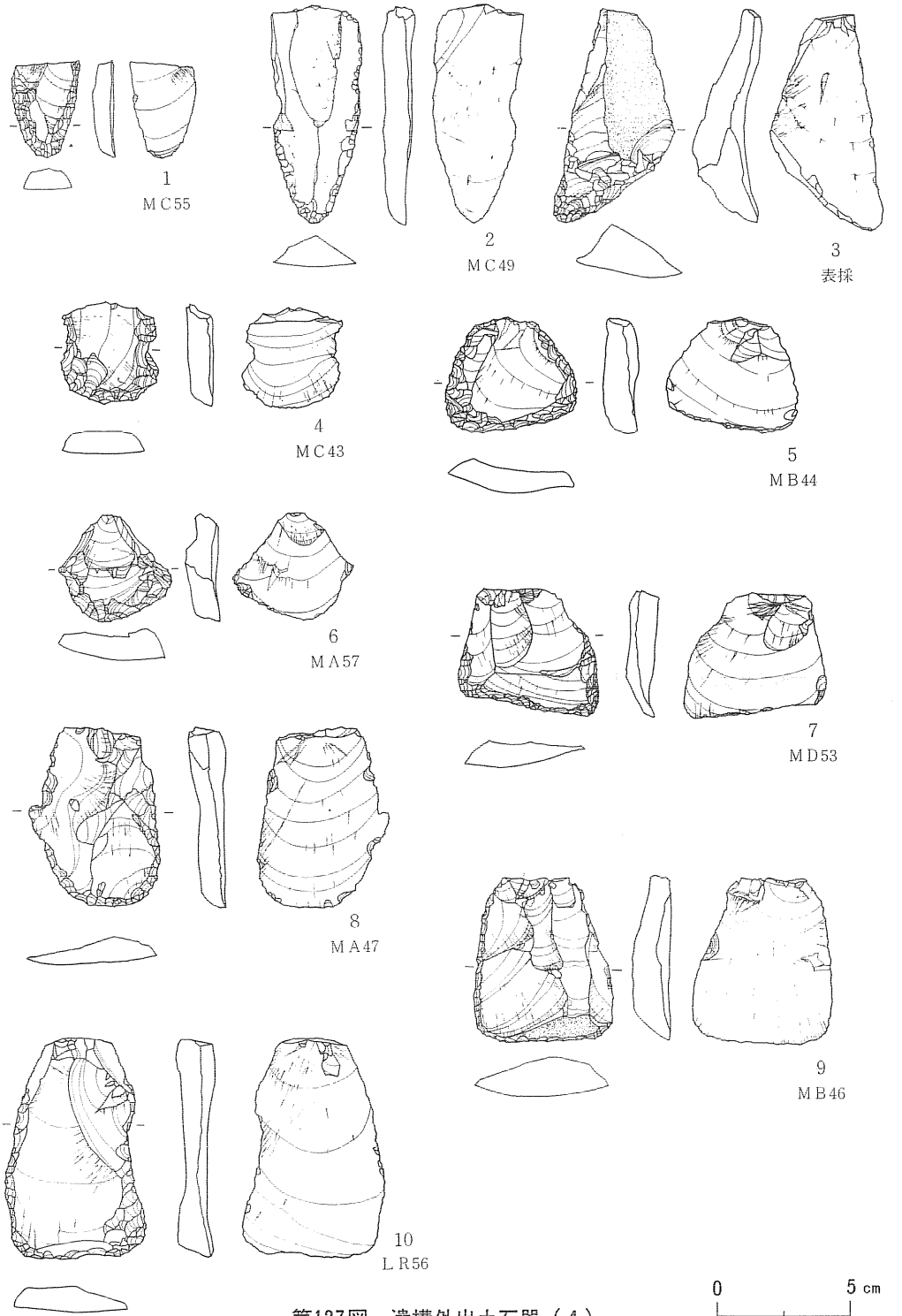

12
MD58

0　5 cm

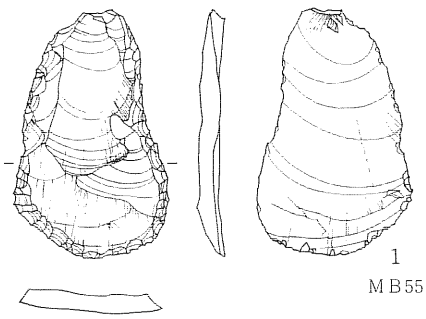
第135図　遺構外出土石器（2）



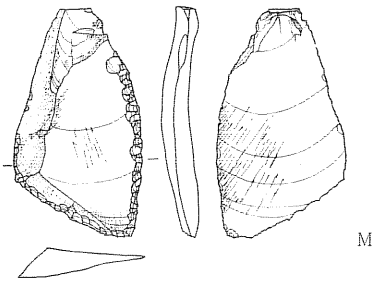
第136図　遺構外出土石器（３）



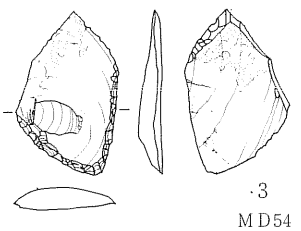
第137図　遺構外出土石器（4）



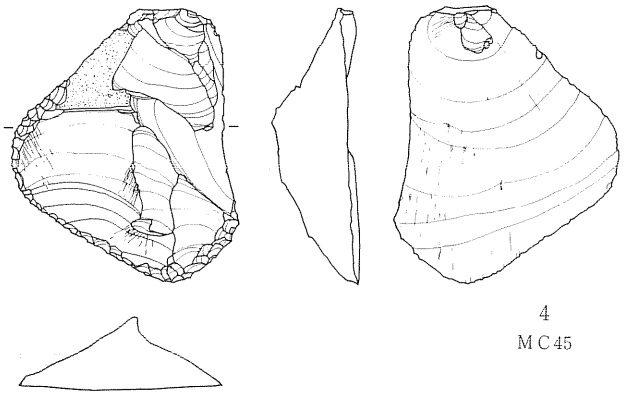
1
MB55



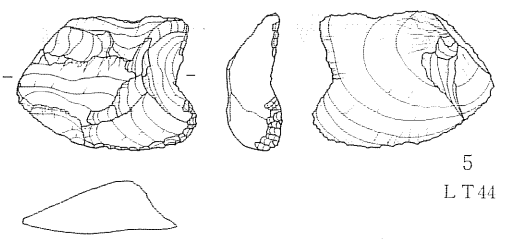
2
MA43



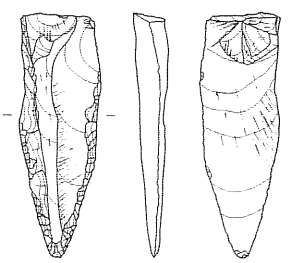
3
MD54



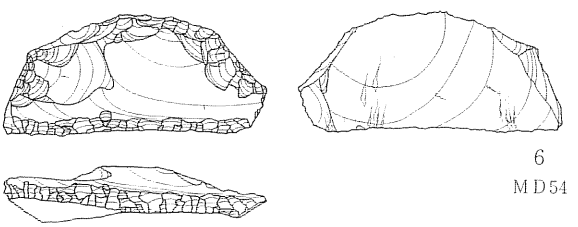
4
MC45



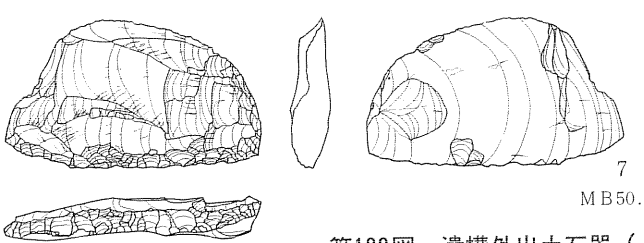
5
LT44



8
LQ58



6
MD54

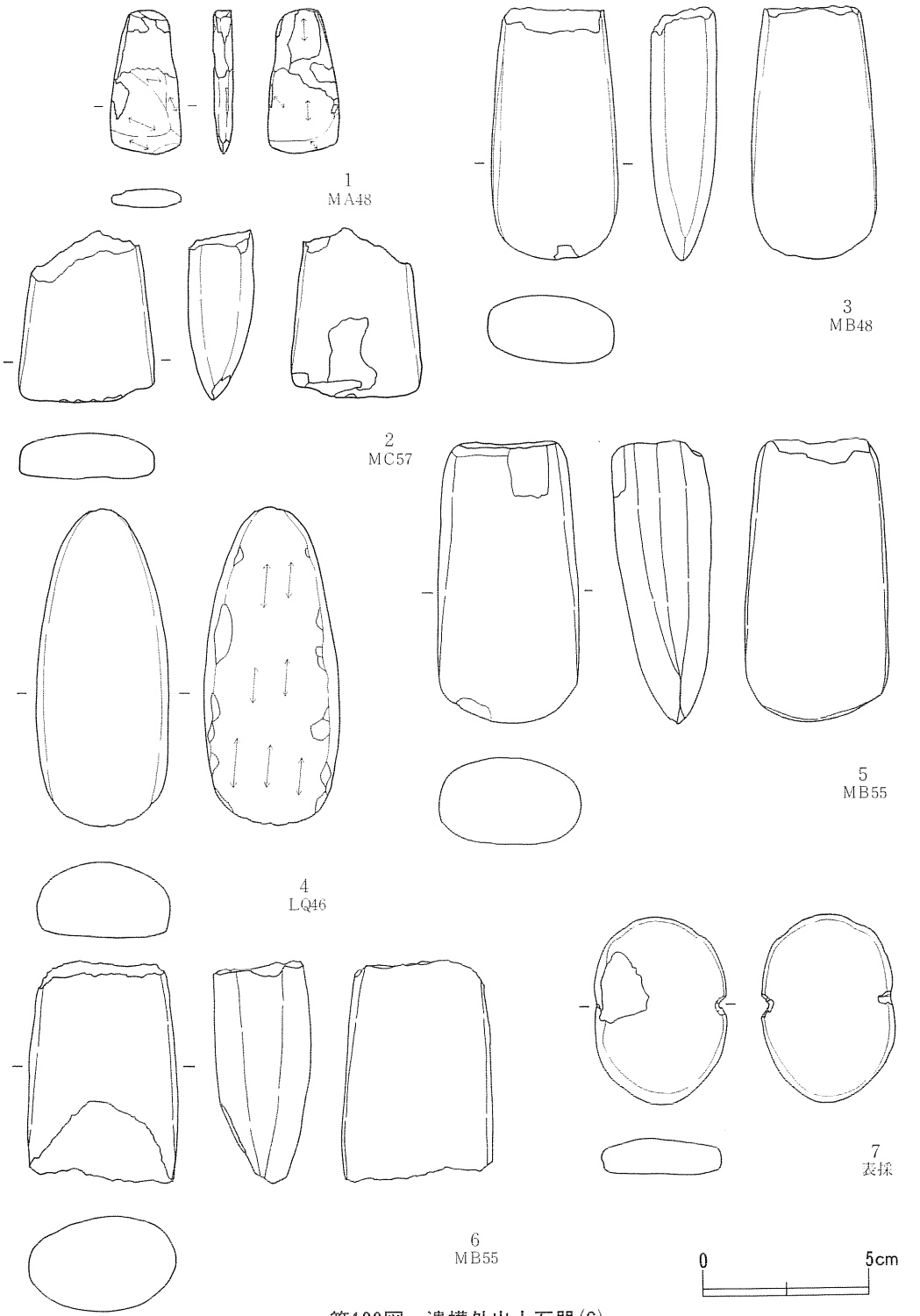


7
MB50.51

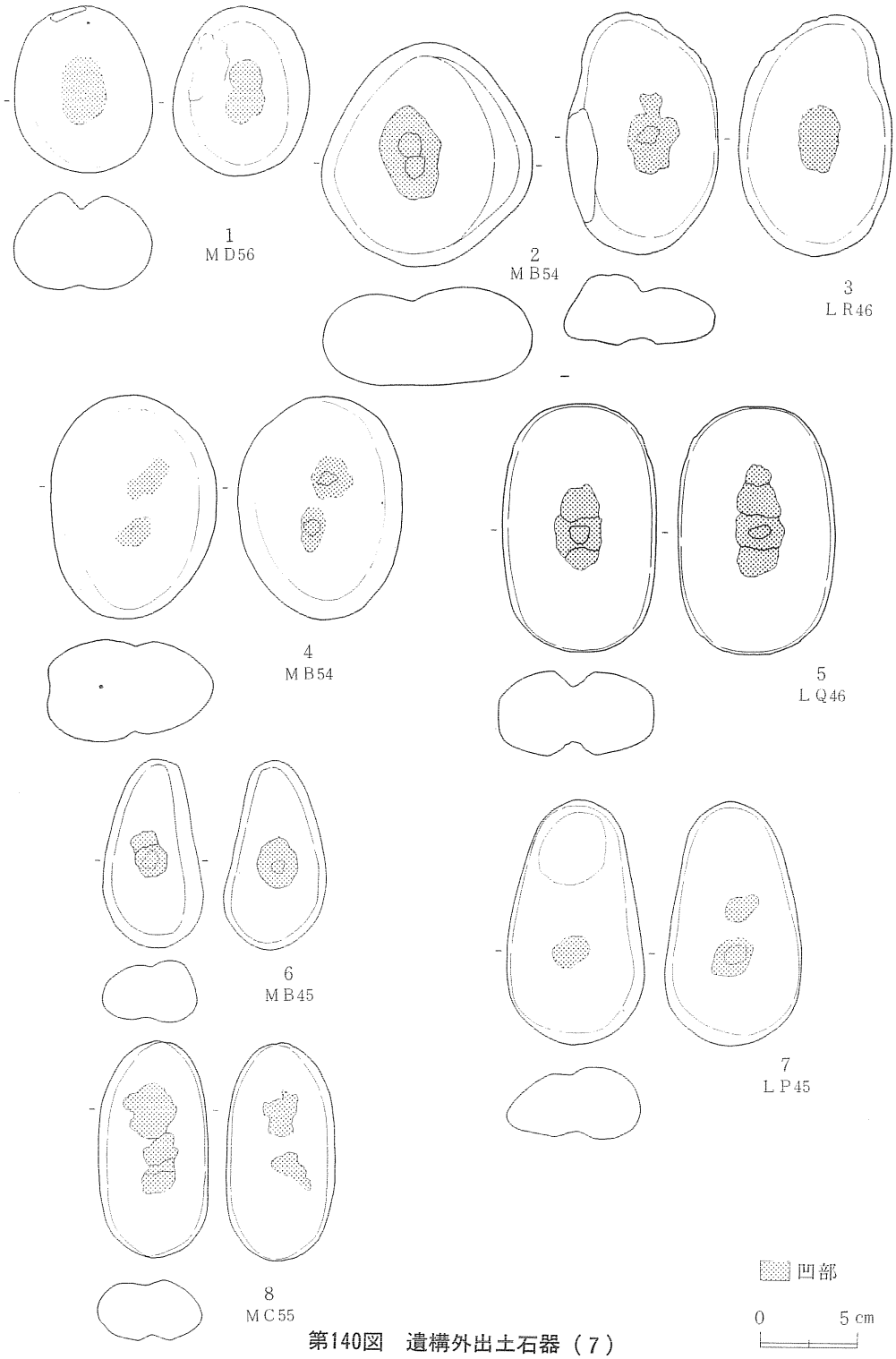
アスファルト付着

0　5 cm

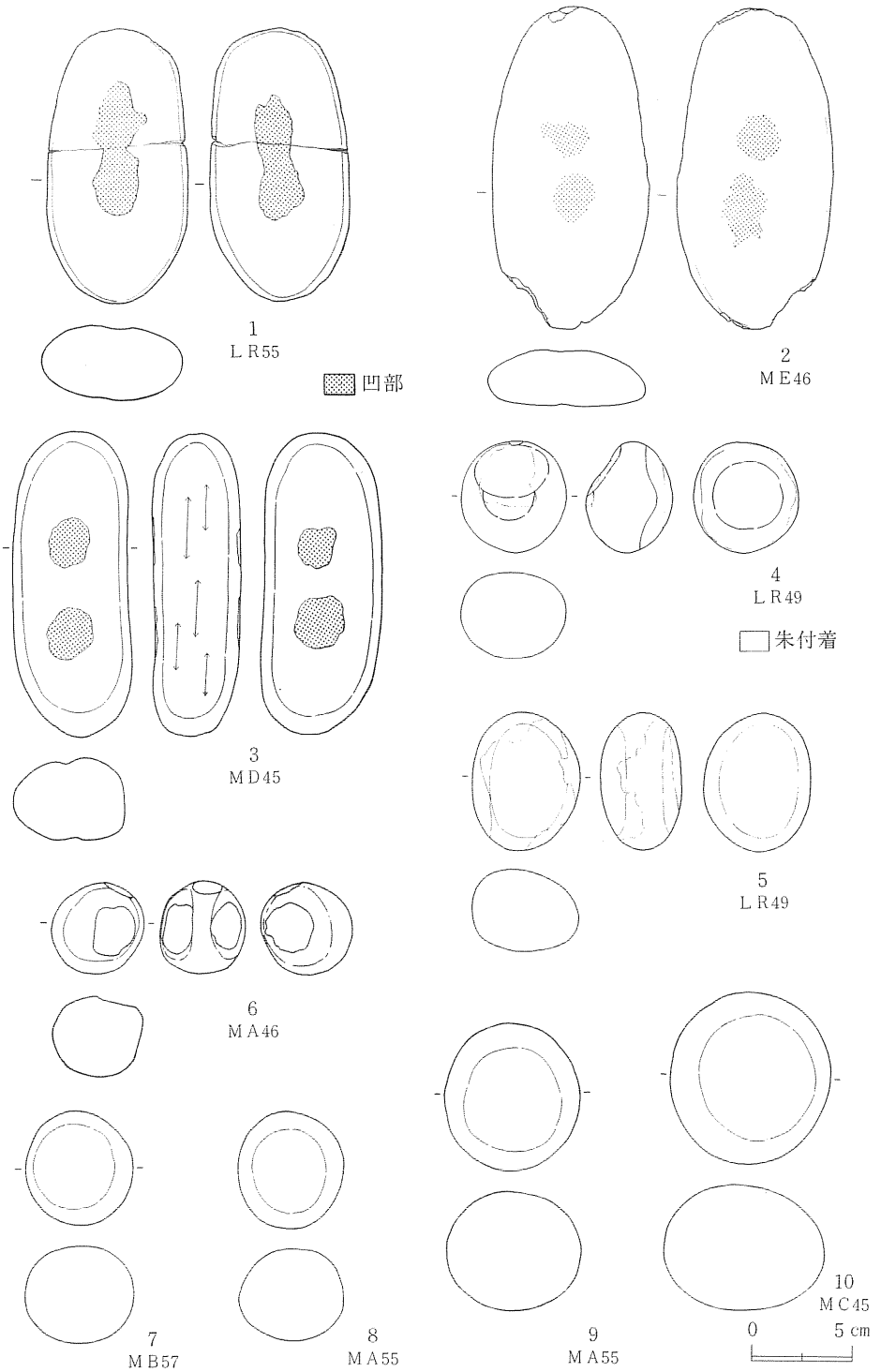
第138図　遺構外出土石器（5）



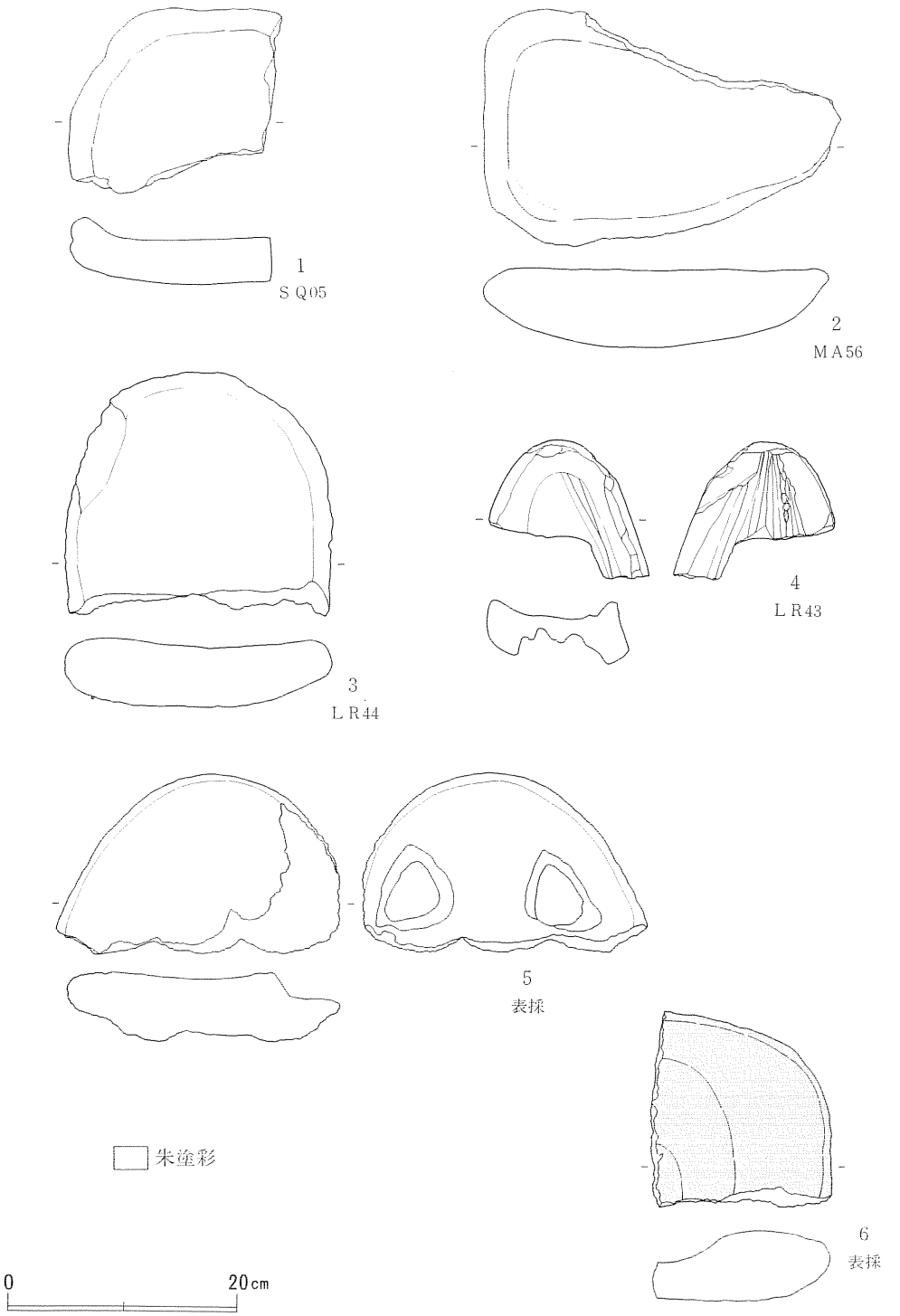
第139図　遺構外出土石器(6)



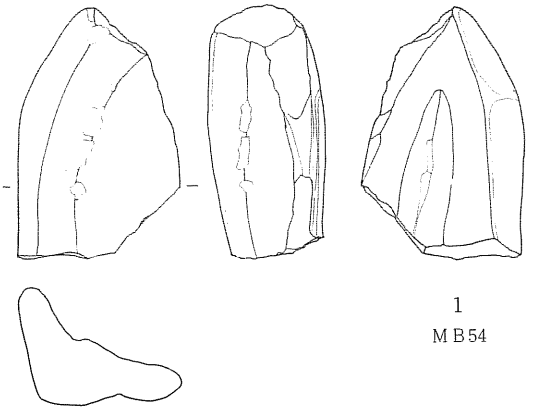
第140図　遺構外出土石器（７）



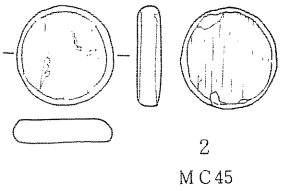
第141図　遺構外出土石器（8）



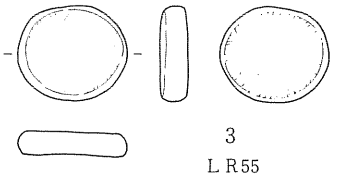
第142図　遺構外出土石器（９）－１のみ遺構内



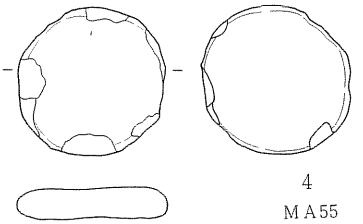
1
MB54



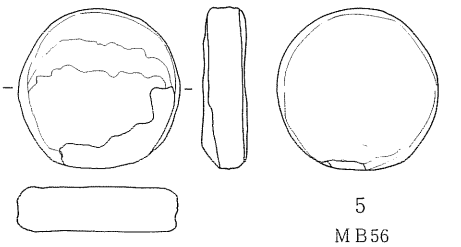
2
MC45



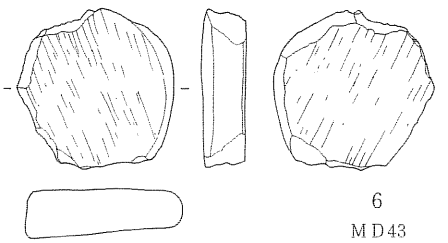
3
LR55



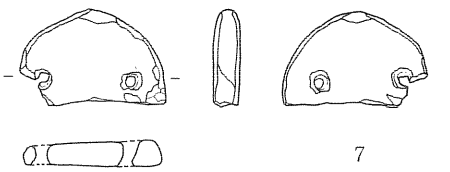
4
MA55



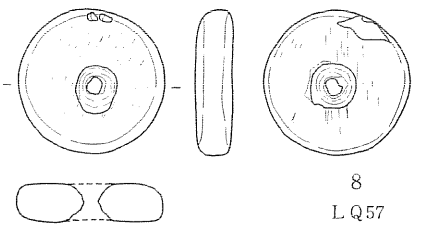
5
MB56



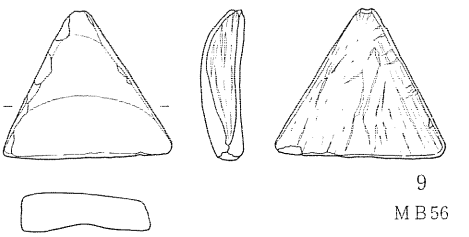
6
MD43



7
ME45



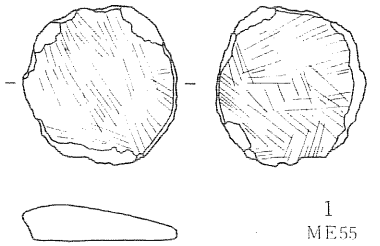
8
LQ57



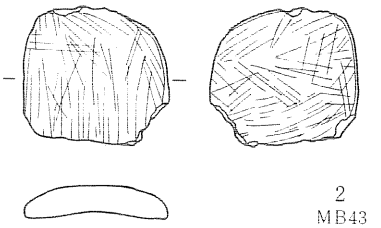
9
MB56

0　5 cm

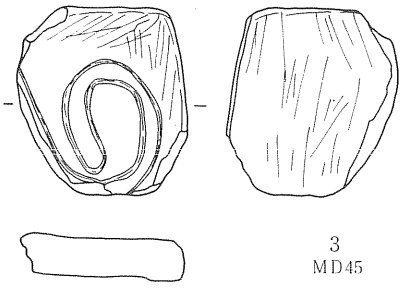
第143図　遺構外出土石器（10）



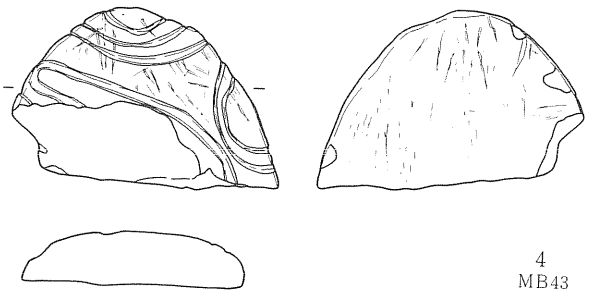
1
ME55



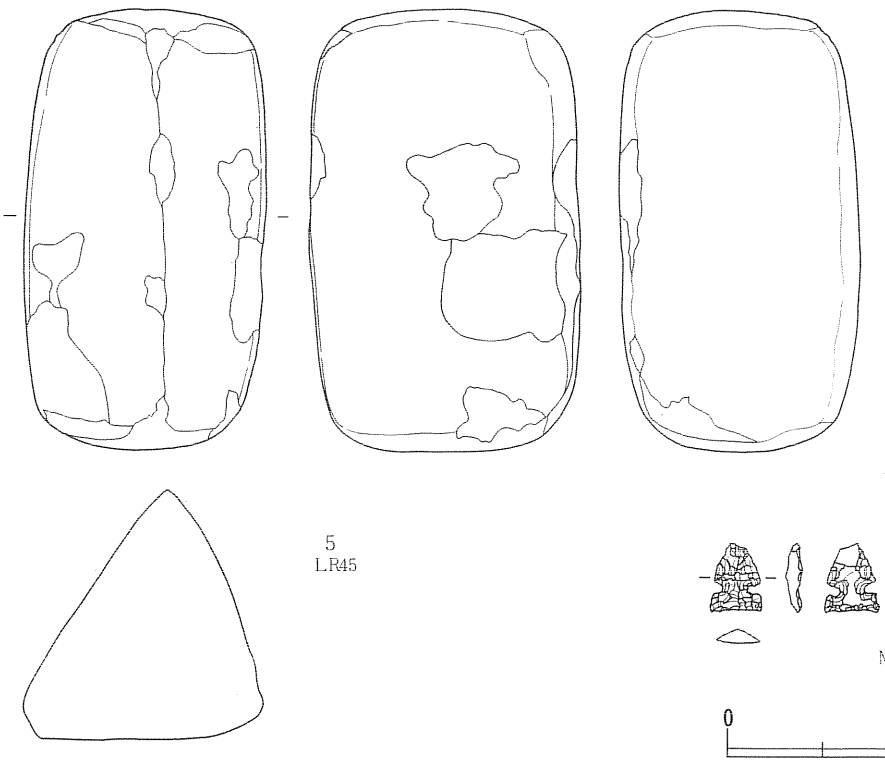
2
MB43



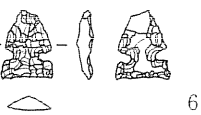
3
MD45



4
MB43



5
LR45



6
MA46

0　5cm

第144図　遺構外出土石器(11)

第5章　自然科学的分析

高屋館跡出土火山灰の蛍光X線分析

奈良教育大学教授　三辻利一

筆者はこれまでに、青森県、秋田県北部、および、岩手県北部地域の多数の遺跡から出土した火山灰資料、400点以上を分析したが、平安時代に限定すれば、2種類の火山灰が確認されている。一つはK、Rb量が少なく、Ca、Sr量が多い十和田系火山灰と同じ科学特性をもつ火山灰であり、他方はこれと対照的にK、Rb量が多く、Ca、Sr量が少ない火山灰である。この火山灰にはZr量も著しく多い。前者は十和田a火山灰、後者は白頭山火山灰と考えられている。そして、同一遺跡に両者が出土する場合には、必ず、十和田a火山灰は下位に在り、白頭山火山灰はより年代の若い上位に推積する。

このように、2種類の火山灰は対照的な科学特性をもつため、蛍光X線分析法によって容易に相互識別される。判別分析を適用するまでもなく、生データをプロットして作成したRb—Sr分布図、K—Ca分布図、さらにはZr因子などによる定性的なデータ解析法で十分、判別できる。

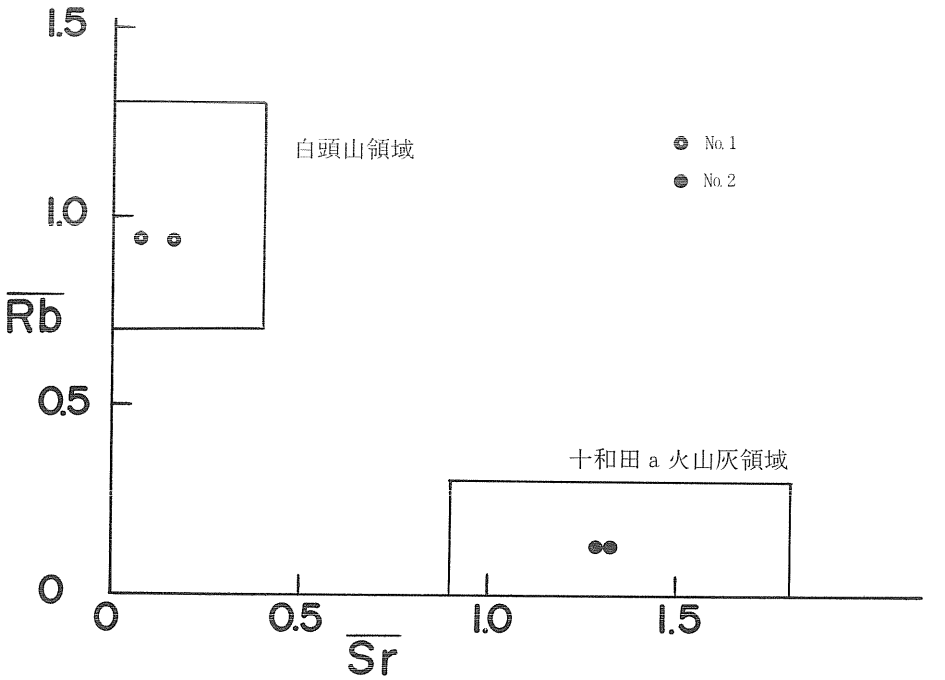
このような集積された基礎データに基づいて、高屋館跡出土火山灰を蛍光線分析した結果について報告する。

No.1はSI03竪穴住居跡第6層に、また、No.2は第15層に推積する火山灰である。それぞれ2点ずつ資料を調製して分析した。分析値は岩石標準資料JG—1に称する標準化値として表1にまとめてある。これらの生データから分布図を作成した。

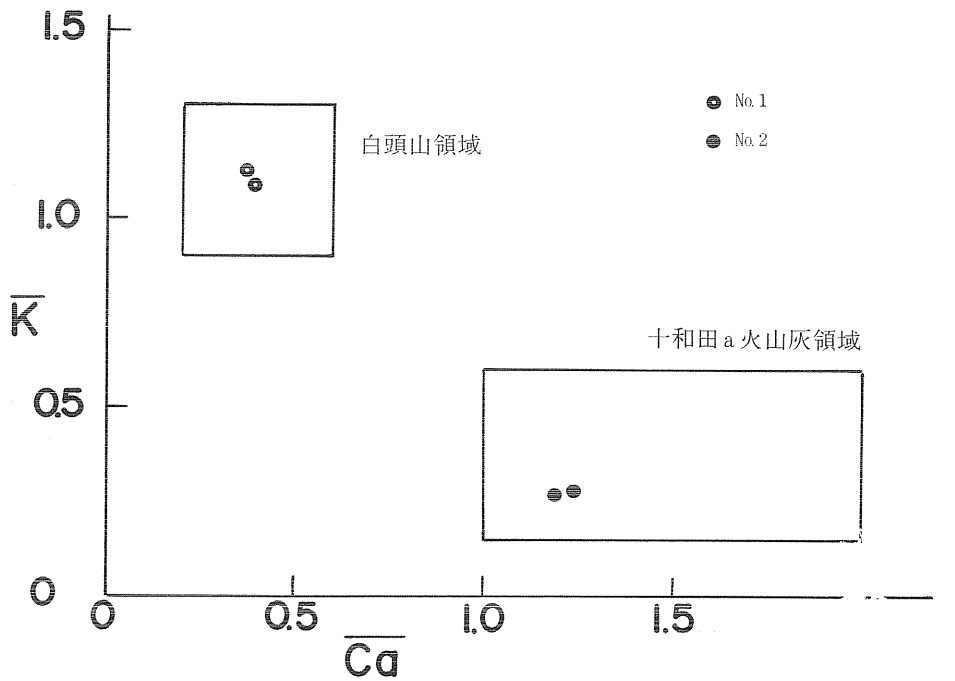
図1にはRb—Sr分布図を示してある。白頭山領域、十和田系火山灰領域はこれまでのデータを全て包含するように設定されている。勿論、この領域は定性的な意味しかもたないが、分析された資料がこれらの領域に入るか、入らないかで、十分、両火山灰への帰属を決めることができる。No.1は2点とも白頭山領域に、またNo.2も2点とも十和田系火山灰領域に分布することがわかる。

図2にはK—Ca分布図を示す。図1から予想されるように、No.1は白頭山領域に、No.2は十和田a火山灰領域に分布する。

図3にはFe因子を示してある。これまでの分布データでは白頭山火山灰は領域をずれる場合は少ないが、Fe量の少ない十和田a火山灰はFe量の多い方にずれる場合がよくある。こ



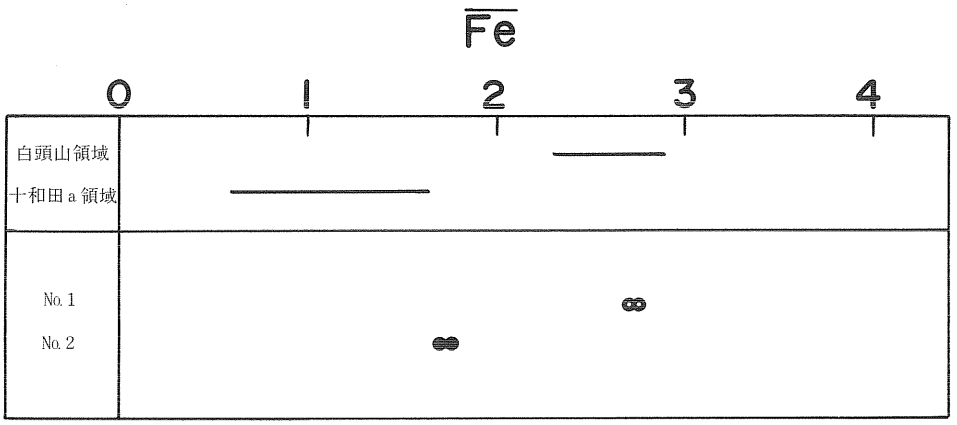
第145図　高屋館跡出土火山灰のRb-Sr分布図



第146図　高屋館跡出土火山灰のK-Ca分布図

れは周辺の土譲による汚染が原因であると考えられている。

以上の結果、No.1は白頭山火山灰であり、No.2は十和田a火山灰であると推定される。この遺跡でも白頭山火山灰は十和田a火山灰の上位に推積していることが明らかである。扶桑略記によると、十和田a火山灰の降灰は西暦915年と考えられているから、白頭山火山灰の降灰は少なくとも10世紀後半以後ということになる。



第147図　高屋館跡出土火山灰のFe量

第12表　分析値

			K	Ca	Fe	Rb	Sr
SI03竪穴住居跡	第6層	NO.1	1.13	0.370	2.73	0.939	0.077
		NO.1	1.09	0.386	2.71	0.935	0.162
SI03竪穴住居跡	第15層	NO.2	0.283	1.24	1.75	0.134	1.29
		NO.2	0.267	1.19	1.71	0.134	1.32

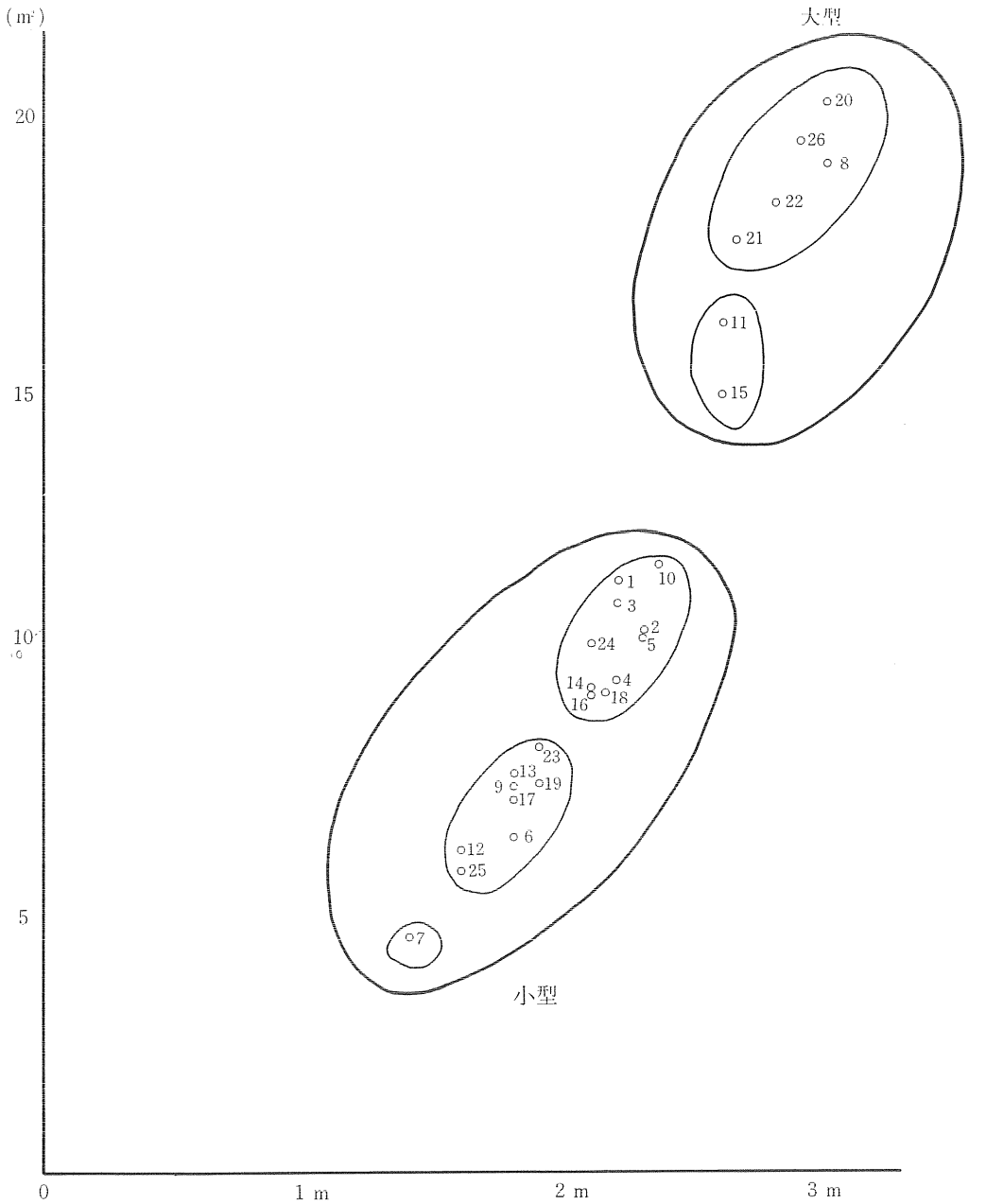
（分析値は岩石標準試料ＪＧ-1による標準化値）

第6章　まとめ

本遺跡から検出された遺構は361に上り、そのうち縄文時代のものは350を数える。出土した遺物は、縄文時代前期·後期·晩期、弥生時代、平安時代に属するが、大部分は縄文時代後期前葉のものである。本章では調査の成果と若干の問題点について述べ、まとめとしたい。

多数の柱穴様ピットとともに4ないし6本の柱で構成される掘立柱建物跡が環状に配置され、その環の内側に配石遺構と土坑が検出された。土坑は墓壙と推定され、本遺跡は、縄文時代後期前葉の一大墓域であることが明らかになった。墓壙と推定される土坑の分布は、環の中心と環に並行するように分布し、その間に分布の希薄な地域が認められる。土坑は環の外側にも分布し、これらは調査区の南側に片寄る傾向がある。環の内側に並行して分布する土坑は、調査区の北側に片寄って分布する傾向がある。このことは環の中心が一定の位置にあるのでなく、微妙なズレが生じていることを示唆している。土坑の上部には配石遺構が形成される。配石遺構は環の中心付近に1基、環に並行して8基が検出された。しかしながら、環の内側の北半部は後世に地山近くまで削平を受けており、北から入っている沢に落ち込むように石を検出していることから、配石遺構のひろがりは調査時以上にあったものと推定される。また、配石遺構の外側に掘立柱建物跡が配されることから、配石と掘立柱建物跡とは対応関係を推定することができるが、そのなかでＳＱ02とＳＱ05の対応関係は強くとらえることができる。しかしながら、ＳＱ05·08はＳＢ20～22、ＳＢ24が廃棄された後に形成されていることから、対応する掘立柱建物跡を推定することが不可能である。

掘立柱建物跡は、4本の柱で構成されるもの2棟、6本の柱穴のもの24棟の合計26が検出された。6本の柱穴のものは柱穴ｂとｅが外側に張り出すものとそうでないものに分けられる。ＳＢ01·02、ＳＢ03·04における柱穴の切り合いから、6本の柱のものから4本の柱のものへの変遷が認められる。また、ＳＢ20～22においては、4本の柱のものの数次の建て替えが認められる。付図3では、掘立柱建物跡の主柱穴と考えられる4つの柱穴がひとつの円の円周上にのってくることがわかる。これは掘立柱建物跡を建てるにあたって位置を決める場合に、円を描いて柱の位置を決めたのではないかと推定される。この円の半径をＸ軸に、掘立柱建物跡の柱で囲まれた範囲の面積をＹ軸にとったのが第148図である。これによると、半径2.5m、面積13mを境に大型のものと小型のものに分けられる。多くの掘立柱建物跡は、小型の部類には入り、半径1.8m前後と半径2.2m前後の2種に集中することがわかる。しかしながら、掘立柱建物跡の平面形態、構造等については不明な点が多い。掘立柱建物跡の性格については、大湯環状列石周辺遺跡発掘調査報告書(4)のなかで、「墓域に隣接し、墓域と密接な対応関係を有す



第148図　掘立柱建物跡規模比較図